

高浜広神遺跡

北陸新幹線地域埋蔵文化財
発掘調査報告書第10集

1999

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

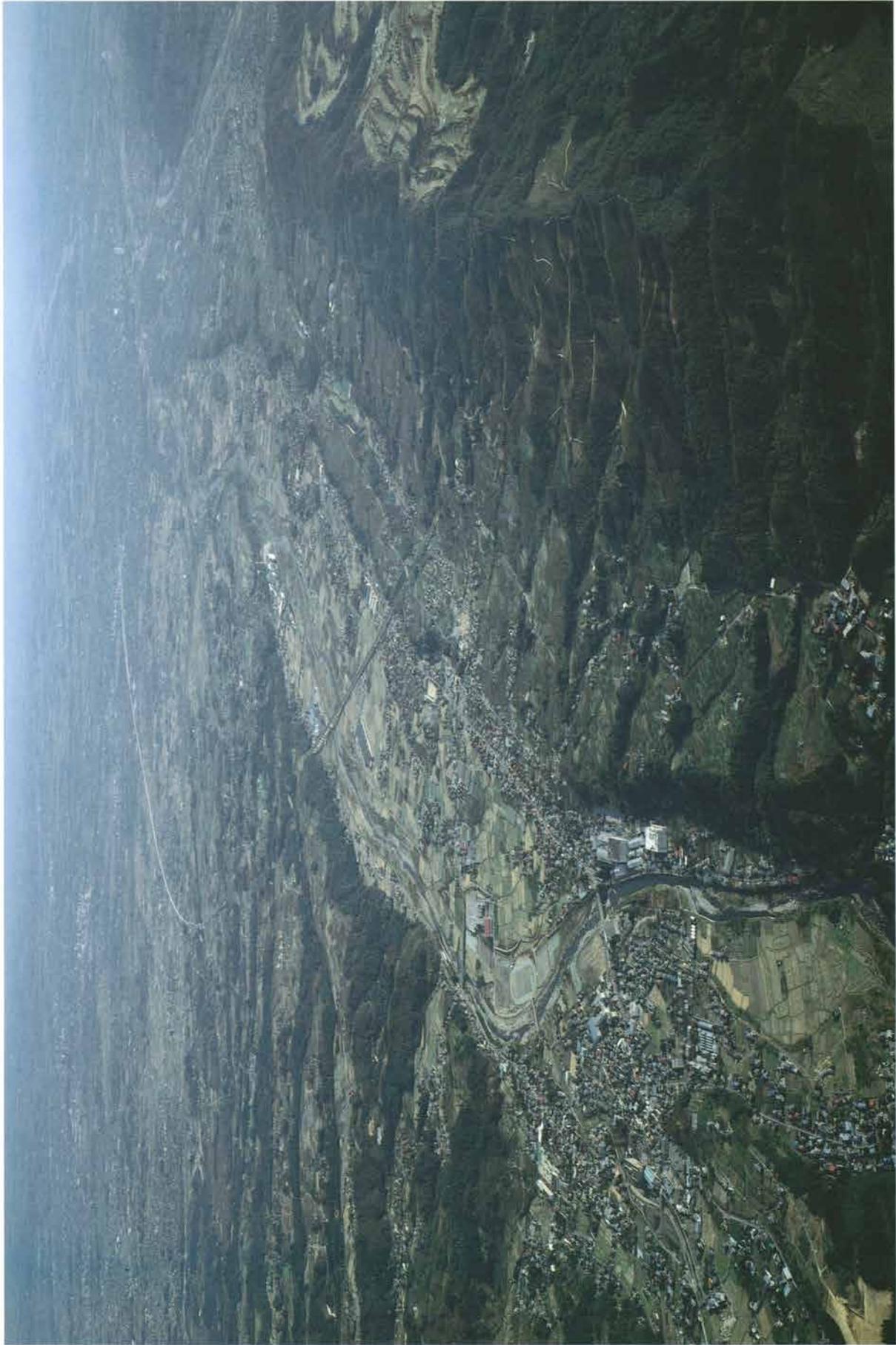
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第252集

高浜広神遺跡

北陸新幹線地域埋蔵文化財
発掘調査報告書第10集

1999

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団



高浜広神遺跡周辺航空写真（西から）



丸柄 (上)

焼印 (右下)



序

上越新幹線の東京駅～高崎駅間を經由し、高崎市下小鳥町から分岐して長野駅まで行く「長野行き新幹線」は、平成9年10月1日に開業しました。同新幹線は、北陸新幹線建設工事の名称のもとに、群馬県では平成2年度から工事が着工されました。工事区域内には、23カ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されたため、その発掘調査が当事業団に委託されました。

当事業団では平成3年2月より平成7年9月にかけて、新幹線通過市町村の高崎市、箕郷町、榛名町、安中市において埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施しました。榛名町で確認された高浜広神遺跡も平成5年10月20日から平成7年3月31日にかけて発掘調査を行い、平成9年度より2年計画で調査報告書を刊行するために整理業務を始めました。この度それが終了しましたので、ここに「高浜広神遺跡発掘調査報告書」を上梓したく存じます。

本報告書には、縄文時代の敷石住居、8世紀後半から10世紀にかけて当地を開発して集落を営んだ人達の集落、その人達を使用した「西」と記されている墨書土器、「第」と刻印されている鉄製の焼印、金銅製腰帯裏金具等貴重な資料が報告されています。隣接する高浜向原遺跡の調査報告書と共に、榛名町の歴史を明らかにする上で大いに活用できる報告書と思います。

本報告書の刊行をもって、高浜広神遺跡の発掘・整理の業務は全て終了しました。発掘調査から調査報告書刊行に至るまで日本鉄道建設公団、群馬県教育委員会、榛名町教育委員会、地元関係者等には、大変お世話になりました。これら関係者の皆様に、衷心より感謝を申し上げます。

平成11年3月

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 菅 野 清

例 言

1. 本書は、北陸新幹線建設に伴う事前調査として、平成5年度から平成6年度にかけて実施した「高浜広神遺跡」の発掘調査報告書である。報告書名は遺跡所在の町名と字名をとり、併せたものである。
2. 遺跡の所在地は、群馬県群馬郡榛名町大字高浜字広神1334-1・1334・1335-1・1335-2・1335・1341・1343・1344・1346-3・1346-2・1346・1280-2・1363・1348-1・1352-1・1352-2・1351-1・1352-2・1350-1・1350-2・1349-2 字鎗瀬1169-1・1168-5・1167-5・1167-3・1169-1・1168-3・2086-9・2086-8・2086-6・2090-2・1027-3・1027-4・1014-2・1017-2・1063-2・1063-1・1064-1・1166-2・1166-1・1017-4・1064-2・1067-2・1067-1・1065・1066である。
3. 発掘調査は北陸新幹線建設に伴う事前調査として、群馬県教育委員会を通じ、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が日本鉄道建設公団の委託を受けて、平成5年度から平成6年度にかけて実施した。
4. 発掘調査期間は、平成5年10月20日～平成5年12月25日
平成6年12月1日～平成7年3月31日である。
5. 発掘調査組織は下記の通りである。
事務担当職員 常務理事 中村英一 事務局長 近藤 功 管理部長 佐藤 勉 蜂巢 実 (H.6)
調査研究部長 神保侑史 総務主幹兼課長 斉藤俊一 調査研究第1課長 真下高幸
総務係長代理 国定 均 笠原秀樹 主任 須田朋子 吉田有光 (H.6) 柳岡良宏
主事 船津 茂 (H.5) 高橋定義
発掘担当職員 主任調査研究員 木津博明 調査研究員 飯森康広 橋本 淳
専門員 女屋和志雄 井川達雄 主任調査研究員 麻生敏隆 廣津英一 田村公夫
調査研究員 嶋田孝美
6. 整理事業は、群馬県教育委員会を通じ、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、日本鉄道建設公団の委託を受けて実施した。
7. 整理期間は平成9年10月1日～平成11年3月31日である。
8. 整理事業組織は下記の通りである。
事務担当職員
平成9年度
常務理事 菅野 清 事務局長 原田恒弘 副事務局長兼調査研究第1部長 赤山容造 管理部長
渡辺 健 調査研究第3課長 真下高幸 総務課主幹兼課長 小淵 淳 主幹兼係長 笠原秀樹 係長
代理 須田朋子 経理係長 井上 剛 主任 吉田有光 柳岡良宏 岡嶋伸昌 主事 宮崎忠司
平成10年度
理事長 菅野 清 常務理事兼事務局長 赤山容造 管理部長 渡辺 健 調査研究第2部長 神保侑史
調査研究第3課長 真下高幸 総務課長 坂本敏夫 総務係 主幹兼係長 笠原秀樹 係長代理 須田
朋子 主任 宮崎忠司 経理係 主幹兼係長 小山建夫 主任 吉田有光 柳岡良宏 岡嶋伸昌
整理担当職員 主任調査研究員 小野田孝美
補助員平成9年度 高橋とし子 渡部あい子 立川千栄子 堀米弘美 原 由美 伊藤幸代
平成10年度 牛込恵理子 金子恵子 高橋とし子 渡部あい子 阿部幸恵 立川千栄子 伊藤幸代
9. 写真撮影は、遺構は各調査担当、アドバルーン撮影は(株)技研、遺物は普及資料課主任 佐藤元彦が行った。

10. 石材鑑定は群馬地質研究会所属 飯島静男氏にお願いした。
11. 金属製品の保存処理は普及資料課主任 関 邦一が行った。
12. 発掘調査にあたっては、地元榛名町をはじめとして高崎市、前橋市、安中市、箕郷町、群馬町、吉井町等から多くの方々に従事していただいた。
13. 本遺跡の出土遺物・図面・写真等の全資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
14. 本書の執筆は分担した。執筆箇所は目次に記した。
15. 本書の編集は小野田が行った。
16. 発掘調査及び本書作成にあたっては、次の諸氏・諸機関に御教示・御協力を賜った。(敬称略)
榛名町教育委員会、榛名町歴史民族資料館 清水喜臣、高崎市史編纂室 川原嘉久治

凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を示している。

各グリッドに表記してある+記号に続く数字は北・西方向への移設を意味する。

グリッド表記方法

例 98・A+3-18+2 98区A-18グリッドを北へ3m、西へ2m移設

2. 本報告書で使用したテフラの略号は、浅間A軽石 As-A、浅間B軽石 As-B、浅間C軽石 As-C、榛名二ツ岳噴出軽石 Hr-FP、榛名二ツ岳噴出火山灰 Hr-FAである。

3. 挿図中の遺構図の縮尺については、全体図1/250、縄文1/60、住居1/80・1/60、カマド1/30、掘立柱建物1/80、土坑1/40・1/100、道1/80、溝1/80、ピット1/250、水田1/100、畠1/100である。

なお、これ以外の縮尺を使用したときには、明記してあるので参照されたい。

4. 挿図中の遺物図の縮尺については、土器1:3、石器1:3~1:1である。

また、これ以外の縮尺を使用するときには、明記してあるので参照されたい。

5. 図版中の遺物の縮尺は、概ね1/1~1/4である。

6. 遺構番号は、各調査面を通しての番号である。

7. 本報告書で使用した地形図は、以下のとおりである。

国土地理院 地形図 1/25,000 「下室田」「三ノ倉」「榛名湖」「伊香保」

地形図 1/50,000 「榛名山」 箕郷町都市計画図

8. 遺構の面積は、デジタルプランメーターで3回計測した平均値を採用した。

9. 本報告書中で使用したスクリーントーンは、下記のとおりである。

遺構



焼土・焼土層



灰・灰層



粘土・粘土層

遺物



鉄 炉体



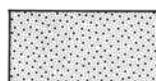
緑青発生部



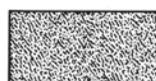
石器 使用痕



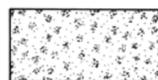
石 磨り面



石 被熱部



石 鉄分附着部



石 敲き痕



石 割り石
(縄文敷石住居)



土器 漆附着部

目 次

序			
例言			
凡例			
目次			
挿図目次			
表目次			
写真図版目次			
第Ⅰ章 調査の経過	4		
第1節 発掘調査の経過	4		
第Ⅱ章 調査の方法	5		
第1節 調査の手順	5		
第2節 基本層序	5		
第3節 調査区の設定	6		
第Ⅲ章 周辺の環境	8		
第1節 地理的環境	8		
第2節 歴史的環境	8		
第Ⅳ章 検出された遺構と遺物	12		
第1節 縄文時代 ー田村公夫ー	16		
1. 住居	2. 土坑・埋甕	3. グリッド出土遺物	4. 成果と問題点
第2節 奈良・平安時代以降	42		
1. 住居	2. 掘立柱建物	3. 柵列	4. 道
5. 溝	6. 土坑	7. 畠	8. ビット
9. 96・97区遺構 ー飯森康広ー			
10. グリッド出土遺物	11. 中近世出土遺物		
第Ⅴ章 成果と問題点	165		
第Ⅵ章 遺物観察表 (中近世遺物ー大西雅広 石製品遺物ー池田政志)	169		
第Ⅶ章 分析	221		
第1節 地下レーダー探査 応用地質株式会社	222		
第2節 焼印 高島英之	234		
第3節 金属製品 和光金属技術研究所 伊藤博之	241		
1. 鉄鏝	241		
2. 焼印	250		
3. 丸鞆	252		
抄録			
写真図版			

挿 図 目 次

第 1 図	発掘調査の範囲	2	第 60 図	10号住居・出土遺物 (1)	63
第 2 図	基本土層	5	第 61 図	10号住居出土遺物 (2)	64
第 3 図	調査区の設定 (中・小区画)	6	第 62 図	11号住居 A・B	65
第 4 図	調査区の設定 (大区画)	7	第 63 図	11号住居 A・B・11号住居 A 出土遺物 (1)	66
第 5 図	歴史的環境	10・11	第 64 図	11号住居 A 出土遺物 (2)	67
第 6 図	全体図 (1)	12・13	第 65 図	11号住居 A 出土遺物 (3)	68
第 7 図	全体図 (2)	14・15	第 66 図	12号住居	69
第 8 図	13号住居	16	第 67 図	12号住居出土遺物 (1)	70
第 9 図	13号住居出土遺物 (1)	17	第 68 図	12号住居出土遺物 (2)	71
第 10 図	13号住居出土遺物 (2)	18	第 69 図	14号住居・出土遺物 (1)	72
第 11 図	13号住居出土遺物 (3)	19	第 70 図	14号住居出土遺物 (2)	73
第 12 図	13号住居出土遺物 (4)	20	第 71 図	15号住居	74
第 13 図	23号住居	21	第 72 図	15号住居	75
第 14 図	23号住居・出土遺物 (1)	22	第 73 図	15号住居・出土遺物 (1)	76
第 15 図	23号住居出土遺物 (2)	23	第 74 図	15号住居出土遺物 (2)	77
第 16 図	23号住居出土遺物 (3)	24	第 75 図	17号住居・出土遺物	78
第 17 図	23号住居出土遺物 (4)	25	第 76 図	18号住居	79
第 18 図	23号住居出土遺物 (5)	26	第 77 図	18号住居・出土遺物 (1)	80
第 19 図	23号住居出土遺物 (6)	27	第 78 図	18号住居出土遺物 (2)	81
第 20 図	J-1・2号土坑周辺	28	第 79 図	18号住居出土遺物 (3)	82
第 21 図	J-1・2号土坑	29	第 80 図	18号住居出土遺物 (4)	83
第 22 図	J-1号土坑周辺出土遺物 (1)	29	第 81 図	19号住居 A・B	84
第 23 図	J-1号土坑周辺出土遺物 (2)	30	第 82 図	19号住居 A 出土遺物 (1)	85
第 24 図	J-2号土坑周辺出土遺物 (1)	30	第 83 図	19号住居 A 出土遺物 (2)	86
第 25 図	J-2号土坑周辺出土遺物 (2)	31	第 84 図	19号住居 A 出土遺物 (3)	87
第 26 図	J-2号土坑周辺出土遺物 (3)	32	第 85 図	20号住居	88
第 27 図	J-2号土坑周辺出土遺物 (4)	33	第 86 図	20号住居出土遺物	89
第 28 図	J-2号土坑周辺出土遺物 (5)	34	第 87 図	21号住居	90
第 29 図	1号埋甕・出土遺物	35	第 88 図	21号住居・出土遺物 (1)	91
第 30 図	縄文グリッド出土遺物 (1)	36	第 89 図	21号住居出土遺物 (2)	92
第 31 図	縄文グリッド出土遺物 (2)	37	第 90 図	22号住居・出土遺物	93
第 32 図	縄文グリッド出土遺物 (3)	38	第 91 図	24号住居・出土遺物	94
第 33 図	縄文グリッド出土遺物 (4)	39	第 92 図	25号住居	95
第 34 図	縄文グリッド出土遺物 (5)	40	第 93 図	25号住居・出土遺物 (1)	96
第 35 図	1号住居	42	第 94 図	25号住居出土遺物 (2)	97
第 36 図	2号住居	42	第 95 図	26号住居	98
第 37 図	2号住居・出土遺物	43	第 96 図	26号住居出土遺物 (1)	99
第 38 図	3号住居・出土遺物	44	第 97 図	26号住居出土遺物 (2)	100
第 39 図	4・5・6・9・10号住居重複図	44	第 98 図	26号住居出土遺物 (3)	101
第 40 図	9号住居	45	第 99 図	28号住居・出土遺物 (1)	102
第 41 図	9号住居出土遺物 (1)	46	第 100 図	28号住居出土遺物 (2)	103
第 42 図	9号住居出土遺物 (2)	47	第 101 図	30号住居	103
第 43 図	4号住居	48	第 102 図	30号住居・出土遺物 (1)	104
第 44 図	4・9号住居・4号住居出土遺物	49	第 103 図	30号住居出土遺物 (2)	105
第 45 図	5号住居	50	第 104 図	31号住居・出土遺物	106
第 46 図	5号住居出土遺物 (1)	51	第 105 図	32号住居	107
第 47 図	5号住居出土遺物 (2)	52	第 106 図	32号住居出土遺物 (1)	108
第 48 図	6号住居	52	第 107 図	32号住居出土遺物 (2)	109
第 49 図	6号住居・出土遺物 (1)	53	第 108 図	32号住居出土遺物 (3)	110
第 50 図	6号住居出土遺物 (2)	54	第 109 図	33号住居・出土遺物	111
第 51 図	7号住居	55	第 110 図	1号掘立柱建物・出土遺物	112
第 52 図	7号住居出土遺物 (1)	56	第 111 図	2・3・4・14号掘立柱重複・2号掘立柱建物	114
第 53 図	7号住居出土遺物 (2)	57	第 112 図	2号掘立柱建物出土遺物	115
第 54 図	8号住居・出土遺物 (1)	58	第 113 図	3号掘立柱建物	115
第 55 図	8号住居・出土遺物 (2)	59	第 114 図	4号掘立柱建物・出土遺物、14号掘立柱建物	116
第 56 図	8号住居出土遺物 (3)	60	第 115 図	5・6号掘立柱建物	117
第 57 図	8号住居出土遺物 (4)	61	第 116 図	6号掘立柱建物出土遺物	118
第 58 図	8号住居出土遺物 (5)	62	第 117 図	7号掘立柱建物	119
第 59 図	10号住居	62	第 118 図	7号掘立柱建物出土遺物 (1)	120

第119図	7号掘立柱建物出土遺物(2) ……………	121	第139図	44・47・52～54・58～61A・61B号土坑・出土遺物 ……	141
第120図	8号掘立柱建物 ……………	122	第140図	62～65・71号土坑・出土遺物 ……………	142
第121図	8号掘立柱建物出土遺物、9・10号掘立重複 ……	123	第141図	8～15・16A・16B・17号土坑・出土遺物 ……………	143
第122図	9号掘立柱建物 ……………	124	第142図	18～29号土坑・出土遺物 ……………	144
第123図	9号掘立柱建物出土遺物 ……………	125	第143図	33・34・37～41号土坑 ……………	145
第124図	10号掘立柱建物・出土遺物(1) ……………	126	第144図	6・7・55～57号土坑・出土遺物 ……………	146
第125図	10号掘立柱建物出土遺物(2)・11号掘立柱建物 ……	127	第145図	土坑一括出土遺物 ……………	147
第126図	11号掘立柱建物出土遺物 ……………	128	第146図	畠 ……………	149
第127図	12号掘立柱建物 ……………	128	第147図	ビット ……………	150・151
第128図	13号掘立柱建物・出土遺物、15号掘立柱建物・出土遺物 ……………	129	第148図	ビット出土遺物 ……………	152
第129図	1号柵列 ……………	130	第149図	96・97区全体図 ……………	155
第130図	1・2・4号道 ……………	131	第150図	96・97区基本土層 ……………	156
第131図	1・2号溝、出土遺物 ……………	132	第151図	96区3・5号溝・96区グリッド出土遺物 ……………	157
第132図	3・4号溝、出土遺物 ……………	133	第152図	96区水田・溝 ……………	158・159
第133図	5・6号溝、5号溝出土遺物 ……………	134	第153図	97区遺構・97区グリッド出土遺物 ……………	160
第134図	7号溝・出土遺物(1) ……………	135	第154図	グリッド出土遺物(1) ……………	161
第135図	7号溝出土遺物(2)、8号溝 ……………	136	第155図	グリッド出土遺物(2) ……………	162
第136図	8号溝出土遺物、9号溝・出土遺物 ……………	137	第156図	グリッド出土遺物(3) ……………	163
第137図	1・2・4・5・30・31号土坑・出土遺物 ……………	139	第157図	グリッド出土遺物(4) ……………	164
第138図	32・35・36・42・43・45・46号土坑・出土遺物 ……	140	第158図	中近世出土遺物 ……………	164
			第159図	遺構変遷図 ……………	166

表 目 次

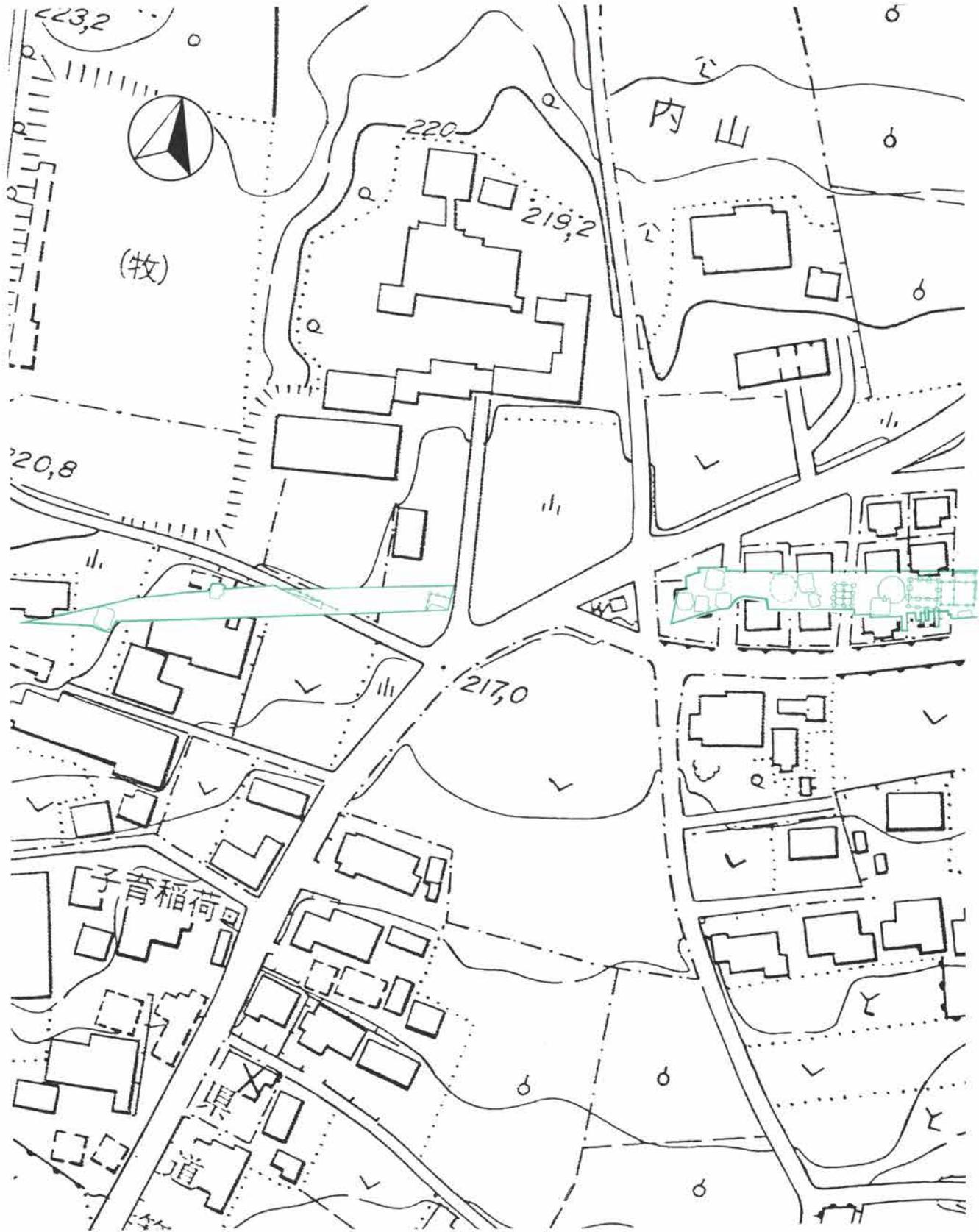
第1表	周辺遺跡一覧 ……………	9	第3表	土坑一覧 ……………	147
第2表	23号住居ビット一覧 ……………	22	第4表	ビット一覧 ……………	153

写真図版目次

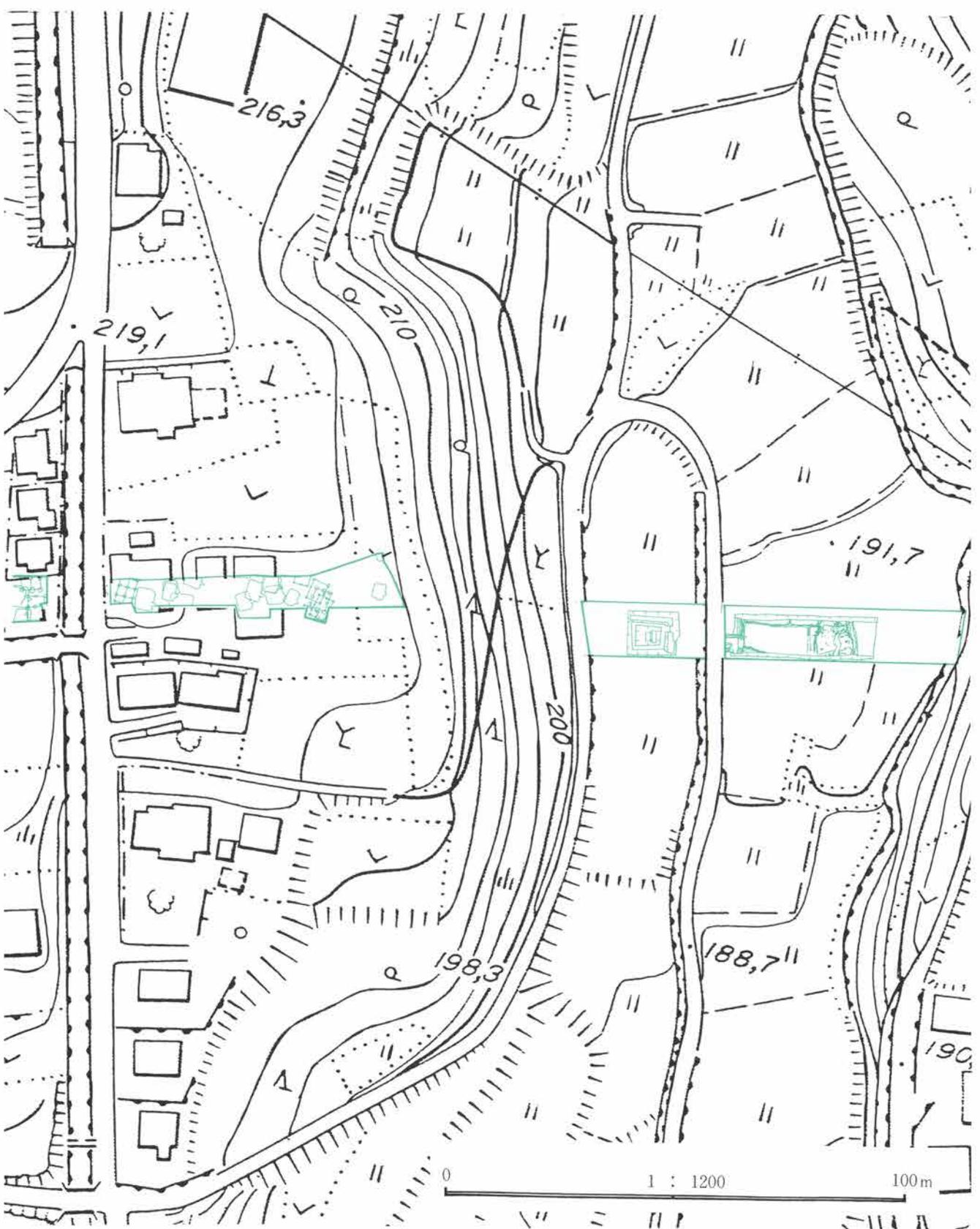
- PL 1 13号住居全景 (南)
13号住居全景 (南)
13号住居全景 (北)
13号住居埋甕 (南)
13号住居埋甕 (西)
- PL 2 23号住居全景 (南)
23号住居全景 (南)
23号住居全景 (北)
23号住居掘り方全景 (西)
23号住居埋甕 (南)
- PL 3 J-1号土坑周辺 (南)
J-2号土坑周辺 (南)
J-2号土坑周辺 (南)
1号埋甕 (南)
1号埋甕 (東)
- PL 4 1号住居全景 (西)
2号住居全景 (西)
2号住居カマド全景 (西)
2号住居カマド残存状態 (西)
4・5・9・10号住居全景 (西)
- PL 5 3号住居全景 (北)
9号住居遺物出土状態 (西)
4・9号住居全景 (西)
9号住居カマド全景 (西)
9号住居カマド残存状態 (南)
4号住居カマド掘り方全景 (西)
4・9号住居掘り方全景 (西)
4・9号住居掘り方土坑全景 (東)
- PL 6 4・9・5・6号住居全景 (西)
4・9・10号住居掘り方全景 (西)
5号住居全景 (西)
5号住居カマド遺物出土状態 (西)
5号住居紡錘車出土状態 (北)
- PL 7 6号住居遺物出土状態 (西)
6号住居全景 (西)
6号住居カマド遺物出土状態 (西)
7号住居遺物出土状態 (西)
7号住居全景 (西)
7号住居カマド全景 (西)
7号住居掘り方全景 (西)
8号住居遺物出土状態 (西)
- PL 8 8号住居全景 (西)
8号住居カマド全景 (西)
8号住居遺物出土状態 (西)
8号住居掘り方全景 (西)
10号住居全景 (西)
10号住居カマド全景 (西)
11号住居A遺物出土状態 (西)
11号住居A遺物出土状態 (南)
- PL 9 11号住居Aカマド全景 (西)
11号住居Aカマド掘り方全景 (西)
11号住居A全景 (西)
11号住居A掘り方全景 (西)
11号住居Bカマド土層断面 (西)
11号住居Bカマド土層断面 (北)
12号住居遺物出土状態 (南)
12号住居全景 (西)
- PL 10 12号住居掘り方全景 (西)
- PL 10 12号住居掘り方土坑全景 (西)
14号住居遺物出土状態 (西)
14号住居全景 (西)
14号住居カマド全景 (西)
14号住居カマド掘り方全景 (西)
15号住居遺物出土状態 (西)
15号住居全景 (南)
- PL 11 15号住居カマド全景 (南)
15号住居カマド掘り方全景 (南)
15号住居掘り方全景 (南)
17号住居全景 (南)
17号住居カマド全景 (西)
17号住居全景 (西)
18号住居遺物出土状態 (西)
18号住居遺物出土状態 (西)
- PL 12 18号住居カマド遺物出土状態 (西)
18号住居カマド遺物出土状態 (西)
18号住居掘り方全景 (西)
19号住居遺物出土状態 (西)
19号住居遺物出土状態 (南)
19号住居全景 (西)
19号住居カマド全景 (西)
19号住居カマド残存状態 (西)
- PL 13 19号住居貯蔵穴遺物出土状態 (西)
19号住居掘り方全景 (西)
20号住居全景 (西)
20号住居カマド遺物出土状態 (西)
20号住居カマド全景 (西)
20号住居掘り方全景 (西)
21号住居遺物出土状態 (西)
21号住居遺物出土状態 (西)
- PL 14 21号住居カマド全景 (西)
21号住居掘り方全景 (西)
21号住居掘り方土坑全景 (東)
22号住居遺物出土状態 (西)
22号住居遺物出土状態 (西)
22号住居掘り方全景 (西)
24号住居全景 (西)
24号住居掘り方全景 (西)
- PL 15 25号住居遺物出土状態 (西)
25号住居全景 (西)
25号住居カマド遺物出土状態 (西)
25号住居カマド残存状態 (西)
25号住居カマド掘り方全景 (西)
25号住居掘り方全景 (西)
26号住居遺物出土状態 (西)
26号住居全景 (西)
- PL 16 26号住居カマド遺物出土状態 (西)
26号住居カマド全景 (西)
26号住居カマド掘り方全景 (西)
26号住居掘り方全景 (西)
28号住居遺物出土状態 (西)
28号住居掘り方全景 (西)
30号住居遺物出土状態 (西)
30号住居カマド遺物出土状態 (西)
- PL 17 30号住居カマド残存状態 (西)
30号住居カマド掘り方全景 (西)
30号住居掘り方全景 (西)

- P L 17 31号住居全景 (南)
31号住居掘り方全景 (南)
32号住居遺物出土状態 (西)
32号住居遺物出土状態 (西)
32号住居焼印出土状態 (北)
- P L 18 32号住居遺物出土状態 (西)
32号住居全景 (西)
32号住居掘り方全景 (西)
32号住居掘り方土坑全景 (東)
32号住居掘り方土坑全景 (北)
33号住居全景 (西)
33号住居掘り方全景 (北)
33号住居掘り方土坑土層断面 (北)
- P L 19 1号掘立柱建物全景 (南)
2号掘立柱建物全景 (南)
3号掘立柱建物全景 (西)
4号掘立柱建物全景 (北)
2～4・14号掘立柱建物全景 (南)
- P L 20 5号掘立柱建物全景 (東)
6号掘立柱建物全景 (南)
7号掘立柱建物全景 (北)
8・12号掘立柱建物全景 (北)
掘立柱建物群 (東)
- P L 21 9・10・11・15号掘立柱建物全景 (北)
13号掘立柱建物全景 (北)
15号掘立柱建物全景 (北)
1号柵列全景 (東)
1号道全景 (北)
1号道全景 (北)
2号道全景 (北)
4号道全景 (南)
- P L 22 1号溝全景 (北)
2号溝全景 (南)
3号溝全景 (北)
4号溝全景 (北)
5号溝全景 (南)
6号溝全景 (北)
7号溝全景 (北)
7号溝全景 (北)
- P L 23 8号溝全景 (北)
10号溝全景 (南)
1号土坑全景 (北)
2号土坑全景 (北)
4号土坑土層断面 (南)
5号土坑土層断面 (西)
6・7号土坑遺物出土状態 (南)
6・7号土坑遺物出土状態 (東)
- P L 24 土坑群 (西)
土坑群西部分 (南)
- P L 25 土坑群中央部分 (南)
土坑群東部分 (南)
- P L 26 6・7号土坑遺物出土状態 (東)
31号土坑全景 (北)
32号土坑全景 (東)
35号土坑全景 (東)
42号土坑全景 (東)
43号土坑全景 (南)
44号土坑土層断面 (南)
45号土坑全景 (北)
- P L 27 45・46号土坑土層断面 (西)
52・53号土坑全景 (北)
- P L 27 58号土坑全景 (東)
71号土坑遺物出土状態 (西)
畠全景 (南)
畠全景 (南)
畠全景 (北)
96区1号溝全景 (東)
- P L 28 96区2・3号溝全景 (北)
96区4号溝全景 (南)
96区5号溝全景 (南)
96区6号溝全景 (南)
96区7・8号溝全景 (南)
96区9号溝全景 (南)
96区10号溝全景 (南)
97区全景 (北)
- P L 29 96区A s - C下全景 (西)
96区A s - B下全景 (西)
- P L 30 13号住居出土遺物
- P L 31 13・23号住居出土遺物
- P L 32 23号住居出土遺物
- P L 33 23号住居出土遺物
J - 1号土坑周辺出土遺物
- P L 34 J - 1・2号土坑周辺出土遺物
- P L 35 J - 2号土坑周辺出土遺物
- P L 36 J - 2号土坑周辺・1号埋壺
縄文グリッド出土遺物
- P L 37 縄文グリッド出土遺物
- P L 38 縄文グリッド出土遺物
- P L 39 2・3・9号住居出土遺物
- P L 40 4・9号住居出土遺物
- P L 41 4～6号住居出土遺物
- P L 42 5～7号住居出土遺物
- P L 43 7・8号住居出土遺物
- P L 44 8号住居出土遺物
- P L 45 8・10・11号住居A出土遺物
- P L 46 11A・12号住居出土遺物
- P L 47 12・14号住居出土遺物
- P L 48 14・15号住居出土遺物
- P L 49 15・17・18号住居出土遺物
- P L 50 18・19号住居A出土遺物
- P L 51 19号住居A出土遺物
- P L 52 19A・20・21号住居出土遺物
- P L 53 21・22・24・25号住居出土遺物
- P L 54 25・26号住居出土遺物
- P L 55 26号住居出土遺物
- P L 56 26・28・30号住居出土遺物
- P L 57 30～32号住居出土遺物
- P L 58 32号住居出土遺物
- P L 59 32・33号住居・
1・2・4・6・7号掘立柱建物出土遺物
- P L 60 7～9号掘立柱建物出土遺物
- P L 61 9～11・13・15号掘立柱建物・
1～4号溝出土遺物
- P L 62 4・5・7～9号溝・
4～6号土坑出土遺物
- P L 63 土坑・ピット・
グリッド出土遺物
- P L 64 グリッド出土遺物
- P L 65 グリッド出土遺物
- P L 66 出土金属
- P L 67 出土金属
- P L 68 出土金属

本 文



第1図 発掘調査の範囲



第 I 章 調査の経過

第 1 節 発掘調査の経過

I 調査の経過

北陸新幹線建設に伴う発掘調査の経緯については(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告第183集「行力春名社遺跡 北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書第1集」1994年発行第1章(P 1～6)に詳しく記載されているので参照していただきたい。高浜広神遺跡は、榛名町大字高浜の標高200m付近に位置する。発掘調査範囲は、北陸新幹線高崎起点10,860km～11,285km地点である。発掘調査を行った面積は3,048㎡である。

発掘調査は以下のような日程で実施した。

平成5年10月

96区 表土掘削・遺構確認(A s - B下水田面)調査

平成5年11月

96区 基準杭設置・遺構確認(A s - B下水田面)調査継続(溝5条)調査・写真撮影

平成5年12月

96区 第1・2・3トレンチ調査・泥流堆積層掘削・遺構確認(溝5条)調査・写真撮影・埋め戻し・終了

97区 表土掘削・遺構確認・旧石器試掘・埋め戻し・終了

平成6年12月 調査事務所設置

東部 表土掘削・基準杭設置・遺構確認・奈良平安面(住居9軒、溝1条、ピット等)調査・気球撮影

平成7年1月

東部 遺構確認・奈良平安面(住居4軒、掘立柱建物4基、溝1条、ピット等)調査

西部 表土掘削・基準杭設置・遺構確認・奈良平安面(住居2軒)調査

中央 表土掘削・基準杭設置・遺構確認(近世土坑群、A s - B下島、溝3条等)調査

平成7年2月

東部 奈良平安面調査継続・ローム面調査・旧石器試掘 木暮宅搬入路部遺構確認・奈良平安面調査

西部 奈良平安面調査継続・ローム面調査・旧石器試掘・埋め戻し・終了 町道付け替え部遺構確認

中央 近世土坑群調査継続・気球撮影

遺構確認・奈良平安面(住居6軒、掘立柱建物4棟、ピット等)調査・気球撮影

遺構確認(縄文面、住居1軒)調査

平成7年3月

東部 埋め戻し・終了

西部 町道付け替え 遺構確認・奈良平安面、住居1軒、掘立柱建物1棟、柱列1列、溝1条、ピット等調査・埋め戻し・終了

中央 遺構確認・奈良平安面、住居6軒、掘立柱建物1棟、溝1条等調査

遺構確認・縄文面、住居3軒調査・気球撮影・旧石器試掘・埋め戻し・終了 調査事務所撤去

備考 東部は、97区O～Tグリッド 98区全てのグリッド 88区D～Gグリッド

中央は、88区J～Tグリッド 89区A～Dグリッド

西部は、89区M～Tグリッド 90区A～Kグリッド を指す。

第II章 調査の方法

第1節 調査の手順

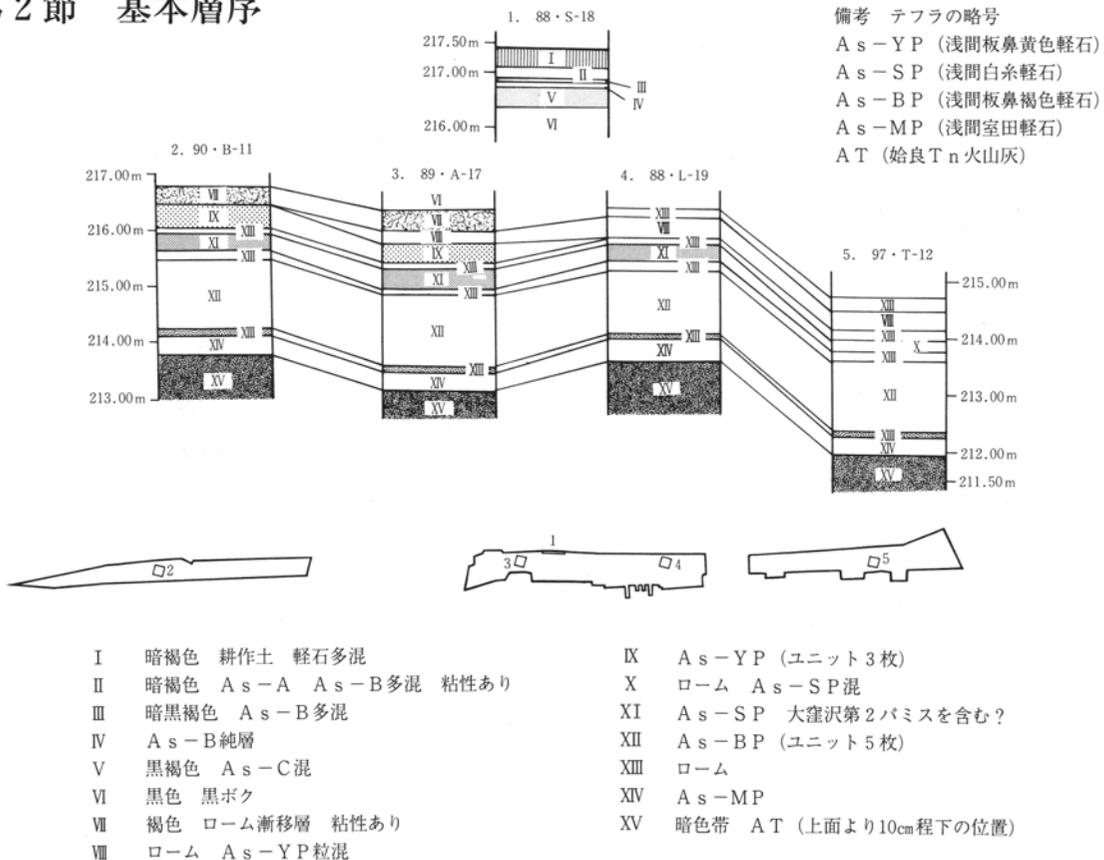
発掘調査は、平成5年10月の96・97区谷地部分から始まった。96区では、As-B軽石層上面まで重機で掘り下げ、1条の溝を検出した。さらにAs-B軽石層下面では、水田とそれに伴うと見られる溝を検出した。その下As-C軽石層に覆われた溝2条を検出した。97区では遺構は検出できず、旧石器試掘を行ったが、やはり遺構は検出できなかった。

次に着手したのは、平成6年12月の丘陵部分である。丘陵部分は便宜上、東・中央・西部と分けられる。中央部だけは中近世の土坑群が検出できた。その下は全て同じくAs-B軽石層下の住居、掘立柱建物、溝などの面が検出できた。縄文の住居も同じ面で検出できた。旧石器の試掘は入れたが、遺構は検出できなかった。

なお、出土した遺物や記録した図・写真の基礎的な整理は、発掘現場で実施した。遺物は洗浄・注記を行い整理期間算出のために遺物量のカウントを行った。記録図は、平面と断面の齟齬の修正を行った。発掘調査にあたっての遺跡名称・遺跡略号などの付け方については、北陸新幹線建設に伴う発掘調査を開始するときに同一事業内の統一をはかった。詳細については、「行力春名社遺跡」1994を参照されたい。

整理作業は、遺物の接合、復元、写真撮影、実測、遺構図修正、遺構図・遺物図トレース、版下作成、印刷の手順で実施した。

第2節 基本層序



第2図 基本土層

第3節 調査区の設定

北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査では、これに伴う遺跡発掘調査での調査区の設定を全域が網羅するように設定した。

調査区の設定は、「国家座標」に基づき北陸新幹線地域の全域を網羅する1km四方の大区画を設定した。大区画は、北陸新幹線の起点である高崎駅東南の国家座標値 $X = +35,000.0m$ ・ $Y = -73,000.0m$ を起点とし、北陸新幹線の岐路に沿って高崎から安中方面に向けて25の区画を設定した。(第4図)これを「地区」(大区画)と呼称した。

次にこの1km四方の各地区(大区画)の中を一辺100m四方の区画で100等分に区画し、この100四方の区画を「区」(中区画)と呼称した。この「区」では、東から西へそして南から北にかけて1~100区までを設定した。

(第3図)

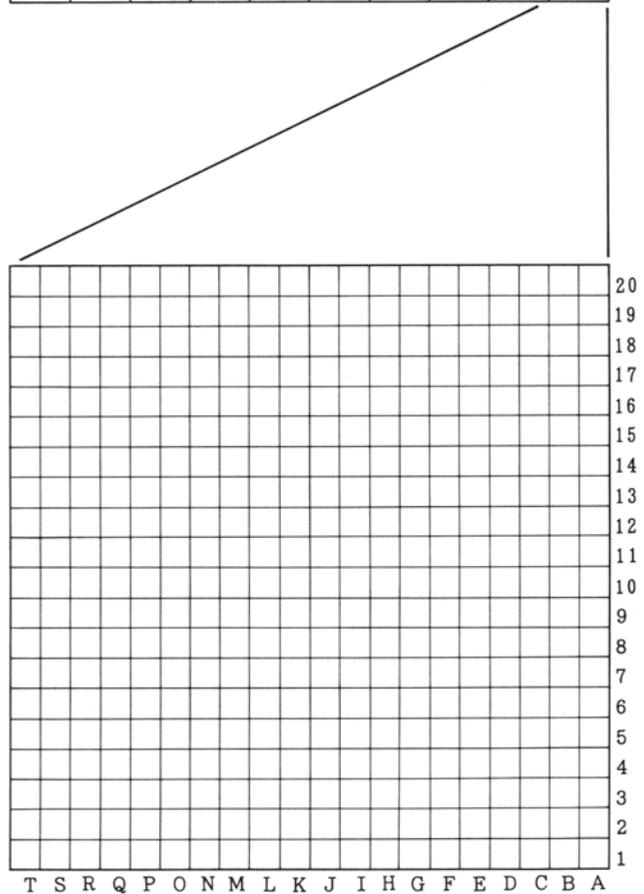
さらに「区」と呼称した100m四方の中区画の内部を一辺5mの小区画で400等分し、この小区画を「グリッド」と呼称した。「区」内部の呼称方法は、東南隅を起点としてX軸(西方向)にアルファベットを、そしてY軸(北方向)に数字を用いた。すなわち1つの中区画内部は、X軸がAから始まりTまでY軸が1から20まで進んだ後次の「区」に移ることになる。

高浜広神遺跡は、大区画16地区、東から中区画96・97・88・98・89・90区に相当する。

なお、発掘調査範囲にかかる各中区画のA-1の座標値は、以下のとおりである。

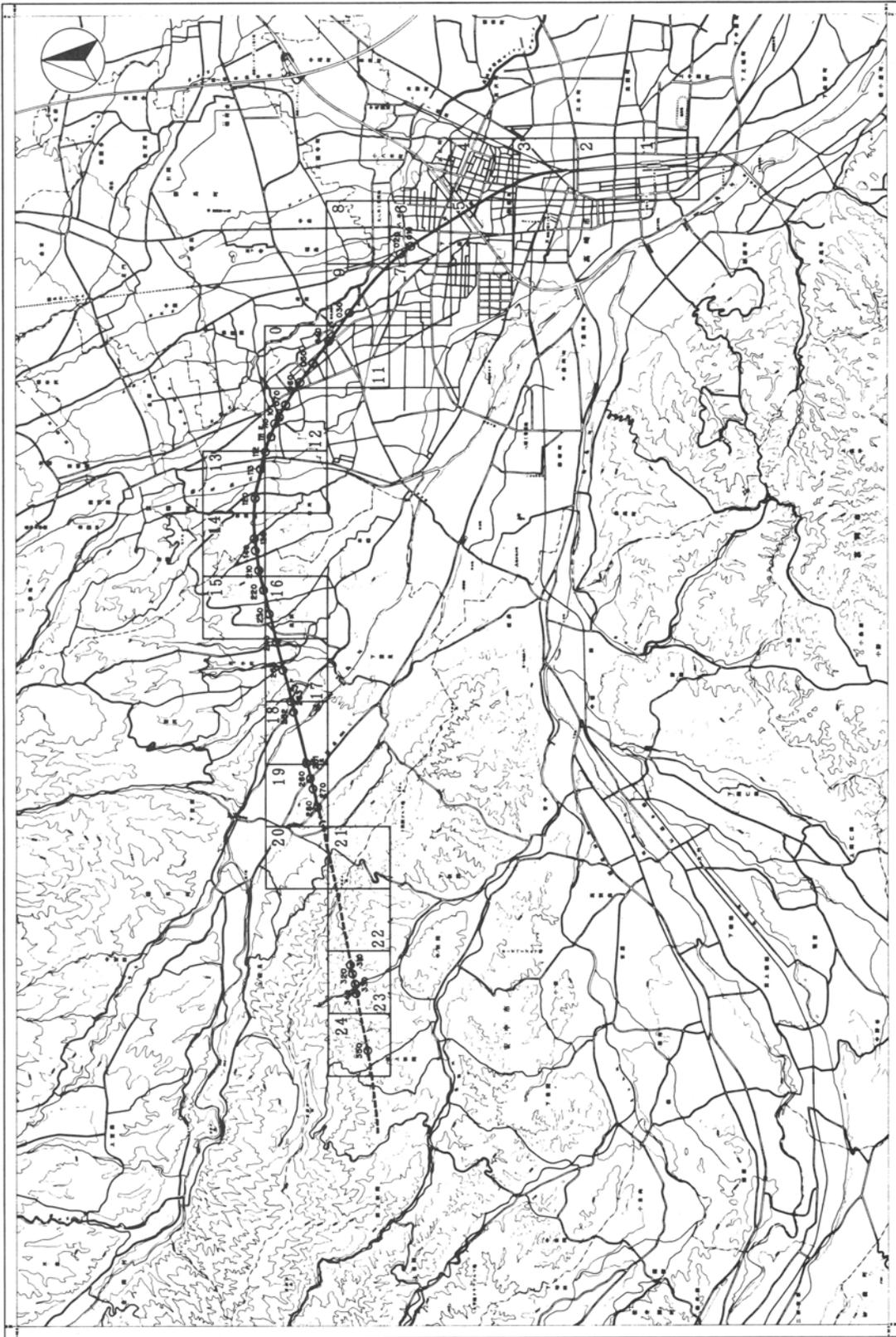
- 96区 $X = +41,900.0m$ 、 $Y = -80,500.0m$
- 97区 $X = +41,900.0m$ 、 $Y = -80,600.0m$
- 88区 $X = +41,800.0m$ 、 $Y = -80,700.0m$
- 98区 $X = +41,900.0m$ 、 $Y = -80,700.0m$
- 89区 $X = +41,800.0m$ 、 $Y = -80,800.0m$
- 90区 $X = +41,800.0m$ 、 $Y = -80,900.0m$

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91
90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
80	79	78	77	76	75	74	73	72	71
70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
60	59	58	57	56	55	54	53	52	51
50	49	48	47	46	45	44	43	42	41
40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1



第3図 調査区の設定(中・小区画)

北陸新幹線ルート図 II



第4図 調査区の設定 (大区画)



第Ⅲ章 周辺の環境

第1節 地理的環境

高浜広神遺跡は群馬郡榛名町大字高浜字広神にある。北西には標高1,448mの榛名山が聳える。榛名山から東側に延びる丘陵は榛名白川によって分断され、南東にのびる丘陵は烏川によって分断される。丘陵地帯は、烏川・白川に向かって解析する小規模な谷地が各所に発達して、起伏にとんだ地形をなしている。榛名白川の東方には関東平野が広がる。榛名山南麓の丘陵地帯は烏川によって遮られて、榛名町室田方面から河岸段丘崖を形成している。南東に延びる丘陵の中でも比較的広い平場を持つ丘陵上に高浜広神遺跡は存在する。高浜広神遺跡をのせた丘陵の東側の谷地部分には見立川の支流が流れ、白岩方面から流下する侵蝕谷が谷地田となって東南方向に延びて下長地区で白川流域の丘陵地に接している。烏川を挟んで対岸では300m級の河岸段丘が迫っている。そこは高崎市町屋町から榛名町下里見であり、烏川に平行した尾根を越えると安中市秋間である。

第2節 歴史的環境

地質は榛名火山の噴出物が北部の山地を形成し、裾野や平野にあたる部分は榛名火山の噴出物、又はその二次堆積物である。榛名山は赤城山と同じく那須火山帯に属する火山である。典型的な二重火山でその活動は、第三紀末から第四紀のはじめに（約百万年前）活動を開始し、成層円錐形火山をつくった古期活動と、カルデラ形成後に中央火口丘（榛名富士）および寄生火山（相馬山、水沢山、二ツ岳）をつくった新时期活動の二つに分けることができる。六世紀の爆発によってふりつもった火山灰や軽石の下に埋もれている遺跡も少なくない。^{参文1}

榛名町は昭和30年群馬郡室田町、碓氷郡里見村、群馬郡久留馬村が合併し誕生した。^{参文2} それまで高浜広神地域は久留馬村大字高浜に属していた。村名「クルマ」の地名起源には諸説ある。^{参文3} 「日本書紀」(684)には車持公らが姓を賜ったという記載が見える。「新選姓氏録」(815)の項に車持公は、上毛野朝臣と同祖であり、豊城入彦命の子孫にあたり、雄略天皇に乗輿を献上したのでこの姓を賜ったという。「倭名類聚鈔」には、群馬郡は八郷、長野・井出・小野・八木・上郊・畔切・嶋名・群馬と記載されている。隣接する碓氷郡は、飽馬・石馬・坂本・磯部・石井・野後・駅家・俘囚の八郷。片岡郡は、若田・多胡・高渠・佐没・長野の五郷が記載されている。また「倭名類聚鈔」には「久留末国分為東西二郡府中間国府」ともあり、群馬郡が東と西の二つに分けられていたことがわかる。「上野国神名帳」には「群馬郡之内東郡之分・西郡之分」とあり、「倭名類聚鈔」を裏付ける資料といえよう。^{参文4} また、榛名神社には県内最古の鉄灯籠（1323）があり、上野国車馬郡という銘が見られる。^{参文5} 尾崎喜左雄氏は、7世紀頃の榛名山南麓を中心とした車持部の勢力範囲を「くるま」と称し、ついで7世紀中頃から榛名山東麓の豪族有馬君の台頭により群馬の名が用いられ、南部の物部、石上部の勢力の一部が入れられて群馬郡になったものであろうと考えておられる。また、尾崎氏は高浜広神遺跡周辺を長野郷に、烏川対岸を片岡郡多胡郷、若田郷、あるいは碓氷郡と考えておられる。^{参文6} 高浜広神遺跡の南東2kmの地に本郷ミカドという場所がある。「御門」の地名は8世紀頃の郡衙の所在地と推定している。この頃の郡衙開設はその居宅がまずあてられたものと見られるので、その所在地も随時移動したであろう。いずれにせよこの地が「クルマ」に深く関わるのは間違いなさであろう。

同じ台地上の先端では榛名木戸神社、西へ2km程行ったところでは戸榛名神社と榛名山を中心にして信仰

に関連する遺跡が数多く立地している。榛名神社関連の神社から「上野国神名帳」記載の神社、廃寺、古瓦散布地などである。またこれに関連して榛名山、榛名神社、伊香保神社などをつなぐ道もはやくから整備されていたようだ。例えば「榛名山裏街道」であるが、これは高浜広神遺跡の東部と中央部の間を貫いている。

高浜広神遺跡から南へ500m程行ったところに駒形神社がある。「久留馬村誌」によると馬を取り扱った役所の跡であるという。「上野国神名帳」でも正五位駒形明神に位置づけられている。「延喜式」(941)では上野国の御牧を利刈・有馬島・沼尾・拝志・久野・市代・大藍・塩山・新屋の九牧という。善地の月波神社、車持若御子神社の近隣には「治尾の牧」と伝えられている場所がある。また周辺の地名にも「駒寄」等馬に関連した名が多いのも特徴である。

縄文時代の遺跡は発掘事例が少ない。若干「久留馬村誌」に報告されているので参照されたい。

第1表 周辺遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	遺跡の主な内容	文献
1	長野往還(草津街道)		高崎一本郷-高浜-神戸-三ツ子沢-室田-三の倉-草津	2
2	伊香保道		本郷-白岩-伊香保 草津街道の岐路 欠の上・宮開戸・一本桑・中通・遠北原	2
3	榛名山裏街道		本郷-高浜(茅井)-十文字-榛名	2
4	主要県道高崎-室田線		烏川に沿う	2
5	高浜砦跡	欠の上	方形 方二町 室町時代末期(永正9年頃) 長野憲業 近世坂上城	11
6	御門古城跡	本郷字三角	長尾五郎景忠 永禄9年 全長170m	11
7	しどめ塚(人見塚)	本郷字道場	径20m円墳 横穴式石室 装身具武器類馬具類 7世紀前半~8世紀	5
8	駒形神社	高浜字中通	駒を取り扱った役所の跡 上野国神名帳群馬郡之内西郡之分正五位駒形明神	2
9	車持神社	十文字字芋干場	上野国神名帳群馬郡之内西郡之分従五位車持明神	2
10	治尾の牧	同上	延喜式上野九牧	7
11	戸榛名神社	神戸字宮山	榛名明神の分霊	3
12	榛名木戸神社	本郷字満行原	榛名明神の分霊 上野国神名帳群馬郡之内西郡之分従四位榛名本戸明神(惣社本) 素弁四葉文蓮花文瓦 布目瓦 白鳳寺院	3
13	白岩観音堂	白岩字大門	長谷寺縁起絵巻朱鳥年間(686~696) 開基 本尊十一面観世音平安末期(11世紀末~12世紀初) 板東十五番札所	2
14	月波神社	善地字長坂	従四位月波明神	8
15	奥原古墳群	本郷字奥原	古墳群 65基 円墳 7世紀 8世紀代まで存続 木戸神社寄りの地を避ける	9
16	本郷的場古墳群	本郷字的場	古墳群 奥原古墳群より先行する 6世紀中葉~7世紀	10
17	白岩の道しるべ	白岩上堂	元禄五年(1692)	5
18	高浜六本辻の道しるべ	高浜道角	文化十年(1813)	5
19	高浜辻の道祖神	高浜	元禄五年(1692)	5
20	東上秋間遺跡群	中秋間東上秋間	窯業炭焼窯跡 8世紀初頭以降	13
21	上野堰		江戸以前	10
22	箕輪城	箕郷町東明屋	長野憲業(1512)	1
23	鷹留城	下室田	長野憲業(1492)	12

引用・参考文献

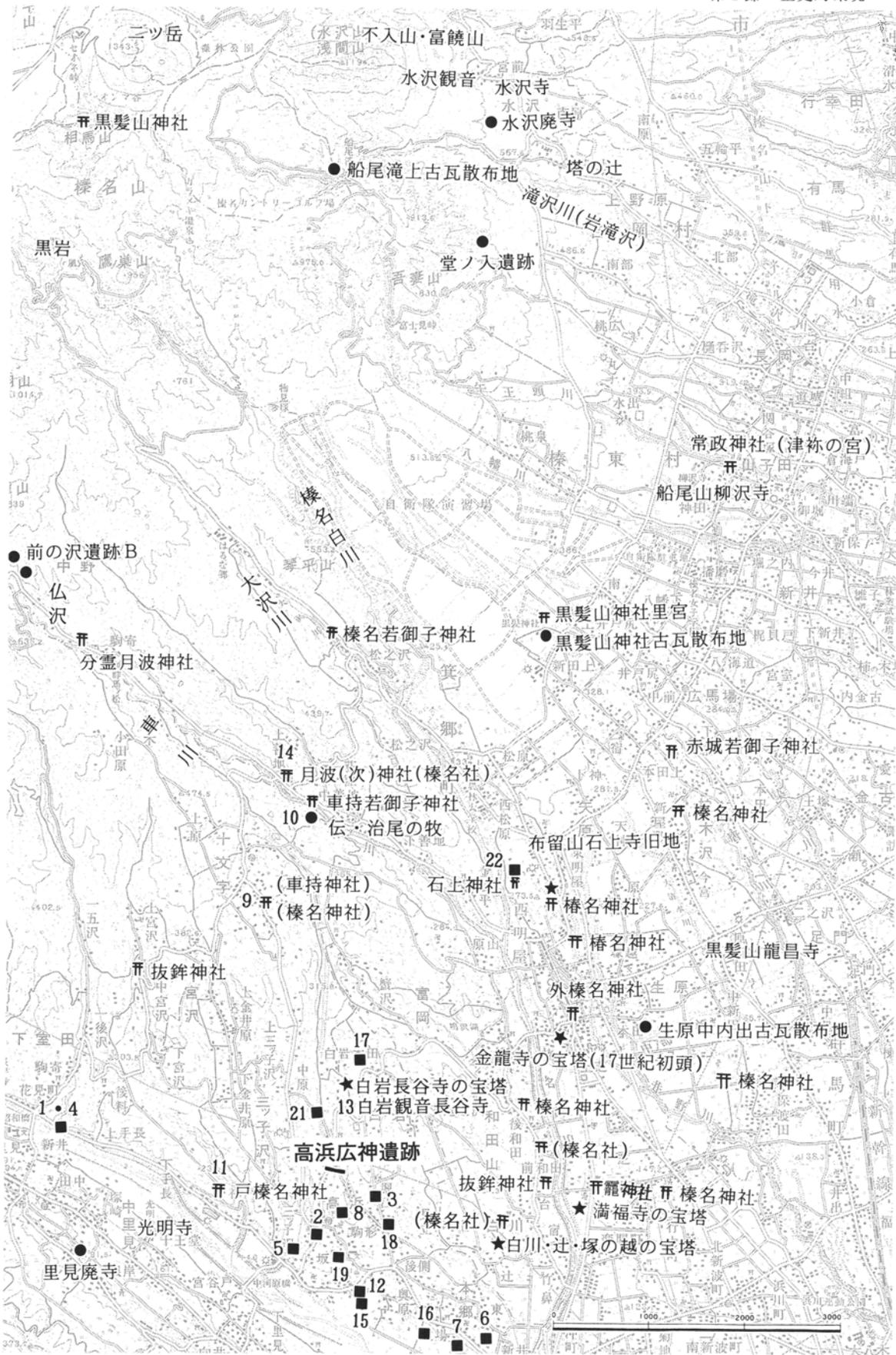
1. 「箕郷町誌」箕郷町誌編纂委員会1975年
2. 「久留馬村誌」久留馬村誌編纂委員会1963年
3. 「群馬県史」資料編4(原始古代4文献)群馬県史編さん委員会1985年
4. 尾崎喜左雄「上野国神名帳の研究」1974年13. 「東上秋間遺跡群」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995
5. 「榛名町の文化財」榛名町役場1995年
6. 尾崎喜左雄「群馬の地名—上巻—」上毛新聞社1976年
7. 川原嘉久治「西上野における古瓦散布地の様相」『研究紀要10』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
8. 川原嘉久治「上野国総社神社主祭神の性格に関する一考察」『研究紀要6』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
9. 「奥原古墳群」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983年
10. 「本郷的場古墳群」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990年
11. 山崎一「群馬県古城址の研究—下巻—」群馬県文化事業振興会 1972年
12. 「室田町誌」室田町誌編纂委員会1966年
13. 「東上秋間遺跡群」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995

第三章 周辺の環境



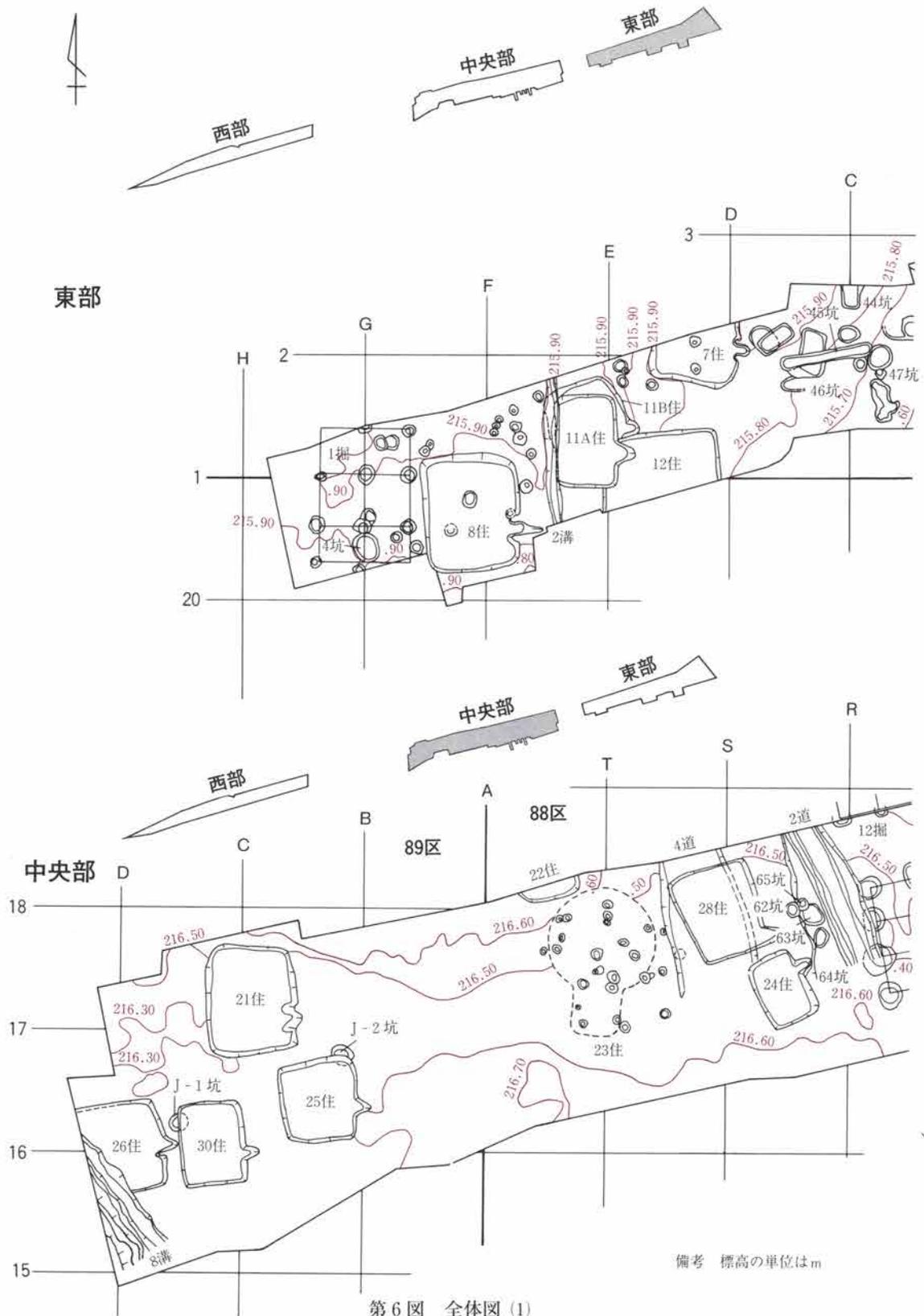
国土地理院 1:50000 「榛名山」使用

川原嘉久治 「榛名山麓の古代寺院Ⅱ-唐松廃寺-」 『研究紀要11』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1993から引用



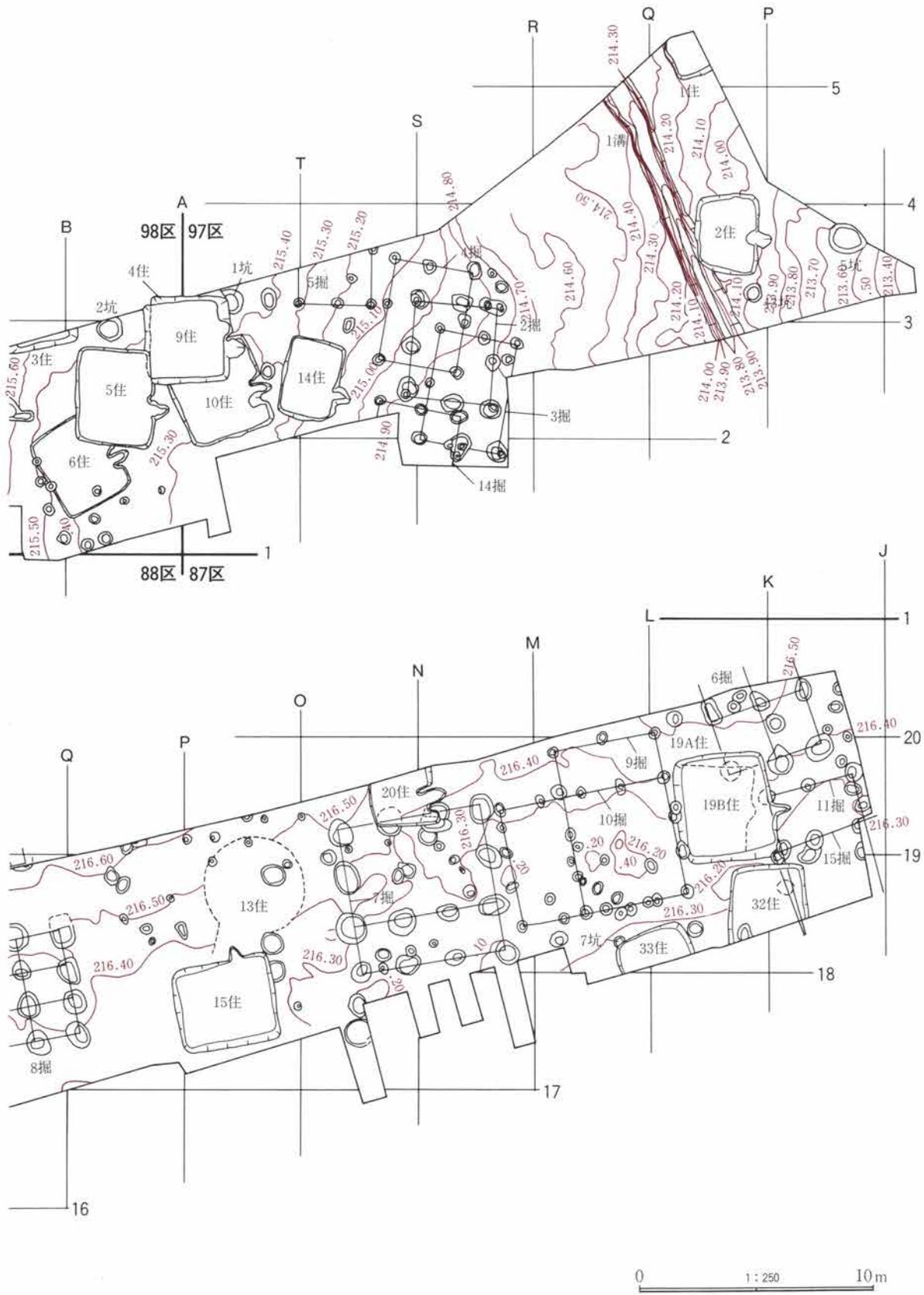
第5図 歴史的環境

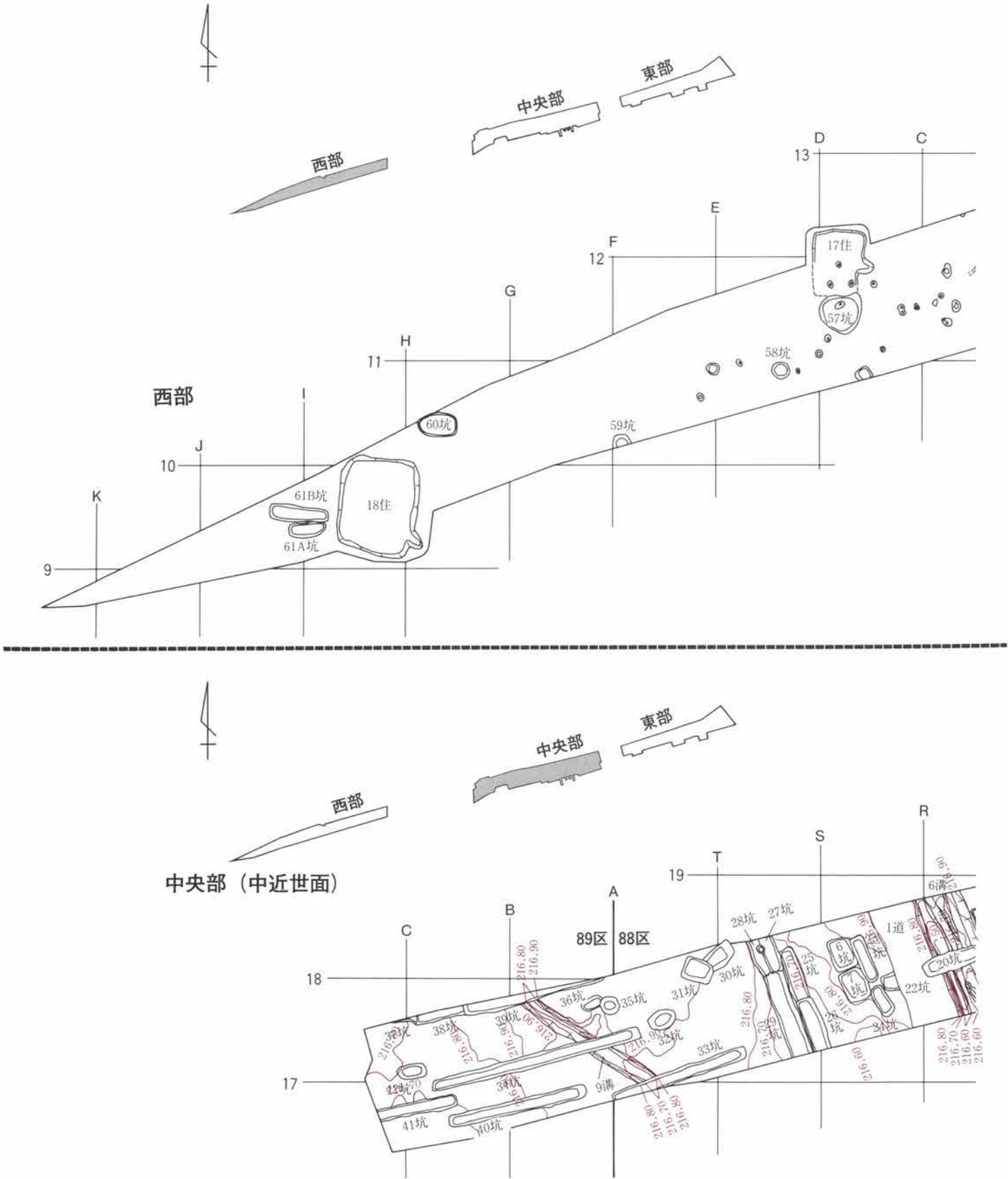
第IV章 検出された遺構と遺物



第6図 全体図(1)

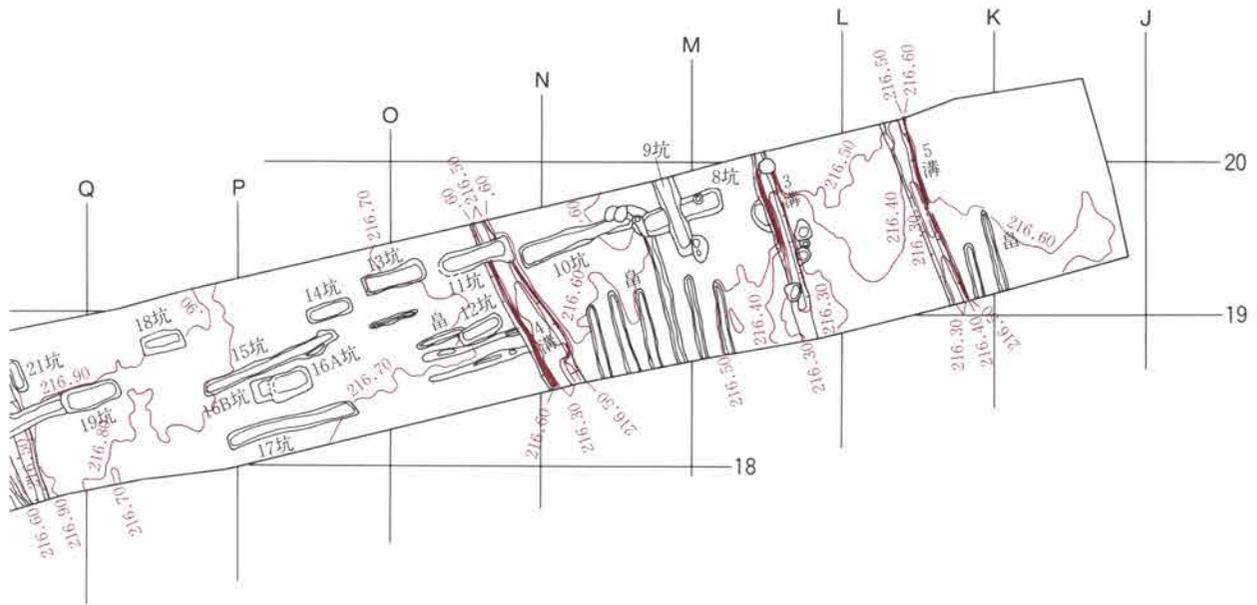
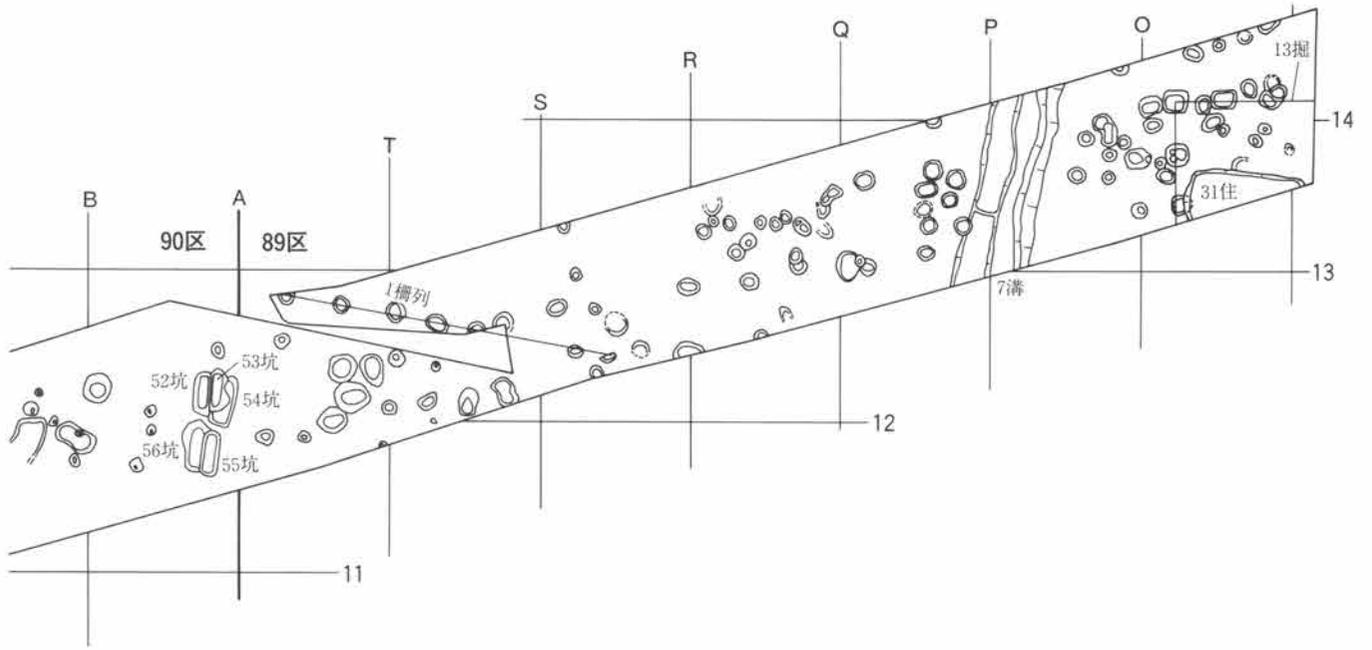
全体図





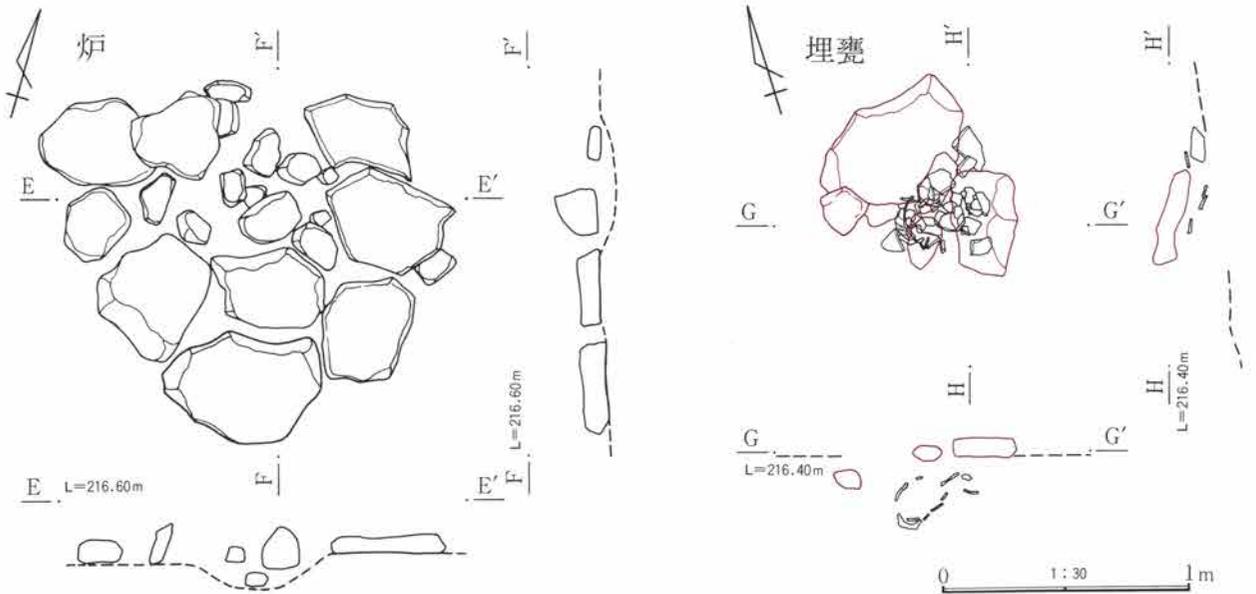
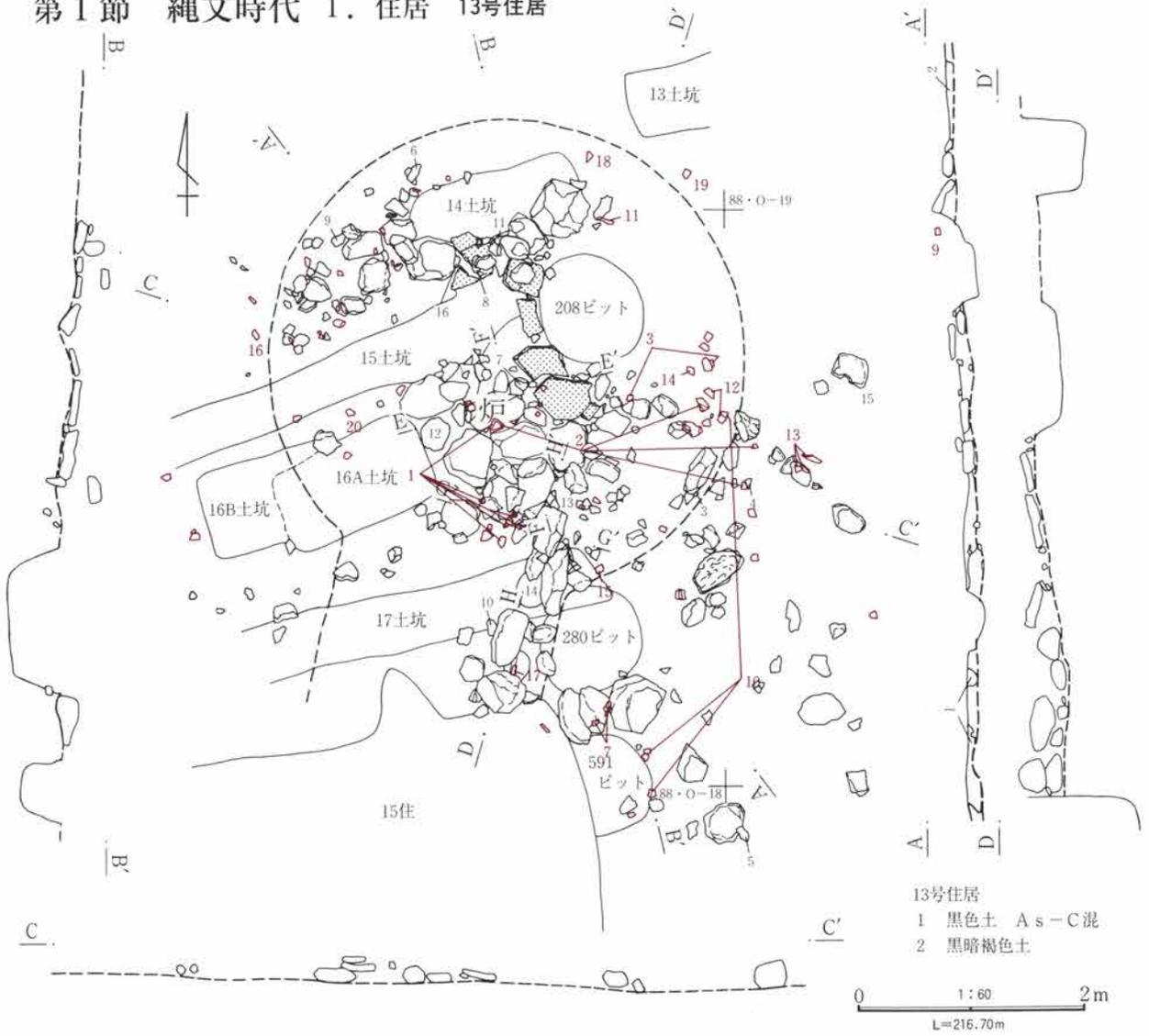
第7図 全体図 (2)

全体図

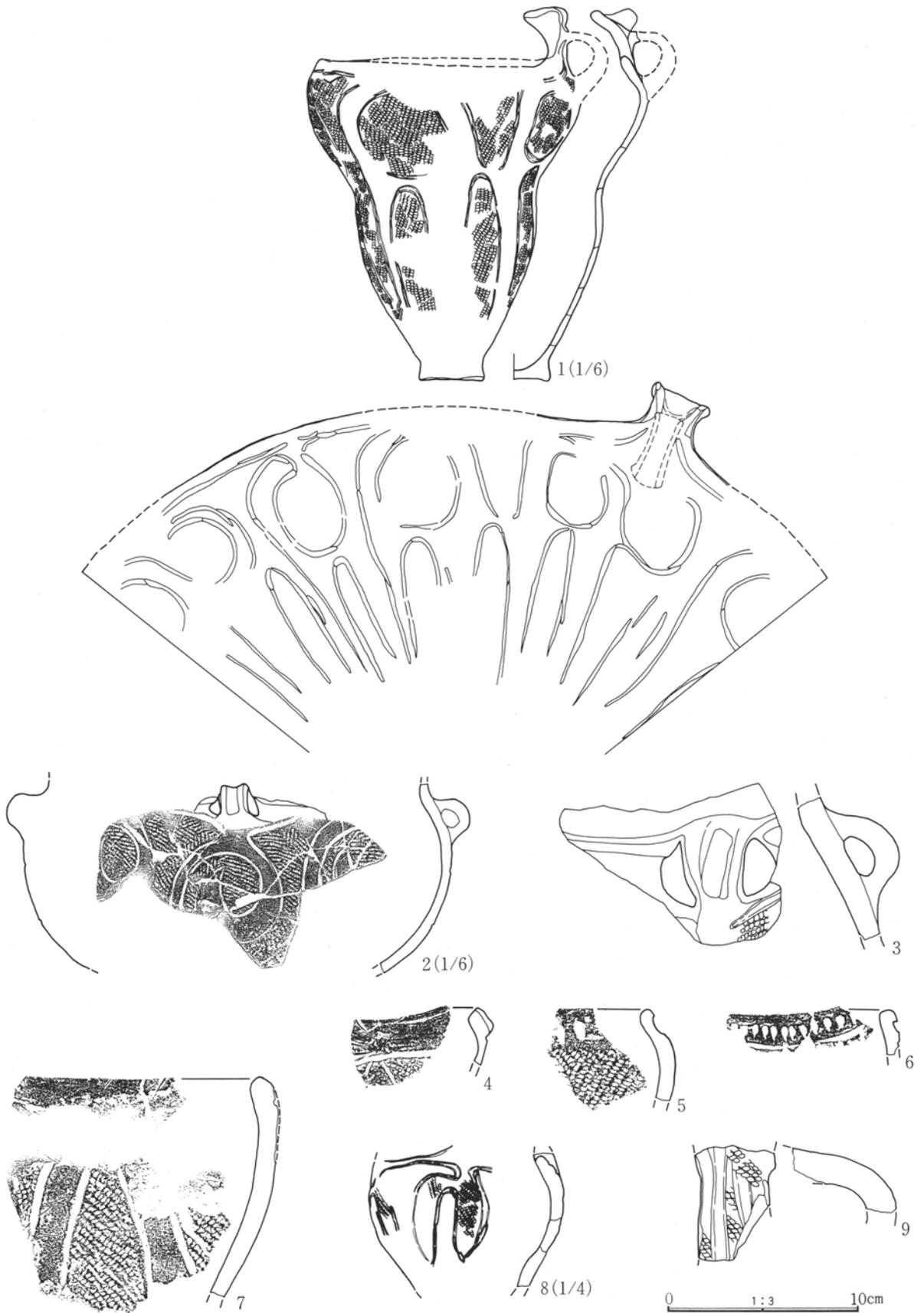


0 1:250 10m

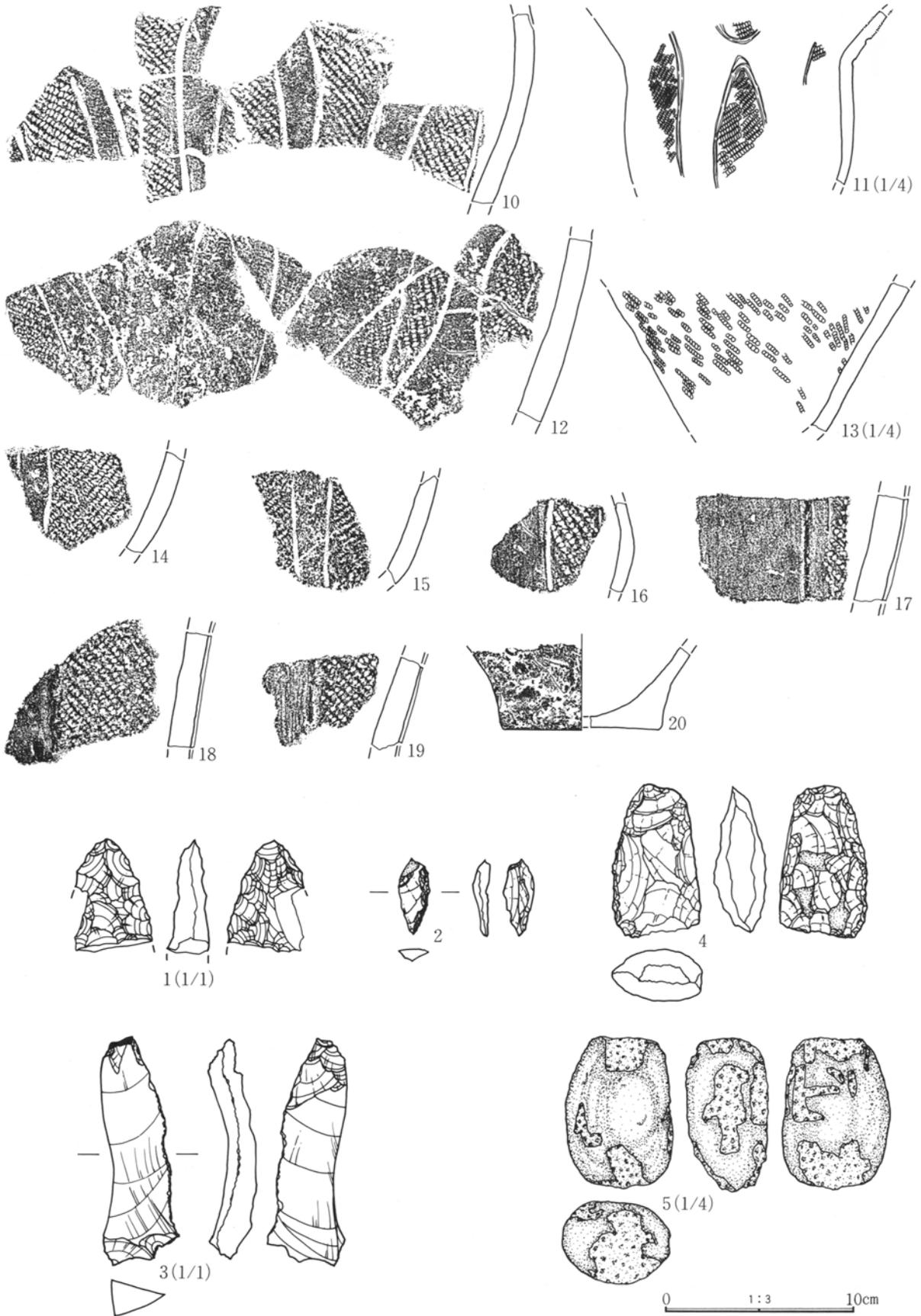
第1節 縄文時代 1. 住居 13号住居



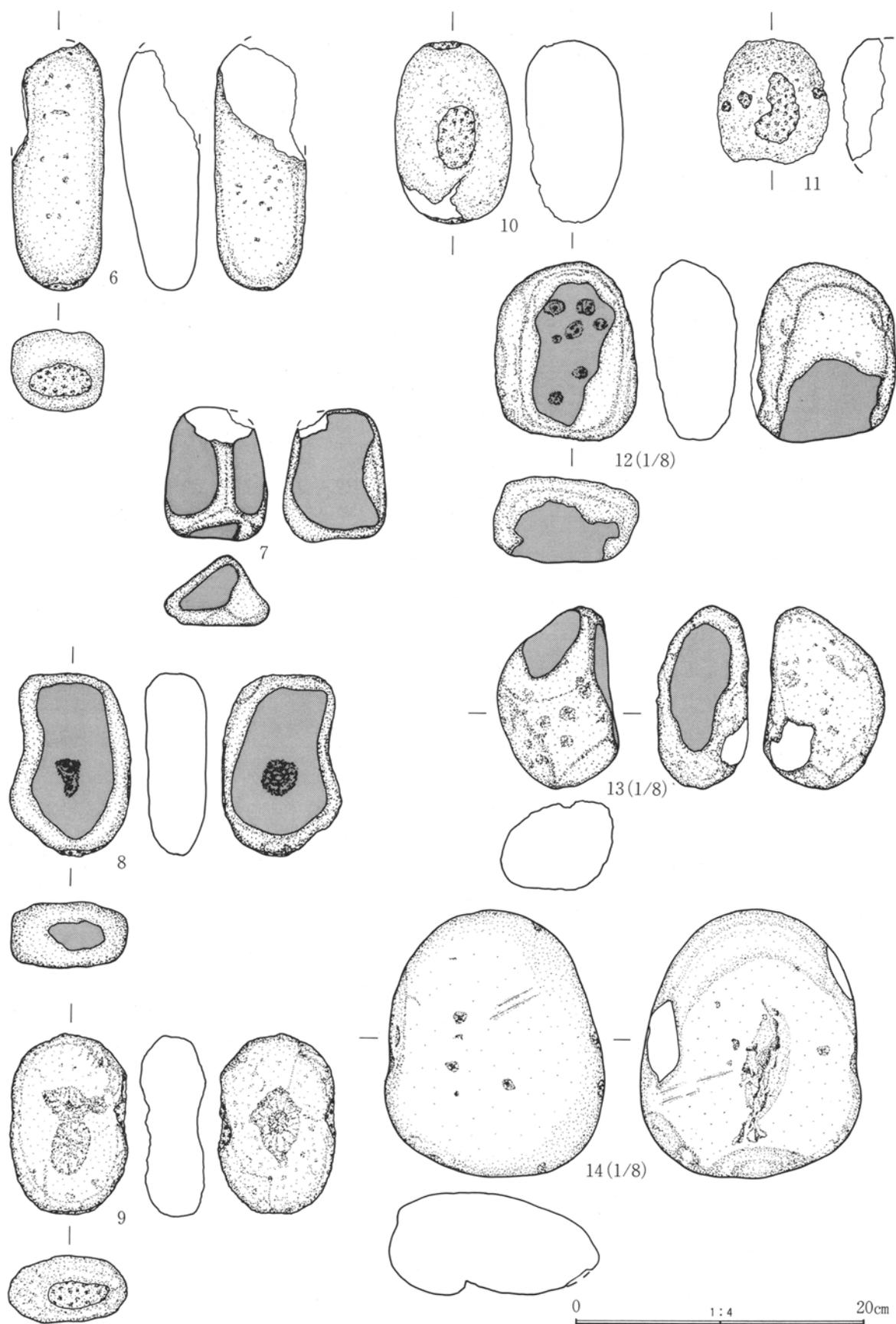
第8図 13号住居



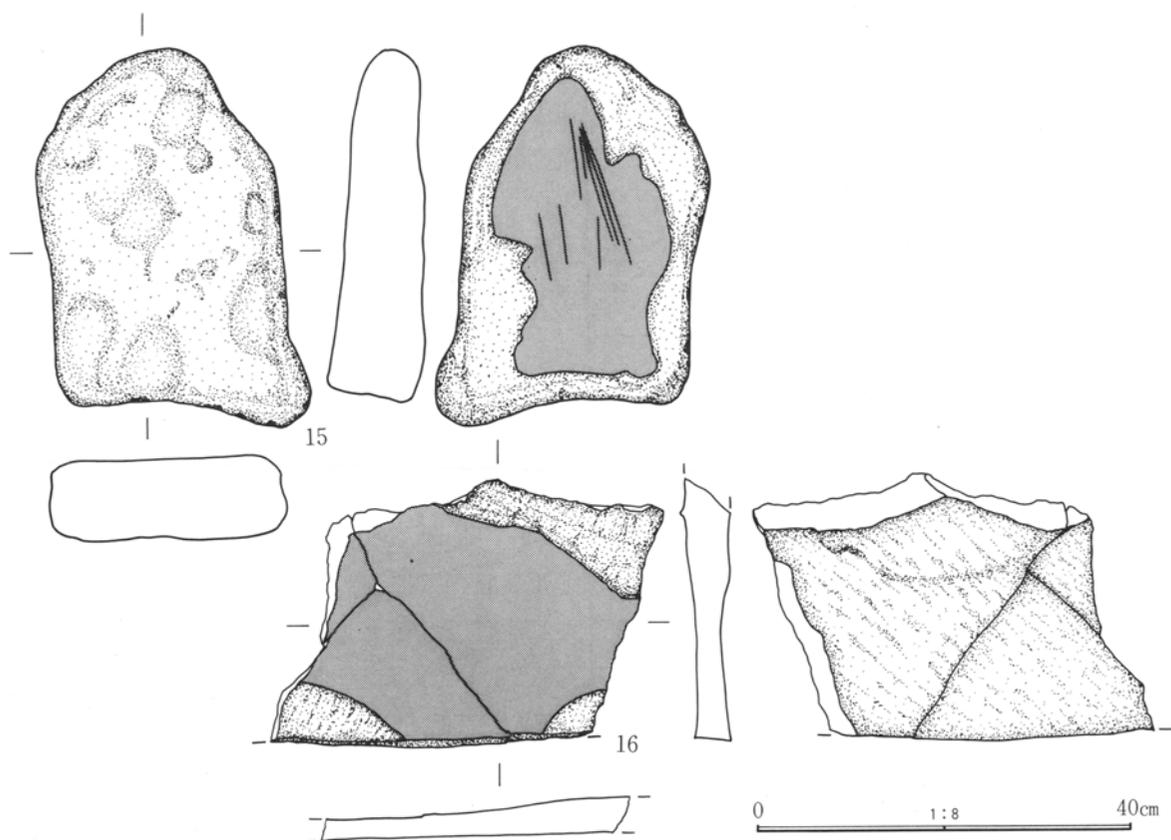
第9図 13号住居出土遺物(1)



第10図 13号住居出土遺物 (2)



第11図 13号住居出土遺物(3)



第12図 13号住居出土遺物 (4)

13号住居

88区O-18グリッドを中心に位置する。同時期の第23号住居は西23mにある。

平面形は、南北に主軸をもつ柄鏡形を呈すると思われる。主軸の残存長は5mで、主体部は直径4.1m、張出部幅2mを推測する。主軸の方向はN-15°-Eである。

本住居は、敷石面まで中近世遺構がおよんでいたことと、黒色土中構築のため、周壁・柱穴等確認されなかった。このことから奥壁部や炉辺部の敷石及び東側にある角柱状の礫と張出部の礫・埋甕により確認した。礫は地形にそって南東方向に散漫している。

主体部は、炉辺部及び奥壁部で良好な敷石状態を示す。敷石には30cm~50cm程の板状割石と安山岩割石・扁平な河原石を用いて構築されている。周礫等は検出されなかったが、東端の長さ40cm、幅16cm程の角柱状の礫が東壁の一部となると考える。

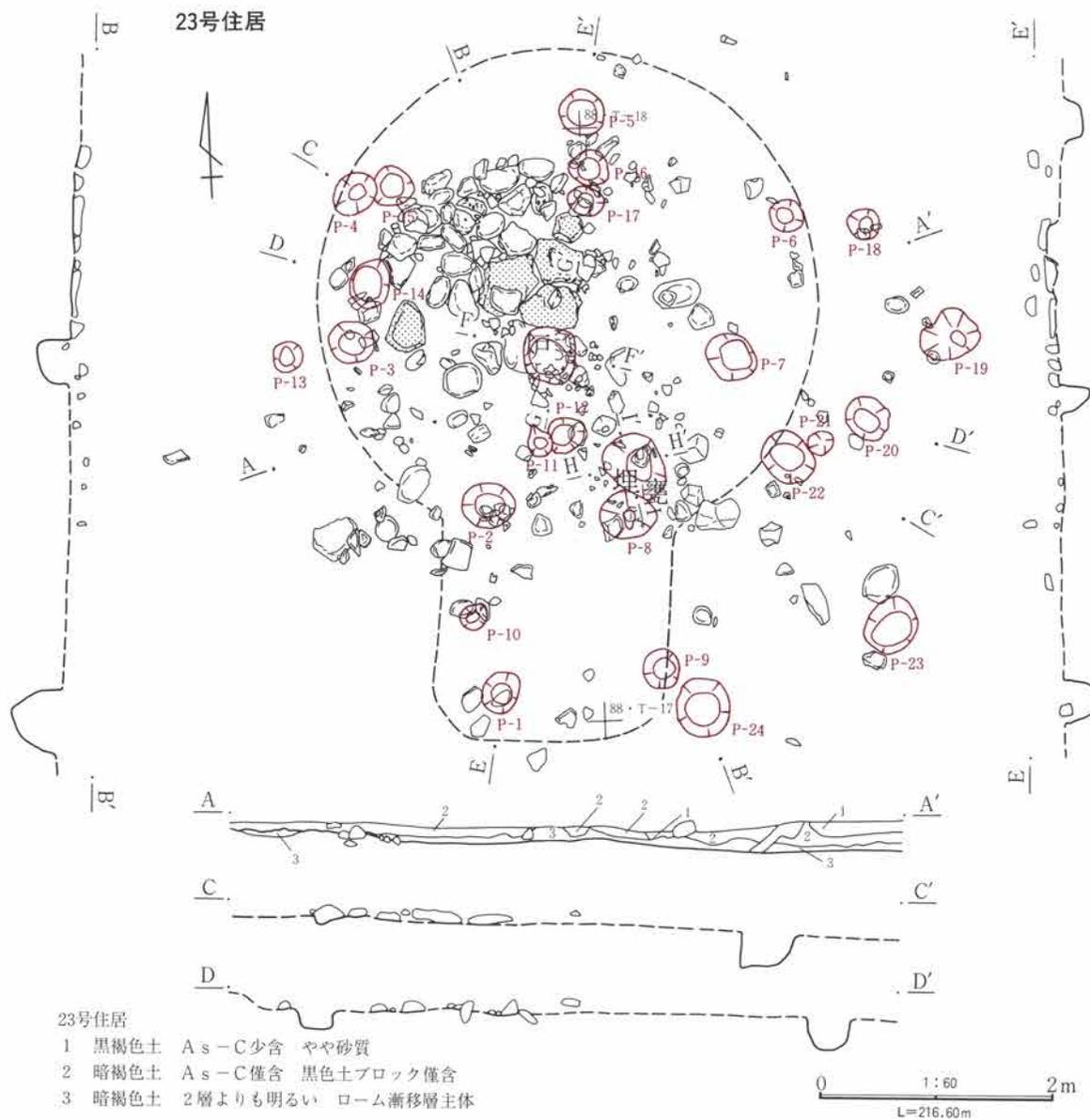
炉跡は、主体部中央やや南よりに位置し、敷石に囲まれた方形を呈する。東西40cm、南北50cm、深さ10cmである。

張出部接続部には、埋甕1個のみで、他の施設は検出されなかった。

張出部は、東側壁が良好に残存する。接続部から長軸60cm、幅25cm、深さ45cm程の礫が主軸方向に立てるように構築される。

埋甕(第9図1)は、接続部東側に検出した。掘り込みは黒色土中の構築のため、検出に努めたが確認できなかった。上面には蓋石され、正位の状態で、南東に傾いて出土した。

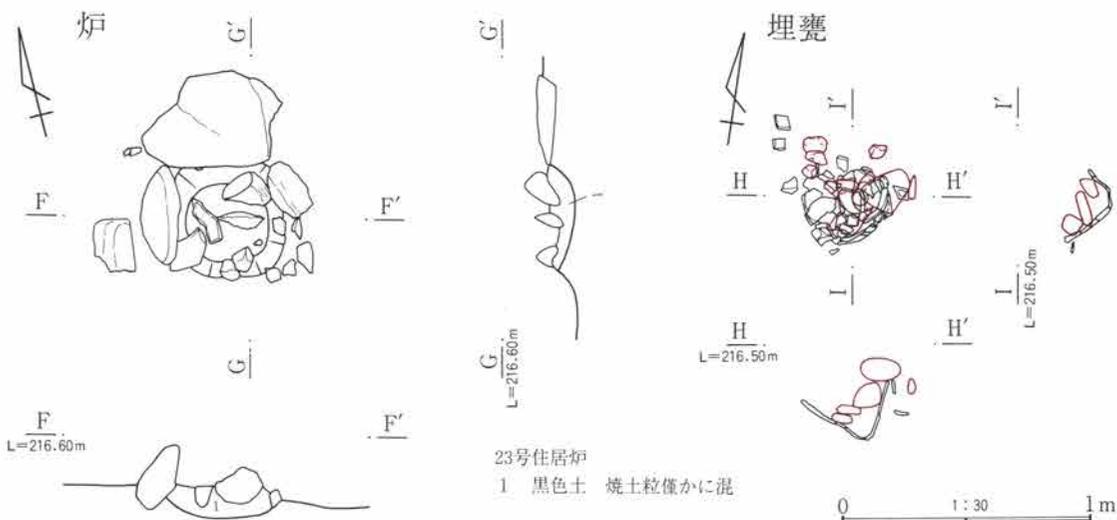
その他の遺物は、敷石面で出土している。



23号住居

- 1 黒褐色土 A s-C少含 やや砂質
- 2 暗褐色土 A s-C僅含 黒色土ブロック僅含
- 3 暗褐色土 2層よりも明るい ローム漸移層主体

0 1:60 2m
L=216.60m



23号住居炉

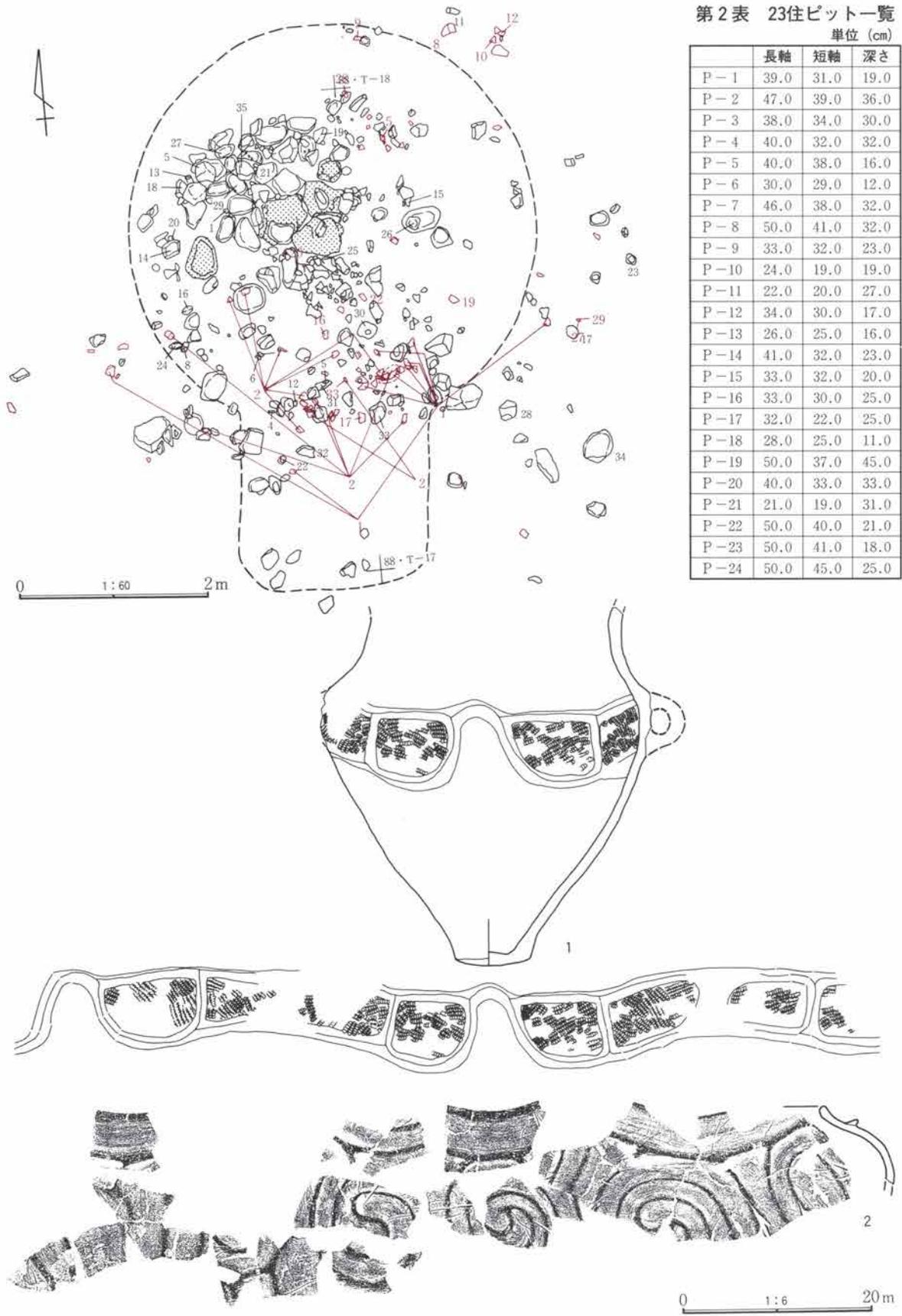
- 1 黒色土 焼土粒僅かに混

0 1:30 1m

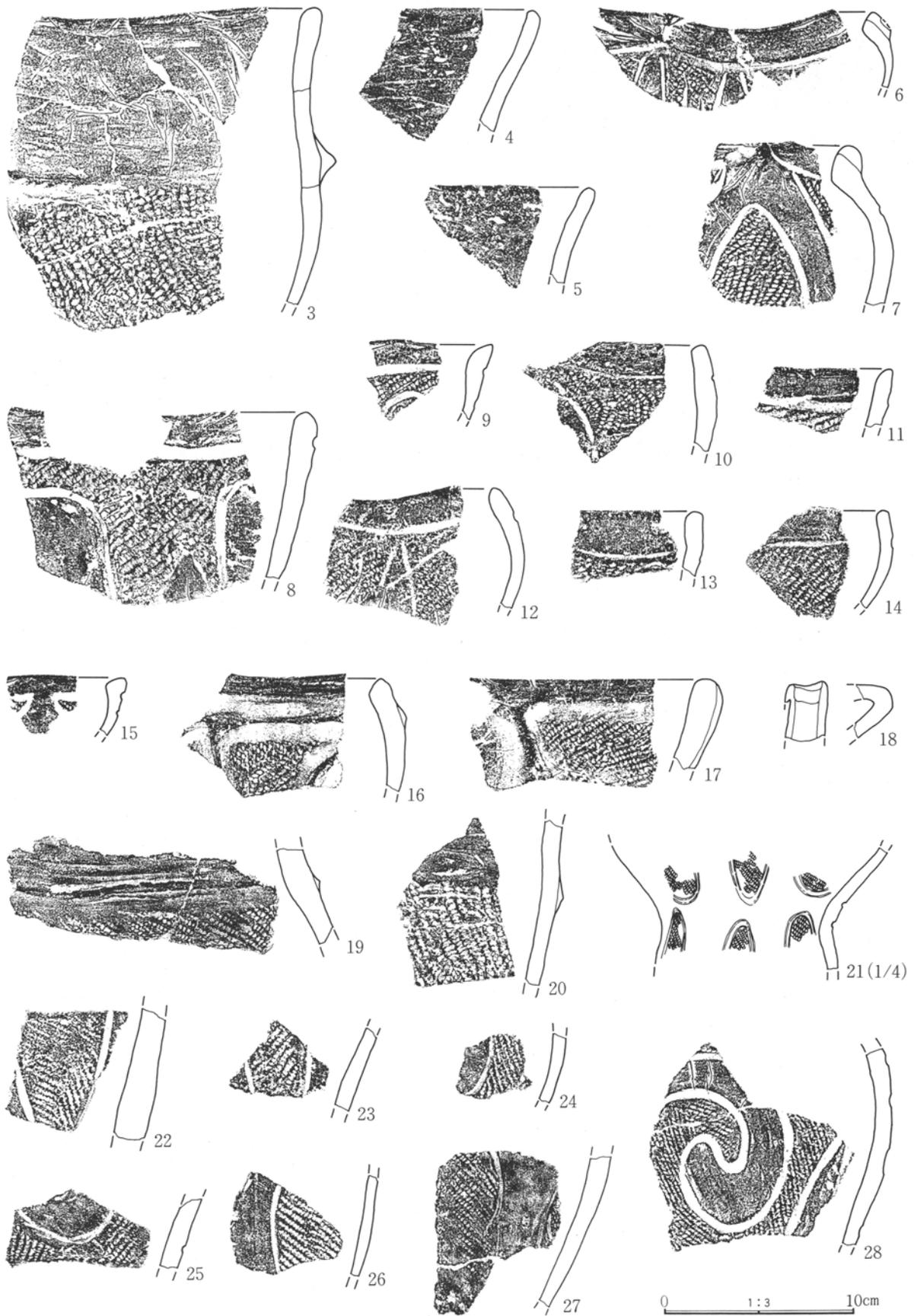
第13図 23号住居

第2表 23住ピット一覧
単位 (cm)

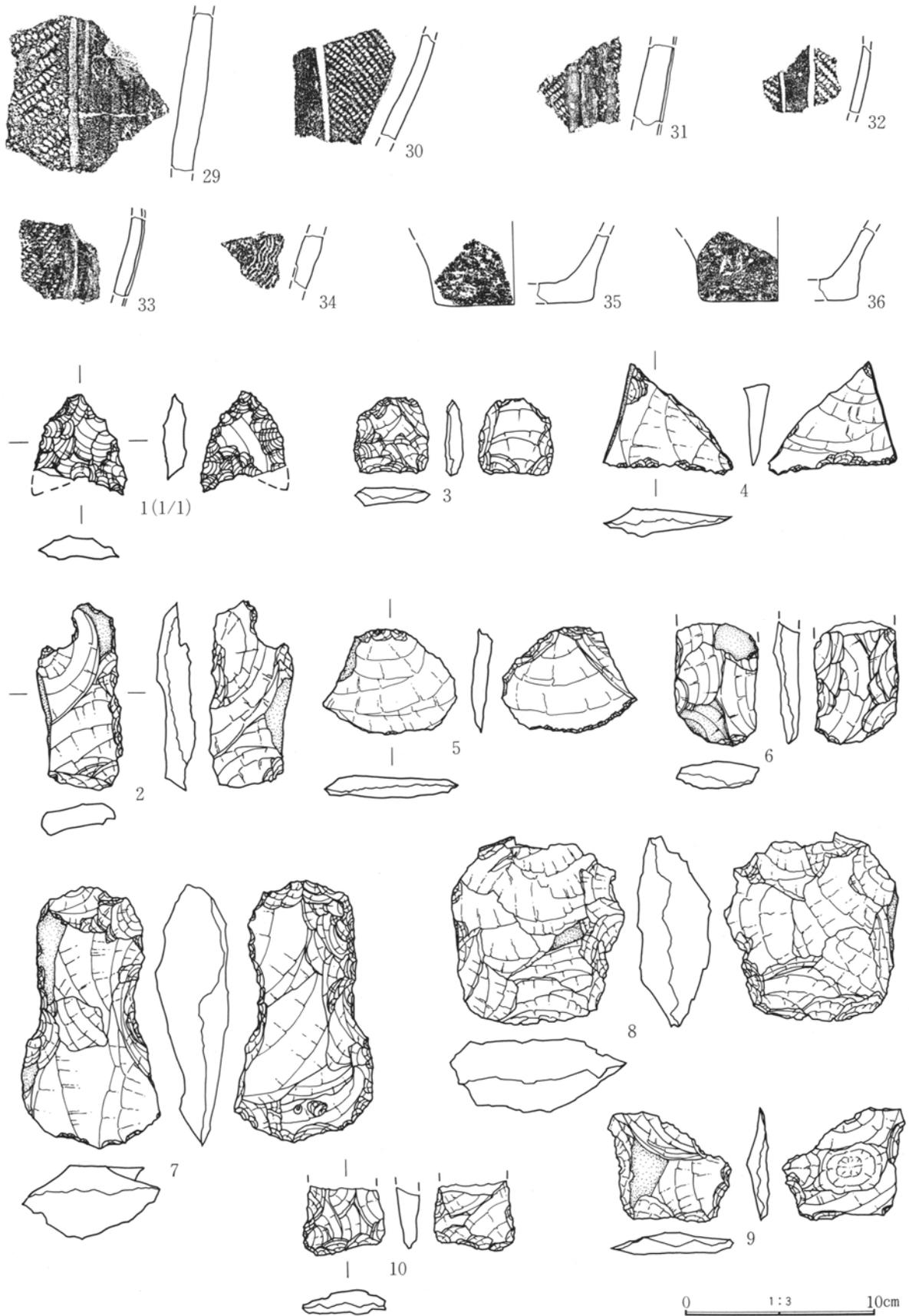
	長軸	短軸	深さ
P-1	39.0	31.0	19.0
P-2	47.0	39.0	36.0
P-3	38.0	34.0	30.0
P-4	40.0	32.0	32.0
P-5	40.0	38.0	16.0
P-6	30.0	29.0	12.0
P-7	46.0	38.0	32.0
P-8	50.0	41.0	32.0
P-9	33.0	32.0	23.0
P-10	24.0	19.0	19.0
P-11	22.0	20.0	27.0
P-12	34.0	30.0	17.0
P-13	26.0	25.0	16.0
P-14	41.0	32.0	23.0
P-15	33.0	32.0	20.0
P-16	33.0	30.0	25.0
P-17	32.0	22.0	25.0
P-18	28.0	25.0	11.0
P-19	50.0	37.0	45.0
P-20	40.0	33.0	33.0
P-21	21.0	19.0	31.0
P-22	50.0	40.0	21.0
P-23	50.0	41.0	18.0
P-24	50.0	45.0	25.0



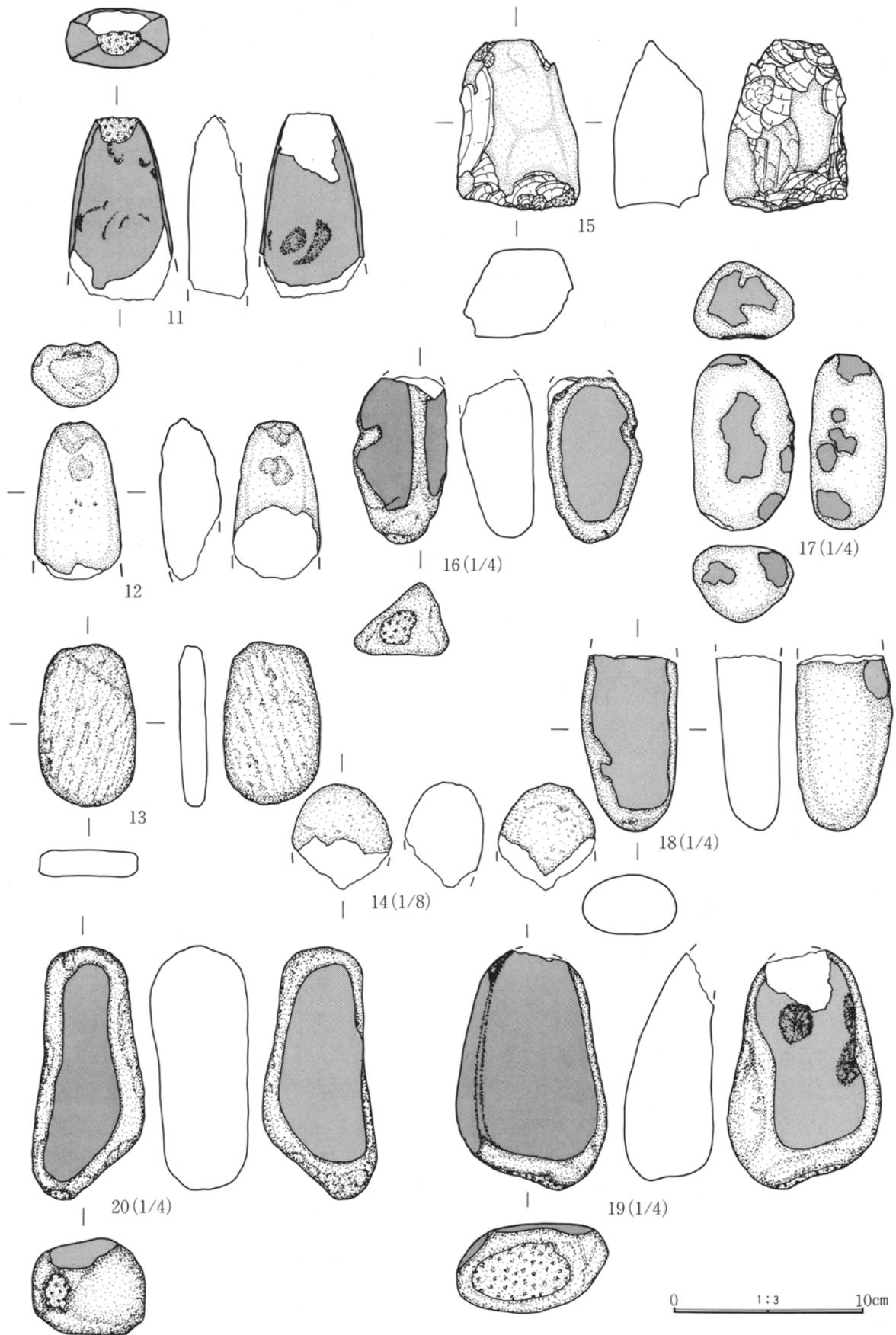
第14図 23号住居・出土遺物 (1)



第15図 23号住居出土遺物 (2)



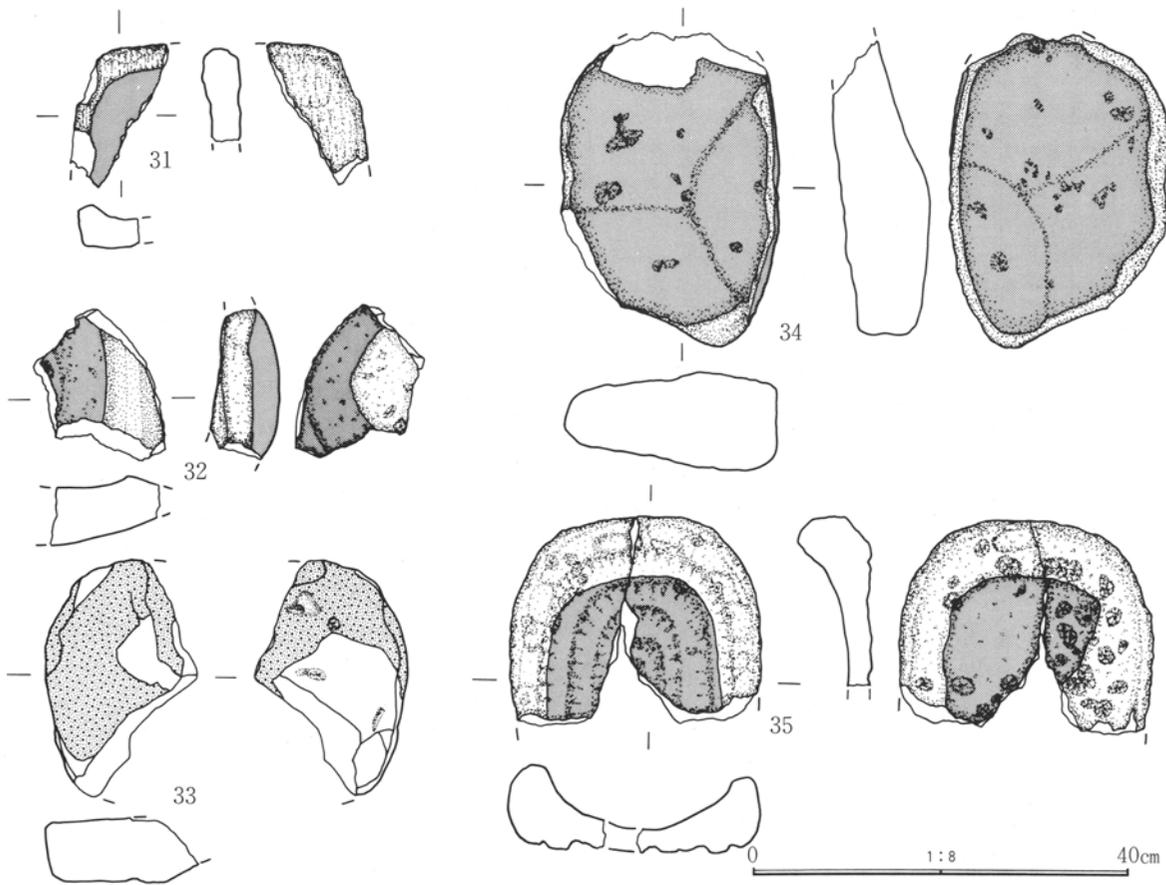
第16図 23号住居出土遺物 (3)



第17図 23号住居出土遺物 (4)



第18図 23号住居出土遺物 (5)



第19図 23号住居出土遺物 (6)

23号住居

88区T-17グリッドを中心に位置する。同時期の13号住居は東23mにある。また、西10m程には土坑及び遺物集中地点がある。

平面形は、南北に主軸をもつ柄鏡形を呈すると思われる。主軸の長さは5.85mで、主体部は直径4.3m、張出部幅2mを推測する。主軸の方向はN-5°-Eである。

本住居は、周壁は確認されなかったが、柱穴と奥壁部や炉辺部の敷石・埋甕により確認された。

主体部は、炉辺部及び左奥壁部で良好な敷石状態を示す。敷石には30cm~50cm程の板状割石と扁平な河原石を用いて構築されている。

柱穴は、24本検出したが、本住居に伴うものとして主体部で7本、張出部で2本が確認された。P-5を奥ピットとして、対ピットとなるのはP-4と6、3と7、2と8で、張出部1と9である。

炉跡は、主体部中央やや南よりに位置する石囲炉である。規模は東西40cm、南北40cmである。

張出部接続部には、埋甕1個のみで、他の施設は検出されなかった。張出部の礫の残存は散漫である。

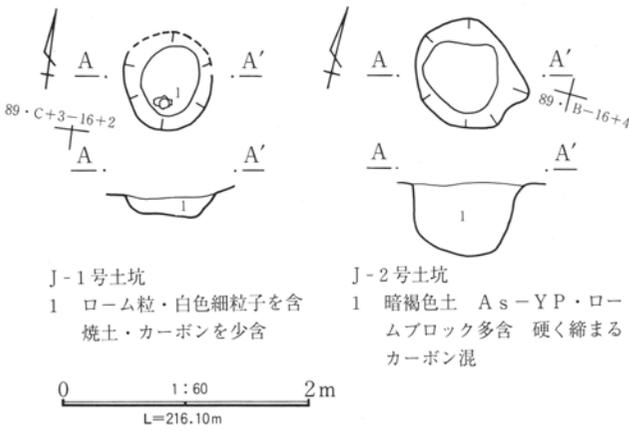
埋甕(第14図1)は、接続部東側に検出した。掘り込みは黒色土中の構築のため検出に努めたが確認できなかった。上面の蓋石が正位の状態で見つかった。掘り込みは黒色土中の構築のため検出に努めたが確認できなかった。上面の蓋石が正位の状態で見つかった。掘り込みは黒色土中の構築のため検出に努めたが確認できなかった。上面の蓋石が正位の状態で見つかった。

その他の遺物は、敷石面で出土している。

2. 土坑・埋甕



第20図 J-1・2号土坑周辺



第21図 J-1・2号土坑

J-1・2号土坑周辺

89区B-15グリッドから89区B-16グリッドにかけて縄文土器が集中的に出土した。

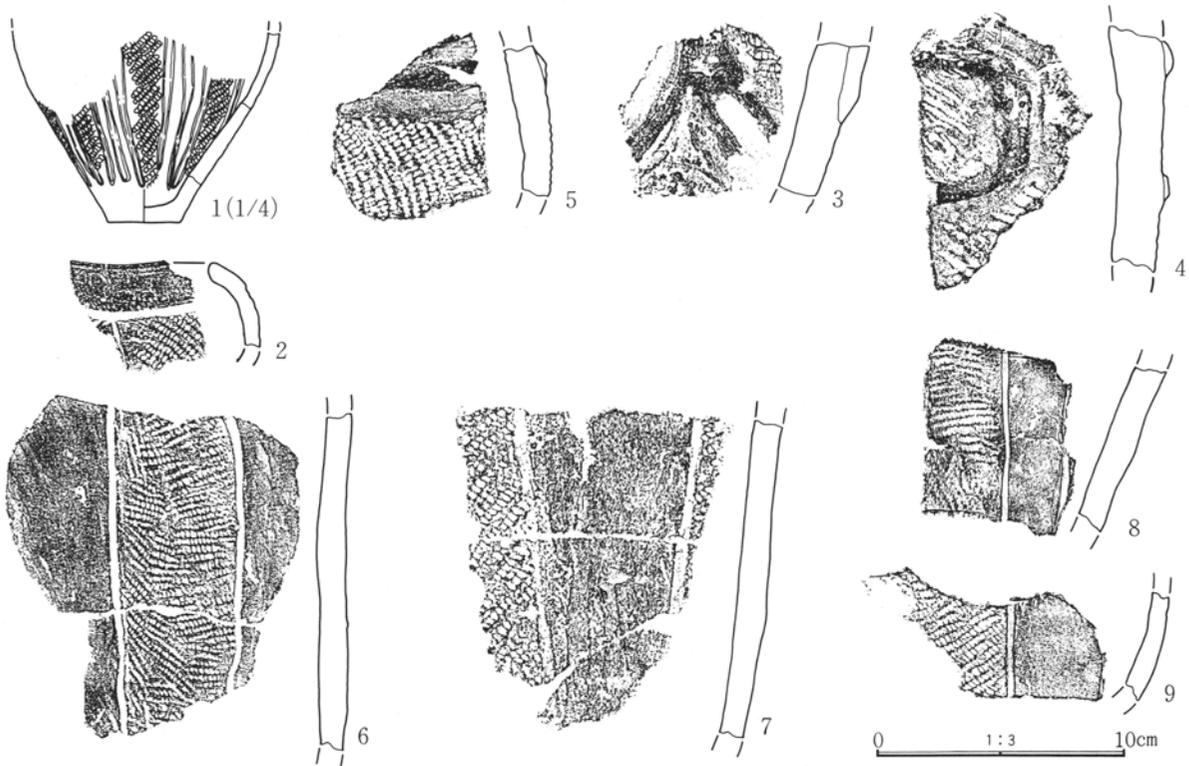
本地点は、東10m以東にある13・23号住居の居住域からやや西南方向に傾斜する地点の平坦面である。

遺物は、黒色土中に包含されていた。この遺物包含層である黒色土に僅かに焼土粒や炭化粒が見られたことから精査を繰り返した。しかし、遺構としては遺物取り上げ後に検出した土坑2基のみである。

第20図に遺物分布図を示した。平面的な分布としてはB-16グリッドからB-17グリッドが中心的である。垂直分布をD-17杭からB-17杭の17ライン南2.0m、幅10.0m間の範囲の遺物を投影した。遺物取り上げ後の遺構と重ね合わせて見ると、J-2号土坑上面・J-2号土坑西側礫集中地点及びJ-2号土坑北に集中し、標高216.1m～216.4mに分布している。

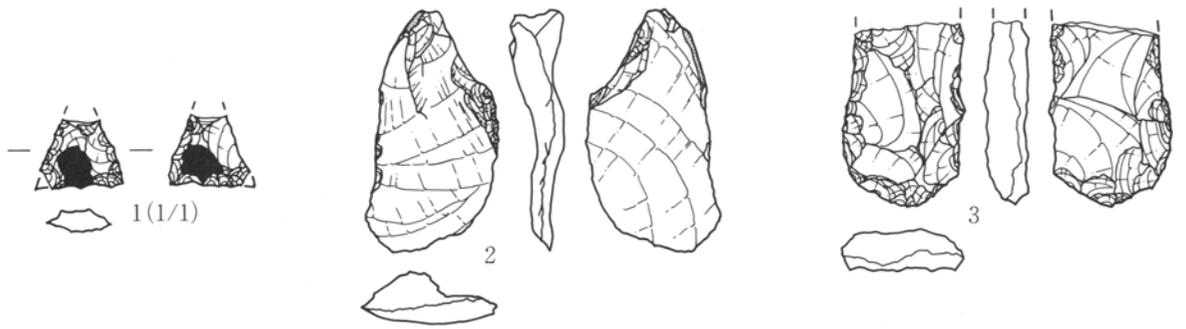
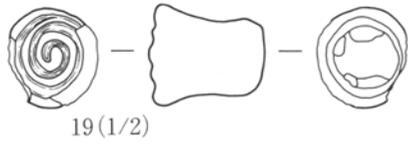
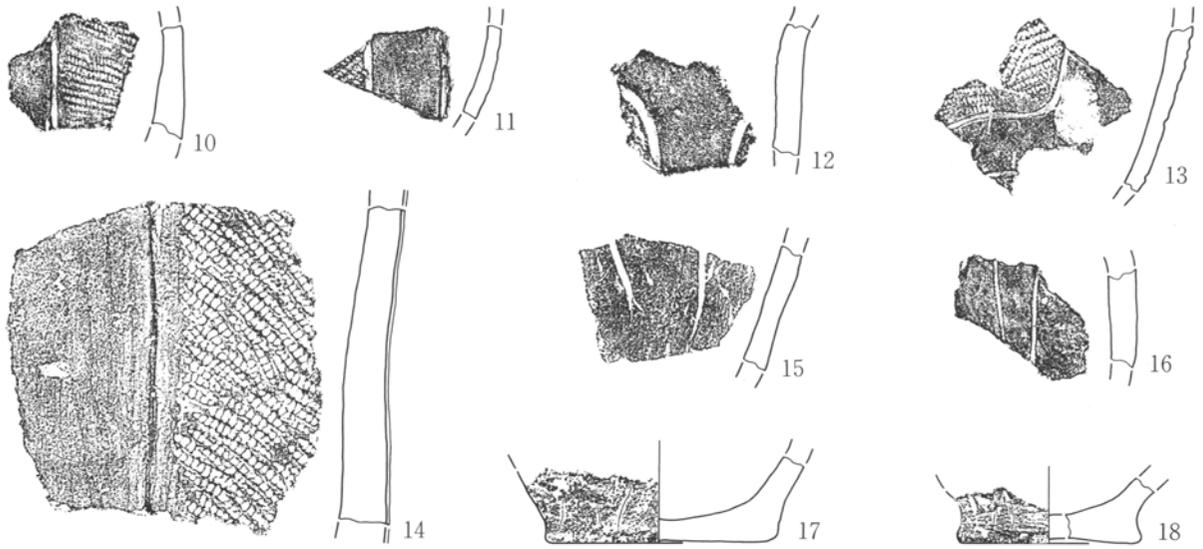
土器の出土状態は第24図1はB-17北に一括出土し、第24図2はJ-2号土坑上と西と近接して一括出土、第25図3の注口土器はJ-2号土坑北に出土した。

本地点は、東の地点が居住域と、やや傾斜した本地点に土坑群が設営されたものと考えられよう。出土した遺物は埋置されたものではなく、流入したものと考えられる。



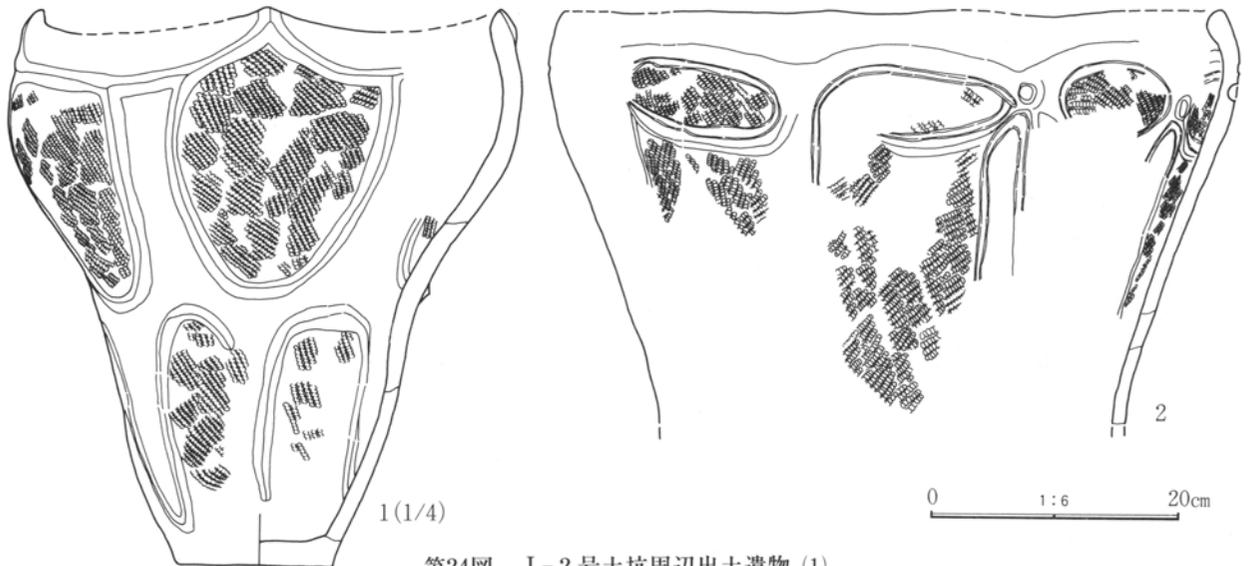
第22図 J-1号土坑周辺出土遺物 (1)

第IV章 検出された遺構と遺物



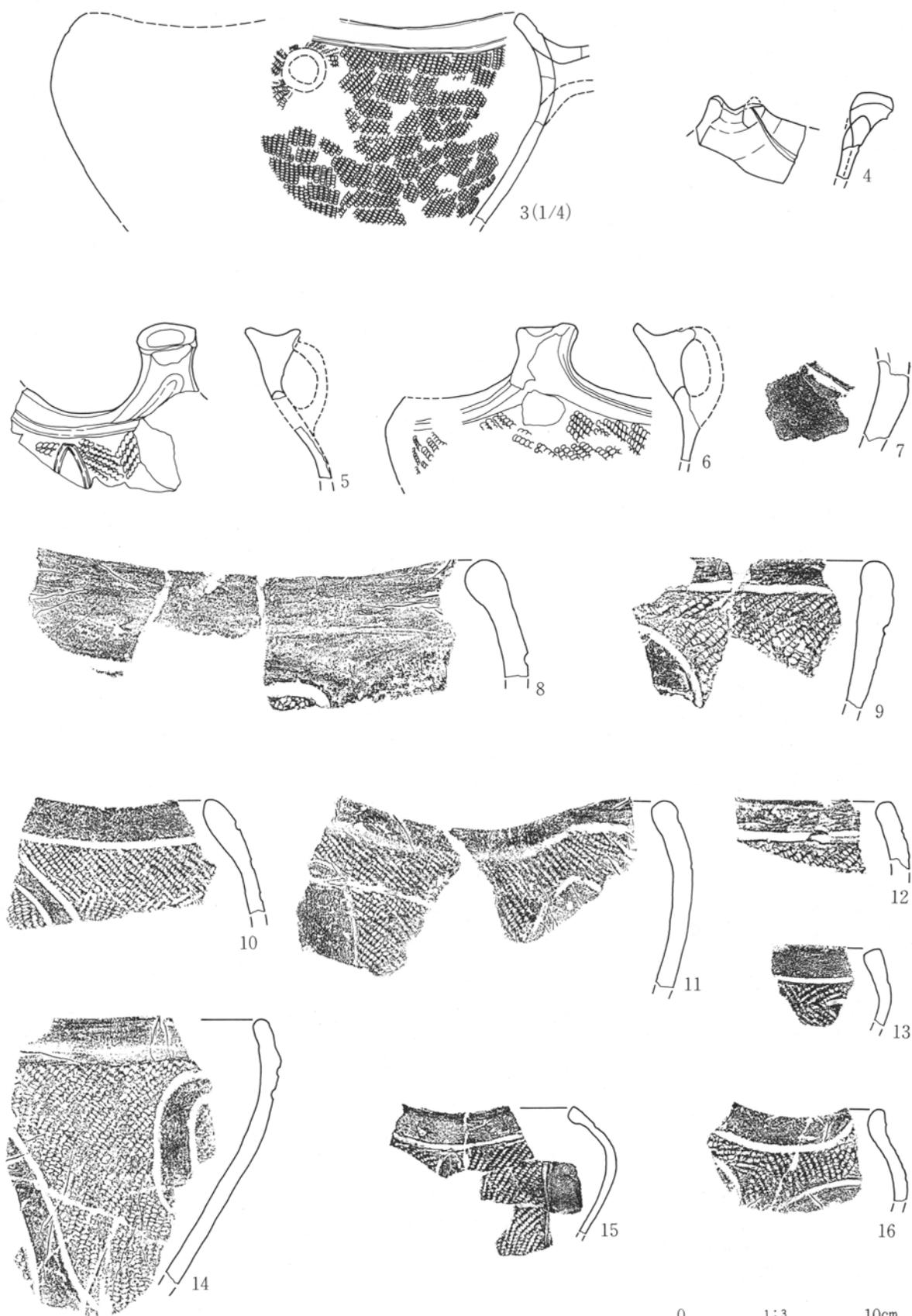
0 1:3 10cm

第23図 J-1号土坑周辺出土遺物(2)

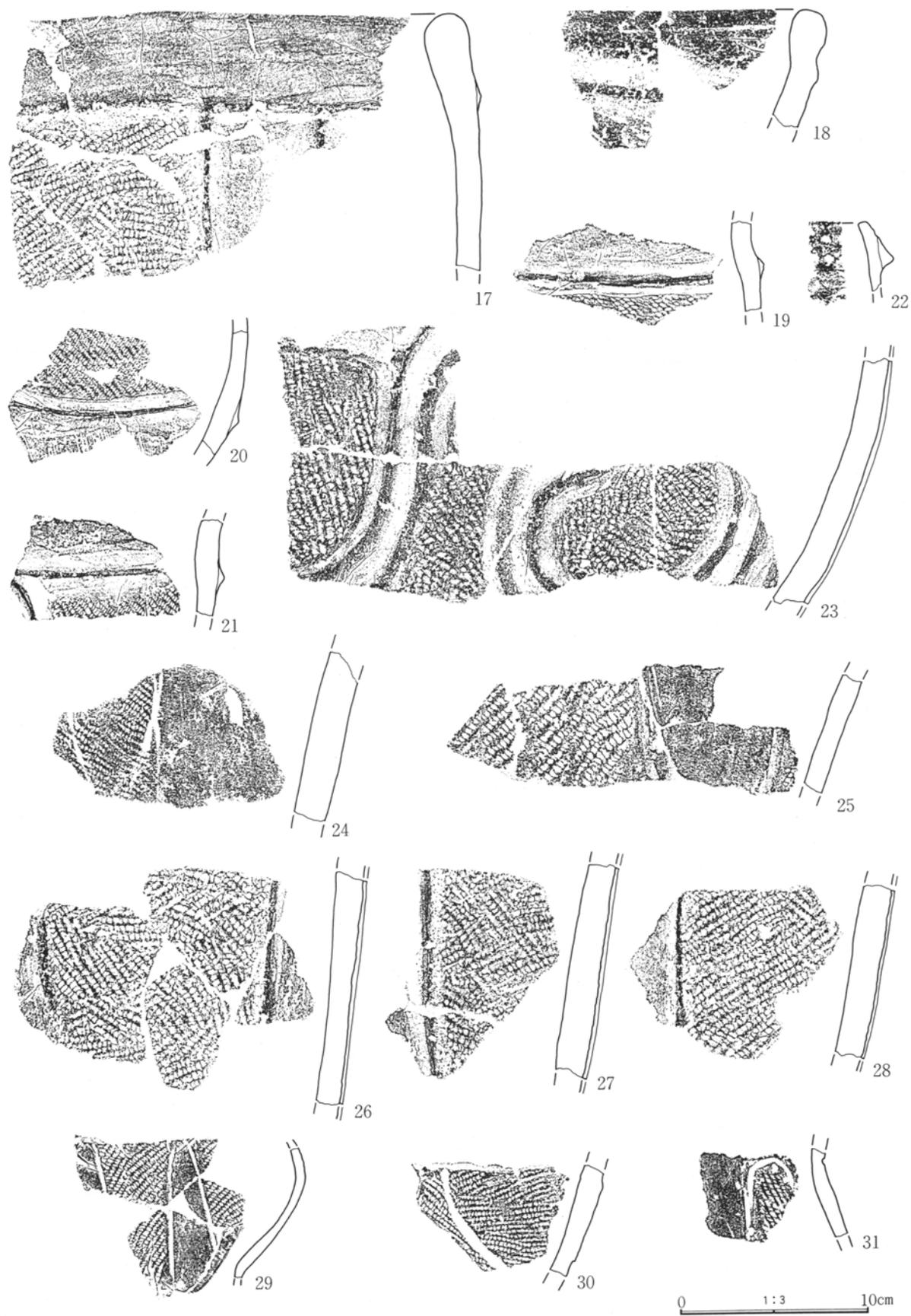


0 1:6 20cm

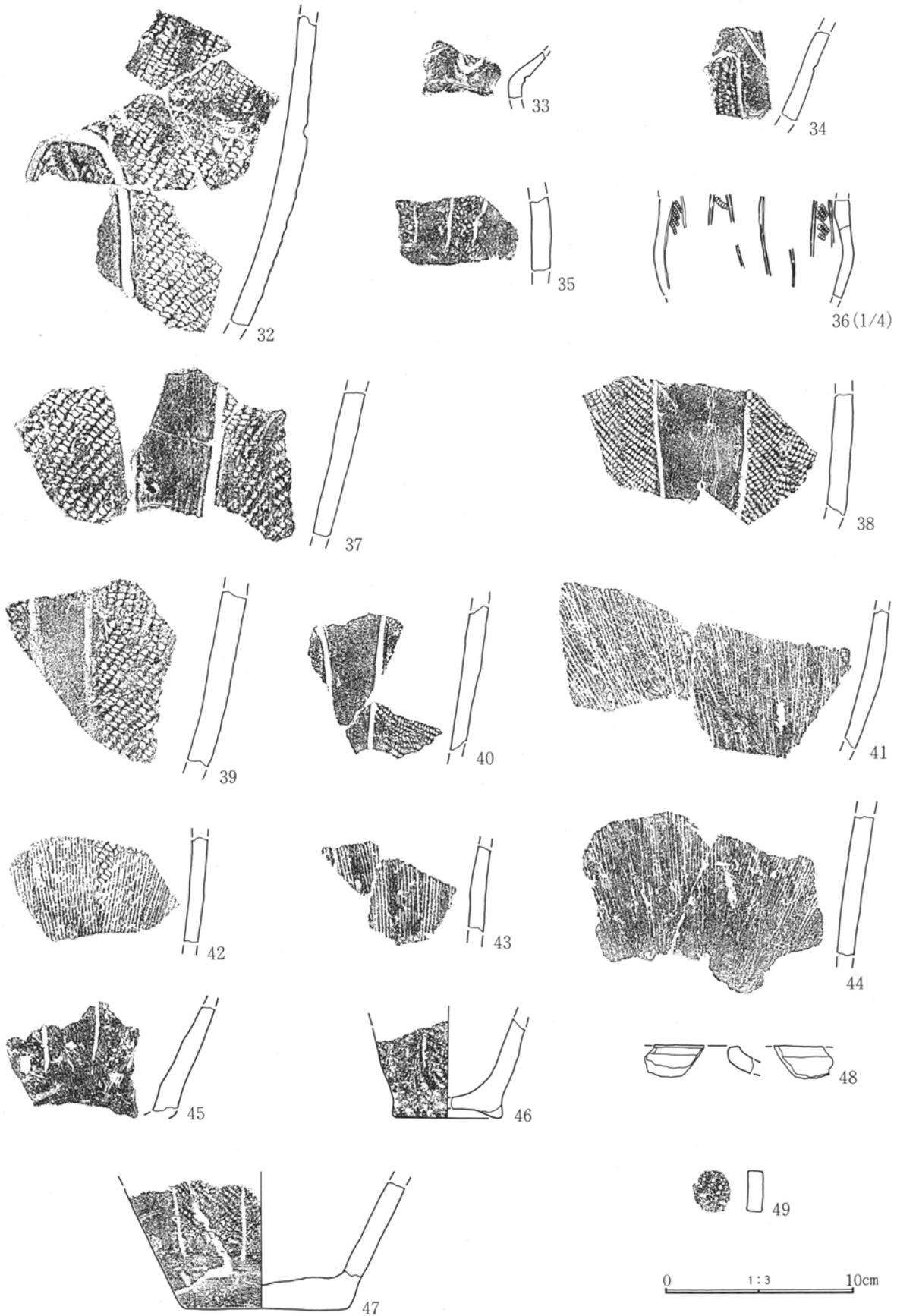
第24図 J-2号土坑周辺出土遺物(1)



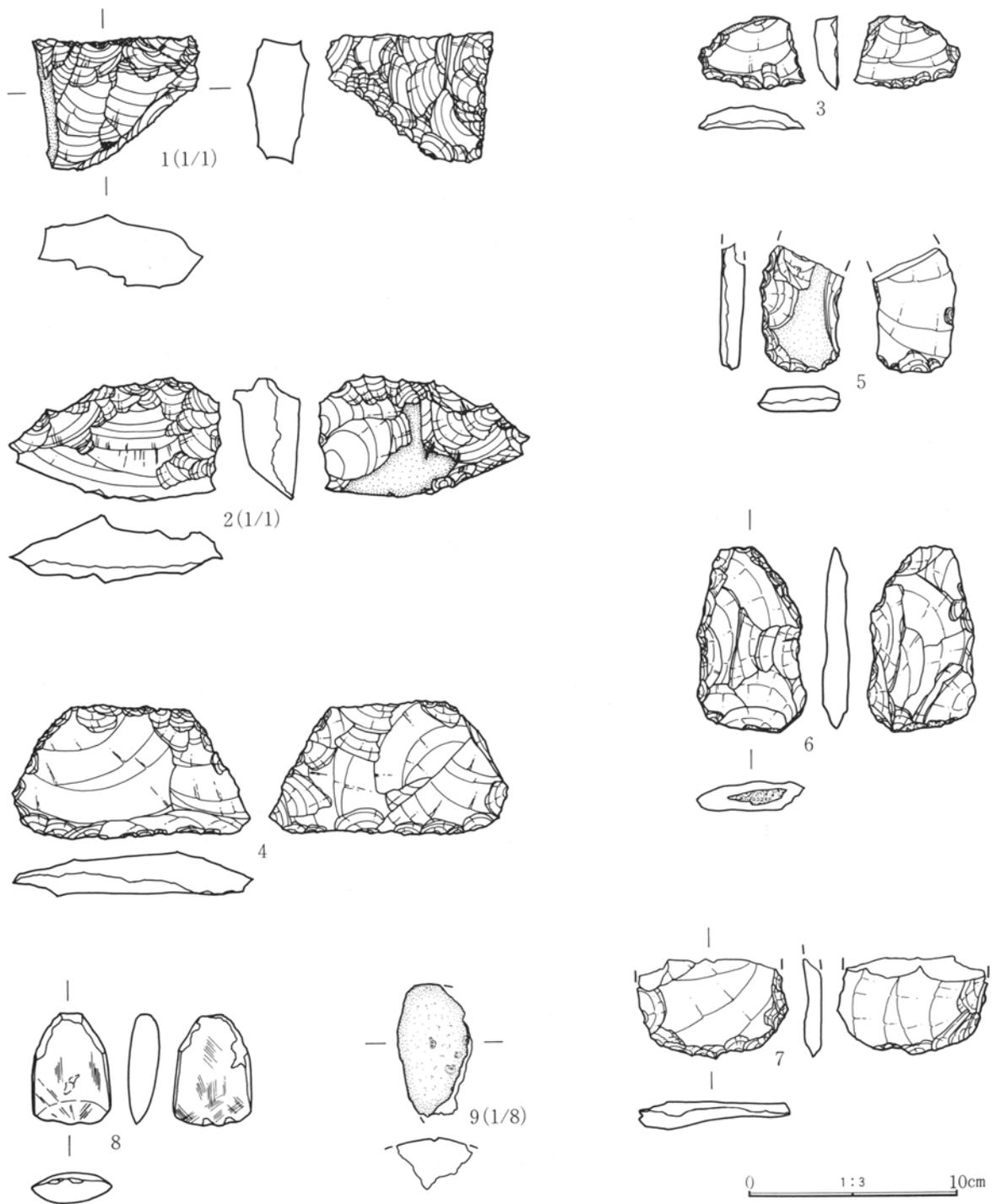
第25図 J-2号土坑周边出土遺物(2)



第26図 J-2号土坑周辺出土遺物(3)



第27図 J-2号土坑周辺出土遺物(4)



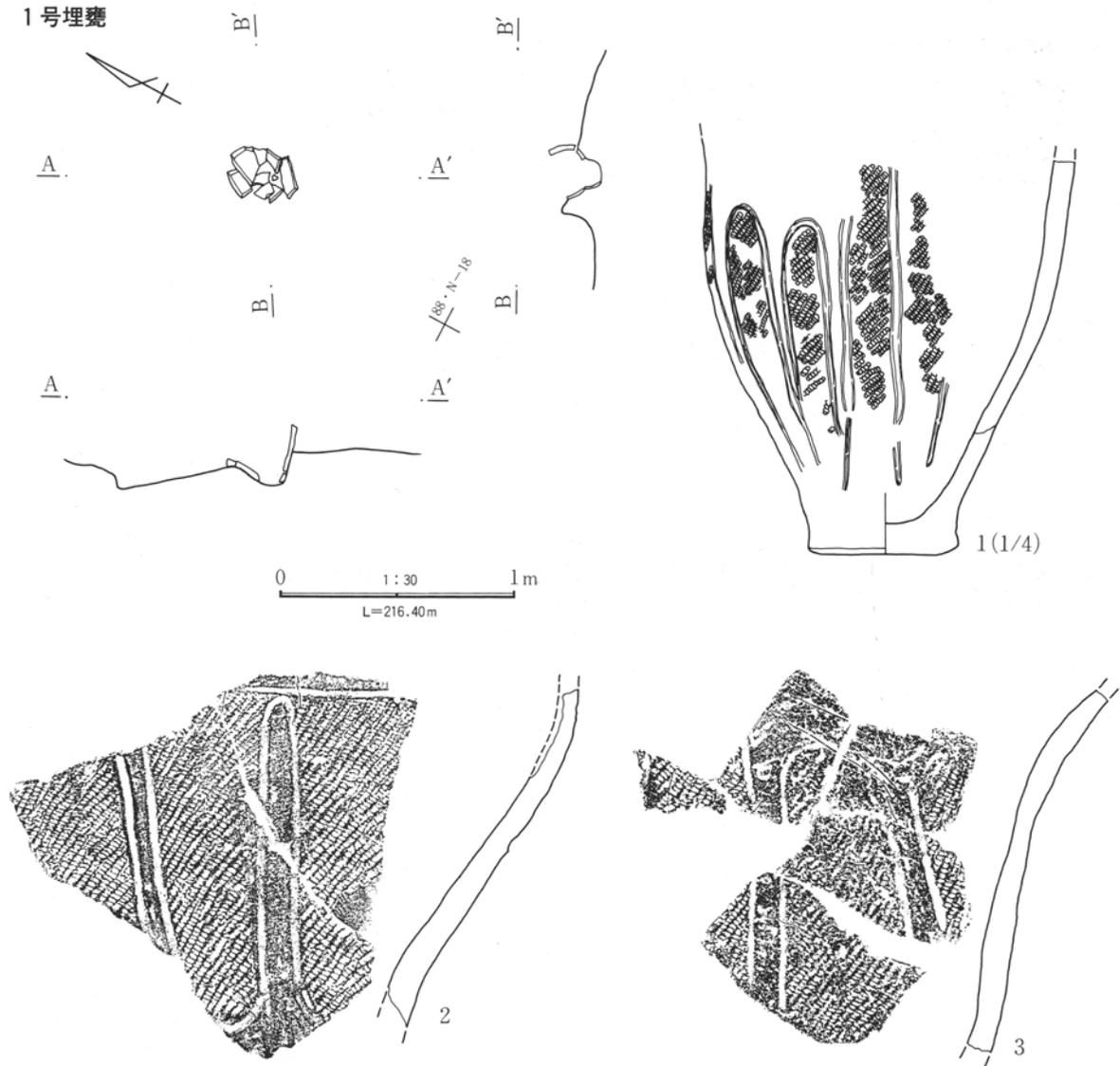
第28図 J-2号土坑周辺出土遺物 (5)

J-1号土坑及び周辺遺物

89区C-16グリッドに位置する。平面形は72cm×80cmのほぼ円形を呈する。壁面は緩やかで、底面は平坦である。土坑内より深鉢底部（第22図1）が出土した。

J-2号土坑及び周辺遺物

89区B-16グリッドに位置する。平面形は楕円形に近い不定形を示し、断面「U」字状を呈す。規模は長軸1m、短軸80cm、深さ58cmを測る。土坑内出土遺物は無い。



第29図 1号埋甕・出土遺物

1号埋甕

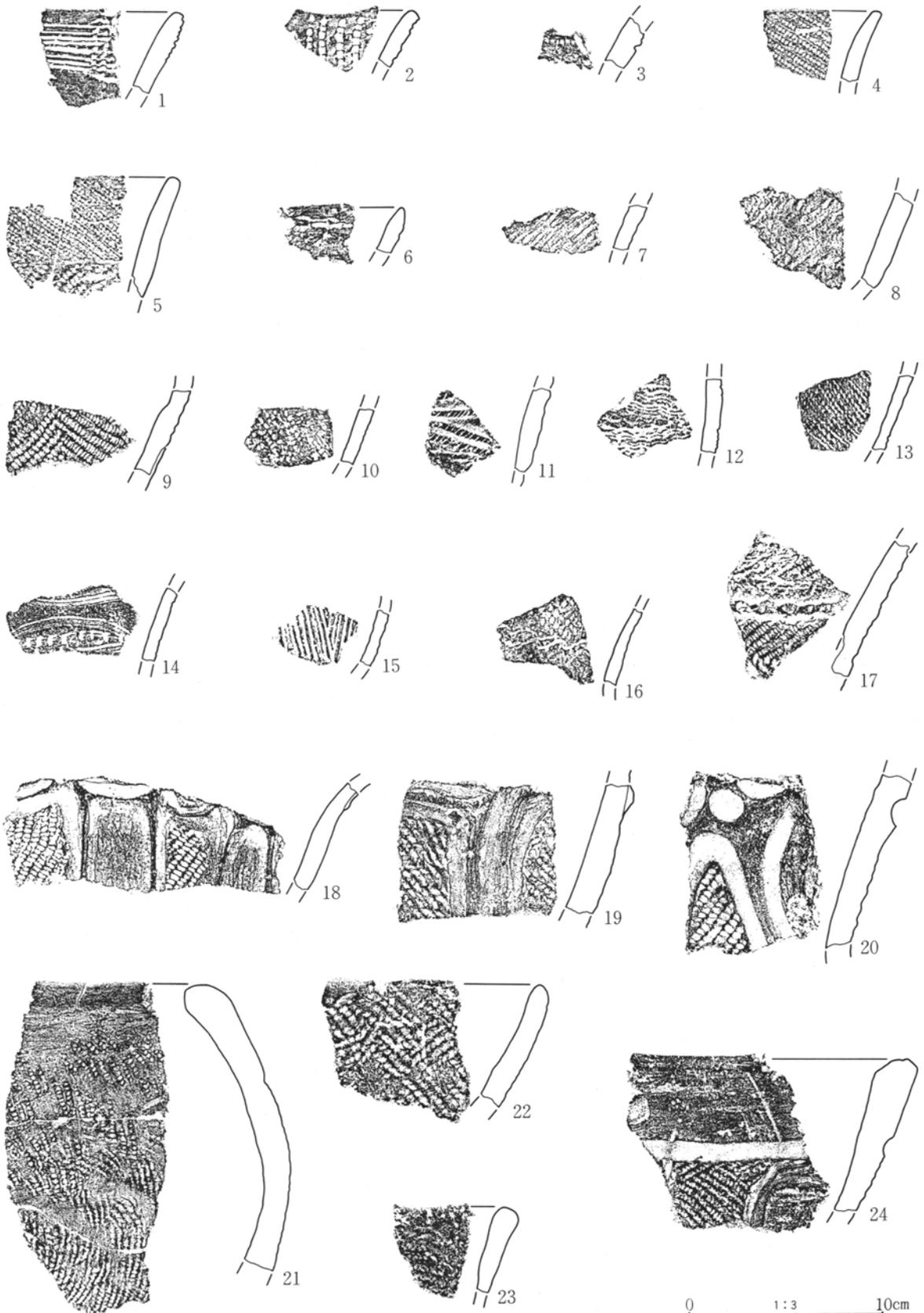
88区M-18グリッドに位置し、13号住居の東4mに単独で検出した。掘り込みは黑色土中の構築のため検出に努めたが確認されなかった。埋設されていた土器（第29図1）は、正位の状態で北西に傾いて出土した。埋甕内には磔等の埋納物は出土しなかった。

グリッド出土遺物

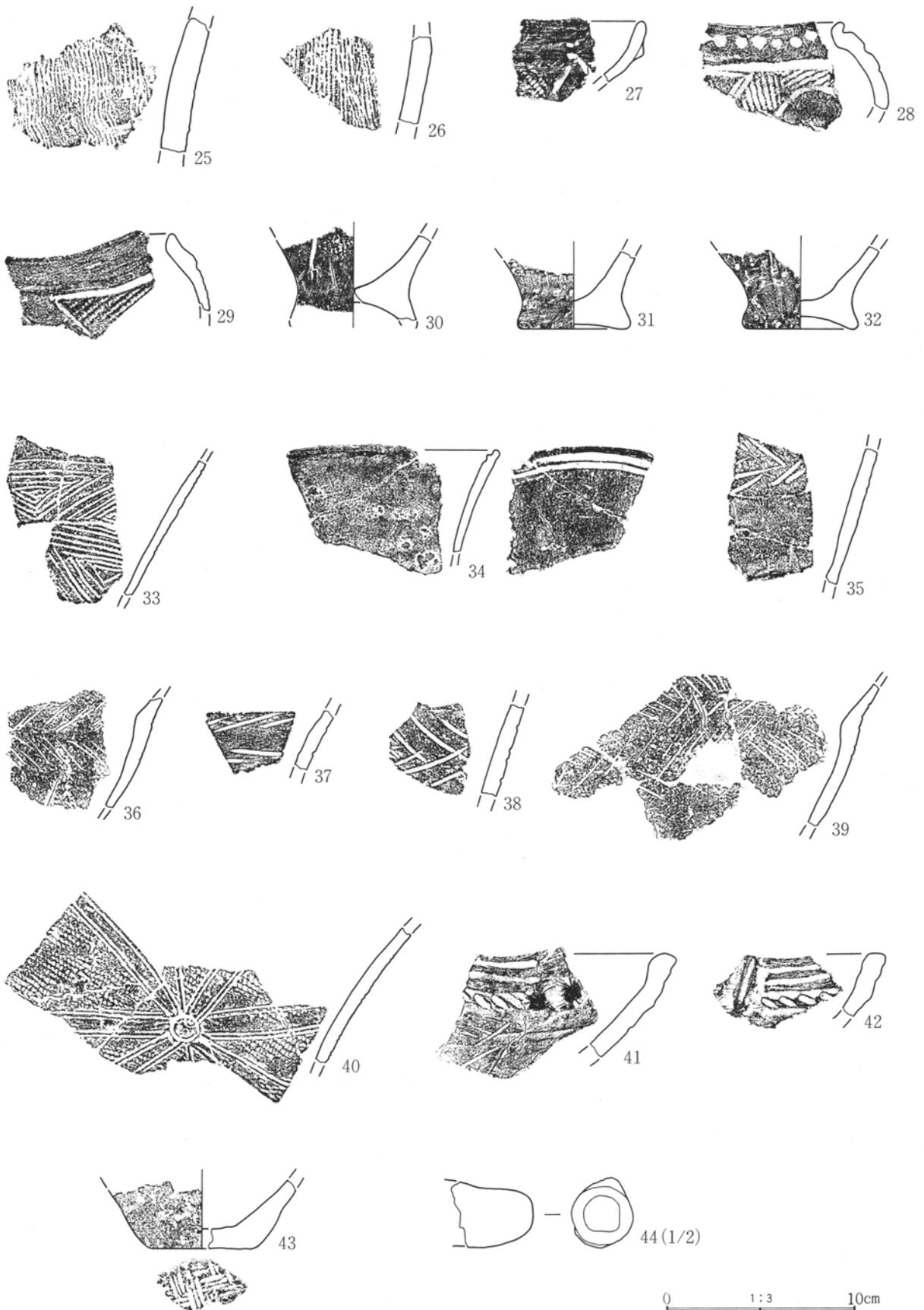
遺構確認時及び奈良・平安時代等の遺構埋土より縄文時代前期から後期にかけての土器が出土した。その主体は遺構の中心である加曾利EⅣ式～称名寺式が圧倒的に多い。そこで中期終末期～後期初頭期土器は多くの中から特徴的なものを図示した。

図示した土器は、1～3は前期初頭併行、4～10は繊維を含む前期、11～16は諸磯式を中心とする前期後半、17は中期中葉、18～32は加曾利E式～称名寺式の中期中後半から後期初頭、33～42は加曾利B式を中心とする後期である。なお、43は不明である。

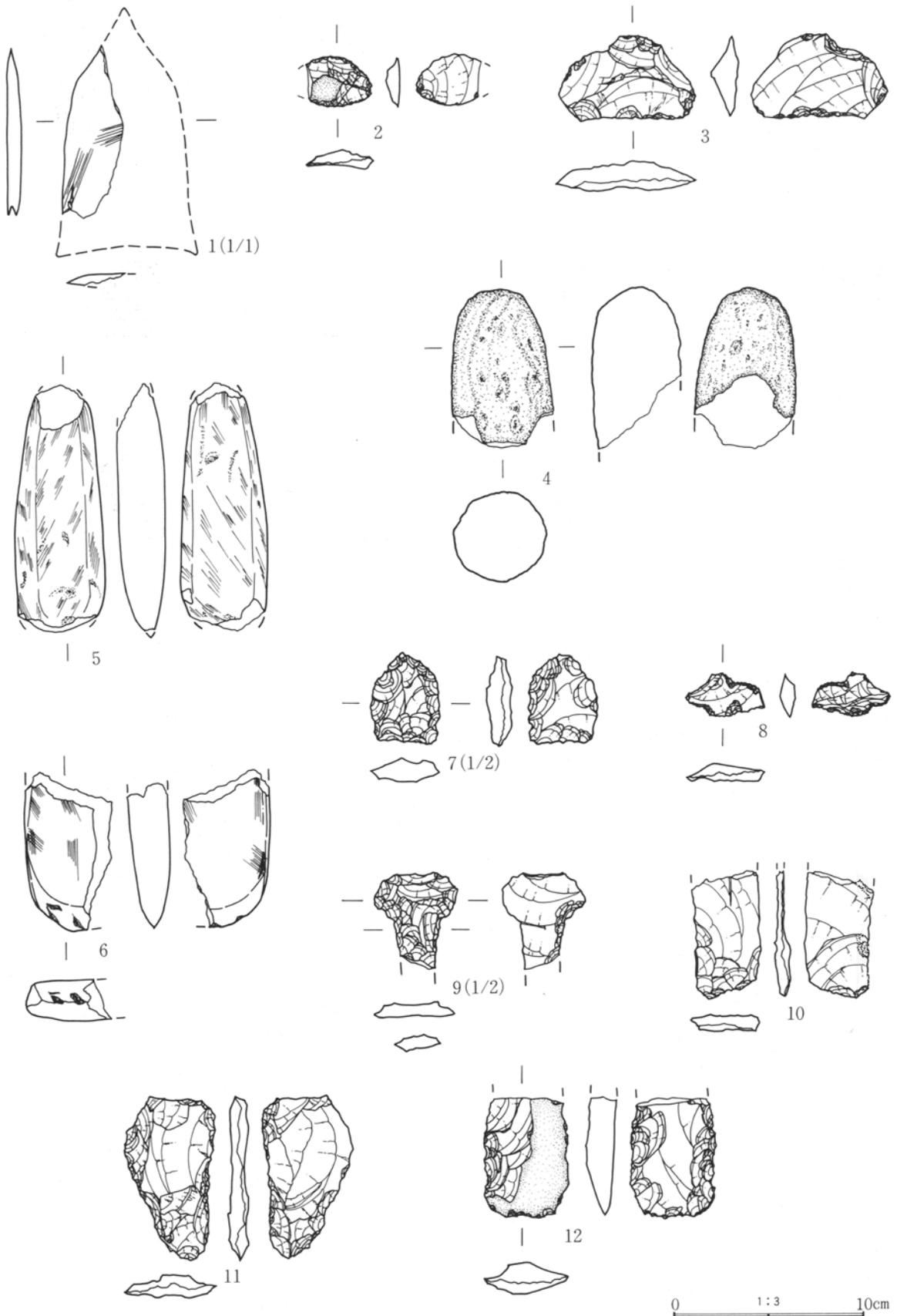
3. 縄文グリッド



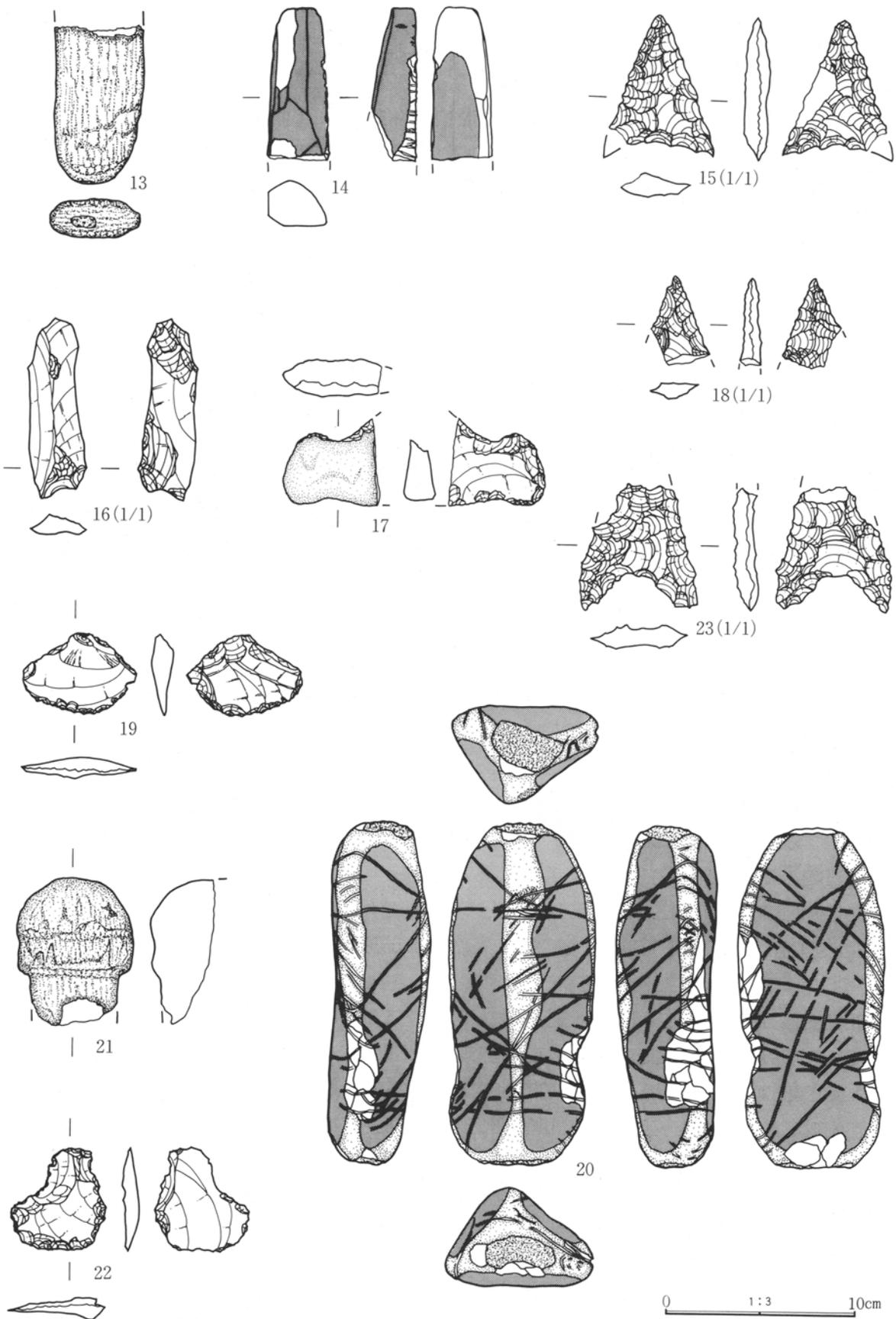
第30図 縄文グリッド出土遺物 (1)



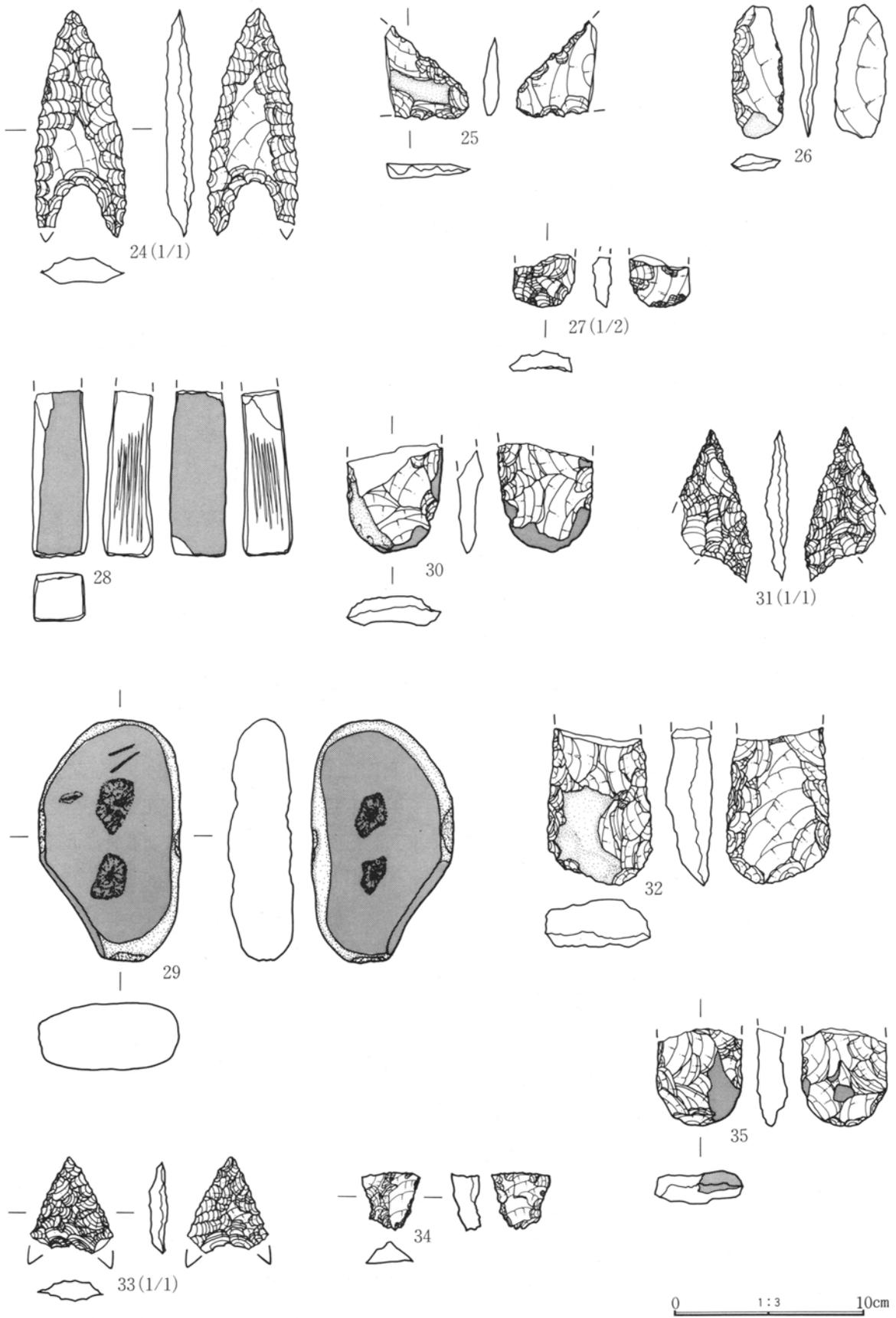
第31図 縄文グリッド出土遺物 (2)



第32図 縄文グリッド出土遺物 (3)



第33図 縄文グリッド出土遺物 (4)



第34図 縄文グリッド出土遺物 (5)

4. 成果と問題点

高浜広神遺跡における縄文時代の遺構は、柄鏡形敷石住居跡2軒・遺物集中地点・土坑2基・埋甕1基である。ここでは、検出した柄鏡型敷石住居跡について述べる。

柄鏡型敷石住居跡は加曽利EⅣ式期、中期終末期の所産である。以下に敷石状況・柱穴・埋甕について概要を記す。敷石状況は、主軸と関連する張出部、主体部入口部埋甕周辺、炉周辺部、奥壁部周辺に確認され、一部壁際に検出した。炉周辺部から奥壁部には板状割石を使用し、他には山石及び川原石の扁平部分を床になるよう施している。また、23号住居跡奥壁部には敷石として石皿が用いられていた。13号住居跡壁際には礫を立てる様に一石認められた。張出部は壁際を大きめの礫を立てるよう施し区画を成す。柱穴は23号住居跡のみの検出であるが、主軸と関連し、奥壁部柱穴を中心に規則的配置を成し、入口部「対ピット」を含め7本主柱穴を構成する。張出部は「対ピット」と入口部の2本を含め4本柱が認められた。埋甕は主体部入口部「対ピット」周辺に検出し、炉周辺部から張出部にかけて施された敷石を「石蓋」とするよう正位の状態出土した。埋甕内には礫等の内容物は検出されなかった。

以上が本遺構検出の柄鏡型敷石住居跡の概要であり、13号住居跡・23号住居跡と同時期で近接する住居跡であり、炉の位置、埋甕の位置、張出部の位置など構築構成についての共通性の他、敷石行為の炉周辺部から奥壁部における板状割石の使用や、埋甕への「石蓋」・埋甕の埋設状態等構築方法についても類似する点が多い。

本遺構における敷石行為は、板状割石の配置が炉の北側から奥壁部に1～1.5mの範囲に長軸25cm前後の礫を用いて整然と施されている。これは炉を囲み入口部を見渡せる位置に平らな礫を選別して敷設したようにも見られる。また、埋甕の「石蓋」は、主体部の敷石と張出部連結部の敷石との接点にあり、13号住居跡の調査では主体部敷石によるものと考えられたが、主体部敷石行為の部位の一部として捉えるか、張出部の敷石行為と捉えるか、埋甕に対する意識及び構築の方法に係わるものと考えられる。このように一定の部位に特定の意義を持たせ敷設したものなのか、また、何らかの意識が本遺跡敷石住居跡構築時期だけでなく、他の時期を通じて保たれ継続されたものか、このことについては今後の課題であり、類例試料の集積を行い検討していきたい。

群馬県内における敷石住居跡は、約150遺跡250軒程が確認されており、加曽利EⅢ式段階に成立し、後期へ向けて発達する。今回の北陸新幹線地域（榛名山東南麓）においては4遺跡（高浜広神遺跡・白川傘松遺跡・白川笹塚遺跡・三ツ子沢中遺跡）13軒が検出している。本地域で検出した敷石住居跡は全て柄鏡型を呈すると思われる。時期は加曽利EⅢ式期から堀之内I式期の所産であり、加曽利EⅣ式期段階を主としている。本遺跡も他遺跡と同時期である。今回検出された4遺跡における敷石状況は加曽利EⅢ式期の全面に施すもの、加曽利EⅣ式期の主体部全面に施すもの、炉周辺部・壁際・散漫に施すもの、張出部についても全面・部分・散漫であるもの、称名寺I式期の主体部壁際を巡り、張出部全面に施すなど、敷石行為の部位について一定していない。このことについては他論考においても、時期を通して敷石行為は一定しているものではなく、時期・地域等により多様であることは指摘されている。本地域においても同様であると考えられる。また、礫の種類についても板状割石・川原石・山石等が用いられている。次に埋甕については、本遺跡では主体部入口部に1基検出しているが、同時期遺跡でも1ないし2基検出されている。敷石状態同様に埋甕の個数についても時期的特性は見受けられない。また、連結部に石囲いを有する住居跡もある。

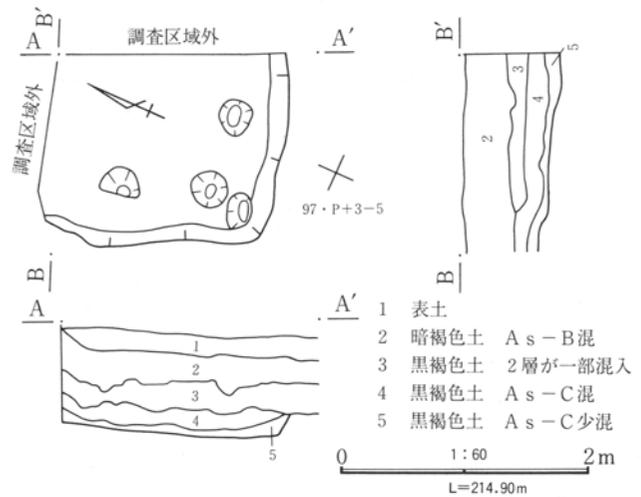
高浜広神遺跡の柄鏡型敷石住居跡における敷石状況や石材の分布、埋甕の「石蓋」について思うままに記してしまっただが、今後の課題として学習に取り組んでいきたいと痛感している。

第2節 奈良・平安時代以降

1. 住居

1号住居

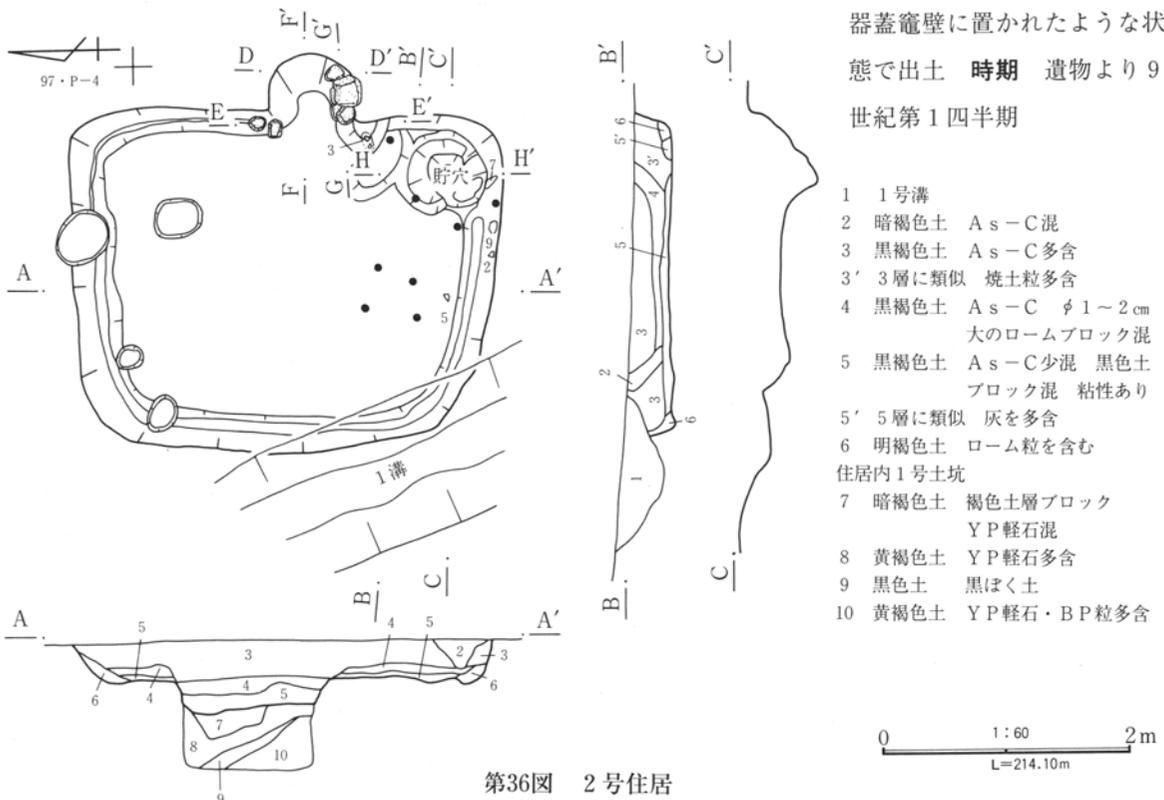
位置 97区P-5 **主軸方位** N-69°-N
平面形状 南西隅確認 大半が調査区域外 方形
規模 (1.9)×(1.5)m **柱穴** 不明 **周溝** なし
貯蔵穴 不明
埋土 As-C混土層 ローム漸移土層
残存壁高 0.1m **床面** ローム漸移層まで掘り下げる
竈 不明 **遺物** なし



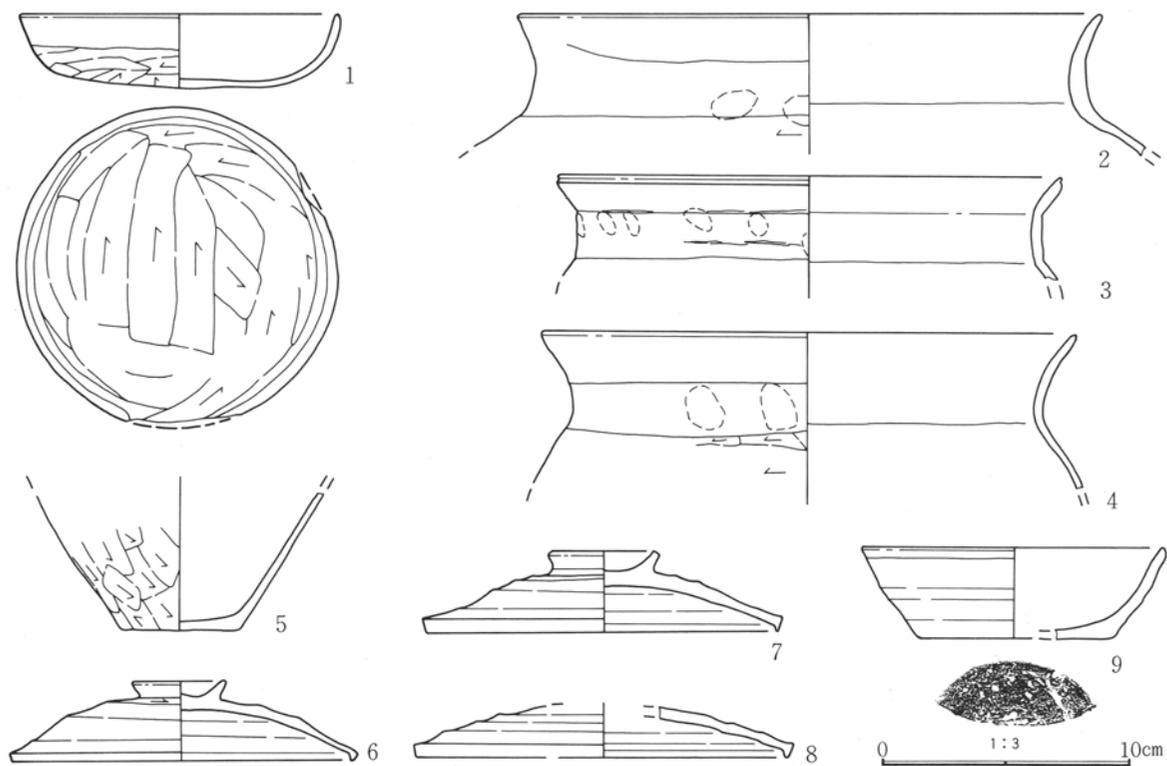
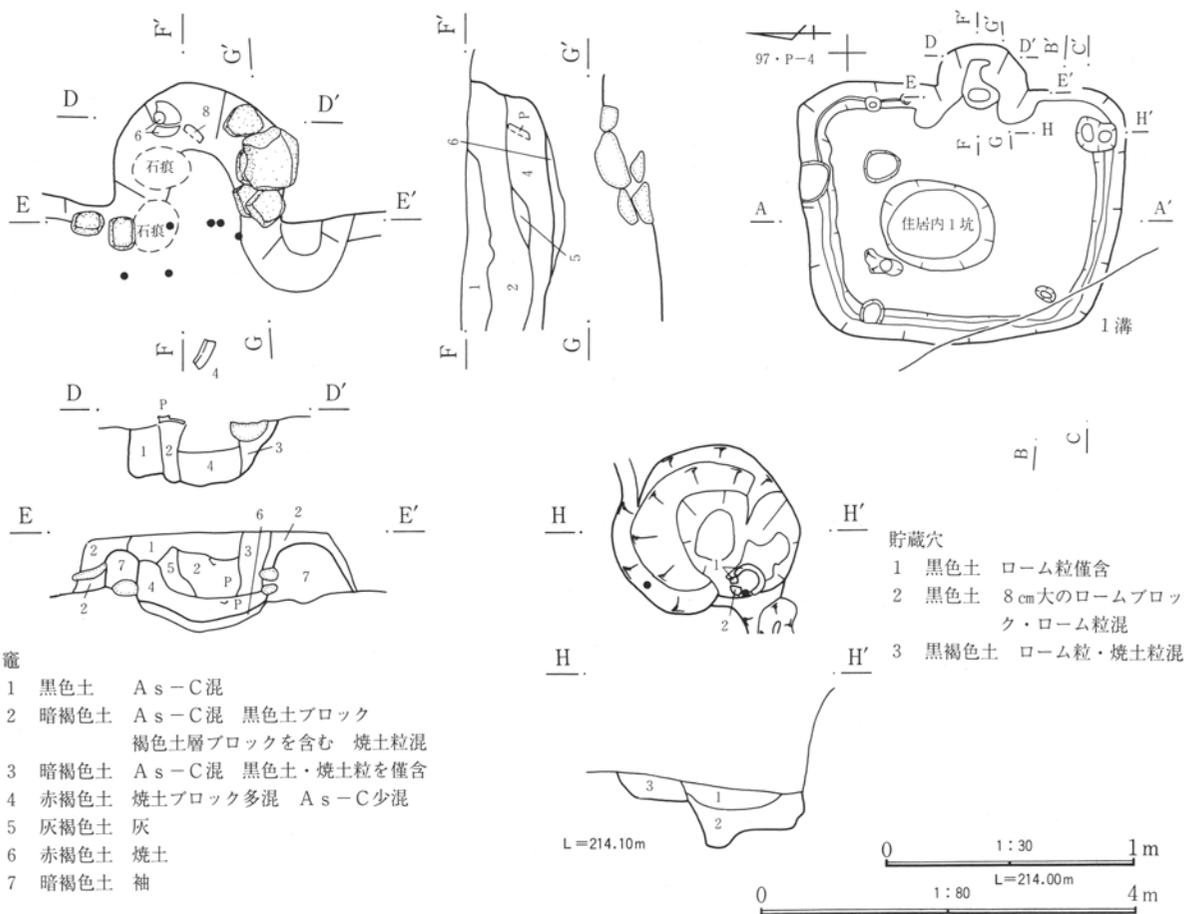
第35図 1号住居

2号住居

位置 97区P-3 **主軸方位** N-90°-E **平面形状** 隅丸方形 **規模** 3.45×2.7m
重複 1号溝に切られる (As-B混) **柱穴** なし **周溝** 貯蔵穴部分を除き壁に沿って全周
貯蔵穴 南東隅検出 円形 **埋土** As-C混土層 **残存壁高** 0.3m
床面 As-C少混黒褐色土で貼り床? **土坑** 1号土坑は掘り方時に検出され人為的に埋められた
竈 東壁やや南 燃烧部は壁面より20cm程外側 横断面は緩いU字形 壁際には河原石を立て掛け、袖口とする。左右二段以上掌大の河原石を組みローム漸移層で埋めている
遺物 貯蔵穴肩口で土師器坏・甕が出土 須恵器蓋・坏が貯蔵穴の壁から滑り落ちるような形で出土 須恵器蓋竈壁に置かれたような状態で出土 **時期** 遺物より9世紀第1四半期



第36図 2号住居



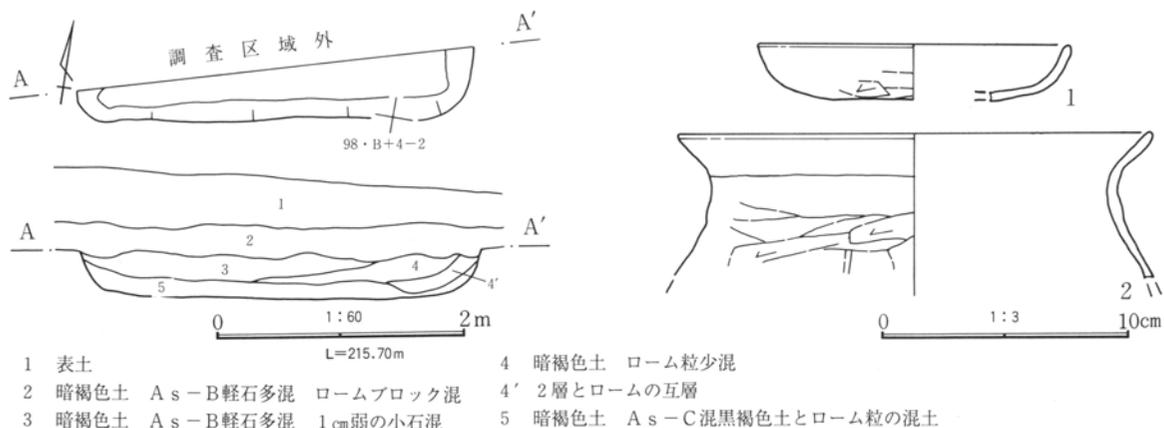
第37図 2号住居・出土遺物

3号住居

位置 98区B-2 主軸方位 N-80°-E (南辺)

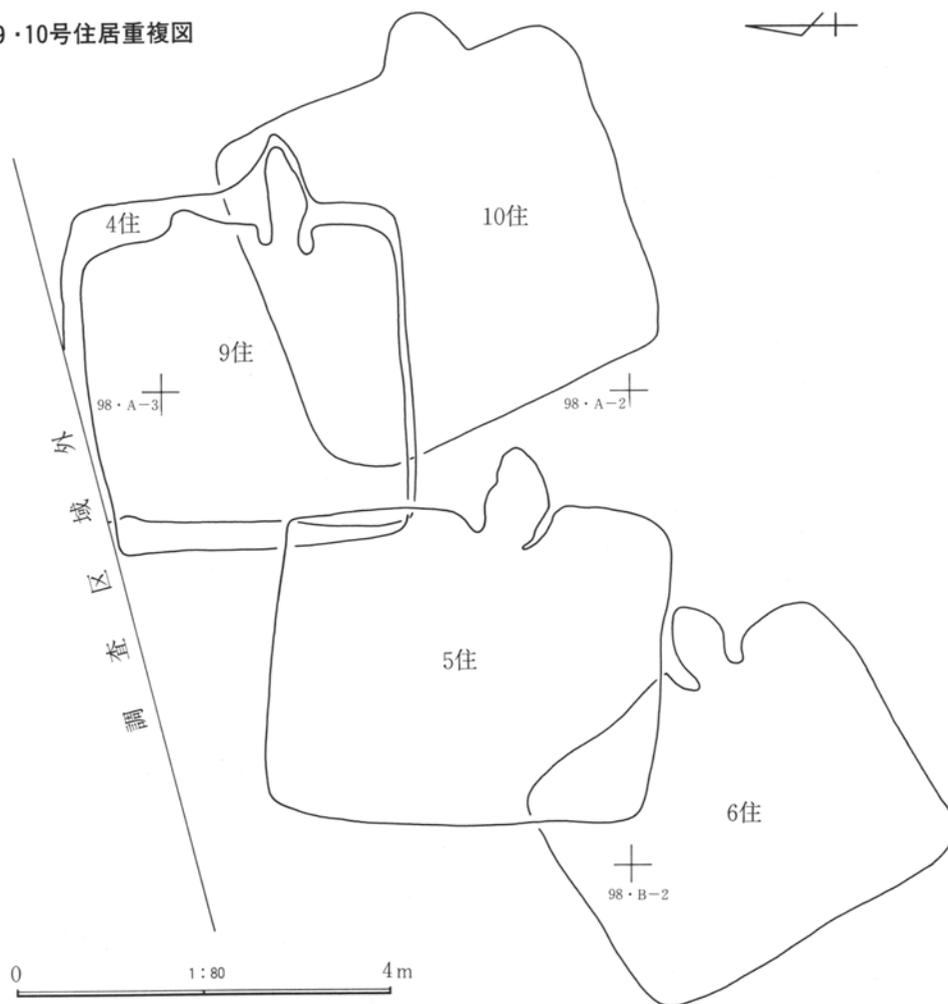
平面形状 南辺0.5m幅を調査、大半が調査区域外 方形 規模 3.15×(0.5)m 柱穴 不明

周溝 なし 貯蔵穴 不明 埋土 As-C混土層 ローム粒混土層 残存壁高 0.35m 床面 ローム漸移土層まで掘り下げる 竈 不明 遺物 土師器坏・甕埋土より出土 時期 遺物より9世紀第1四半期



第38図 3号住居・出土遺物

4・5・6・9・10号住居重複図

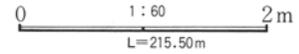


第39図 4・5・6・9・10号住居重複図

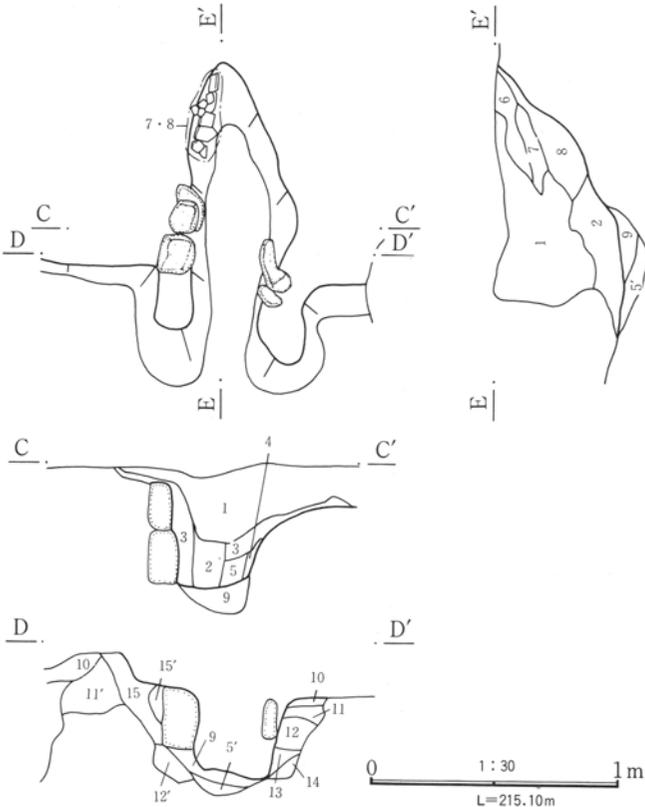
9号住居



- 1 暗褐色土 A s-C密に混
- 2 暗褐色土 A s-C混 ローム粒
φ 2cmのローム漸移層
ブロック混
- 3 暗褐色土 A s-C密に混 φ 5cmの
灰褐色ブロック混
- 4 暗褐色土 A s-C混 φ 1cmのロー
ムブロック混
- 4' 4層と同様 焼土粒混
- 5 暗褐色土 A s-C混 φ 3cmのロー
ムブロック混
- 6 褐色土 漸移層ブロック・焼土粒混
- 7 暗褐色土 上層に焼土粒混 A s-C
少混
- 8 褐色土 A s-C少混 しまりない
- 9 暗褐色土 A s-C混 ローム粒・
焼土粒・炭混
- 10 暗黒褐色土 A s-C少混 φ 2~5
cmのロームブロック混
- 11 黒褐色土 ロームブロックφ 3cm混
焼土粒・炭粒多混
- 12 暗褐色土 YP・焼土多混 上面に厚
さ5mmの硬くしまった面
(貼り床)
- 13 暗褐色土 焼土粒・YP混
(住居内1号ピット)

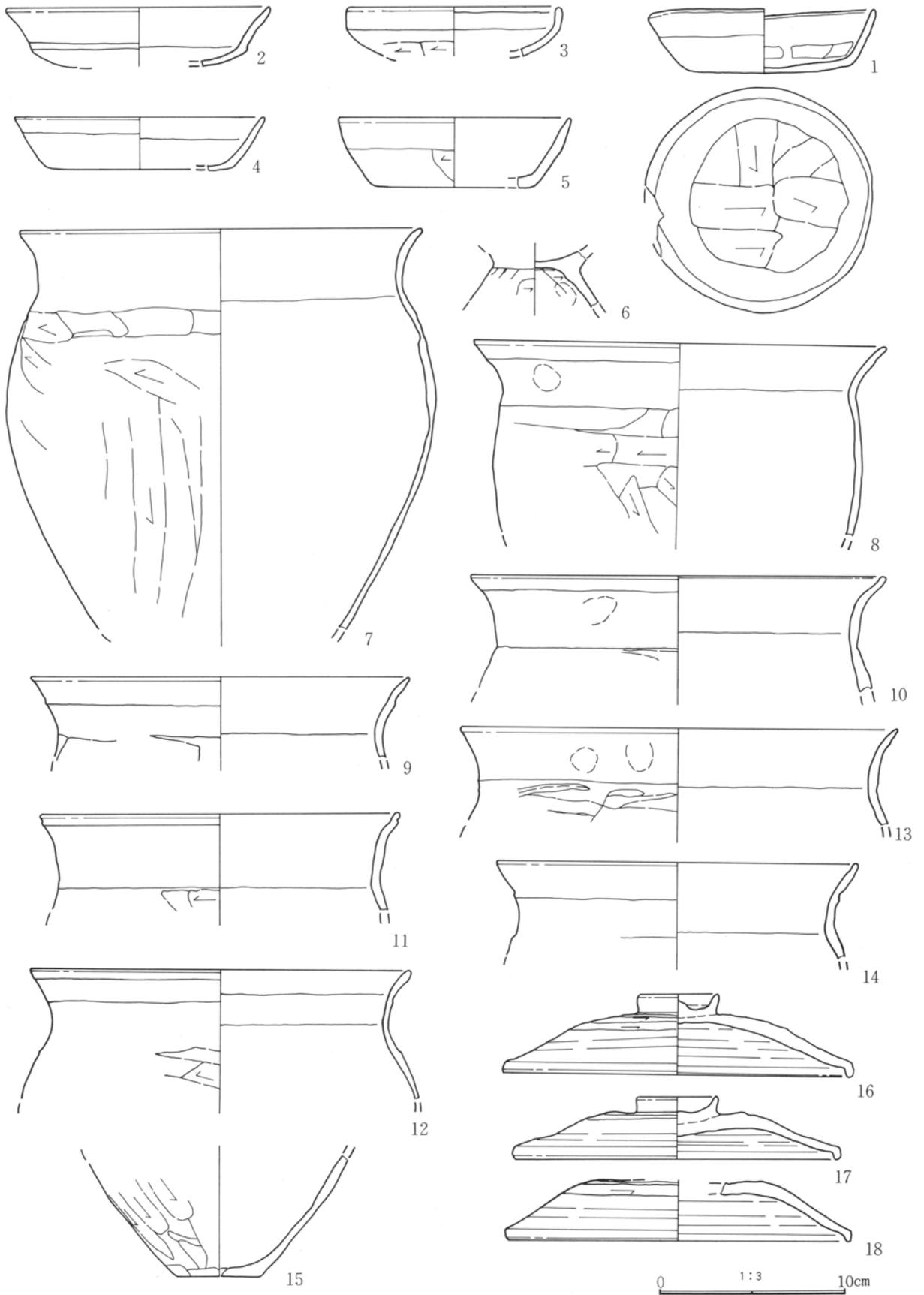


竈

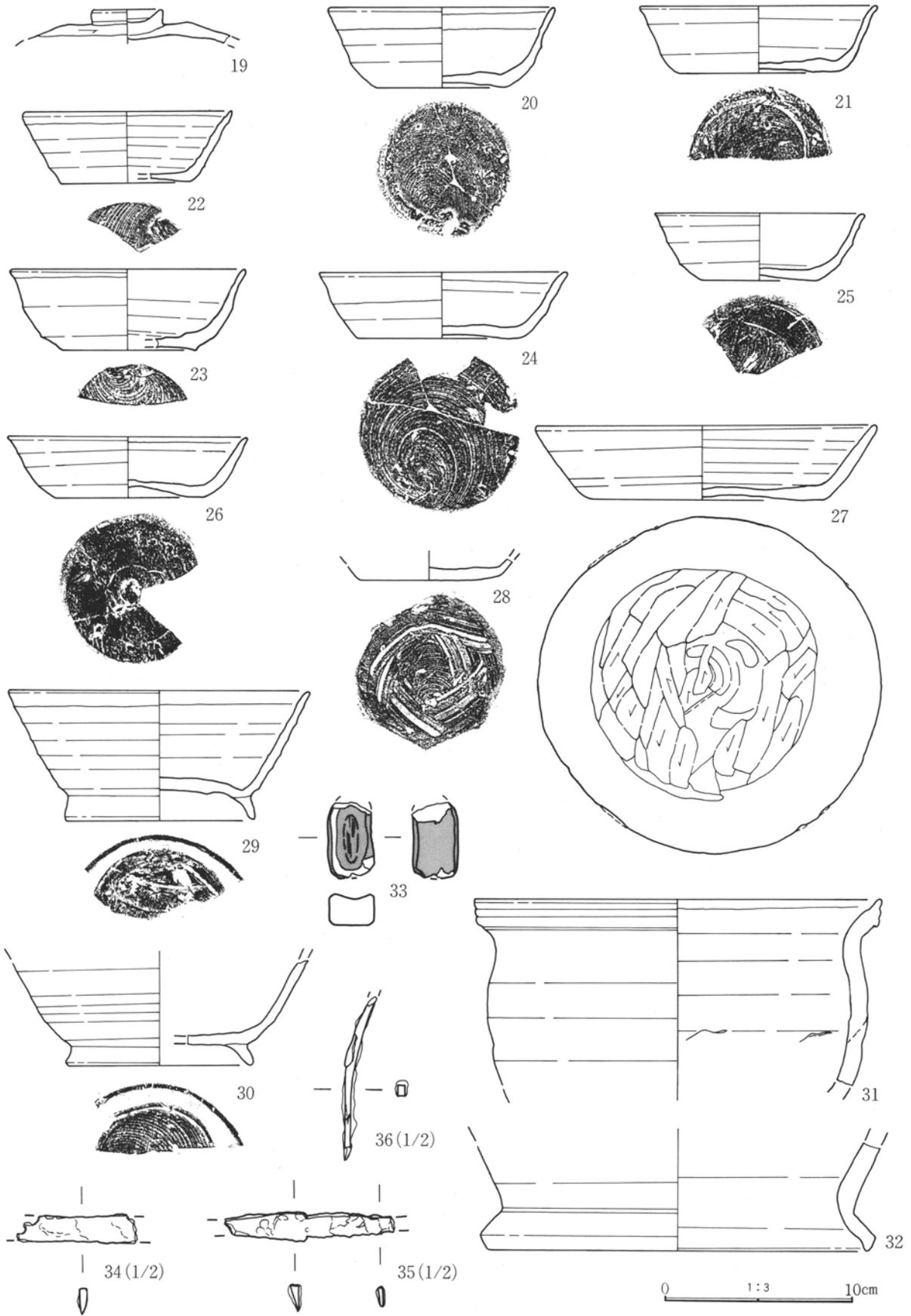


- 1 暗褐色土 A s-C・ローム粒を密に混入
(自然埋土 住居も同じ)
- 2 暗赤褐色土 焼土粒ブロック (φ 0.5cm)
を混入 漸移層を多含
- 3 暗褐色土 A s-C混 ロームブロック
多含 焼土ブロック混
- 4 暗赤褐色土 A s-C僅含 焼土粒多含
- 5 暗褐色土 焼土ブロック・焼土・ローム粒混
- 5' 5層と同様
- 6 A s-C混 焼土粒・ローム粒混
(煙道部の流入土)
- 7 ロームと焼土粒の混土 (天井部の崩落土)
- 8 A s-C混 大粒 (5~10mm大)の焼土・
ローム混
- 9 暗褐色土 A s-C・黒色土ブロック・
ローム粒混 焼土粒多混
- 10 暗褐色土 A s-C混 黒色土ブロック・
焼土粒混
- 11 明黄褐色土 ロームブロック 右よりに焼土
- 11' 明黄褐色土 ロームブロック
- 12 暗褐色土 A s-C・黒色土ブロック・
ローム粒混 焼土粒多混
- 12' 12層と同様 焼土粒混
- 13 暗褐色土 焼土ブロック混入の他は3層同様
- 14 暗黒褐色土 A s-C・黒色土ブロック・
ロームブロックを含む
上層に焼土ブロックがみられる
- 15 明黄褐色土 ロームブロックφ 1~3cm大の
焼土ブロック混
- 15' 明黄褐色土 焼土ブロックの混入なし

第40図 9号住居



第41図 9号住居出土遺物(1)



第42図 9号住居出土遺物(2)

9号住居

位置 97区T-2 主軸方位 N-86°-E

平面形状 北西の隅僅か調査区域外 方形 規模 3.65×3.4m

重複 4号住居を切る 10号住居を切る 5号住居に切られる

柱穴 なし 周溝 なし 貯蔵穴 南東隅 隅丸方形 遺物多数出土 埋土 As-C混土層

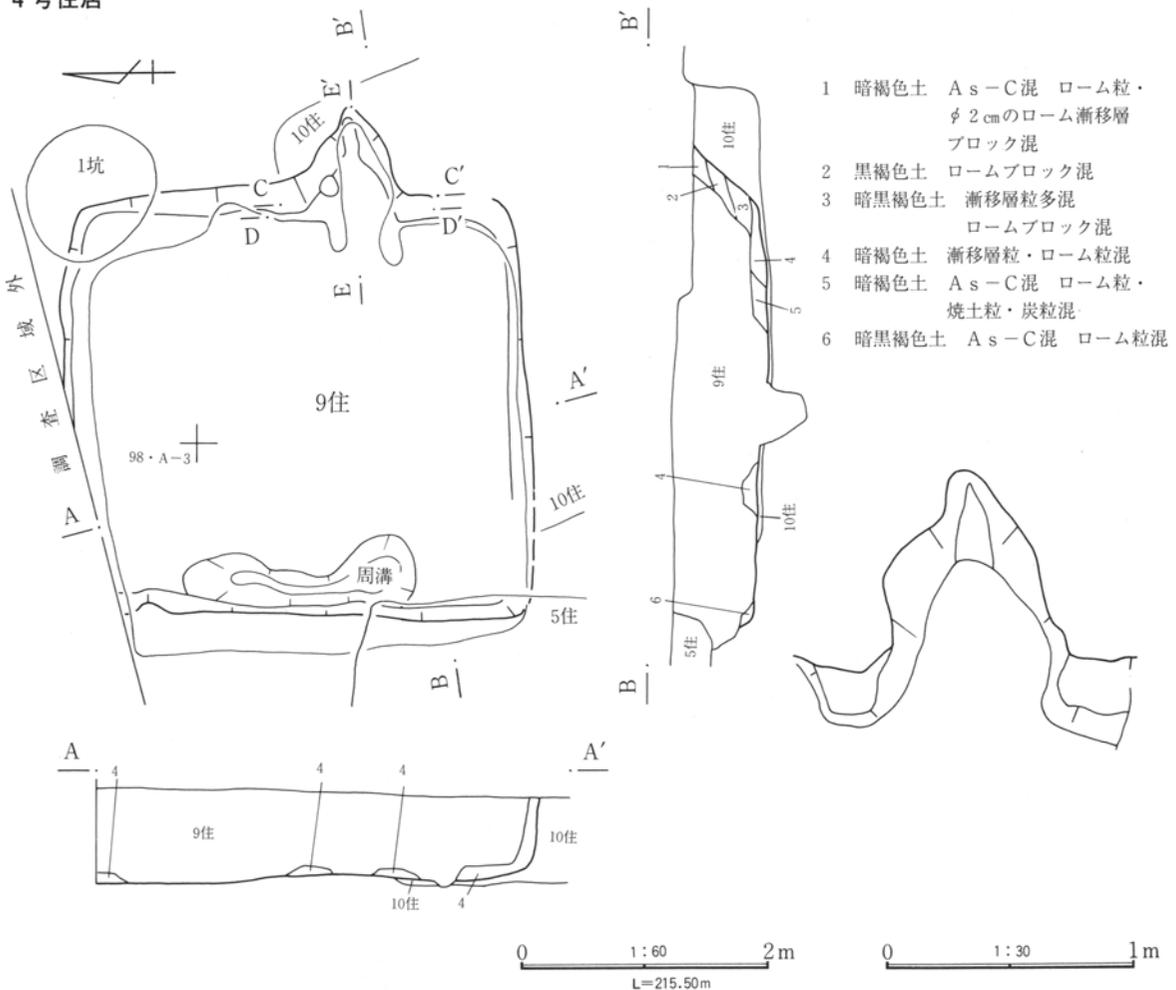
残存壁高 0.05m 確認できるのは竈周辺と西壁の一部のみ 4号との重複を認識しないままに調査したため不明 床面 As-SPまで掘り込み、ロームブロック混土で硬く締める貼床 土坑 住居内土坑5基 いずれも底面はAs-BP上のロームまで達し、断面はやや袋状、軽石、ロームブロック、暗褐色土の混土で人為埋没している 粘土採掘坑か? 1・3は9号住居掘り方土坑(初見)

竈 東辺中央やや南 袖口、燃焼部の左右に二段以上河原石を積み、ロームブロックで貼る 燃焼部壁面より外側へ20cm程出る

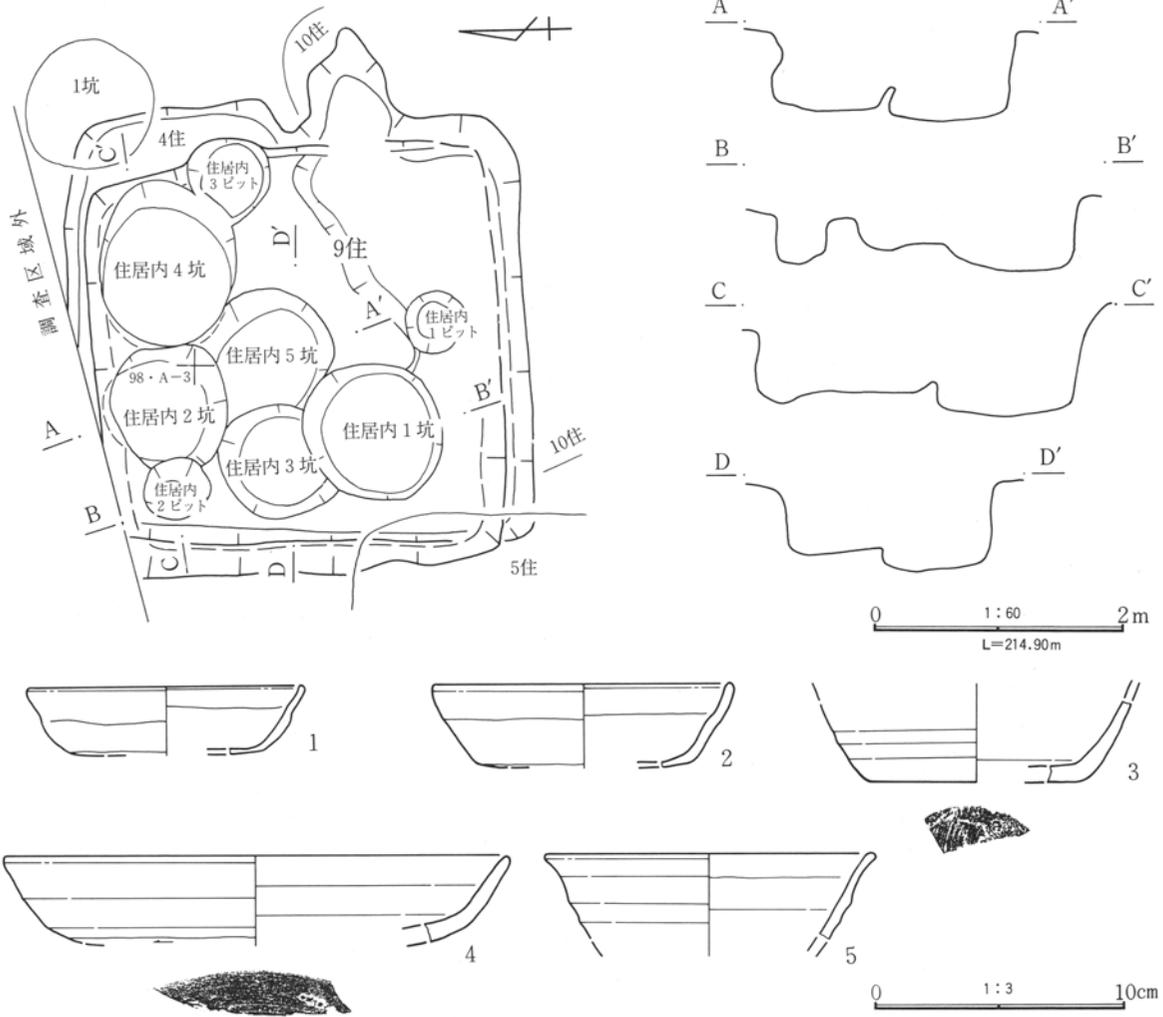
遺物 重複が激しいため他の遺物が流れ込む 7・8のコの字甕、竈左壁奥より手前へ横倒しの状態で出土 貯蔵穴周辺で須恵器坏出土多い 鉄製の釘、刀子、砥石なども出土

土師器坏2・3は10号住居の遺物 26・27は4号住居周溝の遺物 時期 遺物より9世紀第2四半期

4号住居



第43図 4号住居



第44図 4・9号住居・4号住居出土遺物

4号住居

位置 97区T-2 主軸方位 N-86°-E (北辺)

平面形状 方形 規模 (3.45)×(3.35)m

重複 9号住居に切られる(西辺0.3m程ずれる) 5号住居に切られる 1号土坑に切られる

柱穴 不明 周溝 西辺に一部残 貯蔵穴 不明

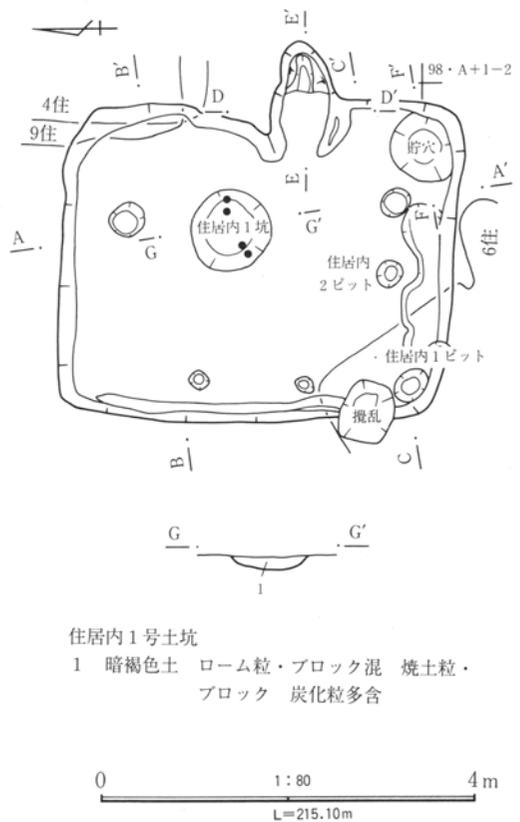
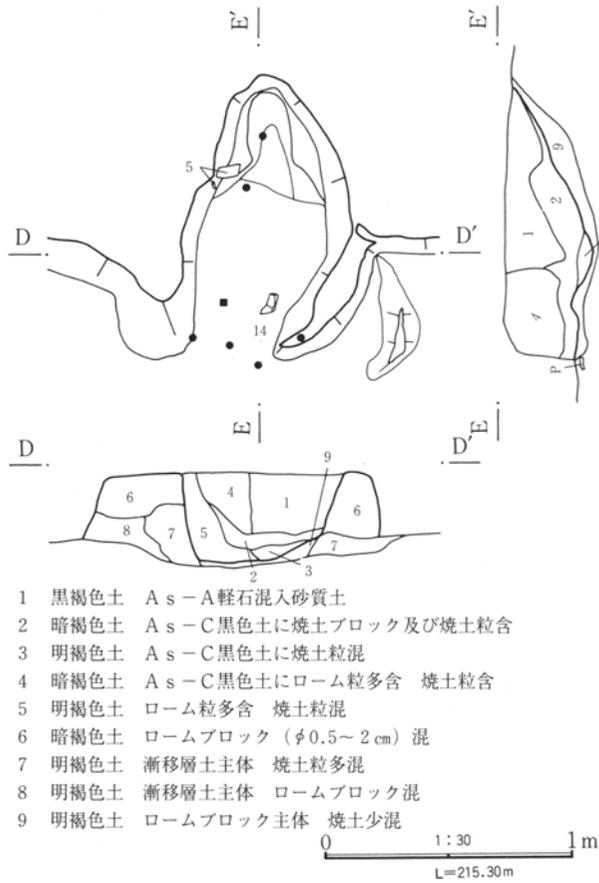
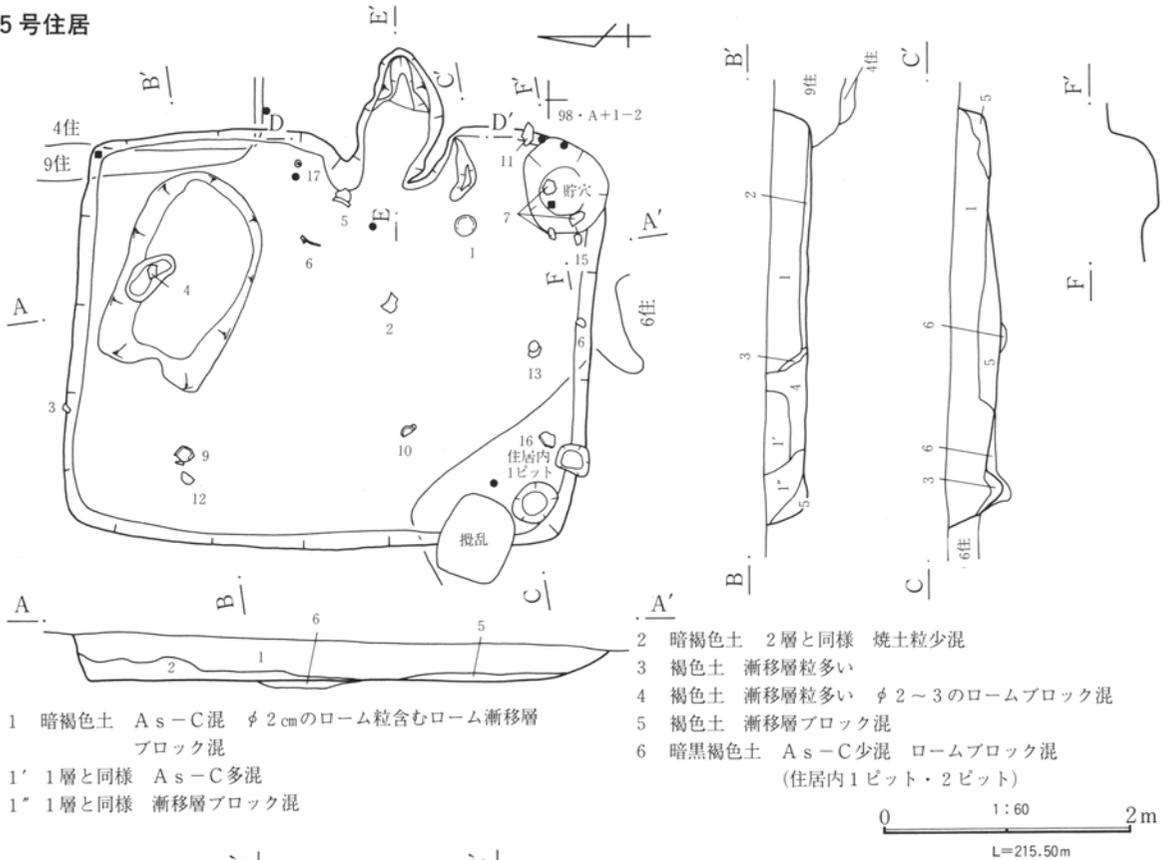
埋土 As-C混土層 ローム粒混土層 9号住居によってほとんど切られているため不明な部分が多い

残存壁高 0.62~0.68m (東辺) 床面 詳細は確認できず

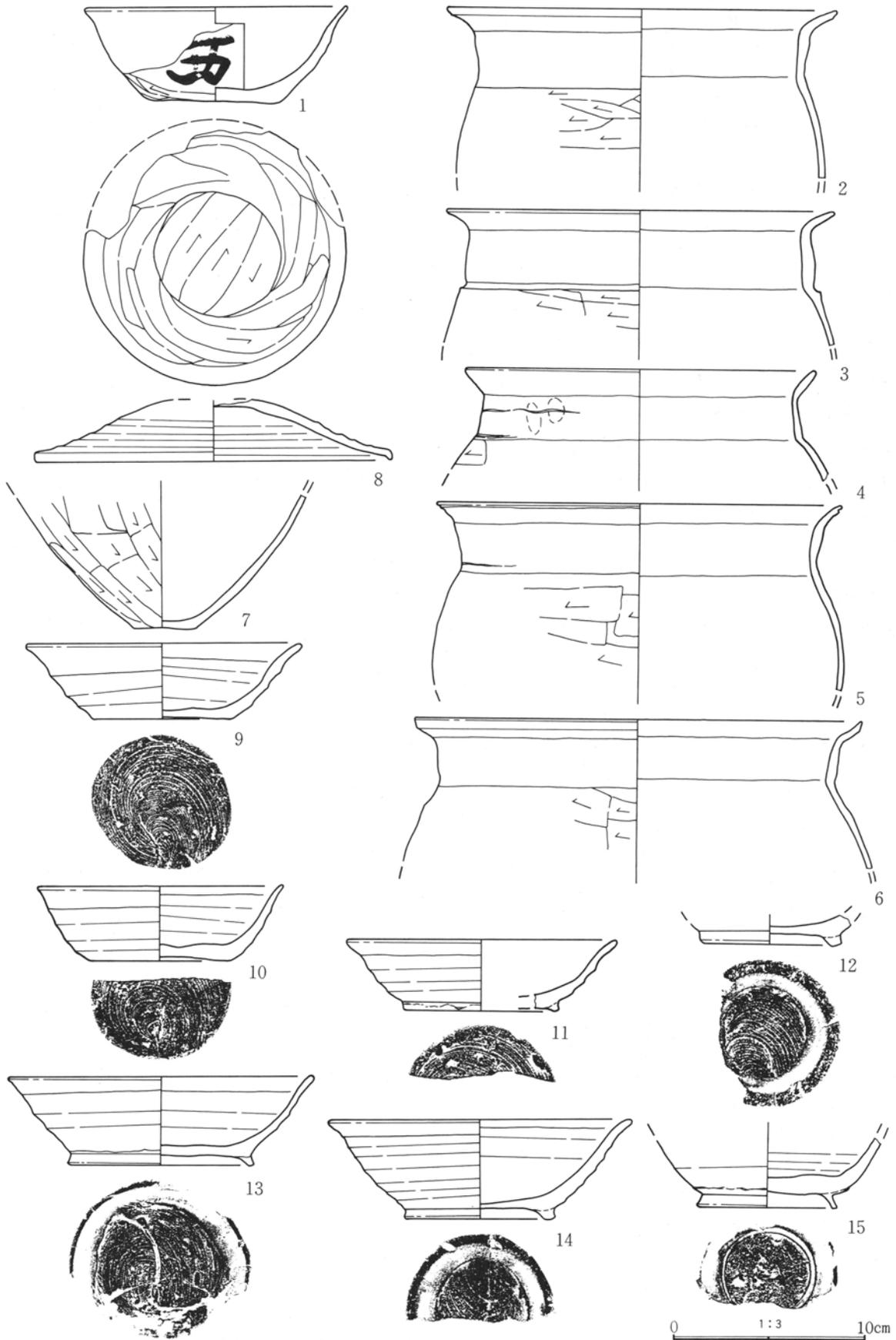
竈 9号住居によって壊されているため掘り方のみの確認 土坑 2・5は4号住居掘り方時の土坑

遺物 9号住居に遺物流れ込む 9号住居26・27の須恵器の坏が周溝に残された唯一の遺物 27は大型で底部ヘラ削りが施してある 時期 遺物より8世紀第2四半期

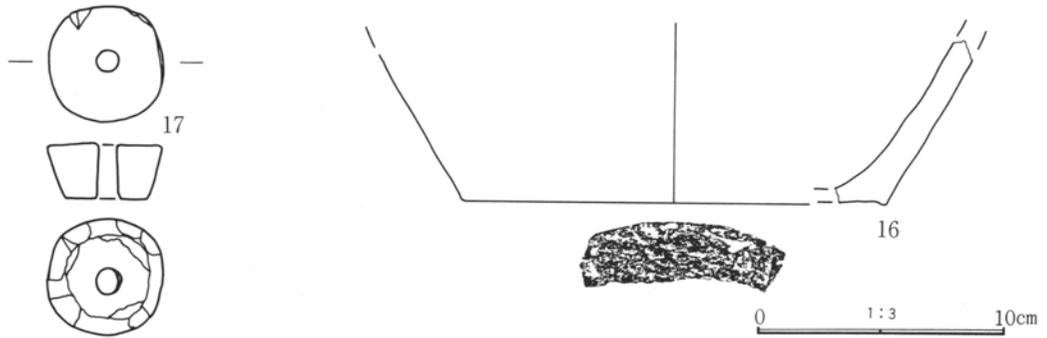
5号住居



第45図 5号住居



第46図 5号住居出土遺物(1)



第47図 5号住居出土遺物(2)

5号住居

位置 98区A-2 主軸方位 N-94°-E (北辺)

平面形状 方形 規模 4.1×3.2m

重複 4・9号住居を切る 6号住居を切る 柱穴 なし 周溝 なし 貯蔵穴 南西隅 円形

埋土 As-C混土層 残存壁高 0.3m 床面 ソフトローム上面まで掘り込む

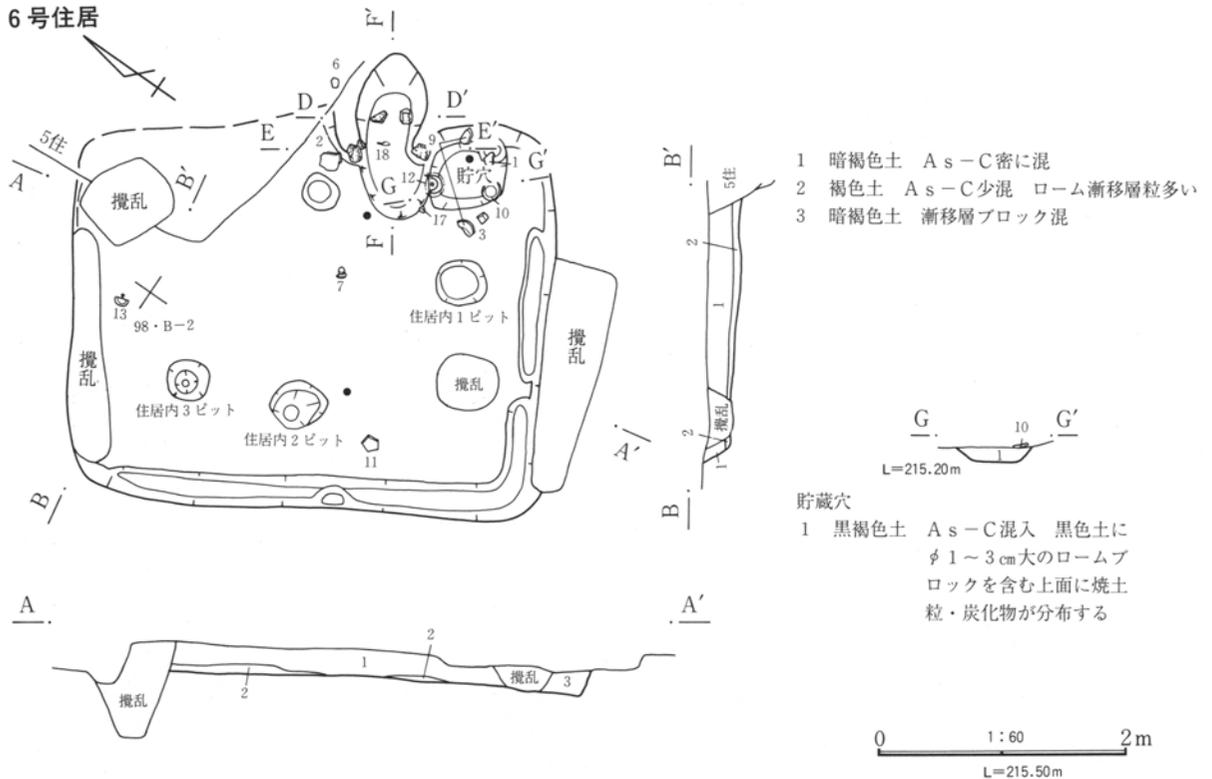
土坑 住居内1号土坑 埋土に炭・焼土多混

竈 東辺やや南寄り 燃烧部はほぼ壁面と同位置 横断面は緩やかなU字形 ローム漸移層土を主にロームブロックを貼り付け、袖を作る

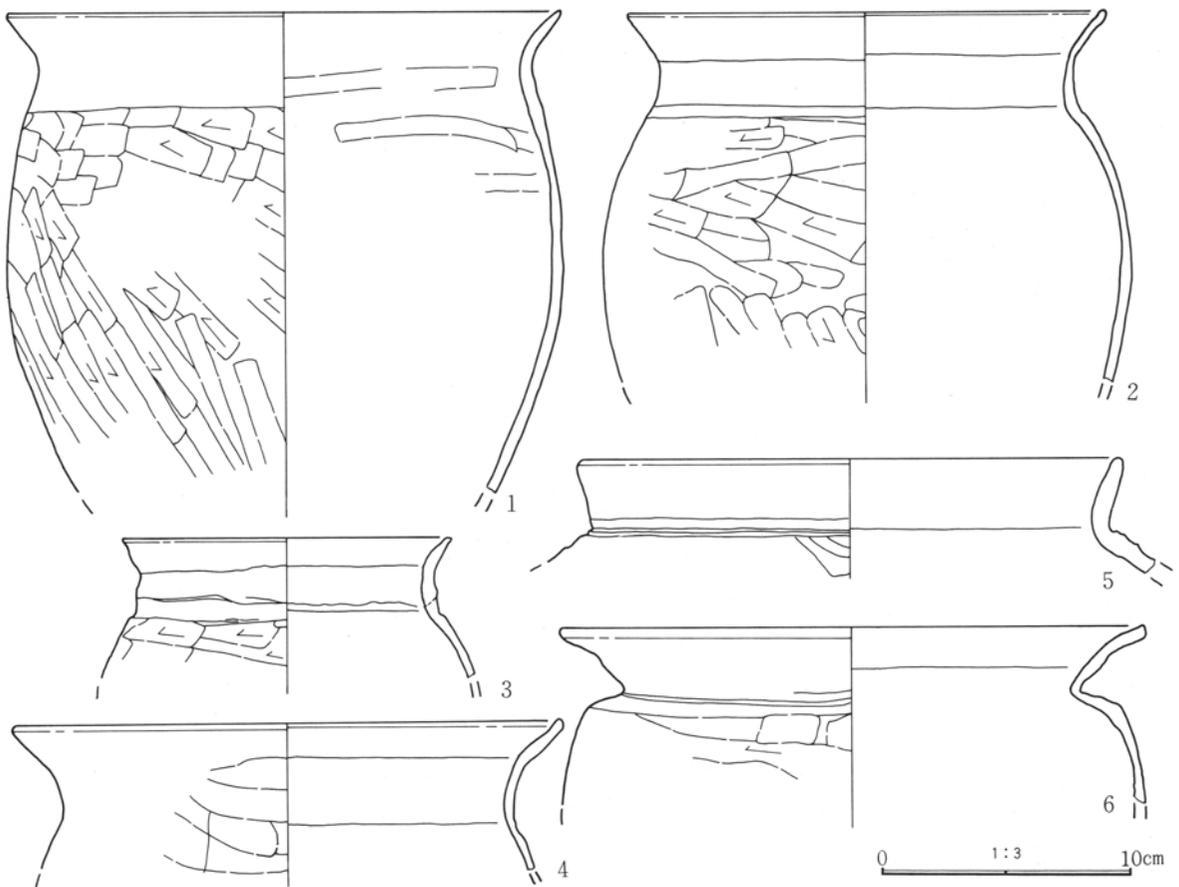
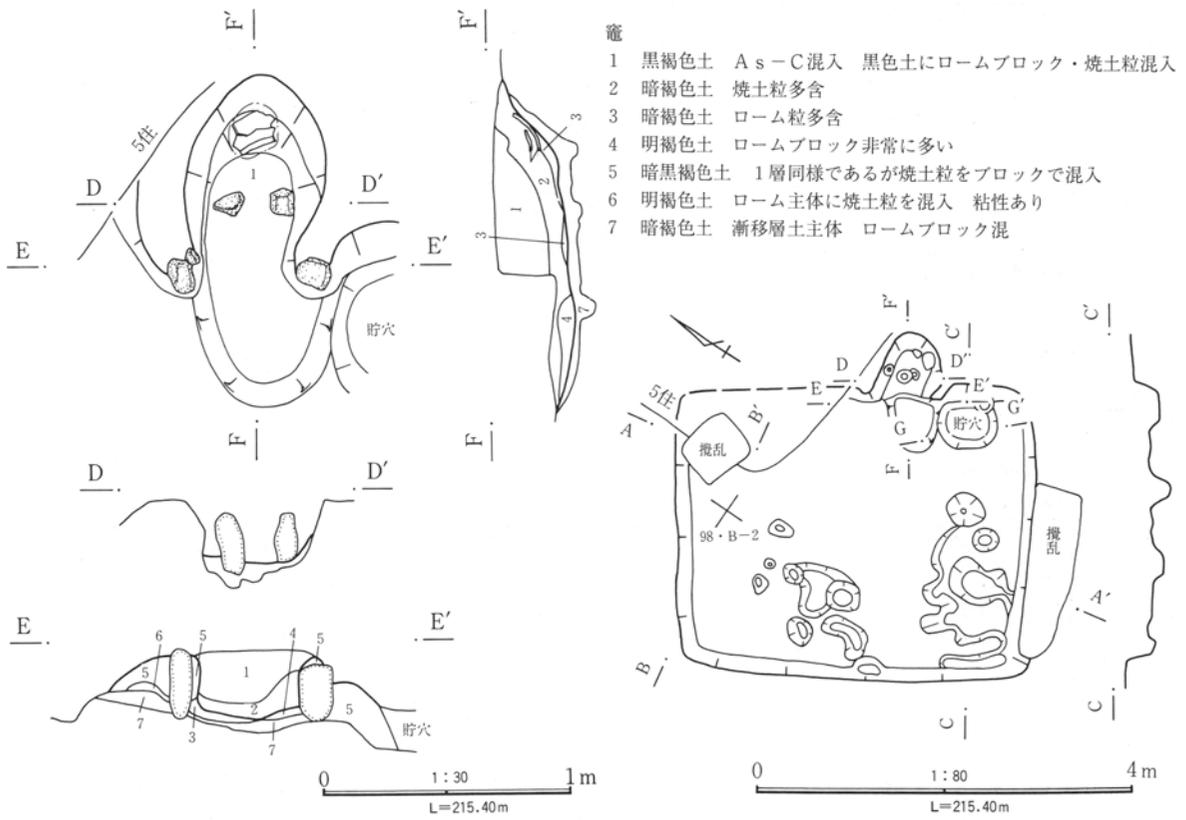
遺物 竈の右手より土師器外面「西」墨書坏出土 コの字甕破片散在 須恵器坏塊散在 紡錘車竈左手より

出土 時期 遺物より9世紀第3四半期

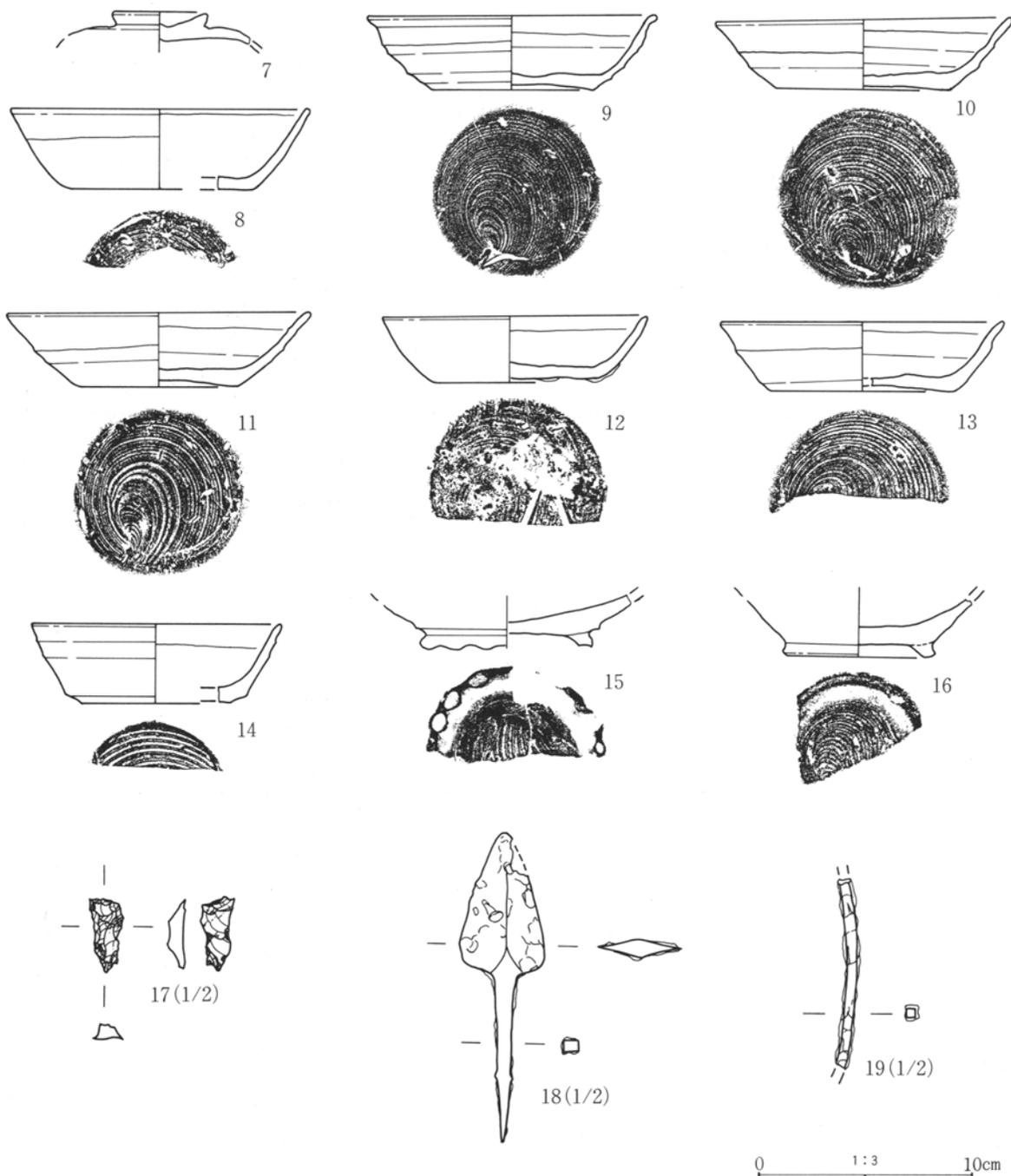
6号住居



第48図 6号住居



第49図 6号住居・出土遺物(1)



第50図 6号住居出土遺物(2)

6号住居

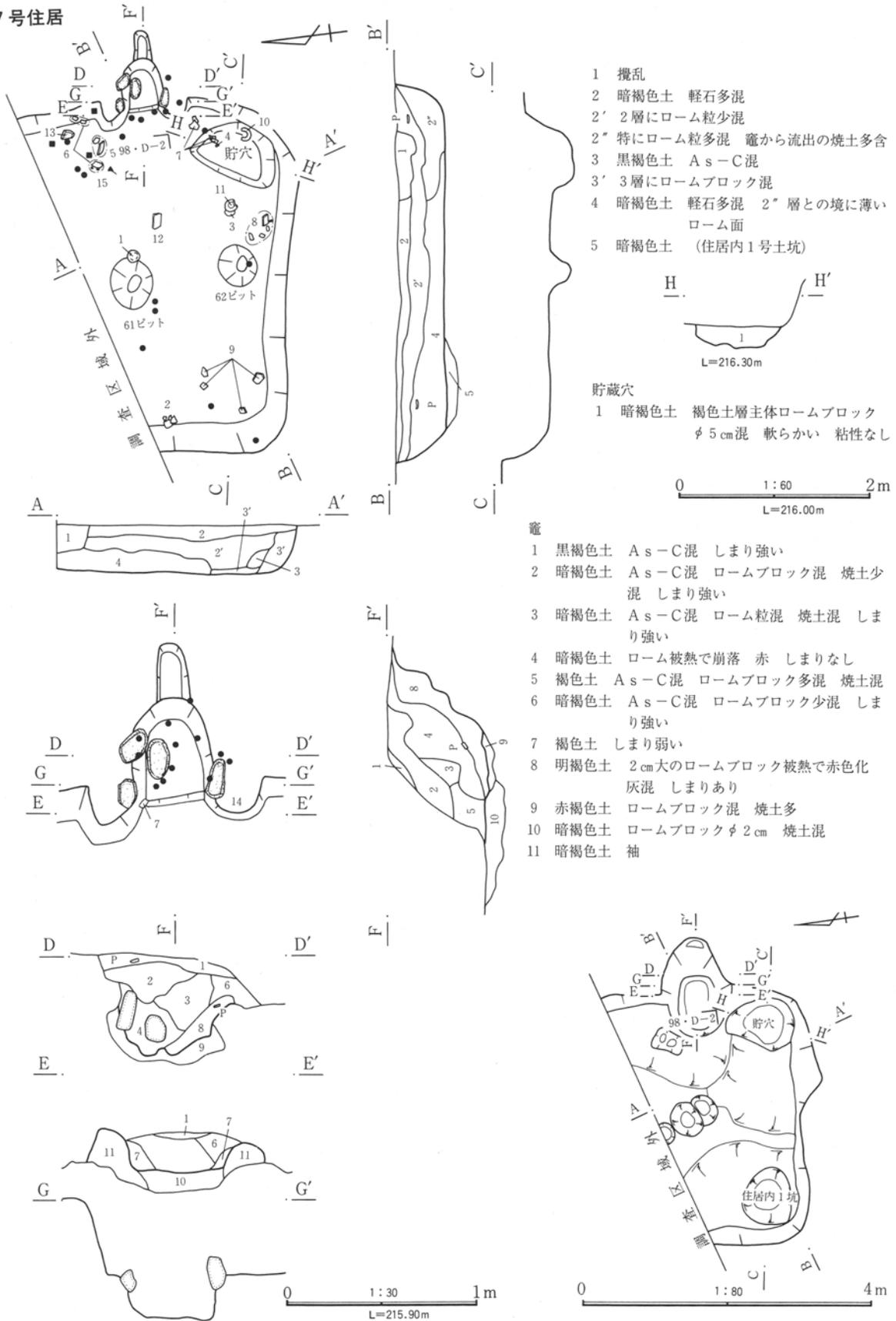
位置 98区A-1 主軸方位 N-55°-E (北辺) 平面形状 方形 規模 3.85×3.15m

重複 5号住居に切られる 柱穴 なし 周溝 東辺を除く三辺にまわる

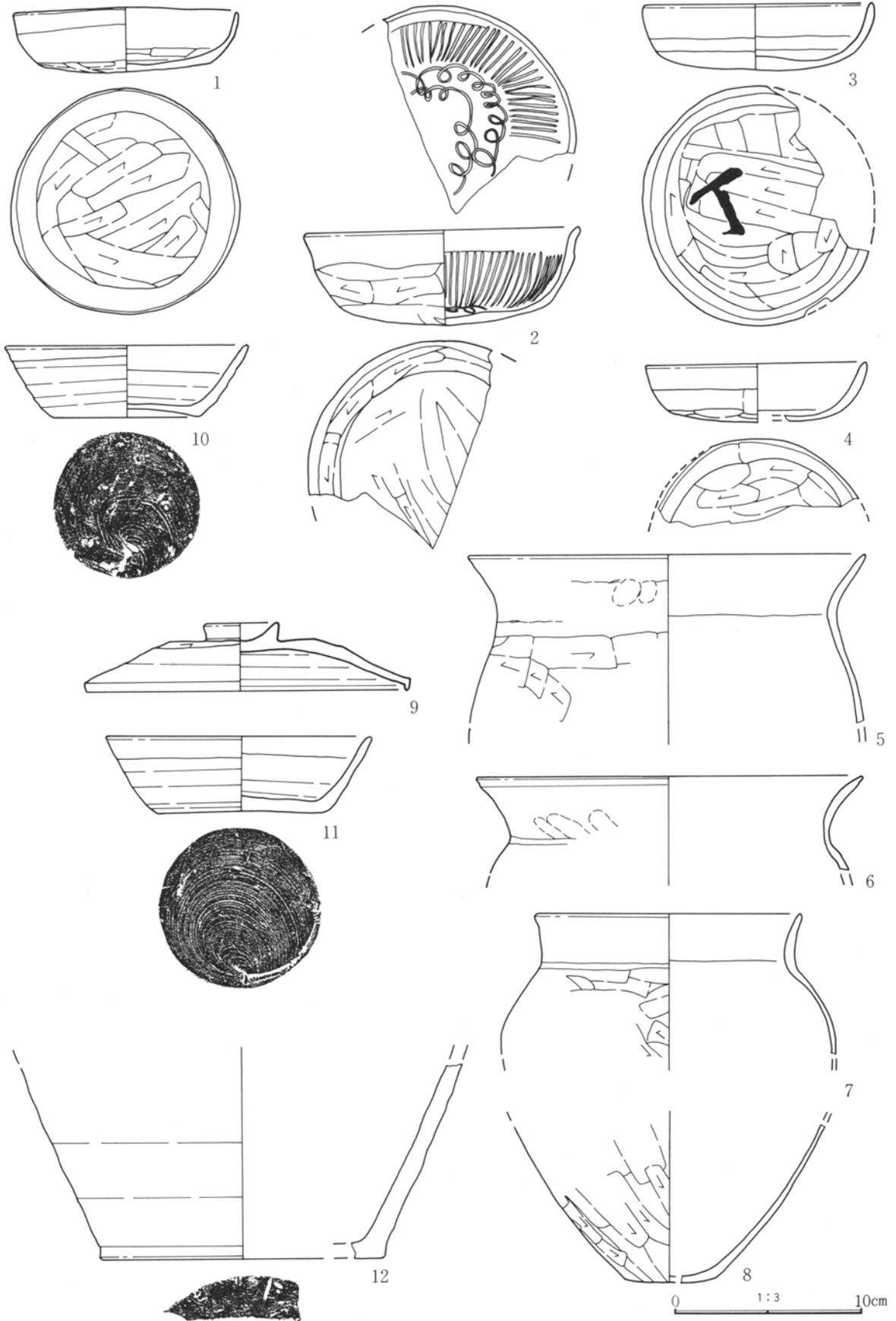
貯蔵穴 南東隅方形 遺物多数出土 埋土 As-C混土層 残存壁高 0.2m 床面 掘りくぼめたのみ
 竈 東辺やや南寄り 袖口、燃焼部ともに左右河原石を立てかけ、ロームブロックで貼る 燃焼部は壁面より10cm程出る 煙道に1の甕を使用

遺物 コの字甕は竈、貯蔵穴周辺で出土 6の甕大変肩が張り、口縁で屈曲して外反する 須恵器坏貯蔵穴周辺で出土 時期 遺物より9世紀第2~3四半期

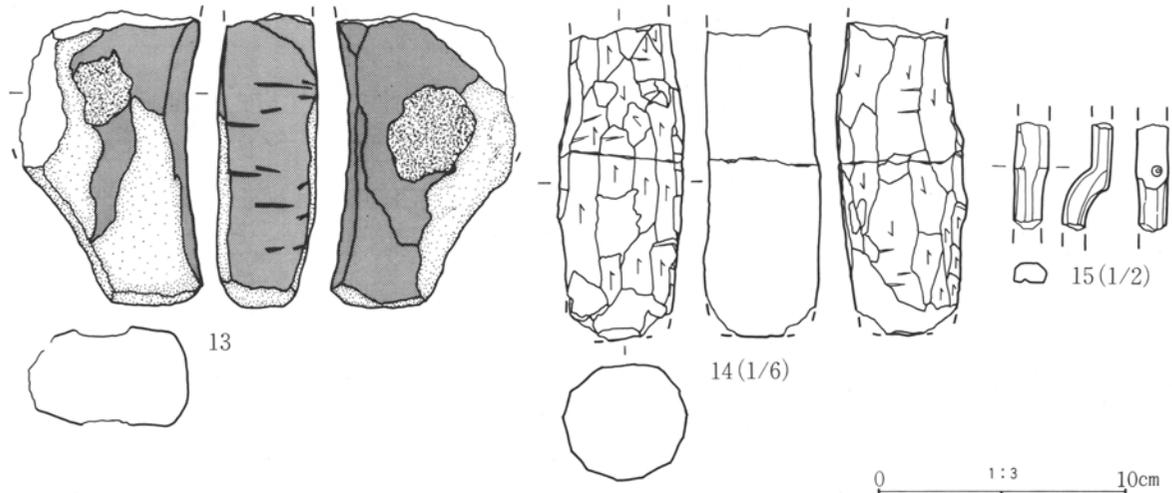
7号住居



第51図 7号住居



第52図 7号住居出土遺物(1)



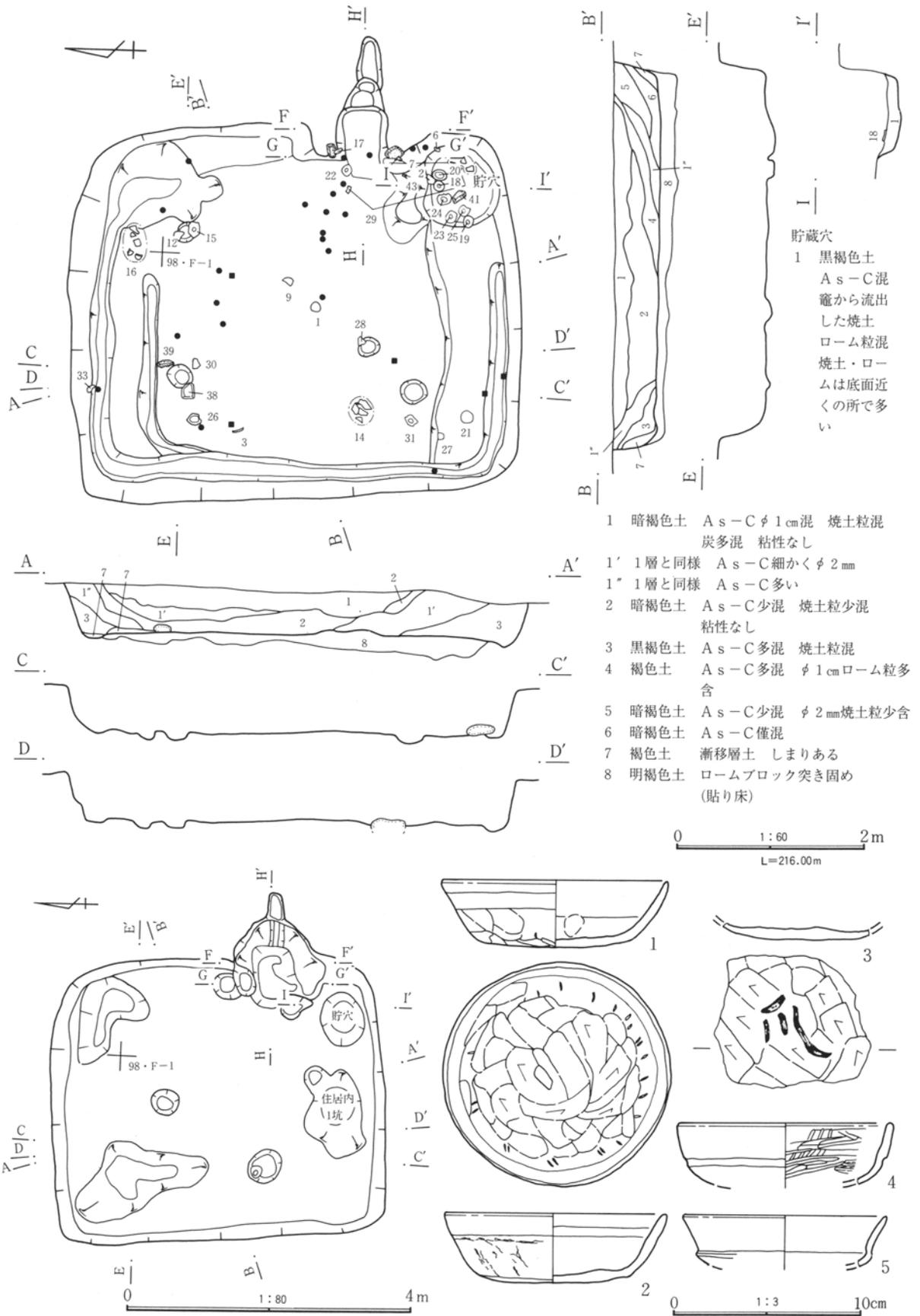
第53図 7号住居出土遺物(2)

7号住居

位置 98区D-2 **主軸方位** N-96°-E (南辺) **平面形状** 北半分調査区域外 隅丸方形
規模 3.65×(2.2)m **重複** 61・62号ピットに切られる **柱穴** なし **周溝** なし **貯蔵穴** 南西隅
埋土 As-C混土層 **残存壁高** 0.5m **床面** 明確な貼り床は確認できず
土坑 南西隅に掘り方時の浅い土坑あり
竈 東辺 袖口、燃烧部共に河原石を立てかけ組み、ロームブロックで固める 燃烧部は壁面より20cm出る
 周辺遺物多い
遺物 土師器坏・甕竈左手から多く出土 土師器底部「丁」墨書坏貯蔵穴西側から出土 土師器暗文坏西壁
 際から出土 14は加工された竈の袖石 **時期** 遺物より8世紀第3四半期

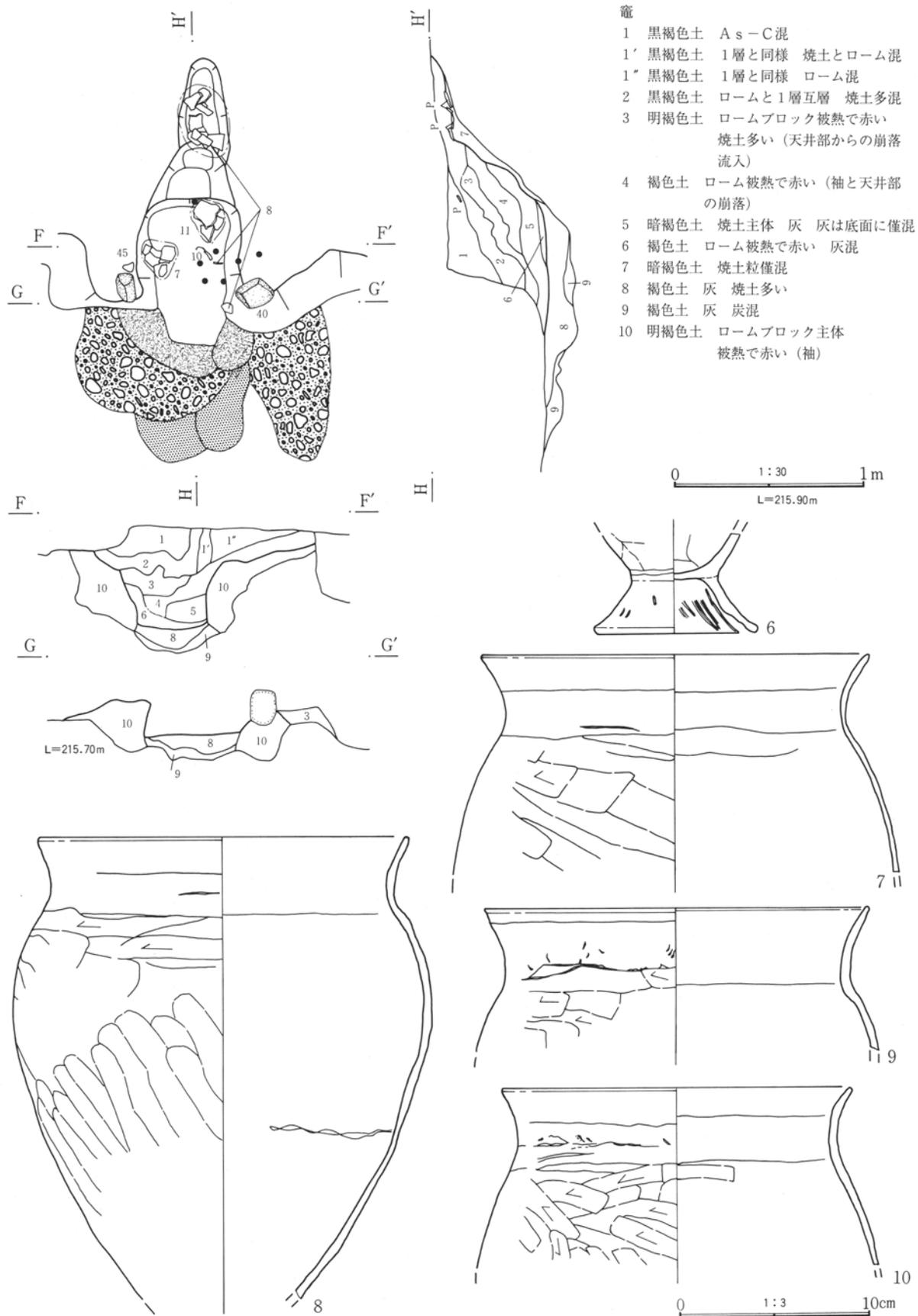
8号住居

位置 88区F-20 **主軸方位** N-90°-E
平面形状 方形 **規模** 4.7×3.92m
重複 東辺・西辺・竈を利用して2軒が重複 小型から大型住居の建て替えが考えられる 西辺で1号掘立
 柱建物を切る(初見) **柱穴** 西側2本確認
周溝 旧小型住居の段階では北辺の内側のもの、南辺では内側の段差が考えられる 新大型住居は東辺を除
 く3辺にまわる **貯蔵穴** 南東隅 円形 遺物多数出土
埋土 As-C混土層 ローム漸移土層 **残存壁高** 0.48m **床面** ローム漸移土層まで掘り下げ、ローム
 ブロックを突き固め貼り床にする
竈 東辺やや南寄り 両袖の芯には河原石を入れ、ロームブロックを貼り付ける 燃烧部は壁面から30cm程
 外側に出る 煙道には8の甕を使っている 竈手前には焼土・炭を掻き出してならした痕跡が残る
遺物 土師器底部「爪」墨書坏西壁近くで出土 竈付近を中心に甕出土 いずれも上方からの崩落とみられ
 る 貯蔵穴上で須恵器坏数個体並んで出土 使用時から大きな移動はないと思われる 金銅製腰帯裏金具竈
 右袖付近から出土 金属付着物のある台石出土 **時期** 遺物より9世紀第2四半期

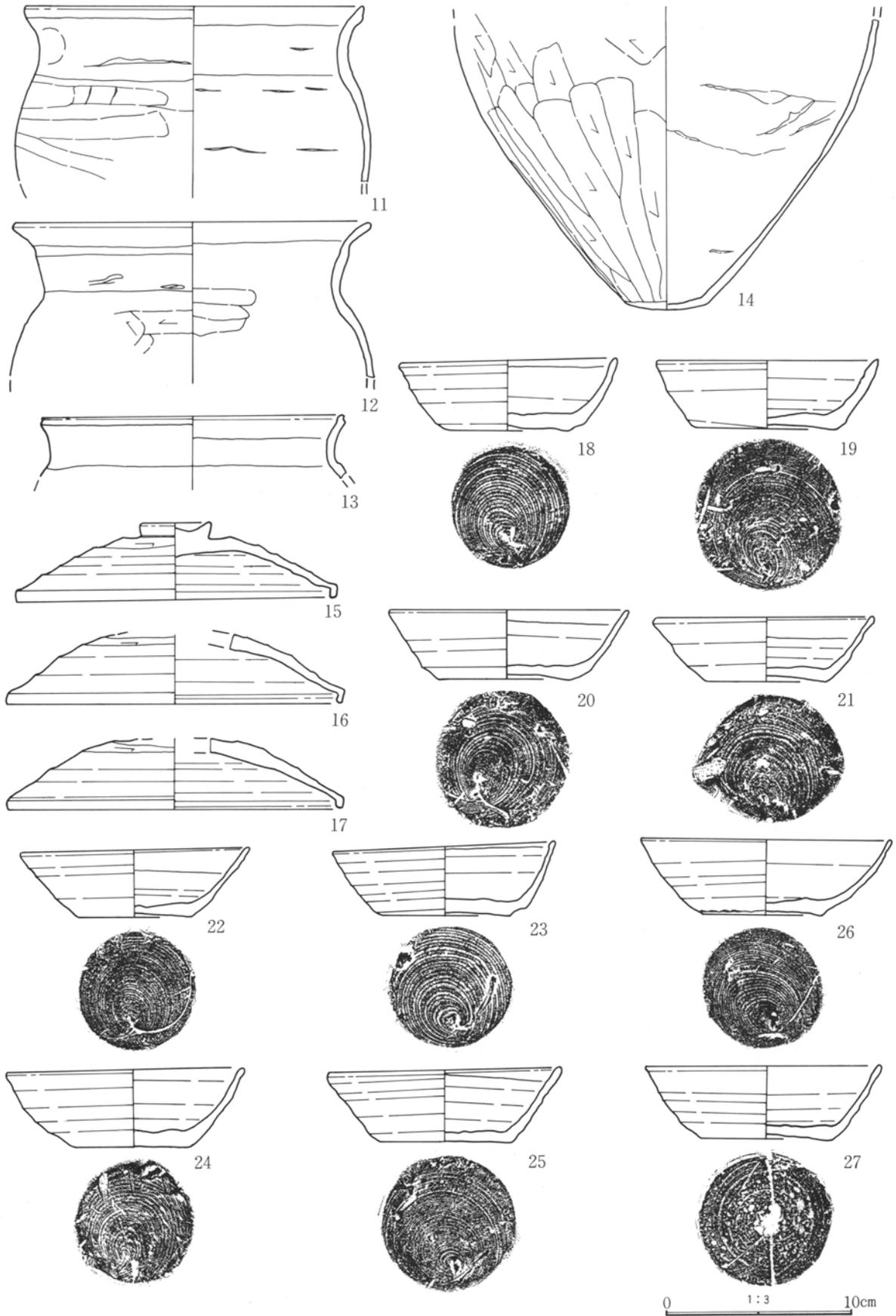


第54図 8号住居・出土遺物(1)

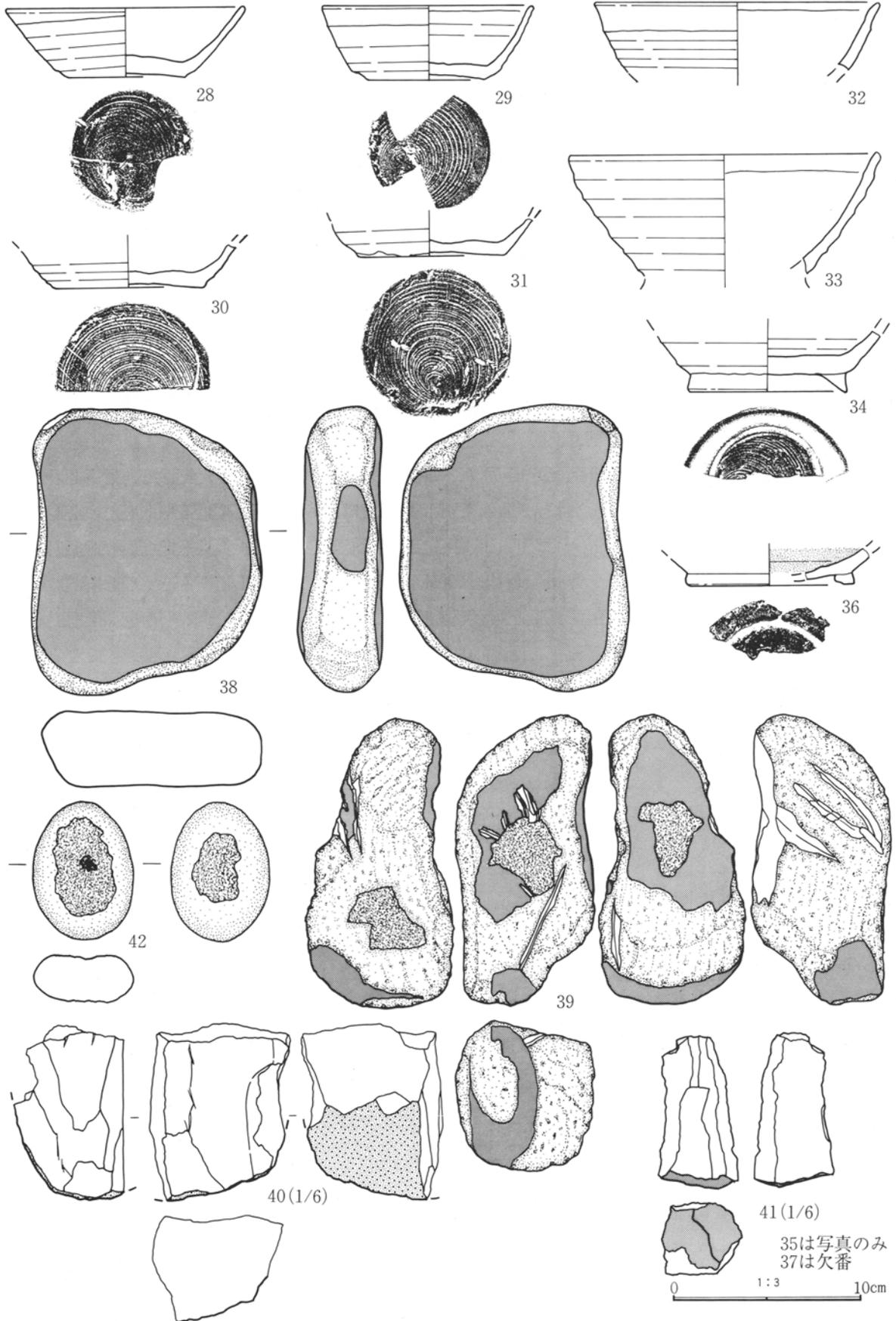
第2節 奈良・平安時代以降



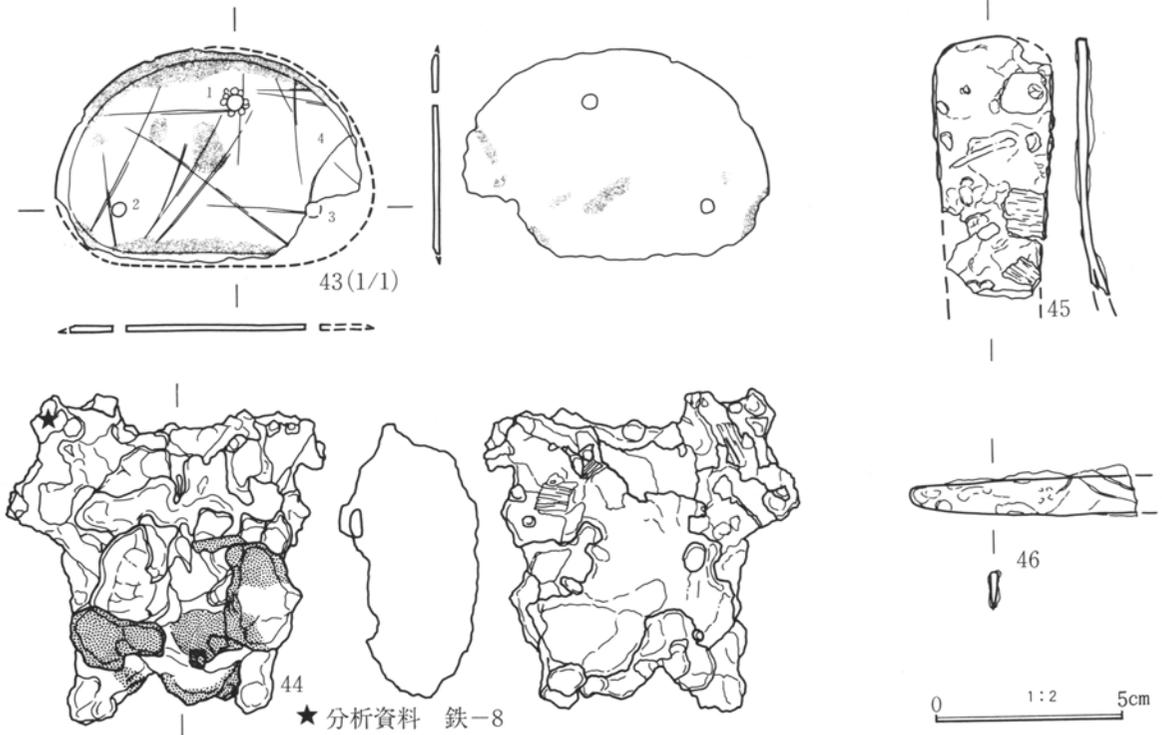
第55図 8号住居・出土遺物(2)



第56図 8号住居出土遺物(3)



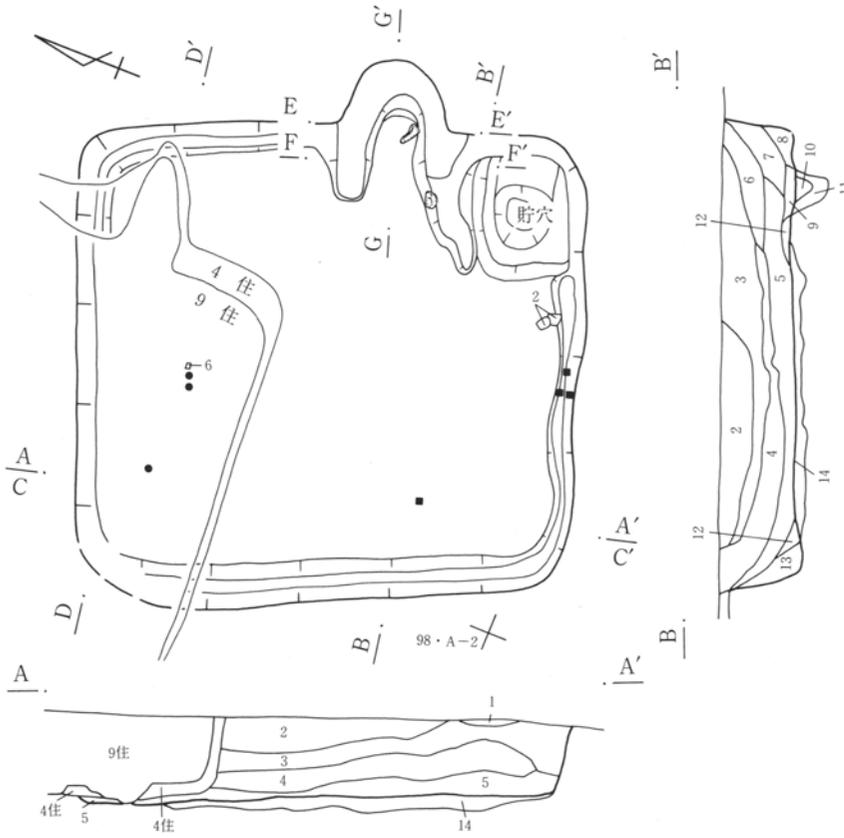
第57図 8号住居出土遺物(4)



★分析資料 鉄-8

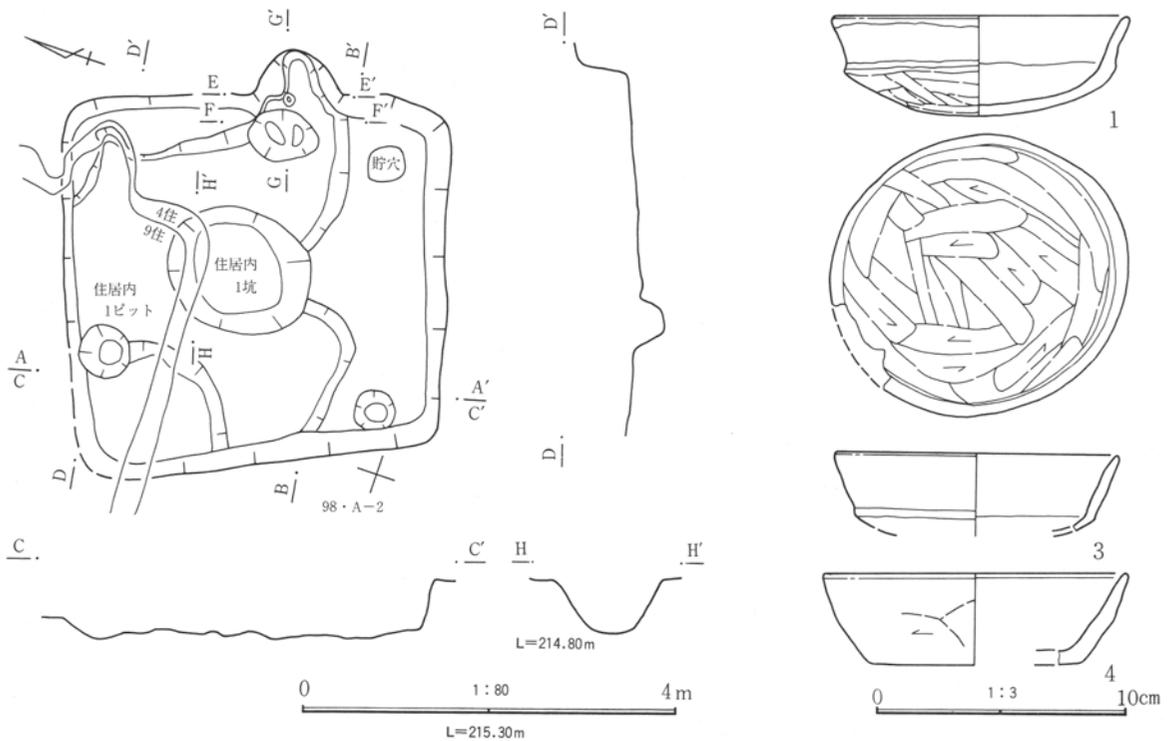
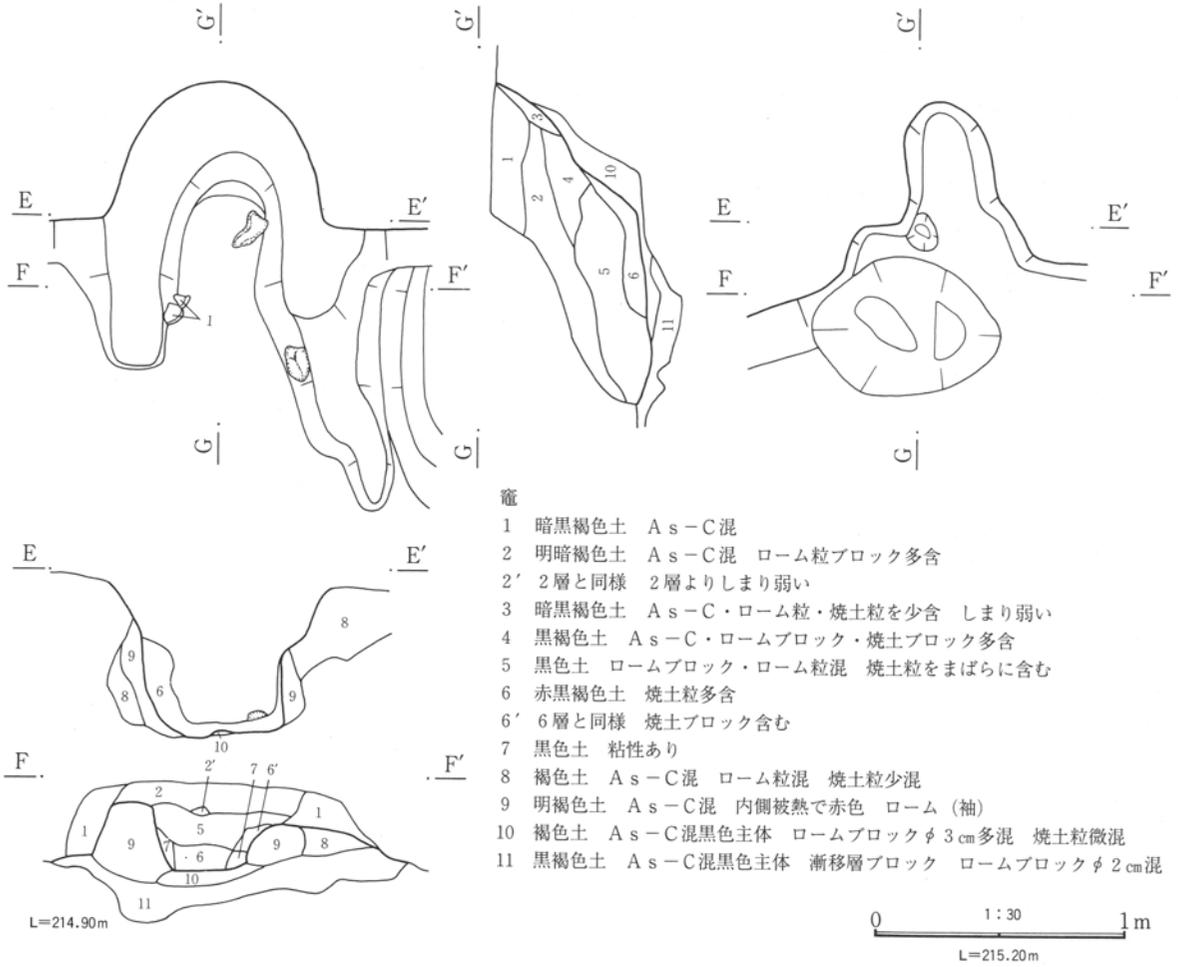
第58図 8号住居出土遺物 (5)

10号住居

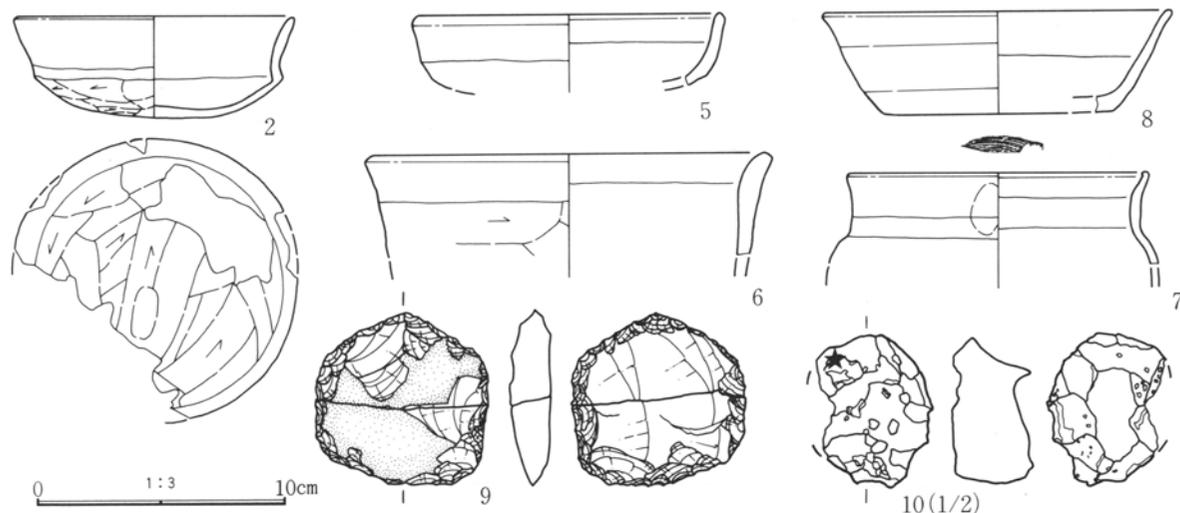


- 1 暗褐色土 As-C混 しまりなし
- 2 暗黒褐色土 As-C・ローム粒混
- 3 暗黒褐色土 As-C少混
φ1~2cm大のロームブロック及び漸移層ブロック混
- 4 黒色土 As-C少混 ローム粒混
- 5 暗黒褐色土 As-C少混
ロームブロック多混
- 6 3層に類似 ロームブロック少混
- 7 暗黒褐色土 As-C・φ1cm大のロームブロック混
- 8 暗黒褐色土 As-C・ローム粒混
- 9 暗黒褐色土 As-C少混
ローム粒混 しまりなし
- 10 黒色土 しまりなし (貯蔵穴)
- 11 10層と同様 ローム粒多混 しまりなし (貯蔵穴)
- 12 黒色土 粘性あり
- 13 黒色土 ローム粒少混
- 14 黒色土 しまりあり

第59図 10号住居



第60図 10号住居・出土遺物(1)



★分析資料 鉄-7

第61図 10号住居出土遺物(2)

10号住居

位置 97区T-2 **主軸方位** N-72°-E (北辺) **平面形状** 方形 **規模** 4.0×3.8m

重複 4号住居に切られる 9号住居に切られる **柱穴** なし **周溝** 全周 **貯蔵穴** 南東隅 上面方形 下面円形 地山を掘り残して貯蔵穴の周りを土手状に囲む **埋土** As-C混土層 **残存壁高** 0.65~0.7m **床面** As-SP面まで掘り込み、うすく貼り床 **竈** 東辺やや南寄り 燃烧部ほぼ壁面と同位置 横断面U字形 ロームブロックを貼り付けて袖とする **遺物** 1・2土師器坏唯一10号住居に伴う その他の遺物4・9号住居のもの 9は流れ込み **時期** 遺物より7世紀中頃(古墳時代)

11号住居A

位置 98区F-1 **主軸方位** N-85°-E (南辺) **平面形状** 方形 **規模** 3.75×2.55m

重複 2号溝に切られる 11号住居Bを切る 12号住居を切る

柱穴 北辺二穴確認 **周溝** なし **貯蔵穴** なし

埋土 As-C混土層 竈の前の床上15cmに大小80個程の角せん石安山岩集中して出土、9・10の羽釜混在、同時期に投棄されたものか **残存壁高** 0.42m

床面 貼り床はなくローム漸移層まで掘りくぼめただけ 石を除去すると住居中央南寄りに隅丸方形のロームが流れ込んだ跡が見られた 11号住居BからAへの建て替えに関係か?

竈 東辺やや南寄り 壁内面には20cm大の角せん石安山岩を二段以上積む 燃烧部壁面より外側へ20cm程出る ロームブロックを突き固めて袖とする

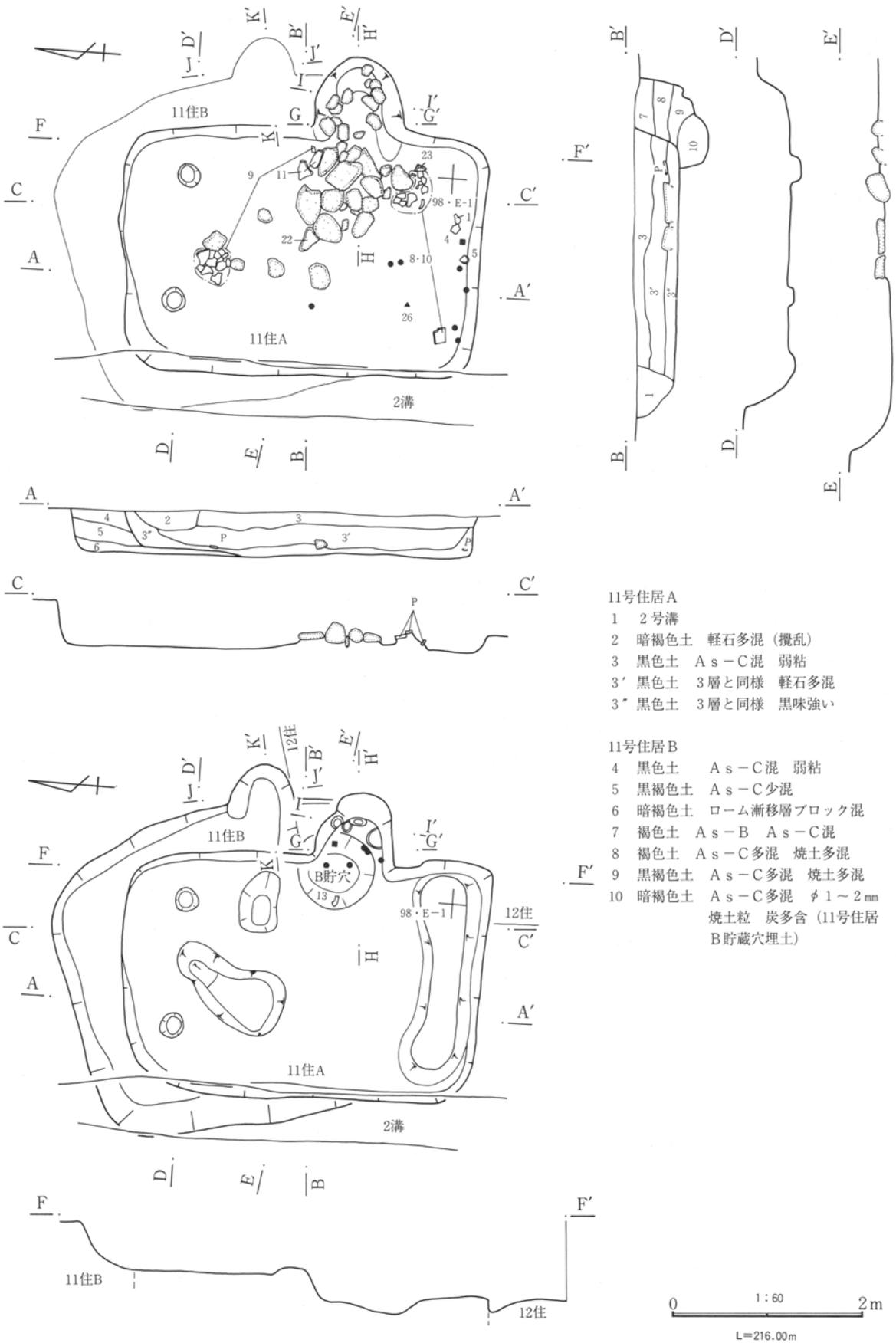
遺物 須恵器碗比較的南壁に沿って出土 8の須恵器羽釜は竈右袖上にあつたが住居内側に向けて崩落したらしい 金属附着の台石多く出土 埋土ではあるが灰釉陶器多く出土 **時期** 遺物より10世紀前半

11号住居B

位置 98区E-1 **主軸方位** N-80°-E (北辺) **平面形状** 11号住居Aとほとんど重複している隅丸方形 **規模** (2.7)×3.2m **重複** 11号住居Aに切られる 12号住居を切る **柱穴** 不明 **周溝** 不明 **貯蔵穴** 南東隅円形 11号住居竈下 **埋土** As-C混土層 ローム漸移層土

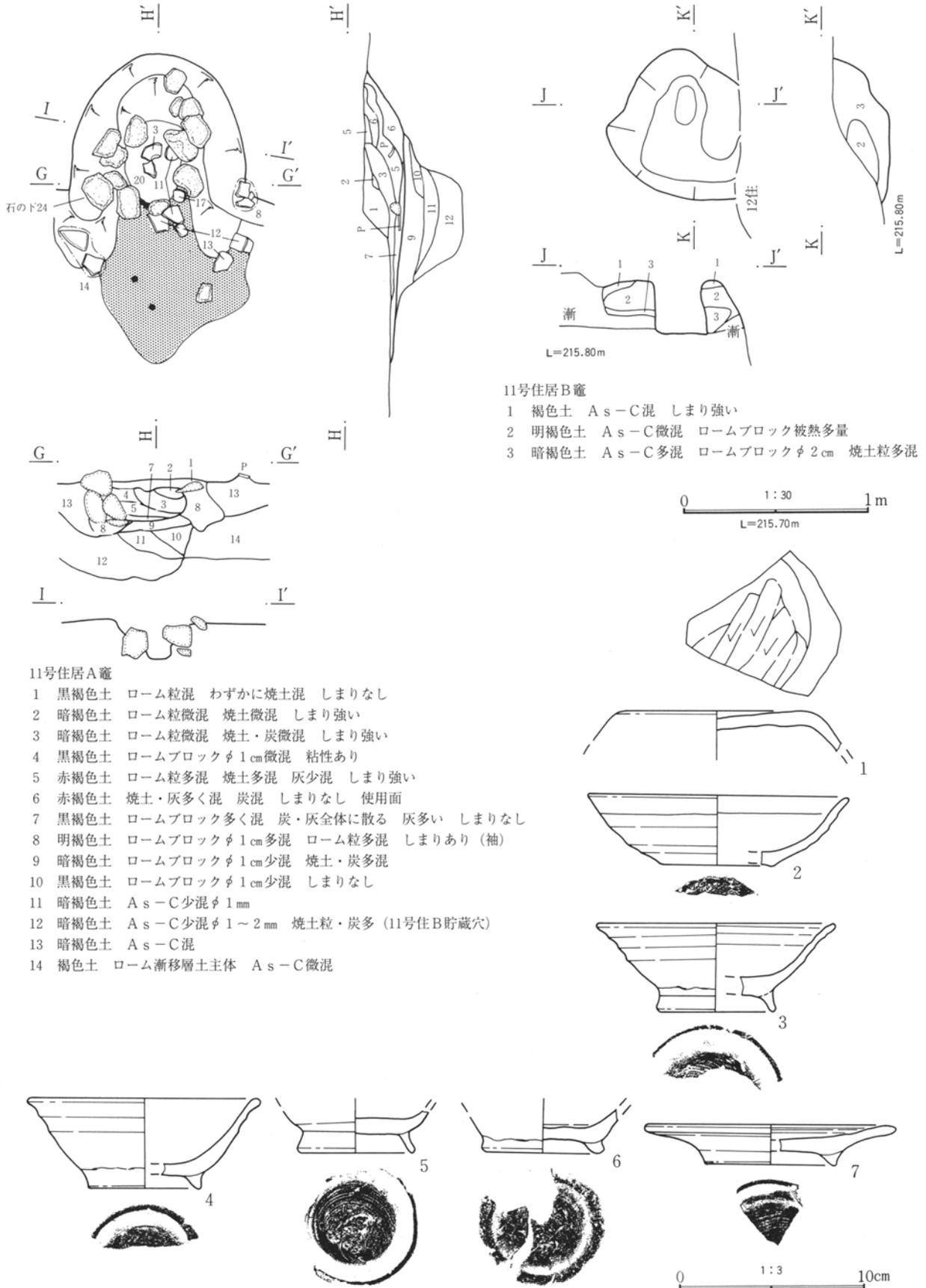
残存壁高 0.43m **床面** 掘りくぼめて固める **竈** 11号住居構築の際に破壊されたためか焼土のみ残

遺物 13の羽釜貯蔵穴付近で(11号住居A竈掘り方調査中)出土 **時期** 不明

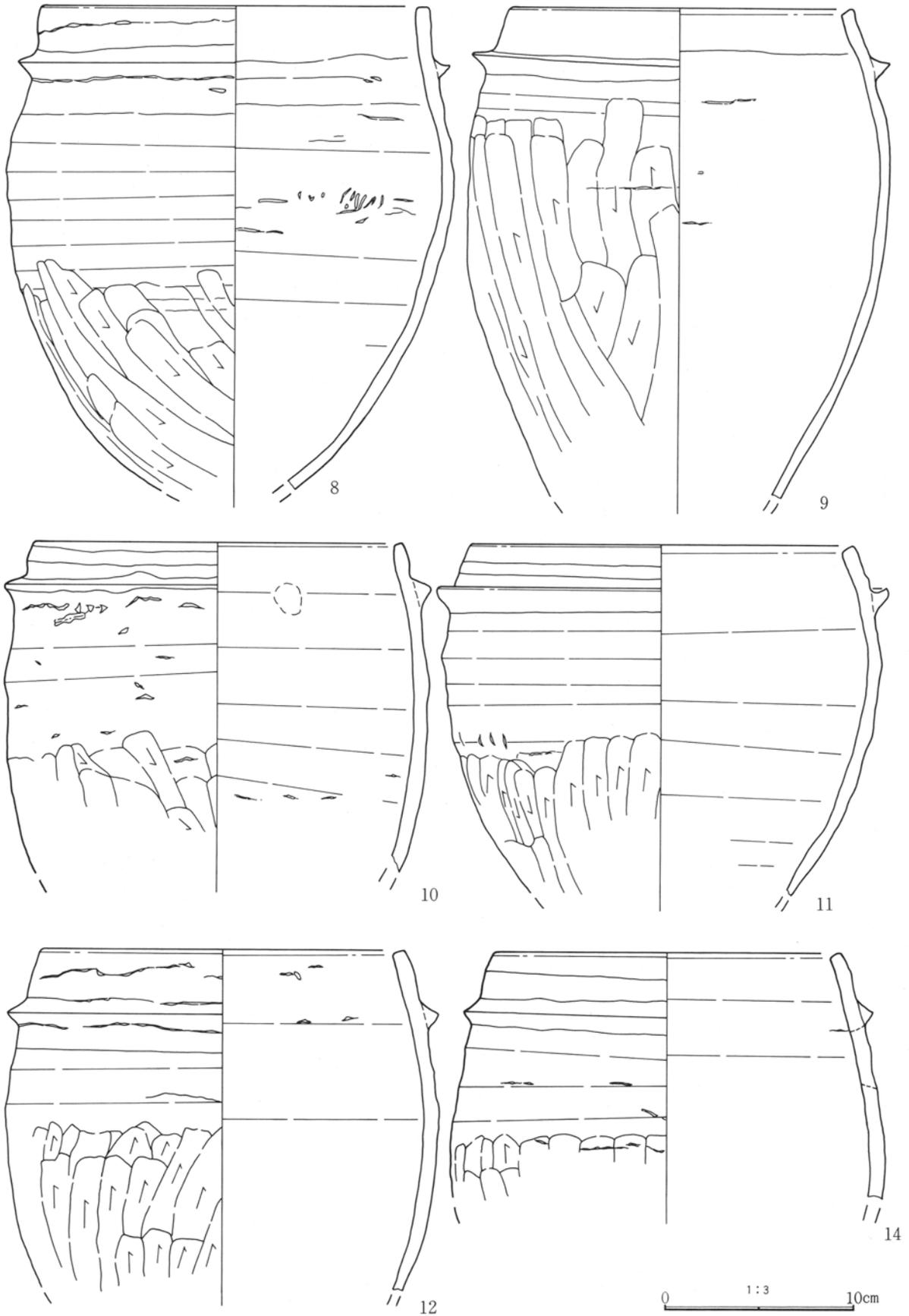


第62図 11号住居A・B

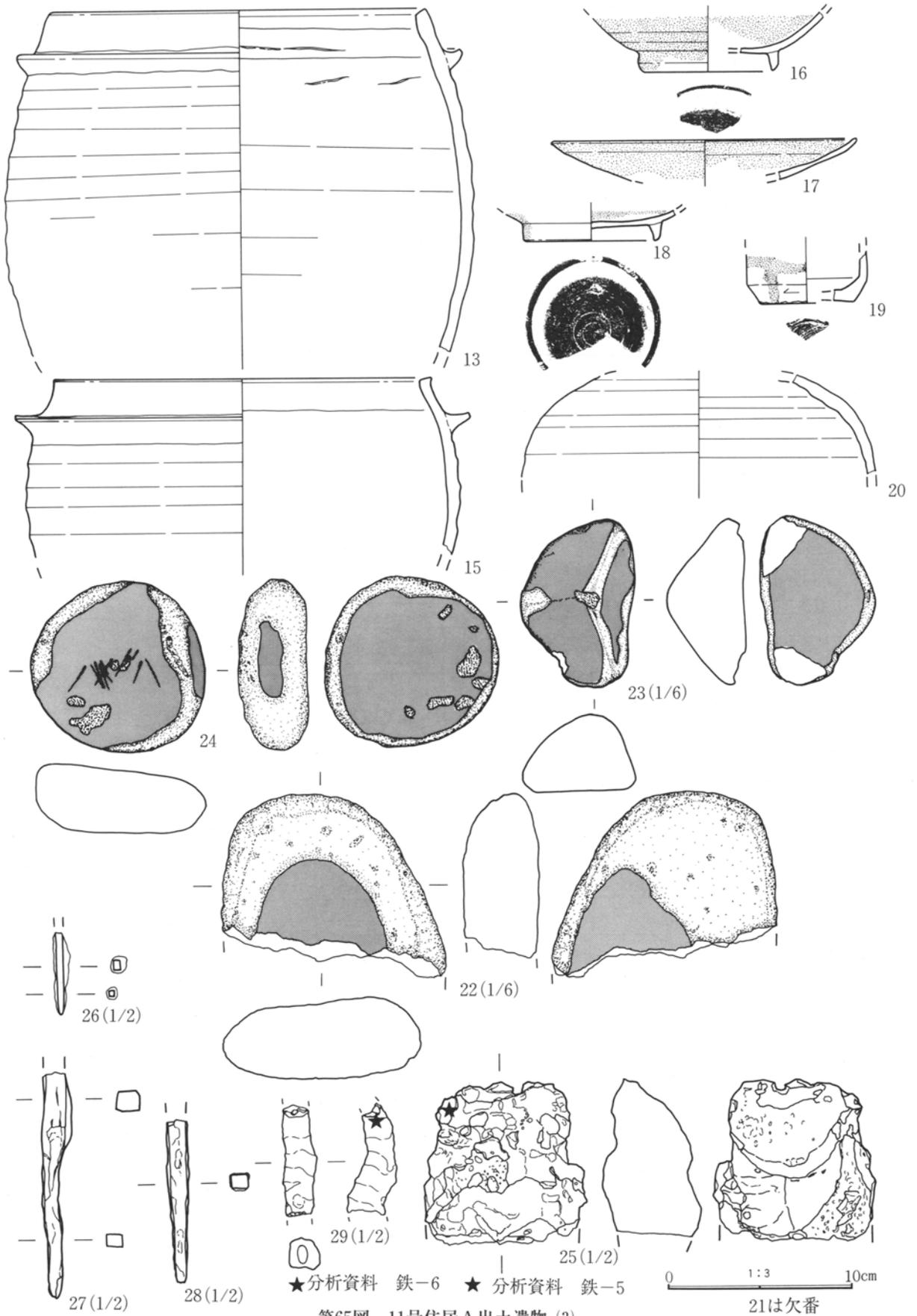
第IV章 検出された遺構と遺物



第63図 11号住居A・B・11号住居A出土遺物(1)

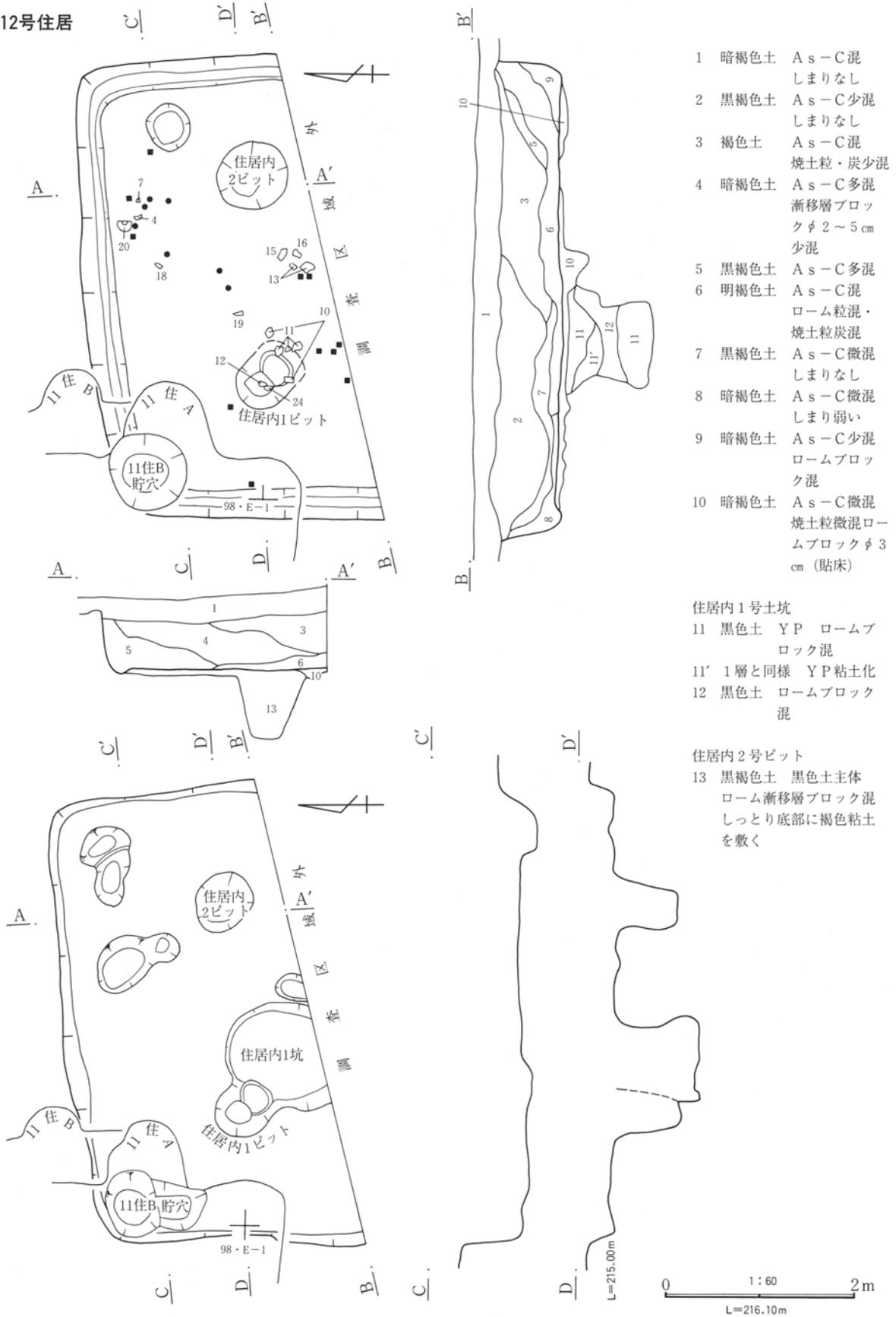


第64図 11号住居A出土遺物(2)

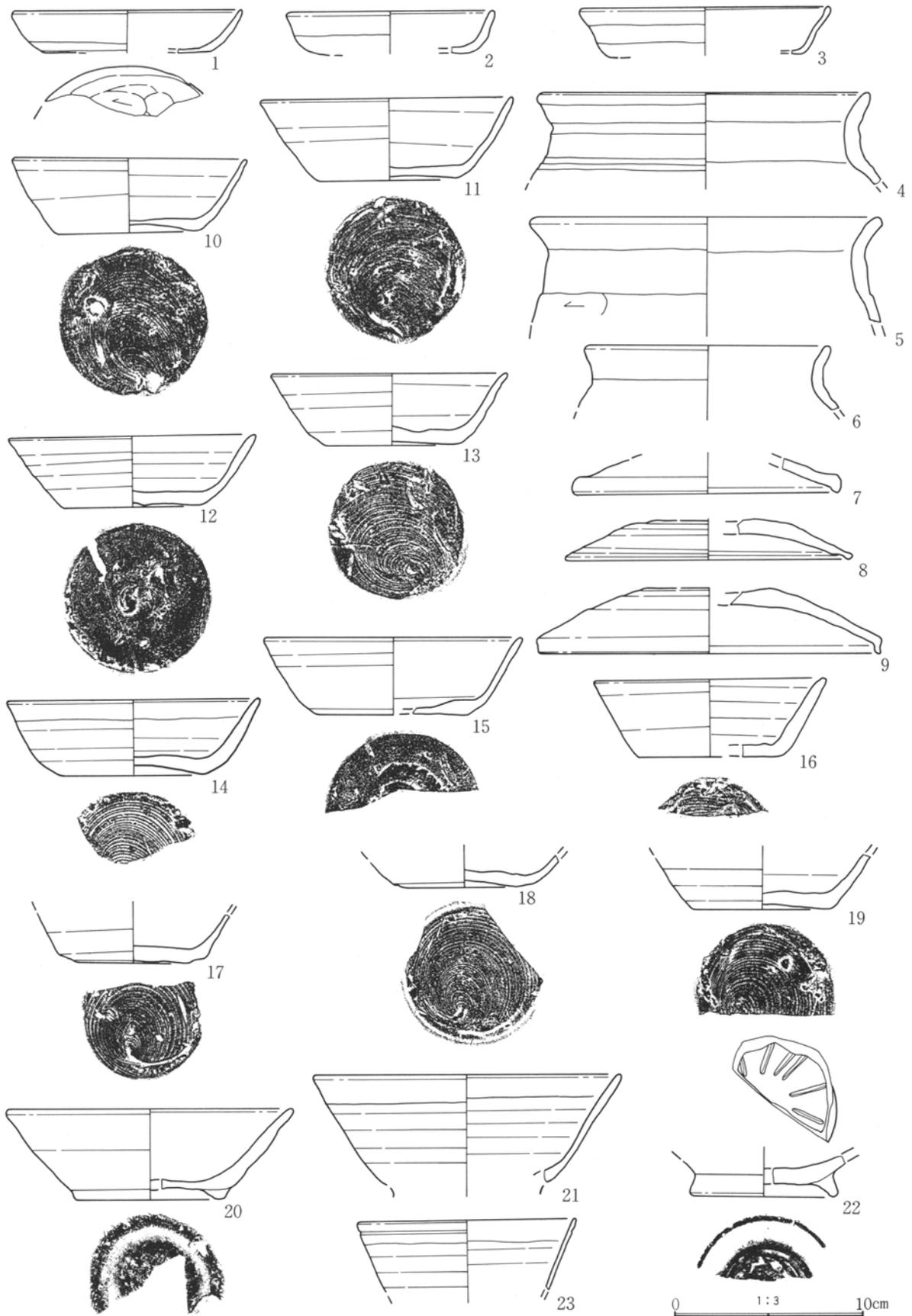


第65図 11号住居A出土遺物(3)

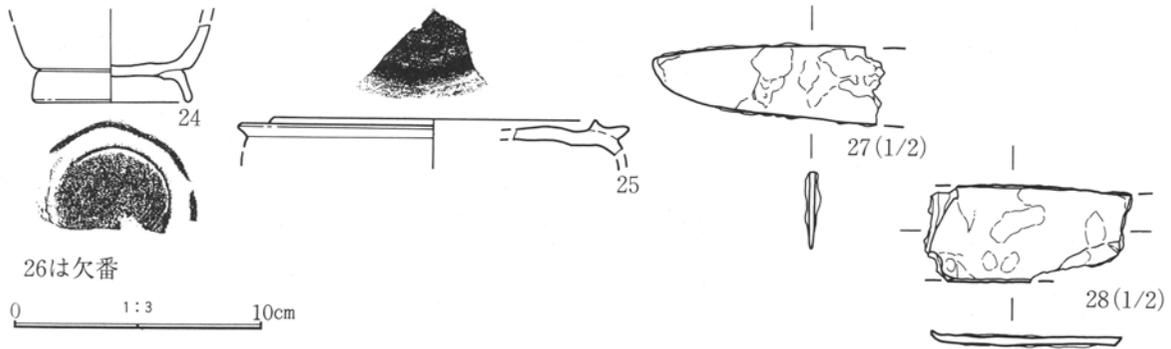
12号住居



第66図 12号住居



第67図 12号住居出土遺物 (1)



第68図 12号住居出土遺物(2)

12号住居

位置 98区D-1 **主軸方位** N-84°-E

平面形状 南半分(竈含む)が調査区域外 北半分のみ調査 **方形** **規模** 4.85×(2.8)m **大型**

重複 11号住居A・Bに切られる **柱穴** 北辺2穴検出 **深さ** 60cm **周溝** 全周 **貯蔵穴** 不明

埋土 As-C混土層 **残存壁高** 0.6m

床面 As-SP直上のローム層土まで掘り下げ、ロームブロック混土で貼り床

土坑 中心より北西寄りに掘り方時と見られる1号土坑 直径120cm程、深さ95cm、SP下のローム土層中で袋状をなす 底面は平坦で断面はフラスコ状、人為埋没とみられる

竈 調査区域外のため確認できないが、埋土に焼土、炭多く検出

遺物 大半の遺物が流れ込みと考えられる 床面より少し下がったところから出土している13・15の須恵器坏がこの住居に伴うと見られる 底部ヘラ切り坏1号土坑上部より出土 22は内黒で放射状の磨きが見られる **時期** 遺物より9世紀第2四半期

14号住居

位置 97区S-2 **主軸方位** N-101°-E **平面形状** 方形 **規模** 3.5×2.5m

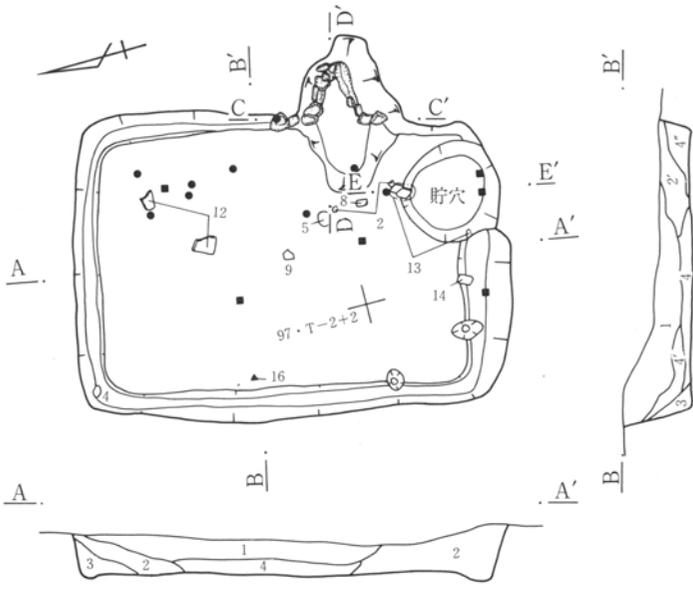
重複 なし **柱穴** なし **周溝** 貯蔵穴部分を除き全周 **貯蔵穴** 南東隅円形

埋土 As-C混土層 砂岩点在(竈使用と同様)比較的早い時期に投棄されたものと思われる(床面直上のものがある) **残存壁高** 0.5~0.25m **床面** ローム漸移層まで掘りくぼめて踏みしめる

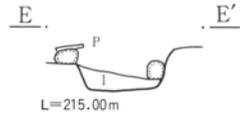
竈 東辺やや南寄り 壁際に焚口をおき、全体を壁外に造る 20cm大の円柱状の角せん石安山岩、面取りされた砂岩を袖部分には縦長に貼付 燃烧部では二段以上に横置きする 煙道には1の甕使用

遺物 竈周辺からいずれも厚手のコの字甕出土 須恵器碗数点出土 鉄製品西壁際から出土 **時期** 遺物より10世紀前半

第IV章 検出された遺構と遺物

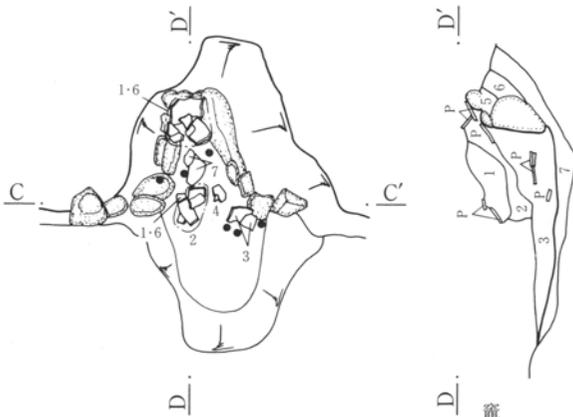
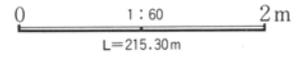


- 1 暗褐色土 A s-Cを密に混
- 2 暗褐色土 A s-C混黒色土ブロック
漸移層ブロックを含む
- 2' 2層と同様 焼土粒混
- 3 暗褐色土 A s-C混入 しまり弱い
- 4 黒褐色土 漸移層粒を含む 粘性あり
- 4' 4層と同様 ロームブロックを含む
- 4'' 4層と同様 焼土粒混



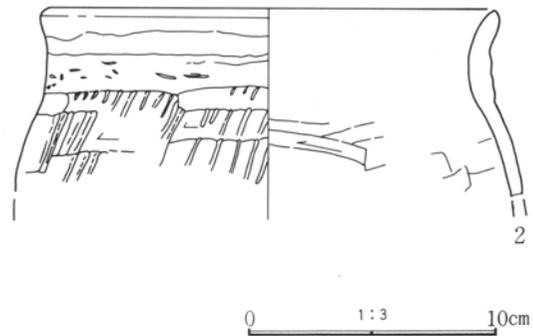
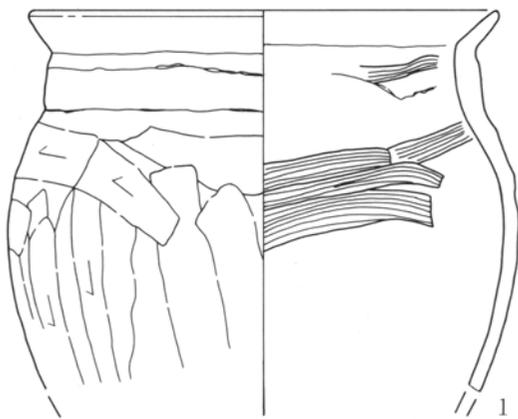
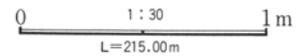
貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒まばらに混入
粘性あり 壁際混入物多い

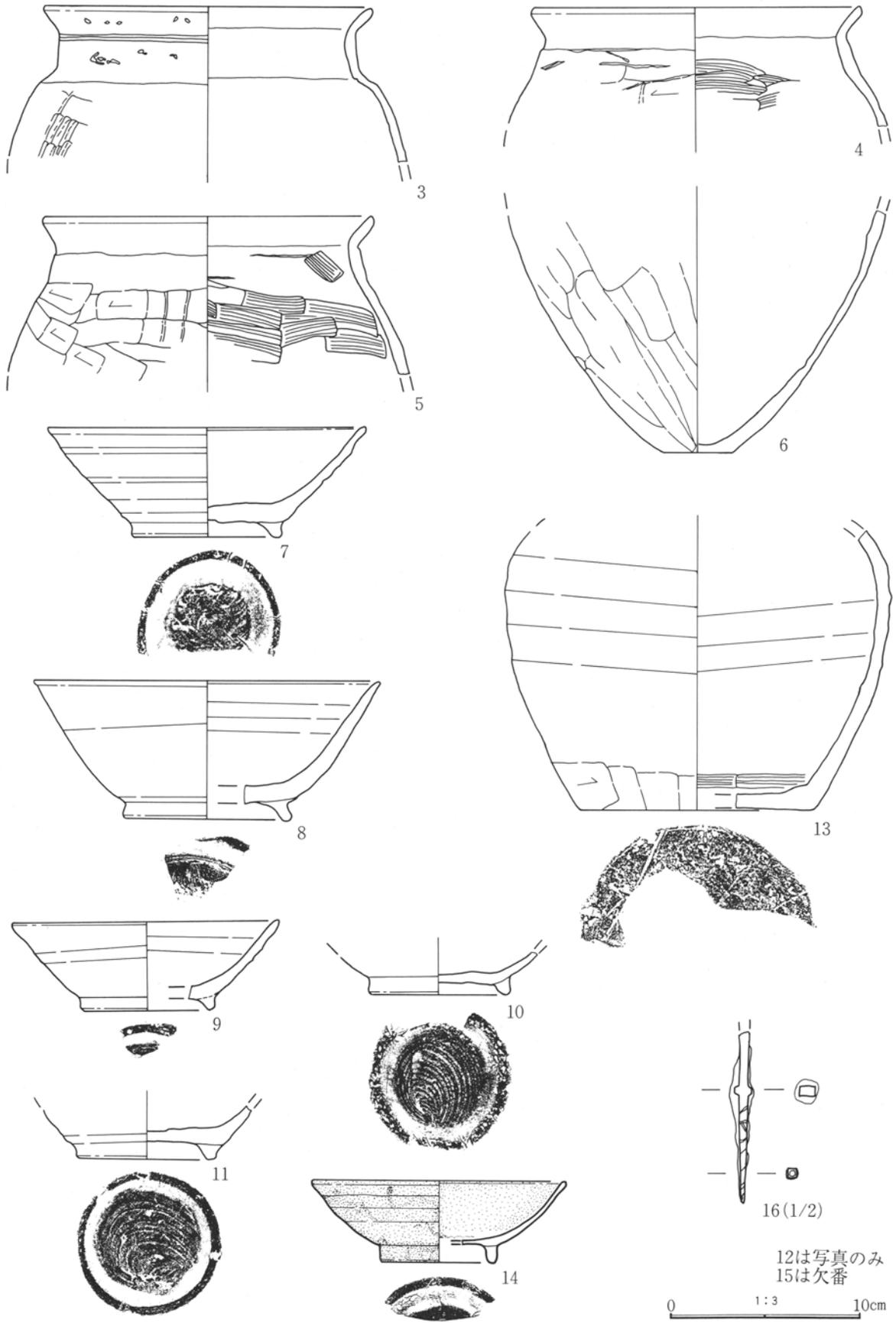


竈

- 1 暗褐色土 ロームブロックとの混土 (袖補強や天井材)
- 2 暗褐色土 A s-C・焼土少混
- 3 暗褐色土 焼土多い
- 4 暗褐色土 ローム漸移層ブロック混
- 5 明褐色土 ロームブロック主体 焼土微混 しまり弱い
- 6 暗褐色土 ローム漸移層土 ローム粒微混 焼土粒少混 しまりなし
- 7 暗褐色土 ローム漸移層土 しまりなし



第69図 14号住居・出土遺物 (1)



第70図 14号住居出土遺物 (2)

15号住居

位置 88区O-17 主軸方位 N-15°-W 平面形状 方形 規模 4.3×3.66m

重複 591号ピットを切る(初見) 柱穴 なし 周溝 全周 貯蔵穴 北東隅 小型

埋土 As-C混土層 残存壁高 0.9m 残存状態良い

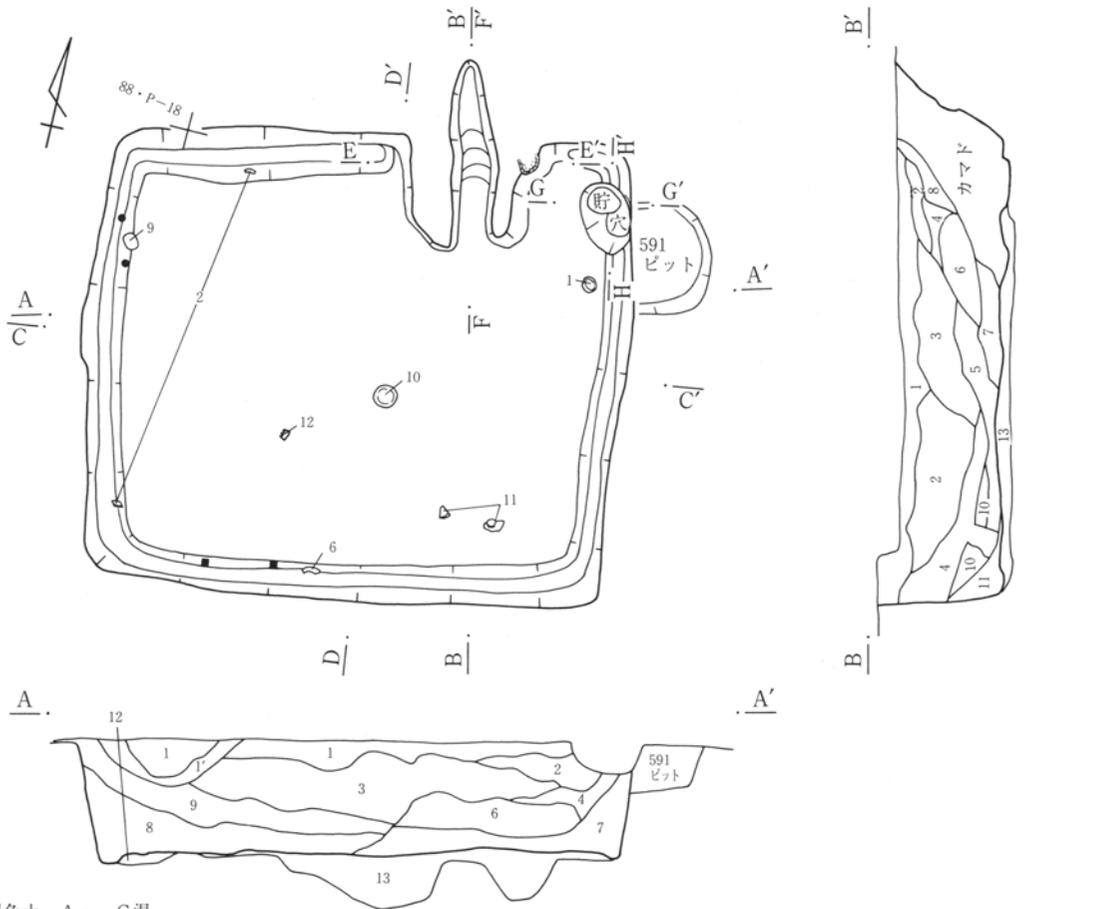
床面 As-SPまで掘り込み、ロームブロックで突き固めた貼り床

土坑 掘り方時と見られる1号土坑 東壁に梯子の足の痕跡らしき浅い落ち込みあり

竈 北辺東寄り 燃烧部壁面より50cm程中に入る 黒色土を芯にロームブロックを貼り付け袖にする

遺物 土師器丸底坏貯蔵穴周辺から出土 8の甕竈左袖付近から出土 須恵器蓋南壁寄りから出土 14・15

は明らかな流れ込み 時期 遺物より8世紀第1四半期

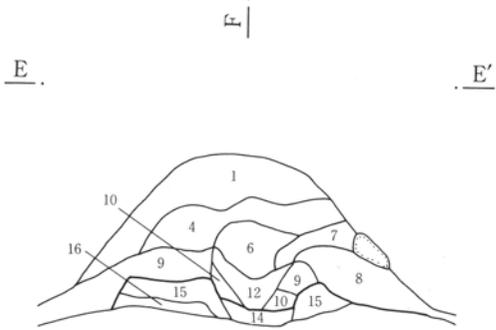
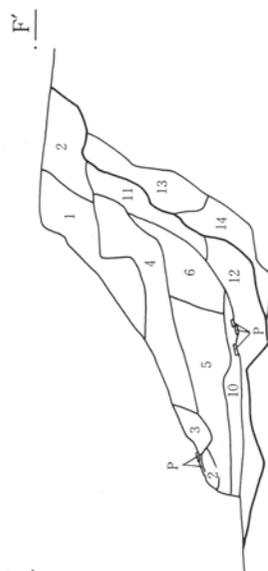
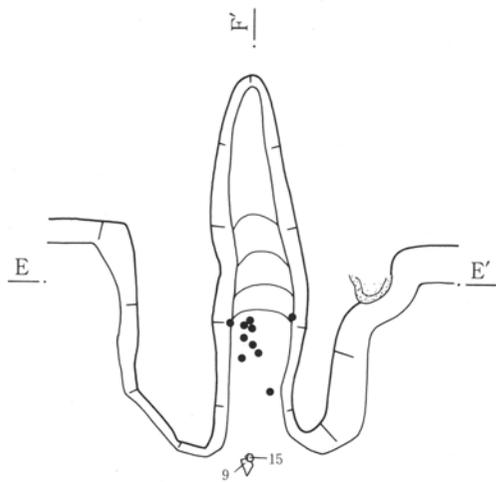


- | | |
|---|--|
| 1 黒色土 As-C混 | 8 暗褐色土 As-C少混 ローム粒多混 ロームブロック
φ1cm 漸移層ブロック |
| 1' 1層と同様 漸移層ブロック混 | 9 黒色土 As-C混 ロームブロックφ1~10cm |
| 2 黒色土 As-C混 ロームブロックφ1cm ローム粒 | 10 黒褐色土 As-Cほとんどなし 漸移層土 |
| 3 黒色土 As-C混 ロームブロックφ1~2cm | 11 褐色土 As-Cほとんどなし 漸移層土 |
| 4 黒色土 As-C少混 ロームブロックφ2cm
漸移層ブロック | 12 黒色土 ロームブロック(貼床) |
| 5 黒色土 As-C少混 ロームブロックφ2~5cm | 13 黒色土 YP 漸移層土をブロックにして突き固めた
(住居内1号土坑・1号ピット) |
| 6 暗褐色土 As-C少混 漸移層ブロック ローム粒
ロームブロックφ2cm | |
| 7 暗褐色土 6層と同様 焼土粒・炭混 | |

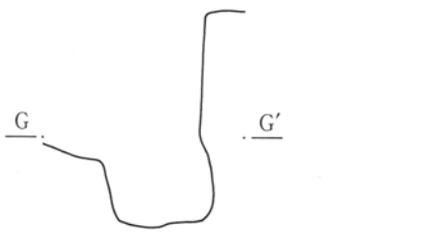
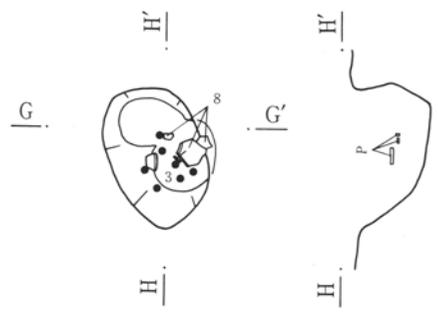
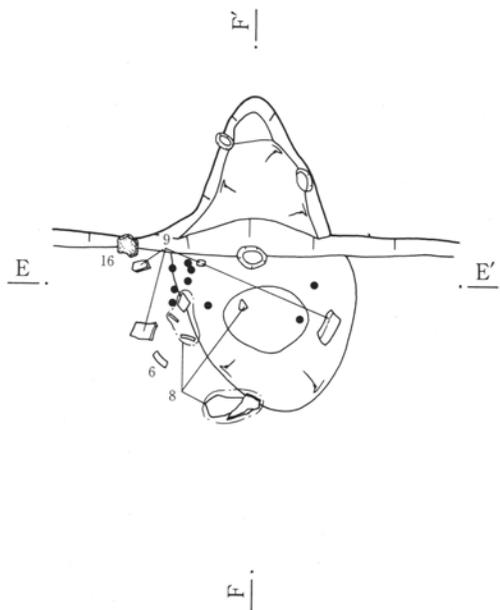
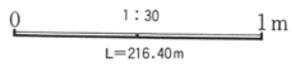
0 1:60 2m
L=216.60m

第71図 15号住居

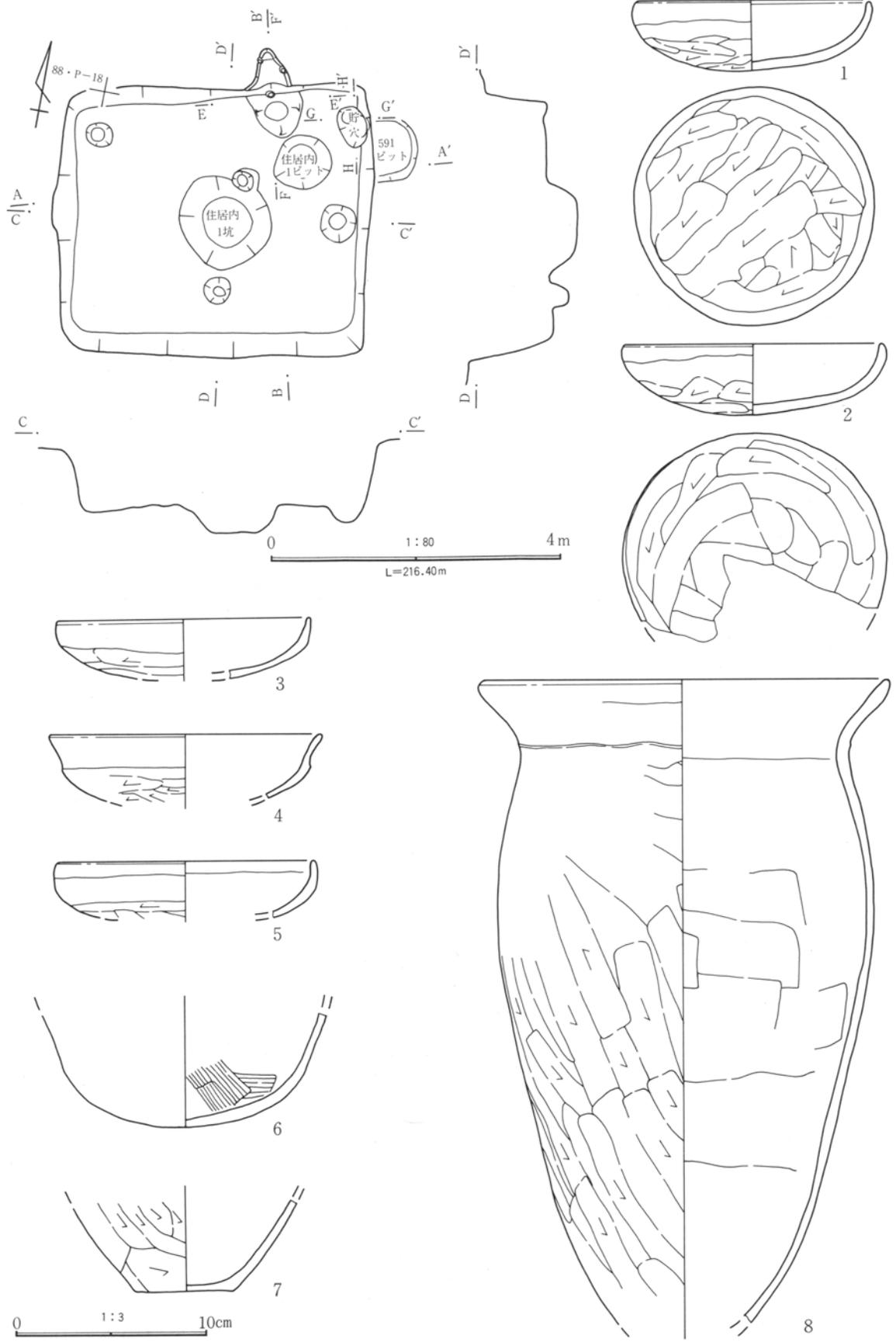
第2節 奈良・平安時代以降



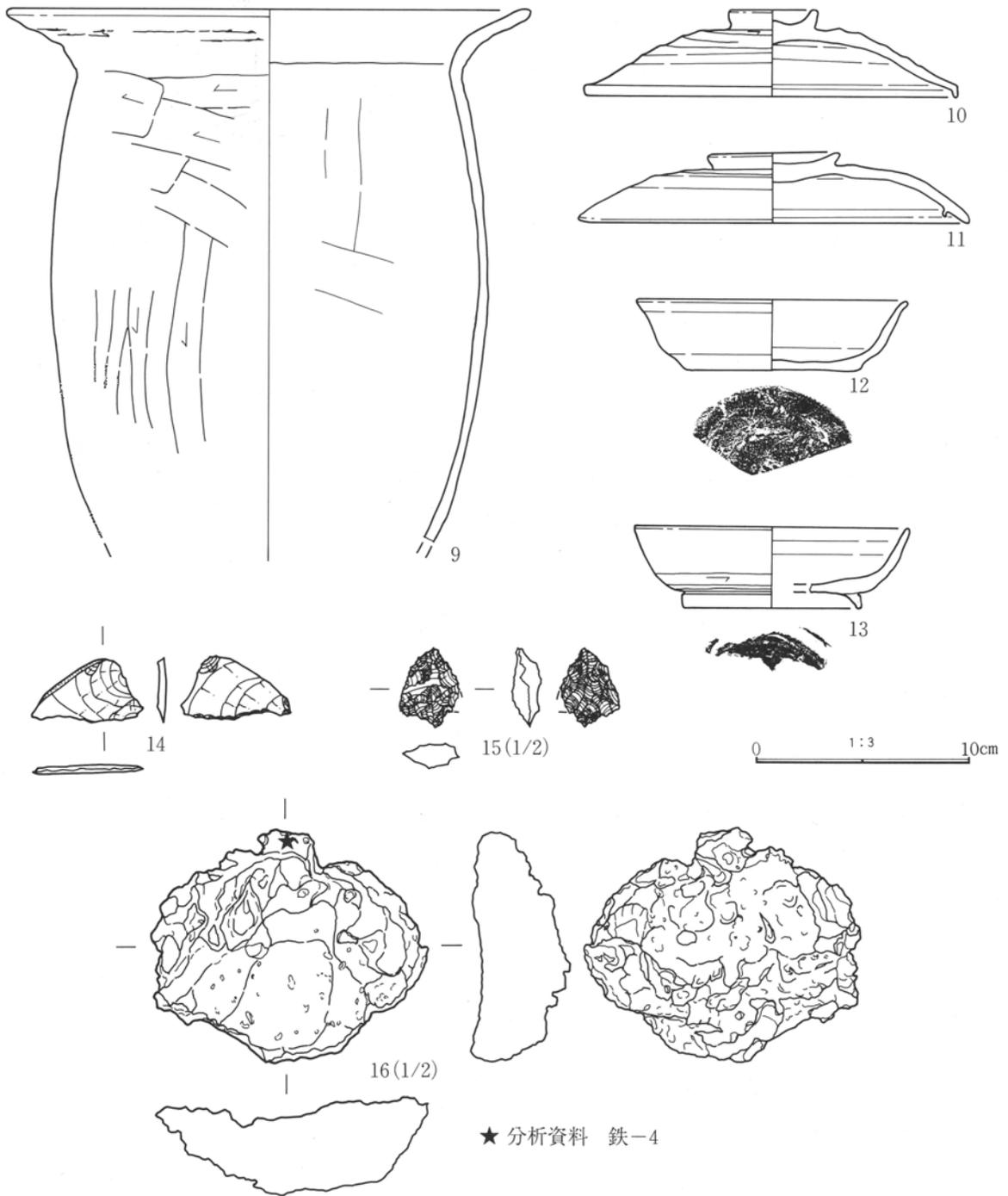
- 竈
- 1 暗褐色土 A s-C混 ローム粒混
ロームブロックφ1~4cm A s-C混
黒色土がまばら
 - 2 明褐色土 A s-C混 ローム主体
焼土粒混
 - 3 暗褐色土 A s-C混 ローム粒混
 - 4 暗褐色土 A s-C混 ローム粒混
A s-C混黒色土がまばら
 - 5 暗褐色土 A s-C混 ローム粒混
焼土少混 ロームブロックφ2cm
 - 6 暗褐色土 A s-C少混 ロームブ
ロックφ3cm混
 - 7 暗褐色土 ローム粒 ロームブロッ
クφ1cm混
 - 8 黒褐色土 A s-C混 ロームブロッ
クφ3cm多混
 - 9 暗褐色土 A s-C混 ロームブロッ
クφ2cm多混 焼土粒混
 - 10 黒色土 A s-C混 ローム粒混
焼土混
 - 11 明褐色土 ロームブロック混 下面
被熱で赤 (天井の崩落)
 - 12 暗褐色土 ローム漸移層土 炭・
焼土粒(φ1cm)多混
 - 13 褐色土 ローム漸移層土・ローム
ブロックφ1cm 焼土粒微混
 - 14 暗褐色土 ローム漸移層土 灰・
焼土粒
 - 15 明褐色土 ロームブロック貼り付(袖)
 - 16 明褐色土 Y Pブロック・黒色土を
互層



第72図 15号住居



第73図 15号住居・出土遺物(1)



第74図 15号住居出土遺物 (2)

17号住居

位置 90区C-11 主軸方位 N-93°-E

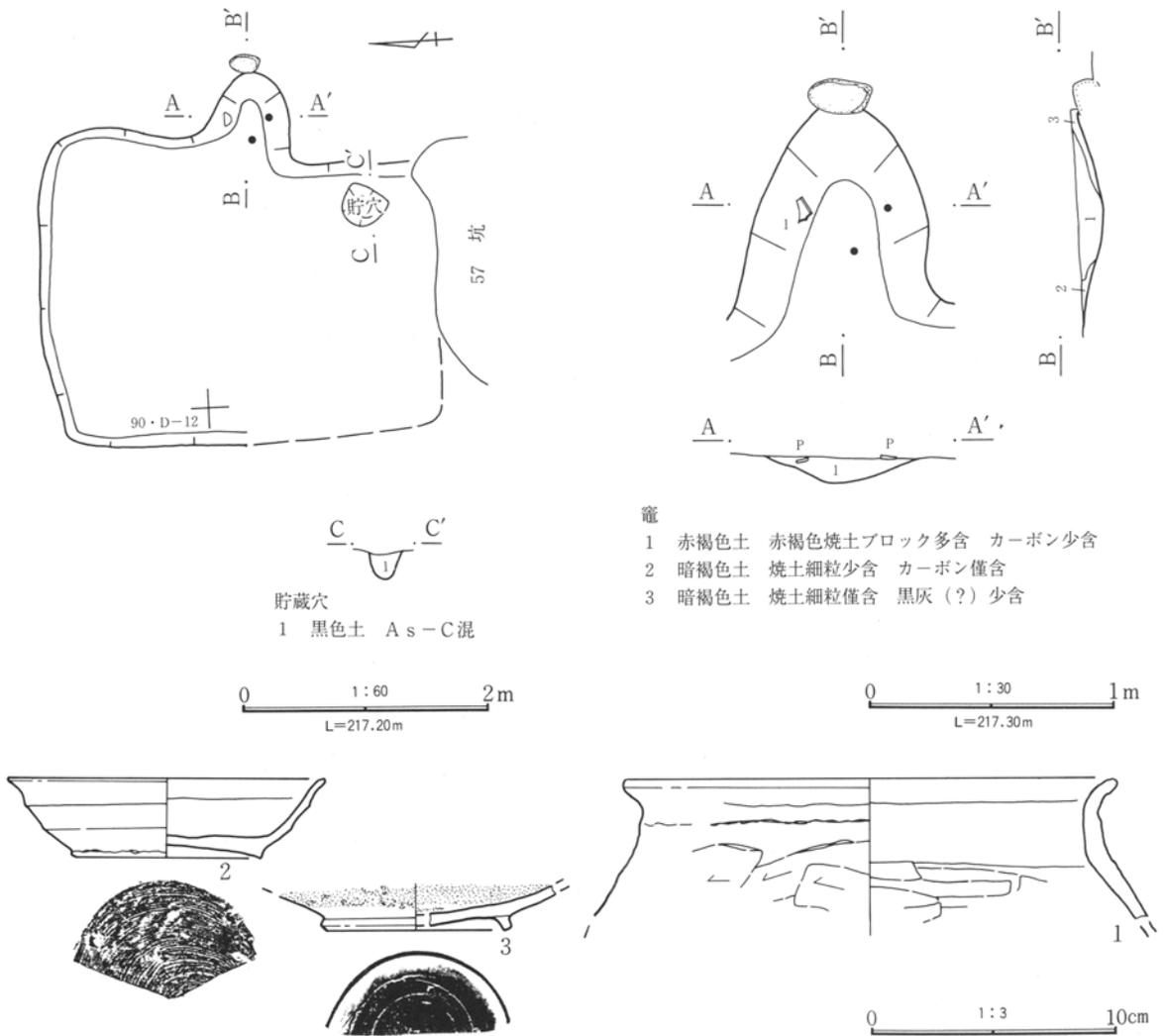
平面形状 方形 竈部分のみ確認 他は削平 規模 (3.2)×2.45m

重複 57号土坑に切られる 柱穴 なし 周溝 なし 貯蔵穴 東南隅 円形

埋土 不明 残存壁高 0.3m (竈掘り方) 床面 不明

竈 浅い掘り込みに焼土、炭検出

遺物 厚手のコノ字甕竈付近から出土 時期 遺物より10世紀前半



竈

- 1 赤褐色土 赤褐色焼土ブロック多含 カーボン少含
- 2 暗褐色土 焼土細粒少含 カーボン僅含
- 3 暗褐色土 焼土細粒僅含 黒灰(?)少含

貯蔵穴
1 黒色土 A s - C混

第75図 17号住居・出土遺物

18号住居

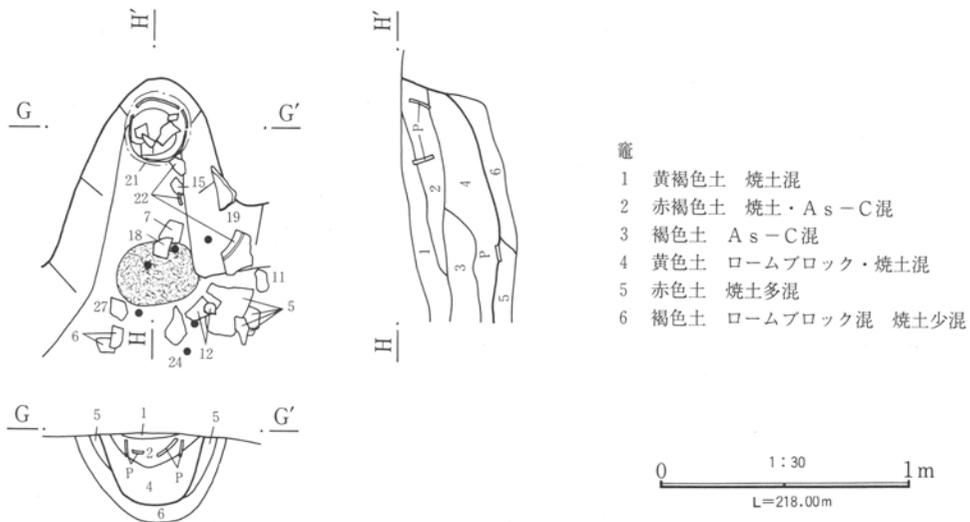
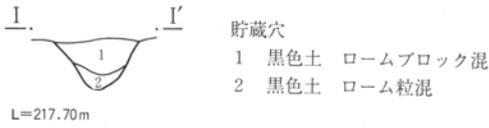
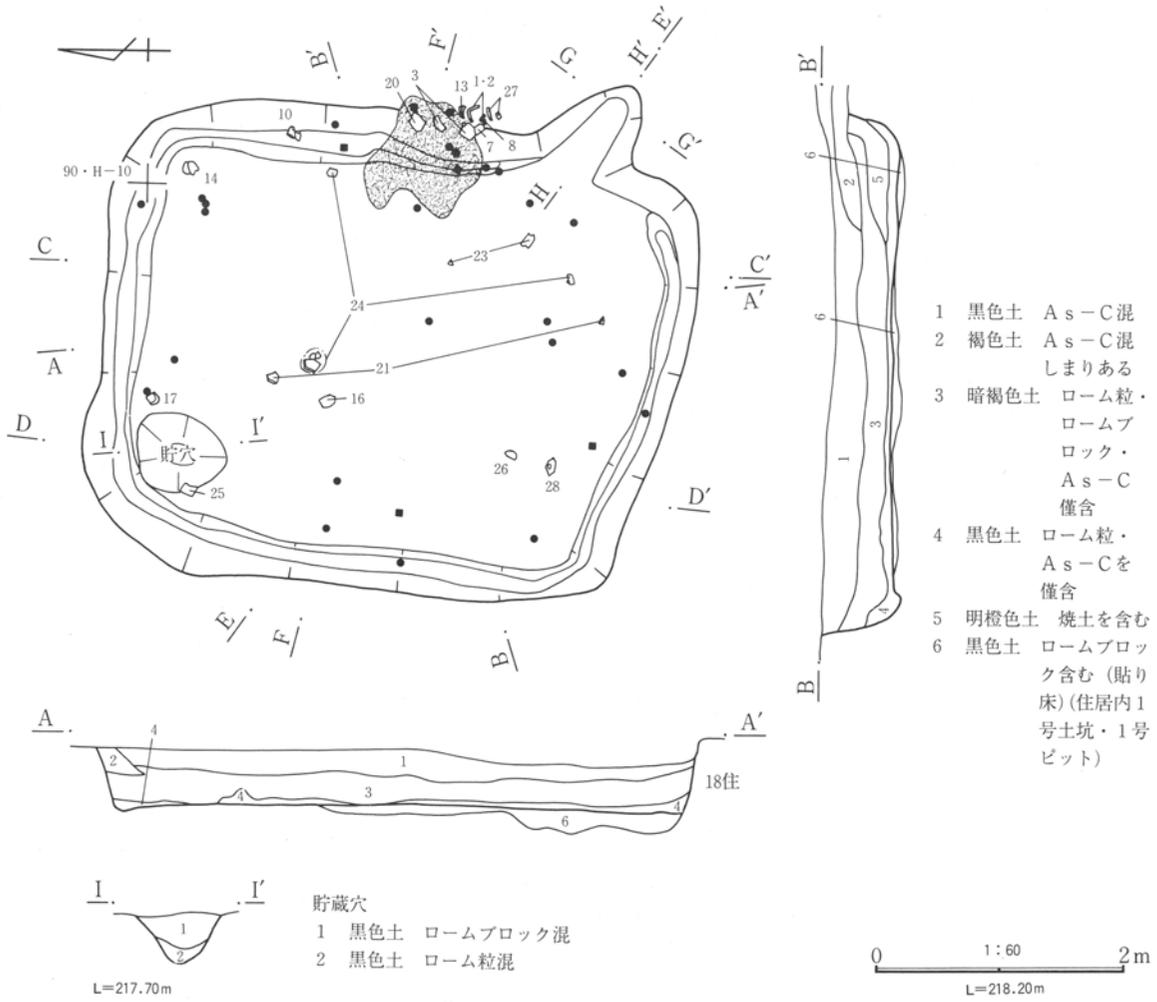
位置 90区H-9 主軸方位 N-125°-E 平面形状 隅丸方形 規模 4.7×3.7m 重複 なし

柱穴 なし 周溝 全周 貯蔵穴 北西隅円形 埋土 A s - C混土層 残存壁高 0.55~0.4m 床面 黒色土・ロームブロックで貼り床

竈 東辺南寄り 燃烧部壁面と同位置 横断面U字形 煙道先端に21の羽釜をふせる

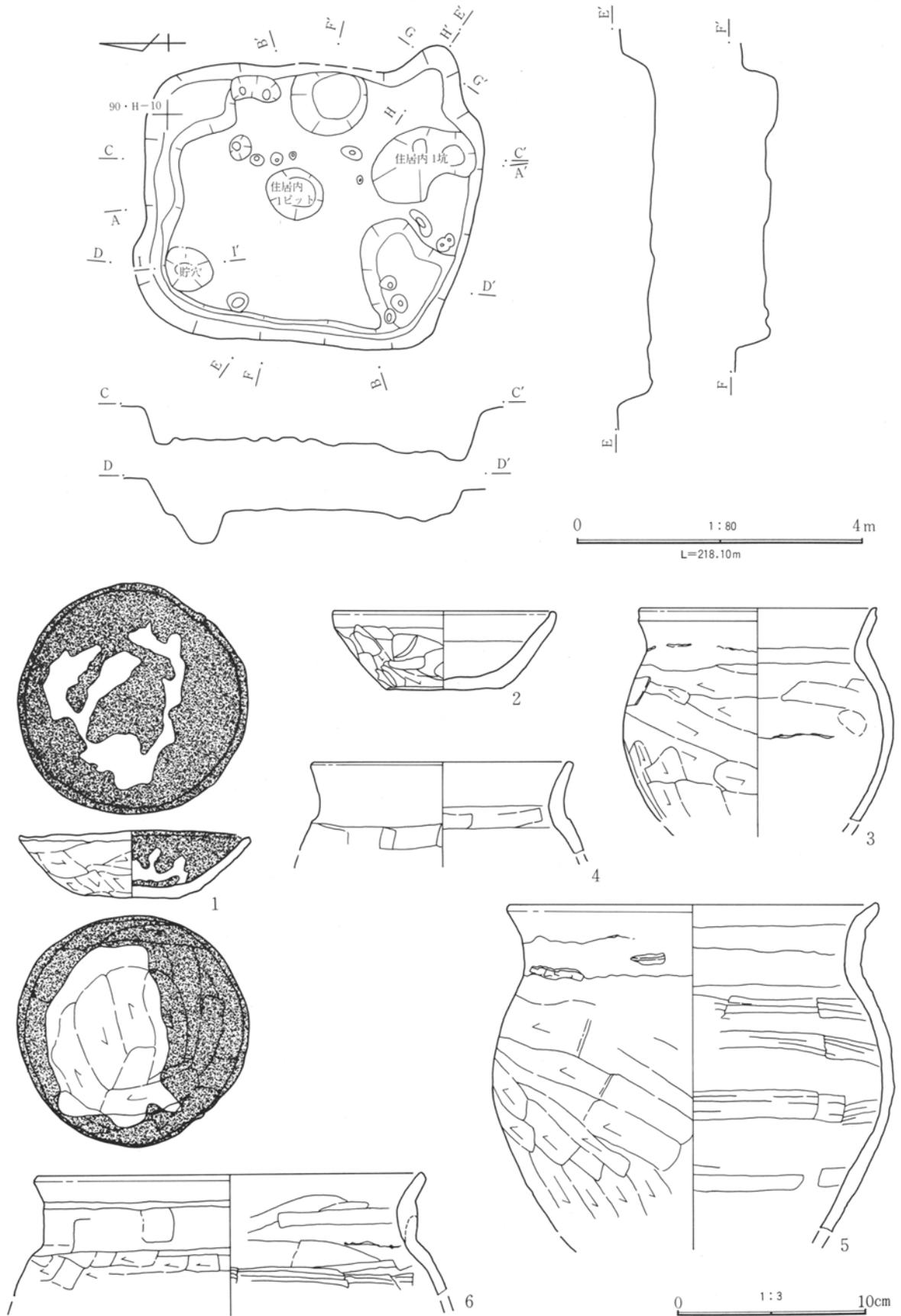
備考 東壁中央部の径1m範囲内に遺物、焼土集中して分布(竈の作り替えか)

遺物 東壁中央付近から遺物多量に出土 土師器厚手雑な作りの坏 厚手コの字甕 羽釜 灰釉陶器碗等 14の須恵器墨書「西」? 碗は北東隅の床面直上で出土 羽釜出土数多い 灰釉陶器出土数多い 埋土ではあるが砥石3個体出土 29・30は明らかな流れ込み 時期 遺物より10世紀前半

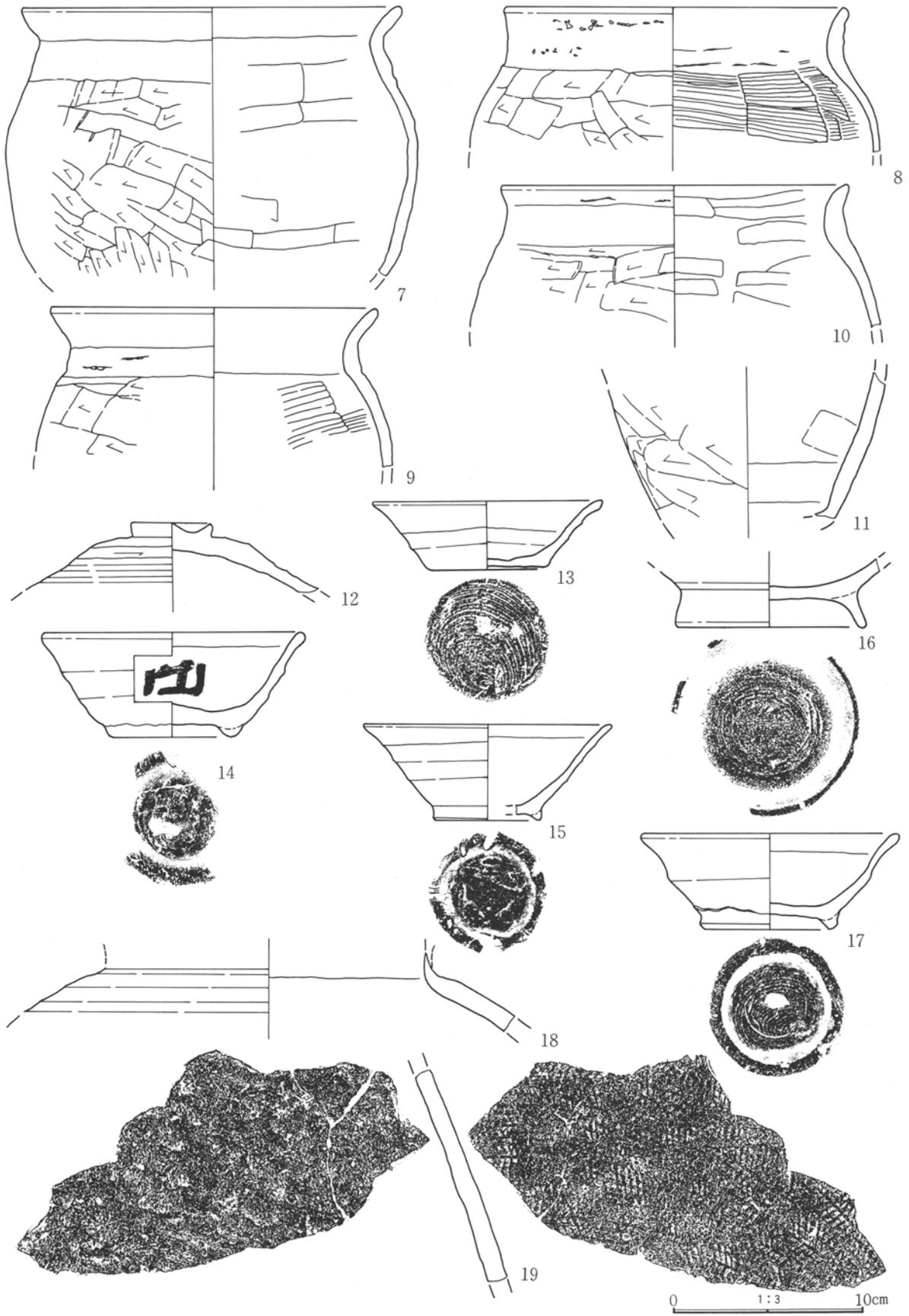


第76図 18号住居

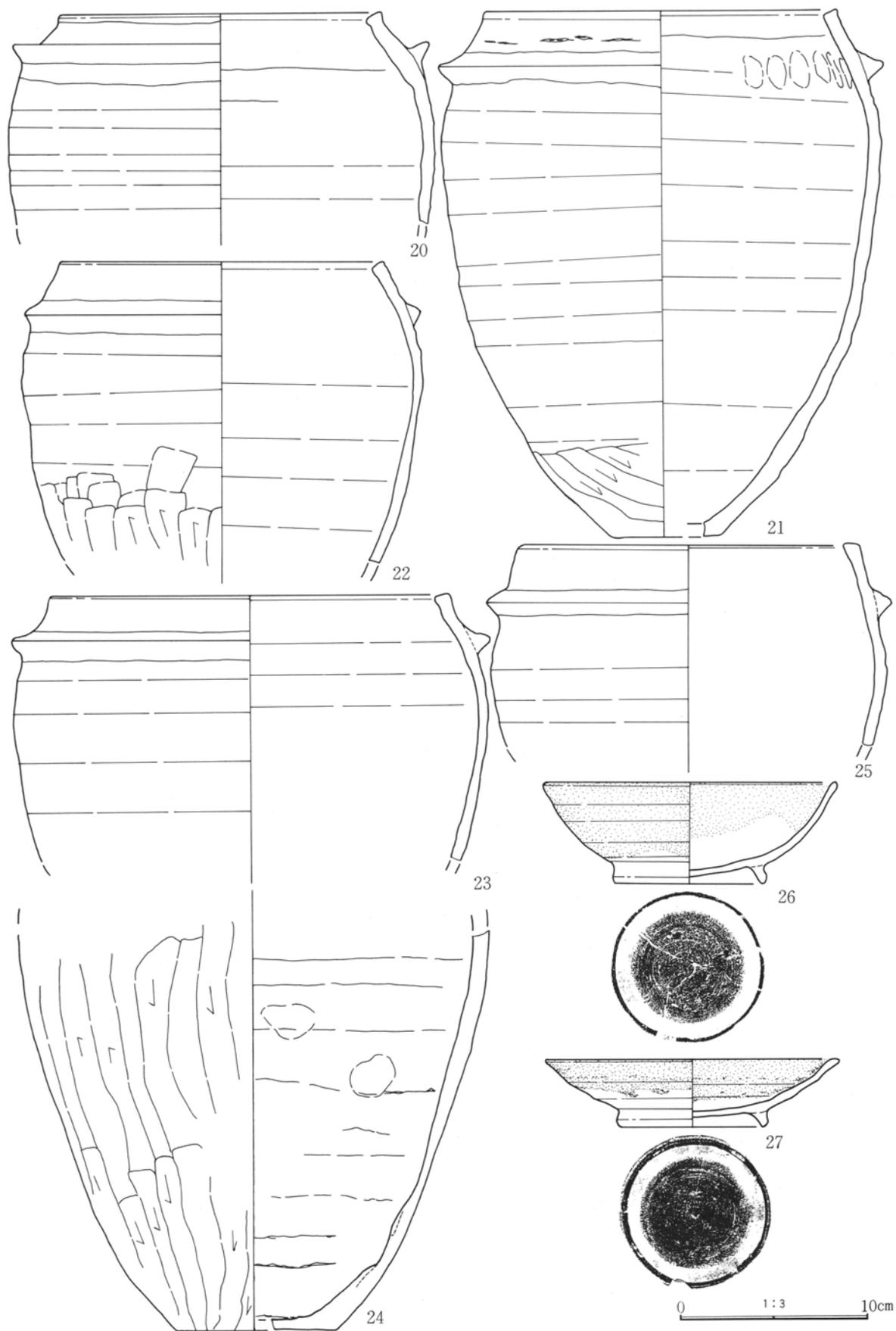
第IV章 検出された遺構と遺物



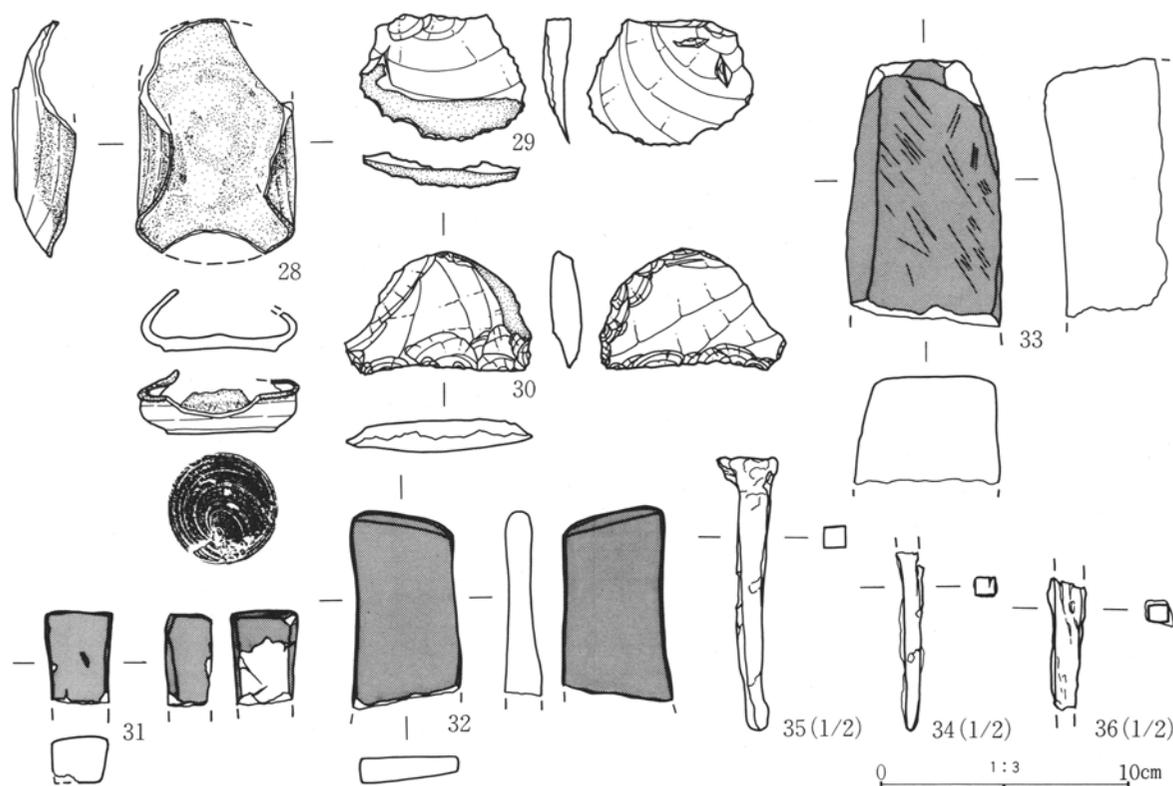
第77図 18号住居・出土遺物 (1)



第78図 18号住居出土遺物(2)



第79図 18号住居出土遺物 (3)



第80図 18号住居出土遺物(4)

19号住居A

位置 88区K-19 **主軸方位** N-78°-E (北辺) **平面形状** 隅丸方形 **規模** 4.6×4.0m

重複 6号掘立柱建物を切る(掘り方調査時貼り床を取り除くと6号掘立柱建物P-4現れた) 11号掘立柱建物を切る(竈左袖下のセクション) 19号住居Bを切る(中央焼土=19号住居Bの竈) 9・10号掘立柱建物と切り合う

柱穴 なし **周溝** 貯蔵穴部分を除いて全周 **貯蔵穴** 南東隅隅丸方形 遺物多数出土

埋土 As-C混土層 **残存壁高** 0.5~0.35m **床面** ローム漸移層まで掘り込み、ロームブロックを用いて貼り床

竈 東辺やや南寄り 燃烧部壁外に20cm程出る 左壁に凝灰岩切石を積む 燃烧部U字形 左袖は11号掘立柱建物 P-4埋没後築造

遺物 埋土ではあるが土師器底部墨書「丁」? 坏出土 須恵器墨書坏出土 竈付近で厚手コの字甕出土 須恵器坏・埴・灰釉陶器皿等床面付近にあったものが貯蔵穴に流れ落ちた状態で出土 28は明らかな流れ込み

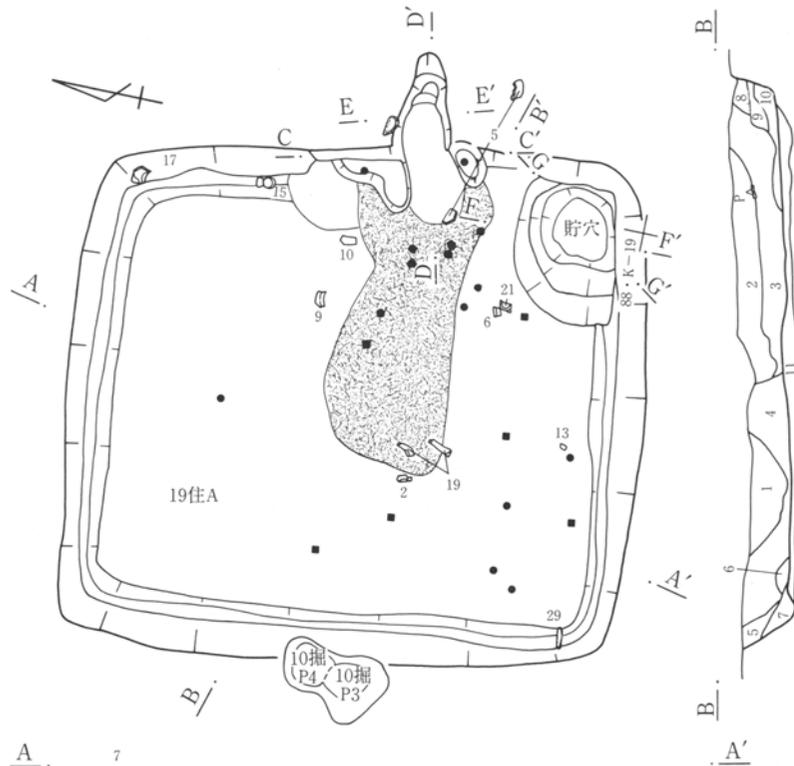
時期 遺物より9世紀第4四半期

19号住居B

位置 88区K-19 **主軸方位** N-84°-E (掘り方床面の色調・硬度から推定)

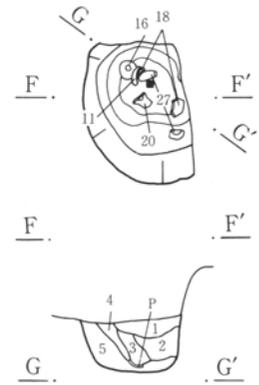
平面形状 方形(推定) **規模** (3.5)×(3.2)m **重複** 19号住居Aに切られる

貯蔵穴 東南隅円形 **竈** 東壁中央 19号住居A掘り方調査時に右袖の芯材に使用されたであろう袖石出土 竈から掻き出したのであろう焼土部分検出 **遺物** 貯蔵穴より10のコの字甕出土 **時期** 遺物より9世紀第3四半期



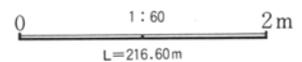
19号住居A

- 1 黒褐色土 As-C混 ロームブロックφ0.5~1cm混 炭・焼土少混
- 2 黒褐色土 As-C混 ロームブロックφ0.5~1cm少混
- 3 暗褐色土 As-C混 ロームブロックφ0.5~1cm少混 漸移層ブロック混
- 4 暗褐色土 As-C混 ロームブロックφ0.5~1cm少混 漸移層ブロック混
- 5 暗褐色土 As-C混 ロームブロックφ0.5~1cm少混 漸移層ブロック多混
- 6 黒褐色土 As-C混 ローム漸移層ブロック多混
- 7 暗褐色土 ローム漸移層土主体 As-C微混 ロームブロックφ1cm混
- 8 暗褐色土 As-C混 焼土粒 ローム漸移層ブロック主体
- 9 暗褐色土 As-C微混 焼土粒多混 ローム漸移層主体
- 10 暗褐色土 ローム漸移層主体 焼土粒多い
- 11 暗褐色土層 ロームブロック混 (貼り床)

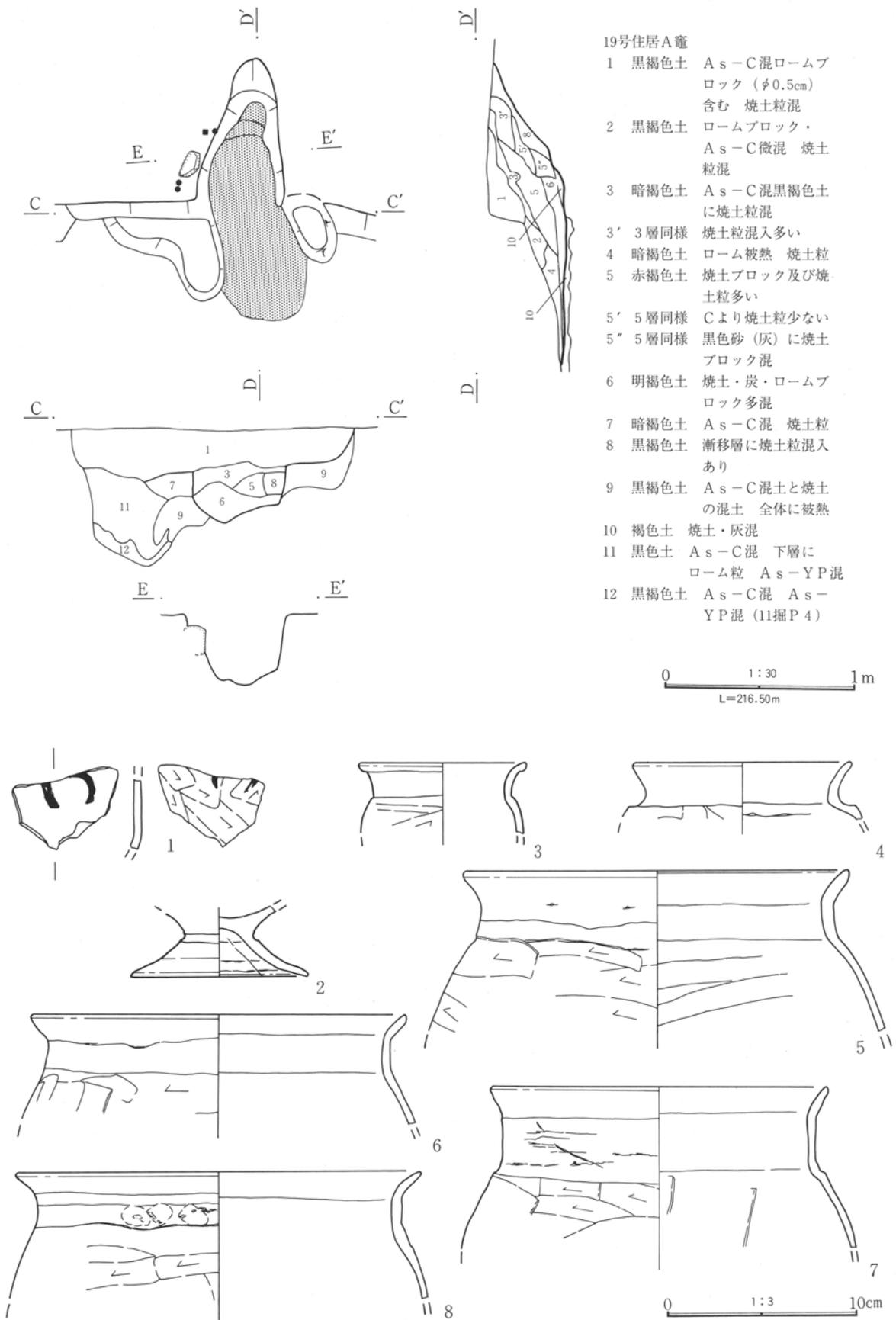


19号住居A貯蔵穴

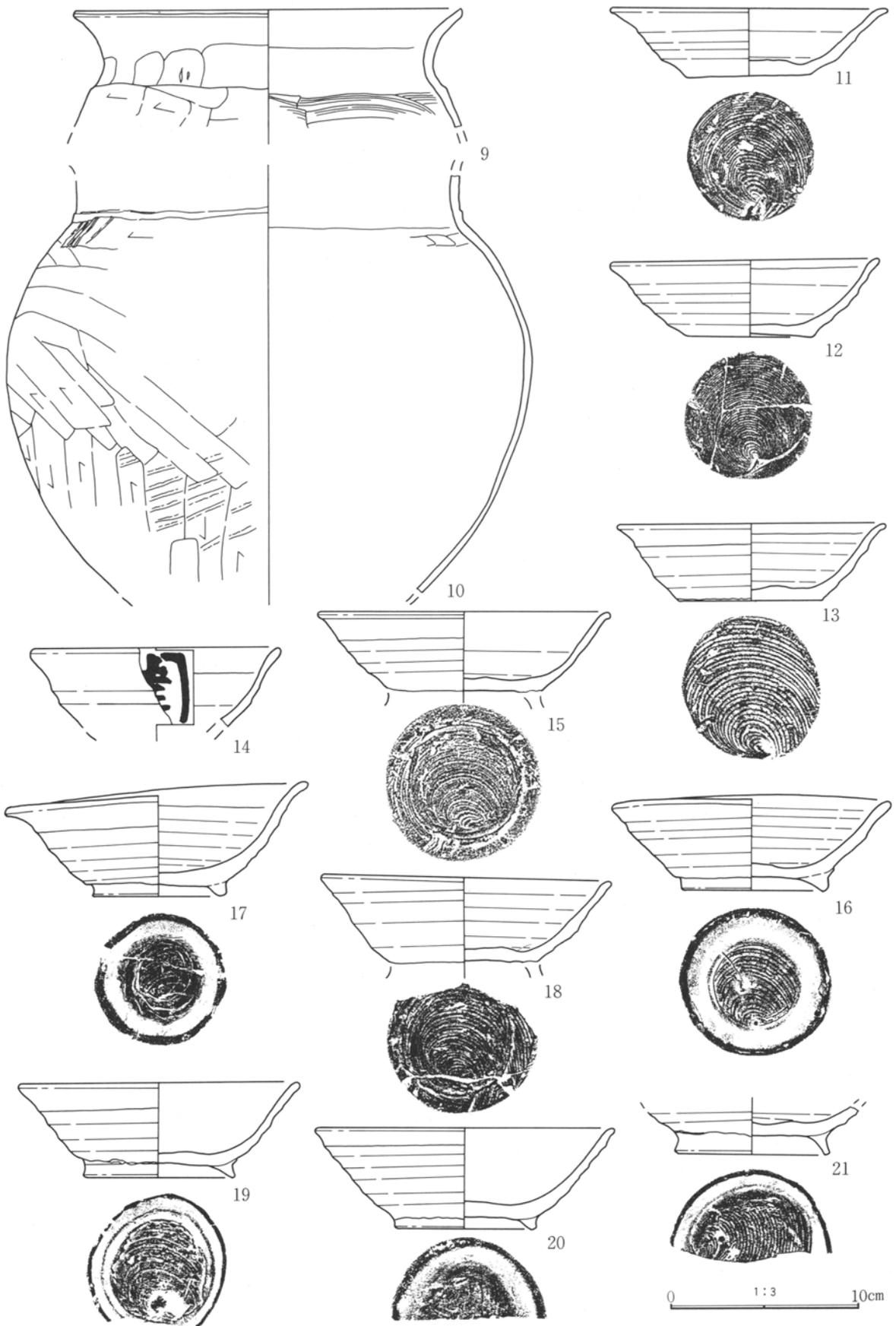
- 1 暗褐色土 As-C混 ローム漸移層ブロック多混 炭・焼土粒混
- 2 暗褐色土 As-C少混 ローム漸移層ブロック混
- 3 暗褐色土 As-C少混 ロームブロックφ2cm混
- 4 黒褐色土 ローム漸移層ブロック多混 炭 焼土粒混
- 5 黒褐色土 ローム漸移層ブロック多混 炭多混



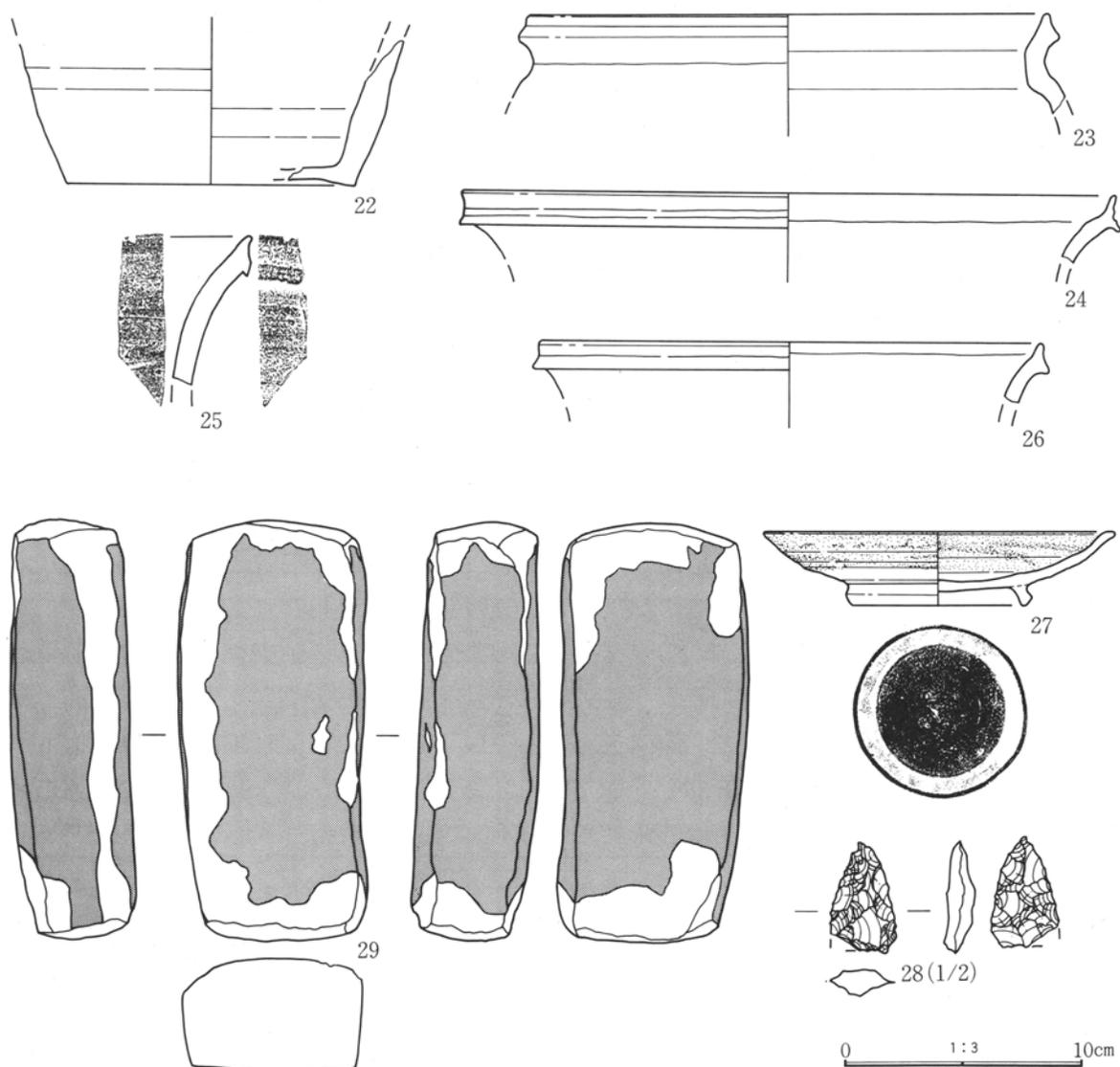
第81図 19号住居A・B



第82図 19号住居A・出土遺物(1)



第83図 19号住居A出土遺物(2)



第84図 19号住居A出土遺物 (3)

20号住居

位置 88区N-19 主軸方位 N-66°-E 平面形状 方形 規模 2.8×(2.25) m

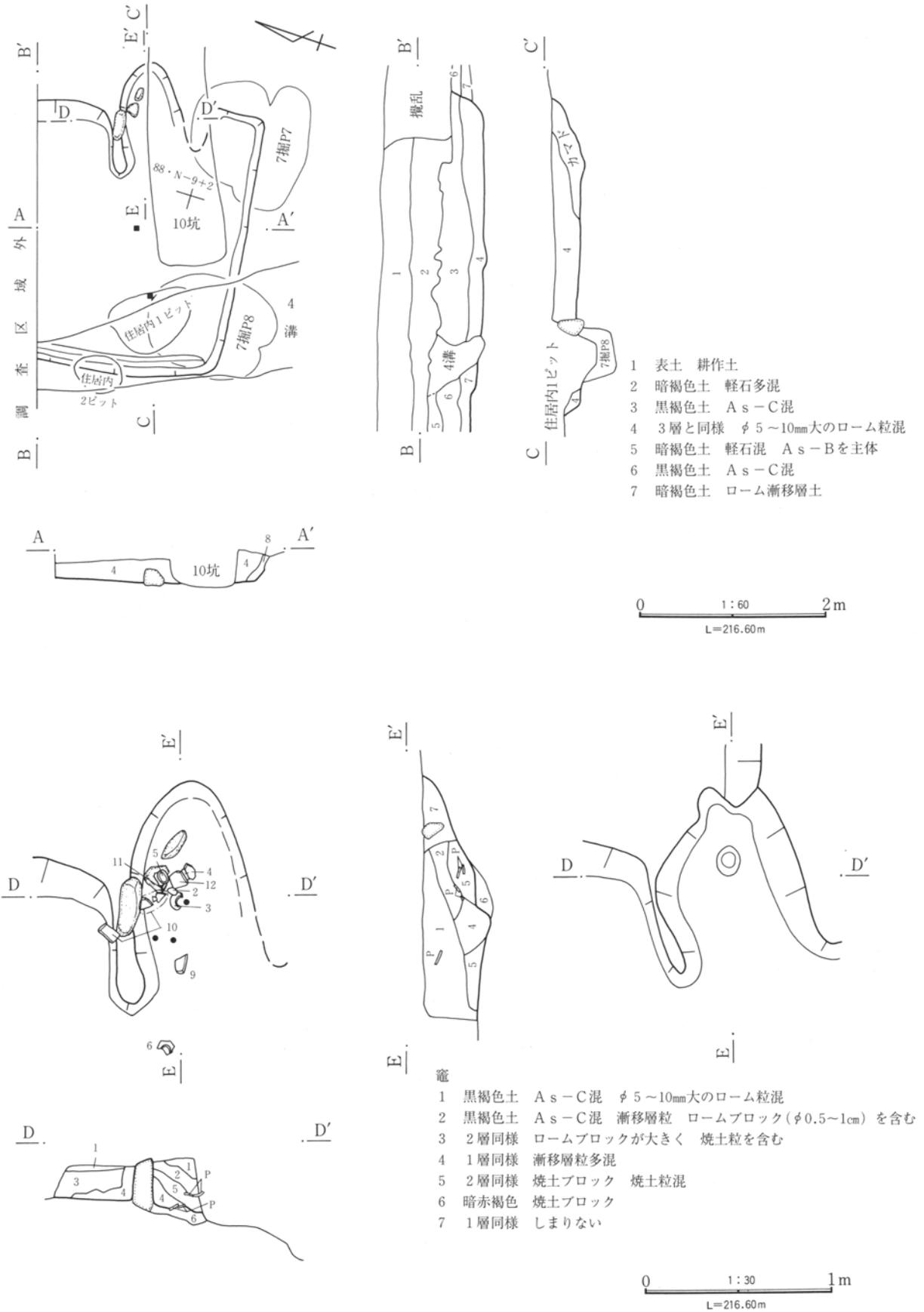
重複 7号大型掘立柱建物を切る 4号溝に切られる 近世土坑に竈半分を切られる

柱穴 不明 周溝 西辺のみ確認 貯蔵穴 不明 埋土 As-C混土層 残存壁高 0.45m

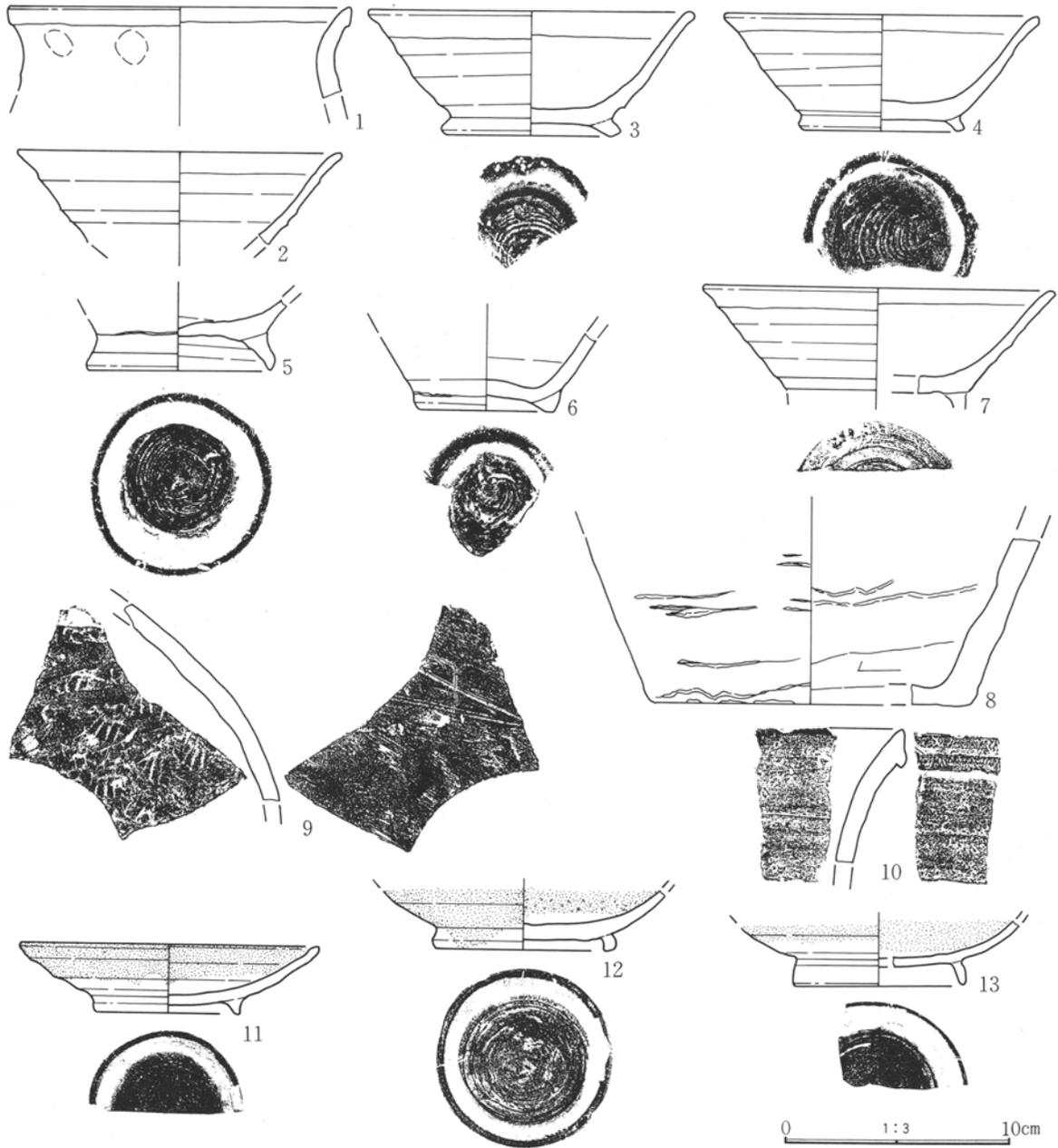
床面 掘りくぼめたのみ

竈 東辺南寄り 燃烧部壁面と同位置 袖の芯材、燃烧部の壁材として河原石を使用

遺物 攪乱が多いため遺物量少ない 竈からの出土遺物多い 須恵器碗、灰釉陶器皿など 時期 遺物より
10世紀前半



第85図 20号住居



第86図 20号住居出土遺物

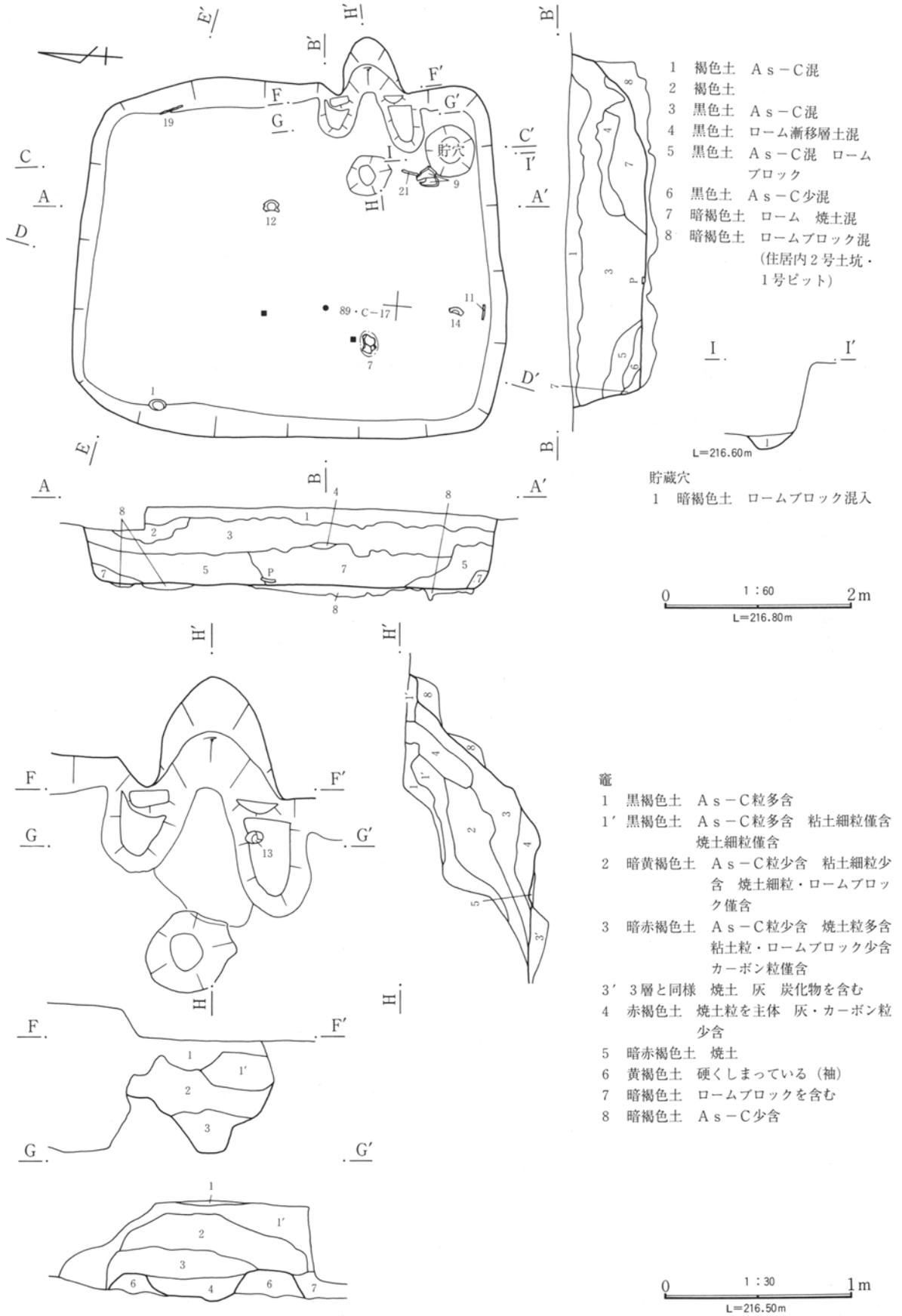
21号住居

位置 89区B-17 主軸方位 N-78°-E (北辺) 平面形状 方形 規模 4.5×3.75m

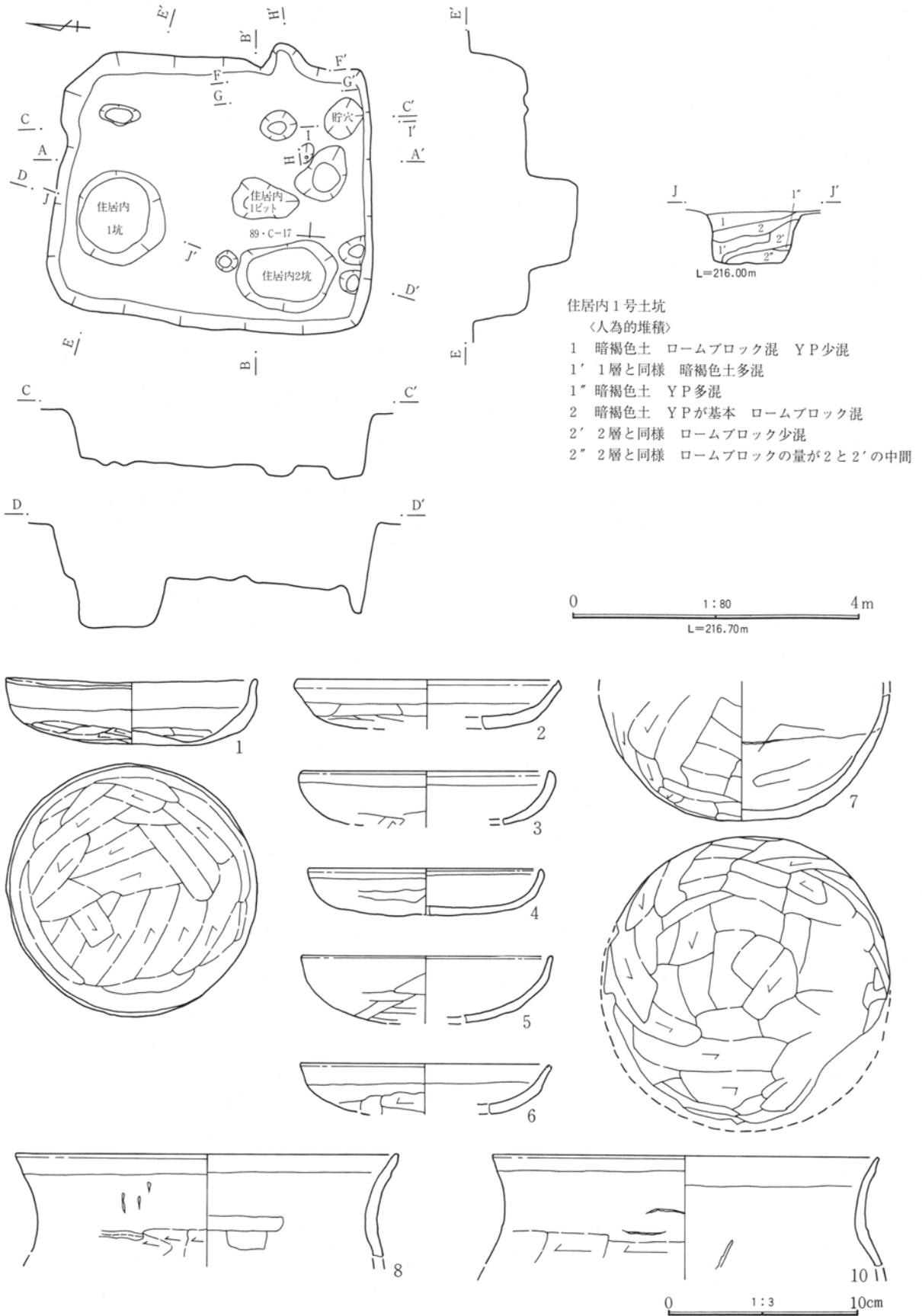
重複 なし 柱穴 なし 周溝 なし 貯蔵穴 南東隅円形 埋土 As-C混土層 残存壁高 0.7~0.6m 床面 ロームブロックで貼り床 土坑 貼り床を取り除くと現れたため掘り方時の土坑と思われる また埋土の状態から人為的埋没と考えられる

竈 東辺やや南寄り 燃烧部壁面より内側に30cm程入る 横断面U字形 袖はロームブロックを使って硬く締めている

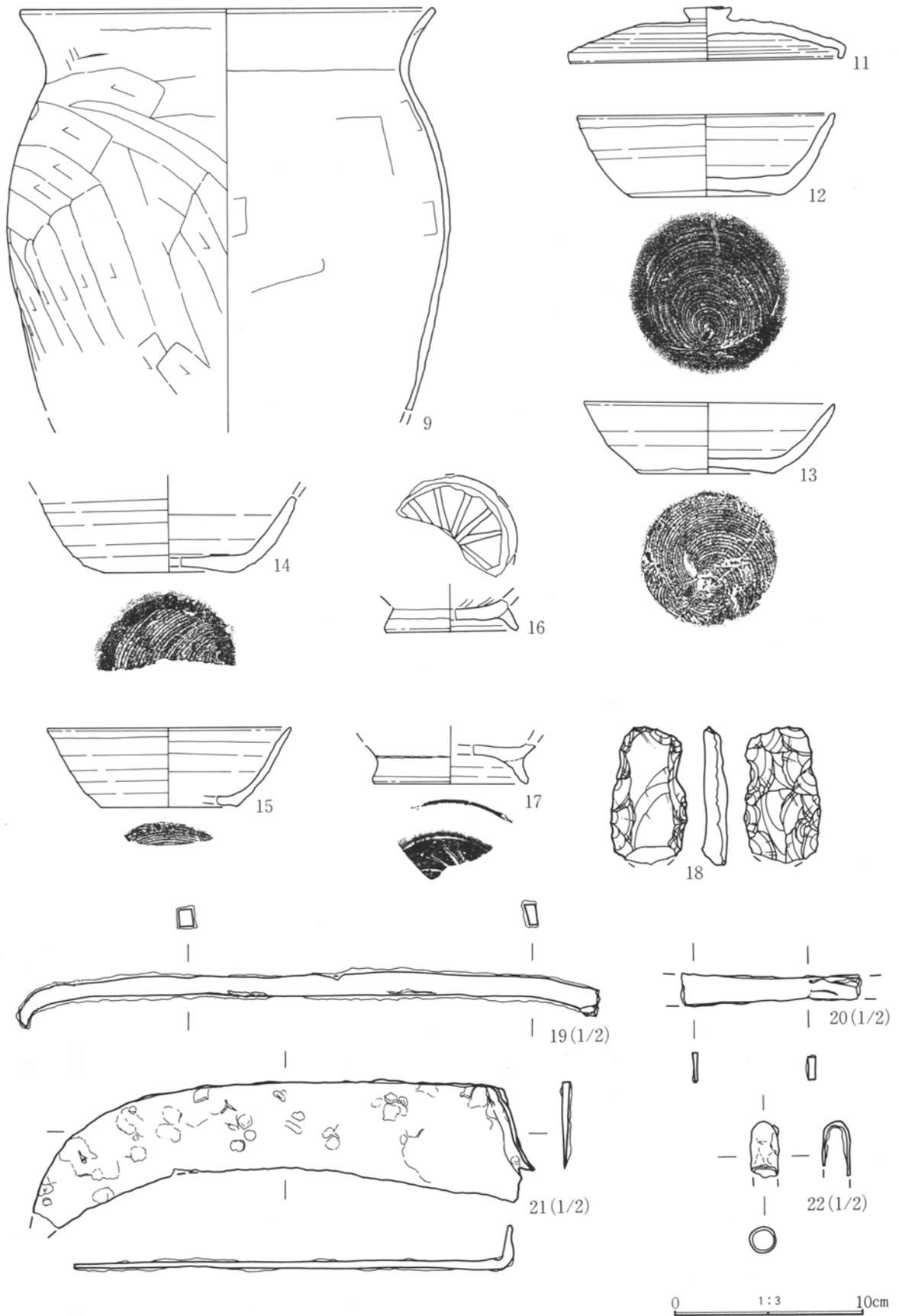
遺物 埋土からの出土が多い 土師器丸底坏出土 9の甕、鉄製鎌貯蔵穴周辺から出土 12の須恵器底部糸切り後周辺ヘラナデ坏出土 東壁北寄りからは錠出土 時期 遺物より8世紀第4四半期



第87図 21号住居



第88図 21号住居・出土遺物(1)



第89図 21号住居出土遺物 (2)

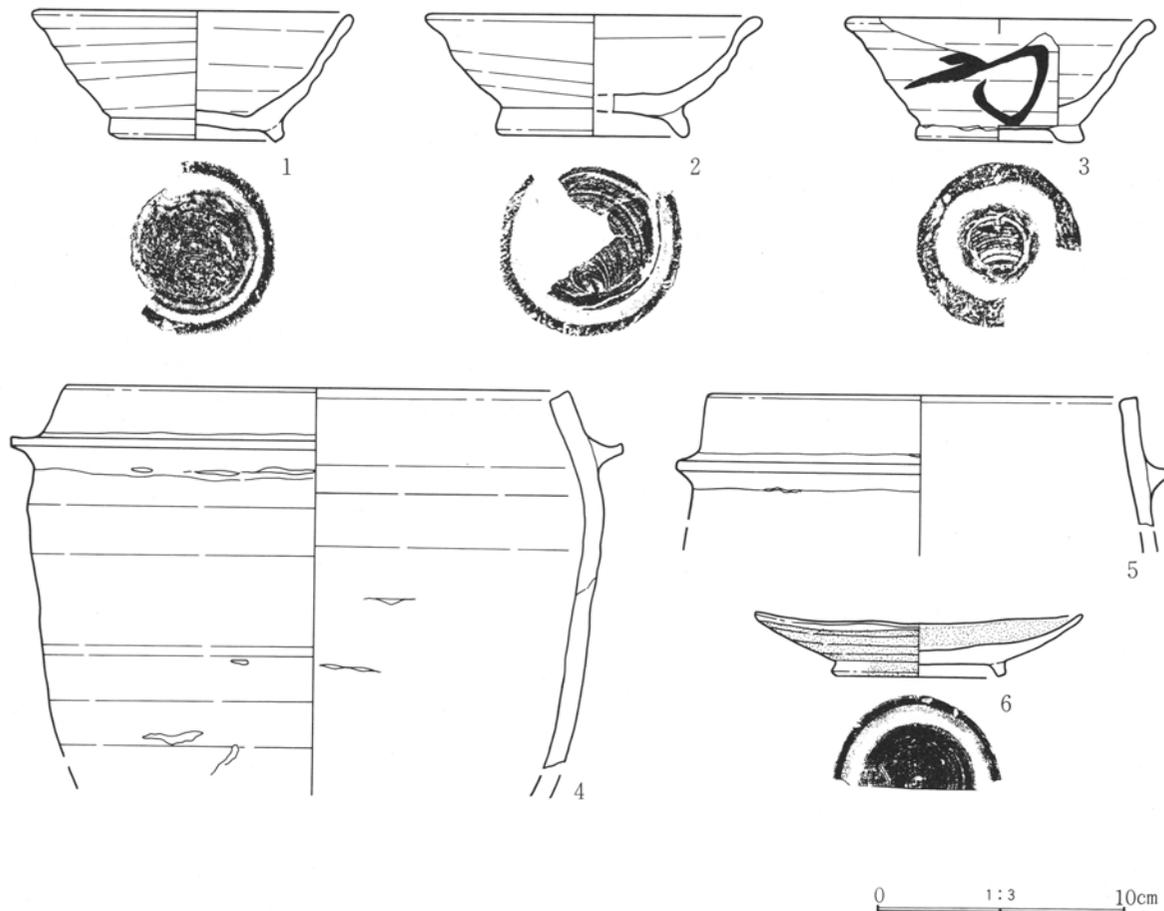
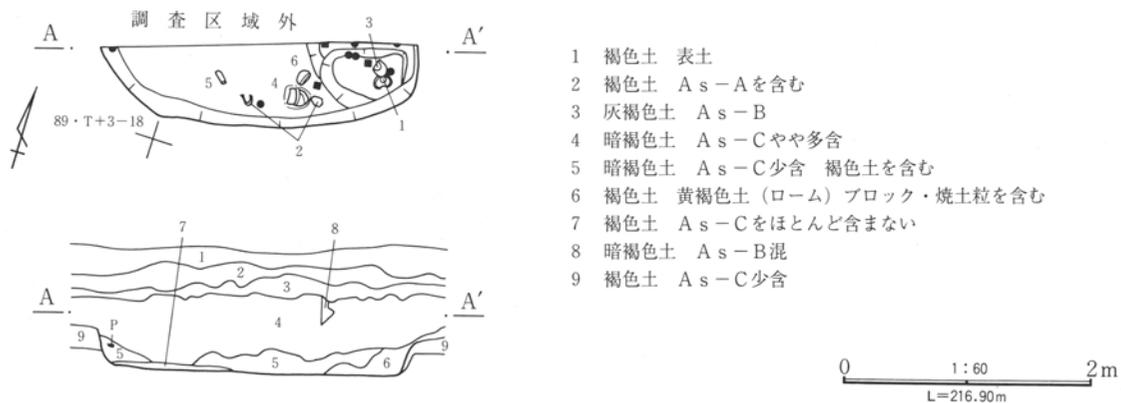
22号住居

位置 88区T-18 主軸方位 N-72°-E

平面形状 大半が調査区域外 南辺に沿って幅50cmのみ調査 規模 (0.68)×2.50m 重複 なし 柱穴 不明 周溝 なし 貯蔵穴 南東隅 埋土 As-C混土層 残存壁高 0.28m 床面 掘りくぼめたのみ 竈 不明

遺物 貯蔵穴から須恵器外面墨書「寺」?碗出土 南壁寄りから羽釜出土 貯蔵穴周辺から灰釉陶器皿出土

時期 遺物より10世紀前半



第90図 22号住居・出土遺物

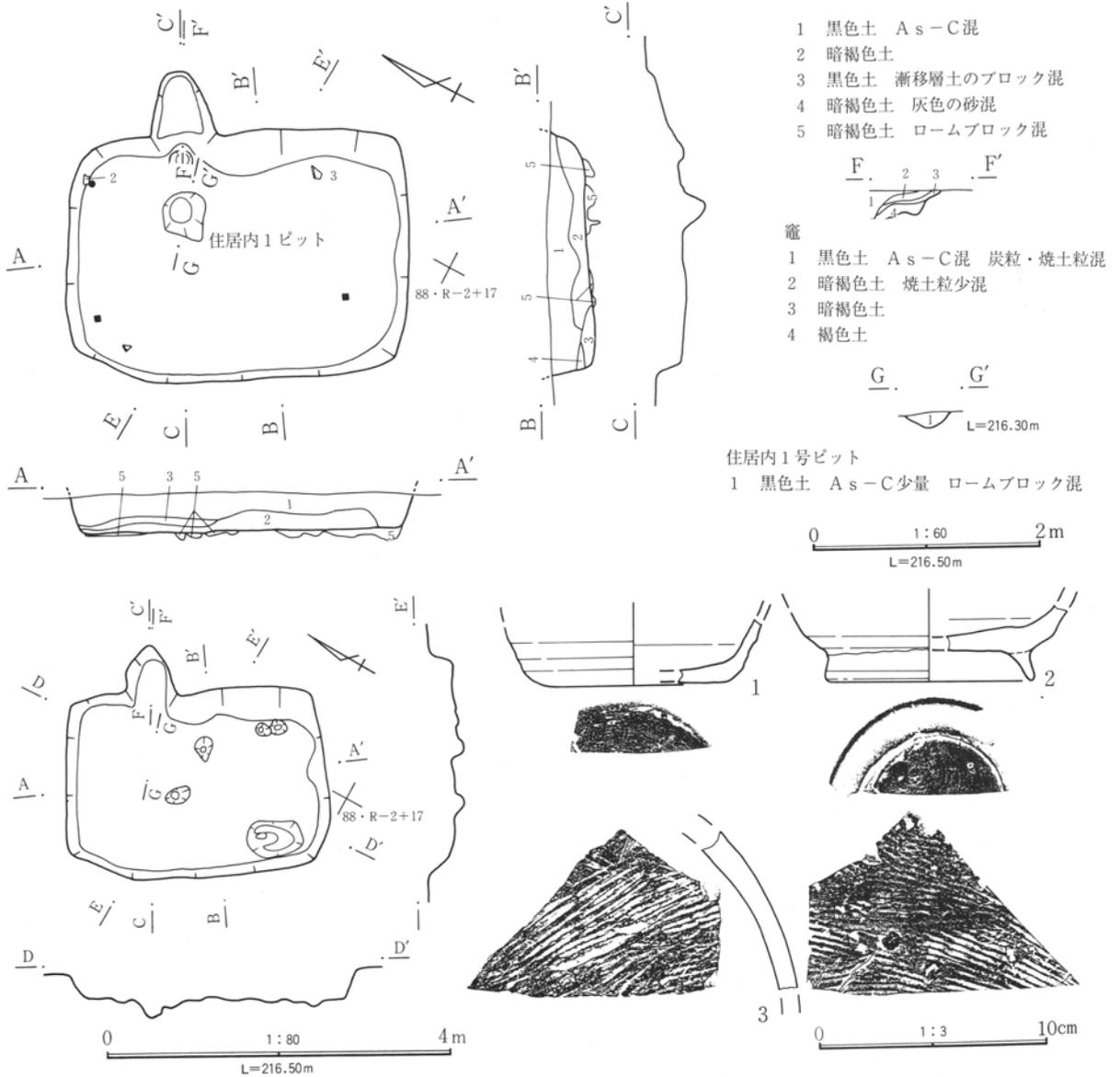
24号住居

位置 88区R-17 主軸方位 N-63°-E 平面形状 方形 規模 2.97×2.12m

重複 攪乱多い 柱穴 なし 周溝 なし 貯蔵穴 なし 埋土 As-C混土層 残存壁高 0.32m

床面 ロームブロックで貼り床 竈 東辺やや北寄り

遺物 底部回転ヘラケズリの坏 しっかりとした作りの埴出土 時期 平面規模・形状から10世紀前半



第91図 24号住居・出土遺物

25号住居

位置 89区B-16 主軸方位 N-87°-E 平面形状 方形 規模 3.43×3.24m

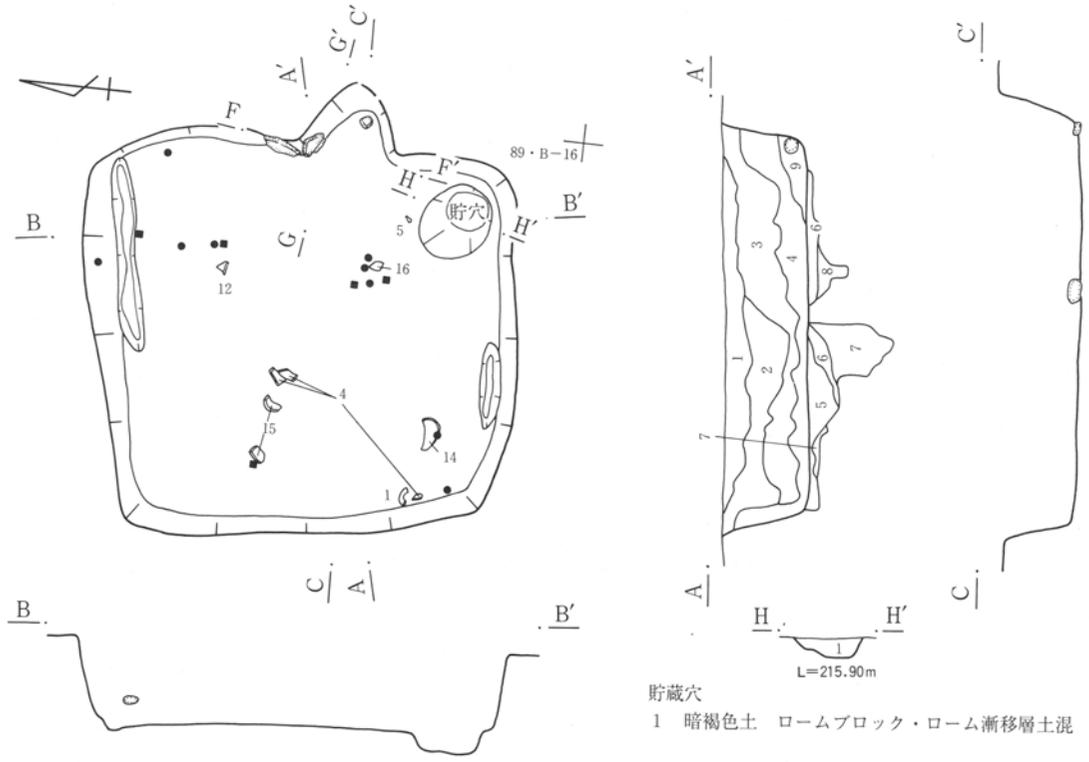
重複 なし 柱穴 なし 周溝 北辺と南辺に一部残 貯蔵穴 南東隅丸形 埋土 As-C混土層

残存壁高 0.66m 床面 ロームブロックで貼り床

土坑 1号土坑、1号ピットともセクションから掘り方と思われる 各隅に土坑状の掘り方

竈 東辺やや南寄り 袖口、燃焼部共に石を立てかけ、ロームブロックで貼る 煙道に3・5のコの字壺をふせる

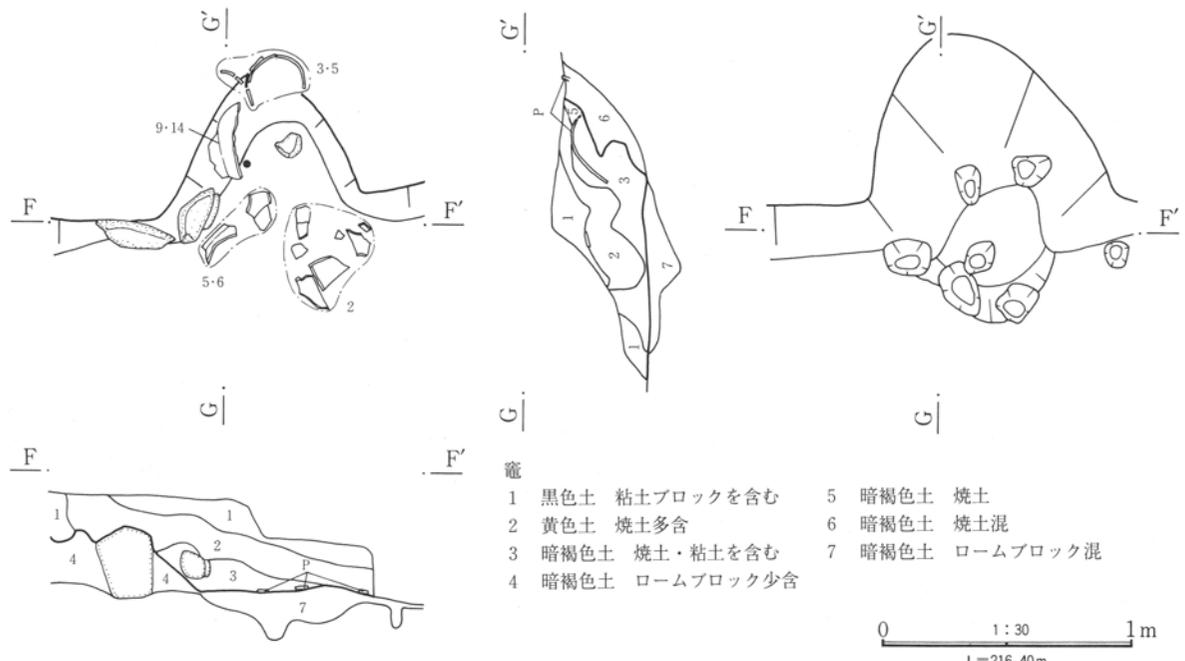
遺物 竈周辺からはコの字甕出土 埋土ではあるが須恵器底部墨書「里」? 坏出土 須恵器坏底部転用紡錘車 須恵器甕床面直上で出土 時期 遺物より9世紀第4四半期



貯蔵穴
1 暗褐色土 ロームブロック・ローム漸移層土混

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 黒色土 As-C混 | 6 暗褐色土 ロームブロック混 (貼り床) |
| 2 黒色土 As-C混に暗褐色土のブロック少混 | 7 暗褐色土 ローム混 YP混 (住居内1号土坑) |
| 3 暗褐色土 As-C黒色土混じりの土の混入 | 8 暗褐色土 ロームブロック混 (住居内1号ピット) |
| 4 暗褐色土 As-C少混 漸移層ブロック少混 | 9 暗褐色土 焼土混(竈) |
| 5 黒色土 ローム粒混 (貼り床) | |

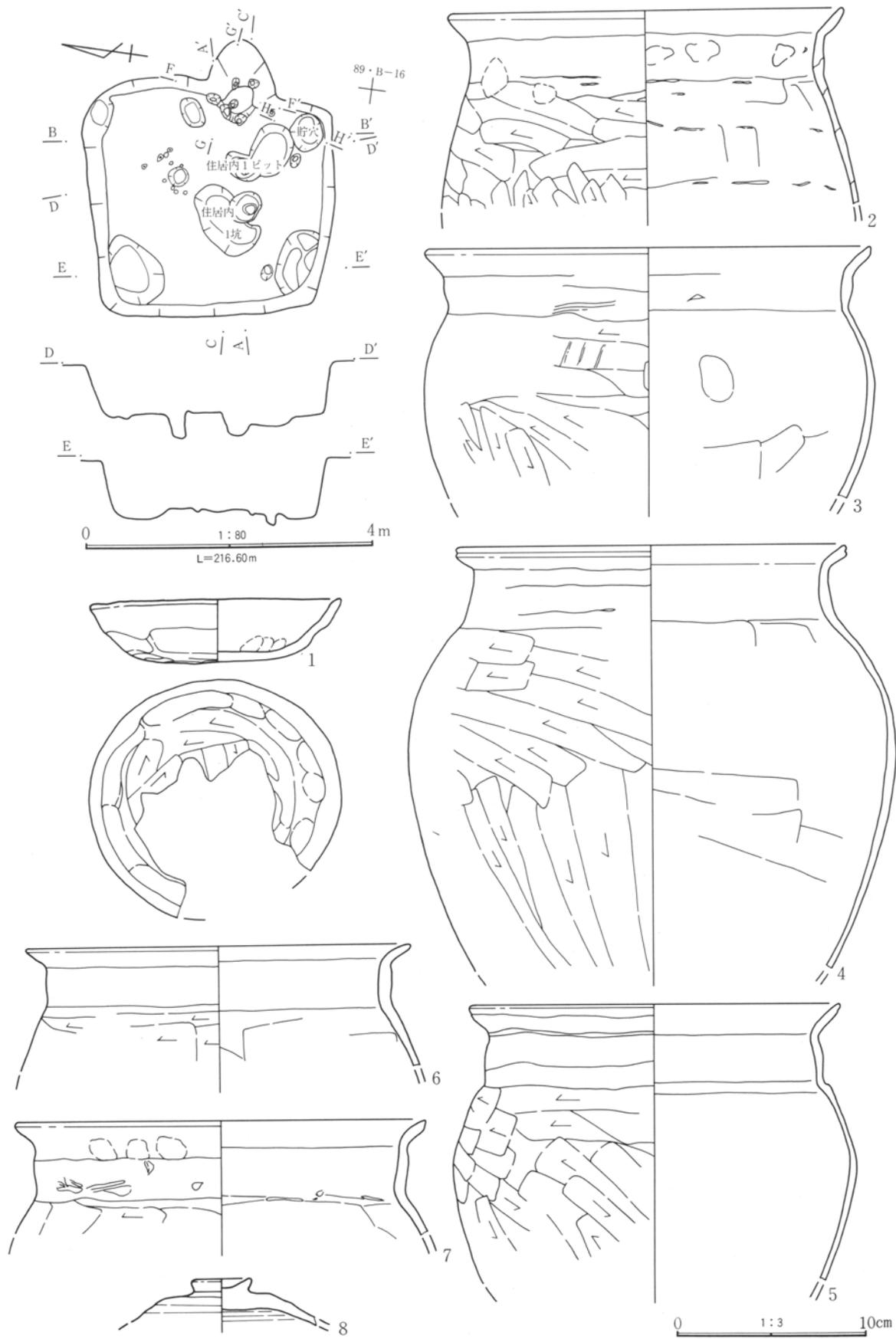
0 1:60 2m
L=216.70m



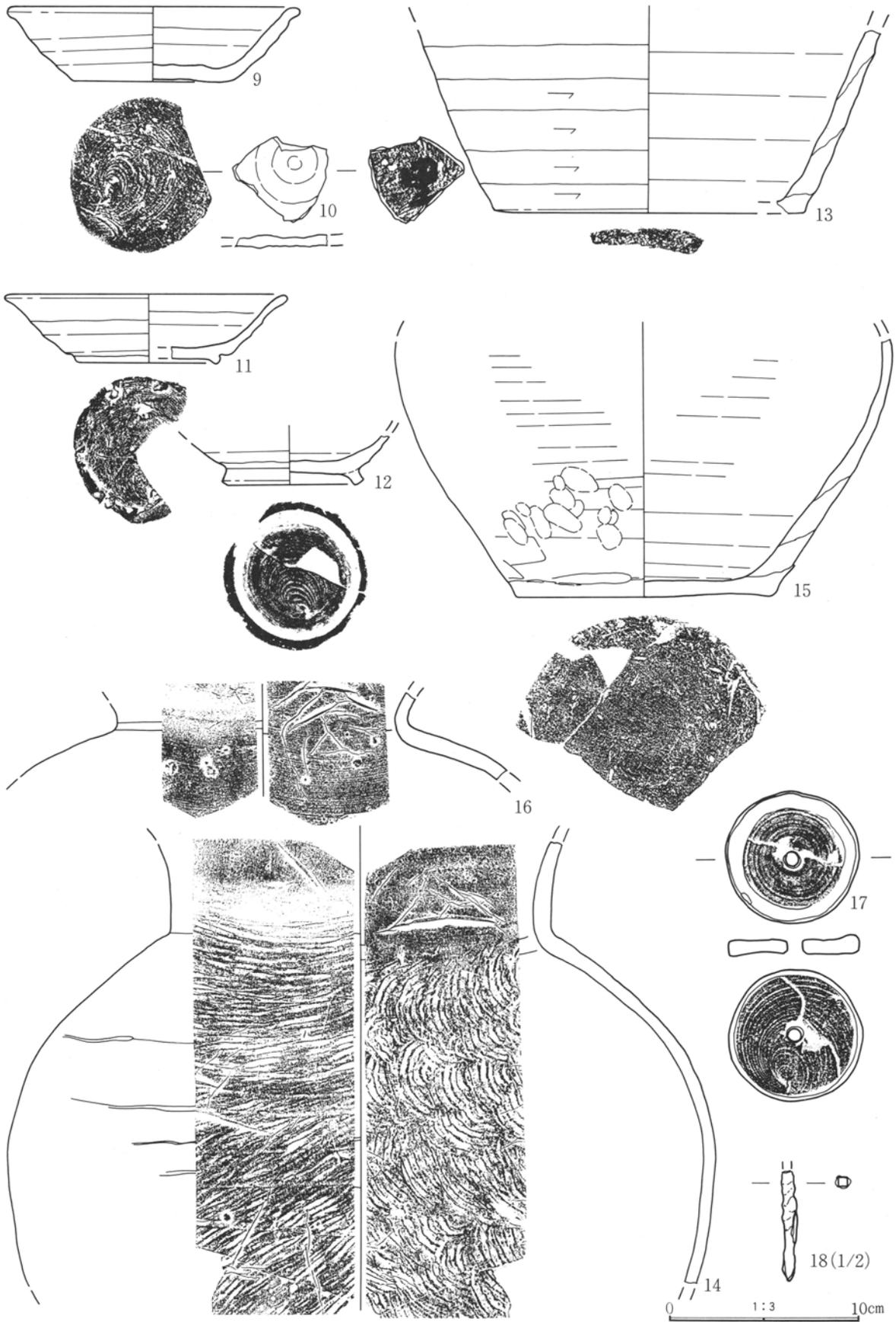
- 竈
- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 黒色土 粘土ブロックを含む | 5 暗褐色土 焼土 |
| 2 黄色土 焼土多含 | 6 暗褐色土 焼土混 |
| 3 暗褐色土 焼土・粘土を含む | 7 暗褐色土 ロームブロック混 |
| 4 暗褐色土 ロームブロック少含 | |

0 1:30 1m
L=216.40m

第92図 25号住居

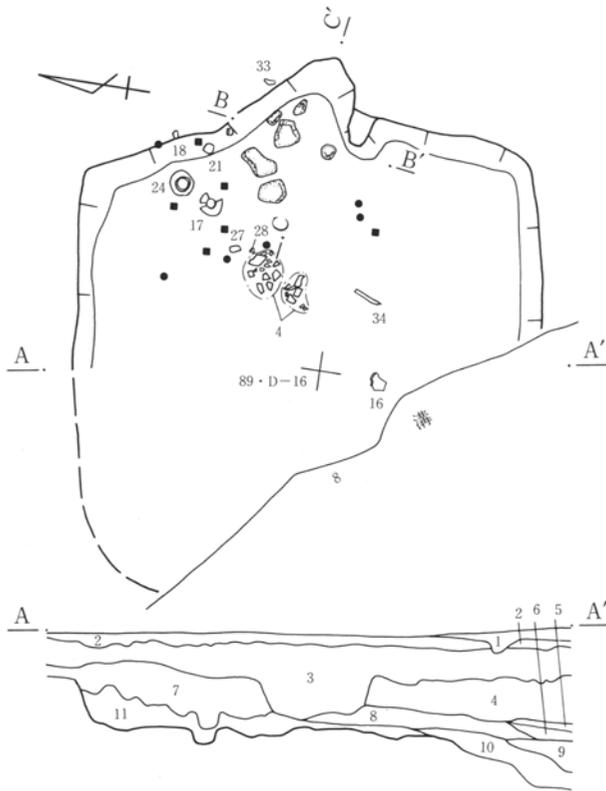


第93図 25号住居・出土遺物 (1)

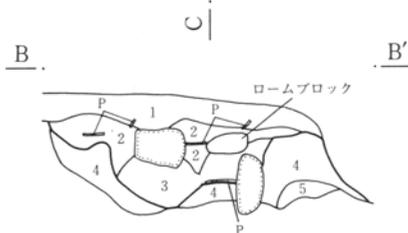
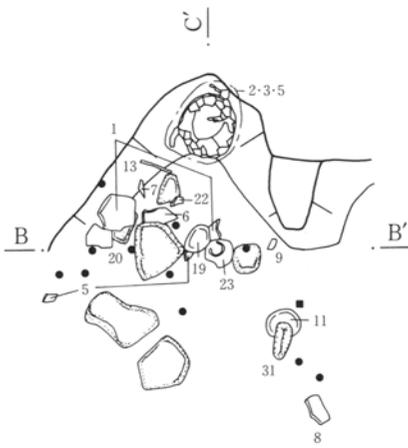


第94図 25号住居出土遺物(2)

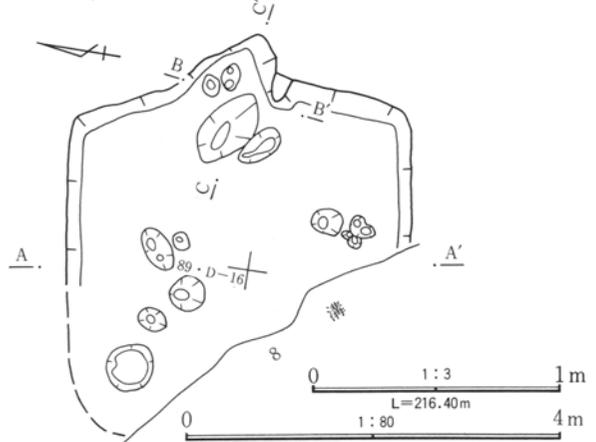
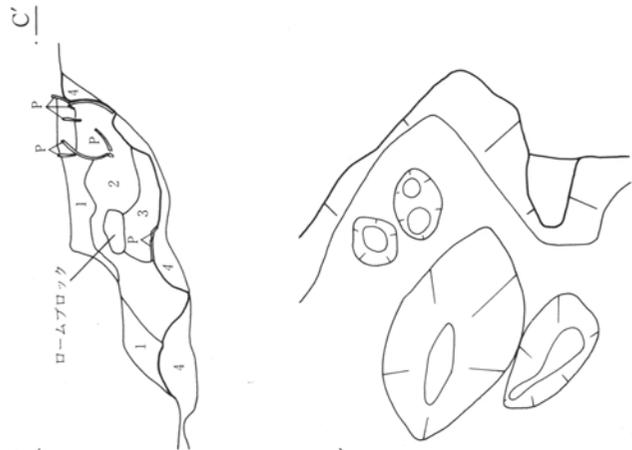
第IV章 検出された遺構と遺物



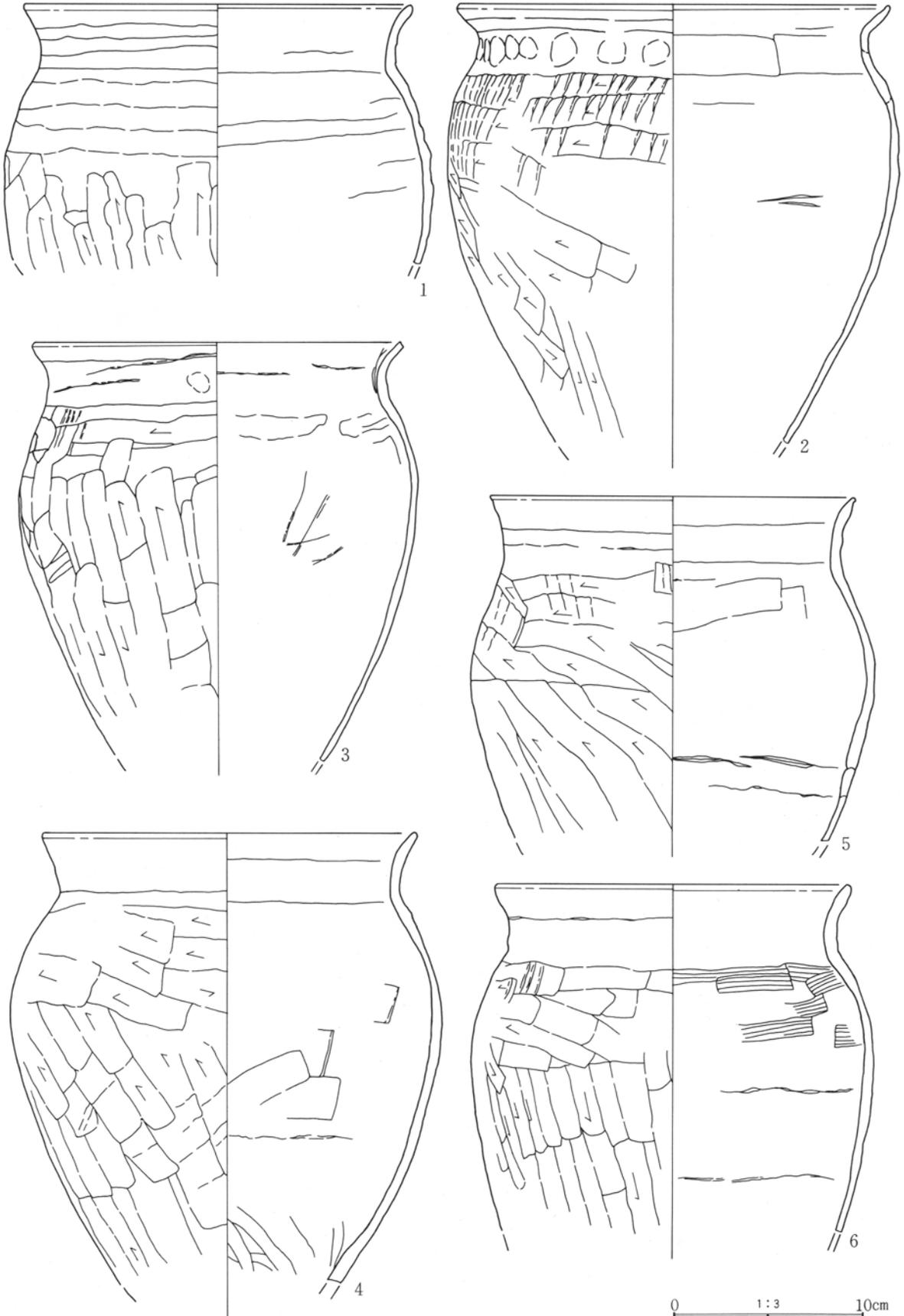
- 1 灰褐色土 部分的に黄褐色の砂 (As-B) を純層に近いブロック状で含む (下面部) As-B下畝の痕跡か?あるいは二次堆積か? 砂質
- 2 灰褐色土 4層をベースに1層のAs-Bが混じり込んでいる 砂質
- 3 暗褐色土 As-Cを少含する黒色土と褐色土ブロックの混在する土層 (7層よりも明るく、ブロック土が多含)
- 4 黒色土 As-Cを多含 特に下面部付近に砂状に丸くなったAs-C細粒を含む (水の流れた影響か)
- 5 黒色粘質土 As-C僅含 大部分が粘性をもち硬くしまった土
- 6 黒褐色土 As-C少含 暗褐色土ブロック少含 (8層よりも多い)
- 7 暗褐色土 黒色土をベースに褐色土ブロック混
- 8 暗褐色土 As-C僅含 褐色粒子少含 黒ボク土少含
- 9 黒色土 As-Cを少含 6層に類似
- 10 黒褐色土 As-Y.P粒を少含 上半部は9層に類似
- 11 暗黄褐色土 白色~褐色細粒子少混 黒ボクブロック主体 (住居埋土)



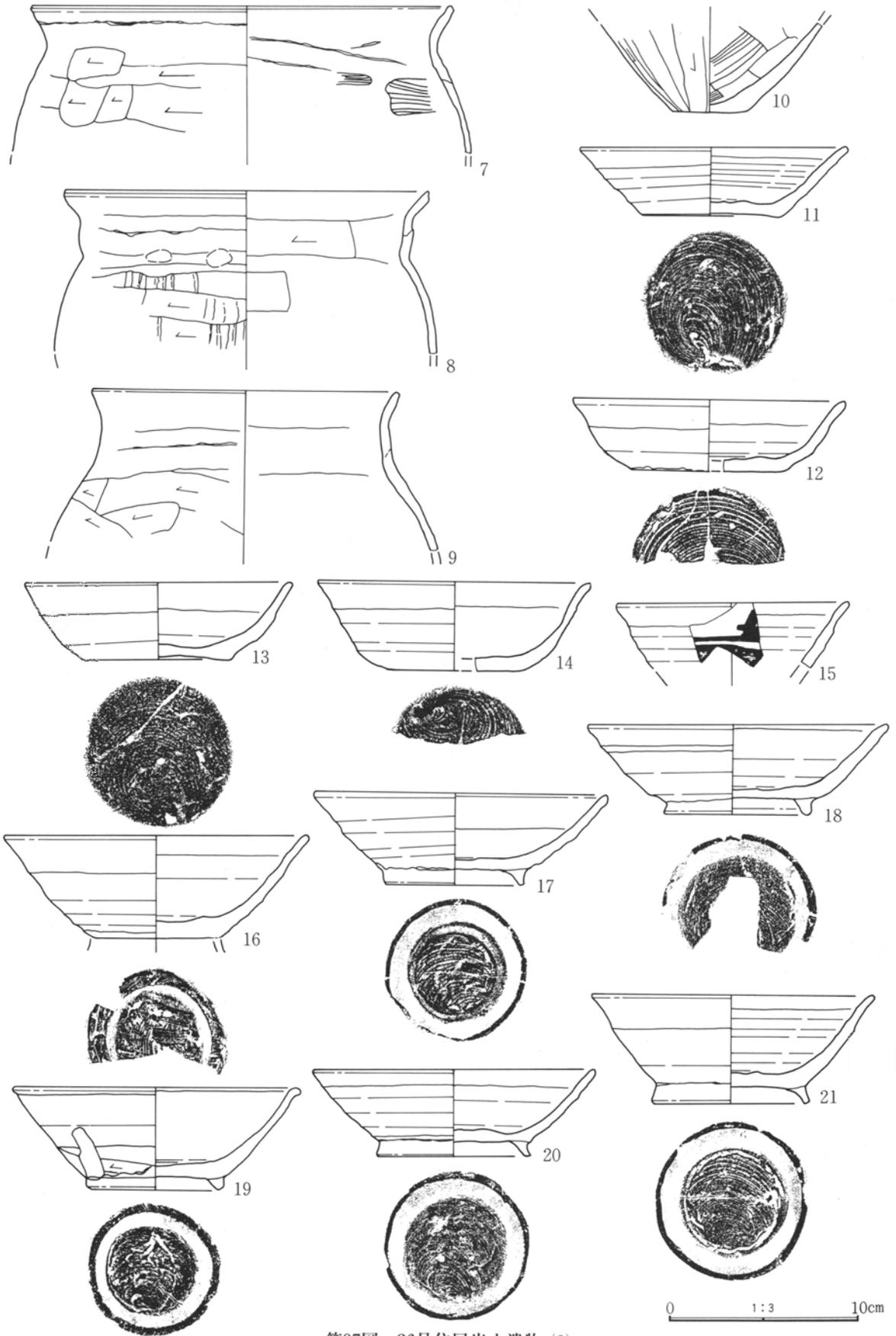
- 竈
- 1 暗褐色土 As-C少含 褐色土 (黒ボク) ブロック少含
 - 2 暗褐色土 As-C少含 焼土粒・カーボン僅含 ローム細粒僅含
 - 3 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム細粒少含 焼土粒少含
 - 4 暗褐色土 As-C僅含 ローム細粒僅含 褐色土ブロック少含
 - 5 暗褐色土 ローム漸移層土を含む



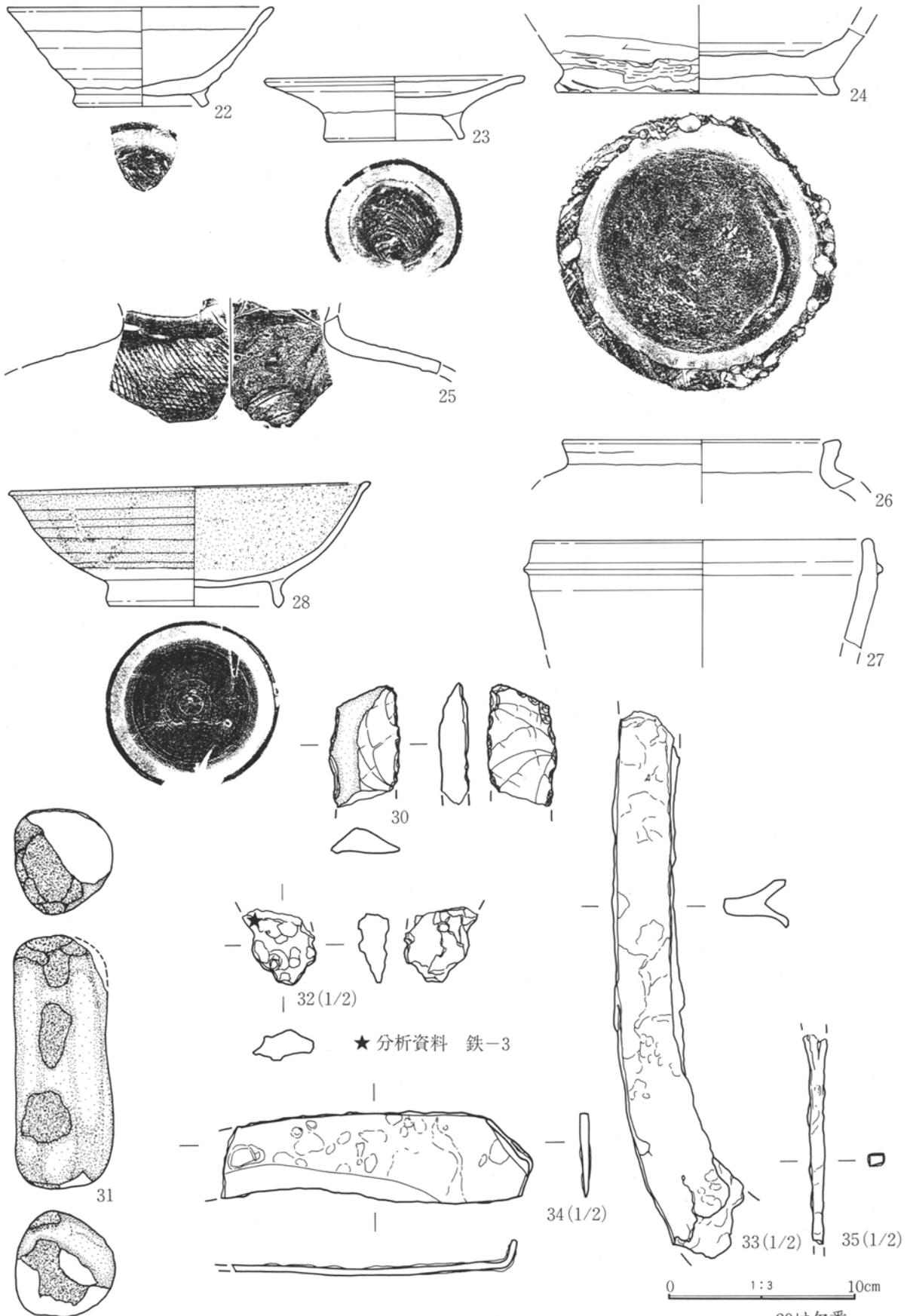
第95図 26号住居



第96図 26号住居出土遺物 (1)



第97図 26号住居出土遺物 (2)



第98図 26号住居出土遺物 (3)

26号住居

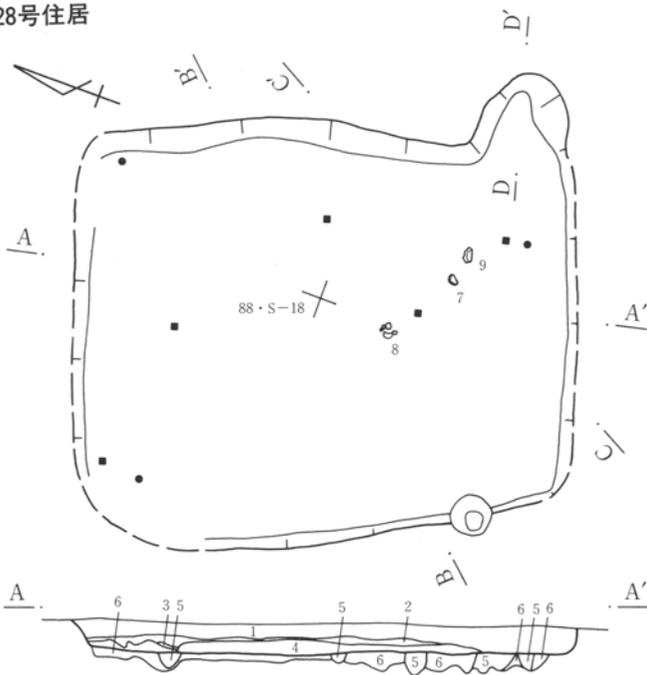
位置 89区C-16 主軸方位 N-99°-E 平面形状 方形 規模 (3.7)×3.5m

重複 8号溝に切られる 柱穴 なし 周溝 なし 貯蔵穴 なし 埋土 As-C混土層 残存壁高 0.4m 床面 掘りくぼめたのみ貼り床なし

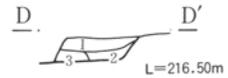
竈 東辺中央 燃焼部河原石を立てかけロームを貼る 他にも崩落した石が幾つも見られる 煙道には2・3・5らの甕を2~3個体伏せて重ねる

遺物 竈を中心にコの字甕、須恵器坏、埴出土 東辺北寄りの壁から崩落したように甕、埴、灰釉陶器が集中して出土 1の甕は羽釜のような作り方 竈から鉄製鋤先、中央から鉄製鎌出土 30は流れ込み 時期 遺物より9世紀第4四半期

28号住居

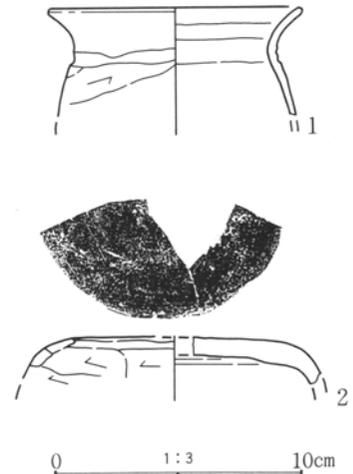
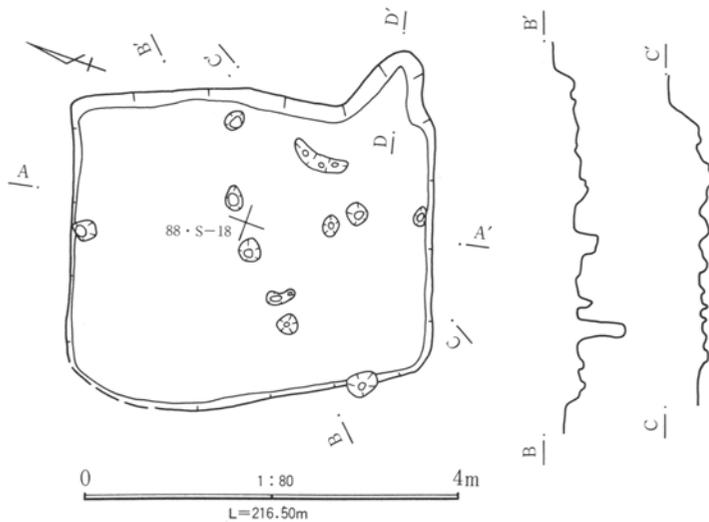
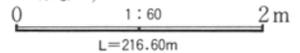


- 1 黒褐色土 As-C少含
- 2 暗褐色土 3層の砂を多含 硬くしまっている
- 3 明灰色土 灰色と白色の砂層の互層堆積 (水による堆積?)
- 4 暗褐色土 白色粒子僅含 (黒ボク土)
- 5 暗褐色土 4層に類似
- 6 暗黄褐色土 ローム土主体

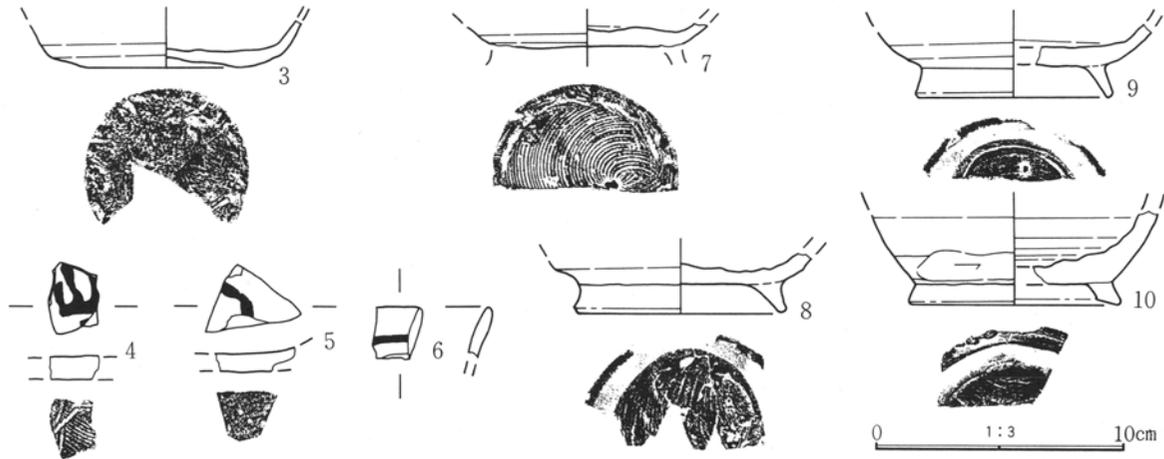


竈

- 1 黒褐色土 As-C少含 焼土細粒僅含
- 2 黒褐色土 As-C僅含 ローム細粒僅含
- 3 暗褐色土 黒ボク土をブロック状に含む 白色細粒子僅含 (As-Cではない)



第99図 28号住居・出土遺物 (1)

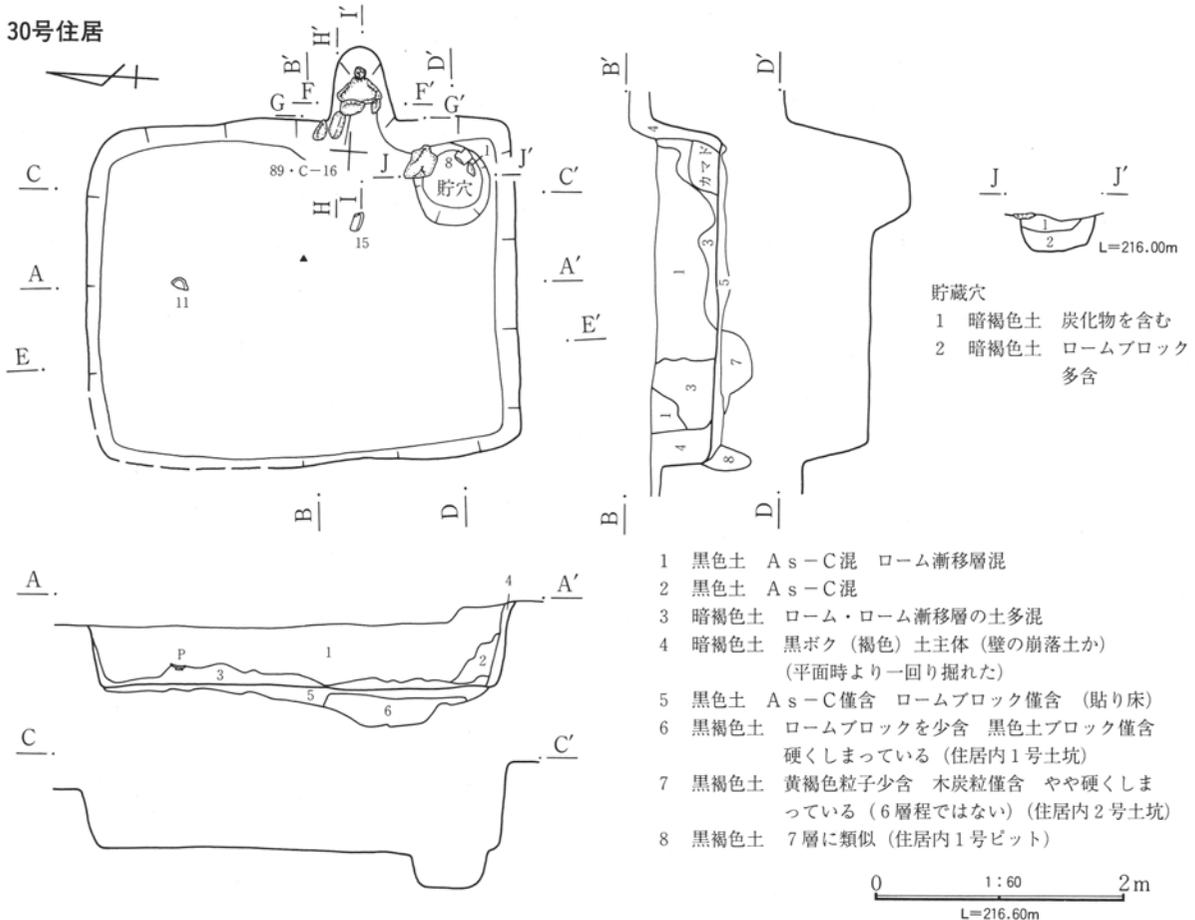


第100図 28号住居出土遺物 (2)

28号住居

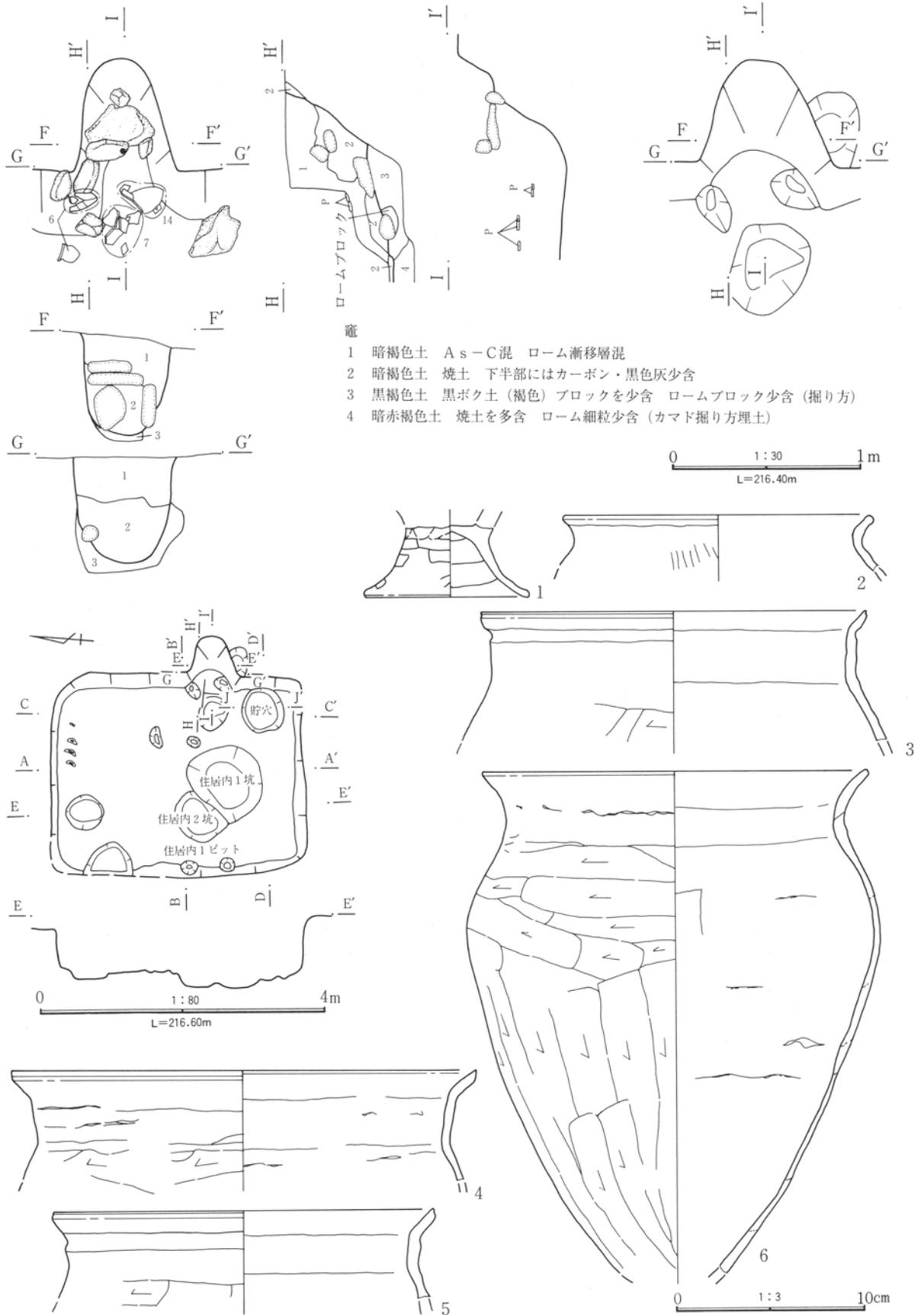
位置 88区S-18 主軸方位 N-75°-E (北辺) 平面形状 残存状態悪い 方形 規模 4.0×3.4m
 重複 4号道と切り合っている 柱穴 なし 周溝 なし 貯蔵穴 なし 埋土 As-C混土層 残存壁
 高 0.2m 床面 掘りくぼめてロームブロックと黒色土を貼った 竈 残存状態悪い
 遺物 削平が激しいために遺物少ない 中央南寄りに須恵器坏、碗出土 埋土ではあるが墨書された須恵器
 坏出土 時期 遺物より8世紀第4四半期

30号住居

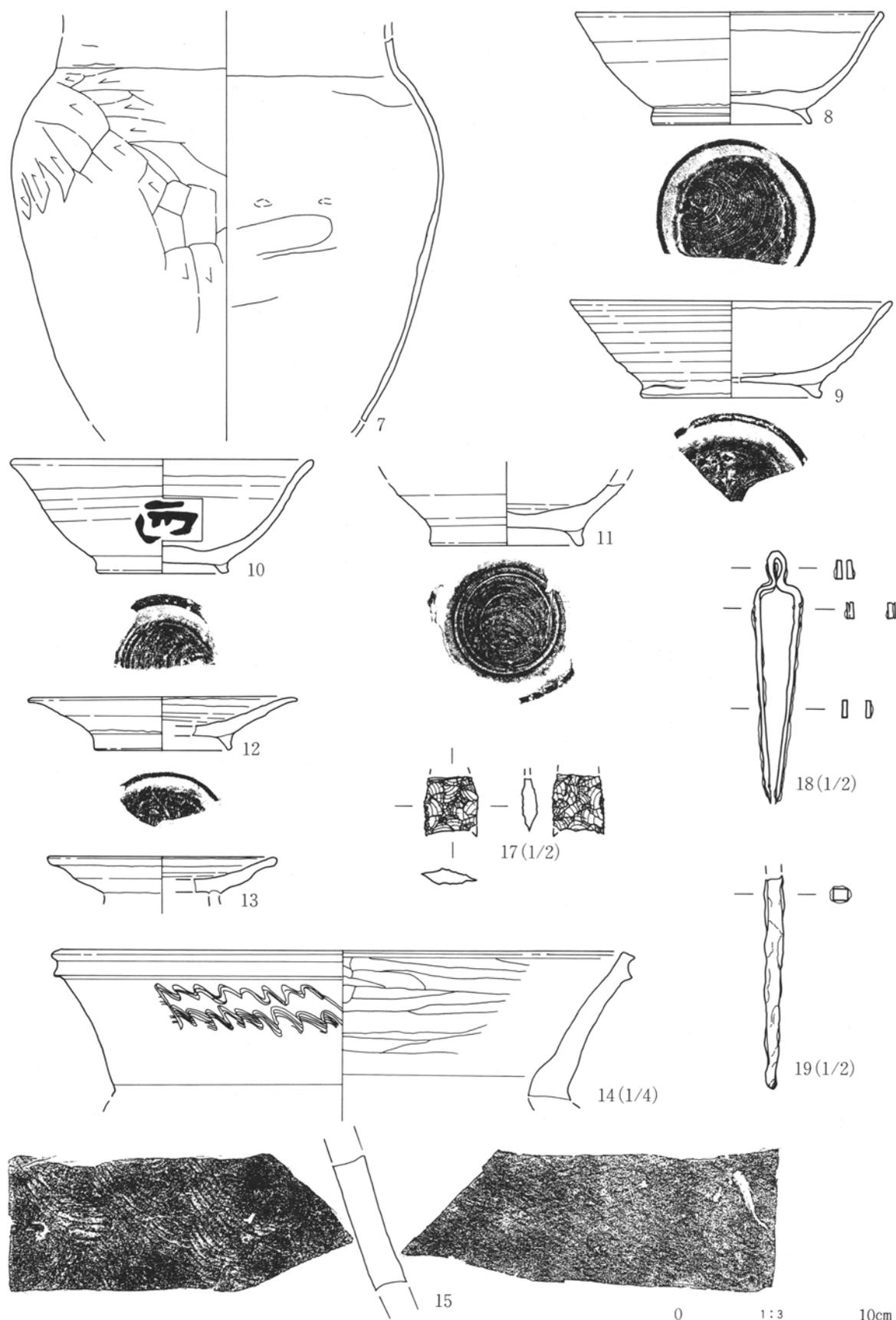


第101図 30号住居

第IV章 検出された遺構と遺物



第102図 30号住居・出土遺物(1)



第103図 30号住居出土遺物 (2)

16は欠番

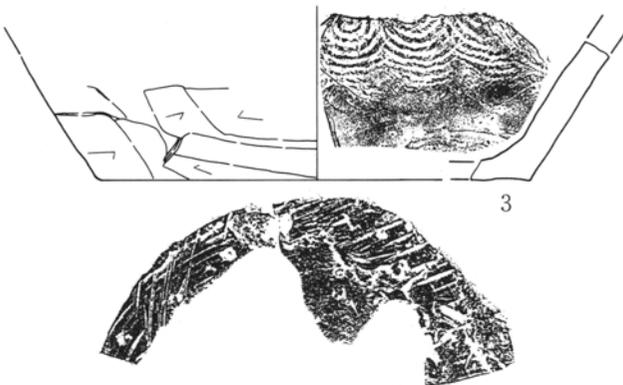
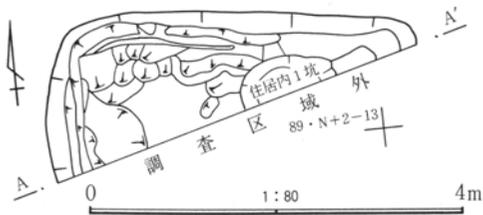
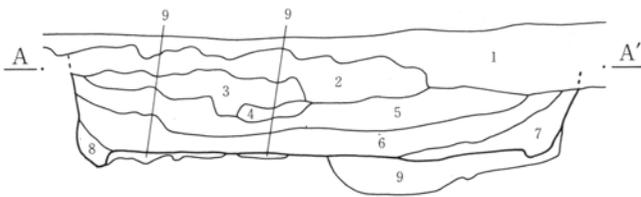
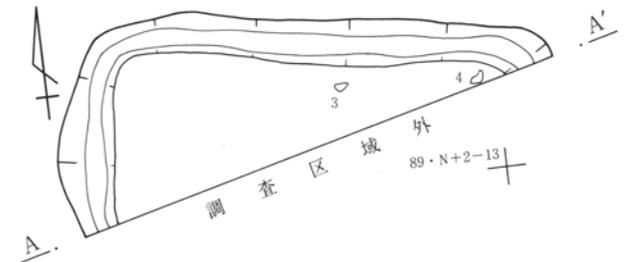
30号住居

位置 89区C-16 主軸方位 N-86°-E 平面形状 方形 規模 3.4×2.7m 重複 なし
 柱穴 なし 周溝 なし 貯蔵穴 南東隅円形 埋土 As-C混土層 残存壁高 0.65~0.35m
 床面 ロームブロック、黒色土で硬く締めて貼り床とする

竈 東辺やや南 袖口、燃焼部には河原石を立てかけ、煙道部分には立てかけた石の上に割石を渡した石組み構造 備考 住居を構築する際の耕作具跡が比較的良好な状態で残

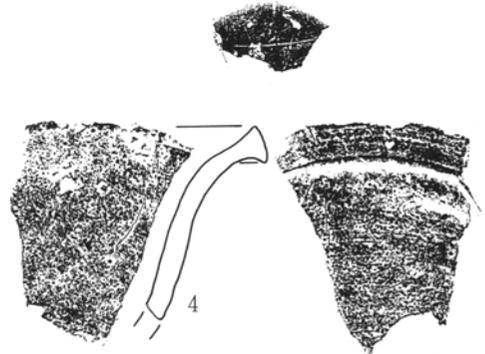
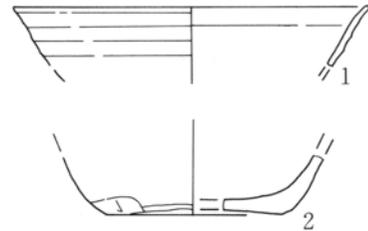
遺物 竈周辺からコの字甕・須恵器大甕口縁出土 8の埴貯蔵穴肩口付近から出土 埋土ではあるが須恵器体部墨書「西」埴出土 埋土から鏝子出土 17は流れ込み 時期 遺物より9世紀第2~3四半期

31号住居



- 1 暗褐色土 軽石多混 小指大の石 ローム粒混入 (人為埋土か)
- 2 黒褐色土 As-B多混 一部にAs-Bの純層
- 3 黒褐色土 As-C少混
- 4 黒褐色土 As-C少混 φ1~10mm大のローム粒を全体に含む 5層とはローム粒の多少で細分
- 5 黒褐色土 As-C少混 φ1~10mm大のローム粒をまばらに含む 焼土粒少混
- 6 黒褐色土 As-C混 4層よりも明るい As-C・ローム粒多く、東半分では焼土粒多い
- 7 黒褐色土 As-C少混 5~7層の中で最も黒い (カマド周辺流入土)
- 8 明褐色土 As-C少混 ローム粒多い (西側周溝フク土)
- 9 暗褐色土 ロームブロック、As-SP、As-C 黒褐色土との混土 (住居内1号土坑)

0 1:60 2m
L=215.80m



0 1:3 10cm

第104図 31号住居・出土遺物

31号住居

位置 89区N-13 主軸方位 N-97°-E

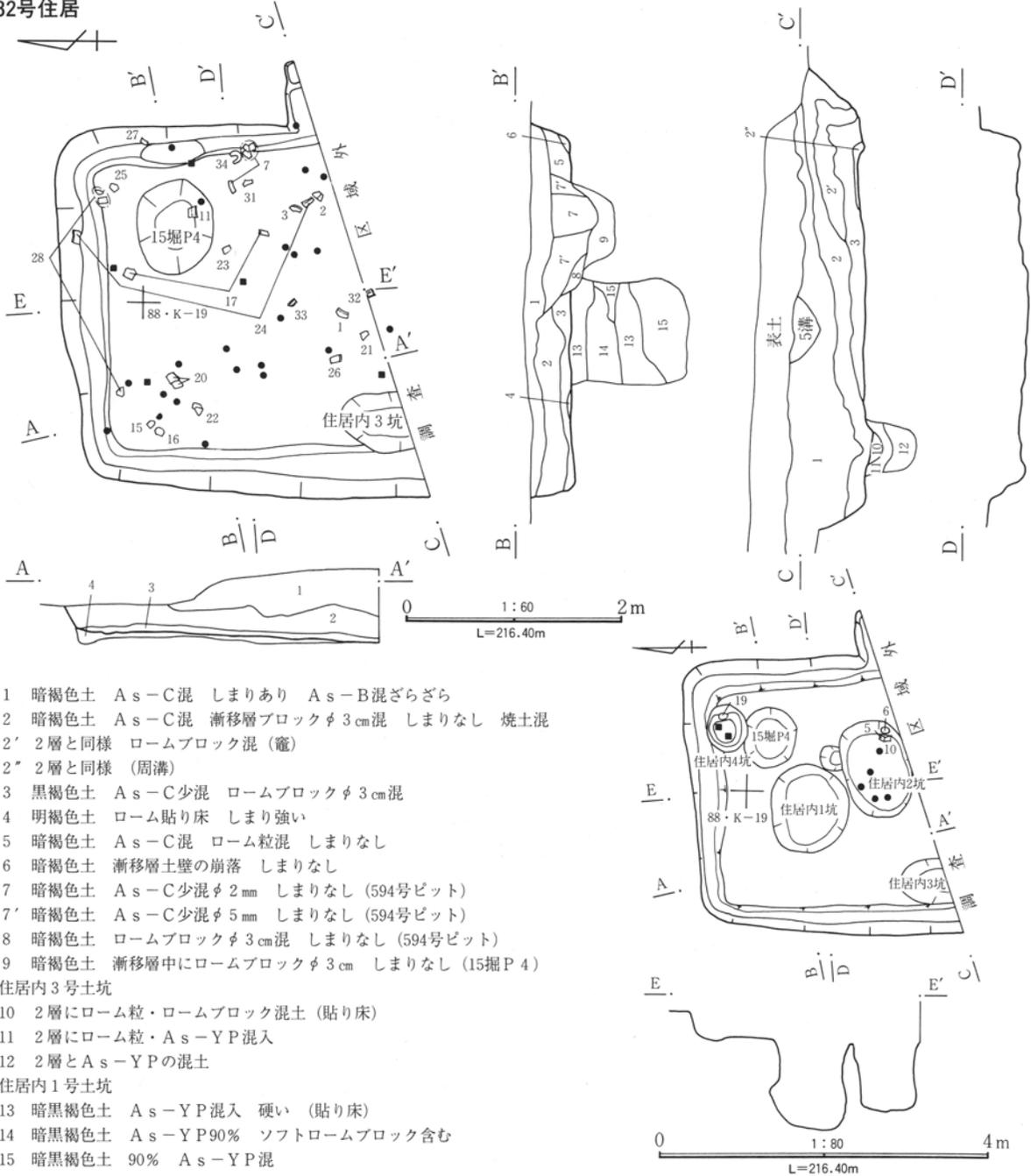
平面形状 大半が調査区域外 北西コーナー含む僅かな部分調査 方形 規模 3.75×(1.55)m

重複 13号掘立柱建物を切る(初見) 柱穴 不明 周溝 全周 貯蔵穴 不明

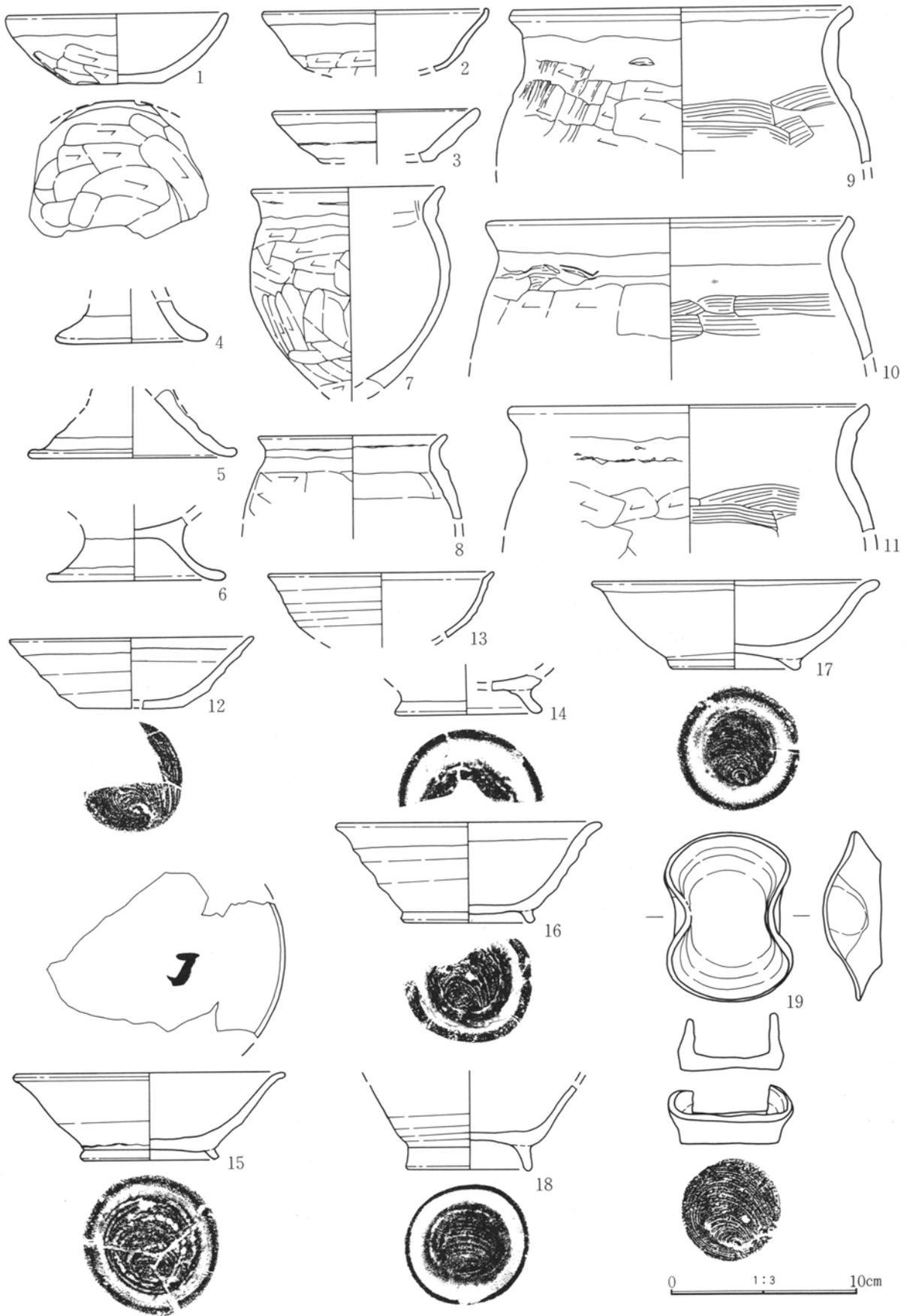
埋土 As-C混土層 残存壁高 0.6m 床面 ソフトローム上面まで掘り下げ、ロームブロック・黒色土で貼り床 特に東半分は黒褐色土で貼り床をし、少しくぼむ状態

竈 不明 遺物 北壁寄り須恵器甕破片出土

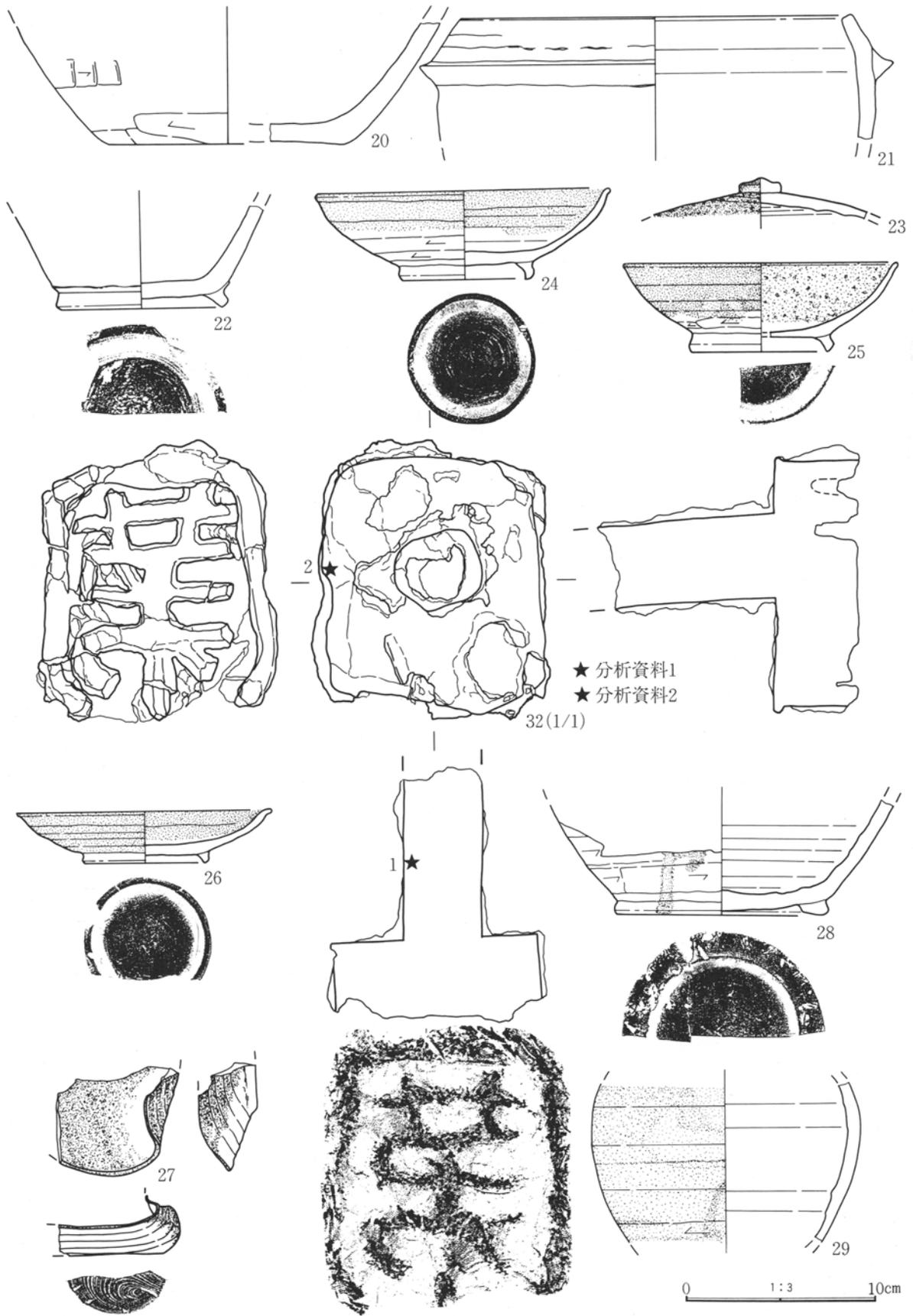
32号住居



第105図 32号住居

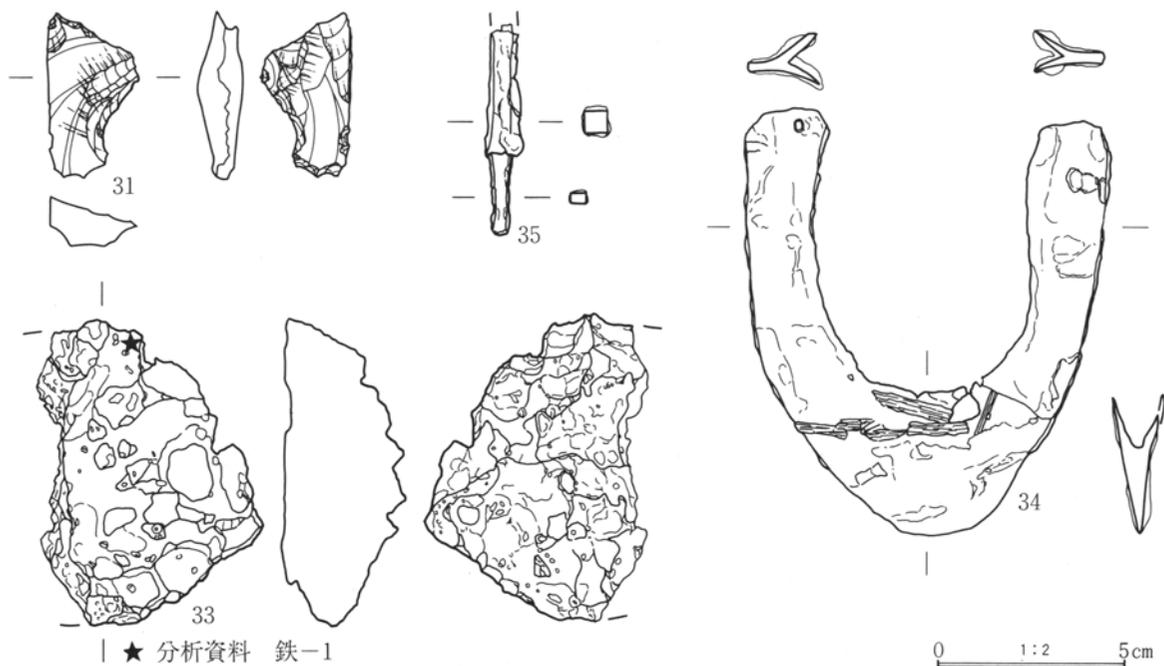


第106図 32号住居出土遺物 (1)



第107図 32号住居出土遺物(2)

第IV章 検出された遺構と遺物



第108図 32号住居出土遺物(3)

32号住居

位置 88区J-18 主軸方位 N-71°-E 平面形状 三分の一が調査区域外 方形

規模 3.35×(3.0)m

重複 15号掘立柱建物4号ピットを切る 594号ピットに切られる 5号溝に切られる

柱穴 なし 周溝 全周 貯蔵穴 不明 埋土 As-C混土層 残存壁高 0.4~0.24m

床面 ロームブロックで貼り床し、よく締める 土坑 1・2・3・4土坑は埋土上層に貼り床が見られることから掘り方時のものと考えられる

竈 北半分を調査 東辺 崩落した割石が見られたことから石組みだったと推定 遺物 雑で厚手の土師器 坏甕、粗い作りの須恵器 碗多い 住居内2号土坑から甕の出土多い 住居内4号土坑から耳皿崩落している状態で出土 灰釉陶器では宝珠型摘のついた蓋、碗、皿、耳皿などが出土 鉄製焼印「第」中央南寄りから鉄製鋤先東壁中央付近から出土 31は流れ込み なお、30は欠番 時期 遺物より10世紀前半

33号住居

位置 88区K-18 主軸方位 N-69°-E

平面形状 隅丸方形 半分が調査区域外 北半分のみ調査 規模 3.2×(1.5)m

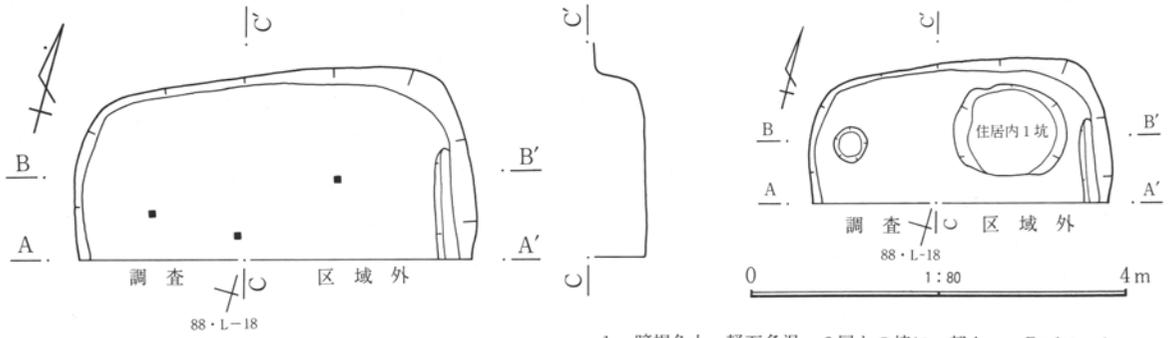
重複 なし 柱穴 なし 周溝 東辺一部 貯蔵穴 不明

埋土 As-C混土層 残存壁高 0.32m 床面 ソフトローム上面まで掘りくぼめたのみ

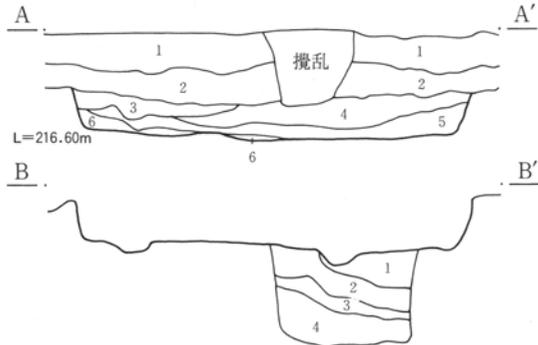
土坑 掘り方時に人為的に埋没したもの 竈 不明 遺物 全て埋土中からで、雑で厚い土師器 坏、須恵器 皿出土

時期 遺物より10世紀前半

第2節 奈良・平安時代以降



88・L-18



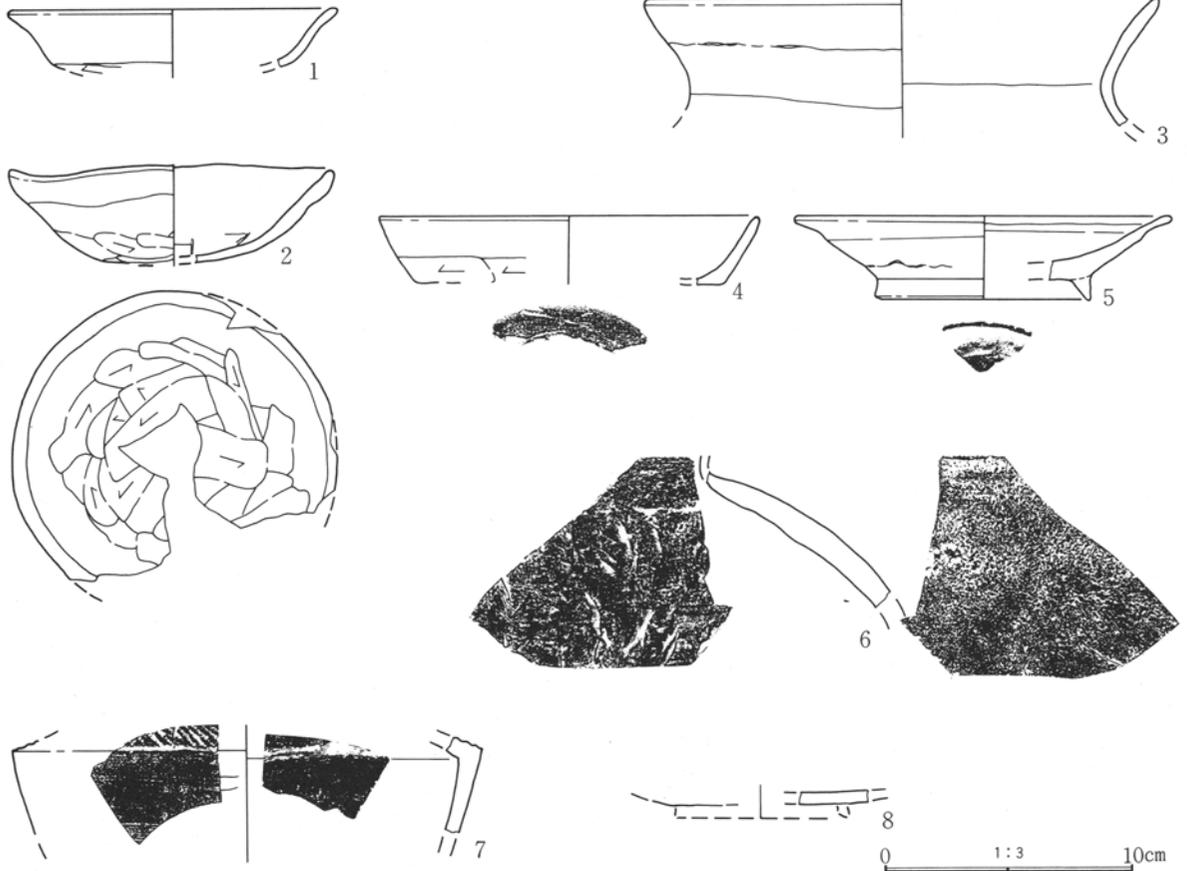
- 1 暗褐色土 軽石多混 2層との境に一部As-Bブロック
- 2 黒褐色土 As-C混
- 3 2層と同様 ローム粒少混
- 4 2層と同様 ローム粒、焼土粒少混
- 5 2層と同様 ローム粒やや多含 東壁焼土あり
- 6 2層と同様 ローム漸移層土混 壁際に分布

住居内1号土坑

全体にしまりなく1・2層のようにブロック主体の土で人為的に埋戻しか

- 1 暗褐色土 ローム漸移層土ブロック混 As-Y P混
- 2 暗褐色土 漸移層土ブロック混 暗褐色土主体
- 3 黒褐色土 1層との混土
- 4 暗褐色土 As-Y P主体 80%混

0 1:60 2m
L=216.20m



第109図 33号住居・出土遺物

2. 掘立柱建物

1号掘立柱建物

位置 98区G-1 平面形 3×2間 長方形 総柱 主軸方向 N-2°-E 面積 21.28㎡

規模 桁行3間 5.6m S1.5m-2.1m-2.0mN 梁行2間 3.8m W1.9m-1.9mE

柱穴 掘り方円形 径平均46cm 検出面からの深さ平均40cm

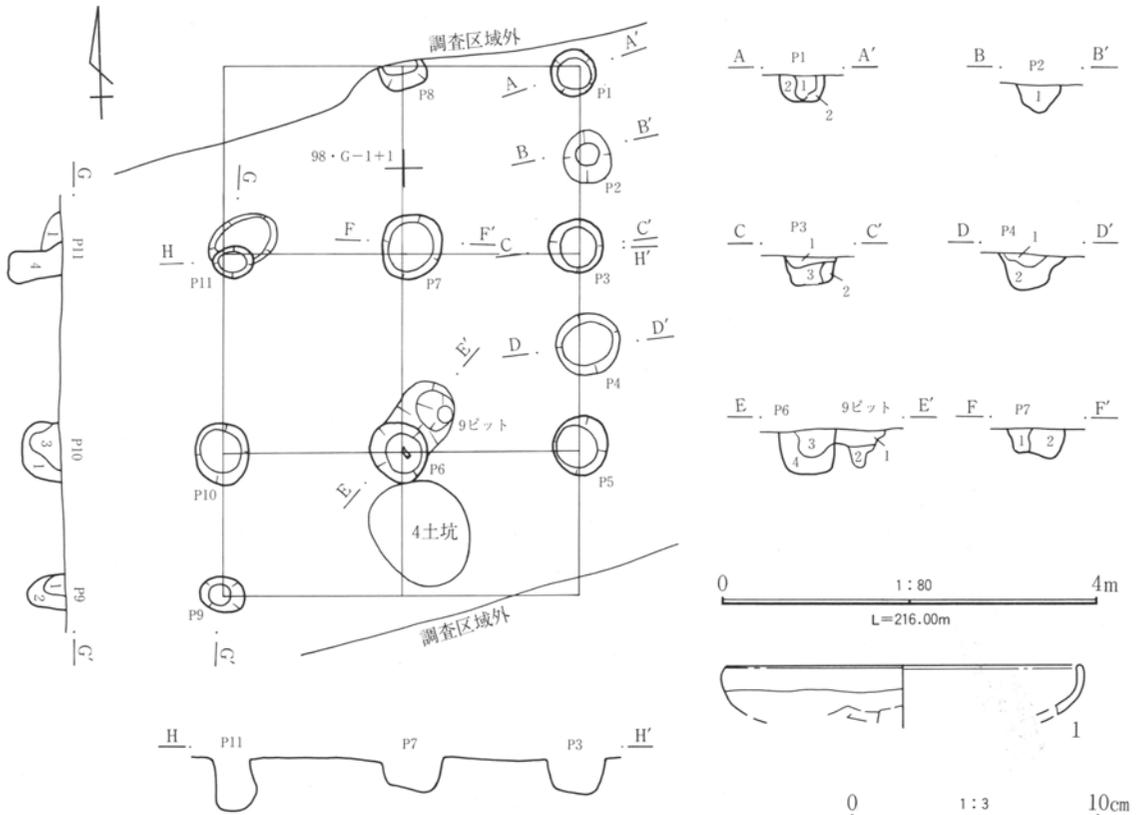
掘り方底面柱のあたり部分 円形 径20cm

柱間寸法は桁方向7尺基準（9・10号ピット間のみ5尺）梁方向6尺基準

遺物 7号ピット埋土から土師器坏

重複 6号ピットが4号土坑と接する 8号住居に切られる（初見）

その他 東辺柱筋にのった2・4号ピットは束柱か 9号ピットは他に比べて小型で柱間が狭い 桁方向北方へ延びる可能性



P-1
1 黒色土 As-C多混、炭少混
2 黒色土 As-C混

P-2
1 暗褐色土 しっとり オレンジ粒φ2mm混

P-3
1 黒色土 As-C混
2 黒色土 ロームブロック少含
3 黒色土

P-4
1 黒色土 As-C混
2 黒色土

P-6・9ピット
1 黒色土 As-C混
2 黒色土 As-C少混
3 暗褐色土 As-C混
4 黒色土

P-7
1 黒色土
2 黒色土 As-C混

P-9・P-10・P-11
1 黒色土 As-C混
2 黒色土
3 灰褐色土 As-C混 As-B混
4 暗褐色土 粘性少しあり ロームブロック多含 軟らかい

第110図 1号掘立柱建物・出土遺物

2号掘立柱建物

位置 97区R-2 **平面形** 2×2間 方形 **主軸方向** N-5.5°-E

規模 桁行2間 4.2m S2.0m-2.2mN 梁行2間 3.6m W1.8m-1.8mE **面積** 15.12m²

柱穴 掘り方円形 径平均82cm 検出面からの深さ平均57cm

掘り方底面柱のあたり部分 円形 径20cm

柱間寸法は桁方向7尺基準 梁方向6尺基準

遺物 3号ピットから1の須恵器坏 4号ピットから2の底部回転ヘラナデ須恵器坏 8号ピットから5の須恵器甕

重複 3・4・14号掘立柱建物と切り合う

その他 平均して大型の柱穴を持つ 柱間柱より隅柱の方が深い傾向

3号掘立柱建物

位置 97区R-2 **平面形** 2間×2間 方形 **主軸方向** N-10.5°-E

規模 桁行2間 4.8m S2.4m-2.4mN 梁行2間 3.4m W1.9m-1.5mE **面積** 16.32m²

柱穴 掘り方円形 径平均59cm 検出面からの深さ平均39cm

掘り方底面柱のあたり部分 円形 径20cm

柱間寸法は桁方向8尺 梁方向西側6尺東側5尺

遺物 なし **重複** 2・4・14号掘立柱建物と切り合う

その他 梁の柱間東より西の方が圧倒的に広い 柱痕跡らしき土層残っていないことから柱引き抜きか？

4号掘立柱建物と主軸方位一致、ピット規模同程度から4号との相互立て替えか？

4号掘立柱建物

位置 97区R-2 **平面形** 2間×1間 長方形 **主軸方向** N-10.5°-E

規模 桁行2間 4.4m S2.4m-2.0mN 梁行1間 3.4m **面積** 14.96m²

柱穴 掘り方円形 径平均47cm 検出面からの深さ45cm

掘り方底面柱のあたり部分 円形 径20cm

土層から柱の側面、底面には漸移層粒、黒色土ブロックをつめている

柱間寸法は桁方向北側7尺南側8尺 梁方向10尺

遺物 2号ピットから須恵器底部回転ヘラ切り坏 **重複** 2・3・14号掘立柱建物と切り合う

その他 桁の隅柱より柱間柱の方が浅い傾向 3号掘立柱建物と主軸方位一致、ピット規模同程度から3号からの立て替えか？

14号掘立柱建物

位置 97区S-2 **平面形** 1間+ α ×2間 長方形 **主軸方向** N-10°-E

規模 桁行1間+ α 1.8m+ α 梁行2間 3.6m W1.8m-1.8mE **面積** 7.92m²+ α

柱穴 掘り方円形 径平均50cm 検出面からの深さ37cm

掘り方底面柱のあたり部分 円形 2号ピット底径20cm

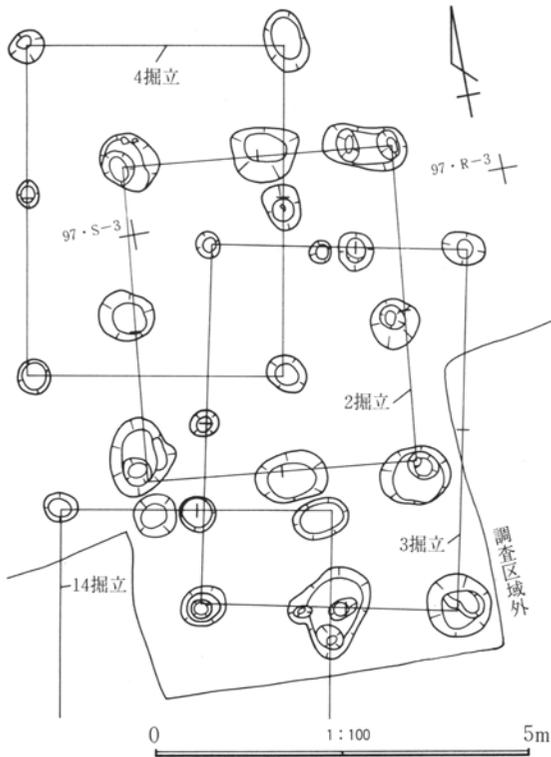
柱間寸法は桁方向6尺 梁方向6尺

遺物 なし **重複** 2・3・4号掘立柱建物と切り合う

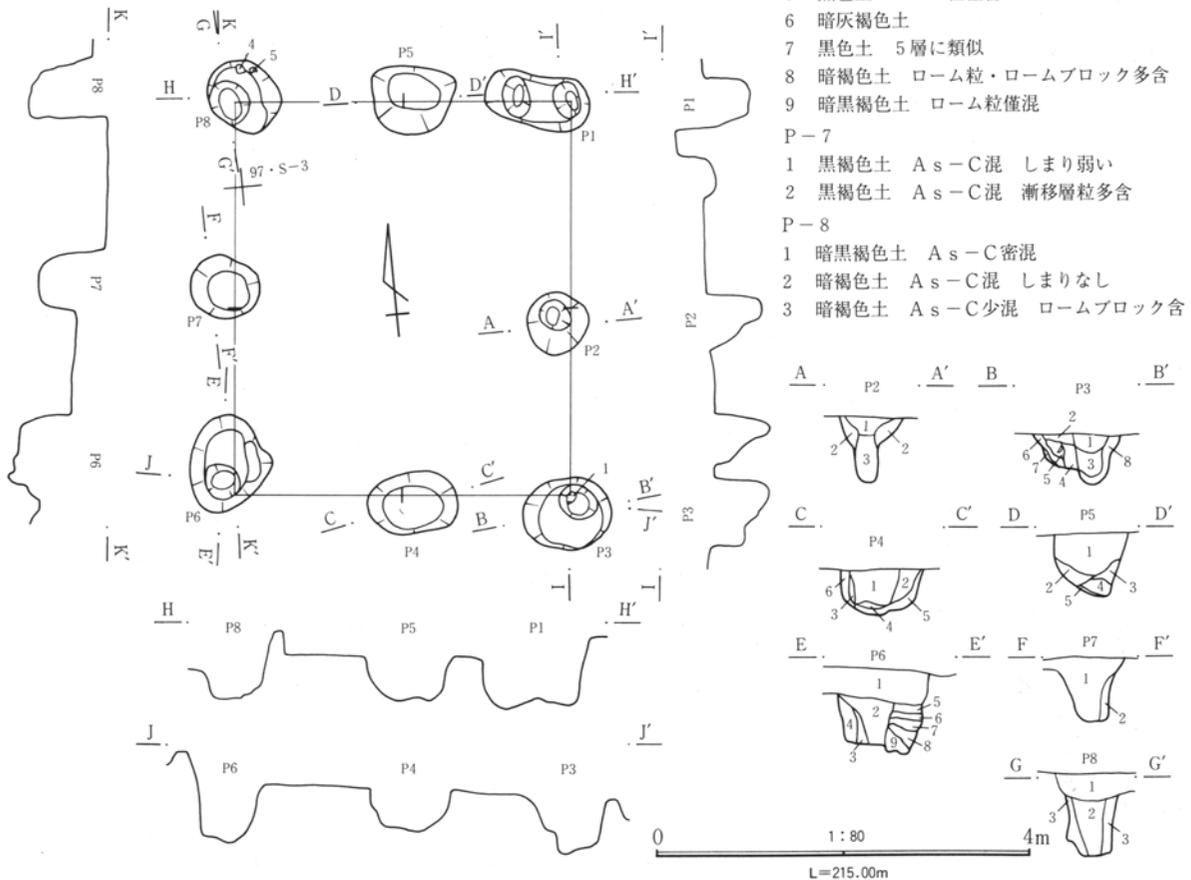
その他 3・4号掘立柱建物と主軸が一致 1号柵列と主軸が直交 発掘調査時には建物として確立できなかったが整理時に認定

第IV章 検出された遺構と遺物

2・3・4・14号掘立柱建物



2号掘立柱建物



P-2

- 1 黒褐色土 As-C・ロームブロック混
- 2 暗褐色土 漸移層類似
- 3 暗褐色土 As-C混 しまりなし

P-3

- 1 黒褐色土 As-C混 しまりややあり
- 2 黒褐色土 As-C混 しまりなし
- 3 黒褐色土 As-C混 ロームブロックφ0.5~2cm混
- 4 明褐色土 As-C混 漸移層粒を多く含む
- 5 黒色土 ローム粒混 As-C僅含
- 6 黒色土 軽石混入なし 漸移層粒を多く含む 粘性あり
- 7 黒色土 軽石混入なし 粘性あり
- 8 黒色土 軽石混入なし しまりなし

P-4

- 1 黒褐色土 As-C混 ロームブロックφ0.5~2cm混 しまり弱い
- 2 1層と同様 しまり強い
- 3 黒褐色土 軽石混入なし しまり弱い
- 4 黒褐色土 As-C少混 固くしめる
- 5 黒色土 漸移層ブロックφ0.5~2cm混 軽石混入なし
- 6 黒褐色土 軽石混入なし 漸移層粒混入

P-5

- 1 黒褐色土 As-C密混
- 2 暗褐色土 As-C・漸移層ブロック・1層ブロック混
- 3 暗褐色土 漸移層ブロック多含
- 4 黒褐色土 As-C僅混
- 5 黒褐色土 軽石混入なし

P-6

- 1 暗黒褐色土 As-C混
- 2 黒褐色土 ロームブロックφ2cm多混
- 3 明褐色土 ローム漸移層粒多含
- 4 明褐色土 漸移層粒・ロームブロック混
- 5 黒色土 ローム粒僅含
- 6 暗灰褐色土
- 7 黒色土 5層に類似
- 8 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多含
- 9 暗黒褐色土 ローム粒僅混

P-7

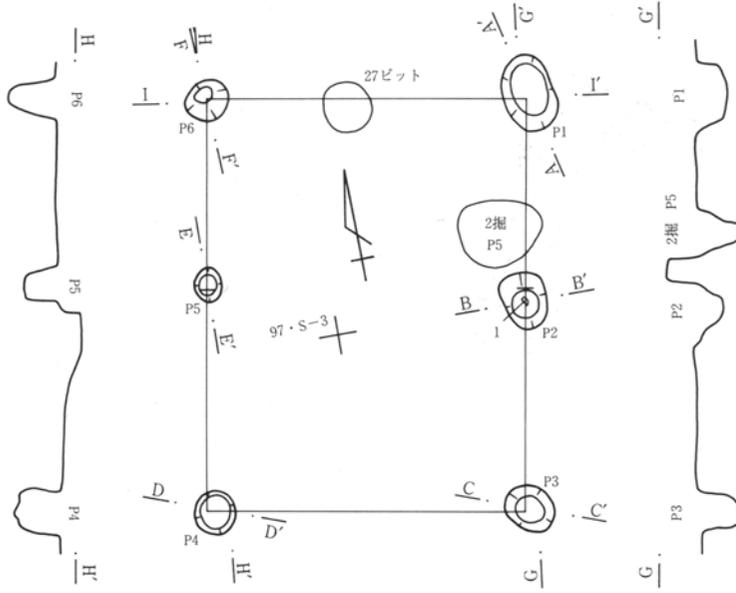
- 1 黒褐色土 As-C混 しまり弱い
- 2 黒褐色土 As-C混 漸移層粒多含

P-8

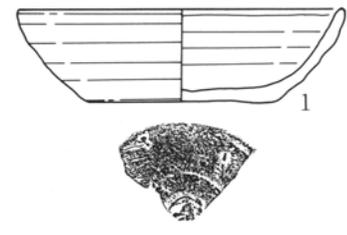
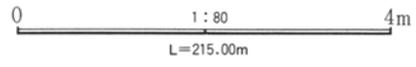
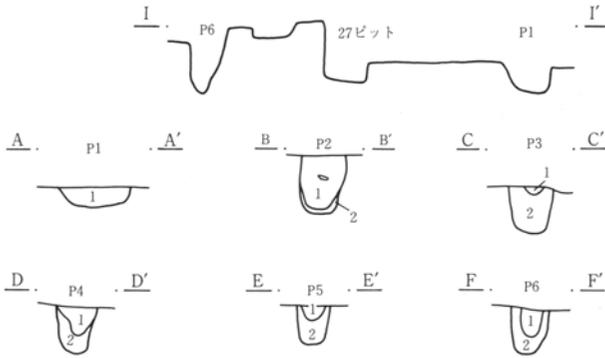
- 1 暗黒褐色土 As-C密混
- 2 暗褐色土 As-C混 しまりなし
- 3 暗褐色土 As-C少混 ロームブロック含

第111図 2・3・4・14号掘立重複・2号掘立柱建物

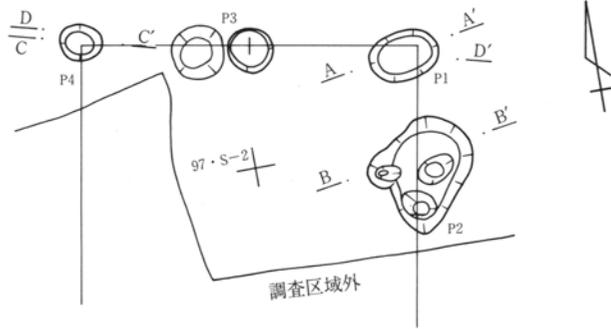
4号掘立柱建物



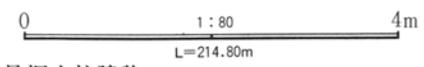
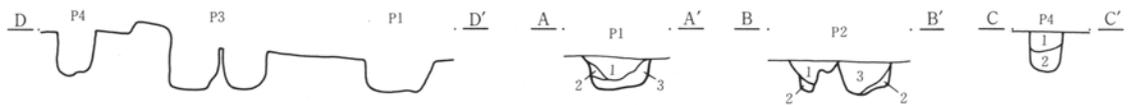
- P-1
 - 1 暗黒褐色土 As-C少混
- P-2
 - 1 黒褐色土 As-C密含
 - 2 明褐色土 漸移層粒多含
- P-3
 - 1 黒褐色土 As-C混
 - 2 暗褐色土 漸移層に類似
- P-4
 - 1 暗黒褐色土 As-C主混 弱粘
 - 2 暗褐色土 軽石混 粘性あり
- P-5
 - 1 暗黒褐色土 As-C混
 - 2 暗褐色土 漸移層粒多い 黒色土ブロック含
- P-6
 - 1 暗黒褐色土 As-C混
 - 2 褐色土 漸移層に類似



14号掘立柱建物



- P-1
 - 1 黒褐色土 As-C混 しまり弱い
 - 2 黒褐色土 As-C混 しまりなし
 - 3 黒褐色土 軽石混入なし
- P-2
 - 1 黒褐色土 As-C混 しまり弱い
 - 2 黒褐色土 しまり弱い
 - 3 暗褐色土 橙色軽石φ2mm少混 しまり弱い
- P-4
 - 1 黒色土 As-C混
 - 2 暗褐色土 As-C混 粘性あり



第114図 4号掘立柱建物・出土遺物、14号掘立柱建物

5号掘立柱建物

位置 97区S-3 平面形 (1間)×2間 長方形 主軸方向 N-1.5°-E

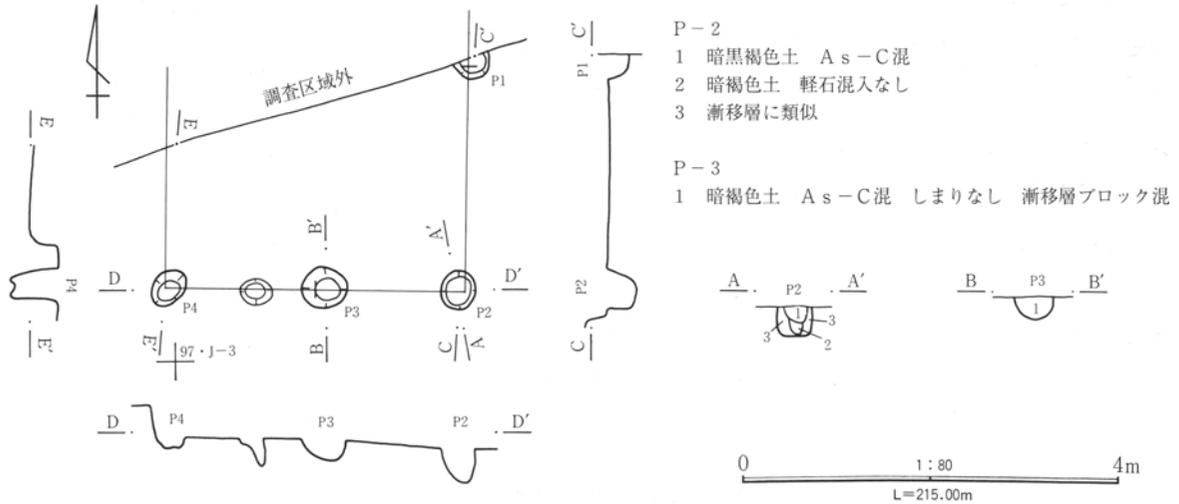
規模 桁行(1間) 2.4m 梁行2間 3.2m S1.5m-1.5m N 面積 (6.08m²)

柱穴 掘り方円形 径平均38cm 検出面からの深さ30cm

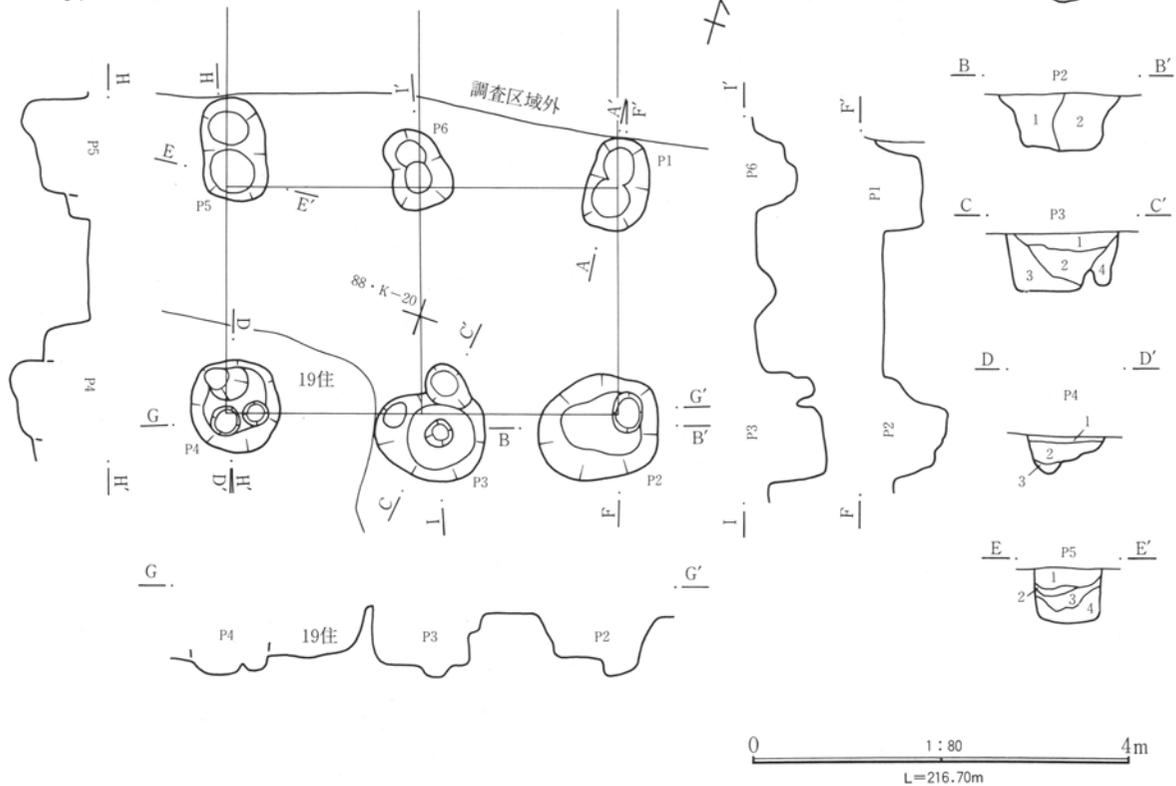
掘り方底面柱のあたり部分円形 径20cm

柱間寸法は桁方向8尺 梁方向5尺 遺物 なし 重複 なし

その他 大半が調査区域外だが、1号掘立柱建物と主軸方位が一致し、ピット規模同程度から同時期存在か?



6号掘立柱建物



第115図 5・6号掘立柱建物

第IV章 検出された遺構と遺物

- P-1
 1 暗褐色土 As-C混
 2 暗黒褐色土 As-C多混 弱粘
 3 褐色土 As-C少混
 4 褐色土 軽石ほとんど混入しない 軟らかい
- P-2
 1 黒褐色土 As-C多混 漸移層ブロック混
 2 褐色土 As-C多混 漸移層ブロック混 弱粘
- P-3
 1 褐色土 As-C多混 軟らかくふかふか
 2 褐色土 As-C混
- 3 黒褐色土 As-C混 しまりあり
 4 暗褐色土 As-C混 ローム漸移層ブロック混
- P-4 (19号住居内)
 1 褐色土 ロームブロックと暗褐色土の混土 (19号住居貼り床)
 2 黒褐色土 暗褐色土・黒褐色土・ローム粒の混土
 3 2層と同様 YPを多混
- P-5
 1 褐色土 As-C多混 ロームブロック混
 2 褐色土 As-C混 ローム粒・ロームブロック混
 3 褐色土 As-C少混 ローム粒・ロームブロック多混
 4 暗褐色土 As-C僅混 ローム粒・ロームブロック混

6号掘立柱建物

位置 88区K-20 平面形 (1間)×2間 長方形 主軸方向 N-18°-W

規模 桁行(1間) 2.4m 梁行2間 4.2m W2.1m-2.1m E 面積 (6.72m²)

柱穴 掘り方円形 径平均92cm 検出面からの深さ52cm

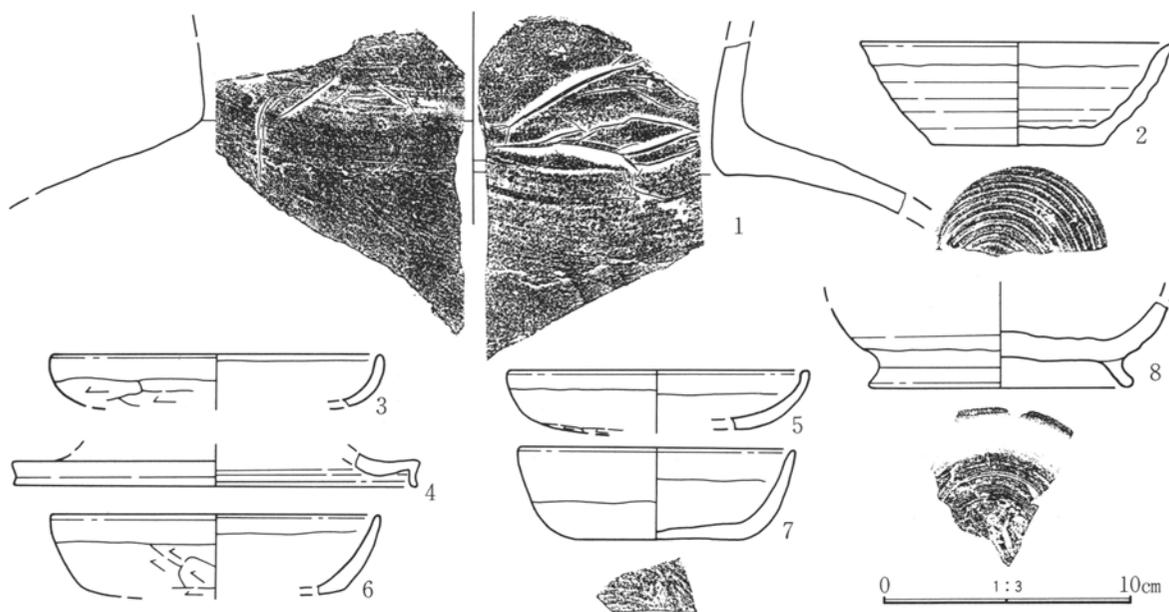
掘り方底面柱のあたり部分 円形 径20cm

柱間寸法は桁方向8尺 梁方向7尺

遺物 1号ピットからは須恵器底部回転糸切り坏 3号ピットからは土師器坏、須恵器碗

重複 4号ピットを19号住居床面が切る

その他 柱穴の掘り方大型 2号ピットを除いて他は底部柱圧痕が2基以上 建て替えか?



第116図 6号掘立柱建物出土遺物

7号掘立柱建物

位置 88区M-18 平面形 3間×2間 庇3間×1間 長方形 主軸方向 N-80°-E

規模 桁行3間 6.3m W2.1m-2.1m-2.1m E 梁行2間 4.2m 庇含3間 6.3m S2.1m-2.1m
 -庇2.1m N 面積 身舎26.46m² 庇含 39.69m²

柱穴 掘り方円形 径平均105cm 検出面からの深さ71cm

2・3・12号ピット柱痕(土層) 掘り方底面柱のあたり部分 円形 径20cm

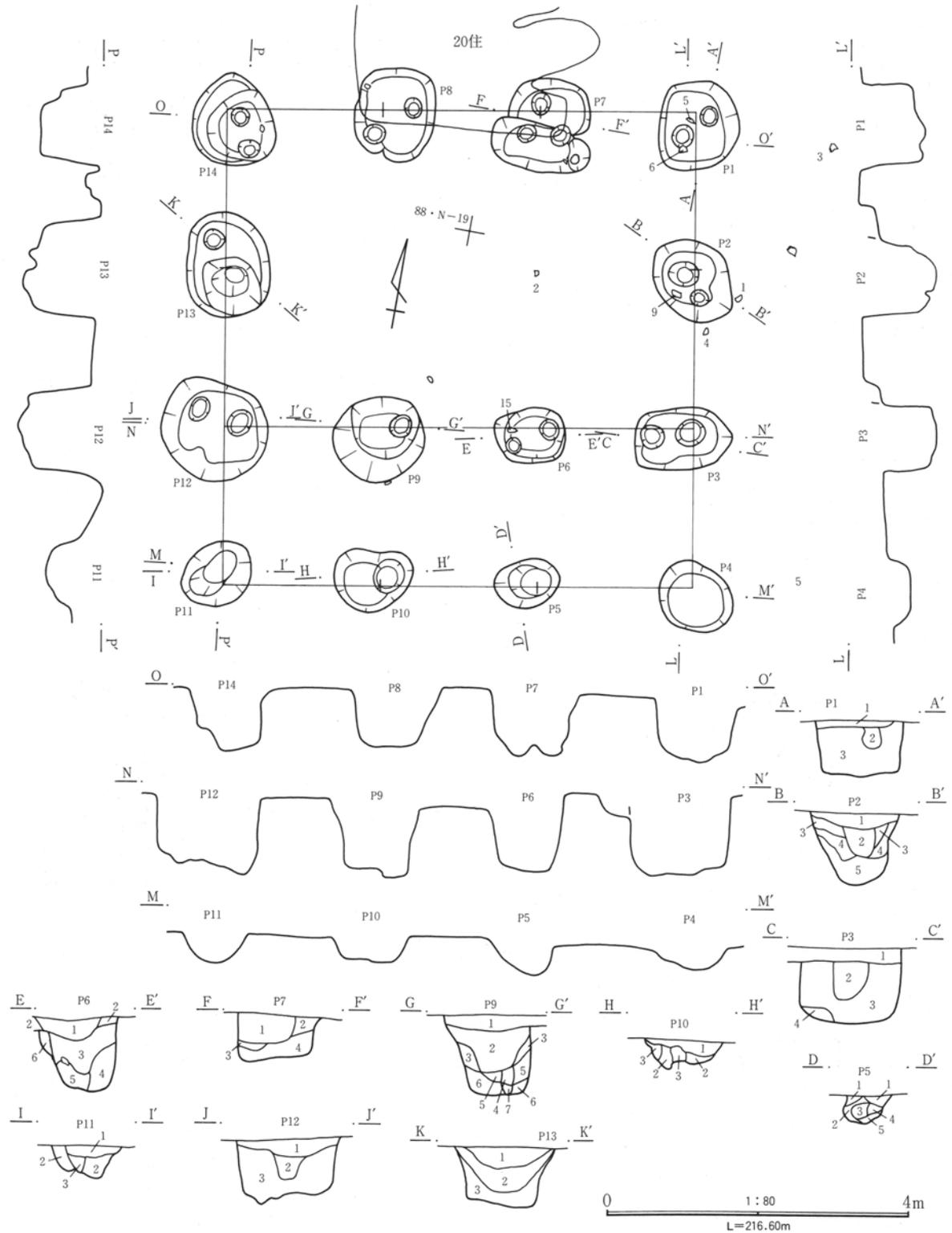
柱間寸法は桁方向7尺 梁方向7尺

遺物 須恵器甕底部出土 1号ピットより8の土師器鉢? 6号ピットから底部回転糸切り坏 13号ピット

からは長頸壺肩部破片、須恵器底部回転ヘラナデ坏

重複 7・8号ピットを20号住居が切る

その他 身舎より底部分柱穴浅い 身舎柱穴底部柱の圧痕2基以上 建て替えか？ 対して底部分の柱圧痕は1基のみ 12号ピットの土層より柱の下部と側面部分は黒色土とロームを版築していることがわかる



第117図 7号掘立柱建物

第四章 検出された遺構と遺物

P-1

- 1 黒褐色土 As-C混
- 2 褐色土 As-C混 YP粒・ローム粒含
- 3 黒褐色土 As-C混 ロームブロックφ1~3cm・YPブロック含

P-2

- 1 黒褐色土 As-C混
- 2 黒褐色土 As-C混 ロームブロックφ10cm含
- 3 1層と同様 ローム粒混
- 4 3層と同様 ローム粒多混
- 5 黒褐色土 As-C混 YP・ローム粒多混

P-3

- 1 黒色土 As-C混 硬い
- 2 黒色土 As-C混 ロームブロックφ2~3cm多混 軟らかい
- 3 黒色土 As-C少混 ロームブロックφ1~2cm混 軟らかい
- 4 明褐色土 YP・ロームの混土 黒色土少混

P-5

- 1 黒褐色土 As-C混 ローム粒少混
- 2 褐色土 ローム漸移層土とソフトロームの混土
- 3 黒褐色土 As-C混 ローム粒φ1cm多混
- 4 黒褐色土 As-C混
- 5 3層と同様 ローム粒多混

P-6

- 1 灰褐色土 As-B
- 2 黒色土 As-C少混
- 3 黒色土 As-C混 ロームブロックφ1~3cm多混 軟らかい
- 4 黒色土 As-C混 ロームブロックφ1cm微混 軟らかい
- 5 黒色土 As-C僅混 ロームブロックφ1~3cm多混 軟らかい
- 6 黒色土 As-C僅混 漸移層ブロックφ5cm多混

P-7

- 1 暗黒褐色土 ローム粒混
- 2 暗黒褐色土 ロームブロックφ2~3cm混
- 3 暗黒褐色土 ローム粒多混
- 4 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック混

P-9

- 1 黒褐色土 As-C混
- 2 1層と同様 ロームブロック・漸移層ブロックφ1~5cm含
- 3 2層と同様 漸移層粒多混
- 4 黒色土 As-C少混 しまりない
- 5 黒褐色土 As-C少混 漸移層ブロック含 粘性あり
- 6 黒色土 As-C少混 YP・ローム粒含 粘性あり
- 7 黒色土 As-C少混 漸移層ブロック混 粘性あり

P-10

- 1 黒褐色土 As-C混 ローム粒少混
- 2 暗黒褐色土 As-C混 ローム粒混
- 3 暗褐色土 ローム漸移層と類似

P-11

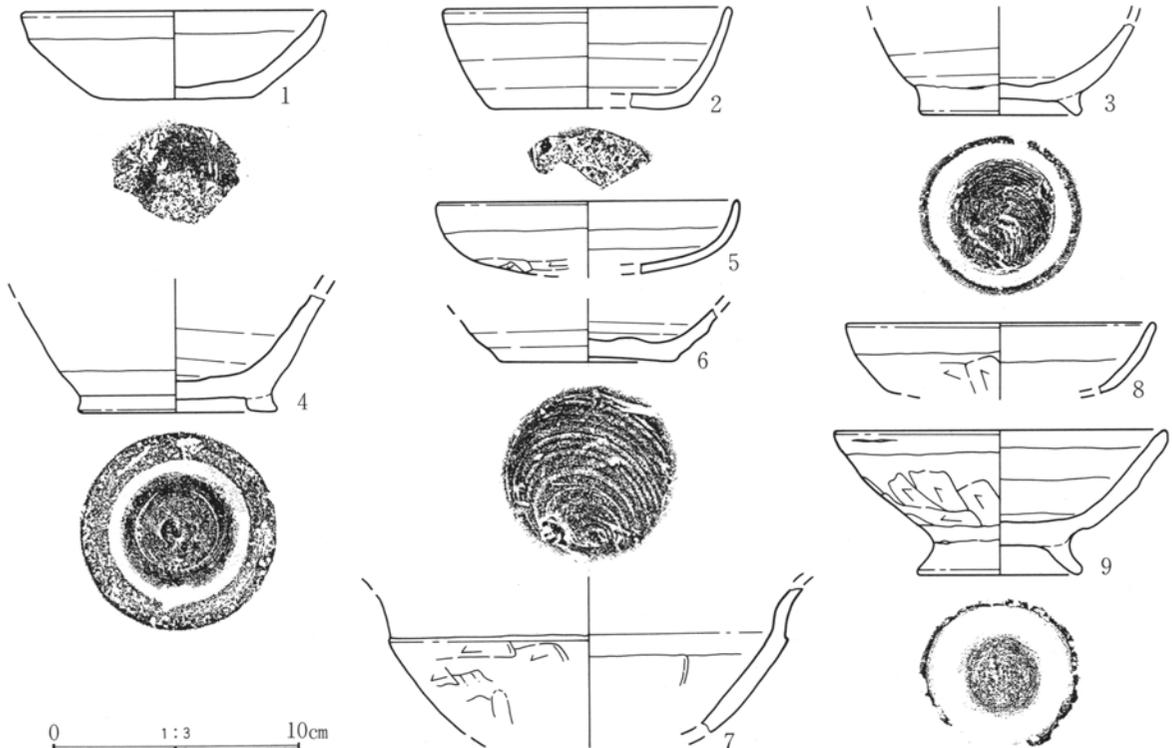
- 1 黒褐色土 As-C混 大粒ローム少混
- 2 暗黒褐色土 As-C混
- 3 黒褐色土 As-C混 ロームブロック多混 しまり弱い

P-12

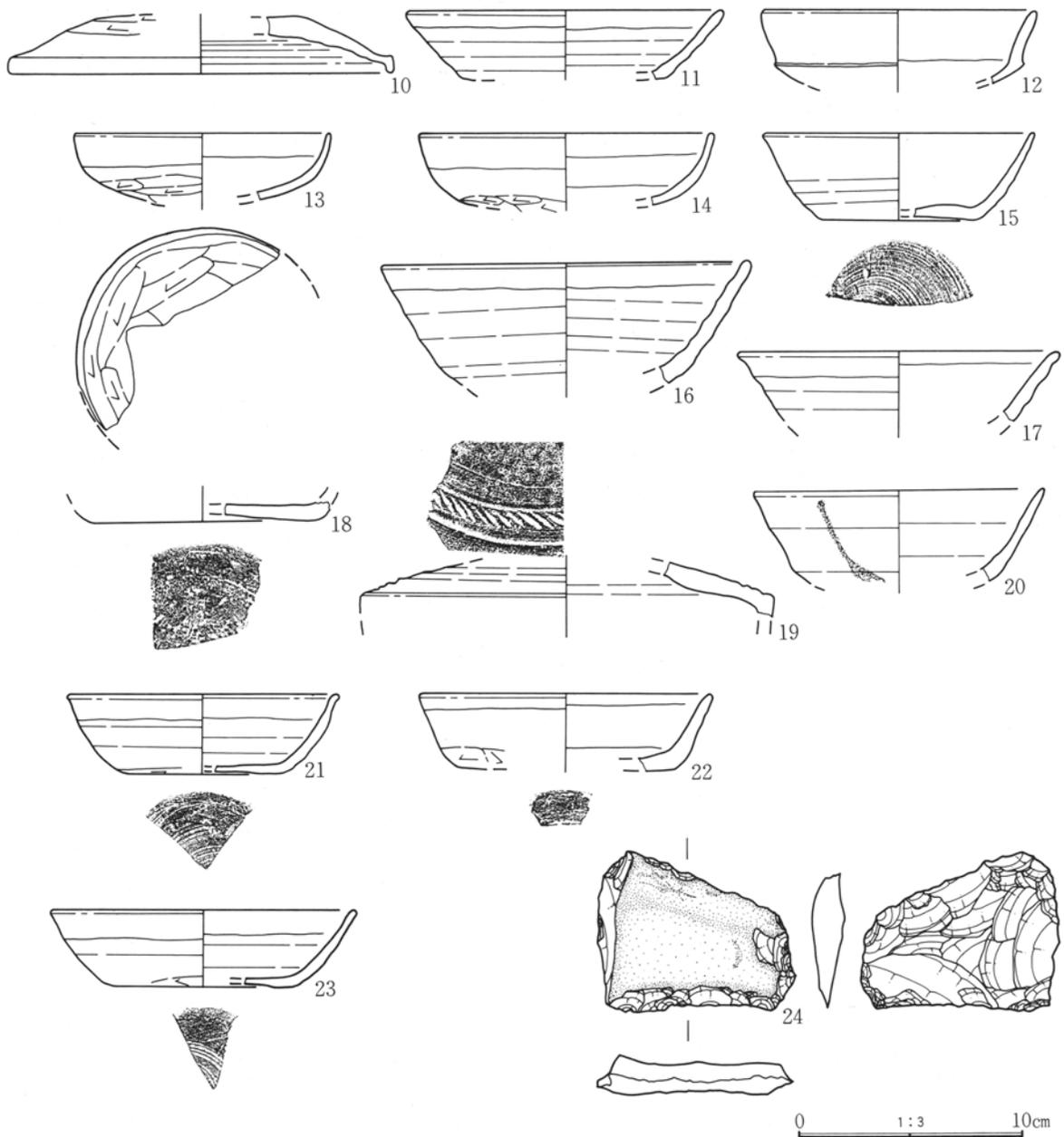
- 1 黒褐色土 As-C混 ローム粒・ロームブロック混
- 2 1層と同様 少し黒い(柱痕)
- 3 1層・ローム漸移層土・ロームブロック互層(埋土)

P-13

- 1 黒褐色土 As-C混
- 2 1層と同様 ローム粒φ1~3cm多混
- 3 2層と同様 黒褐色土主



第118図 7号掘立柱建物出土遺物(1)



第119図 7号掘立柱建物出土遺物(2)

8号掘立柱建物

位置 88区G-17 **平面形** 3間×2間 長方形 **総柱 主軸方向** N-10°-W **面積** 11.7m²

規模 桁行3間 4.5m S1.5m-1.5m-1.5m N 梁行2間 3.6m W1.8m-1.8m E

柱穴 掘り方円形 径平均98cm 検出面からの深さ60cm

掘り方底面柱のあたり部分 楕円形 径30cm

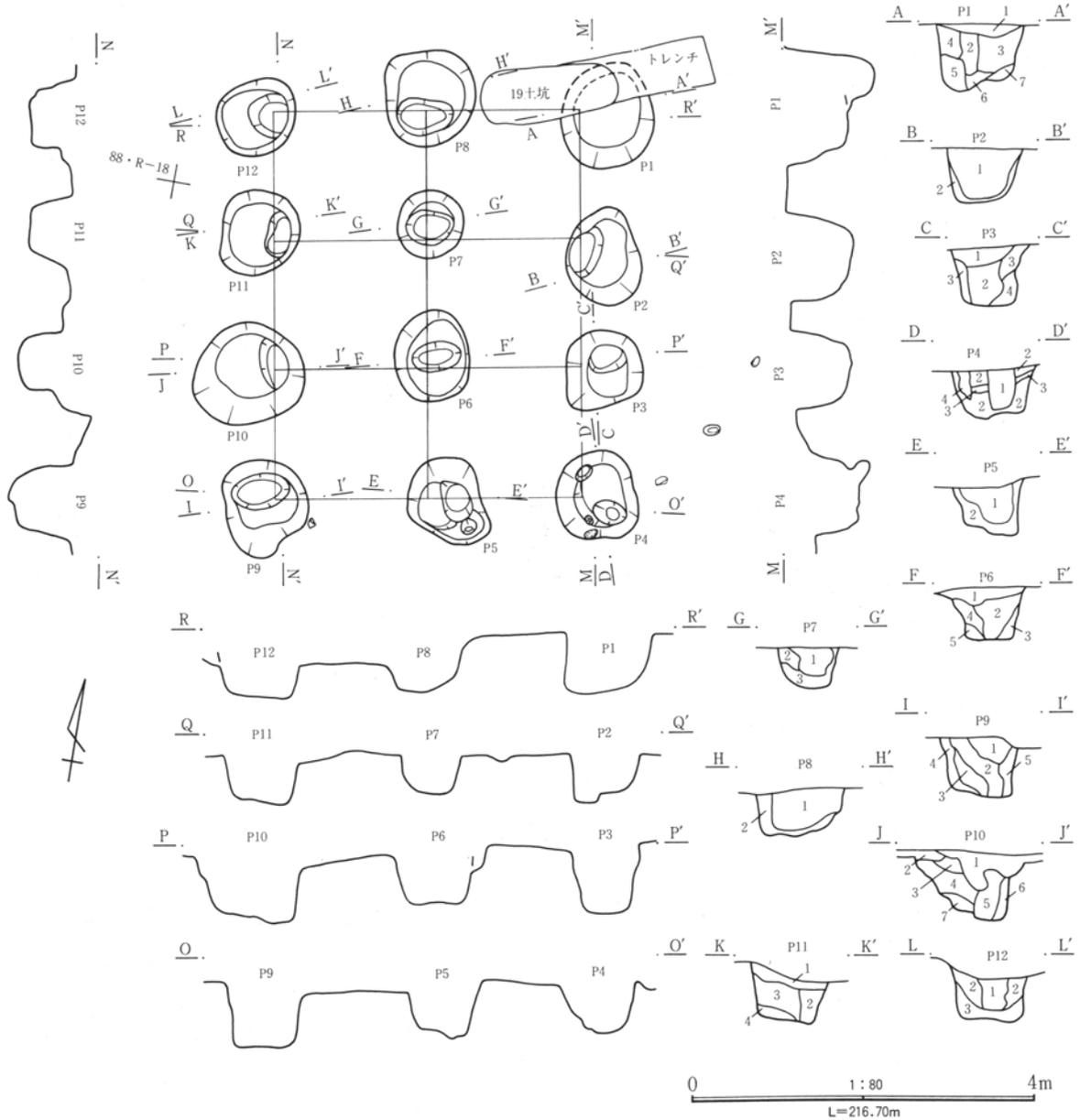
柱間寸法は桁方向5尺 梁方向6尺

遺物 全て柱穴の埋土出土であるが周辺に比定される遺構がないため8号掘立柱建物の遺物と考えても良いのでは？ 土師器坏 須恵器長頸壺頸部破片？

重複 19・20号土坑に切られる

その他 7号掘立柱建物と主軸方向が直角に交わり、ピット形態も似かよることから同時期存在か 倉庫か

第IV章 検出された遺構と遺物



P-1

- 1 黒褐色土 A s-C混
- 2 1層と同様 ロームブロックφ1~5cmを含む(柱痕)
- 3 1層と同様 ロームブロック・ローム漸移層を含む
- 4 1層と同様 ロームブロックφ1cmを含む
- 5 黒色土 A s-C混 ロームブロック少混
- 6 黒色土 ロームブロック・ローム漸移層ブロック混
- 7 黒色土 ロームブロック混

P-2

- 1 黒褐色土 A s-C混 ロームブロックφ1~2cmを含む
- 2 黒褐色土 A s-C少混 ローム漸移層粒を含む 粘性あり

P-3

- 1 黒色土 A s-C混 ローム漸移層ブロック混
- 2 黒色土 A s-C混 ロームブロックφ3cm微混 軟らかい
- 3 黒色土 A s-C混 軟らかい
- 4 黒色土 A s-C混 漸移層ブロック多混

P-4

- 1 黒褐色土 A s-C混
- 2 1層と同様 ローム粒少混 やや硬い
- 3 1層と同様 ローム漸移層ブロック混 漸移層土主体
- 4 1層と同様 漸移層粒混

P-5

- 1 黒褐色土 A s-C混
- 2 暗褐色土 A s-C混 ローム漸移層ブロック・ロームブロック混

P-6

- 1 暗褐色土 A s-C混 A s-A主
- 2 黒色土 A s-C混
- 3 黒色土 A s-C微混 ローム漸移層ブロック多混
- 4 黒色土 A s-C混 漸移層ブロック多混
- 5 黒色土 A s-C混 漸移層ブロック混

第120図 8号掘立柱建物

第2節 奈良・平安時代以降

P-7

- 1 暗黒褐色土 As-C混 ローム粒φ1cm混
- 2 暗黒褐色土 As-C混 1層よりAs-C少ない
- 3 1層と同様 硬く締まる

P-8

- 1 黒褐色土 As-C多混
- 2 明褐色土 ロームブロック主

P-9

- 1 暗褐色土 As-C混 ローム漸移層ブロック混
- 2 黒褐色土 As-C少混 ロームブロックφ2cm混
- 3 黒褐色土 As-C混
- 4 暗褐色土 ロームブロックφ3cm ローム漸移層主
- 5 明褐色土 黒色土・漸移層土・ソフトローム混土

P-10

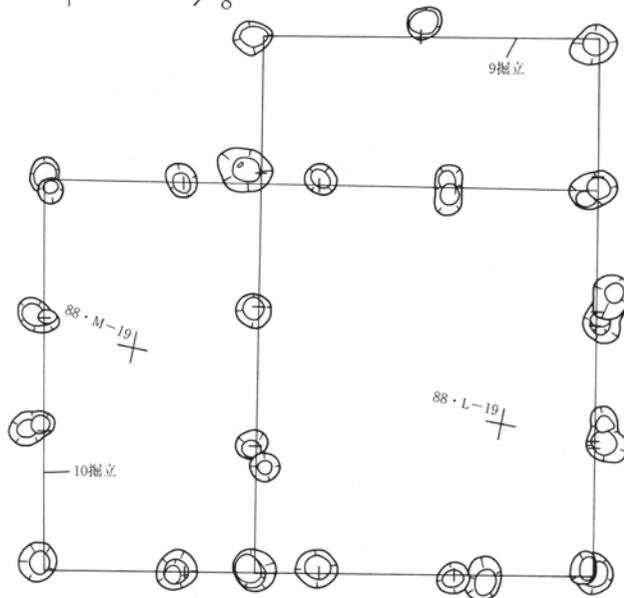
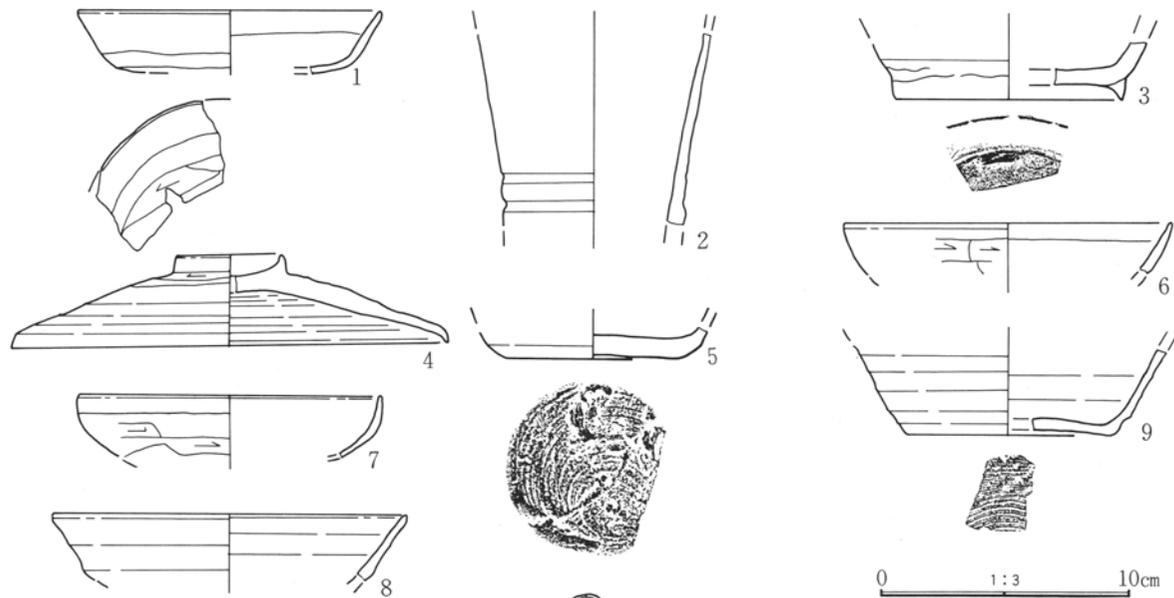
- 1 As-A
- 2 As-A主 黒色土ブロック混
- 3 黒色土 As-C混 As-A混
- 4 黒色土 As-C混 ローム漸移層ブロック・ロームブロック少混
- 5 黒色土 As-C混
- 6 黒色土 As-C少混
- 7 黒色土 As-C少混 ロームブロックφ2~10cm多混

P-11

- 1 黒褐色土 As-C混 ロームブロック含
- 2 黒褐色土 ローム粒・ローム漸移層粒を含む しまり弱い
- 3 1層と同様 ローム粒多混
- 4 黒色土 ロームブロック・ローム粒多含

P-12

- 1 黒褐色土 As-C混 ローム粒・ロームブロックφ1~5cm混
- 2 黒褐色土 1層よりロームブロック小さく、少ない
- 3 黒褐色土 ローム漸移層粒・ロームブロック混



第121図 8号掘立柱建物出土遺物、9・10号掘立柱重複

9号掘立柱建物

位置 88区L-19 平面形 4間×2間 長方形 主軸方向 N-10°-W 面積 31.95㎡

規模 桁行4間 7.1m S1.7m-1.8m-1.8m-1.8mN 梁行2間 4.5m W2.1m-2.4mE(北辺)

柱穴 掘り方円形 径平均55cm 検出面からの深さ44cm

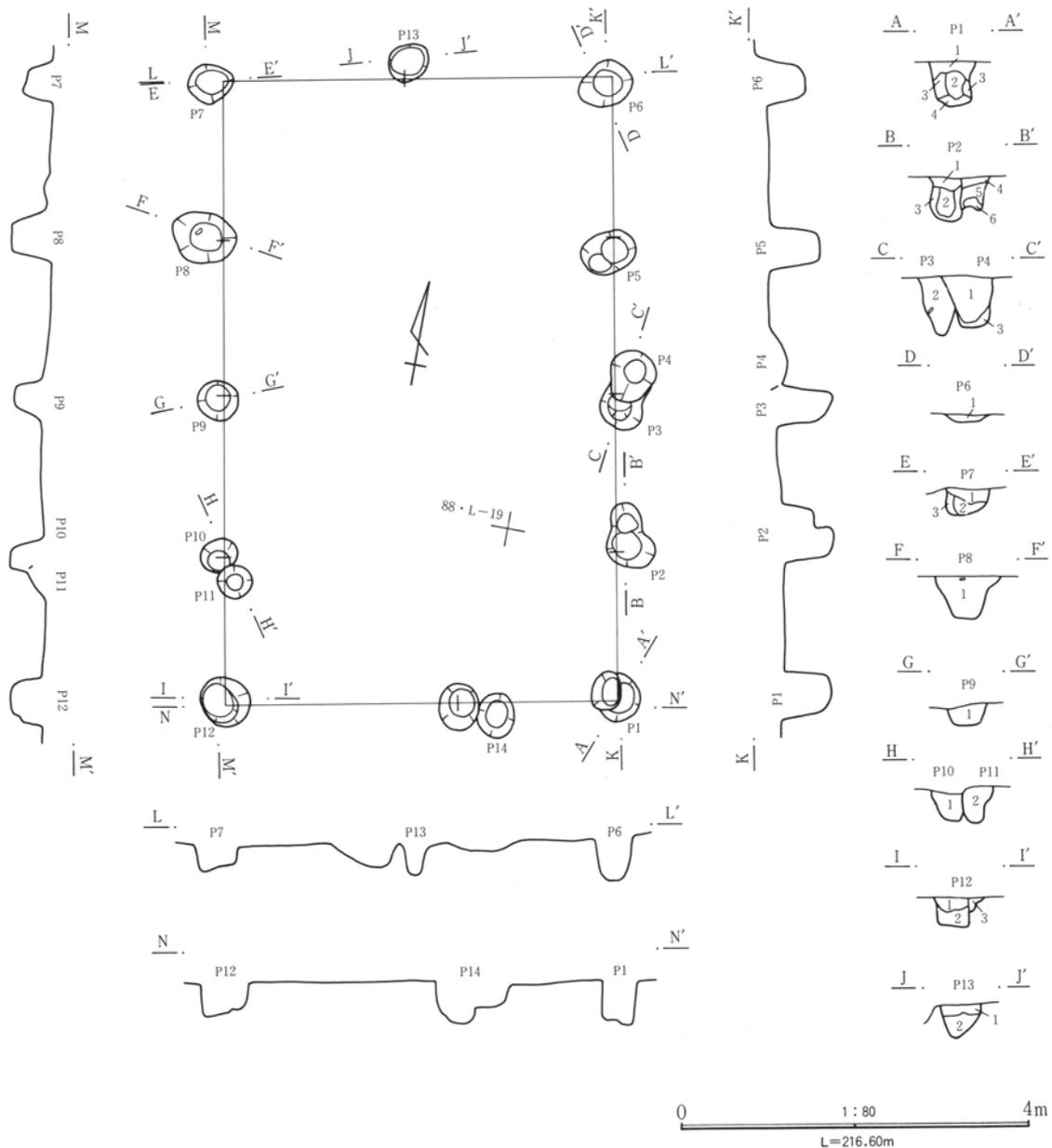
掘り方底面柱のあたり部分 円形 径20cm

柱間寸法は桁方向6尺 梁方向7尺・8尺 梁柱が北辺と南辺では直線上に並ばない

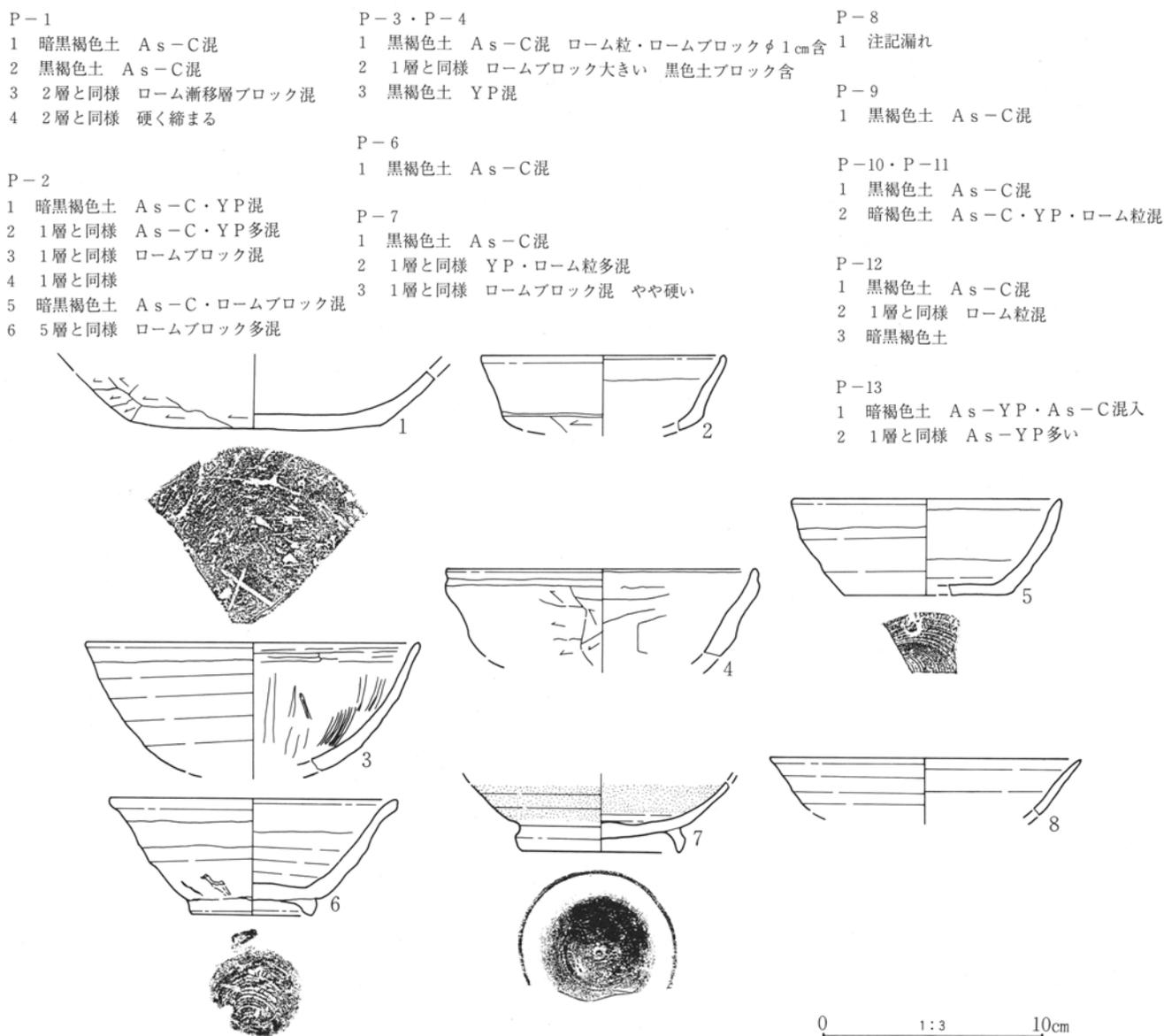
遺物 8号ピットの埋土からの出土多い 灰釉陶器出土

重複 2・3・10号ピットが10号掘立柱建物のピットに切られる

その他 7号掘立柱建物と主軸が直交、8号掘立柱建物と一致することから同時期存在か 10号掘立柱建物の主軸方向も直交する また10号掘立柱建物のピットの形状も似かよることから建て替えか



第122図 9号掘立柱建物



第123図 9号掘立柱建物出土遺物

10号掘立柱建物

位置 88区L-19 平面形 4間×3間 長方形 主軸方向 N-80°-E 面積 37.74m²

規模 桁行4間 7.4m W1.9m-1.8m-1.8m-1.9m E 梁行3間 5.1m S1.8m-1.5m-1.8m N

柱穴 掘り方円形 径平均51cm 検出面からの深さ55cm

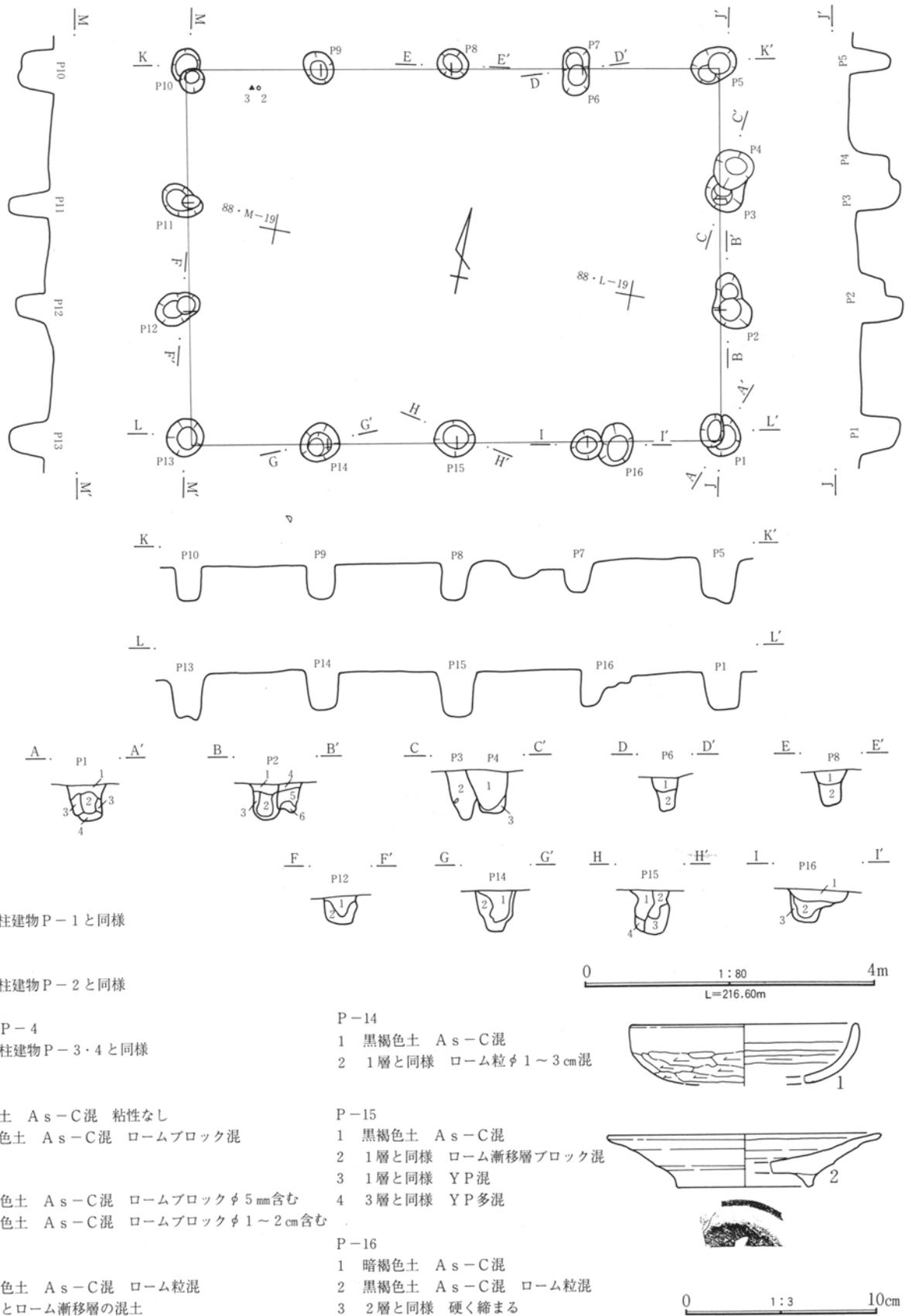
掘り方底面柱のあたり部分 円形 径20cm

柱間寸法は桁方向6尺 梁方向6尺・5尺

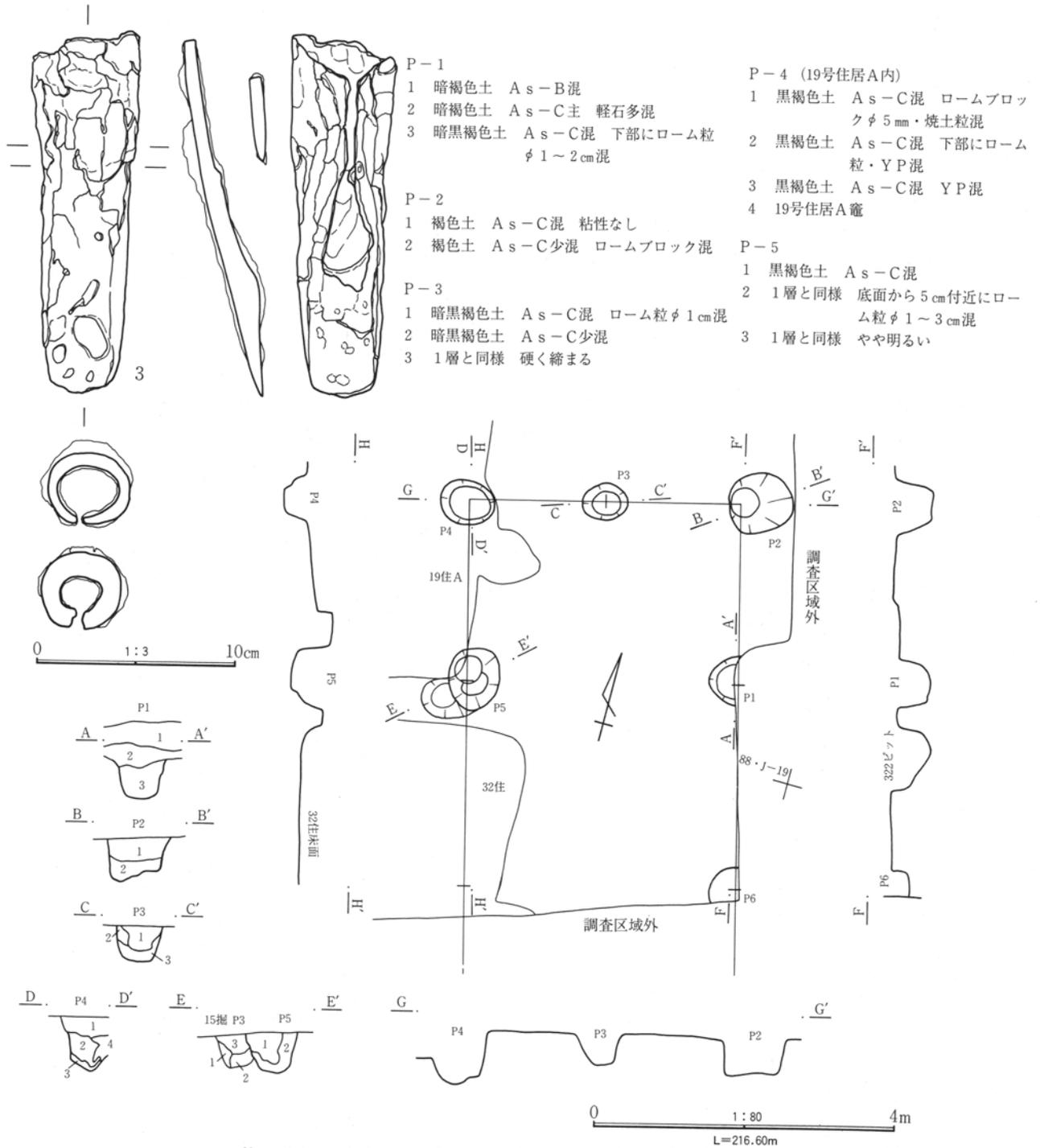
遺物 遺物が少ない 11号ピットから2の須恵器皿 9号と10号の間で3の鉄製鏝

重複 9号掘立柱建物を切る その他 8号掘立柱建物と主軸が直交、7号掘立柱建物と一致することから同時期存在か しかし7号掘立柱建物の東辺と10号掘立柱建物の西辺が接することから同時存在は不可能 9号掘立柱建物のピットの形状、柱間、主軸方向が直交する等の理由から9号掘立柱建物から10号掘立柱建物への立て替えと考えられる

第IV章 検出された遺構と遺物



第124図 10号掘立柱建物・出土遺物(1)



第125図 10号掘立柱建物出土遺物(2)・11号掘立柱建物

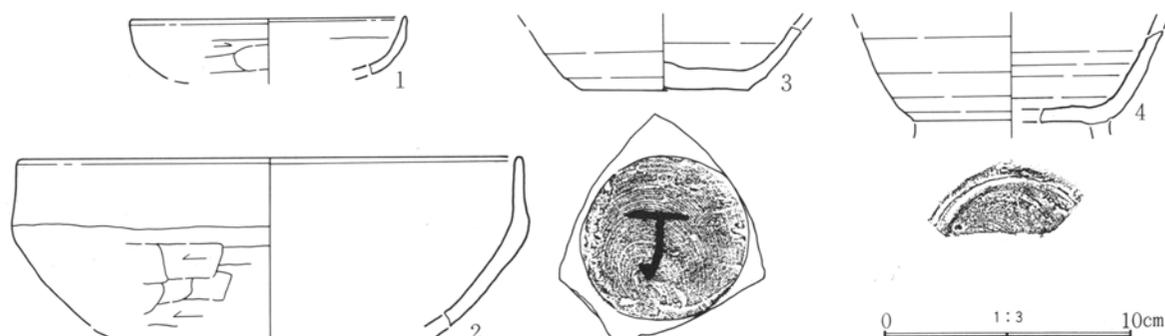
11号掘立柱建物

位置 88区J-19 **平面形** 2間+α×2間 長方形 **主軸方向** N-14°-W **面積** 19.08㎡
規模 桁行2間+α 5.1m+α? S?-2.7m-2.4mN 梁行2間 3.6m W1.8m-1.8mE
柱穴 掘り方円形 径平均65cm 検出面からの深さ55cm 3号ピット浅い
 掘り方底面柱のあたり部分 円形 径30cm
 柱間寸法は桁方向北から9尺・8尺 梁方向6尺
遺物 2号ピット出土は2の土師器坏 須恵器坏底部外面に墨書「丁」

第IV章 検出された遺構と遺物

重複 5号ピットが15号掘立柱建物3号ピットを切る 4号ピットが19号住居竈に切られる 32号住居内ピットについては不明

その他 3号ピットと対になるものが見あたらないことからより南方へのびると思われる



第126図 11号掘立柱建物出土遺物

12号掘立柱建物

位置 88区Q-18 **平面形** ? × 2間 **主軸方向** N-12°-W

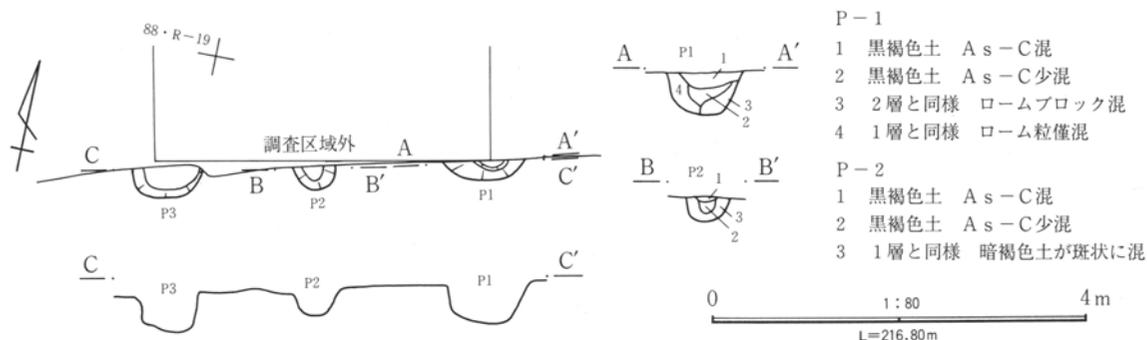
規模 桁行? 梁行2間 3.6m W1.8m-1.8m E **面積** ?

柱穴 掘り方円形 径平均68cm 検出面からの深さ36cm

掘り方底面柱のあたり部分 円形 径20cm 柱間寸法は梁方向6尺

遺物 なし **重複** なし

その他 大半が調査区域外のため詳細不明 ピットの形状が6・7・8号掘立柱建物に類似 主軸方向が7・8・9・11号掘立柱建物と一致、10号掘立柱建物と直交する



第127図 12号掘立柱建物

13号掘立柱建物

位置 89区N-13 **平面形** 2間 + α × 2間 + α **長方形** **主軸方向** N-1°-E

規模 桁行2間 + α 3.6m + α S1.8m-1.8m N 梁行2間 + α 3.0m + α W1.5m-1.5m E

面積 15.36m² + α

柱穴 掘り方方形 径平均68cm 検出面からの深さ44cm

掘り方底面柱のあたり部分 隅丸方形

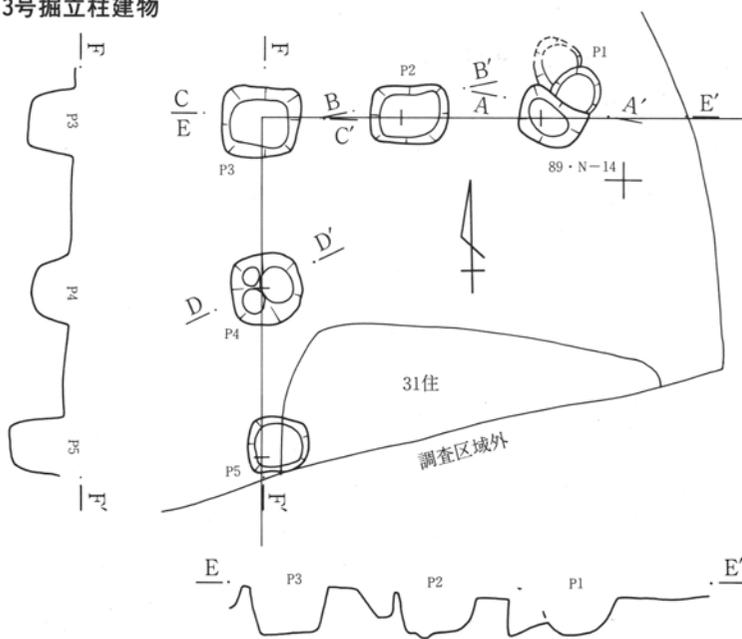
柱間寸法は桁方向6尺 梁方向5尺

遺物 2号ピットからは瓶の口縁? 3号ピットからは4の底部回転ヘラナデ坏

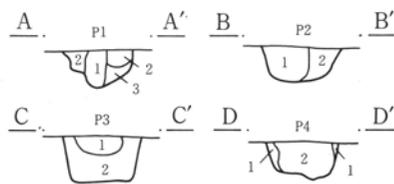
重複 5号ピットが31号住居に切られる (初見)

その他 1・5号掘立柱建物と主軸方位が類似 同時期存在か

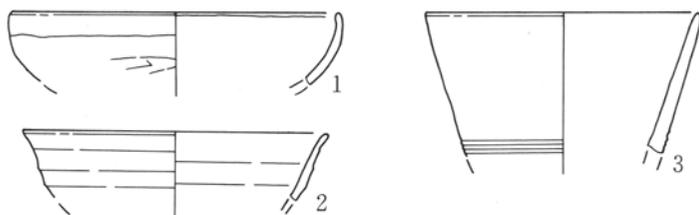
13号掘立柱建物



- P-1
 1 黒褐色土 A s-C混
 2 暗黒褐色土
 3 注記漏れ
- P-2
 1 黒褐色土 A s-C混
 2 暗黒褐色土
- P-3
 1 黒褐色土 A s-C混
 2 暗黒褐色土 A s-C混
- P-4
 1 暗褐色土 ローム漸移層に類似
 2 黒褐色土 A s-C混 下層ではローム漸移層ブロックを含む

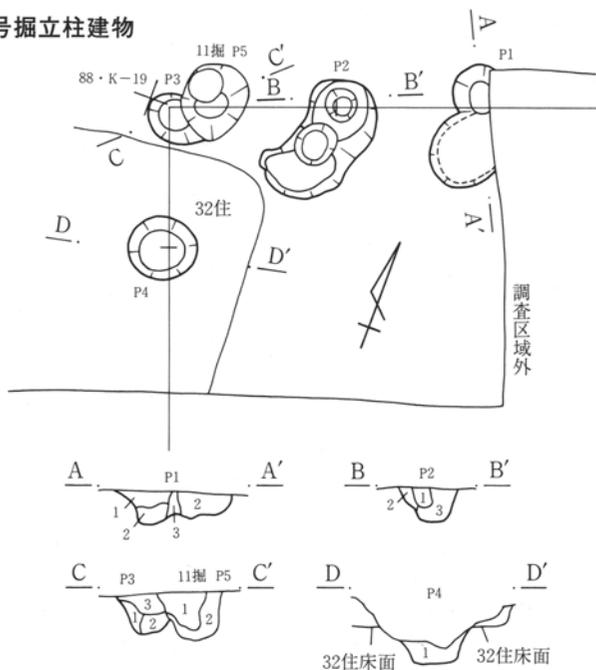


0 1:80 4m
 L=215.80m

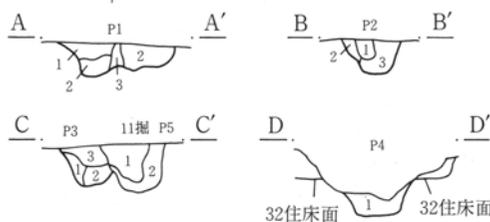


0 1:3 10cm

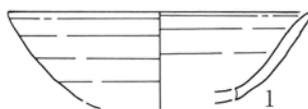
15号掘立柱建物



- P-1
 1 黒褐色土 A s-C混 ローム粒混
 2 黒褐色土 A s-C少混
 3 暗黒褐色土 軽石混
- P-2
 1 黒褐色土 A s-C混
 2 1層と同様 ローム漸移層ブロック混
- P-3
 1 黒褐色土 A s-C混
 2 1層と同様 底面から5cm付近にローム粒φ1~3cm混
 3 1層と同様 やや明るい
- P-4 (32号住居内)
 1 暗褐色土 漸移層中にロームブロックφ3cm しまりなし



0 1:80 4m
 L=215.80m



0 1:3 10cm

第128図 13号掘立柱建物・出土遺物、15号掘立柱建物・出土遺物

15号掘立柱建物

位置 88区J-18 平面形 2間+ α ×1間+ α 長方形 主軸方位 N-20°-W

規模 桁行2間+ α 3.3m+ α W1.8m-1.5m E 梁行1間+ α 1.5m+ α 面積 11.4m²+ α

柱穴 掘り方円形 径平均59cm 検出面からの深さ46cm

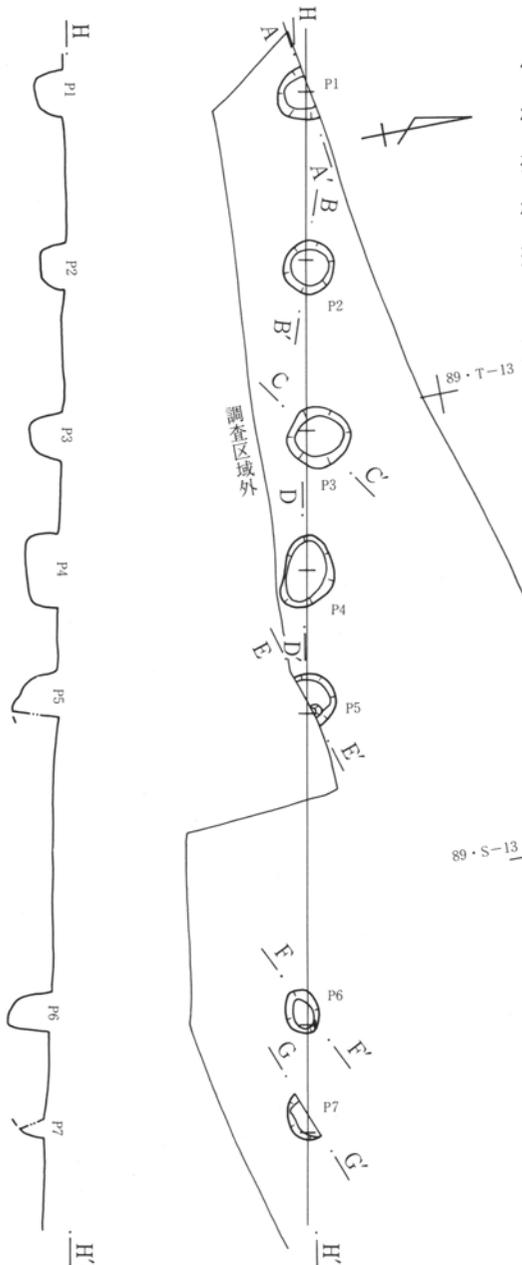
掘り方底面柱のあたり部分 円形 2号ピット底面径20cm

柱間寸法は桁方向西から6尺・5尺 梁方向5尺 遺物 3号ピットから須恵器坏

重複 4号ピットが32号住居に切られる 3号ピットが11号掘立柱建物5号ピットに切られる

その他 6号掘立柱建物と主軸ほぼ一致 発掘調査時には建物として確立できなかったが整理時に認定

3. 柵列



1号柵列

位置 89区T-12~89-R-12 主軸方向 N-80°-W

柱穴 掘り方円形 径平均50cm 検出面からの深さ37cm

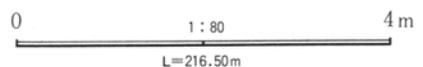
掘り方底面柱のあたり部分 円形

柱間 W1.8m-1.8m-1.5m-1.5m-3.3m-1.2m E

遺物 なし 重複 なし

その他 西も東も調査区域外になっているため、どこまで延びるのかは不明

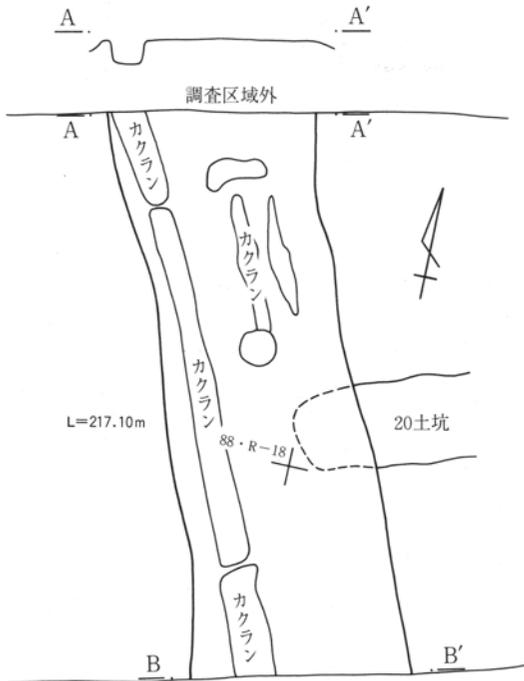
- | | | | | |
|---|----|----|-----|---|
| A | P1 | A' | P-1 | 1 黒褐色土 As-C混 |
| B | P2 | B' | P-2 | 1 黒褐色土 As-C混
2 ローム漸移層に類似 |
| C | P3 | C' | P-3 | 1 黒褐色土 As-C混
2 黒色土 As-C少混 ローム漸移層
ブロック混
3 ローム漸移層に類似主 As-C少混 |
| D | P4 | D' | P-4 | 1 黒色土 As-C多含
2 黒色土 As-C混 ローム漸移層粒含
3 黒褐色土 As-C混入しない |
| E | P5 | E' | P-5 | 1 黒褐色土 As-C混
2 黒褐色土 As-C少混 |
| F | P6 | F' | P-6 | 1 暗褐色土 As-C混
2 暗褐色土 |
| G | P7 | G' | P-7 | 1 暗褐色土 As-C混
2 暗褐色土 |



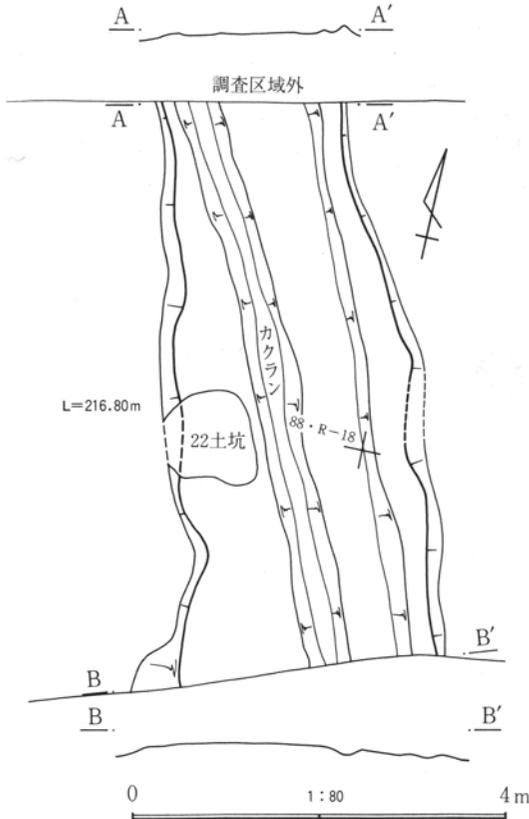
第129図 1号柵列

4. 道

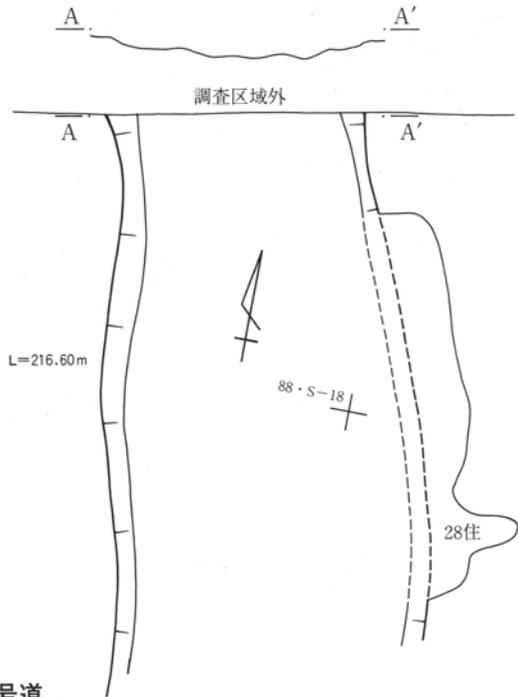
1号道



2号道



4号道



1号道

位置 88区Q-17~R-18 規模 長さ6.0m 幅2.0m 主軸方向 N-20°-W 断面 台形 重複 後世の攪乱によって切られる 20号土坑によって切られる 埋土 不明 路面 硬く踏みしめられている 北から南へ比高差0.1mの下り勾配 備考 調査区北側に通じる道か？

2号道

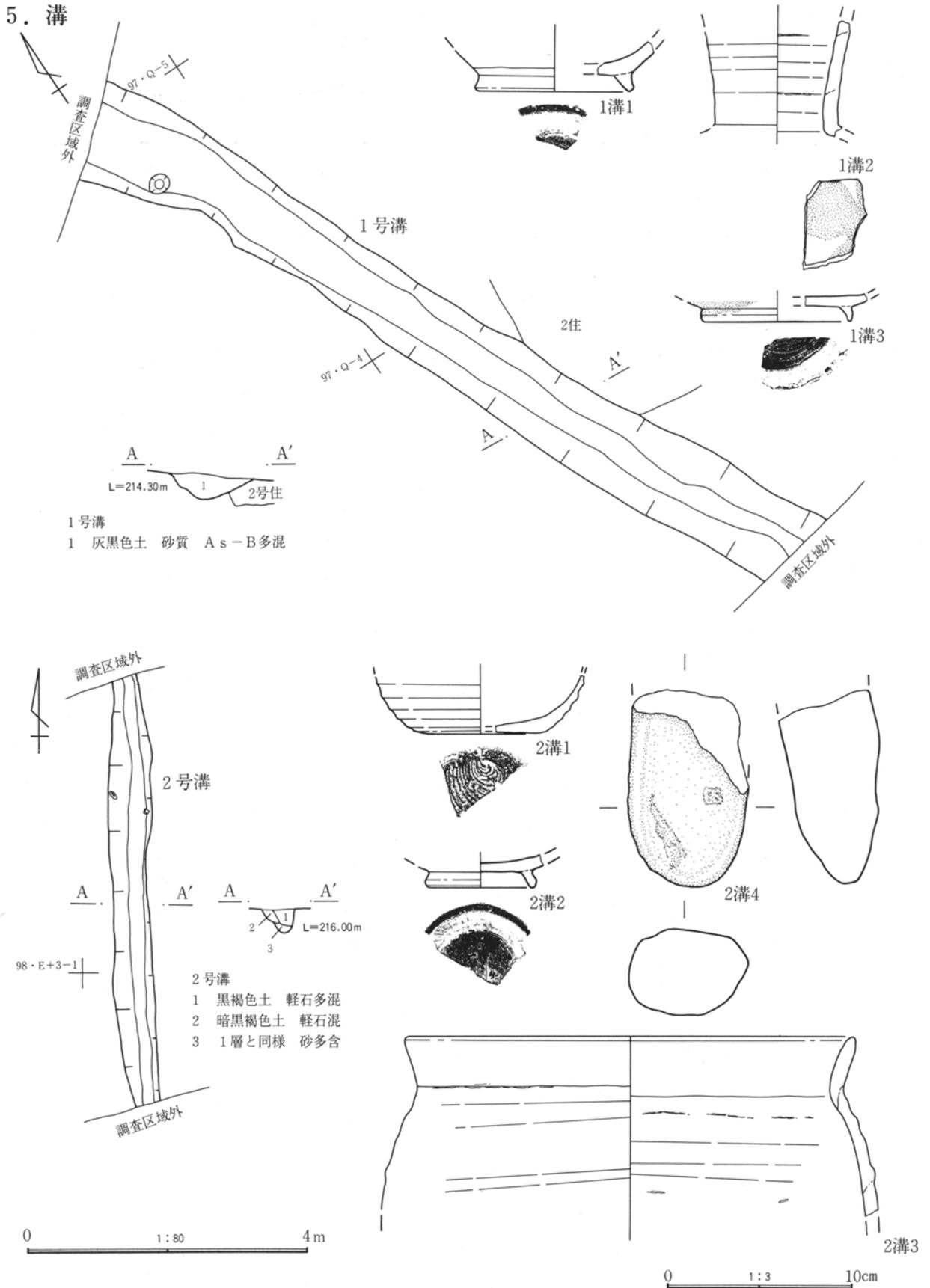
位置 88区Q-17~R-18 規模 長さ6.0m 幅2.5m 主軸方向 N-20°-W 断面 蒲鉾型 重複 8号掘立柱建物を切る 1号道が上に重なる 22・62・63・65号土坑に切られる 埋土 不明 路面 硬く踏みしめられている 北から南へ比高差0.12mの下り勾配 備考 調査区北側に通じる道か？

4号道

位置 88区S-17~S-18 規模 長さ6.0m 幅3.5m 主軸方向 N-15°-W 断面 半円形 重複 28号住居を切る 埋土 不明 路面 硬く踏みしめられている 北から南へ比高差0.1mの下り勾配 備考 調査区北側に通じる道か？

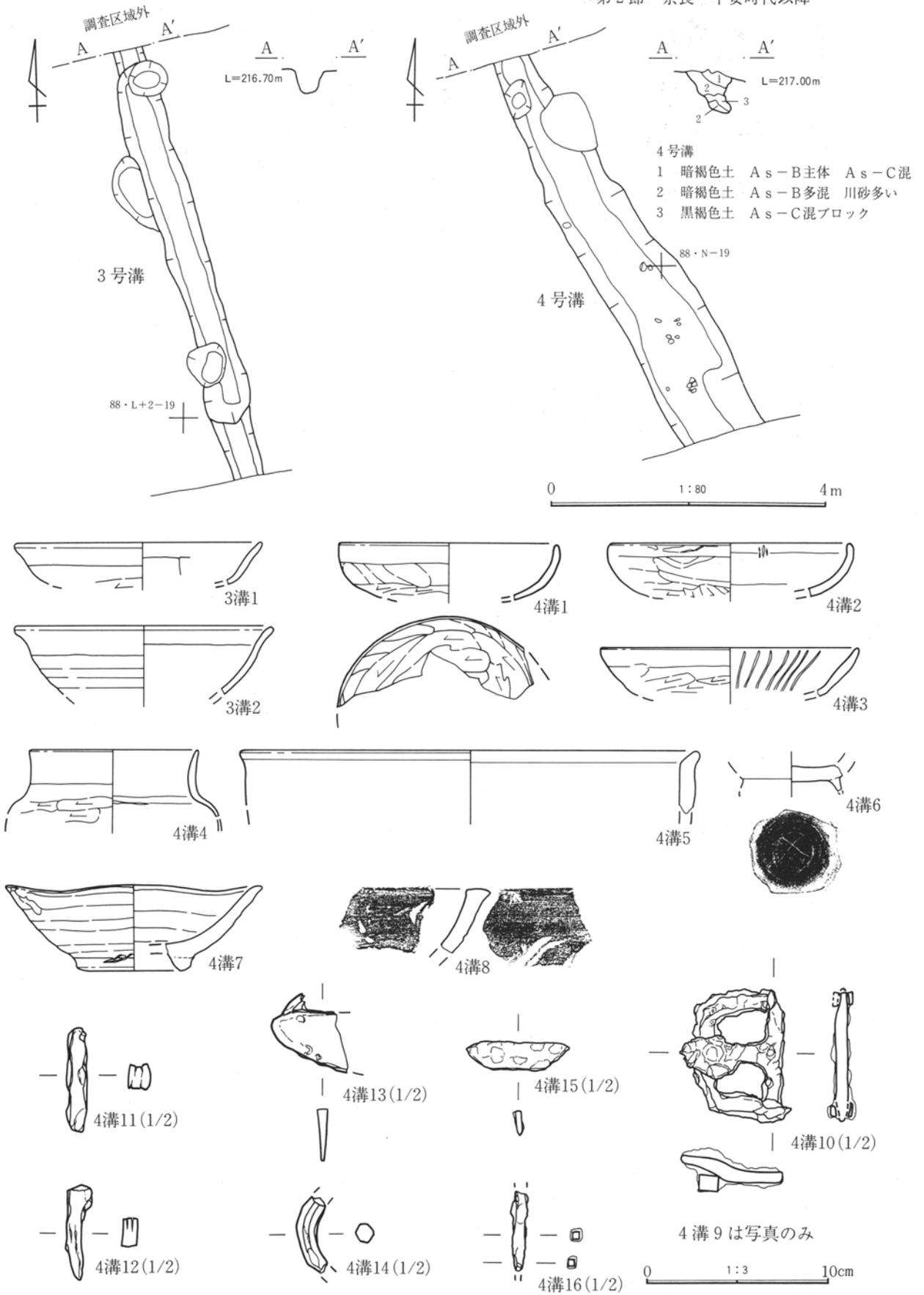
第130図 1・2・4号道

5. 溝



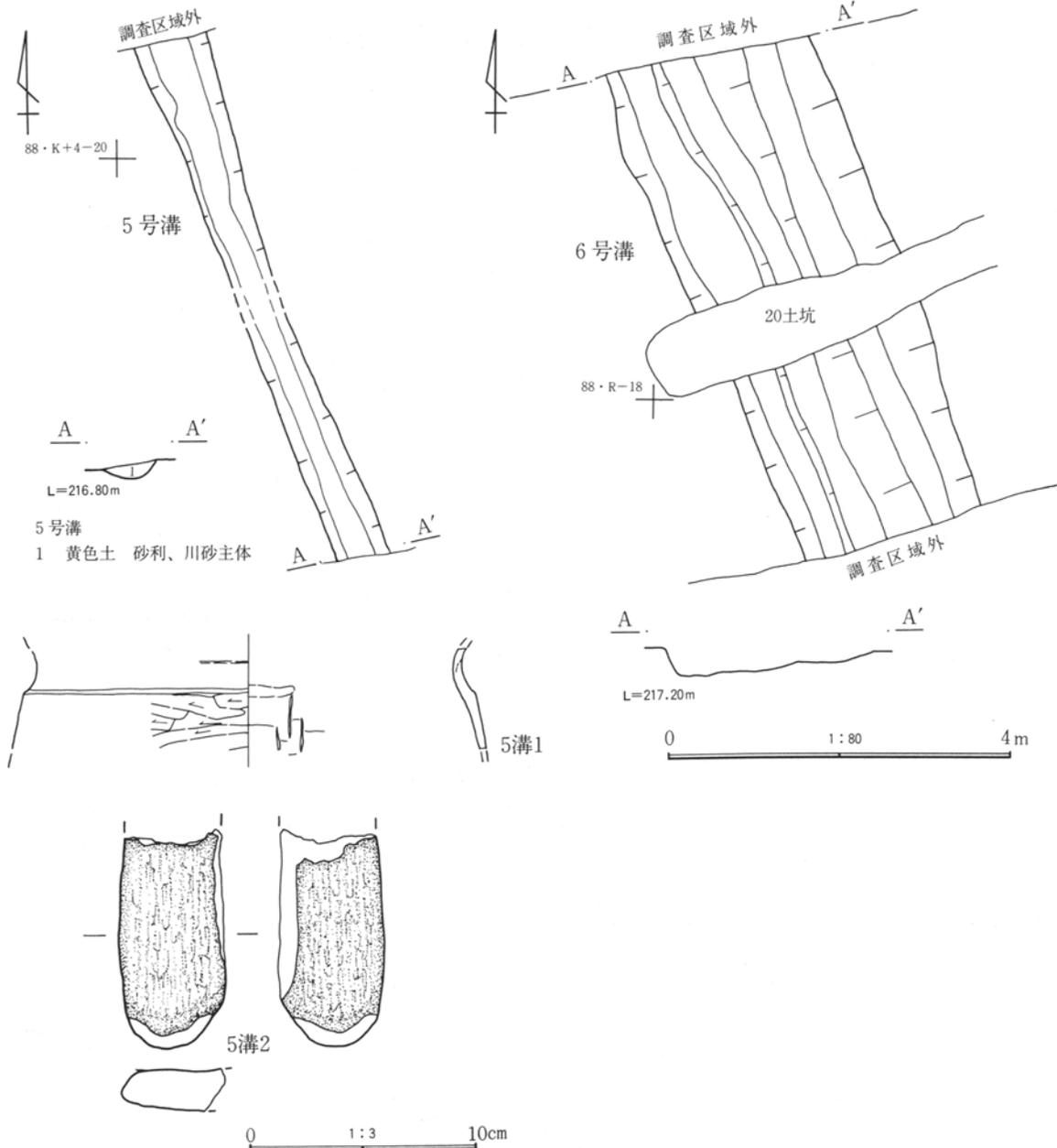
第131図 1・2号溝、出土遺物

第2節 奈良・平安時代以降



第132図 3・4号溝、出土遺物

第IV章 検出された遺構と遺物



第133図 5・6号溝・5号溝出土遺物

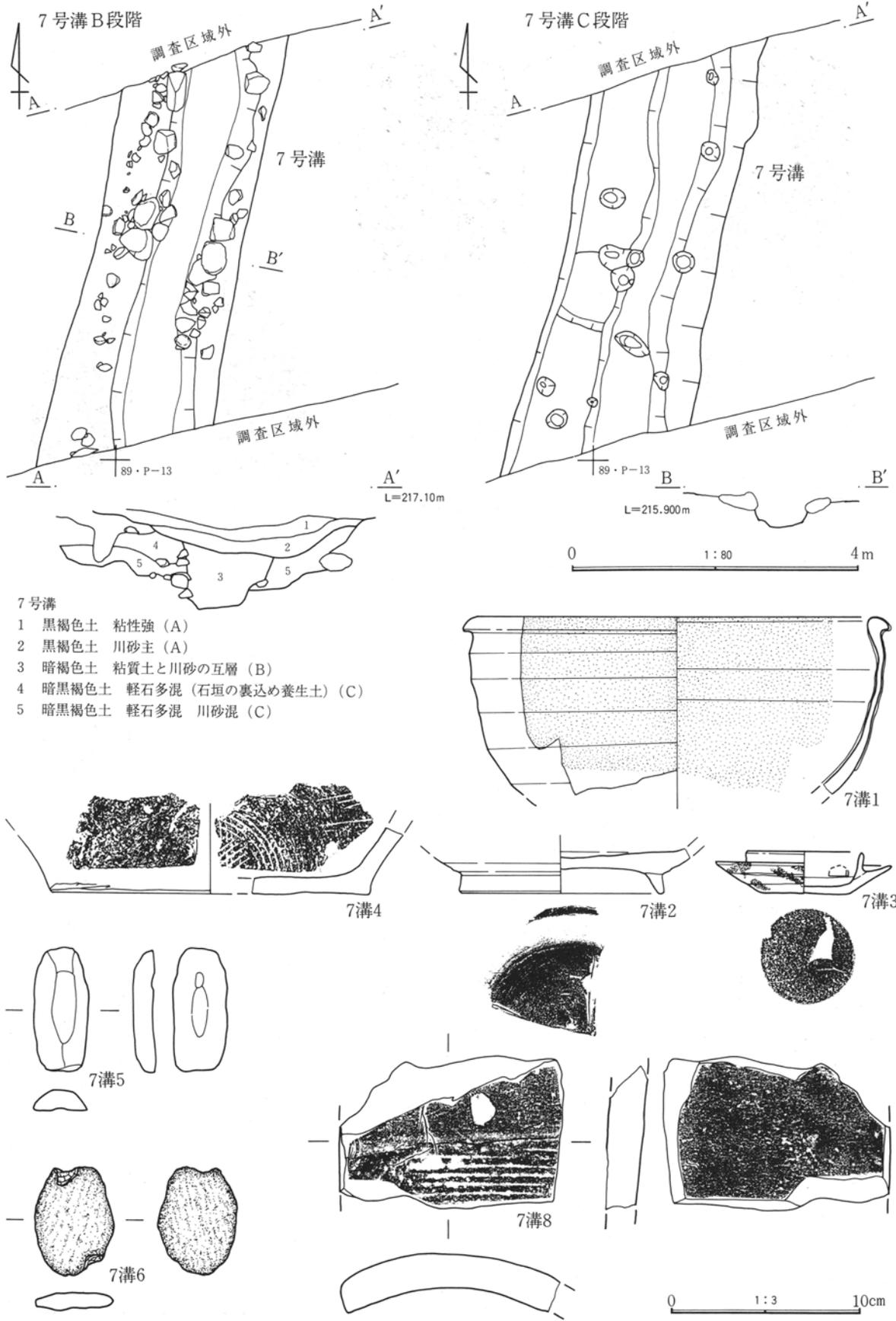
1号溝

位置 97区P-2～Q-5 規模 長さ11.6m 幅1m 南南東方向へ走行 断面 逆台形 重複 2号住居を切る 埋土 A s-B主体の砂質土 底面 北から南へ比高差0.4mの下り勾配 出土遺物 埋土から灰釉陶器皿 帰属時期 10世紀

2号溝

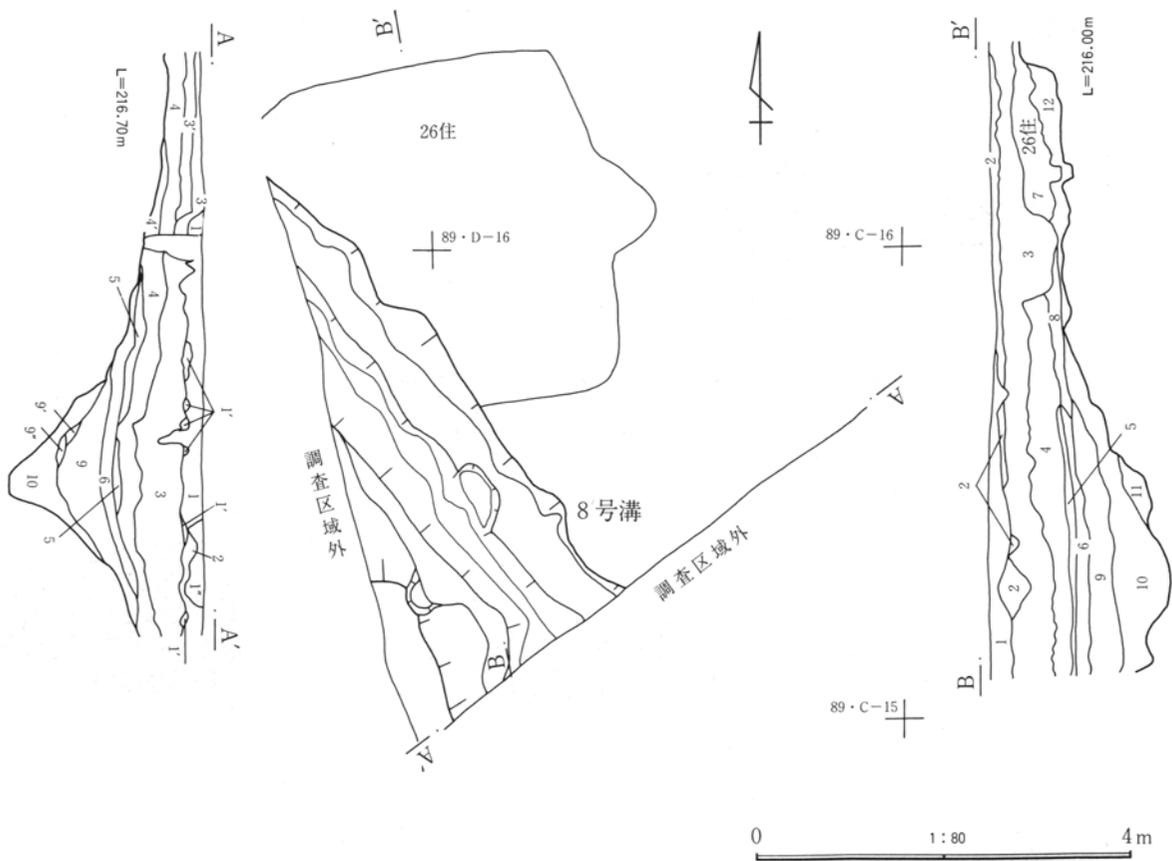
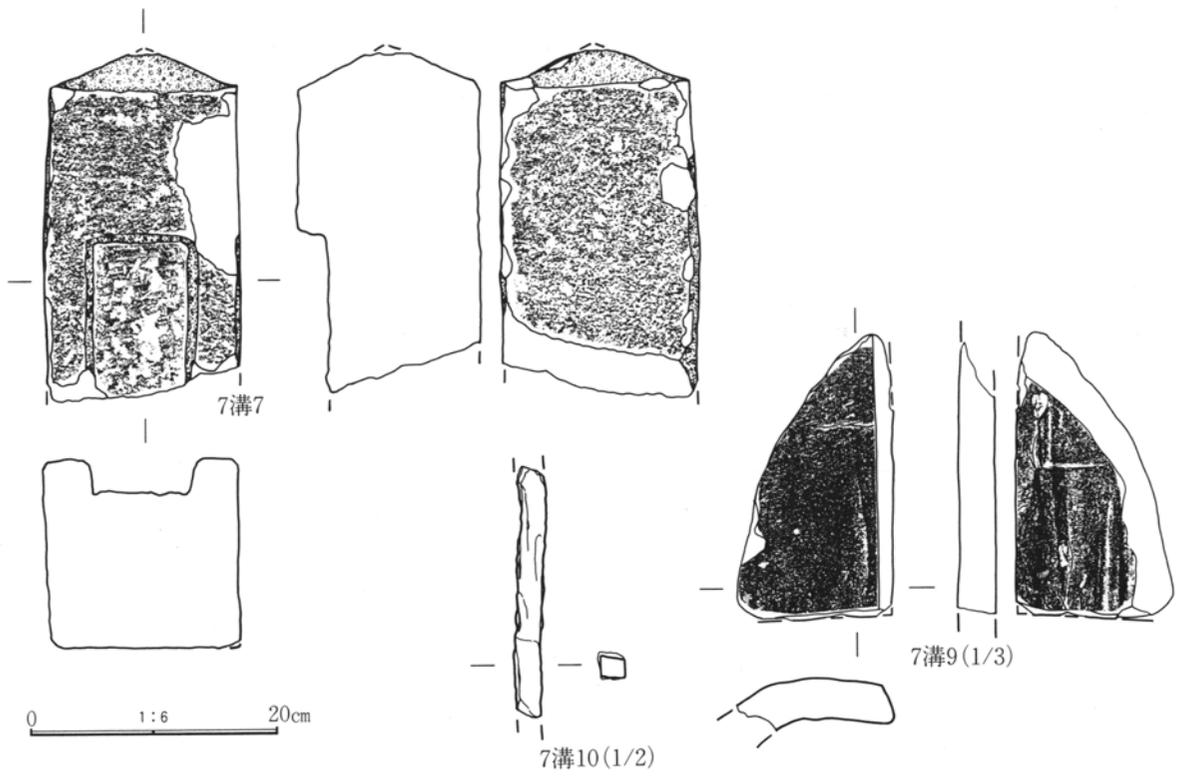
位置 88区E-20～98区E-1 規模 長さ6m 幅0.5m 南方向へ走行 断面 U字型 重複 11号住居を切る 埋土 軽石混入多い 底面 明瞭な比高差は見られない 出土遺物 埋土から底部回転ヘラナデ須恵器碗

帰属時期 10世紀後半以降



- 7号溝
- 1 黒褐色土 粘性強 (A)
 - 2 黒褐色土 川砂主 (A)
 - 3 暗褐色土 粘質土と川砂の互層 (B)
 - 4 暗黒褐色土 軽石多混 (石垣の裏込め養生土) (C)
 - 5 暗黒褐色土 軽石多混 川砂混 (C)

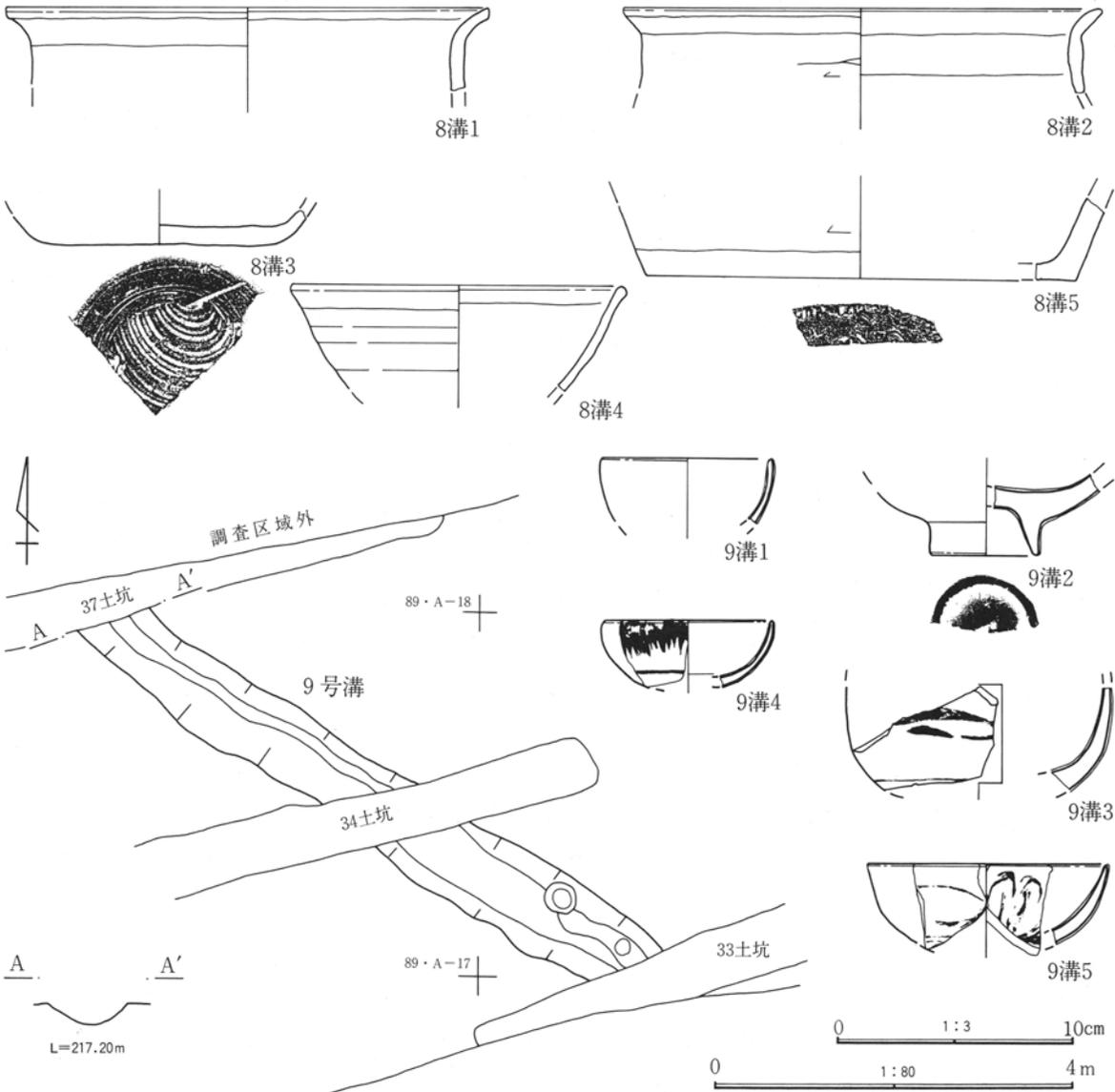
第134図 7号溝・出土遺物(1)



第135図 7号溝出土遺物(2)・8号溝

8号溝

- 1 灰褐色土 部分的に黄褐色の砂 (As-B) を純層に近いブロック状で含む (下面部) As-B下畚の痕跡か あるいは二次堆積か砂質
- 1' As-B純層
- 1" 1層よりも硬くしまる
- 2 灰褐色土 3層をベースに1層のAs-Bが混じり込んでいる 砂質
- 3 暗褐色土 As-Cを少含する黒色土と褐色土ブロックの混在する土層 (7層よりも明るく、ブロック土が多含)
- 4 黒色土 As-Cを多含 特に下面部付近に砂状に丸くなったAs-C細粒含 (水の流れた影響か)
- 4' 黒褐色土 4層に比べて黒色土多混 黒ボク土 (褐色) ブロック僅含 硬くしまる
- 5 黒色粘質土 As-C僅含 大部分が粘性をもち硬くしまった土
- 6 黒褐色土 As-C少含 暗褐色土ブロック少含 (8層よりも多い)
- 7 暗褐色土 黒色土をベースに褐色土ブロック混
- 8 暗褐色土 As-C僅含 褐色粒子少含
- 9 黒色土 As-C少含 6層に類似
- 9' ローム粒 (As-YP) 少含
- 9" As-C少混
- 10 黒褐色土 11層に類似するがAs-YP粒を少含 上半部は9層に類似
- 11 黒褐色土 10層に類似するがAs-YP粒を多含 下面部に青砂
- 12 暗黄褐色土 白色~褐色粒子少混 黒ボクブロック主体 (住居埋土)



第136図 8号溝出土遺物、9号溝・出土遺物

第IV章 検出された遺構と遺物

3号溝

位置 88区L-19~L-20 **規模** 長さ6.4m 幅0.6m 南南東方向へ走行 **断面** 逆台形 **重複** 各種ピットを切る 各種土坑に切られる **埋土** 不明 **底面** 明瞭な比高差は見られない **出土遺物** なし **帰属時期** 中近世と思われる(重複から)

4号溝

位置 88区M-18~N-19 **規模** 長さ6.2m 幅1.2m 南南東方向へ走行 **断面** U字型 **重複** 20号住居を切る 各種土坑に切られる **埋土** As-B主体の砂質土 底部に川砂多い **底面** 北から南へ比高差0.15mの下り勾配 **出土遺物** 丸底の土師器坏 内面へラ磨き坏 外面底部に窯印を持つ壠 鉄釘出土多い **帰属時期** 10世紀後半以降

5号溝

位置 88区K-19~K-20 **規模** 長さ6.4m 幅0.5m 南南東方向へ走行 **断面** 半円形 **重複** 19・32号住居を切る **埋土** 川砂主体黄色土 **底面** 北から南へ比高差0.1mの下り勾配 **出土遺物** コの字甕 雲母石英片岩の敲石 **帰属時期** 10世紀後半以降

6号溝

位置 88区Q-17~Q-18 **規模** 長さ6m 幅全体で2.4m 3条有り 東0.6m 中0.4m 西0.8m 南南東方向へ走行 **断面** 半円形 **重複** 8号掘立柱建物を切っていると思われる 20号土坑に切られる **埋土** 不明 **底面** 北から南へ比高差0.2mの下り勾配 **出土遺物** なし **帰属時期** 西隣を走る1号道と同時期

7号溝

位置 88区O-13~O-14 **規模** 長さ6.3m 3時期有り 幅 A3.8m B1.2m C2.2m 南方向へ走行 **断面** A半円形 B逆台形 石垣4段分高さ60cm残存 人頭大の石横置き互目積み C半円形 **重複** なし **埋土** 軽石を多く含んだ砂質土 **底面** 明瞭な比高差ない **帰属時期** 3時期有り A現代(ノミ堰) B現代から近代 石垣 C近代

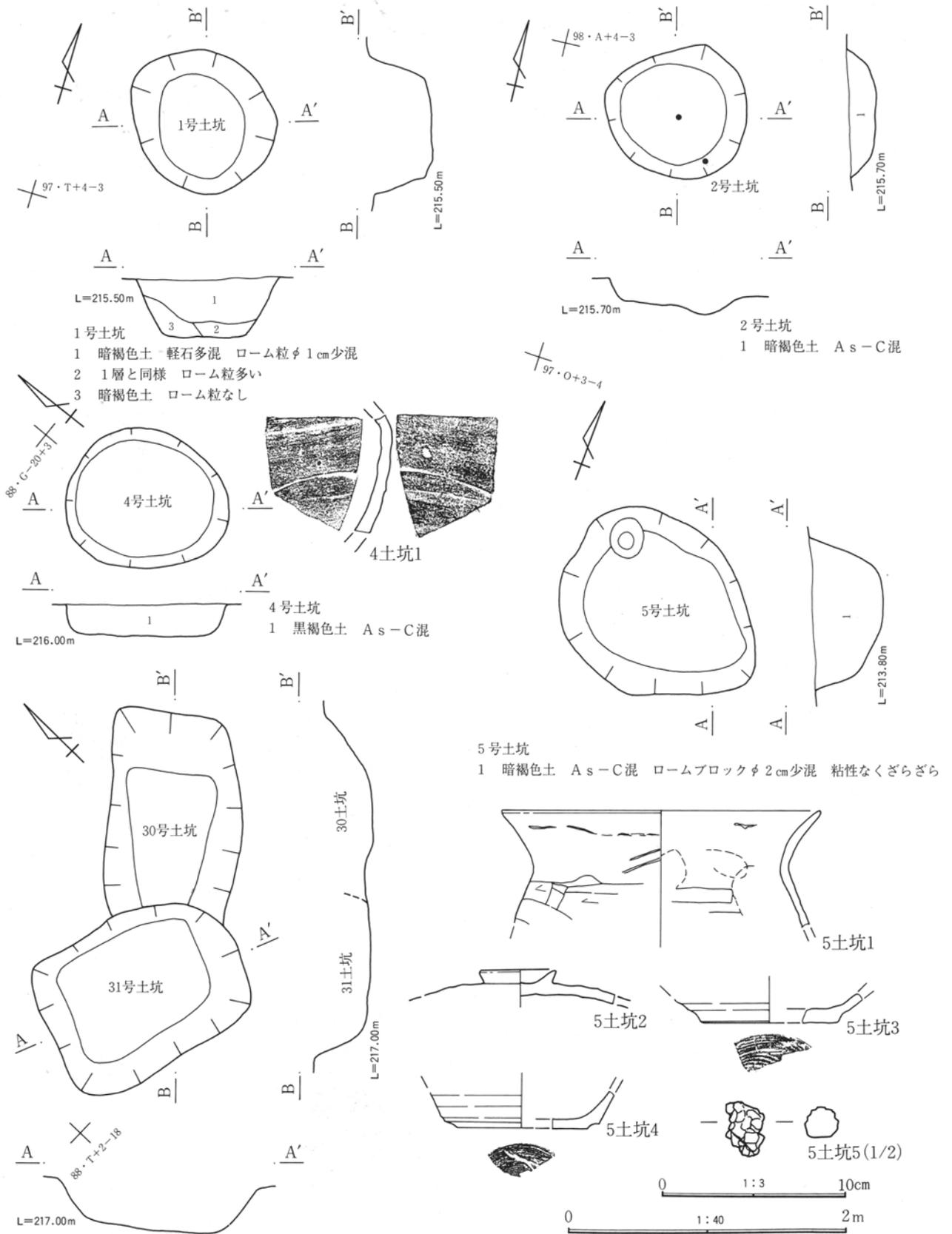
8号溝

位置 89区C-15~D-16 **規模** 調査区域外のため詳細は不明 確認できる長さ5.6m 確認できる幅2.6m 南東方向へ走行 **断面** V字型 **重複** 26号住居を切る **埋土** As-Cを中心とした黒色土 **底面** 北から南へ比高差0.4mの下り勾配 **出土遺物** コの字甕 ロクロ回転糸切り坏底部 **帰属時期** 10世紀~11世紀

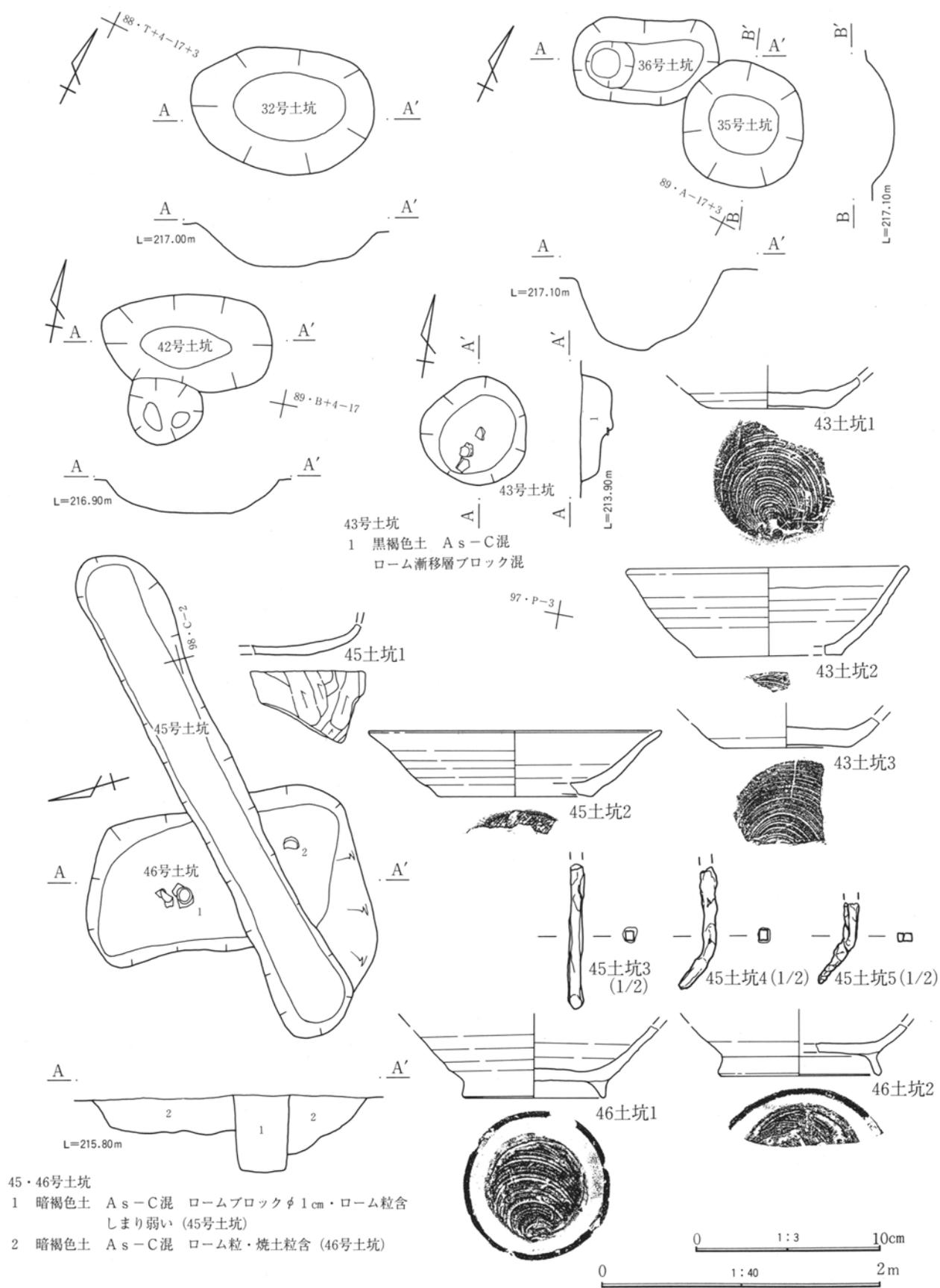
9号溝

位置 88区T-17~89区A-18 **規模** 長さ6.8m 幅1m 南東方向へ走行 **断面** 半円形 **重複** 33・34・37号土坑に切られる **埋土** 不明 **底面** 北から南へ比高差0.2mの下り勾配 **帰属時期** 近世以降

6. 土坑



第137図 1・2・4・5・30・31号土坑・出土遺物

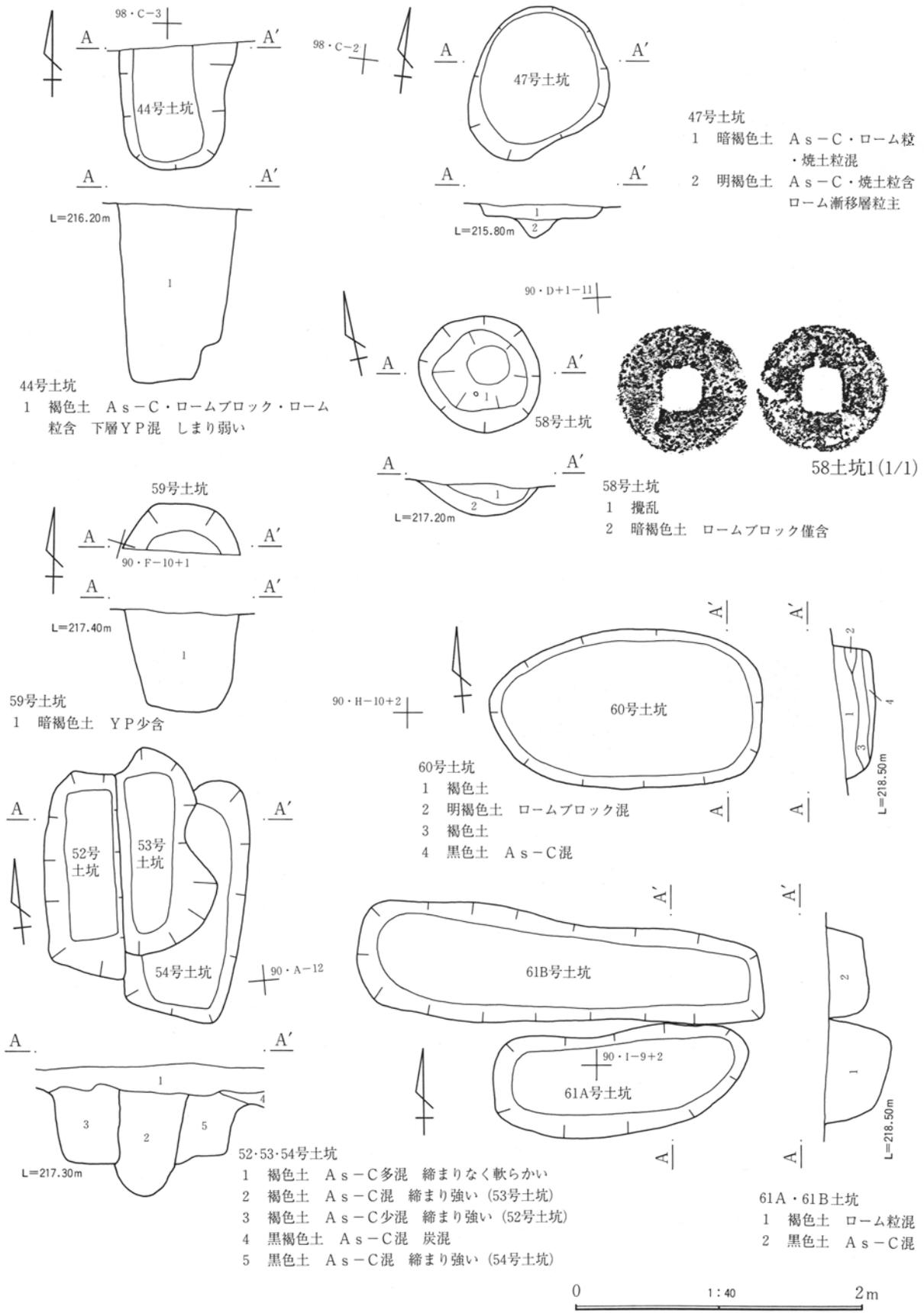


45・46号土坑

1 暗褐色土 A s-C混 ロームブロックφ1cm・ローム粒含
しまり弱い (45号土坑)

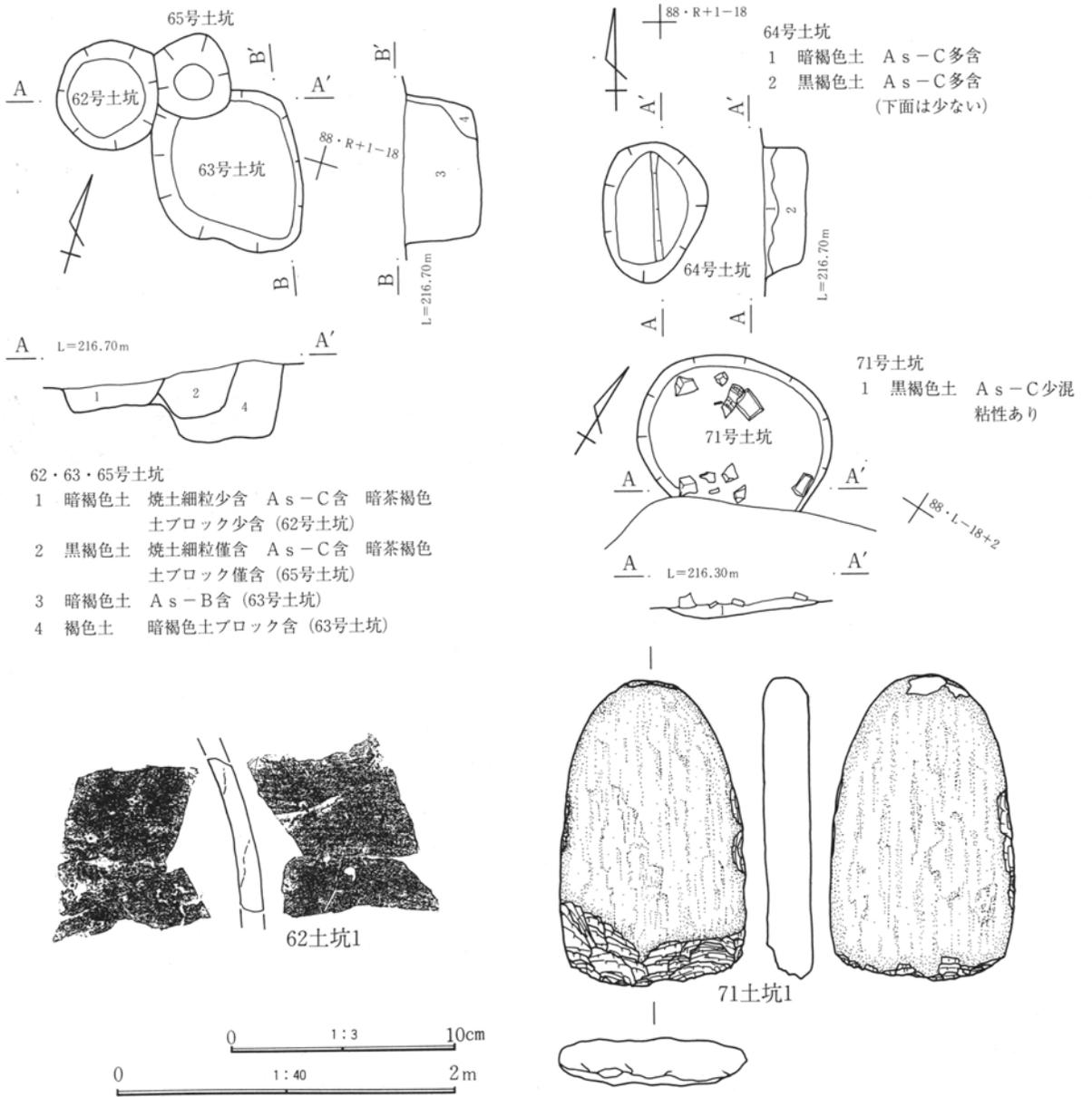
2 暗褐色土 A s-C混 ローム粒・焼土粒含 (46号土坑)

第138図 32・35・36・42・43・45・46号土坑・出土遺物

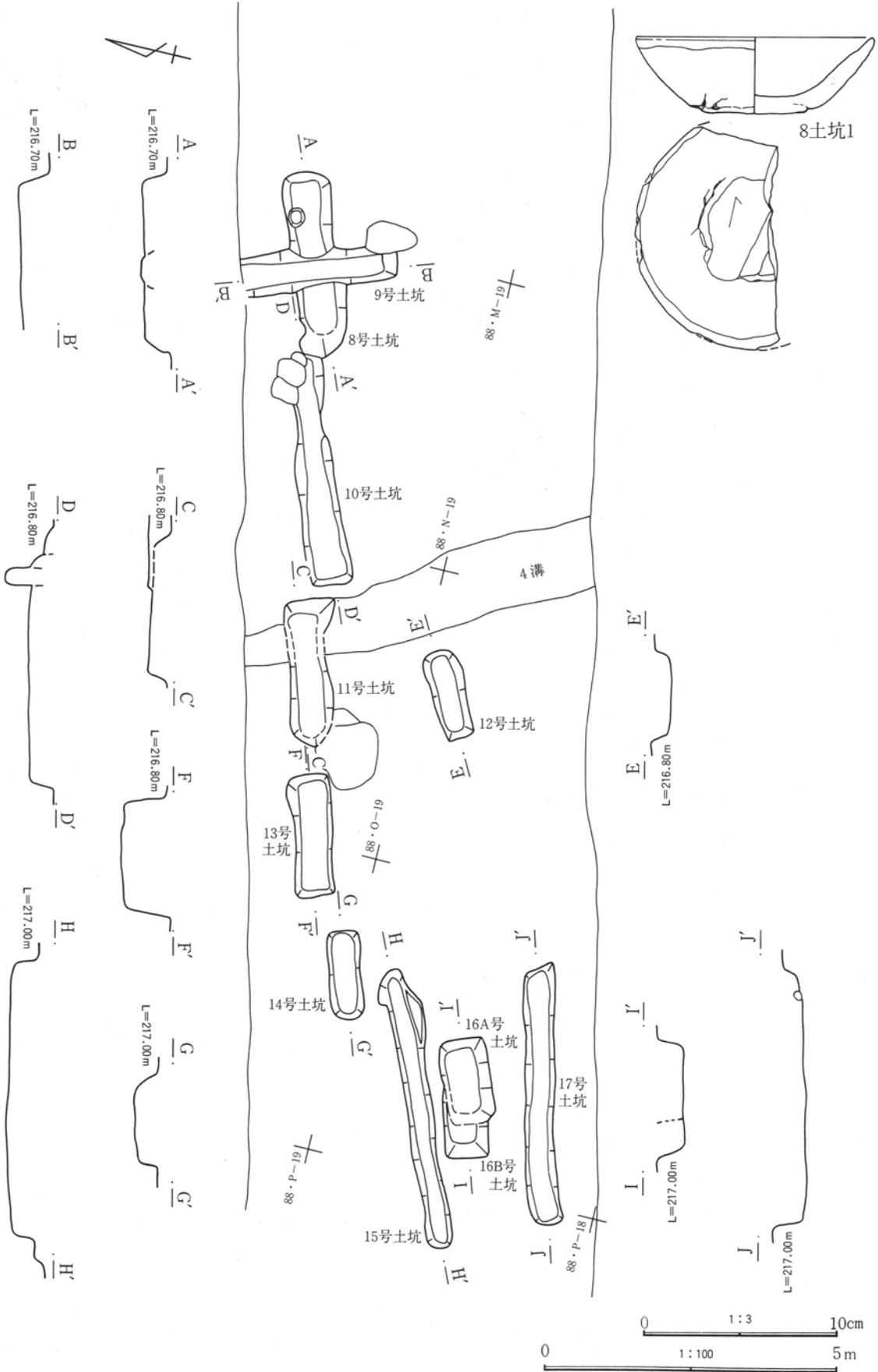


第139図 44・47・52～54・58～61A・61B号土坑・出土遺物

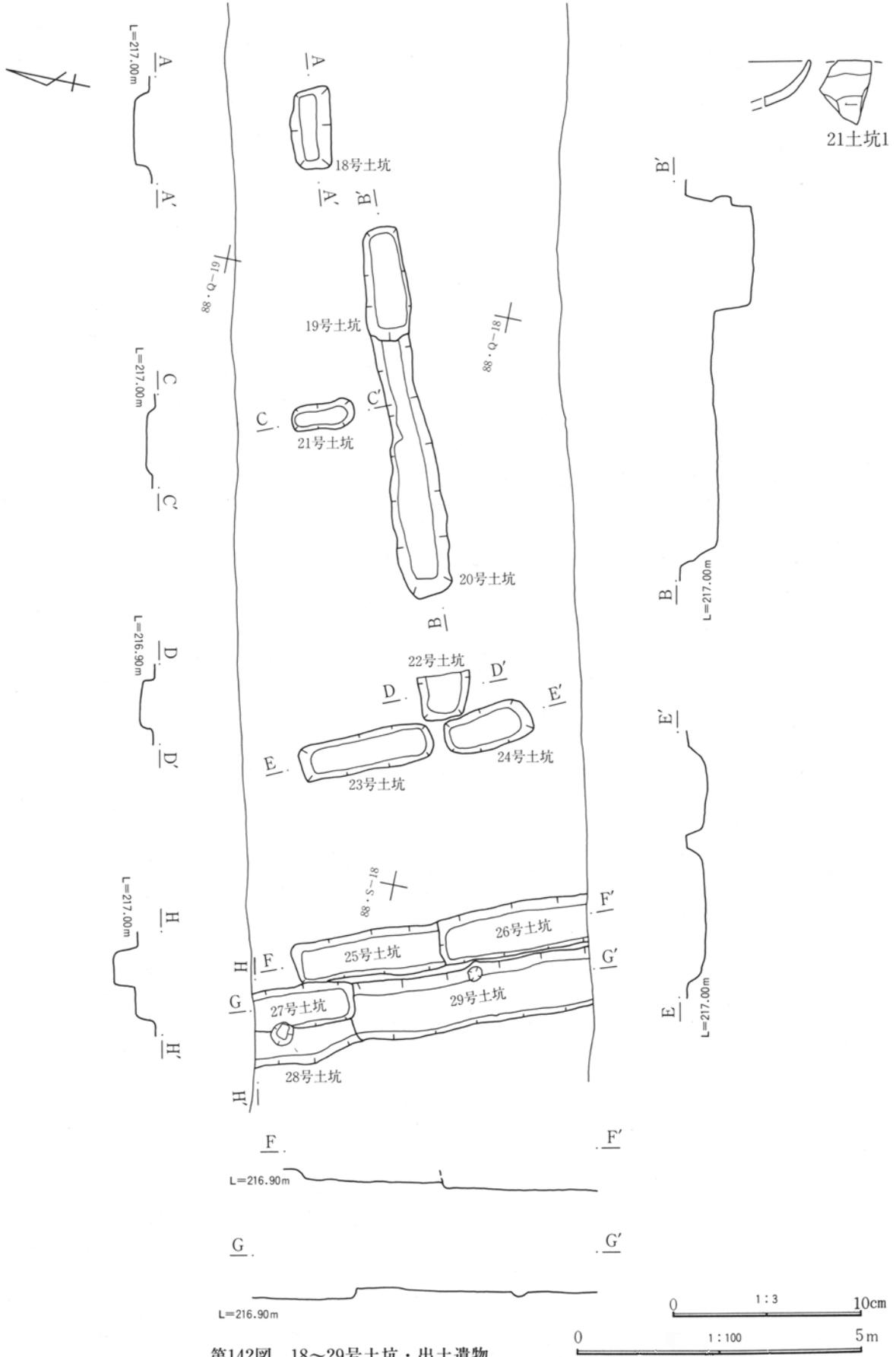
第IV章 検出された遺構と遺物



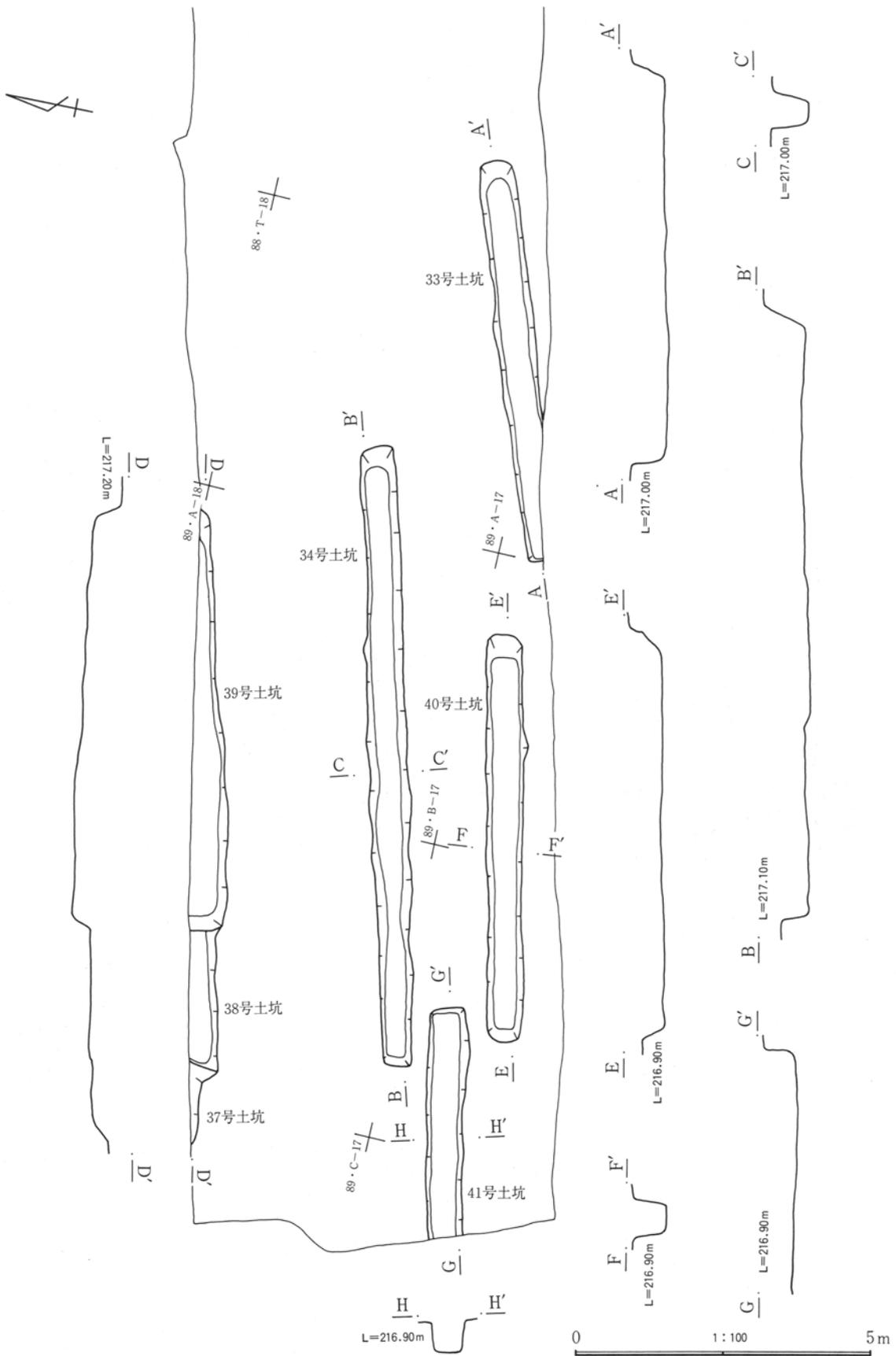
第140図 62~65・71号土坑・出土遺物



第141図 8~15・16A・16B・17号土坑・出土遺物

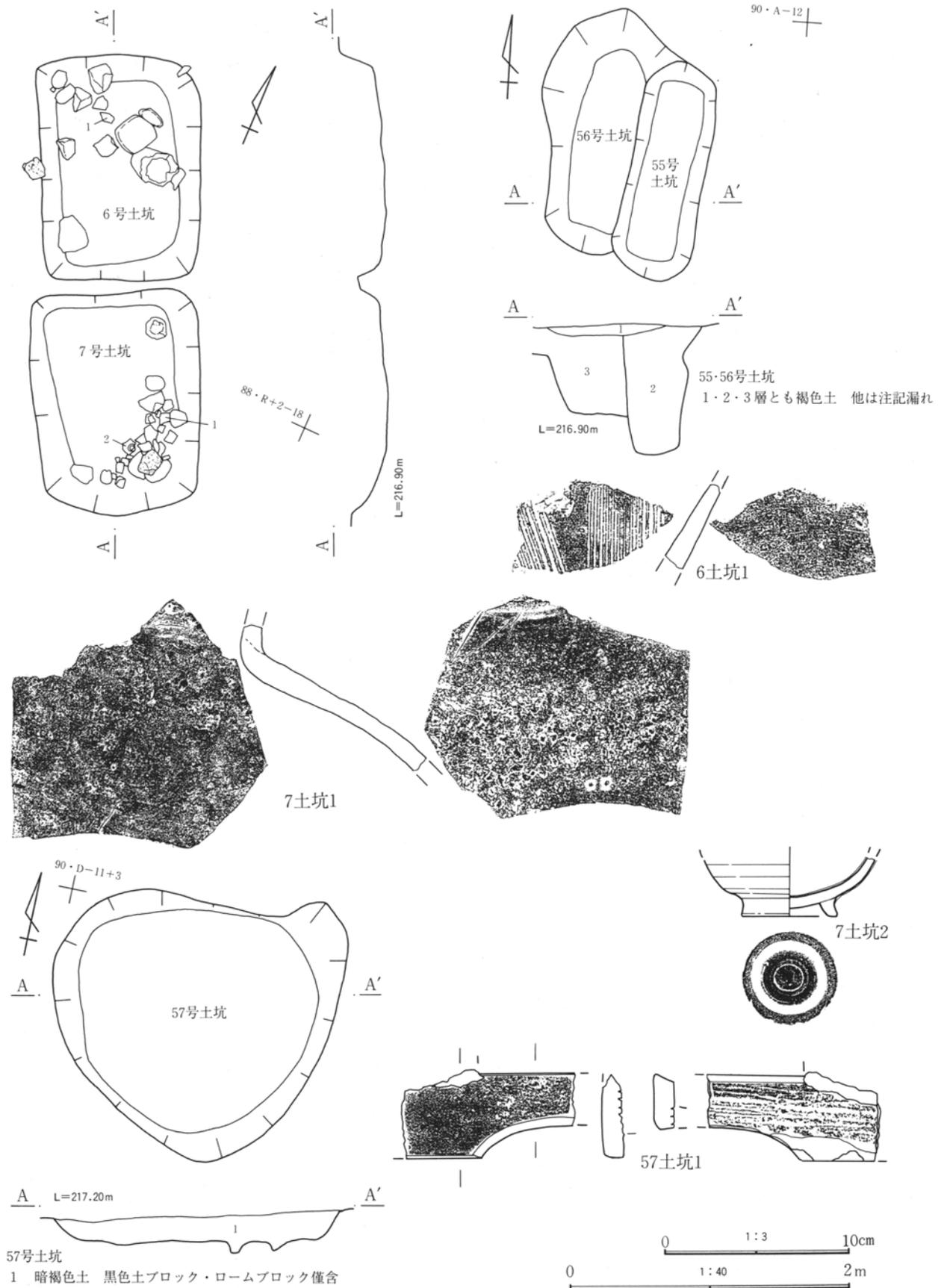


第142図 18~29号土坑・出土遺物

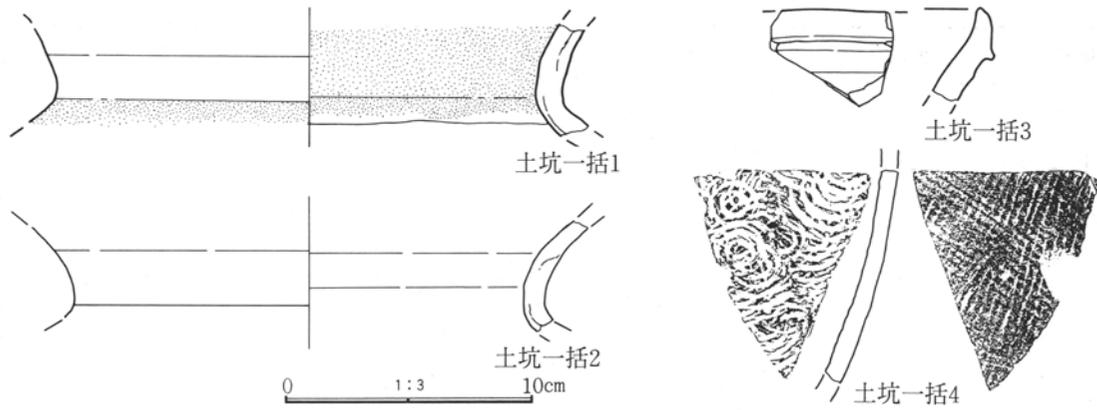


第143図 33・34・37~41号土坑

第IV章 検出された遺構と遺物



第144図 6・7・55~57号土坑・出土遺物



第145図 土坑一括出土遺物

第3表 土坑一覽

遺構名称	位 置	平面形状	規 模 (m)			備 考
			長 さ	幅	深 さ	
97区 1号土坑	T-3	円形	1.03	1.03	0.42	
98区 2号土坑	A-2	円形	1.00	0.92	0.20	
88区 4号土坑	F-20	円形	1.16	1.00	0.22	
97区 5号土坑	O-3	不整形	1.60	1.25	0.50	
88区 6号土坑	R-18	長方形	1.60	1.13	0.30	
88区 7号土坑	R-17	長方形	1.58	1.20	0.32	
88区 8号土坑	M-19	長方形	2.25	0.58	0.36	
88区 9号土坑	M-19	長方形	(2.14)	0.48	0.38	
88区 10号土坑	M-19	長方形	3.12	0.50	0.36	
88区 11号土坑	N-19	長方形	1.98	0.50	0.26	
88区 12号土坑	N-18	長方形	1.22	0.46	0.25	
88区 13号土坑	O-19	長方形	1.66	0.50	0.65	
88区 14号土坑	O-19	長方形	1.20	0.42	0.32	
88区 15号土坑	O-18	長方形	3.82	0.34	0.46	
88区 16A号土坑	O-18	長方形	1.16	0.66	0.34	
88区 16B号土坑	O-18	長方形	(0.90)	0.60	0.37	
88区 17号土坑	O-18	長方形	3.50	0.42	0.36	
88区 18号土坑	P-18	長方形	1.10	0.58	0.20	
88区 19号土坑	P-18	長方形	1.58	0.58	0.97	
88区 20号土坑	Q-18	長方形	3.57	0.46	0.52	
88区 21号土坑	Q-18	長方形	0.90	0.34	0.10	
88区 22号土坑	R-17	長方形	(0.62)	0.76	0.20	
88区 23号土坑	R-18	長方形	1.88	0.52	0.29	鎌出土
88区 24号土坑	R-17	長方形	1.26	0.58	0.27	
88区 25号土坑	S-18	長方形	2.02	0.60	0.20	
88区 26号土坑	S-17	長方形	(2.10)	0.72	0.30	
88区 27号土坑	S-18	長方形	(1.35)	0.56	0.40	
88区 28号土坑	S-18	長方形	(1.38)	(0.54)	0.28	
88区 29号土坑	S-17	長方形	(3.40)	0.77	0.33	
88区 30号土坑	S-18	長方形	(1.35)	0.95	0.35	
88区 31号土坑	S-18	長方形	1.47	1.10	0.42	
88区 32号土坑	T-17	楕円形	1.31	0.89	0.29	
88区 33号土坑	T-17	長方形	5.40	0.49	0.48	
89区 34号土坑	A-17	長方形	8.28	0.49	0.48	
89区 35号土坑	A-17	円形	0.90	0.87	0.20	
89区 36号土坑	A-17	隅丸円形	1.05	0.60	0.53	
89区 37号土坑	C-17	長方形	(1.06)	(0.14)	0.26	
89区 38号土坑	B-17	長方形	(1.78)	(0.37)	0.27	
89区 39号土坑	A-17	長方形	(5.66)	(0.44)	0.42	
89区 40号土坑	A-16	長方形	5.47	0.50	0.35	
89区 41号土坑	B-16	長方形	(3.09)	0.47	0.45	

第IV章 検出された遺構と遺物

遺構名称	位 置	平面形状	規 模 (m)			備 考
			長 さ	幅	深 さ	
89区 42号土坑	C-17	楕円形	1.28	0.69	0.24	
97区 43号土坑	P-3	円形	0.77	0.75	0.20	
98区 44号土坑	C-2	長方形	(0.85)	0.75	1.24	
98区 45号土坑	C-2	長方形	3.77	0.45	0.55	
98区 46号土坑	C-2	長方形	1.98	0.98	0.25	
98区 47号土坑	B-2	円形	1.12	0.95	0.22	
90区 52号土坑	A-12	長方形	1.40	(0.53)	0.50	
90区 53号土坑	A-12	長方形	1.45	(0.45)	0.70	
90区 54号土坑	A-12	長方形	1.65	(0.72)	0.42	
90区 55号土坑	A-11	長方形	1.55	0.53	0.93	
90区 56号土坑	A-11	長方形	1.76	(0.54)	0.60	
90区 57号土坑	C-11	不整形	2.00	1.70	0.17	
90区 58号土坑	D-10	円形	0.85	0.80	0.23	銭・人骨 土坑墓
90区 59号土坑	E-10	円形	0.80	(0.35)	0.70	
90区 60号土坑	G-10	楕円形	1.19	1.10	0.24	
90区 61A号土坑	H-9	長方形	1.79	0.71	0.43	
90区 61B号土坑	I-9	長方形	2.83	0.68	0.29	
88区 62号土坑	R-18	円形	0.63	0.60	0.15	
88区 63号土坑	R-17	円形	0.94	0.84	0.43	
88区 64号土坑	R-17	円形	0.82	0.61	0.25	
88区 65号土坑	R-18	円形	(0.49)	0.42	0.27	
88区 71号土坑	L-18	円形	1.15	(0.85)	0.10	
89区 J-1号土坑	C-16	円形	0.79	0.70	0.20	
89区 J-2号土坑	B-16	円形	0.96	0.78	0.57	

土坑

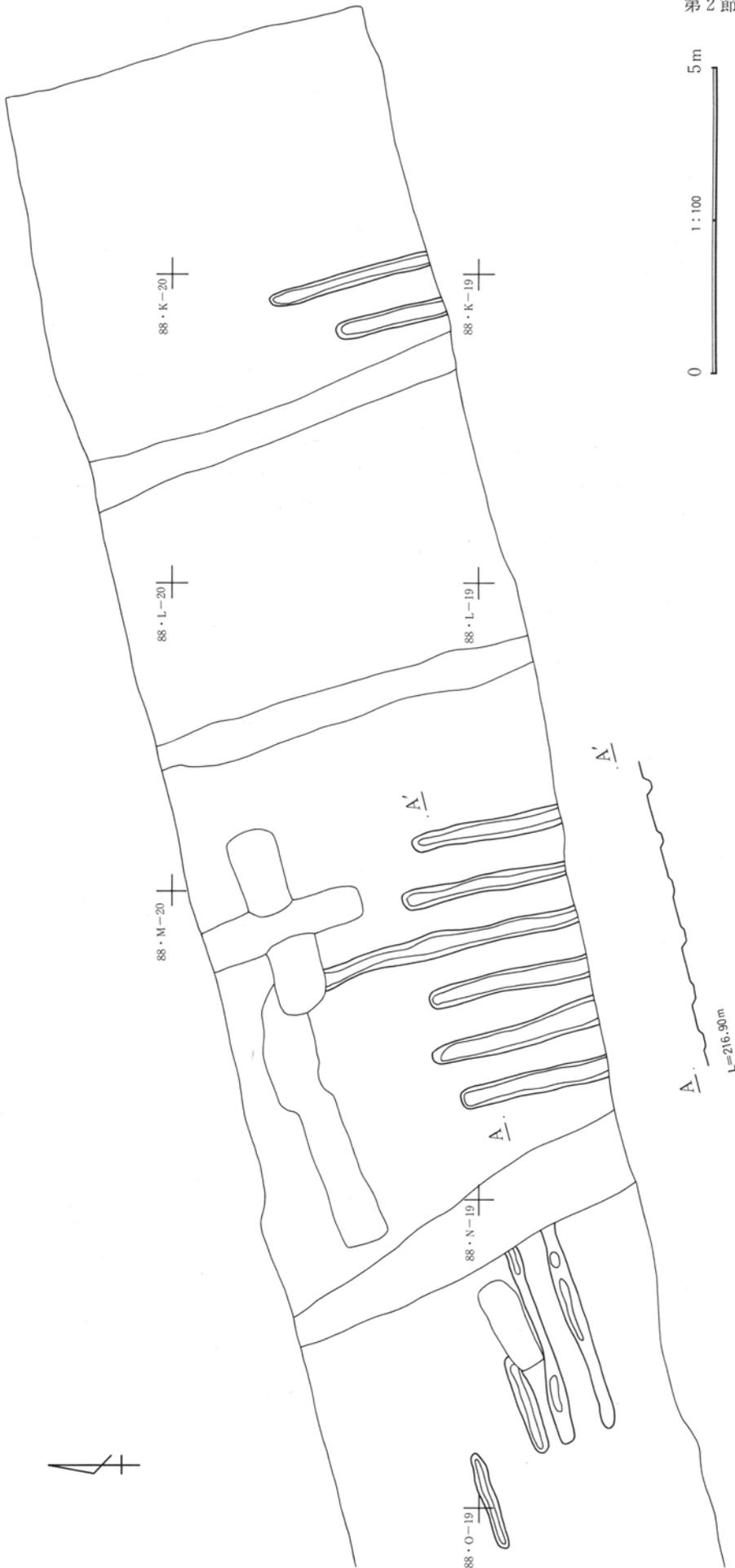
中央部の88・89区には多数の土坑が見られる。これらは一様に長方形で、壁も底面も直線的である。埋土も比較的新しい（初見）。また、遺物は皆無に等しい。これらの土坑群は、近世以降の耕作痕であると推定する。

58号土坑は、出土遺物から墓壙と考えられる。

7. 畠

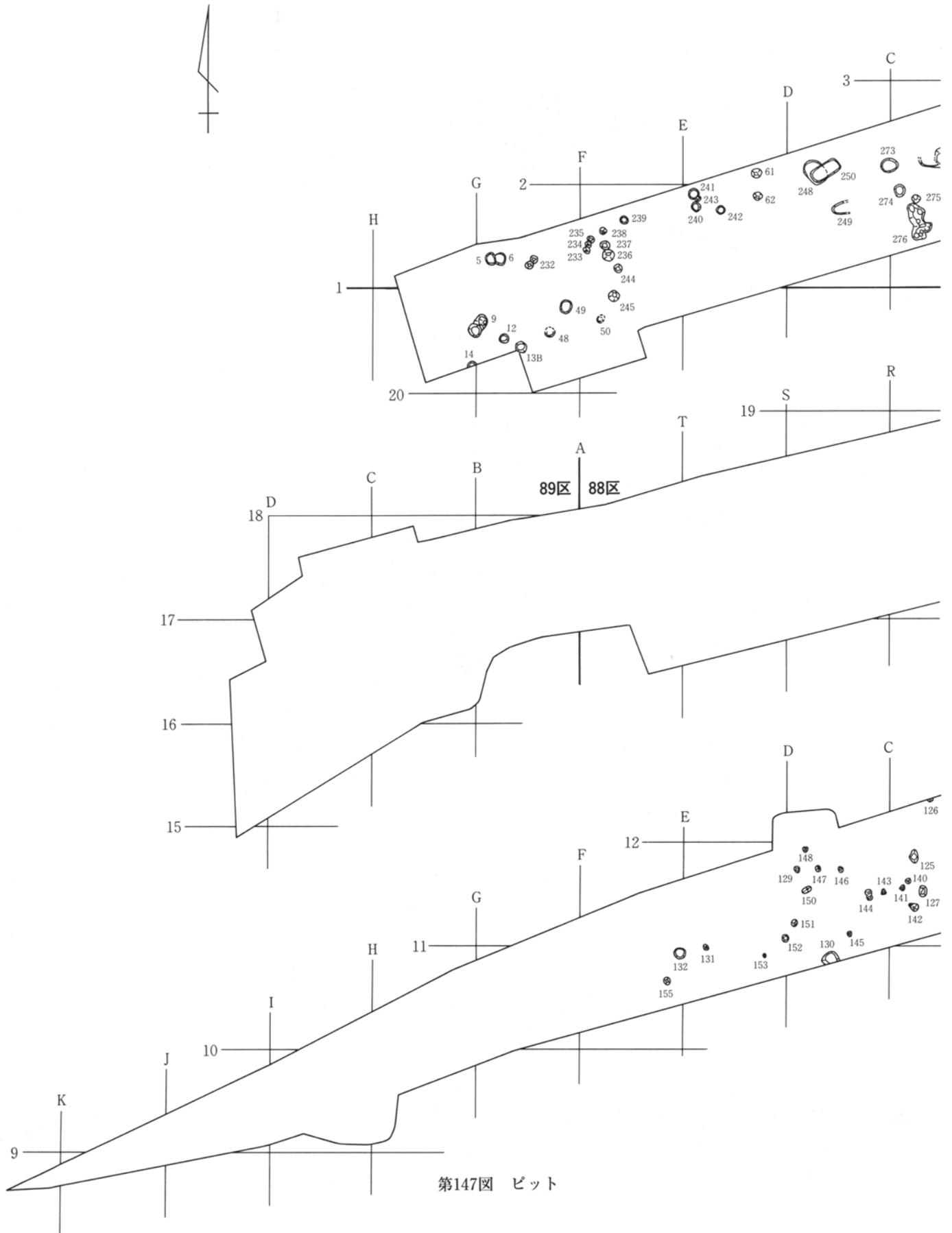
畠

88区K-19～88区N-18に、北西-南東にのびるサク（N-20°-W）、4号溝より西では90°違えるサクを確認した。いずれのサクも残りが悪く、確認面とサクの比高差は平均10cm程である。サクの心々距離は平均80cmをはかる。確認面は、近世以降の土坑を多数検出した面である。埋土は不明であるが、土坑と同様な時期と推定される。

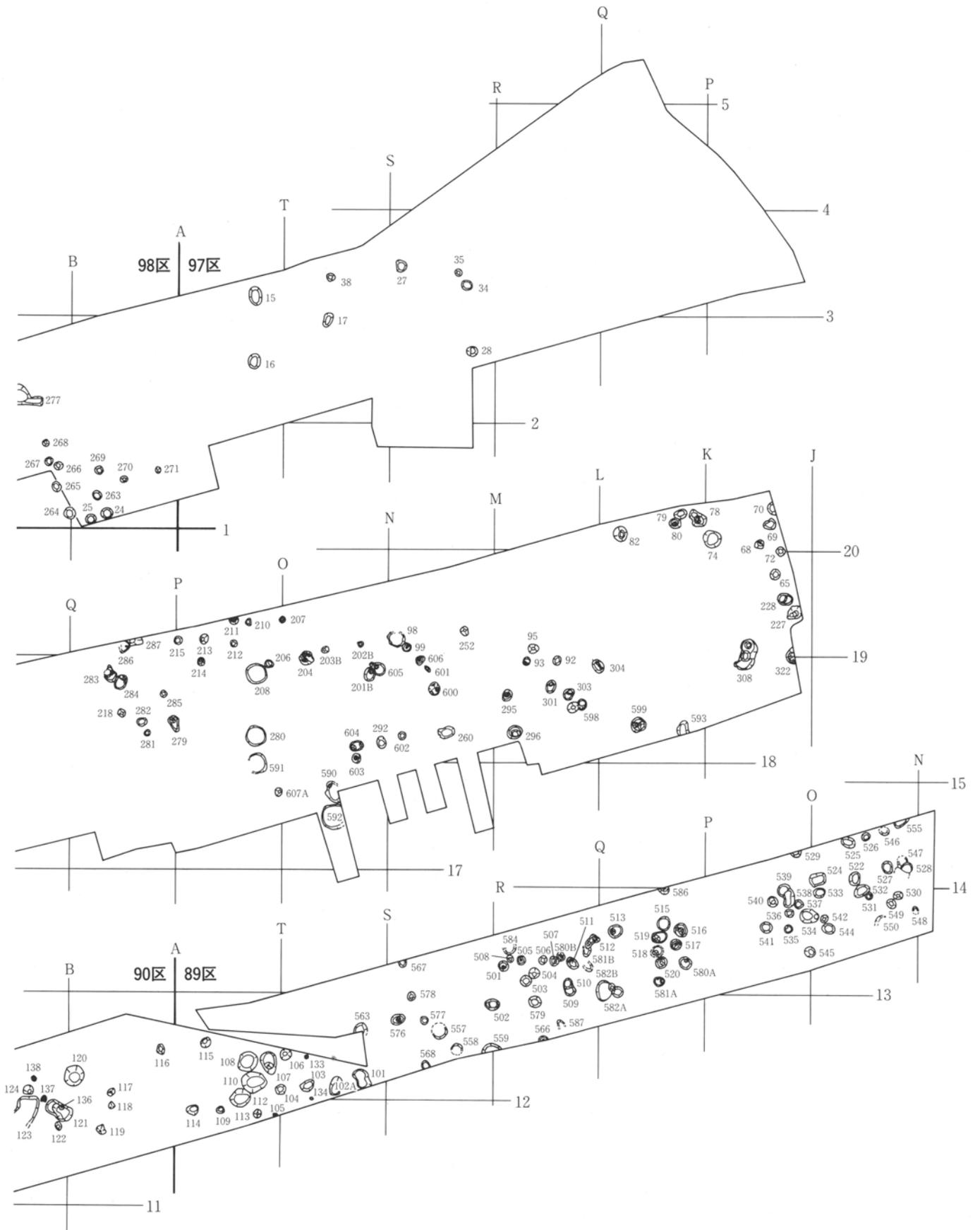


第146図 畠

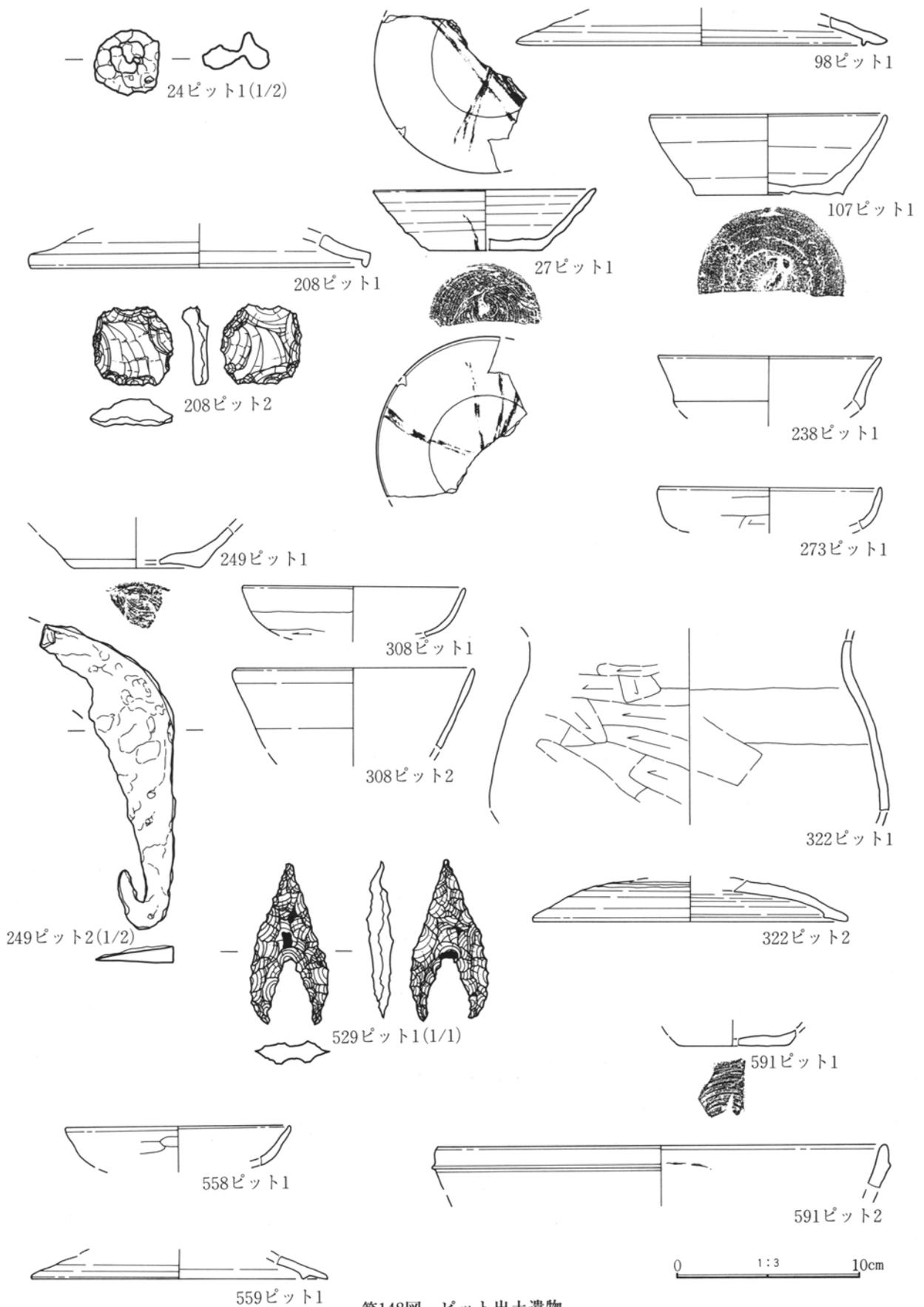
8. ピット



第147図 ピット



第IV章 検出された遺構と遺物



第148図 ピット出土遺物

第4表 ピット一覧

区	番号	位置	規模(m)			遺物
			長軸	短軸	深さ	
98	5	F-1	0.57	0.49	0.19	
98	6	F-1	0.59	0.55	0.22	
88	9	F-20	0.72	0.59	0.39	
88	12	F-20	0.44	0.42	0.39	
88	13B	F-20	0.53	0.51	0.44	
88	14	G-20	0.45	0.23	0.54	
97	15	T-3	0.87	0.61	0.11	
97	16	T-2	0.72	0.58	0.13	
97	17	S-2	0.70	0.42	0.12	
98	24	A-1	0.56	0.48	0.41	鉄-31
98	25	A-1	0.49	0.44	0.68	
97	27	R-3	0.54	0.48	0.52	須恵器坏
97	28	R-2	0.51	0.48	0.47	
97	34	R-3	0.52	0.46	0.40	
97	35	R-3	0.33	0.30	0.26	
97	38	S-3	0.38	0.36	0.28	
88	48	F-20	0.46	(0.26)	0.11	
88	49	F-20	0.54	0.52	0.08	
88	50	E-20	(0.25)	0.31	0.09	
98	61	D-2	0.50	0.45	—	
98	62	D-1	0.43	0.40	—	
88	65	J-19	0.50	0.43	0.15	
88	68	J-20	0.46	0.42	0.23	
88	69	J-20	0.62	0.41	0.29	
88	70	J-20	0.62	(0.32)	0.43	
88	72	J-19	0.41	0.38	0.13	
88	74	J-20	0.82	0.80	0.19	
88	78	K-20	0.19	0.55	0.49	
88	79	K-20	0.62	0.40	0.27	
88	80	K-20	0.53	0.49	0.44	
88	82	K-20	0.69	0.60	0.41	
88	92	L-18	0.43	0.35	0.15	
88	93	L-18	0.39	0.31	0.18	
88	95	L-19	0.49	0.43	0.23	
88	98	M-19	0.82	(0.60)	0.16	須恵器蓋
88	99	M-19	0.42	0.40	0.32	
89	101	S-12	(0.89)	0.56	0.47	
89	102A	S-12	0.91	0.51	0.39	
89	103	S-12	0.69	0.50	0.46	
89	104	T-12	0.47	0.46	0.40	
89	105	T-11	0.22	(0.13)	0.20	
89	106	S-12	0.52	(0.31)	0.55	
89	107	T-12	1.03	0.70	0.23	須恵器坏
89	108	T-12	0.95	0.86	0.23	
89	109	T-11	0.34	0.30	0.17	
89	110	T-12	1.19	0.95	0.22	
89	112	T-12	0.96	0.86	0.27	
89	113	T-11	0.41	0.36	0.12	
89	114	T-11	0.54	0.45	0.56	
89	115	T-12	0.49	0.46	0.50	
90	116	A-12	0.48	0.35	0.28	
90	117	A-12	0.44	0.33	0.45	
90	118	A-11	0.36	0.26	0.37	
90	119	A-11	0.46	0.33	0.35	
90	120	A-12	1.00	0.86	0.40	
90	121	B-11	1.30	0.64	0.14	
90	122	B-11	0.39	0.30	0.26	
90	123	B-11	(1.19)	0.93	0.10	

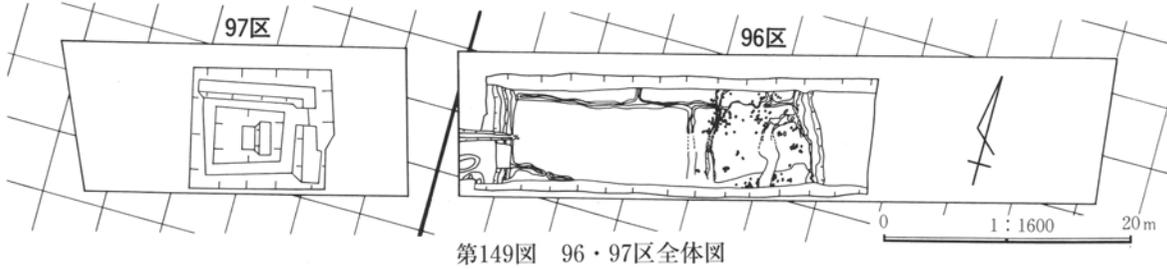
区	番号	位置	規模(m)			遺物
			長軸	短軸	深さ	
90	124	B-12	0.48	0.44	0.09	
90	125	B-11	0.63	0.42	0.43	
90	126	B-12	0.30	(0.14)	0.21	
90	127	B-11	0.52	0.38	0.09	
90	129	C-11	0.29	0.25	0.20	
90	130	C-10	0.84	(0.59)	0.41	
90	131	D-11	0.28	0.24	0.29	
90	132	E-10	0.55	0.51	0.08	
89	133	S-12	0.15	(0.11)	0.20	
89	134	S-12	0.14	0.11	0.16	
90	136	B-11	0.22	0.19	0.10	
90	137	B-11	0.32	0.21	0.10	
90	138	B-12	0.24	0.17	0.12	
90	140	B-11	0.28	0.23	0.20	
90	141	B-11	0.27	0.25	0.12	
90	142	B-11	0.49	0.40	0.22	
90	143	C-11	0.26	0.19	—	
90	144	C-11	0.54	0.19	—	
90	145	C-11	0.24	0.22	—	
90	146	C-11	0.28	0.23	0.12	
90	147	C-11	0.30	0.23	0.11	
90	148	C-11	0.27	0.22	0.21	
90	150	C-11	0.45	0.28	0.25	
90	151	C-11	0.35	0.28	—	
90	152	D-11	0.34	0.33	0.14	
90	153	D-10	0.17	0.19	0.22	
90	155	E-10	0.35	0.32	0.12	
88	201B	N-18	0.63	0.49	0.20	
88	202A	N-19	0.29	0.25	0.11	
88	203B	N-19	0.32	0.27	0.09	
88	204	N-18	0.66	0.58	0.53	
88	206	O-18	0.39	0.34	0.26	
88	207	N-19	0.29	0.29	0.35	
88	208	O-18	0.96	0.89	0.37	楔形石器須恵蓋
88	210	O-19	0.31	0.27	0.24	
88	211	O-19	0.40	(0.23)	0.32	
88	212	O-19	0.33	0.29	0.17	
88	213	O-19	0.44	0.37	0.29	
88	214	O-18	0.37	0.32	0.33	
88	215	O-19	0.37	0.35	0.32	
88	218	P-18	0.37	0.34	0.23	
88	227	J-19	0.77	0.56	0.60	
88	228	J-19	0.71	0.54	0.36	
98	232	F-1	0.37	0.34	0.35	
98	233	E-1	0.36	0.30	0.25	
98	234	E-1	0.31	0.26	0.28	
98	235	E-1	0.32	0.31	0.24	
98	236	E-1	0.61	0.58	0.32	
98	237	E-1	0.46	0.43	0.29	
98	238	E-1	0.32	0.31	0.15	土師坏
98	239	E-1	0.39	0.37	0.20	
98	240	D-1	0.46	0.42	0.23	
98	241	D-1	0.53	0.49	0.27	
98	242	D-1	0.40	0.41	0.41	
98	243	D-1	0.26	0.26	0.12	
98	244	E-1	0.42	0.36	0.33	
88	245	E-20	0.54	0.53	0.42	
98	248	C-2	1.24	0.91	0.48	

第IV章 検出された遺構と遺物

区	番号	位置	規模(m)			遺物
			長軸	短軸	深さ	
98	249	C-1	(0.60) × 0.61 × 0.57			鉄-18・須恵坏
98	250	C-2	1.46 × 0.67 × 0.58			
88	252	M-19	0.42 × 0.39 × 0.55			
88	260	M-18	0.78 × 0.47 × 0.47			
98	263	A-1	0.44 × 0.38 × 0.17			
98	264	B-1	0.53 × 0.52 × 0.36			
98	265	B-1	0.46 × 0.39 × 0.66			
98	266	B-1	0.39 × 0.34 × 0.45			
98	267	B-1	0.38 × 0.37 × 0.23			
98	268	B-1	0.32 × 0.27 × 0.35			
98	269	A-1	0.39 × 0.35 × 0.18			
98	270	A-1	0.31 × 0.26 × 0.33			
98	271	A-1	0.29 × 0.27 × 0.37			
98	273	B-2	0.78 × 0.67 × 0.33			土師坏
98	274	B-1	(0.43) × 0.48 × 0.34			
98	275	B-1	0.38 × 0.37 × 0.35			
98	276	B-1	1.81 × 0.54 × 0.46			
98	277	B-2	2.22 × 0.98 × 0.38			
88	279	P-18	0.76 × 0.42 × 0.38			
88	280	O-18	0.92 × 0.92 × 0.46			
88	281	P-18	0.31 × 0.24 × 0.27			
88	282	P-18	0.47 × 0.39 × 0.39			
88	283	P-18	0.81 × 0.51 × 0.19			
88	284	P-18	0.70 × 0.53 × 0.17			
88	285	P-18	0.30 × 0.28 × 0.29			
88	286	P-19	0.58 × (0.20) × 0.38			
88	287	P-19	(0.77) × (0.34) × 0.72			
88	292	N-18	(0.49) × 0.40 × 0.26			
88	295	L-18	0.55 × 0.42 × 0.20			
88	296	L-18	0.69 × 0.60 × 0.24			
88	301	L-18	0.60 × 0.44 × 0.19			
88	303	L-18	0.57 × 0.44 × 0.21			
88	304	K-18	0.63 × 0.47 × 0.52			
88	308	J-18	0.93 × (0.50) × 0.42			土師坏・須恵鉢
88	322	J-18	0.78 × (0.40) × 0.50			土師甕・須恵蓋
89	501	Q-13	0.51 × 0.49 × 0.41			
89	502	R-12	0.71 × 0.54 × 0.39			
89	503	Q-13	0.52 × 0.47 × 0.33			
89	504	Q-13	0.52 × 0.45 × 0.31			
89	505	Q-13	0.41 × 0.37 × 0.34			
89	506	Q-13	0.37 × 0.35 × 0.47			
89	507	Q-13	0.44 × 0.43 × 0.51			
89	508	Q-13	0.34 × 0.30 × 0.47			
89	509	Q-13	0.46 × (0.36) × 0.37			
89	510	Q-13	0.48 × 0.43 × 0.43			
89	511	Q-13	0.61 × 0.43 × 0.40			
89	512	Q-13	0.74 × 0.27 × 0.38			
89	513	P-13	0.67 × 0.59 × 0.56			
89	515	P-13	0.68 × 0.59 × 0.30			
89	516	P-13	0.66 × 0.58 × 0.43			
89	517	P-13	0.51 × 0.48 × 0.37			
89	518	P-13	(0.56) × (0.51) × 0.35			
89	519	P-13	0.72 × 0.54 × 0.39			
89	520	P-13	0.55 × 0.49 × 0.31			
89	522	N-14	0.63 × 0.48 × 0.34			
89	524	N-14	0.73 × 0.59 × 0.31			
89	525	N-14	0.67 × 0.44 × 0.36			
89	526	N-14	0.40 × 0.33 × 0.35			

区	番号	位置	規模(m)			遺物
			長軸	短軸	深さ	
89	527	N-14	0.59 × 0.49 × 0.56			
89	528	N-14	(0.46) × 0.51 × —			
89	529	O-14	0.51 × (0.27) × 0.32			石鏃
89	530	N-13	0.44 × 0.36 × 0.54			
89	531	N-13	0.35 × 0.34 × 0.25			
89	532	N-13	0.78 × 0.52 × 0.25			
89	533	N-13	0.53 × 0.47 × 0.25			
89	534	O-13	0.90 × 0.71 × 0.31			
89	535	O-13	0.38 × 0.37 × 0.38			
89	536	O-13	0.38 × 0.37 × 0.42			
89	537	O-13	0.42 × 0.39 × 0.30			
89	538	O-13	(0.82) × 0.44 × 0.28			
89	539	O-13	0.60 × (0.50) × 0.29			
89	540	O-13	0.47 × 0.44 × 0.49			
89	541	O-13	0.50 × 0.49 × 0.32			
89	542	N-13	0.38 × 0.31 × 0.43			
89	544	N-13	0.56 × 0.44 × 0.28			
89	545	O-13	0.50 × 0.47 × 0.46			
89	546	N-14	0.39 × (0.22) × 0.23			
89	547	N-14	(0.25) × 0.48 × 0.27			
89	548	N-13	(0.20) × 0.28 × 0.37			
89	549	N-13	0.44 × 0.38 × 0.18			
89	550	N-13	(0.45) × (0.17) × 0.36			
89	555	N-14	(0.60) × 0.29 × 0.59			
89	557	R-12	0.74 × (0.39) × 0.41			
89	558	R-12	0.52 × (0.24) × 0.40			土師坏
89	559	R-12	0.94 × (0.37) × 0.66			須恵蓋
89	563	S-12	0.55 × (0.37) × 0.40			
89	566	Q-12	0.40 × (0.17) × 0.59			
89	567	R-13	(0.21) × 0.38 × 0.34			
89	568	R-12	(0.33) × 0.40 × 0.20			
89	576	R-12	0.68 × 0.47 × 0.51			
89	577	R-12	0.38 × 0.34 × 0.17			
89	578	R-12	0.41 × 0.39 × 0.29			
89	579	Q-12	0.59 × 0.52 × 0.41			
89	580A	P-13	0.58 × 0.54 × —			
89	580B	Q-13	0.41 × 0.36 × 0.38			
89	581A	P-13	0.47 × 0.44 × —			
89	581B	Q-13	(0.33) × 0.39 × 0.44			
89	582A	P-13	0.96 × 0.72 × —			
89	582B	Q-13	0.42 × (0.23) × 0.34			
89	584	Q-13	0.62 × 0.26 × 0.34			
89	586	P-13	(0.32) × 0.48 × 0.41			
89	587	Q-12	(0.24) × 0.34 × 0.24			
88	590	N-17	0.97 × (0.51) × 0.61			
88	591	O-18	0.88 × (0.64) × 0.39			須恵坏・須恵甕
88	592	N-17	(0.83) × 1.11 × 0.64			
88	593	K-18	(0.61) × 0.53 × —			
88	598	L-18	0.50 × (0.42) × 0.34			
88	599	K-18	0.70 × 0.64 × 0.32			
88	600	M-18	0.61 × 0.52 × 0.19			
88	601	M-18	0.31 × 0.17 × 0.33			
88	602	M-18	0.37 × 0.32 × 0.25			
88	603	N-18	0.47 × 0.38 × 0.59			
88	604	N-18	0.66 × 0.49 × 0.30			
88	605	N-18	0.77 × 0.57 × 0.20			
88	606	M-18	0.48 × 0.36 × 0.17			
88	607A	O-17	0.36 × 0.33 × 0.34			

9. 96・97区遺構



96・97区は、南北に流れる見立川によって開析された谷地であり、東西幅約50mと狭く、東西尾根との比高差は、それぞれ約25m、約24mを測る。標高は190m程である。

調査区は、北陸新幹線高崎駅起点距離10.860km～10.910kmの谷地部を96区とし、西尾根に連なり96区に比べ約5m高く狭い平坦面は、10.915km～10.940kmに当り、これを97区とした。また、調査区幅は11mと狭いため、遺構を面的に捉えることが困難であった。地目は、96区97区ともに水田である。

96区 A s - B 下水田跡

本調査区は、谷地形に立地することから、A s - Bが最大厚15cmと良好に遺存しており、直下面で水田跡を検出できた。また、東側を南流する見立川は近年まで氾濫し易かったことから、この川から西へ15mでは近時の災害とその復旧工事によって攪拌され、遺構を検出することができなかった。2号溝以東でもA s - B軽石の堆積は見られず、明確な畦も見られなかったことから水田跡の範囲から除外されるが、やや盛り上がっている形状を考慮すれば大畦等があったことも想定できる。しかし、ここでは2号溝以西を水田遺構の範囲として取り扱う。

地形 本調査区は見立川によって形成された谷地形に起因する埋没谷であるため、全体として南傾斜する。ただし、両側の台地が迫った狭隘な谷であることから、西側からの斜面とも接しており、5号溝はその法面境を利用し、本水田跡の東西の範囲は2号溝と5号溝に挟まれた約24mの範囲とすることができる。

形態 北壁から2mで東西に走向する畦によって本水田跡は南北に2分され、その水田面の比高差は20cmを測る。水田区画は、この東西畦に対してほぼ直角する方向に畦を南北に設けることによって6区画を構築する。ただし、調査範囲の幅が狭く水田区画全体を露呈できたものはなかったことから、水田区画の規模は不明である。

取配水の方法 2号・5号溝はともに水路と考えるが、5号溝ではその底面が水田面とほぼ水平で、東側に高さ20cmの畦を盛っている一方、2号溝の底面は60cm程水田面より低く、西側には畦の痕跡がわずしか見られないこと等を考慮すれば、5号溝が取水路で2号溝が排水路とすることが妥当と考える。ただし、5号溝から引水する水口は検出されなかったため、本調査区内の水田跡では北側に隣接する水田区画から取水したものと見られる。5号溝は幹線水路として要所要所で取水されていたものとする。

耕作土 径1cm大白色軽石を多く含む灰色粘質土 **出土遺物** なし

所見 本水田跡の下層を掘削した結果、南北の水田区画に生じた比較的大きな比高差は人為的に形成されたことが判明したことから、大掛かりな造成が想定されることとなった。また、用水路である2・5号溝の下層においても、その前段階の水路と見られる6号溝と2号溝下のU字形の砂層堆積が存在しており、徐々に水田面を上げながら繰り返し整備が行われてきた結果と捉えられる。同様に、8号溝も東側に盛土層を持ち5号溝と類似することから、その前身とすれば水田面を上げながら東西方向にも徐々に水田範囲を拡張してきたものとすることができ、以上の結果やや大きな比高差を持つ水田跡が形成されたものとする。

96区 A s - C直下面と溝

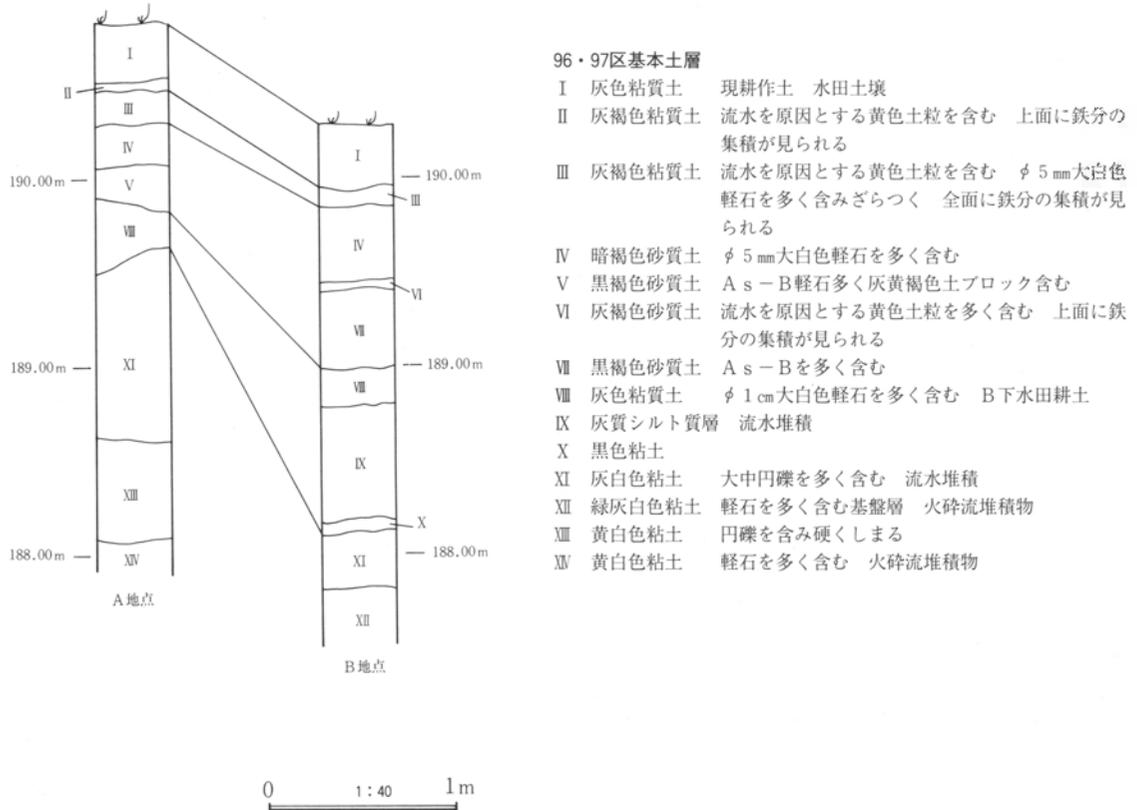
本調査区西半部分には小規模な谷地が埋没する。その谷地部分では、A s - B直下面から下層約1 mに A s - Cが最大厚10cm程面的に堆積しており、水田跡が想定されることとなった。明確な遺構としては、谷地形の両端壁際に、各々東に9号溝、西に10号溝が走向し、それに挟まれた範囲がほぼ平坦面として検出できた。ただし、平坦面では区画を示す畦は確認できず、珪酸体分析によってもイネのプラントオパールは検出できなかったため、水田跡と認定できない。一方、9・10号溝は砂で埋没し、底面・壁面が荒れることから相当量の流水量が想定される。形態は両者とも整ったU字形で、人為的な構築として用水路を想起させる。仮に本遺跡下流にA s - C直下段階（古墳時代前期）の水田跡が存在していた場合、本溝はその導水に係わる遺構=用水路と位置づけられる。

9号溝 南北に走向してやや東側に弓なりに膨らんだ直線状で、南北両端は調査区域外に延びる。規模は長さ3.7m、幅は110~150cm、深さ20~70cmである。底面・壁面ともに荒れており、相当量の流水量が想定される。遺物は出土しなかった。

10号溝 南北に走向してほぼ直線状で、南北両端は調査区域外に延びる。規模は長さ4.2m、幅は80~100cm、深さ10~20cmである。底面・壁面ともに荒れており、相当量の流水量が想定される。遺物は出土しなかった。

97区

97区については、遺構は検出できなかった。断面土層のみ記す。

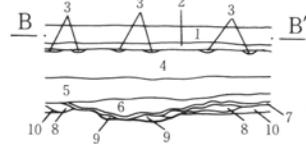


第150図 96・97区基本土層

96区 SPA-A'

- 1 灰色粘質土 基本土層のI層
- 2 灰色粘質土 1層以前の耕作土 水田土壤
- 3 灰褐色粘質土 基本土層のII層
- 4 灰褐色粘質土 基本土層のIII層
- 5 暗褐色砂質土 基本土層のIV層
- 6 灰褐色砂質土 基本土層のVI層
- 7 暗褐色砂質土 φ5mm大の白色軽石を多く含む
- 8 黒褐色砂質土 基本土層のVII層
- 9 黒褐色砂質土 流水の影響あり A s-Bアッシュ小ブロック含む
- 10 A s-B
- 11 灰色粘質土 基本土層のVIII層
- 12 灰色粘質土 φ1cm大の白色軽石を多く含む 11層よりやや色調の明るい水田耕土
- 13 黒褐色粘質土 φ1cm大白色軽石多く含む 最下部に川砂の堆積が所々あり
- 14 A s-Bの桃色アッシュ
- 15 粕川テフラ 灰色
- 16 黒色粘質土 角礫少量
- 17 灰白色粘土 地山の灰黄褐色土主体
- 18 灰白色粘土 17層に近似 11層土の大ブロックをモザイク状に含む
- 19 桃褐色粘質土 川砂を多く含む円礫を含む
- 20 暗灰色粘質土 地山の灰黄褐色土の小ブロックを含む
- 21 黒灰色粘質土 11層に類似 φ5mm大の白色軽石を含む 川砂利を多く含む
- 22 黒灰色砂質土 8層に近い褐色土粒を含み鉄分の集積がやや見られる 川砂利を含む
- 23 砂礫層 川砂利 流水堆積 黒色土を層状に含む
- 24 黒褐色粘質土 川砂利を多く含む
- 25 褐色砂質土 11層土主体 A s-B軽石の二次堆積を多く含む
- 26 砂礫層 A s-B軽石の二次堆積主体 11層土を含む
- 27 砂礫層 川砂利主体 褐色土ブロック 11層土を含み下部に小中円礫を含む
- 28 灰色砂質土 7層の中で褐色土粒を含み鉄分の集積した部分を分層
- 29 黒灰色粘質土 φ5mm大の白色軽石を含み灰色粘土ブロック 黒褐色土ブロックをモザイク状に含む 11層土主体 流水堆積
- 30 砂礫層 氾濫堆積 鉄分沈着により赤褐色(2号溝の旧流路)
- 31 黒色土 34層と30層のモザイク
- 32 桃灰色シルト
- 33 暗灰色土 白色軽石少量 ややざらつく
- 34 暗灰色砂質土 白色軽石少量
- 35 灰色砂 川砂を多く含む
- 36 灰色シルト質土 流水堆積
- 37 暗灰色砂質土 φ5mm大の白色軽石を含む 川砂を多く含む
- 38 砂礫層 川砂利主体 黒色粘質土を層状に多く含む
- 39 暗灰色砂質土 小角礫少量含む
- 40 桃色シルト 白色軽石を含む
- 41 砂礫層 川砂利主体 黒色粘質土を層状に多く含む下部に小中円礫を多く含む
- 42 砂礫層 川砂利主体の流水堆積 下部に小中円礫を多く含む
- 43 黒褐色砂質土 川砂利を多く含む 溝の肩部
- 44 礫層 黄白色粘性土を多く含む
- 45 黒色粘質土 φ1cm大の白色軽石を含む
- 46 砂礫層 川砂利主体の流水堆積 黒色粘質土を層状に多く含む
- 47 砂礫層 A s-C主体の流水堆積 黒色粘質土を層状に多く含む A s-C厚さ最大15cm
- 48 A s-C軽石
- 49 黒色粘質土 泥炭層 腐植に富む 小礫川砂を少量含む
- 50 黒褐色粘質土 49層土主体 川砂利を多く含む 流木片を含む
- 51 砂礫層 小中円礫主体の流水堆積 黒色川砂を層状に含む
- 52 砂礫層 川砂利主体 46層に近似 黒色川砂を層状に含む
- 53 暗灰色砂質土 地山の灰黄褐色土ブロック 黄褐色土粒 細礫を多く含む

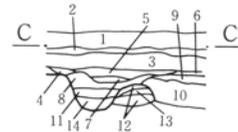
3号溝 SPB-B'



3号溝

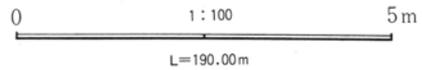
- 1 灰色粘質土 基本土層のI層
- 2 灰褐色粘質土 基本土層のIII層
- 3 黄色砂礫層 氾濫堆積物
- 4 最下部に氾濫堆積物がやや見られ(基本土層のVI層と同じもの)鉄分の集積あり
- 5 黒褐色砂質土 基本土層のVII層
- 6 褐色砂 川砂主体
- 7 粕川テフラ 灰色
- 8 暗褐色土 ややざらつく
- 9 暗褐色土 川砂やや多く含む
- 10 A s-B

5号溝 SPC-C'



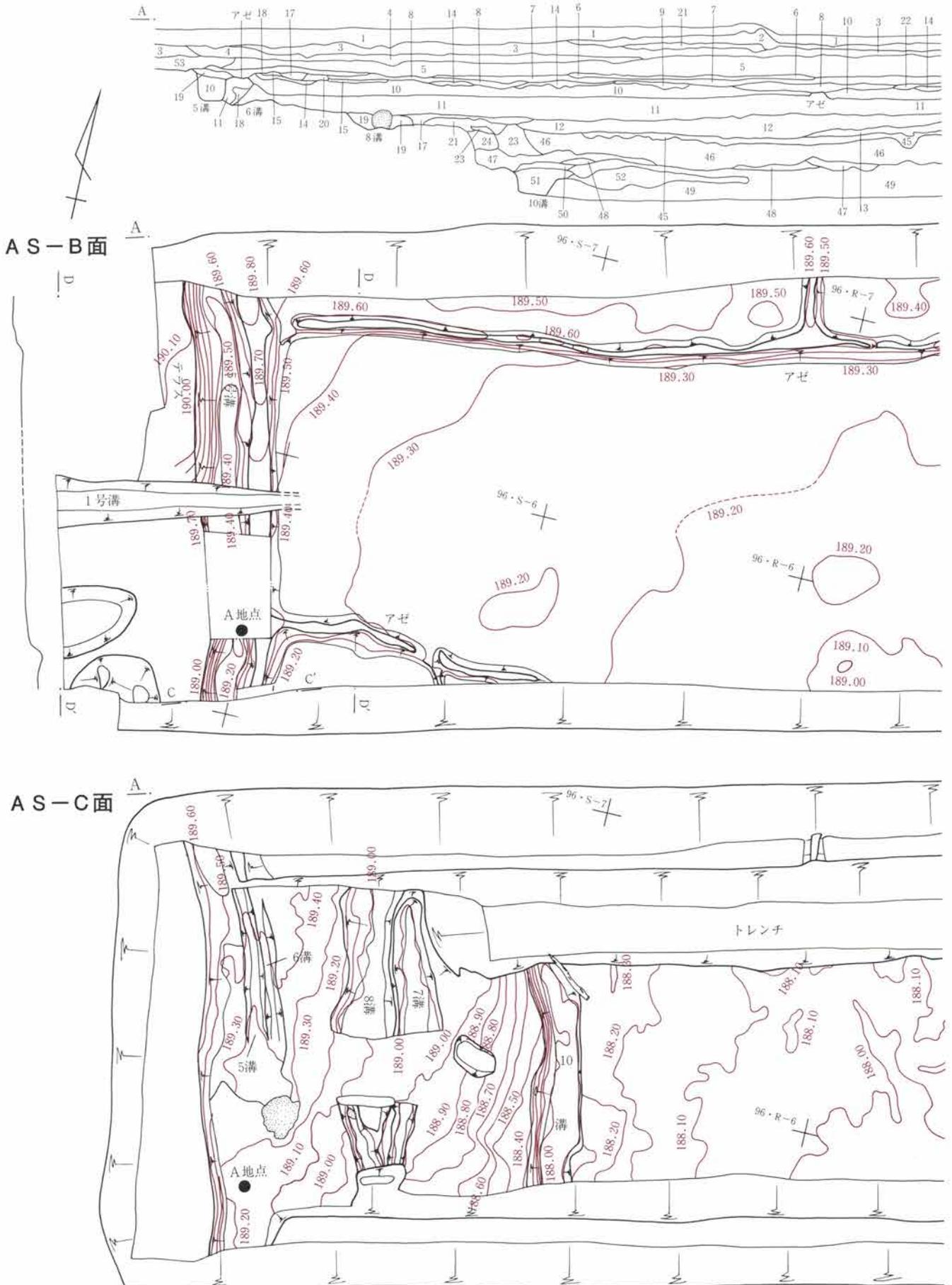
5号溝

- 1 灰色粘質土 基本土層のI層
- 2 灰褐色粘質土 基本土層のIII層
- 3 暗褐色砂質土 基本土層のIV層
- 4 暗褐色砂質土 灰黄褐色土ロームを多く含む 流水の影響を受ける
- 5 黒褐色砂質土 川砂利を多く含む 基本土層のVII層に近似
- 6 灰色砂 A s-Bの二次堆積層主体
- 7 砂礫層 φ1~2mmの細礫(A s-Bか) 流水堆積
- 8 黒褐色砂質土 A s-Bを多く含む基本土層のVII層に近似
- 9 黒褐色砂質土 流水の影響あり A s-Bアッシュの小ブロック含む
- 10 A s-B軽石
- 11 黒褐色砂 A s-Bを多く含むややしまる
- 12 黄白色粘土 地山の灰黄褐色土転起土 畦構成物
- 13 黒灰色土 地山の灰黄褐色土ブロックを含む



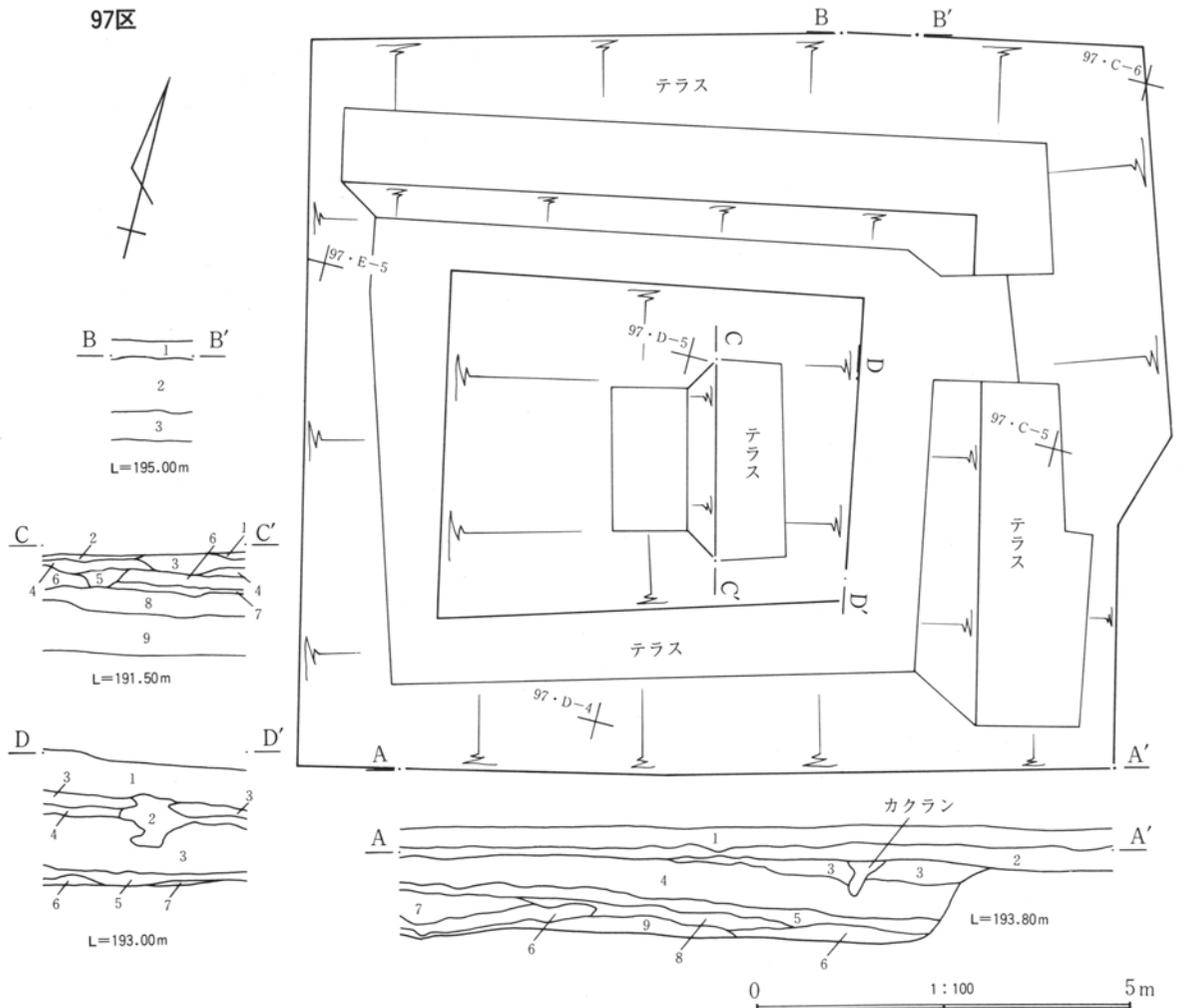
第151図 96区3・5号溝・96区グリッド出土遺物

第IV章 検出された遺構と遺物



第152図 96区水田・溝

第IV章 検出された遺構と遺物



SPB-B'

- 1 灰色土 現耕作土 水田土壤
- 2 灰色土 1層以前の耕作土 水田土壤 上面に鉄分の集積あり
- 3 黒褐色土 畠耕作土 ざらつく

SPC-C'

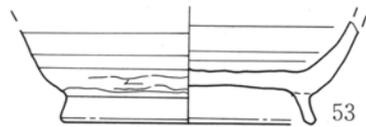
- 1 灰褐色粘土 暗色帯に相当 ϕ 1cm大の小角礫を含む
- 2 黄褐色粘土 黄色軽石 (As-MP) を多量に含みよく粘る
- 3 灰褐色粘土 黄色軽石 (As-MP) を多く含みよく粘る
- 4 灰褐色粘土 よく粘る 暗色帯に相当
- 5 灰褐色粘土 4層主体 上面に鉄分凝集あり
- 6 灰褐色粘土 よく粘る やや色調が明るい
- 7 灰色粘土
- 8 白色軽石層 水分を多く含み粘土化進む しまりない
- 9 灰褐色粘土 ややしまる 円礫を多く含む

SPD-D'

- 1 黄褐色粘土 やや粘る ソフトローム ϕ 2mm大の白色軽石を多く含む
- 2 黄白色粘土 As-BPが粘土化して変色したもの
- 3 As-BP
- 4 橙褐色粘土 As-BP粒含む
- 5 灰褐色粘土 暗色帯に相当 ϕ 1cm大の小角礫を含む
- 6 灰褐色粘土 5層主体 上面に鉄分凝集あり
- 7 黄褐色粘土 黄色軽石 (As-MP) を多量に含みよく粘る

SPA-A'

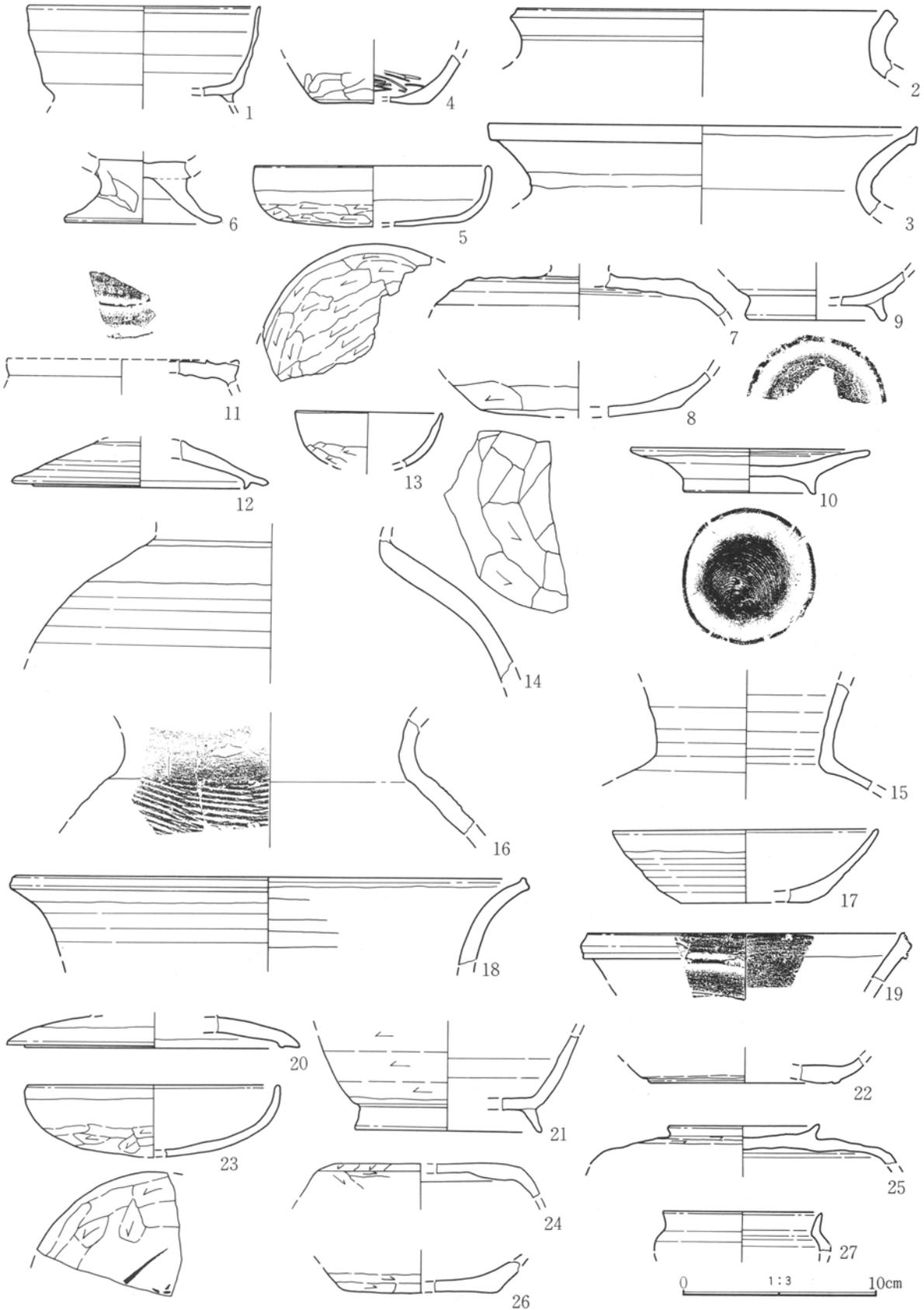
- 1 灰色粘質土 基本土層のI層
- 2 灰色粘質土 1層以前の耕作土 水田土壤
- 3 黒褐色土 ϕ 5mm大の白色軽石を多く含みざらつく
- 4 暗褐色土 ϕ 2mm大の白色軽石含む
- 5 暗褐色土と黄褐色土のモザイク ややしまる
- 6 YP純層
- 7 黄褐色粘土 最大径1cmのAs-YP粒多く含み硬くしまる
- 8 黄褐色粘土 5層土を多く含みAs-YP純層ブロックを多く含む
- 9 黄褐色粘土 やや粘る ソフトローム ϕ 2mm大の白色軽石を多く含む



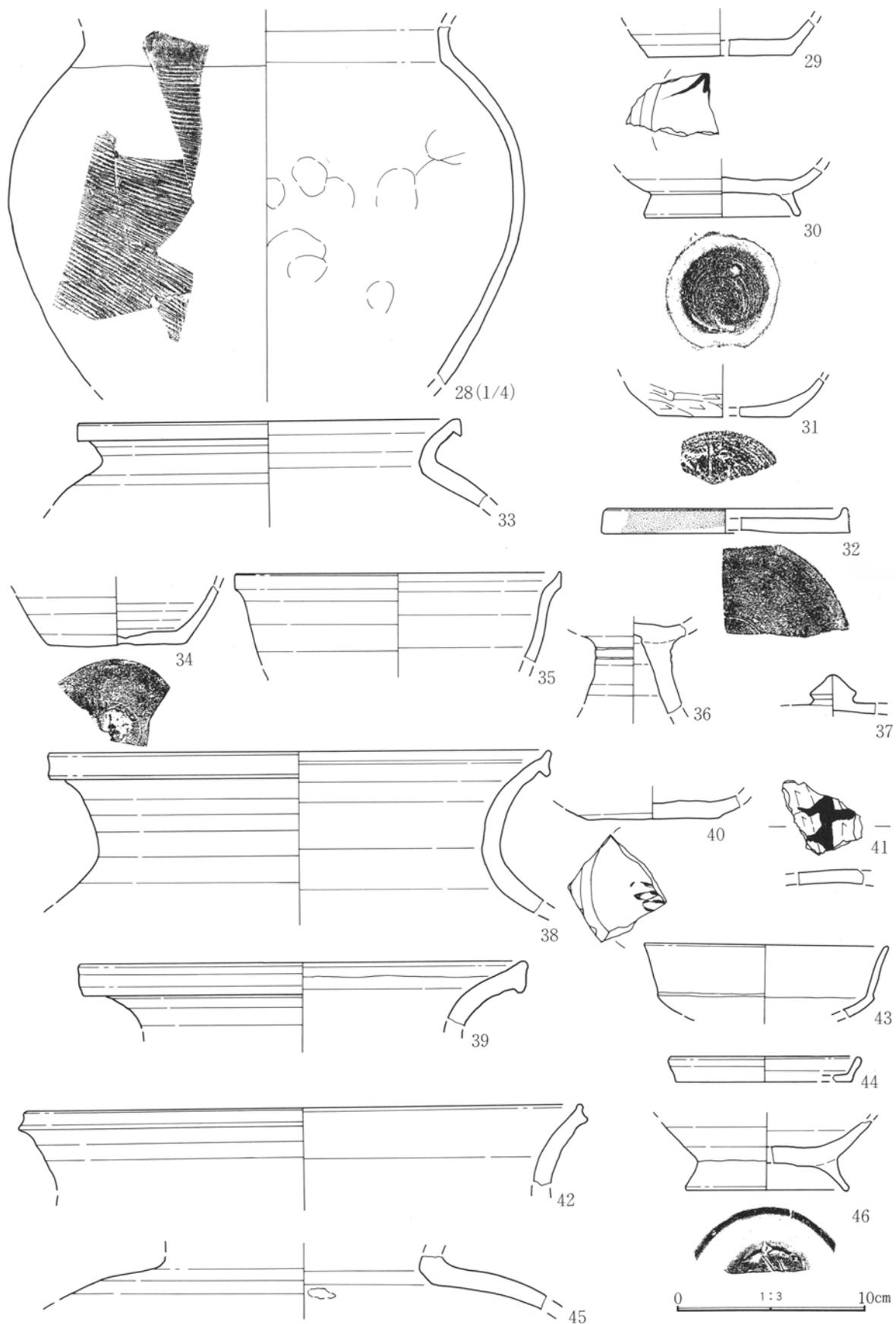
0 1:3 10cm

第153図 97区遺構・97区グリッド出土遺物

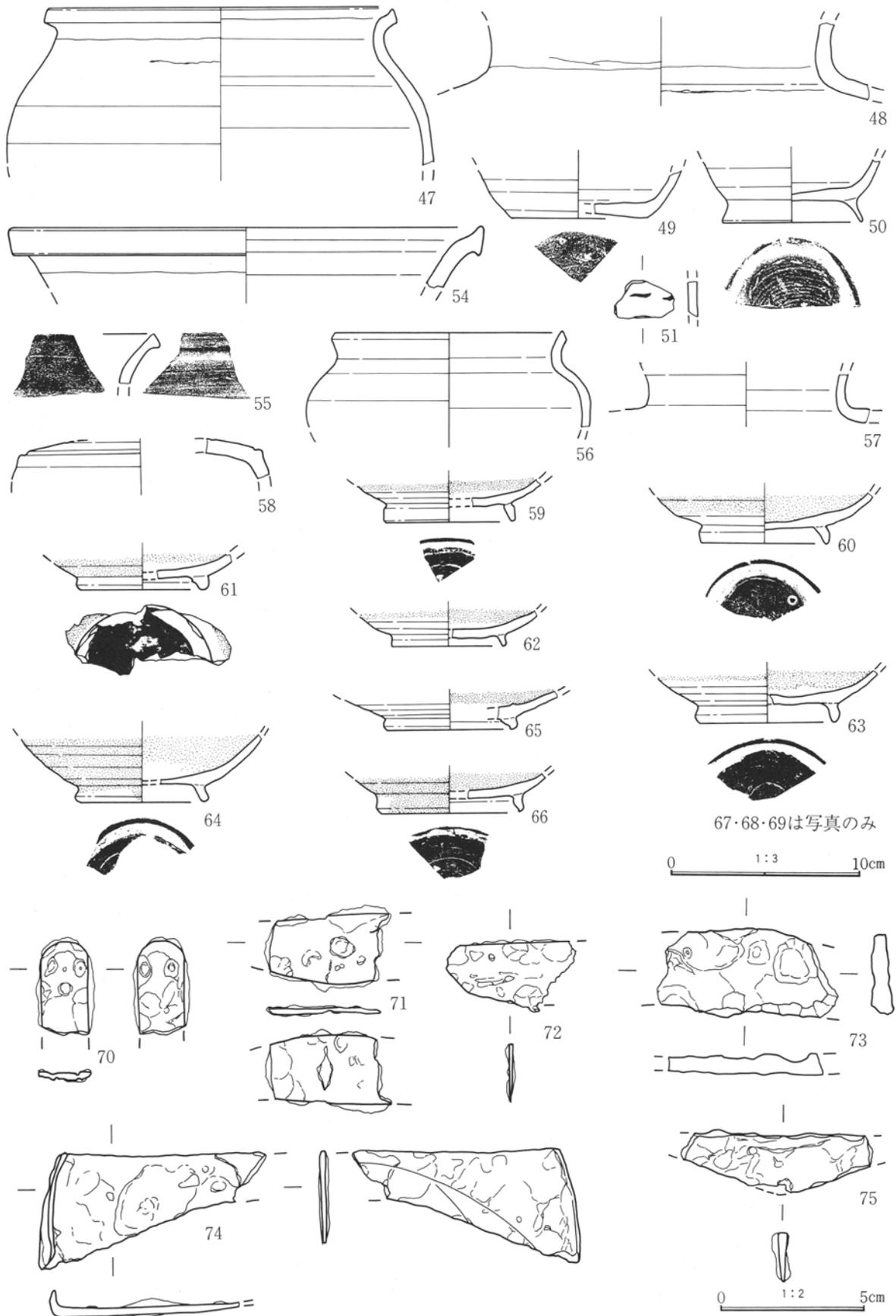
10. グリッド出土遺物



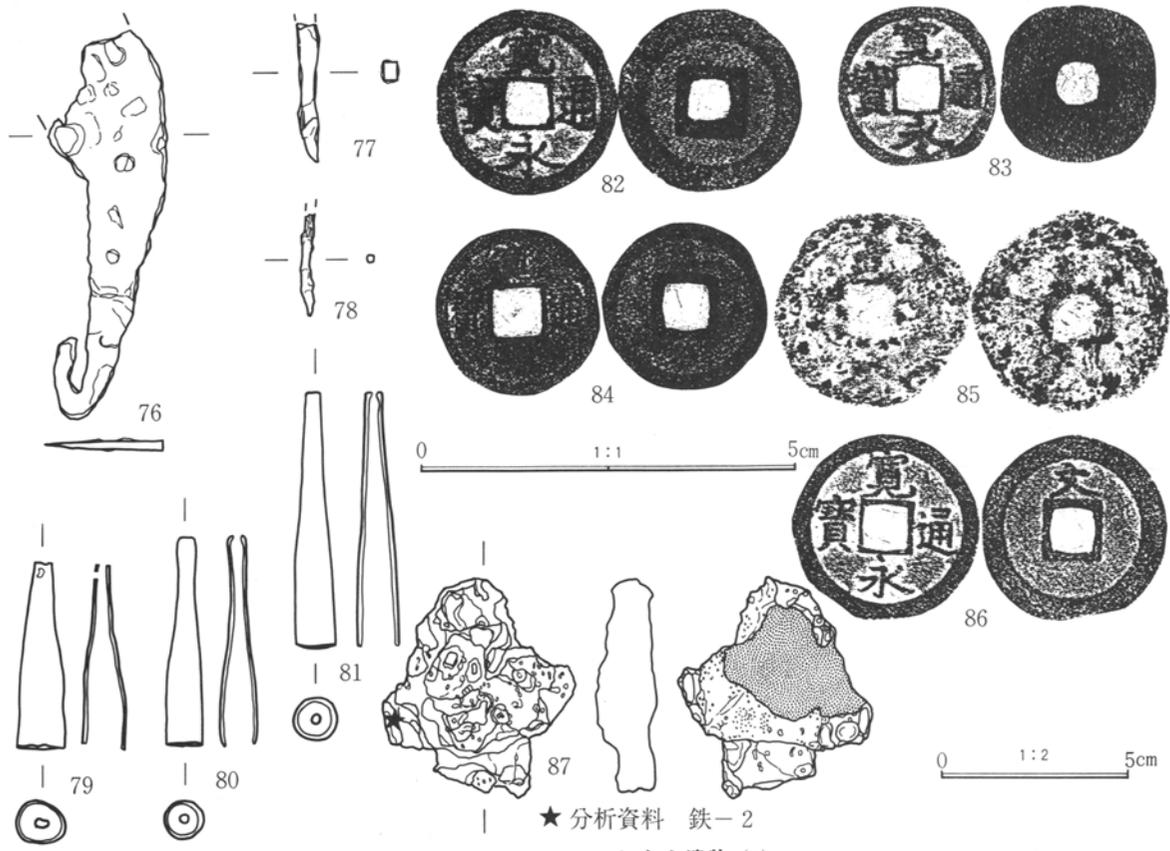
第154図 グリッド出土遺物 (1)



第155図 グリッド出土遺物(2)

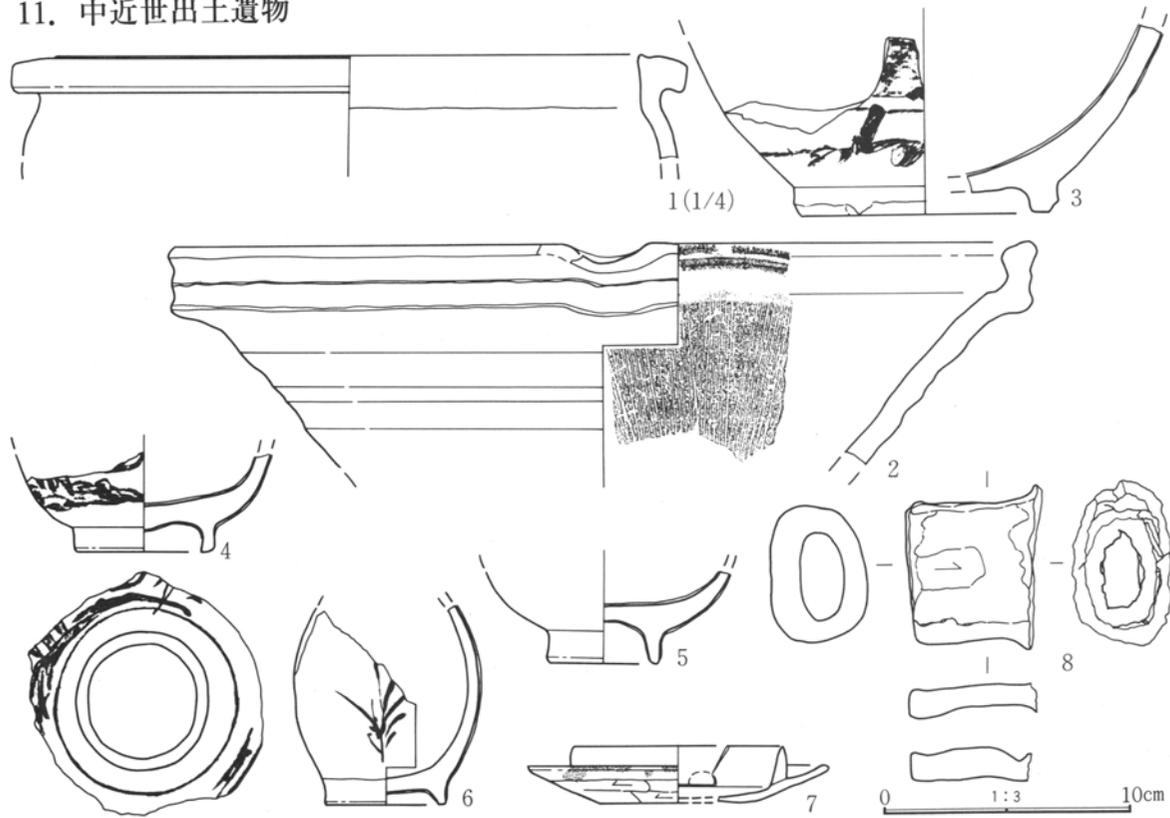


第156図 グリッド出土遺物(3)



第157図 グリッド出土遺物 (4)

11. 中近世出土遺物



第158図 中近世出土遺物

第V章 成果と問題点

1 はじめに

高浜広神遺跡は幾筋も延びる丘陵の中でも比較的広い尾根上に位置する。当遺跡では8世紀から10世紀までの竪穴住居28軒、掘立柱建物15棟、柵列、溝、水田等を発見した。近隣の遺跡と比べると、この時期、住居・掘立柱建物らの集落がまとまって発見されているのは本遺跡がはじめてである。

2 遺構の分布

東部の東側は切り立った崖面となっているが、その崖面には遺構らしい落ち込みが見られたことから、尾根東斜面が現状のような崖になったのは最近と思われ、本来はあと数m程東へのびていたものと思われる。東へ尾根がのびていたとしても当尾根の中心は中央部（8号掘立柱建物）付近に位置すると思われる。掘立柱建物同士、竪穴住居同士の重複は数多く見られるが、掘立柱建物と竪穴住居が重複している例が少ない。このように、本来ならば最も遺構が集中していてもおかしくない場所に掘立柱建物が建ち、しかも重複もしていない。これは掘立柱建物と竪穴住居の選地には何らかの規制が働いていたと考えられる。時期的なずれもあると考えられるが、掘立柱建物を中心にその地を避けるような場所に住居が成立していた様に見える。

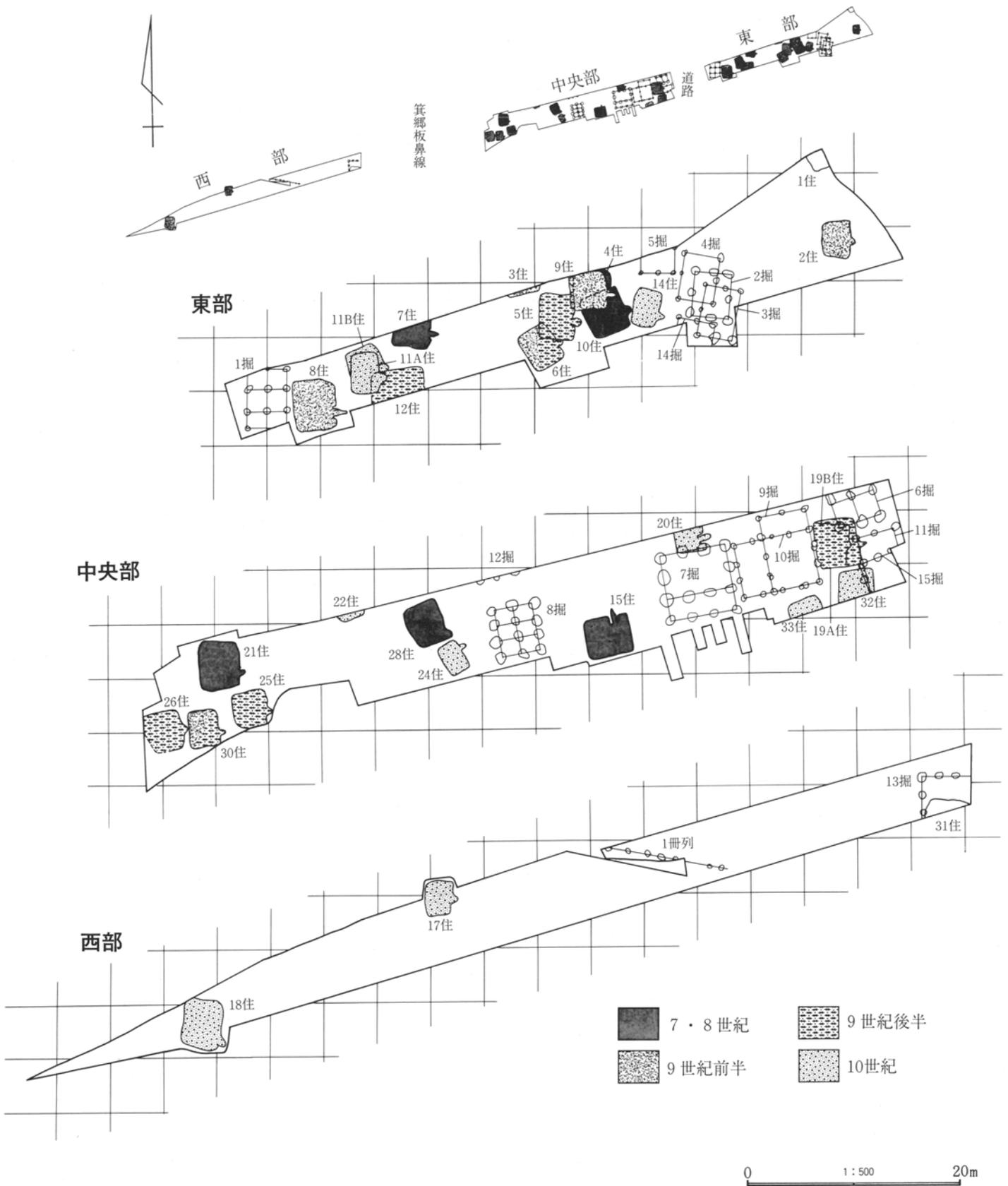
3 掘立柱建物について

東部の掘立柱建物の主軸はほぼ北、或いは北から若干東へ傾けた状態であるが、中央部のそれは北から西へ傾いている。中でも傾きが10°程のものと20°程のものと二分される。中央部の中の違いは、ある程度時期の違いと言うことが考えられるが、東部と中央部の違いはそれだけでは済まないような気がする。東部と中央部の間には現在道路（『久留馬村誌』でいうところの榛名山裏街道）が通っており、その西端には幅3m程の大きな堀（十文字の車川から取水する・上野堰に関係か？）が存在する。これらが掘立柱建物の主軸方向に作用しているように見える。古来よりここに道及び溝が通っており、規模を大きくしながら現在まで踏襲されたものと考えられる。また西部のものは東部と同様な主軸の傾きを示している。

6号掘立柱建物（建て替え有り）、7号掘立柱建物（2度建て替え有り）、8号掘立柱建物、12号掘立柱建物は、ピット掘り方の規模・形状が似ている。7・8号掘立柱建物は南側の柱筋がほぼ一致していることから同時期存在が窺える。7号掘立柱建物は側柱、南側に庇を持ち、8号掘立柱建物は総柱である。これらのことから7号掘立柱建物は、ほぼこの遺構群の中心の建物で、8号はその脇に建つ倉庫と考えられる。また9号掘立柱建物と10号掘立柱建物もピット掘り方の規模・形状ともに似ている。また南側の柱筋が一致している。これは9号掘立柱建物から10号掘立柱建物への建て替えと考えられる。また9・10号掘立柱建物の面積が一番大きく、やはり8号掘立柱建物のような中心的な建物の役割をなしていたものではないか。6・12号掘立柱建物については主軸のズレも少ないことから同時期存在が窺える。これら建物の柱穴は、径1mを超える大型で、柱は30cmを前後する太さであった。この柱の太さはこれまでの同種の柱としては非常に大型といえる。しかし、7号掘立柱建物跡の柱間は、7尺（約210cm）であることから、建物自体は大型とはいえない。6・8号掘立柱建物跡は2×3間の総柱建物で倉庫と考えられる。そして、これらは平行配置を採る様相から、同時期の役所の配置構造に類している。

4 集落の変遷

調査から各住居は、8世紀後半から10世紀にかけて時間的に連続して建て替えを続けていたことがわかった。しかし、中央部東側にある19号住居A・B、32号住居、33号住居の周辺では9世紀後半から10世紀にか



第159図 遺構変遷図

けての時間的な連続性は推移できるものの、それ以前については15号住居（8世紀第1四半期）1軒のみである。この空白の時間に6～10号掘立柱建物は存在したと考えられる。掘立柱建物群が先行し、衰退を始めた9世紀後半には住居も進出し始めたと思われる。

東部東側は住居が連続して建て替えられていることがわかる。また掘立柱建物は少なくとも3回の建て替えが考えられる。これらのことから住居と掘立柱建物は同時期に存在していたと考えられる。5・4・9号住居の主軸方向は極めて似通っており、その時期は9世紀代である。またそれらと2・5号掘立柱建物の主軸も似通っていることから、それぞれ同時期存在が考えられる。その後成立する14号住居と3・4号掘立柱建物の主軸方向が似通うことから、10世紀代の同時期存在が窺える。1号掘立柱建物の主軸方向は12号住居のそれに似通っている。12号住居は半分の面積しか調査できなかったが、その平面的な規模、深さ、ピットの深さ等どれをとっても群を抜く大きさである。遺物から9世紀後半に位置づけられ、1号掘立柱建物との同時期存在が考えられる。1号掘立柱建物は総柱であることから、12号住居の倉庫的役割を担っていたものとも考えられる。

このように8世紀後半～9世紀前半の時期に、尾根の中心部にこれら掘立柱建物が建てられ、これに遅れて住居が建ち始めた。やがて、9世紀も後半になると掘立柱建物が建っていた場所にも住居が作られ、住居のみの構成となっていくようだ。

遺跡の谷部分96区では、西暦1108年に噴火した浅間山のB軽石で埋没した水田が発見されている。尾根部分に居住した人々の水田なのであろうか。当遺跡に限ってではなく、この地域の谷戸全体的な傾向であるが、この頃から人々の生活域として土地の利用が改まり、居住域を形成し、その東西の谷地に水田を造った様子が窺える。これらのことは三世一身、墾田永年私財法の反映とも思われる。

5 出土遺物について

出土遺物では、「西」の書かれた墨書土器がある。「西」については何を中心にしての西か？ということが最大の疑問である。遺跡内での「西」ということであれば、中心は7号掘立柱建物付近と考えられるので、5・18・30号住居出土である以上難しい。では視点を移し、中心を国府・国分寺にしてみると「西」は納得のいく場所である。『和名類聚鈔』（高山寺本）には「久留末、国分爲東西二郡、府中間、国府」とあり、久留末が東西二つの郡に分かれていたことがわかる。また『上野国神名帳』（惣社本）には「群馬郡之内西郡之分」という記載がみられる。これらの「西」に合致する可能性はありうる。周辺の遺跡に目を向けてみると、同じ尾根の南方傾斜地（歩いて10分程）に奥原古墳群がある。6・7世紀代のこの地域の首長級の墓とみられ、烏川左岸の古墳の分布は、この古墳群を境とし、その上流は極端に少なくなる傾向にある。この古墳の特徴的な出土遺物は金銅製帯金具一式、金環、玉類、金銅製杏葉等優品が多く、周辺遺跡の中でも奥原古墳群の優位性が目立っている。奥原古墳群のすぐ西側には古代瓦の散布地がある。榛名木戸神社と呼ばれ、『上野国神名帳』（惣社本）西群馬郡の項で従四位榛名本戸明神に考えられている。ここから発見された瓦は、秋間古窯跡群で焼かれたもので、山王廃寺に葺かれた瓦も同所で焼かれている。山王廃寺と同様の瓦葺き建物が当地に建立されていたことは確かである。同時期の存在としては唐松廃寺が知られる。また少し時期的には新しくなるが、白岩観音長谷寺も知られる。榛名木戸神社から唐松廃寺、或いは白岩観音長谷寺に足をのばすとなると必ず、当遺跡周辺を通っていくことになる。それがこの榛名山裏街道であり、伊香保道であると考えられる。このようにこの高浜広神の地は、なかなか重要な役割を担っていた場所といえよう。

他にも「丁」の書かれた墨書土器が出土している。7・11A・19・32号住居からの出土である。『律令』の「厩牧令 第廿三」に「凡厩。細馬一疋。中馬二疋。驚馬三疋。各給丁一人。獲丁每馬一人。」とある。この「厩

第V章 成果と問題点

牧令」とは中央における馬牛の飼育方法の規定である。そして、この「丁」とは、「馬丁。馬戸から上番する飼丁を充てる。」とある。すなわち馬や牛の世話をする人のことを指すらしい。他にも馬・牛関連での遺物といえば、「第」の字の鉄製の焼印が出土している。32号住居出土である。これは、畜産、或いは木製品に押すものである。『延喜式』の「上野国御牧」には「利刈 有馬島 沼尾 拜志 久野 市代 大藍山 新屋」という九つの牧が記載されている。しかし「第」と合致するような牧は見あたらない。高島英之氏の分析からもわかるように、当遺跡出土の焼印は公印より寸法が大きい。また伊藤博之氏の分析からも明らかのように、他の遺跡出土の焼印と違い、柄と本体が一体で鑄造されたものであるということも検証された。これらにより、当遺跡出土の焼印は、公印ではなく私印としての可能性が高い。また、当遺跡の至近に駒形神社がある。これは『上野国神名帳』で従四位駒形明神に比定されている。周辺に「牧」に関する地名も数多く残されている。これらのことから高浜広神遺跡は駒に深くかかわっている可能性が大である。

他の出土遺物には、8号住居出土の金銅製腰帯裏金具、30号住居出土の鉄製鎌子等がある。また灰釉陶器も数多く、耳皿なども出土している。以上、これら出土遺物から判断すると、一般人の所有物ではない、特殊な遺物が目立つ。また当遺跡には、識字層がいたことが推測される。焼印は所有物を誇示するために使用するもので、支配者階層の居住も推察される。

6 おわりに

- ・遺構の分布
- ・掘立柱建物について
- ・集落の変遷
- ・出土遺物について

以上のように、掘立柱建物を含む集落の様相を色々な側面から鑑みた。結果、今回高浜広神遺跡で発見された役所構造に類似する遺構は、高浜広神地区が奈良・平安時代まで地域の拠点的な遺跡であったこと。またその遺構は駒に係わったものではないかと推測される。

今回の文を草するにあたって、川原嘉久治氏、清水喜臣氏、事業団職員の各氏にご指導いただいた。感謝いたします。

引用文献

- 『群馬県史・資料編4 原始古代4 文献』群馬県史編さん委員会 1985年
『久留馬村誌』久留馬村誌編纂委員会 1963年
『上野国神名帳の研究』尾崎喜左雄 1974年
『日本思想体系3』「律令」井上光貞 関晃 土田直鎮 青木和夫 1976年

参考文献

- 『東北考古学の諸問題』「鈿帯と官位制について」阿部義平 1976年
『考古学雑誌56-1』「古代帯金具考」町田章 1970年
『考古学雑誌31-6』「上代帯金具考」齋藤忠 1941年
日本考古学協会1995年度茨城大会シンポジウム3 『地方官衙とその周辺』「官衙及び関連遺跡と腰帯」田中広明 1995年
『群馬考古学手帳 Vol.1』「鈿帯から見た律令制の一側面—群馬県終末期古墳出土の鈿帯から—」綿貫邦男 1990年

第Ⅵ章 遺物觀察表

遺物観察表 縄文時代

13号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
9 図 1 PL30	深鉢	埋甕	口 24.6 高 39.2 底 6.5	口縁部の円柱状の突起より橋状把手を付す。突起より沈線が横位に派生し、体部上下にU字状・逆U字状懸垂文を配す。縄文はR L縦位充填施文。底部は外反、やや上底。	①砂粒混 ②良好 ③明黄褐～黒褐色	加曾利 E IV ほぼ完形
9 図 2 PL30	両耳壺	床面	口 — 高 <19.8> 底 —	把手単位は2・4単位と思われる。橋状把手より細隆線が横位に派生し口縁部無文帯と画する。体部上半は2条の沈線による渦巻状モチーフが配される。縄文はR L充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利 E IV 肩～胴部
9 図 3 PL30	両耳壺	床面	口 — 高 — 底 —	橋状把手。2と同一個体。	同上	破片
9 図 4 PL30	深鉢	埋土	口 — 高 — 底 —	波状口縁。口縁部無文帯に摘突を施す。突起下胴部に細沈線を施す。縄文はR L縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐～黒褐色	加曾利 E IV 口縁部片
9 図 5 PL30	深鉢	埋土	口 — 高 — 底 —	口縁部を撫でによる無文帯部に刺突文を施す。胴部には沈線を施す。縄文はR Lを横位縦位に施文する。	①砂粒混 ②普通 ③黄褐色	加曾利 E IV 口縁部片
9 図 6 PL30	深鉢	埋土	口 — 高 — 底 —	口縁部に沈線を巡らし無文帯を画し、刺突列を施す。	①砂粒混 ②普通 ③黄褐色	加曾利 E IV 口縁部片
9 図 7 PL30	深鉢	床面	口 — 高 — 底 —	口縁部に沈線を巡らし無文帯を画し、胴部上半に沈線による懸垂文を配す。縄文はL R縦位充填施文。	①赤褐色粒混 ②普通 ③赤褐色	加曾利 E IV 口縁～肩部片
9 図 8 PL30	深鉢	床面	口 — 高 — 底 —	波状口縁。波長部の突起は欠損する。体部上半に沈線による区画を施す。縄文R Lを施文。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利 E IV 口縁部
9 図 9 PL30	把手	床面	口 — 高 — 底 —	橋状把手部分。2条の幅広沈線施文後、縄文L R縦位施文。	①砂粒混 ②良好 ③赤褐色	加曾利 E IV 把手
10 図 10 PL30	深鉢	床面	口 — 高 — 底 —	2条の沈線による懸垂文を配し、沈線間を磨消する。縄文はL R縦位充填施文。	①赤褐色粒混 ②普通 ③赤褐色	加曾利 E IV 胴部片
10 図 11 PL30	深鉢	埋土	口 — 高 <11.8> 底 —	胴部括れ部上下に沈線によるU字状・逆U字状懸垂文を配す。縄文R L縦位充填施文。無文部と内面は研磨される。	①砂粒混 ②良好 ③明褐色	加曾利 E IV 胴部
10 図 12 PL30	深鉢	床面	口 — 高 — 底 —	胴部。逆U字状懸垂文及び渦巻状(?)を配し、区画内に縄文R L縦位を充填する。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利 E IV 12・13は同一 胴部
10 図 13 PL30	深鉢	床面	口 — 高 <10.2> 底 —	底部付近。縄文R L縦位施文後、1 cm程の間隔で撫で行い、底部付近は研磨される。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利 E IV 胴部
10 図 14 PL30	深鉢	床面	口 — 高 — 底 —	2条の沈線を垂下する。沈線間を磨消する。縄文はR Lを横位縦位に施文する。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利 E IV 胴部片
10 図 15 PL30	深鉢	床面	口 — 高 — 底 —	2本の沈線を垂下する。沈線間を磨消する。縄文はR L縦位充填施文する。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利 E IV 胴部片
10 図 16 PL30	深鉢	埋土	口 — 高 — 底 —	内彎する体部上半。2本の沈線を垂下する。沈線画に縄文R L縦位を施文する。	①砂粒混 ②良好 ③橙色	加曾利 E IV 胴部片
10 図 17 PL30	深鉢	床面	口 — 高 — 底 —	細隆線を垂下し、縄文R L施文部と無文部を区画する。	①砂粒混 ②良好 ③明褐色	加曾利 E IV 胴部片
10 図 18 PL30	深鉢	埋土	口 — 高 — 底 —	細隆線を垂下し、縄文R L施文部と無文部を区画する。	①赤褐色粒混 ②普通 ③橙色	加曾利 E IV 胴部片

遺物観察表

10図 19 PL30	深鉢	床面	口 - 高 - 底 -	18と同一個体か。	①赤褐色粒混 ②普通 ③橙色	胴部片		
10図 20 PL30	深鉢	埋土	口 - 高 < 4.2 底 8.0	底部片。直立ぎみに立ち上がり、体部下半で強く開く。体部器厚及び底部中央の器厚薄い。底面外縁は平滑な撫でを施す。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	中期 底部1/2		
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)			石材	
10図 1	PL30	石鏃	埋土	長 1.9	幅 1.5	厚 0.6	重 1.5	チャート
10図 2	PL31	使用痕剥片	埋土	長 4.0	幅 1.6	厚 0.7	重 3.5	黒色頁岩
10図 3	PL31	使用痕剥片	床面	長 4.0	幅 1.2	厚 0.5	重 2.3	黒曜石
10図 4	PL31	打製石斧	〃	長 7.6	幅 4.6	厚 2.7	重 122.6	粗粒輝石安山岩
10図 5	PL31	敲石	〃	長 10.5	幅 7.3	厚 5.7	重 600.0	粗粒輝石安山岩
11図 6	PL31	敲石	埋土	長 17.1	幅 6.4	厚 5.6	重 800.0	粗粒輝石安山岩
11図 7	PL31	磨石	床面	長 9.3	幅 7.2	厚 4.8	重 400.0	粗粒輝石安山岩
11図 8	PL31	敲石・凹石	埋土	長 12.6	幅 8.4	厚 4.5	重 800.0	粗粒輝石安山岩
11図 9	PL31	敲石・凹石	〃	長 12.5	幅 8.2	厚 4.6	重 600.0	粗粒輝石安山岩
11図 10	PL31	敲石	床面	長 12.6	幅 8.1	厚 6.7	重 1.1kg	粗粒輝石安山岩
11図 11	PL31	敲石	埋土	長 8.4	幅 7.7	厚 2.8	重 200.0	粗粒輝石安山岩
11図 12	PL31	多孔石	床面	長 25.2	幅 20.1	厚 12.0	重 8.2kg	粗粒輝石安山岩
11図 13	PL31	多孔石	埋土	長 25.5	幅 16.5	厚 12.5	重 6.0kg	粗粒輝石安山岩
11図 14	PL31	多孔石	床面	長 37.5	幅 30.5	厚 14.3	重 24.9kg	粗粒輝石安山岩
12図 15	PL31	磨石	埋土	長 40.0	幅 25.0	厚 8.3	重 18.0kg	粗粒輝石安山岩
12図 16	PL31	磨石	〃	長 28.0	幅 41.2	厚 3.0	重 6.8kg	粗粒輝石安山岩

備考 使用痕剥片とは、使用痕のある剥片を指す

23号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
14図 1 PL31	両耳壺	床面	口 - 高 37.4 底 7.9	2単位の橋状把手は欠損する。肩部に隆線による楕円形区画文を施し撫でが沿う。区画内に縄文RL充填施文。口縁部・胴部は無文で研磨される。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅣ ほぼ完形
14図 2 PL31	鉢	床面	口 - 高 - 底 -	胴上部で大きく張り、頸部がしまつて口縁部が短く立ち上がる。肩部には小ぶりの橋状把手を持つ。胴部は頸部隆帯から派生する貼付による隆帯と幅広い沈線により渦巻モチーフを配す。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅣ 口縁～胴部
15図 3 PL31	深鉢	埋土	口 - 高 - 底 -	無文の口縁部。頸部に小突起を付す。以下に縄文LR縦位斜位に施文。	①大粒砂粒混 ②普通 ③明褐～黒褐色	加曾利EⅣ 口縁～胴部
15図 4 PL31	深鉢	埋土	口 - 高 - 底 -	無文の口縁部。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	称名寺 口縁部片
15図 5 PL31	深鉢	床面	口 - 高 - 底 -	無文の口縁部。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	称名寺 口縁部片
15図 6 PL32	深鉢	埋土	口 - 高 - 底 -	波状口縁。口縁部無文帯に橋状突起を施す。口縁部無文帯下に横位沈線を巡らす。以下に細沈線による分岐懸垂文か。縄文はRL縦位施文。	①砂粒混 ②普通 ③暗褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
15図 7 PL32	深鉢	埋土	口 - 高 - 底 -	波状口縁。口縁部に小突起を付し、突起下磨消部による逆U字状懸垂文か。縄文はRL縦位施文。	①砂粒混 ②普通 ③褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
15図 8 PL32	深鉢	床面	口 - 高 - 底 -	口縁部無文帯下に沈線を巡らし、胴部は沈線による逆U字状懸垂文を施す。縄文LR横位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利EⅣ 口縁～胴部
15図 9 PL32	深鉢	床面	口 - 高 - 底 -	緩やかな波状口縁。口縁部無文下に沈線を巡らし、口縁下に横位沈線、以下弧状沈線。縄文をLR施文。	①砂粒混 ②良好 ③赤褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
15図 10 PL32	深鉢	床面	口 - 高 - 底 -	波状口縁。口縁部無文下に横位細沈線を巡らし、胴部に逆U字文を施す。縄文はRL横位施文。	①砂粒混 ②普通 ③浅黄橙色	加曾利EⅣ 口縁部片
15図 11 PL32	深鉢	埋土	口 - 高 - 底 -	波状口縁。口縁部無文下に横位沈線を巡らす。縄文はLR横位施文。	①砂粒混 ②普通 ③黒褐色	加曾利EⅣ 口縁部片

第VI章 遺物観察表

15図 12 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	波状口縁。口縁部無文下に横位沈線を巡らす。沈線が分岐状に懸垂する。縄文はRL充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③黒褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
15図 13 PL32	深鉢	埋土	口 高 底	— — —	口縁部下に沈線を巡らし、胴部に弧状沈線を施す。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利EⅣ 口縁部片
15図 14 PL32	深鉢	埋土	口 高 底	— — —	口縁部無文下に沈線を巡らし、胴部に縄文RL横位施文。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利EⅣ 口縁部片
15図 15 PL32	深鉢	埋土	口 高 底	— — —	小波状口縁。口縁部直下の沈線によるモチーフの両端。	①砂粒混 ②普通 ③褐色	称名寺 口縁部片
15図 16 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	小波状口縁。口縁部無文下の隆線に凹線が沿う。口縁部区画は隆線による渦巻き意匠か。縄文はRLを横位縦位に施文。	①砂粒混 ②良好 ③明褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
15図 17 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	口縁部隆帯による区画で撫でが沿う。縄文はLR横位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明赤褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
15図 18 PL32	把手	埋土	口 高 底	— — —	小型の橋状把手。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	把手破片
15図 19 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	頸部。隆線に撫でが沿う。体部縄文はRL横位を施文。	①砂粒混 ②普通 ③黒褐色	加曾利EⅣ 胴部片
15図 20 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	3と同一個体。	①大粒砂粒混 ②普通 ③明褐～黒褐色	胴部片
15図 21 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— <7.5> —	胴部括れ部。括れ部上下にU字状・逆U字状モチーフを施す。縄文はLR縦位を充填施文。	①砂粒混 ②良好 ③明褐色	加曾利EⅣ 胴部片
15図 22 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	胴部。2条の沈線が垂下する。縄文はLR縦位斜位施文。	①大粒砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅣ
15図 23 PL32	深鉢	埋土	口 高 底	— — —	胴部。2条の沈線が垂下する。縄文はRL縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅣ 胴部片
15図 24 PL32	深鉢	埋土	口 高 底	— — —	胴部。弧状沈線。縄文はLR斜位施文。	①砂粒混 ②普通 ③赤褐色	加曾利EⅣ 胴部片
15図 25 PL32	深鉢	埋土	口 高 底	— — —	胴部。U字条沈線下端か。縄文はRL縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅣ 胴部片
15図 26 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	胴部。細沈線による渦巻文か。縄文はRL縦位充填施文。器厚は薄手。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	称名寺 胴部片
15図 27 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	胴部下半。垂下する沈線を乱雑に施文。縄文はLR縦位充填施文。	①砂粒混 ②良好 ③赤褐色	加曾利EⅣ 胴部片
15図 28 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	胴部。沈線による渦巻状モチーフ。縄文施文部と磨消部の交互施文。縄文はLR充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅣ 胴部片
16図 29 PL32	深鉢	床面	口 高 底	— — —	胴部。幅広沈線を垂下する。縄文はRL縦位施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅢ 胴部片
16図 30 PL32	深鉢	埋土	口 高 底	— — —	胴部。幅広沈線を垂下する。縄文はLR縦位施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅣ 胴部片
16図 31 PL32	深鉢	埋土	口 高 底	— — —	胴部。2条の細隆線を垂下し凹線が沿う。縄文はRL縦位施文。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利EⅢ 胴部片

16図 32 PL32	深鉢	埋土	口 - 高 - 底 -	胴部。2条の細沈線が垂下する。縄文はLR縦位施文。器厚薄手。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	称名寺 胴部片		
16図 33 PL32	深鉢	床面	口 - 高 - 底 -	胴部。隆帯に撫でが沿う。縄文RL充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EIV 胴部片		
16図 34 PL32	深鉢	埋土	口 - 高 - 底 -	胴部。櫛歯状工具による縦位波状集合沈線。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EIV 胴部片		
16図 35 PL32	深鉢	埋土	口 - 高 < 3.5> 底 (8.0)	無文底部。外反的に立ち上がる。底部中央部上底。器厚薄手。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	中期 底部片		
16図 36 PL32	深鉢	埋土	口 - 高 < 3.7> 底 (8.0)	無文底部。外反的に立ち上がる。胴部器厚薄手。	①赤褐粒混 ②普通 ③橙色	中期 底部片		
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)				石材
16図 1	PL32	石鏃	埋土	長 1.7	幅 1.4	厚 0.3	重 0.5	黒曜石
16図 2	PL32	スクレイパー	埋土	長 9.5	幅 4.2	厚 1.5	重 52.1	黒色頁岩
16図 3	PL32	スクレイパー	埋土	長 3.9	幅 3.9	厚 1.0	重 15.9	黒色安山岩
16図 4	PL32	スクレイパー	床面	長 5.7	幅 6.7	厚 1.4	重 32.3	粗粒輝石安山岩
16図 5	PL32	スクレイパー	床面	長 5.3	幅 7.0	厚 0.9	重 31.6	細粒輝石安山岩
16図 6	PL32	打製石斧	床面	長 6.2	幅 4.2	厚 1.4	重 45.1	黒色頁岩
16図 7	PL32	打製石斧	床面	長 13.5	幅 7.3	厚 3.7	重 327.3	黒色頁岩
16図 8	PL32	打製石斧	床面	長 9.7	幅 9.0	厚 3.7	重 330.5	細粒輝石安山岩
16図 9	PL32	スクレイパー	埋土	長 5.8	幅 6.9	厚 1.1	重 28.9	細粒輝石安山岩
16図 10	PL32	打製石斧	埋土	長 3.1	幅 4.3	厚 1.2	重 17.3	黒色頁岩
17図 11	PL33	磨製石斧	埋土	長 9.5	幅 5.4	厚 3.1	重 285.1	変玄武岩
17図 12	PL33	磨製石斧	床面	長 8.2	幅 4.6	厚 3.3	重 173.0	変質安山岩
17図 13	PL33	砥石	床面	長 8.4	幅 5.0	厚 1.4	重 37.4	二ツ岳軽石
17図 14	PL33	石棒?	床面	長 14.7	幅 13.8	厚 10.8	重 2.4kg	粗粒輝石安山岩
17図 15	PL33	敲石	床面	長 8.8	幅 9.0	厚 4.8	重 367.2	黒色頁岩
17図 16	PL33	磨石・敲石	床面	長 11.5	幅 6.5	厚 5.1	重 500.0	変質安山岩
17図 17	PL33	敲石	床面	長 12.2	幅 7.1	厚 5.3	重 700.0	粗粒輝石安山岩
17図 18	PL33	磨石	床面	長 12.2	幅 6.7	厚 4.5	重 600.0	粗粒輝石安山岩
17図 19	PL33	磨石	床面	長 16.5	幅 10.6	厚 6.3	重 1.4kg	粗粒輝石安山岩
17図 20	PL33	磨石	床面	長 17.6	幅 8.1	厚 6.8	重 1.4kg	粗粒輝石安山岩
18図 21	PL33	磨石	床面	長 27.7	幅 19.3	厚 8.0	重 6.7kg	粗粒輝石安山岩
18図 22	PL33	凹石・敲石	床面	長 12.3	幅 9.0	厚 5.5	重 900.0	粗粒輝石安山岩
18図 23	PL33	磨石	床面	長 12.8	幅 10.7	厚 5.0	重 900.0	粗粒輝石安山岩
18図 24	PL33	凹石・磨石	床面	長 12.8	幅 7.6	厚 3.6	重 500.0	粗粒輝石安山岩
18図 25	PL33	磨石	床面	長 9.1	幅 6.9	厚 6.3	重 500.0	粗粒輝石安山岩
18図 26	PL33	磨石	床面	長 13.1	幅 11.9	厚 8.5	重 1.9kg	粗粒輝石安山岩
18図 27	PL33	凹石	床面	長 24.3	幅 15.0	厚 12.0	重 6.9kg	粗粒輝石安山岩
18図 28	PL33	多孔石・磨石	床面	長 17.0	幅 16.0	厚 13.5	重 6.0kg	粗粒輝石安山岩
18図 29	PL33	多孔石	床面	長 27.0	幅 15.1	厚 10.2	重 5.5kg	粗粒輝石安山岩
18図 30	PL33	多孔石	床面	長 25.5	幅 17.7	厚 13.5	重 8.9kg	粗粒輝石安山岩
19図 31	PL33	石皿	埋土	長 15.0	幅 7.0	厚 4.2	重 700.0	緑色片岩
19図 32	PL33	石皿	埋土	長 16.0	幅 13.8	厚 7.5	重 1.5kg	粗粒輝石安山岩
19図 33	PL33	石皿	床面	長 25.5	幅 16.2	厚 6.7	重 3.6kg	粗粒輝石安山岩
19図 34	PL33	石皿	床面	長 33.4	幅 23.5	厚 11.5	重 10.9kg	粗粒輝石安山岩
19図 35	PL33	多孔石・石皿	床面	長 17.8	幅 27.0	厚 8.5	重 4.8kg	?

J-1号土坑周辺

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
22図 1 PL33	深鉢	標高 216.105m	口 - 高 10.0 底 3.9	胴部～底部。3条一単位の沈線を懸垂する。縄文はRL縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利EIV 胴～底部1/2
22図 2 PL33	深鉢	一括	口 - 高 - 底 -	口縁部肥厚。波状口縁。口縁下に1条の沈線が巡る。以下に細沈線が垂下する。縄文はLR縦位。内面色調黒色。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利EIV 口縁部片

第VI章 遺物観察表

22図 3 PL33	深鉢	一括	口 高 底	口縁部片。隆帯による口縁部区画。区画下端より隆帯2条を派生する。区画内に縄文施文か。	①砂粒多混 ②普通 ③にぶい黄橙色	加曾利EⅣ 胴部片		
22図 4 PL33	深鉢	一括	口 高 底	口縁部。隆帯による円形状の区画。縄文はR L横位施文。	①砂粒多混 ②普通 ③橙色	加曾利EⅣ 胴部片		
22図 5 PL34	深鉢	標高 216.25m	口 高 底	口縁部直下。口縁部隆帯に凹線が沿う。縄文はR L横位施文。	①砂粒多混 ②普通 ③褐灰色	加曾利EⅣ 胴部片		
22図 6 PL34	深鉢	標高 216.23m	口 高 底	胴部。2条の沈線が垂下する。縄文はL R縦位斜位充填施文。磨消部の研磨顕著。	①大粒砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利EⅣ 胴部片		
22図 7 PL34	深鉢	標高 216.26m	口 高 底	胴部。沈線が垂下する。縄文はR L縦位充填施文。	①赤褐粒混 ②普通 ③橙色	加曾利EⅣ 胴部片		
22図 8 PL34	深鉢	標高 216.41m	口 高 底	胴部。6と同一個体。	①大粒砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利EⅣ 胴部片		
22図 9 PL34	深鉢	標高 216.365m	口 高 底	胴部。2条の沈線が垂下する。縄文はR L縦位充填施文。やや薄手。	①砂粒少混 ②良好 ③明褐色	加曾利EⅣ 胴部片		
23図 10 PL34	深鉢	標高 216.235m	口 高 底	胴部。沈線が垂下する。縄文はL R斜位。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利EⅣ 胴部片		
23図 11 PL34	深鉢	標高 216.295m	口 高 底	胴部。沈線が垂下する。縄文はR L縦位。薄手。	①砂粒少混 ②普通 ③明褐色	加曾利EⅣ 胴部片		
23図 12 PL34	深鉢	一括	口 高 底	胴部。弧状の沈線を施す。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利EⅣ 胴部片		
23図 13 PL34	深鉢	標高 216.30m	口 高 底	胴部。細沈線による渦巻条モチーフか。施文部と磨消部を区画する。縄文はR L縦位充填施文。	①砂粒少混 ②普通 ③明褐色	称名寺 胴部片		
23図 14 PL34	深鉢	標高 216.295m	口 高 底	胴部。垂下する細隆線に撫でが沿う。縄文はL R縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利EⅣ 胴部片		
23図 15 PL34	深鉢	標高 216.415m	口 高 底	胴部下端。2条の沈線が懸垂する。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	称名寺 胴部片		
23図 16 PL34	深鉢	一括	口 高 底	胴部。2条の沈線を垂下する。	①砂粒少混 ②普通 ③赤褐色	胴部片		
23図 17 PL34	深鉢	標高 216.425m	口 高 底	底部。底部僅かに突出し、緩やかに立ち上がる。内外面ともに研磨。	①砂粒多混 ②普通 ③明褐～黒褐色	底部		
23図 18 PL34	深鉢	標高 216.41m	口 高 底	底部。底部突出し、強く開く。垂下沈線の下端を看取できる。	①大粒砂粒混 ②普通 ③明褐色	底部1/2		
23図 19 PL34	耳栓	一括	口 高 底	鼓状。沈線による渦巻文を施す。反対面は小径で無文。全体を研磨する。	①砂粒混 ②良好 ③赤褐色	中期		
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値(単位 cm、g)				石材
23図 1	PL34	石鏃	一括	長 1.0	幅 1.2	厚 0.25	重 0.2	黒曜石
23図 2	PL34	スクレイパー	標高 216.27m	長 9.6	幅 5.0	厚 2.0	重 58.2	黒色頁岩
23図 3	PL34	打製石斧	一括	長 7.2	幅 4.7	厚 1.7	重 73.2	細粒輝石安山岩

J-2号土坑周辺

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
24図 1 PL34	深鉢	標高 216.30m	口 24.4 高 29.4 底 8.2	波状口縁。胴部に括れを持ち、口縁部へ大きく広がり内彎する。波頂部から派生する隆帯により文様構成する。縄文R Lを充填施文。	①砂粒混 ②良好 ③黒褐色	加曾利E IV 口縁～底部2/3
24図 2 PL34	深鉢	標高 216.21m	口 — 高 <52.4> 底 (32.9)	口縁部に隆帯と沈線で区画文を構成し、区画内を縄文R Lで充填する。胴部逆U字状沈線を施し、沈線頂部に指頭程の窪みを施す。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 口縁～胴部
25図 3 PL34	注口鉢	標高 216.31m	口 (29.8) 高 <14.4> 底 —	波状口縁を呈し内彎する。波頂部に凹口を持つ。口縁部に沈線を施し、胴部に縄文R Lを充填する。波頂部及び注口部に赤色塗彩を施す。	①砂粒少混 ②良好 ③明黄褐～黒褐色	加曾利E IV 口縁～胴部
25図 4 PL34	注口鉢	標高 216.47m	口 — 高 — 底 —	注口部。口縁注口部から横位細沈線を施す。端部磨減する。	①褐色粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 注口部片
25図 5 PL34	深鉢	一括	口 — 高 — 底 —	波状口縁。円柱状の突起より橋状把手を付す。口縁下に1条の横線が巡り、胴部は横線より分岐懸垂文。縄文はL R・R L縦位施文による縦位矢羽状構成。	①砂粒少混 ②普通 ③灰褐色	加曾利E IV 口縁部片
25図 6 PL34	深鉢	標高 216.47m	口 13.5 高 <6.5> 底 —	波状口縁。円柱状の突起より橋状把手を付す。口縁下に1条の隆線が巡る。縄文はR L横位施文。	①砂粒少混 ②普通 ③にぶい褐色	加曾利E IV 口縁部片
25図 7 PL34	深鉢	標高 216.41m	口 — 高 — 底 —	口縁突起部。口唇部端部に1条の沈線を施す。	①赤褐粒混 ②普通 ③灰褐色	加曾利E IV 口縁部片
25図 8 PL34	深鉢	標高 216.21m	口 — 高 — 底 —	口縁部器厚。細隆帯と沈線による口縁部区画。区画内はR L縄文を施文する。	①砂礫粒混 ②普通 ③橙～黒褐色	加曾利E III 口縁部片
25図 9 PL34	深鉢	標高 216.30m	口 — 高 — 底 —	口縁下に1条の沈線が巡り、以下に弧状沈線を施す。縄文はL R横位充填施文。磨消部は研磨する。	①砂粒混 ②普通 ③橙～黒褐色	加曾利E IV 口縁部片
25図 10 PL34	深鉢	標高 216.31m	口 — 高 — 底 —	波状口縁。口縁下に1条の沈線を巡らす。胴部に2条の沈線を弧状に施す。縄文はR L横位縦位に施文。	①赤褐粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 口縁部片
25図 11 PL35	深鉢	標高 216.27m	口 — 高 — 底 —	波状口縁。口縁下に横線を巡らす。波頂部下に逆U字状の沈線によるモチーフを施す。	①砂粒混 ②普通 ③明赤褐色	加曾利E IV 口縁部片
25図 12 PL35	深鉢	一括	口 — 高 — 底 —	緩やかな波状口縁。口縁下に1条の沈線を巡らす。縄文はL R横位。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 口縁部片
25図 13 PL35	深鉢	一括	口 — 高 — 底 —	口唇部角頭。口縁下に1条の沈線を施し、以下に沈線によるJ字状モチーフを配す。縄文はL R縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 口縁部片
25図 14 PL35	深鉢	標高 216.18m	口 — 高 — 底 —	口縁下に強い撫でによる外稜を付す。以下に2条の沈線による渦巻状モチーフを配す。縄文はR L縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③黒褐色	加曾利E IV 口縁～胴部
25図 15 PL35	深鉢	一括	口 — 高 — 底 —	口縁下著しい内彎。波状口縁。口縁下に沈線を巡らし、胴部に2条の沈線により施文部と磨消部を画す。縄文はR L縦位充填施文。	①砂粒少混 ②普通 ③橙色	称名寺 口縁～胴部
25図 16 PL35	深鉢	標高 216.45m	口 — 高 — 底 —	波状口縁。口縁下に1条の沈線を巡らす。以下沈線により施文部と磨消部を画す。縄文はL R横位縦位充填施文。	①砂粒少混 ②普通 ③明黄褐色	称名寺 口縁部片
26図 17 PL35	深鉢	標高 216.08m	口 — 高 — 底 —	口縁部肥厚。細隆線を口縁部に施し、2条の隆線を垂下させる。縄文はL R横位斜位充填施文。	①砂粒多混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 口縁部片
26図 18 PL35	深鉢	一括	口 — 高 — 底 —	口縁部肥厚。口縁下に1条の隆帯を付す。	①砂粒多混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 口縁部片
26図 19 PL35	深鉢	標高 216.45m	口 — 高 — 底 —	頸部隆線に撫でが沿う。体部縄文はL R縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利E IV 胴部片

第VI章 遺物観察表

26図 20 PL35	深鉢	標高 216.37m	口 高 底	— — —	体部横位隆線に撫でが沿う。上位に縄文R L横位、下半に縦位集合条線。	①砂粒混 ②普通 ③暗褐色	加曾利E IV 胴部片
26図 21 PL35	深鉢	標高 216.38m	口 高 底	— — —	口縁下の細隆線に撫でが沿う。以下に細隆線より分岐する弧状隆線を施す。縄文はR L横位。	①赤褐砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利E IV 胴部片
26図 22 PL35	深鉢	一括	口 高 底	— — —	口縁部肥厚帯に刺突文を施す。	①砂粒混 ②普通 ③赤褐色	加曾利E IV 口縁部片
26図 23 PL35	深鉢	標高 216.49m	口 高 底	— — —	胴部。2条の細隆線に凹線が沿い、渦巻状モチーフを配す。縄文はL R縦位充填施文を主とする。器厚厚手。	①砂粒多混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 胴部片
26図 24 PL35	深鉢	標高 216.18m	口 高 底	— — —	胴部。雑な垂下沈線を施す。縄文はL R縦位。器厚厚手。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利E III 胴部片
26図 25 PL35	深鉢	標高 216.29m	口 高 底	— — —	胴部。U字状沈線を施す。縄文はL R縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 胴部片
26図 26 PL35	深鉢	標高 216.39m	口 高 底	— — —	胴部。2条の細隆線を垂下し撫でが沿う。縄文はR Lを乱雑に施す。	①赤褐砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 胴部片
26図 27 PL35	深鉢	標高 216.51m	口 高 底	— — —	26と同一個体。	同上	胴部片
26図 28 PL35	深鉢	標高 216.44m	口 高 底	— — —	26と同一個体。	同上	胴部片
26図 29 PL35	深鉢	標高 216.28m	口 高 底	— — —	胴部。分岐懸垂文。肩部内彎。縄文R L縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③赤褐色	加曾利E IV 胴部片
26図 30 PL35	深鉢	標高 216.44m	口 高 底	— — —	胴部。横位沈線以下弧状沈線を施す。地文縄文R L。	①砂粒混 ②普通 ③赤褐色	加曾利E IV 胴部片
26図 31 PL35	深鉢	標高 216.46m	口 高 底	— — —	胴部上半。逆U字状沈線を施す。縄文はL R縦位。	①砂粒混 ②良好 ③黒褐色	加曾利E IV 胴部片
27図 32 PL35	深鉢	標高 216.23m	口 高 底	— — —	胴部。逆U字状沈線を施す。縄文はL R縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 胴部片
27図 33 PL35	深鉢	一括	口 高 底	— — —	胴部上半。弧状沈線を施す。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利E IV 肩部片
27図 34 PL35	深鉢	一括	口 高 底	— — —	胴部。1本書き沈線による施文部と磨消部。縄文はL R斜位。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	称名寺 胴部片
27図 35 PL35	深鉢	一括	口 高 底	— — —	胴部下半部。沈線を垂下する。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 胴部片
27図 36 PL35	深鉢	標高 216.46m	口 高 底	— < 6.8 —	胴部上半部。沈線による分岐懸垂文。縄文はL R縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利E IV 胴部片
27図 37 PL35	深鉢	標高 216.30m	口 高 底	— — —	胴部。2条の沈線を垂下する。縄文はL R縦位。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利E IV 胴部片
27図 38 PL36	深鉢	標高 216.29m	口 高 底	— — —	胴部。2条の沈線を垂下する。縄文はL R縦位。	①砂粒混 ②普通 ③明赤褐色	加曾利E IV 胴部片
27図 39 PL36	深鉢	標高 216.19m	口 高 底	— — —	胴部。2条の沈線を垂下する。縄文はL R縦位。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利E IV 胴部片

遺物観察表

27図 40 PL36	深鉢	一括	口 - 高 - 底 -	胴部。2条の沈線を垂下する。縄文はLR縦位。	①赤褐粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利E IV 胴部片		
27図 41 PL36	深鉢	標高 216.34m	口 - 高 - 底 -	胴部。櫛歯状工具による縦位集合条線。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利E IV 胴部片		
27図 42 PL36	深鉢	標高 216.30m	口 - 高 - 底 -	胴部。櫛歯状工具による縦位集合条線。	①砂粒混 ②普通 ③にぶい褐色	加曾利E IV 胴部片		
27図 43 PL36	深鉢	一括	口 - 高 - 底 -	胴部。櫛歯状工具による縦位集合条線。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利E IV 胴部片		
27図 44 PL36	深鉢	標高 216.40m	口 - 高 - 底 -	胴部。櫛歯状工具による縦位集合条線。	①砂粒混 ②普通 ③明赤褐色	加曾利E IV 胴部片		
27図 45 PL36	深鉢	一括	口 - 高 - 底 -	胴部下端。2条の沈線が懸垂する。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利E IV 底部片		
27図 46 PL36	深鉢	標高 216.54m	口 - 高 > (5.2) 底 (5.8)	底部。高台を付し、底部中央部上底。直立ぎみに立上がる。器厚底部中央薄手。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	底部片		
27図 47 PL36	深鉢	標高 216.41m	口 - 高 > (6.5) 底 8.4	底部。底面撫で。立ち上がりは大きく開く。胴部に懸垂文を施し縄文を施文する。縄文無節か。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	底部片		
27図 48 PL36	深鉢	一括	口 - 高 - 底 -	口縁部。外面赤色塗彩。	①砂粒混 ②良好 ③赤褐色	口縁部片		
27図 49 PL36	土製円盤	一括	口 - 高 - 底 -	径2.2cmの円形を呈し、上面に縄文施文の土器片使用。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	飾り部		
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)				石材
28図 1	PL36	加工痕剥片	一括	長 2.0	幅 2.5	厚 0.9	重 4.3	黒曜石
28図 2	PL36	スクレイパー	一括	長 1.8	幅 3.4	厚 1.0	重 3.3	黒曜石
28図 3	PL36	スクレイパー	一括	長 3.4	幅 4.9	厚 1.1	重 19.1	珪質頁岩
28図 4	PL36	スクレイパー	標高 216.38m	長 11.3	幅 6.3	厚 1.9	重 119.9	黒色頁岩
28図 5	PL36	スクレイパー	標高 216.49m	長 6.0	幅 3.9	厚 1.15	重 32.2	黒色頁岩
28図 6	PL36	打製石斧	標高 216.53m	長 8.7	幅 5.0	厚 1.4	重 65.5	黒色頁岩
28図 7	PL36	打製石斧	標高 216.22m	長 4.5	幅 7.1	厚 1.3	重 47.8	細粒輝石安山岩
28図 8	PL36	磨製石斧	標高 216.38m	長 5.2	幅 3.7	厚 1.4	重 36.5	蛇紋岩
28図 9	PL36	多孔石	標高 216.51m	長 16.5	幅 9.4	厚 6.6	重 900.0	粗粒輝石安山岩

備考 加工痕剥片とは、加工痕のある剥片を指す

1号埋甕

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
29図 1 PL36	深鉢	標高 216.13m	口 - 高 < (21.9) 底 8.4	胴部～底部。逆U字状沈線を施す。沈線間に縄文RLを充填する。	①砂粒少混 ②普通 ③明褐色	加曾利E IV 胴部～底部2/3
29図 2 -	深鉢	標高 216.13m	口 - 高 - 底 -	胴部。口縁部に沈線を巡らせ、体上半に波状文を施す。沈線区画内に縄文LRを充填する。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利E IV 破片
29図 3 -	深鉢	標高 216.13m	口 - 高 - 底 -	胴部。胴下半部に懸垂文を施す。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利E IV 破片

第VI章 遺物観察表

縄文グリッド

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
30図 1 PL36	深鉢	97区 Q-4	口 - 高 - 底 -	口縁部。櫛歯状工具による横位沈線内に刺突文を施す。	①繊維 ②良好 ③明黄褐色	前期初頭 口縁部片
30図 2 PL36	深鉢	98区 E-1	口 - 高 - 底 -	波状口縁部。口唇部角頭。棒状工具による刺突。	①繊維・砂粒混 ②良好 ③明赤褐色	前期初頭 口縁部片
30図 3 PL36	深鉢	97区 T-2	口 - 高 - 底 -	胴部。連続刺突文。	①繊維多混 ②普通 ③明黄褐色	前期初頭 破片
30図 4 PL36	深鉢	98区 C-1	口 - 高 - 底 -	口縁部角頭。縄文Rℓ・L附加条第1種。	①繊維混 ②普通 ③明褐色	黒浜併行 口縁部片
30図 5 PL36	深鉢	98区 C-1	口 - 高 - 底 -	口縁部。縄文Rℓ・L附加条第1種。	①繊維混 ②普通 ③明褐色	黒浜併行 口縁部片
30図 6 PL36	深鉢	98区 E-1	口 - 高 - 底 -	無文口縁部。	①繊維混 ②普通 ③明褐色	黒浜併行 破片
30図 7 PL36	深鉢	98区 D-2	口 - 高 - 底 -	胴部。縄文無節L横位。	①繊維混 ②普通 ③明褐色	黒浜併行 破片
30図 8 PL36	深鉢	97区 R-2	口 - 高 - 底 -	胴部。縄文Rℓ・L附加条第1種。	①繊維混 ②普通 ③明赤褐色	黒浜併行 破片
30図 9 PL36	深鉢	90区 G-9	口 - 高 - 底 -	胴部。縄文RL・LRの羽状構成。	①繊維混 ②普通 ③にぶい褐色	破片
30図 10 PL36	深鉢	97区 R-2	口 - 高 - 底 -	胴部。縄文RL横位。	①繊維混 ②普通 ③橙色	諸磯a 破片
30図 11 PL36	深鉢	90区 H-9	口 - 高 - 底 -	胴部。斜位の刻みが付く浮線文を横位・斜位に施す。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	諸磯b 破片
30図 12 PL37	深鉢	88区 S-18	口 - 高 - 底 -	胴部。3・4単位の横位波状沈線。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	諸磯b 破片
30図 13 PL37	深鉢	98区 表土	口 - 高 - 底 -	胴部。縄文RL横位。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	諸磯b 破片
30図 14 PL37	深鉢	98区 B-2	口 - 高 - 底 -	胴部。半載竹管による波状沈線と連続刺突文。	①砂粒混 ②普通 ③明赤褐色	諸磯b 破片
30図 15 PL37	深鉢	89区 B-16	口 - 高 - 底 -	胴部。縦位集合沈線。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	諸磯b新 破片
30図 16 PL37	深鉢	88区 O-17	口 - 高 - 底 -	胴部。縄文RL横位の結節。	①砂粒混 ②普通 ③明赤褐色	前期末 破片
30図 17 PL37	深鉢	88区 K-20	口 - 高 - 底 -	胴部。横位隆帯に押圧を付す。縄文LR横位。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	中期中葉 破片
30図 18 PL37	深鉢	88区 L-18	口 - 高 - 底 -	胴部。隆線を垂下する。上位に渦巻状モチーフを付すか。縄文RL横位。磨消部研磨する。	①砂粒混 ②良好 ③明赤褐色	加曾利EⅢ 破片
30図 19 PL37	深鉢	89区 B-17	口 - 高 - 底 -	胴部。2条の隆線による渦巻文構成か。縄文LR縦位。	①砂粒多混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅢ 破片

遺物観察表

30図 20 PL37	深鉢	89区 B-17	口 - 高 - 底 -	胴部。凹線による区画。凹による円文を付す。縄文R L縦位充填施文。	①砂粒混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅢ 破片
30図 21 PL37	深鉢	90区 B-12	口 - 高 - 底 -	口縁部。縄文R Lを乱雑に施文。	①大粒砂粒混 ②良好 ③明赤褐色	加曾利EⅢ 口縁部片
30図 22 PL37	深鉢	88区 P-18	口 - 高 - 底 -	口縁部。縄文R L・L Rを縦位横位に施文。	①砂粒混 ②普通 ③明赤褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
30図 23 PL37	深鉢	88区 S-18	口 - 高 - 底 -	口縁部。小径の口縁。縄文R L縦位施文。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
30図 24 PL37	深鉢	89区 C-15	口 - 高 - 底 -	口縁部。口縁無文下に1条の沈線を巡らす。以下に沈 線による渦巻文構成か。縄文はR L縦位横位充填施文。	①砂粒混 ②良好 ③明赤褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
31図 25 PL37	深鉢	89区 B-14	口 - 高 - 底 -	胴部。櫛歯状工具による縦位波状集合条線。	①砂粒多混 ②普通 ③明黄褐色	加曾利EⅣ 破片
31図 26 PL37	深鉢	88区 P-18	口 - 高 - 底 -	胴部。櫛歯状工具による縦位集合条線。	①砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利EⅣ 破片
31図 27 PL37	深鉢	89区 B-17	口 - 高 - 底 -	波状口縁。口縁下に1条の隆線を巡らし、胴部には沈 線を分岐状に懸垂する。縄文はR L縦位充填施文。	①大粒砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利EⅣ 口縁部片
31図 28 PL37	深鉢	89区 B-16	口 - 高 - 底 -	波状口縁。口縁無文部に連続刺突文を施し、口縁無文 下に1条の沈線を巡らし、胴部に弧状沈線を配す。縄 文はL R横位縦位充填施文。	①砂粒混 ②良好 ③明赤褐色	称名寺 口縁部片
31図 29 PL37	深鉢	88区 T-17	口 - 高 - 底 -	波状口縁。口縁無文下に横位沈線を配し、斜位沈線を 派生する。縄文はL R横位施文。	①砂粒混 ②普通 ③橙色	称名寺 口縁部片
31図 30 PL37	深鉢	88区 表土一括	口 - 高 < 4.3> 底 -	底部。高台を付す。外反ぎみに立ち上がる。	①砂粒混 ②良好 ③明褐色	中期 底部片
31図 31 PL37	深鉢	表土	口 - 高 < 4.0> 底 5.6	底部。立ち上がり外反。底面研磨。	①砂粒少混 ②良好 ③橙色	中期 底部
31図 32 PL37	深鉢	表土	口 - 高 < 4.3> 底 5.5	底部。上底。立ち上がりは緩やかに外反。	①砂粒混 ②良好 ③褐色	中期 底部
31図 33 PL37	深鉢	89区 B-16	口 - 高 - 底 -	胴部。集合沈線による三角形文様構成。	①微砂粒混 ②良好 ③明褐色	堀之内Ⅱ 破片
31図 34 PL37	深鉢	ローム上面	口 - 高 - 底 -	口縁部。外面は無文で、内面に平行沈線による内文を 施す。	①微砂粒混 ②良好 ③暗褐色	加曾利B 1 口縁部片
31図 35 PL37	深鉢	88区 O-17	口 - 高 - 底 -	胴部。矢羽状沈線文を施す。	①砂粒混 ②普通 ③褐色	加曾利B 破片
31図 36 PL37	深鉢	88区 Q-18	口 - 高 - 底 -	胴部。矢羽状沈線文を施す。内面黒色。	①微砂粒混 ②普通 ③明褐色	加曾利B 破片
31図 37 PL37	深鉢	98区 D-1	口 - 高 - 底 -	胴部。矢羽状沈線文を施す。	①微砂粒混 ②粗製 ③明褐色	加曾利B 破片
31図 38 PL37	深鉢	88区 Q-17	口 - 高 - 底 -	胴部。矢羽状沈線文を施す。	①微砂粒混 ②普通 ③橙色	加曾利B 破片
31図 39 PL37	深鉢	88区 O-18	口 - 高 - 底 -	胴部。矢羽状沈線文を施す。	①砂粒混 ②普通 ③褐色	加曾利B 胴部片

第VI章 遺物観察表

31図 40 PL37	深鉢	98区 C-1	口 - 高 - 底 -	胴部。小円と2条の沈線により文様構成する。縄文はLR横位施文。磨消部研磨。	①砂粒混 ②良好 ③明赤褐色	加曾利B 胴部片		
31図 41 PL37	深鉢	98区 D-1	口 - 高 - 底 -	波状口縁。口縁部は2条の横位沈線がめぐり、刻みの入った微隆帯で区画する。波頂部下微隆帯に横瘤を付す。胴部矢羽状沈線文か。	①砂粒少混 ②良好 ③褐色	高井東式 破片		
31図 42 PL38	深鉢	98区 D-1	口 - 高 - 底 -	41と同一個体。波状口縁波底部か。口唇から縦瘤を付す。	同上	破片		
31図 43 PL38	深鉢	88区 L-18	口 - 高 < 3.6 底 (5.4)	底部。立ち上がりは大きく開く。底部圧痕は網代による。	①砂粒多混 ②良好 ③明赤褐色	後期 底部片		
31図 44 PL38	土製品	88区 F-20	口 - 高 - 底 -	突起部か。	①砂粒混 ②良好 ③黒褐色			
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)				石材
32図 1	PL38	磨製石鏃(弥生)	88区 D-18	長 2.8	幅 1.0	厚 0.2	重 0.5	蛇紋岩
32図 2	PL38	スクレイパー	88区 K-19	長 2.6	幅 3.4	厚 0.8	重 6.6	黒色頁岩
32図 3	PL38	スクレイパー	88区 L-18	長 4.1	幅 7.0	厚 1.5	重 40.0	黒色頁岩
32図 4	PL38	石棒	88区 L-19	長 8.2	幅 5.1	厚 4.6	重 222.7	粗粒輝石安山岩
32図 5	PL38	磨製石斧	88区 N-18	長 13.7	幅 4.5	厚 2.8	重 238.8	変玄武岩
32図 6	PL38	磨製石斧	88区 N-18	長 8.1	幅 4.4	厚 2.1	重 110.3	変質蛇紋岩
32図 7	PL38	石鏃	88区 O-17	長 3.0	幅 2.3	厚 0.8	重 5.6	黒色安山岩
32図 8	PL38	加工痕剥片	88区 O-18	長 2.2	幅 4.0	厚 0.9	重 6.6	珩質頁岩
32図 9	PL38	ドリル	88区 O-18	長 3.3	幅 2.8	厚 0.4	重 4.6	頁岩
32図 10	PL38	サイドスクレイパー	88区 O-18	長 9.5	幅 3.5	厚 0.8	重 16.0	ホルンフェルス
32図 11	PL38	サイドスクレイパー	88区 O-18	長 8.3	幅 4.7	厚 1.1	重 36.0	黒色頁岩
32図 12	PL38	打製石斧	88区 O-18	長 6.1	幅 4.3	厚 1.6	重 49.0	黒色頁岩
33図 13	PL38	敲石	88区 O-18	長 8.1	幅 4.6	厚 2.0	重 131.1	黒色片岩
33図 14	PL38	砥石	88区 O-18	長 8.0	幅 3.2	厚 2.3	重 73.0	砥沢石
33図 15	PL38	石鏃	88区 O-19	長 2.2	幅 1.3	厚 0.4	重 1.0	黒色安山岩
33図 16	PL38	加工痕剥片	88区 P-17	長 3.3	幅 0.9	厚 0.5	重 1.3	黒曜石
33図 17	PL38	使用痕剥片	88区 Q-17	長 5.2	幅 4.5	厚 1.7	重 46.9	黒色頁岩
33図 18	PL38	石鏃	88区 Q-18	長 1.6	幅 0.8	厚 0.3	重 0.4	黒曜石
33図 19	PL38	スクレイパー	88区 R-18	長 4.2	幅 6.0	厚 1.1	重 23.0	黒色頁岩
33図 20	PL38	敲石	88区 R-18	長 17.7	幅 7.6	厚 5.1	重 900.0	粗粒輝石安山岩
33図 21	PL38	石棒	88区 R-18	長 7.7	幅 6.0	厚 3.2	重 193.6	緑色片岩
33図 22	PL38	石匙	88区 S-17	長 5.2	幅 5.0	厚 1.2	重 18.6	黒色頁岩
33図 23	PL38	石鏃	88区 T-17	長 2.1	幅 2.1	厚 0.4	重 1.4	黒色安山岩
34図 24	PL38	石鏃	88区 T-18	長 4.0	幅 1.5	厚 0.4	重 2.0	黒色頁岩
34図 25	PL38	石匙	88区 表土	長 4.9	幅 4.0	厚 0.8	重 16.1	黒色頁岩
34図 26	PL38	スクレイパー	88区 表土	長 7.0	幅 2.6	厚 0.8	重 14.7	砂岩
34図 27	PL38	スクレイパー	88区 表土一括	長 1.8	幅 2.2	厚 0.7	重 2.3	黒曜石
34図 28	PL38	砥石	88区 表土一括	長 8.5	幅 2.8	厚 2.5	重 106.3	砥沢石
34図 29	PL38	磨石	98区 G-1	長 12.5	幅 7.3	厚 3.4	重 452.0	粗粒輝石安山岩
34図 30	PL38	打製石斧	89区 A-17	長 5.0	幅 4.5	厚 1.5	重 45.3	細粒輝石安山岩
34図 31	PL38	石鏃	89区 B-16	長 2.5	幅 1.0	厚 0.4	重 0.7	黒曜石
34図 32	PL38	打製石斧	89区 B-16	長 8.0	幅 5.5	厚 2.5	重 119.8	粗粒輝石安山岩
34図 33	PL38	石鏃	89区 表土	長 1.7	幅 1.2	厚 0.3	重 0.3	黒曜石
34図 34	PL38	使用痕剥片	89区 表土	長 2.9	幅 2.5	厚 1.4	重 9.1	黒曜石
34図 35	PL38	打製石斧	東区 表土	長 5.2	幅 4.9	厚 1.5	重 41.3	珩質頁岩

備考 使用痕剥片とは、使用痕のある剥片を指す
加工痕剥片とは、加工痕のある剥片を指す

遺物観察表 奈良・平安時代以降

2号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
37図 1 PL39	土師器坏	貯蔵穴 底面 20cm	口 12.5 高 2.9 底 -	丸底 口縁部ほぼ直立 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 雲母少含 ②酸化焰③明褐色	ほぼ完形
37図 2 PL39	土師器甕	貯蔵穴 底面 17cm	口 (23.0) 高 < 5.5 底 -	口縁「コ」の字状に外反 胴張る 外面：口縁部ナデ	①雲母多含 ②酸化焰 ③淡橙色	口縁部1/4
37図 3 PL39	土師器甕	カマド 床面 - 1 cm	口 (19.8) 高 < 3.8 底 -	口縁「コ」の字状に外反 口唇部に沈線 外面：口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 頸部ヘラナデ	①白色微細粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部1/4
37図 4 PL39	土師器甕	床上 14cm	口 (21.0) 高 < 6.2 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：口縁部ナデ 胴部上半横位ヘラ削り 内面：口縁・頸部ナデ	①雲母含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部1/6
37図 5 PL39	土師器甕	床上 7 cm	口 - 高 < 5.4 底 (4.6)	外面：胴下半部斜縦位ヘラ削り 煤で汚れる 内面：胴下半部ナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③褐色	底部2/3
37図 6 PL39	須恵器蓋	カマド 床上 21cm	端 13.5 高 3.1 摘 3.5	ロクロ右回転 摘 輪状 端部折り曲げて直立気味 外面：天井部過半くらいまで回転ヘラ削り	①細砂粒 黒色鉍 物 ②還元焰 ③灰色	ほぼ完形
37図 7 PL39	須恵器蓋	床上 22cm	端 (13.8) 高 < 3.2 摘 (4.0)	ロクロ右回転 摘 輪状 端部折り曲げて直立気味 外面：天井部過半くらいまで回転ヘラ削り	①粗砂粒 黒色鉍 物多含・白色微粒 含②還元焰③灰色	摘～端部1/3
37図 8 PL39	須恵器蓋	カマド 床上 7 cm	端 (14.7) 高 < 2.0 摘 -	ロクロ右回転 端部折り曲げて直立気味 外面：天井部過半くらいまでヘラ削り	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③淡黄色	端部片
37図 9 PL39	須恵器坏	床上 21cm	口 (11.8) 高 < 3.6 底 (7.5)	ロクロ右回転 口縁部直線的に立ち上がる 底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	①細砂粒 黒色鉍 物・白色微粒含 ②還元焰③灰色	口縁～底部1/5

3号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
38図 1 PL39	土師器坏	埋土	口 (12.2) 高 < 2.2 底 -	丸底 口縁部直立気味 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 底部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 白色鉍 物含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
38図 2 PL39	土師器甕	埋土	口 (18.6) 高 < 5.7 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①粗砂粒 雲母・ 白色鉍物含 ②酸 化焰 ③明赤褐色	口縁部片

9号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
41図 1 PL39	土師器坏	貯蔵穴 底面 15cm	口 11.7 高 3.4 底 8.0	平底 口縁部直線的に開く 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 白色鉍 物含 ②酸化焰 ③明赤褐色	ほぼ完形
41図 2 PL39	土師器坏	埋土	口 (13.8) 高 < 3.1 底 -	丸底 彎曲 口縁部との境に段を有する 口縁部外反気味に開く 外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	口縁～底部小片
41図 3 PL39	土師器坏	埋土	口 (11.0) 高 < 2.5 底 -	丸底 口縁部垂直に立ち上がる 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
41図 4 PL39	土師器坏	埋土	口 (13.0) 高 < 2.8 底 (9.3)	平底 口縁部直線的に開く 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁～底部小片

第VI章 遺物観察表

41図 5 —	土師器坏	埋土	口 (12.6) 高 < 3.7) 底 (8.1)	器肉厚 平底 口縁部直線的に開く 外面：底部～体部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口縁～底部小片
41図 6 PL39	土師器 台付甕	床上 33cm	口 — 脚高 < 2.9) 脚底 —	高台 外面：高台貼付後斜位ヘラナデ 内面：ヘラ (大) ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③橙色	台部
41図 7 PL39	土師器甕	床上 7 cm	口 (21.0) 高 < 21.1) 底 —	口縁「コ」の字状に外反 胴上最大径 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③明褐色	口縁部
41図 8 PL39	土師器甕	カマド 床面 — 4 cm	口 (21.8) 高 < 10.0) 底 —	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 下半部斜縦位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	口縁部
41図 9 —	土師器甕	埋土	口 (19.8) 高 < 4.2) 底 —	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部斜横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	口縁部
41図 10 —	土師器甕	埋土	口 (21.8) 高 < 6.1) 底 —	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③暗オリーブ色	口縁部
41図 11 PL39	土師器甕	埋土	口 (18.7) 高 < 5.0) 底 —	口縁「コ」の字状に外反 口唇沈線巡る 外面：胴上半部斜横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③オリーブ色	口縁部
41図 12 PL39	土師器甕	埋土	口 (19.9) 高 < 6.8) 底 —	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部斜横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	口縁部
41図 13 PL40	土師器甕	床上 28cm	口 (23.0) 高 < 5.0) 底 —	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③明褐色	口縁部
41図 14 PL40	土師器甕	貯蔵穴 底面 30cm	口 (18.9) 高 < 5.0) 底 —	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母多 白色微粒②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁部 壁からの崩落?
41図 15 PL40	土師器甕	埋土	口 — 高 < 6.2) 底 (4.5)	外面：縦位ヘラ削り	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③明褐色	底部
41図 16 PL40	須恵器蓋	貯蔵穴 底面 11cm	端 (18.2) 高 4.2 摘 (4.1)	ロクロ右回転 摘 輪状 端部垂直に折れる 外面：天井部1/2まで回転ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分多 ②還元焰 ③灰白色	1/2
41図 17 PL40	須恵器蓋	埋土	端 (17.1) 高 < 3.3) 摘 (4.1)	ロクロ左回転 摘 輪状 端部垂直に折り曲げる 外面：天井1/3まで回転ヘラ削り 口唇部ナデ 内面：口唇部ナデ	①細砂粒 鉄分・ 白色微粒②還元焰 ③灰色	1/2
41図 18 PL40	須恵器蓋	床上 25cm	端 (18.0) 高 < 3.2) 摘 —	ロクロ右回転 端部垂直に折れる 外面：天井回転ヘラ削り 口唇部ナデ 内面：口唇部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	端部1/2
42図 19 PL40	須恵器蓋	埋土	端 — 高 < 1.8) 摘 3.4	ロクロ右回転 摘 輪状 外面：天井回転ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	摘み小片
42図 20 PL40	須恵器坏	埋土	口 (11.8) 高 4.2 底 (6.8)	ロクロ右回転糸切り 体部やや内彎 口縁部外反気味 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分多 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部
42図 21 PL40	須恵器坏	埋土	口 (12.2) 高 3.5 底 8.0	ロクロ右回転底部糸切り 体部やや丸味 口縁部外反	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部
42図 22 PL40	須恵器坏	埋土	口 (10.8) 高 3.7 底 (6.8)	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に開く 口縁部やや外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部
42図 23 PL40	須恵器坏	床上 34cm	口 (12.1) 高 < 4.2) 底 (7.0)	ロクロ右回転底部糸切り 体部内彎 口縁部外反気味 外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部
42図 24 PL40	須恵器坏	周溝直上	口 (13.9) 高 3.5 底 (8.3)	ロクロ右回転底部糸切り 体部ゆるやかな丸味 口縁部直線的に開く 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部

42図 25 PL40	須恵器坏	床上 63cm	口 (10.8) 高 3.5 底 (5.9)	ロクロ右回転底部糸切り後ヘラナデ 体部やや丸味をもつ 口縁部外反気味	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口縁~底部
42図 26 PL40	須恵器坏	周溝直上	口 12.4 高 3.2 底 7.6	ロクロ右回転底部ヘラ切り後ナデ 体部やや丸味 口縁部直線的に開く 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ほぼ完形
42図 27 PL40	須恵器坏	周溝直上	口 17.6 高 3.9 底 12.2	大型 ロクロ回転底部ヘラ切り後周辺ヘラ削り 体部直線的に開く	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	完形
42図 28 PL40	須恵器坏	埋土	口 - 高 < 1.0 底 7.0	ロクロ右回転底部糸切り後ヘラナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	底部
42図 29 PL40	須恵器碗	埋土	口 (15.5) 高 < 6.8 底 (9.7)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台高い 体部直線的に立ち上がる 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	口縁~底部
42図 30 PL40	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 5.5 底 (9.6)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台外傾 体部ゆるやかな丸味	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	体部~高台
42図 31 PL40	須恵器壺	床上 48cm	口 (21.4) 高 < 9.8 底 -	ロクロ右回転 体部丸味を持つ 口縁部屈曲し外反 口唇部下方に引き出す	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口縁~頸部小片
42図 32 PL40	須恵器甌	床上 28cm	口 - 高 < 5.7 底 (19.8)	ロクロ回転	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部1/3
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		石材
42図 33	PL40	砥石	埋土	長 4.0 幅 2.3 厚 1.6 重 22.8		砥沢石
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		備考
42図 34	PL66	刀子	埋土	長 4.2 幅 1.4 厚 0.3 重 2.5		
42図 35	PL66	刀子	床上48cm	長 6.0 幅 1.0 厚 0.25 重 5.0		
42図 36	PL66	釘	床面-3cm	長 5.8 幅 0.4 厚 0.3 重 3.8		

4号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
44図 1 PL40	土師器坏	埋土	口 (10.7) 高 < 2.7 底 (7.6)	平底 体部やや丸味 口縁部外反 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉍物含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
44図 2 PL41	土師器坏	埋土	口 (11.8) 高 < 3.3 底 (7.5)	平底 体部外反 口縁部内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉍物②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
44図 3 PL41	須恵器坏	埋土	口 - 高 < 3.2 底 (8.3)	ロクロ回転底部糸切り 体部やや丸み	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	体部~底部片
44図 4 PL41	須恵器盤	埋土	口 (19.8) 高 < 3.3 底 -	大型 体部は直線的に開く 外面：底部ヘラ削り	①細砂粒 鉄分 ・微細透明鉍物含 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
44図 5 -	須恵器碗	埋土	口 (12.9) 高 < 3.3 底 -	ロクロ右回転 体部膨らみをもつ 口縁部外反 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 微細白色鉍物含 ②酸化焰③赤褐色	口縁部片

5号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
46図 1 PL41	土師器坏	床上 9cm	口 13.3 高 4.9 底 6.4	ロクロ回転 体部やや丸みもち開く 口縁部僅かに 外反 外面：底部ヘラ削り 体部斜横位ヘラ削り 口縁部ナデ 墨書「西」 内面：口縁~体部ナデ	①粗砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ほぼ完形
46図 2 PL41	土師器甕	床上 7cm	口 (19.8) 高 < 8.5 底 -	口縁「コ」の字状に外反 口唇部沈線あり 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 頸部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 白色微 粒・雲母含 ②酸 化焰 ③鈍い橙色	口縁~胴上部片

第VI章 遺物観察表

46図 3 PL41	土師器甕	床上 28cm	口 (19.8) 高 < 6.8> 底 -	口縁「コ」の字状に外反 口唇部沈線あり 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒・雲母含 ②酸 化焰 ③鈍い橙色	口縁部1/5
46図 4 PL41	土師器甕	床上 20cm	口 (17.8) 高 < 5.6> 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色鉍 物・雲母含 ②酸 化焰 ③鈍い橙色	口縁部1/4
46図 5 PL41	土師器甕	床上 12cm	口 (20.7) 高 < 6.5> 底 -	口縁「コ」の字状に外反 口唇部沈線あり 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色鉍 物・雲母含 ②酸 化焰 ③鈍い橙色	口縁～胴上部 1/3
46図 6 PL41	土師器甕	土坑 底面 36cm	口 (22.8) 高 < 7.5> 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 被熱 内面：口縁部ナデ 頸部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 白色微 粒 ②酸化焰 ③鈍い橙色	口縁部
46図 7 PL41	土師器甕	床上 16cm	口 - 高 < 6.8> 底 3.2	外面：底部ヘラ削り 胴下半部斜縦位ヘラ削り 被熱	①細砂粒 微細透 明鉍物・雲母含② 酸化焰③鈍い褐色	胴下半～底部片
46図 8 PL41	須恵器蓋	埋土	端 (18.2) 高 < 3.1> 摘 -	ロクロ右回転 端部折り曲げて直立 外面：天井部過半回転ヘラ削り	①細砂粒 黒色鉍 物含 ②還元焰 ③灰白色	天井部～端部 1/3
46図 9 PL41	須恵器坏	床上 1cm	口 14.0 高 3.9 底 7.0	ロクロ右回転底部糸切り 体部丸味をもって開く 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石・ 石英・微細白色鉍 物②還元③灰黄色	完形
46図 10 PL41	須恵器坏	床上 8cm	口 (12.4) 高 < 3.8> 底 (7.0)	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部直線的に開く 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分多 ・白色微粒含 ②還元焰③黄灰色	口縁～底部1/3
46図 11 PL41	須恵器坏	床上 17cm	口 (13.7) 高 < 3.7> 底 (7.9)	ロクロ右回転底部糸切り 体部やや丸味をもって開く 口縁部外反 外面：口縁部ナデ 内面：口縁～体部ナデ	①細砂粒 透明鉍 物・白色鉍物含 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/4
46図 12 PL41	須恵器碗	床上 9cm	口 - 高 < 1.6> 底 6.7	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台	①粗砂粒 小石・ 白色鉍物含 ②還 元焰 ③灰白色	底部
46図 13 PL41	須恵器碗	床上 9cm	口 (15.5) 高 4.5 底 (9.3)	ロクロ右回転底部糸切り 高台貼付雑外傾 体部やや丸味をもち開く 口縁部僅かに外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒・雲母含 ②酸 化焰 ③赤褐色	2/3
46図 14 PL41	須恵器碗	カマド 床上 44cm	口 (15.3) 高 < 5.1> 底 7.4	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 体部緩い丸味をもって開く 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石・ 白色鉍物含 ②還 元焰 ③灰黄色	1/6
46図 15 PL41	須恵器碗	床上 10cm	口 - 高 < 3.6> 底 (6.9)	ロクロ回転底部ヘラ削り 器肉厚 高台貼付外傾 体部下位に丸味をもつ	①細砂粒 白色微 細鉍物 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/3
47図 16 PL42	須恵器甕	床上 3cm	口 - 高 < 6.0> 底 (16.7)	ロクロ左回転 器肉厚 底部～胴下半部直線的に開く 外面：胴下半部タタキ目 内面：胴下半部横位ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒 ②還元焰 ③灰色	底部片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)	石材	
47図 17	PL41	紡錘車	床上13cm	長径 4.5 短径 3.8 厚 2.2 重 61.6		砥沢石

6号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
49図 1 PL41	土師器甕	貯蔵穴 底面 19cm	口 (21.7) 高 < 19.1> 底 -	口縁屈曲し外反 外面：胴上半横位ヘラ削り 下半部斜縦位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含 ②酸 化焰 ③明赤褐色	口縁～胴部1/4
49図 2 PL41	土師器甕	床上 11cm	口 (18.7) 高 < 13.7> 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半斜横位ヘラ削り 下半部斜縦位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁～胴部1/5
49図 3 PL42	土師器 小型甕	床上 4cm	口 (13.0) 高 < 5.5> 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微細鉍物含 ②酸化③明赤褐色	口縁部片1/5
49図 4 PL42	土師器甕	埋土	口 (21.6) 高 < 5.9> 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部片1/8

遺物観察表

49図 5 PL42	土師器 短頸壺	埋土	口 (21.2) 高 < 4.7) 底 -	口縁部直線的に立ち上がる 胴球状 厚手 硬質 外面：頸部棒状工具による2条沈線 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片1/6
49図 6 PL42	土師器甕	床上 15cm	口 (22.9) 高 < 7.0) 底 -	口縁部開き上位で外反 肩張る 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 口唇部ヘラナデ 内面：口縁～胴上半ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物含②酸化 ③にぶい赤褐色	口縁～肩部片
50図 7 PL42	須恵器蓋	床上 2 cm	端 - 高 < 1.3) 摘 4.4	ロクロ回転 摘 輪状 外面：天井部回転ヘラ削り	①細砂粒 鉄分含 ②還元焰 ③灰色	摘み部
50図 8 PL42	須恵器坏	埋土	口 (13.5) 高 < 3.6) 底 (8.0)	ロクロ右回転底部糸切り 体部緩やかに丸味をもつ 口唇部わずかに外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁～底部1/5
50図 9 PL42	須恵器坏	床上 6 cm	口 13.0 高 3.4 底 7.3	ロクロ右回転底部糸切り 体部丸味をもつ 口縁部外反 口唇部沈線 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	完形
50図 10 PL42	須恵器坏	貯蔵穴 底面 16cm	口 13.3 高 3.3 底 7.6	ロクロ右回転底部糸切り 体部やや丸味をもつ 口縁部わずかに外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ほぼ完形
50図 11 PL42	須恵器坏	床上 4 cm	口 (13.6) 高 3.4 底 7.2	ロクロ右回転底部糸切り 体部緩やかに丸味をもつ 口縁部わずかに外反 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部2/3
50図 12 PL42	須恵器坏	貯蔵穴 底面 12cm	口 (11.9) 高 3.0 底 (7.3)	ロクロ右回転底部糸切り 体部緩やかに丸味をもつ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分含 ②還元焰 ③黄灰色	口縁～底部1/2
50図 13 PL42	須恵器坏	床上 2 cm	口 (12.7) 高 3.2 底 (8.2)	ロクロ右回転底部糸切り 体部緩やかに丸味を持つ 口縁部わずかに外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色鈹 物含 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/2
50図 14 PL42	須恵器坏	埋土	口 (11.1) 高 < 3.6) 底 (6.5)	ロクロ右回転底部糸切り 体部緩やかに丸味をもつ 口縁部わずかに外反 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分・ 白色微粒含 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/4
50図 15 PL42	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 2.4) 底 7.5	ロクロ回転底部糸切り 高台貼付雑 体部緩やかに開く	①細砂粒 白色鈹 物 ②酸化焰 ③灰白色	底部1/2
50図 16 PL42	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 2.6) 底 (6.5)	ロクロ回転底部糸切り 貼付高台 体部緩やかに丸味をもって開く	①粗砂粒 小石・ 石英含 ②還元焰 ③灰白色	底部1/3
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		石材
50図 17	PL42	加工痕剥片	床上9 cm	長 2.2 幅 0.9 厚 0.5 重 0.9		黒曜石
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		備考
50図 18	PL66	鉄鏃	床上7 cm	長 9.5 幅 2.5 厚 0.5 重 8.0		
50図 19	PL66	釘	埋土	長 5.8 幅 0.6 厚 0.3 重 2.8		

7号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
52図 1 PL42	土師器坏	床面直上	口 11.7 高 3.4 底 8.4	底部平底気味 体部内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ヘラナデ 内面：口縁部ナデ 底部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 石英・白色鈹物含 ②酸化焰 ③橙色	完形
52図 2 PL42	土師器坏	床上 44cm	口 (14.2) 高 4.9 底 (9.5)	平底 口縁外反 外面：底～体部ヘラ削り 口縁部ヘラナデ 口唇部ナデ 内面：体部放射状磨き 底部らせん状磨き	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物含 ②酸化焰③明褐色	口縁～底部1/3 壁からの崩落?
52図 3 PL42	土師器坏	床上 5 cm	口 11.8 高 3.4 底 -	平底気味 口縁部やや内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ヘラナデ 墨書「丁」	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物含 ②酸化焰③赤褐色	口縁～底部2/3
52図 4 PL42	土師器坏	貯蔵穴 底面 23cm	口 (11.4) 高 < 2.9) 底 -	平底気味 口縁部内彎気味に開く 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物含 ②酸化焰③橙色	口縁～底部1/3
52図 5 PL43	土師器甕	床上 14cm	口 (21.0) 高 < 9.0) 底 -	胴部緩い丸味をもつ 口縁部外反 外面：胴上半部斜横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部1/4

第VI章 遺物観察表

52図 6 PL43	土師器甕	床上 24cm	口 (21.7) 高 < 5.0 底 -	口縁部屈曲し外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部1/4
52図 7 PL43	土師器甕	貯蔵穴 底面 22cm	口 (13.7) 高 < 7.3 底 -	胴球状 口縁部直立気味に外反 口径小 外面：斜横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母多 白色鉱物②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部2/3
52図 8 PL43	土師器甕	床上 13cm	口 - 高 < 8.2 底 (4.5)	外面：胴下半部斜縦位ヘラ削り 被熱	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③褐色	底部
52図 9 PL43	須恵器蓋	床上 12cm	端 (16.8) 高 3.6 摘 3.7	ロクロ右回転糸切り 摘 輪状 端部折り曲げ直立 外面：天井部半分程度まで回転ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	2/3
52図 10 PL43	須恵器坏	貯蔵穴 底面 24cm	口 12.4 高 3.7 底 7.6	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部丸味をもつ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 小石・ 白色鉱物含 ②酸化③明黄褐色	ほぼ完形
52図 11 PL43	須恵器坏	床上 11cm	口 13.7 高 4.0 底 8.5	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部緩やかに丸味をもつ 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	完形
52図 12 PL43	須恵器壺	床上 32cm	口 - 高 < 9.9 底 (14.7)	ロクロ右回転 胴下半部直線的に開く 外面：底部ヘラナデ 胴部ナデ 厚手	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	胴部～底部片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)	石材	
53図 13	PL43	砥石	床上1cm	長 11.5 幅 6.5 厚 3.9 重 400.0	粗粒輝石安山岩	
53図 14	-	カマド袖石	床面-10cm	長 25.0 幅 10.0 厚 9.1 重 1.5kg	二ツ岳軽石	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)	備考	
53図 15	PL66	銅製品	床上1cm	長 2.8 幅 0.8 厚 0.6 重 7.1	把手?	

8号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
54図 1 PL43	土師器坏	床上 3cm	口 11.6 高 3.5 底 6.0	平底 口縁部やや丸味をもって立ち上がる 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③明赤褐色	完形
54図 2 PL43	土師器坏	貯蔵穴 底面 20cm	口 11.3 高 3.6 底 7.5	平底 体部やや直線的に開く 外面：底部ヘラ削り (磨減) 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 軟質 ③明赤褐色	口縁～底部2/3
54図 3 PL43	土師器坏	床上 6cm	口 - 高 < 0.7 底 -	平底 外面：ヘラ削り 墨書「爪」	①細砂粒 雲母・ 微細白色鉱物含 ②酸化焰 ③橙色	底部片
54図 4 -	土師器坏	埋土	口 (10.9) 高 < 3.1 底 -	平底 体部内彎気味に立ち上がる 外面：ナデ 内面：光沢ある黒色磨き	①粗砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部片
54図 5 -	土師器坏	埋土	口 (10.4) 高 < 2.6 底 -	丸底 口縁部との境に段を有する 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物含 ②酸化焰③橙色	口縁部片
55図 6 PL43	土師器 台付甕	床上 28cm	口 - 高 < 5.1 底 8.0	台部やや外反 内面：ヘラナデ後放射状の磨き	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③にぶい赤褐色	台部
55図 7 PL43	土師器甕	貯蔵穴 底面 3cm	口 (19.8) 高 < 11.4 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部斜横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部1/3
55図 8 PL43	土師器甕	カマド 床上 7cm	口 (18.9) 高 < 24.0 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部斜縦位ヘラ削り 上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁～胴部1/6
55図 9 PL43	土師器甕	床上 14cm	口 (19.8) 高 < 7.5 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部1/3
55図 10 PL43	土師器甕	カマド 床上 36cm	口 (17.8) 高 < 9.3 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 胴上半部斜横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①細砂粒 雲母多 石英含 ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部1/5

遺物観察表

56図 11 PL43	土師器甕	カマド 床上 27cm	口 (18.0) 高 < 9.0) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部1/5
56図 12 PL43	土師器甕	床上 46cm	口 (18.4) 高 < 8.2) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部片
56図 13 -	土師器甕	埋土	口 (15.8) 高 < 3.3) 底 -	口唇部に一条の沈線あり 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③橙色	口縁部片
56図 14 PL43	土師器甕	床上 31cm	口 - 高 < 15.0) 底 4.5	外面：胴下半部縦位ヘラ削り 胴上半斜横位ヘラ削り	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③にぶい赤褐色	胴～底部1/2
56図 15 PL43	須恵器蓋	床上 38cm	端 (16.8) 高 < 4.0) 摘 (3.8)	ロクロ左回転 摘 輪状 端部垂直に折り返す 外面：天井部1/3まで回転ヘラ削り 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ・白色鉱物含 ②還元焰③灰色	1/3
56図 16 PL44	須恵器蓋	床上 42cm	端 (17.4) 高 < 3.6) 摘 -	ロクロ右回転 端部垂直に折り返す 外面：天井部1/3まで回転ヘラ削り	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	端部1/3 17と同一か
56図 17 PL44	須恵器蓋	カマド 床面 - 6 cm	端 (17.5) 高 < 3.7) 摘 -	ロクロ右回転 端部垂直に折り返す 外面：天井部1/3まで回転ヘラ削り	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	端部1/3 16と同一か
56図 18 PL44	須恵器坏	貯蔵穴 底面 14cm	口 11.2 高 3.8 底 6.1	ロクロ右回転底部糸切り 体部やや丸味をもって立ち上がる 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ・白色鉱物含 ②還元焰 ③灰色	完形
56図 19 PL44	須恵器坏	貯蔵穴 底面 10cm	口 11.4 高 3.6 底 7.4	ロクロ右回転底部糸切り後周辺部のみヘラナデ？ 体部内彎気味に立ち上がる 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	完形
56図 20 PL44	須恵器坏	貯蔵穴 底面 7 cm	口 12.4 高 3.6 底 6.8	ロクロ右回転底部糸切り後周辺部のみヘラナデ 体部直線的に開く 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	完形
56図 21 PL44	須恵器坏	床上 13cm	口 11.4 高 3.4 底 6.2	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に開く 口縁部外反気味 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	完形
56図 22 PL44	須恵器坏	カマド 床上 6 cm	口 11.9 高 3.6 底 5.9	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に開く 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ・白色微粒含 ②還元焰③灰白色	完形
56図 23 PL44	須恵器坏	貯蔵穴 底面 12cm	口 11.5 高 3.9 底 6.4	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に立ち上がる 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ・白色鉱物含 ②還元焰 ③灰色	完形
56図 24 PL44	須恵器坏	貯蔵穴 底面 13cm	口 12.3 高 4.0 底 6.0	ロクロ右回転底部糸切り 体部内彎気味	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ほぼ完形
56図 25 PL44	須恵器坏	貯蔵穴 底面 9 cm	口 12.1 高 3.8 底 6.8	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に開く 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分・ 白色微粒②還元焰 ③灰白色	ほぼ完形
56図 26 PL44	須恵器坏	床上 38cm	口 12.9 高 4.0 底 6.3	ロクロ右回転底部糸切り 体部内彎気味	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	口縁～底部4/5
56図 27 PL44	須恵器坏	床面 - 2 cm	口 12.2 高 3.9 底 6.8	ロクロ回転 体部直線的に開く 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色鉱 物含 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部4/5
57図 28 PL44	須恵器坏	床上 32cm	口 12.3 高 3.6 底 6.0	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に開く 外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部2/3
57図 29 PL44	須恵器坏	貯蔵穴 底面 3 cm	口 10.9 高 3.9 底 6.1	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に立ち上がる 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/3
57図 30 PL44	須恵器坏	床上 40cm	口 - 高 < 2.0) 底 8.0	ロクロ回転底部糸切り 外面：底部周辺同方向のキズあり 高台貼付のためか	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部1/2

第VI章 遺物観察表

57図 31 PL44	須恵器坏	床上 45cm	口 ー 高 < 1.8) 底 7.6	ロクロ右回転底部糸切り	①細砂粒 鉄分・ 白色鉱物②還元焰 ③灰白色	底部
57図 32 PL44	須恵器碗	埋土	口 (14.8) 高 < 3.5) 底 ー	ロクロ回転 体部内彎気味 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ 内面光沢ある黒色で磨く	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口縁部片
57図 33 PL44	須恵器碗	床上 38cm	口 (15.8) 高 < 6.3) 底 ー	ロクロ回転 体部やや内彎気味に立ち上がる 内外面：口縁部ナデ 内面光沢ある黒色	①粗砂粒 小石・ 雲母・白色微粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁～体部片
57図 34 PL44	須恵器碗	埋土	口 ー 高 < 3.0) 底 8.1	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 厚手	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部1/2
ー 35 PL44	須恵器碗?	埋土	口 ー 高 < 9.0) 底 ー	ロクロ右回転 体部直線的に立ち上がる 外面：体部左から右方向のヘラ横割り 口縁近くと思 われる部分ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 硬質 ③灰褐色	破片
57図 36 PL44	灰釉長頸壺	埋土	口 ー 高 < 1.9) 底 (8.6)	外面：胴部回転ヘラ割り 内面：釉だれ	①粗砂粒 小石混 ②還元焰 ③灰白色	底部片 施釉
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		石材
57図 38	PL45	磨石	床上7cm	長 15.0 幅 12.0 厚 4.4 重 1.5kg		粗粒輝石安山岩
57図 39	PL45	敲石・砥石	床面直上	長 15.1 幅 7.7 厚 7.8 重 500.0		スコリア質安山岩
57図 40	PL45	カマド袖石	カマド袖直上	長 18.3 幅 14.5 厚 11.3 重 2.1kg		二ツ岳軽石
57図 41	PL45	カマド袖石	貯蔵穴底面11cm	長 16.1 幅 8.3 厚 7.5 重 700.0		二ツ岳軽石
57図 42	PL45	敲石	埋土	長 7.2 幅 5.2 厚 2.3 重 100.0		粗粒輝石安山岩
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		備考
58図 43	PL66	丸柄	床上24cm	長 2.7 幅 4.1 厚 0.07 重 4.6		
58図 44	PL66	スラグ	埋土	長 8.6 幅 8.3 厚 3.7 重 189.3		
58図 45	PL66	鉄製品	カマド床面-31cm	長 7.0 幅 3.0 厚 0.2 重 17.0		
58図 46	PL66	刀子	埋土	長 6.2 幅 1.0 厚 0.2 重 3.7		

10号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
60図 1 PL45	土師器坏	カマド 床面直上	口 11.5 高 4.0 底 ー	丸底 口縁部との境に段を有する 口縁部外反 外面：底部～体部ヘラ割り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ほぼ完形
61図 2 PL45	土師器坏	床上 3cm	口 10.9 高 4.0 底 ー	丸底 口縁部との境に段を有する 口縁部外反 外面：底部～体部ヘラ割り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口～底1/2
60図 3 PL45	土師器坏	埋土	口 (10.9) 高 < 3.0) 底 ー	丸底 口縁部との境に段を有する 口縁部直線的に立ち上がる	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
60図 4 PL45	土師器坏	埋土	口 (11.8) 高 < 3.6) 底 (8.2)	厚手 平底 口縁直線的に開く 外面：体部ヘラ割り 口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒多含 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部片
61図 5 PL45	土師器坏	埋土	口 (11.8) 高 < 2.8) 底 ー	体部やや丸みをもつ 口縁部直線的に立ち上がる 外面：体部ヘラ割り 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母少 ・白色微粒②酸化 ③にぶい橙色	口縁部片
61図 6 PL45	土師器鉢	床面 -13cm	口 (15.4) 高 < 4.0) 底 ー	厚手 胴上位直線的に立ち上がる 口縁部わずかに外反 外面：胴上部ヘラ割り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①粗砂粒 雲母・ 石英 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
61図 7 PL45	土師器 小型甕	埋土	口 (11.8) 高 < 3.6) 底 ー	口縁「コ」の字状に外反 胴上位張る 外面：胴上部ヘラ割り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母少 白色微粒②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部片
61図 8 PL45	須恵器坏	埋土	口 (13.7) 高 < 4.0) 底 (9.0)	ロクロ右回転糸切り 体部わずかに丸みをもつ 口縁部外反 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		石材
61図 9	PL45	ピエスエスキーユ	埋土	長 6.8 幅 7.0 厚 1.7 重 89.6 (14号住居と接合)		黒色頁岩
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		備考
61図 10	PL66	スラグ	埋土	長 3.9 幅 2.6 厚 3.2 重 38.9		

11号住居 A

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
63図 1 PL45	須恵器蓋	床上 1 cm	端 (9.7) 高 (2.0) 摘 —	ロクロ右回転 外面：天井部手持ちヘラ削り	①細砂粒 鉄分・白色微粒含 ②還元焰③灰色	1/5
63図 2 PL45	須恵器坏	埋土	口 (13.7) 高 (3.7) 底 (5.9)	ロクロ右回転底部糸切り 体部緩やかな丸味をもつ 口縁部やや外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石・白色微細鉍物含 ②還元焰③灰白色	口～底部1/4
63図 3 PL45	須恵器碗	カマド 床上 6 cm	口 (12.5) 高 (4.7) 底 (6.0)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 体部やや丸味をもつて開く 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	口～底部1/3
63図 4 PL45	須恵器碗	床上 2 cm	口 (12.0) 高 4.8 底 (5.8)	ロクロ回転 貼付高台 体部緩やかな丸味 口縁部外反	①粗砂粒 雲母・白色微粒②酸化焰 ③浅黄色	口～底部1/4
63図 5 PL45	須恵器碗	床上 1 cm	口 — 高 (2.2) 底 (6.0)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台高い 体部内彎	①細砂粒 白色鉍物含 ②還元焰 ③灰色	底部
63図 6 PL45	土師器碗	埋土	口 — 高 (2.4) 底 6.0	ロクロ右回転 高台貼付雑	①粗砂粒 雲母・無色鉍物多②酸化焰 ③にぶい橙色	底部3/4
63図 7 PL45	須恵器皿	埋土	口 (12.8) 高 (2.1) 底 (6.8)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口～底部1/5
64図 8 PL45	須恵器羽釜	床上 12cm	口 20.3 高 (25.3) 底 —	体部僅かに膨らむ 鑄上向き 口縁部直立 平縁 外面：胴下半部斜縦位ヘラ削り	①細砂粒 雲母・無色透明鉍物含 ②酸化焰③褐灰色	口～胴4/5
64図 9 PL45	須恵器羽釜	床上 5 cm	口 17.8 高 (25.4) 底 —	胴部わずかに膨れる 鑄上向き 平縁 外面：胴部縦位ヘラ削り	①粗砂粒 雲母少・無色透明鉍物含 ②酸化焰③褐灰色	口～胴4/5
64図 10 PL45	須恵器羽釜	床上 12cm	口 (19.2) 高 (17.3) 底 —	胴部あまり丸味をもたない 鑄上向き 口縁直立気味 平縁 外面：胴下半部斜縦位ヘラ削り 口縁上位ヘラナデ	①粗砂粒 雲母少・白色鉍物含 ②還元焰③灰白色	口～胴1/3
64図 11 PL45	須恵器羽釜	カマド 床上 1 cm	口 (19.9) 高 (18.3) 底 —	胴上部わずかに丸味をもつ 鑄上向き 口縁わずかに内傾 平縁 外面：胴下半部縦位ヘラ削り	①粗砂粒 雲母少・無色透明鉍物含 ②酸化焰③灰白色	口～胴1/5
64図 12 PL45	須恵器羽釜	カマド 床上 2 cm	口 (18.8) 高 (17.7) 底 —	胴上半部やや膨らむ 口縁内傾気味 平縁 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①粗砂粒 雲母・微細白色鉍物含 ②酸化焰③灰白色	口～胴1/4
65図 13 PL46	須恵器羽釜	カマド 床上 4 cm	口 (19.8) 高 (18.2) 底 —	胴中位僅かに膨らむ 鑄上向き 口縁内傾気味 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①粗砂粒 白色鉍物含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口～胴1/5
64図 14 PL45	須恵器羽釜	カマド 床上 1 cm	口 (18.0) 高 (12.8) 底 —	胴中位膨らむ 口縁内傾気味 平縁 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①粗砂粒 雲母・微細白色鉍物含 ②酸化焰③黄灰色	口～胴1/5
65図 15 PL45	須恵器羽釜	埋土	口 (20.0) 高 (9.4) 底 —	ロクロ右回転 胴部わずかに丸味をもつ 鑄上向き 口縁部内傾 平縁 内面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石多 白色鉍物②酸化焰 ③灰オリーブ色	口～胴1/5
65図 16 —	灰釉陶器碗	埋土	口 — 高 (2.9) 底 (6.8)	ロクロ右回転 高台断面は三日月形	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部破片
65図 17 PL46	灰釉陶器坏	カマド 床上 3 cm	口 (16.0) 高 (2.2) 底 —	ロクロ右回転 体部やや丸味をもつて口縁わずかに外反 施釉方法 漬け掛け 釉調 淡緑	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口～底部1/4
65図 18 PL46	灰釉陶器碗	埋土	口 — 高 (1.5) 底 7.0	ロクロ右回転 高台断面は崩れた三日月形 底部回転 ヘラナデ 施釉方法 刷毛塗り 釉調 淡緑色 重ね 焼き	①細砂粒 黒色鉍物含 ②還元焰 ③灰白色	底部3/4
65図 19 —	灰釉陶器坏	埋土	口 — 高 (2.7) 底 (5.0)	ロクロ回転糸切り 体部垂直に立ち上がる 外面：体部下半ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部破片

第VI章 遺物観察表

65図 20 —	須恵器 長頸壺	カマド 床上 2 cm	口 — 高 (5.3) 底 —	胴部球状	① — ②還元焰 ③灰色	胴部破片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)	石材	
65図 22	PL46	石皿・多孔石	床上 6 cm	長 19.8 幅 24.3 厚 8.5 重 4.8kg	粗粒輝石安山岩	
65図 23	PL46	磨石	床面- 1 cm	長 18.0 幅 12.4 厚 8.3 重 2.0kg	粗粒輝石安山岩	
65図 24	PL46	磨石	カマド床上 7 cm	長 18.3 幅 19.0 厚 7.6 重 4.1kg	粗粒輝石安山岩	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)	備考	
65図 25	PL66	スラグ	埋土	長 5.7 幅 5.8 厚 3.5 重 175.2		
65図 26	PL66	釘	床面- 2 cm	長 2.8 幅 0.6 厚 0.3 重 1.4		
65図 27	PL66	刀子	埋土	長 7.9 幅 1.0 厚 0.7 重 11.2		
65図 28	PL66	釘	埋土	長 5.8 幅 0.7 厚 0.6 重 8.2		
65図 29	—	スラグ	埋土	長 3.8 幅 1.2 厚 1.5 重 5.1		

12号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
67図 1 PL46	土師器坏	埋土	口 (11.8) 高 < 2.2) 底 (8.5)	平底 体部わずかに内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微細鈹物含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部破片
67図 2 PL46	土師器坏	埋土	口 (10.5) 高 < 2.2) 底 (7.6)	平底 体部やや内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 細鈹物 ②酸化焰 ③褐色	口縁部破片
67図 3 PL46	土師器坏	埋土	口 (12.8) 高 < 2.4) 底 (9.7)	平底 体部やや丸味をもって立ち上がる 口縁部外反 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物含 ②酸 化焰③にぶい褐色	口縁部破片
67図 4 PL46	土師器甕	床上 43cm	口 (17.0) 高 < 4.7) 底 —	外面：頸部横位ヘラナデ 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部横位ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部破片
67図 5 PL46	土師器甕	埋土	口 (18.0) 高 < 5.5) 底 —	胴上半部緩い丸味 外面：胴上半部横位ヘラ削り 頸部~口縁部ナデ 内面：頸~胴上半部横位ヘラナデ	①粗砂粒 小石・ 雲母多・無色鈹物 ②酸化③明赤褐色	口縁部破片
67図 6 PL46	土師器 小型甕	埋土	口 (12.4) 高 < 3.3) 底 —	外面：胴上半部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含 ②酸化焰③暗褐色	口縁部破片
67図 7 PL46	須恵器蓋	床上 47cm	端 (13.7) 高 < 1.7) 摘 —	端部垂直に折る 厚手 内外面：端部ヘラナデ	①細砂粒 無色微 粒含 ②還元焰 ③明褐色	端部破片
67図 8 PL46	須恵器蓋	埋土	端 (14.6) 高 < 2.2) 摘 —	ロクロ右回転 端部折り曲げ弱い 外面：天井部1/3まで回転ヘラ削り	①細砂粒 無色微 粒含 ②還元焰 ③灰黄褐色	天井部~端部 2/3
67図 9 PL46	須恵器蓋	埋土	端 (17.5) 高 < 3.4) 摘 —	ロクロ右回転糸切り 口唇部垂直に折り曲がる 天井 部は緩やかな丸味をもつ 外面：天井部1/3まで右回転 ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	天井部~端部 1/4
67図 10 PL46	須恵器坏	床上 64cm	口 12.0 高 4.0 底 7.3	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部やや外反 内面：口縁部ナデ	①粗砂粒 白色鈹 物 ②酸化焰気味 ③灰黄色	口縁~底部3/4
67図 11 PL46	須恵器坏	床面 - 1 cm	口 12.9 高 4.2 底 7.3	ロクロ右回転底部糸切り 体部緩やかな丸味 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰黄色	口縁~底部3/4
67図 12 PL46	須恵器坏	床上 10cm	口 12.8 高 3.7 底 7.0	ロクロ右回転底部ヘラ切り 底部周辺ナデ 体部やや丸味をもって開く 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	ほぼ完形
67図 13 PL46	須恵器坏	床面 - 2 cm	口 12.1 高 3.7 底 6.8	ロクロ右回転底部糸切り 体部やや丸味をもって開く 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ほぼ完形
67図 14 PL47	須恵器坏	埋土	口 (13.0) 高 3.9 底 7.2	ロクロ右回転底部糸切り 体部緩やかな丸味 内面：口縁部ナデ	①細粒砂 鉄分多 含 ②還元焰 ③灰色	1/3

遺物観察表

67図 15 PL47	須恵器坏	床面 - 1 cm	口 (13.4) 高 < 4.0) 底 (7.6)	ロクロ右回転 体部緩やかな丸味 底部ヘラ切り後ヘラナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/3
67図 16 PL47	須恵器坏	床面 - 5 cm	口 (11.8) 高 < 4.0) 底 (7.3)	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に開く 口唇部緩く外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁～底部1/6
67図 17 PL47	須恵器坏	埋土	口 - 高 < 2.4) 底 5.7	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に開く	①細砂粒 ②還元焰 硬質 ③灰色	底部3/4
67図 18 PL47	須恵器坏	床上 42cm	口 - 高 < 1.6) 底 6.0	ロクロ右回転底部糸切り 体部やや丸味をもって開く	①細砂粒 鉄分・ 白色微粒②還元焰 硬質 ③灰色	底部3/4
67図 19 PL47	須恵器坏	床上 17cm	口 - 高 < 2.8) 底 7.0	ロクロ右回転底部糸切り 体部直線的に開く	①細砂粒 白色微 粒②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	体～底部3/4
67図 20 PL47	須恵器碗	床上 43cm	口 (14.7) 高 4.7 底 (7.4)	ロクロ右回転底部糸切り 高台貼付雑 体部直線的に開く 口縁部外反 外面：口縁部ナデ	①粗φ1mm小石・ 雲母・白色鉍物含 ②還元焰軟③灰色	口縁～底部3/4
67図 21 PL47	須恵器碗	埋土	口 (15.8) 高 < 5.6) 底 -	ロクロ右回転 口縁部直線的に開く 内外面：口唇部ナデ	①細砂粒 白色微 粒②還元焰 硬質 ③にぶい黄色	口縁～底部1/3
67図 22 PL47	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 2.1) 底 (7.4)	ロクロ回転 貼付高台外傾 内面：黒色で放射状の磨き	①細砂粒 雲母・ 白色鉍物②酸化焰 ③明赤褐色	底部
67図 23 PL47	須恵器碗?	埋土	口 (11.4) 高 < 3.7) 底 -	ロクロ回転 薄い 口縁部直線的に開く 口唇部一条の沈線あり 内外面：口唇部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 硬質 ③灰色	口縁部破片
68図 24 PL47	須恵器 長頸壺?	床上 71cm	口 - 高 < 3.0) 底 6.1	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 体部垂直気味に立ち上がる 高台高く薄い	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 硬質 ③灰色	底部破片
68図 25 -	須恵器 短頸壺蓋	埋土	端 (15.6) 高 < 1.4) 摘 -	上野型	①細砂粒 鉄分多 含 ②還元焰 ③灰色	天井部破片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		備考
68図 27	PL66	刀子	埋土	長 6.2 幅 2.0 厚 0.17 重 5.3		
68図 28	PL66	鎌	埋土	長 5.5 幅 2.5 厚 2.4 重 8.4		

14号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
69図 1 PL47	土師器甕	カマド 床上 21cm	口 (18.4) 高 (15.0) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 上半部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ 器肉厚	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 ③にぶい赤褐色	口縁～胴部
69図 2 PL47	土師器甕	カマド 床上 6 cm	口 (17.7) 高 < 7.4) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 器肉厚 外面：胴部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 ③にぶい赤褐色	口縁～胴部1/2
70図 3 PL47	土師器甕	カマド 床上 6 cm	口 (16.8) 高 < 8.0) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴部ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 ③明赤褐色	胴部
70図 4 PL47	土師器甕	カマド 床上 9 cm	口 (17.0) 高 < 6.0) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 器肉厚 外面：胴部ヘラ削り口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ 胴ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 ③暗赤褐色	口縁部
70図 5 PL47	土師器甕	床上 8 cm	口 (17.0) 高 < 8.2) 底 -	4と同一個体?	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 焰③暗赤褐色	口縁～胴部
70図 6 PL47	土師器甕	カマド 床上 15cm	口 - 高 (12.4) 底 (3.5)	外面：斜縦位ヘラ削り	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含 ②酸化焰③黒褐色	胴～底部
70図 7 PL47	須恵器碗	カマド 床上 8 cm	口 (16.4) 高 < 5.6) 底 7.5	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 体部直線的に開く 口縁部やや外反	①粗砂粒 無色鉍 物含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口縁～底部1/3

第VI章 遺物観察表

70図 8 PL47	須恵器壺	床上 18cm	口 (17.8) 高 < 7.1) 底 (8.4)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 高台外傾	①細砂粒 ②還元焰 硬質 ③灰白色	口縁～底部1/5
70図 9 PL48	須恵器壺	床上 11cm	口 (13.6) 高 < 4.6) 底 (6.6)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 体部直線的に開く 外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 無色鉍 物含 ②酸化焰 ③浅黄色	口縁～底部1/6
70図 10 PL48	須恵器壺	カマド 床上 14cm	口 - 高 < 2.1) 底 7.0	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台	①細砂粒 雲母含 ②還元焰 ③褐色	底部
70図 11 PL48	須恵器壺	カマド 床上 15cm	口 - 高 < 2.7) 底 7.4	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 器肉厚 しっかり作る	①粗砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③黄灰色	底部
- 12 PL48	須恵器甕	床上 7 cm				写真のみ
70図 13 PL48	須恵器 長頸壺	貯蔵穴 底面直上	口 - 高 <14.5) 底 (11.9)	ロクロ左回転底部ヘラ切り 肩部やや張る 外面：胴下位ヘラ削り	①細砂粒 無色鉍 物含 ②還元焰 ③灰色	胴～底部1/5
70図 14 PL48	灰釉陶器壺	床上 17cm	口 (12.9) 高 4.2 底 (5.7)	大原2号窯式期 10世紀前半 漬け掛け	①細砂粒 ②還元焰 硬い ③灰白色	口縁～底部1/5
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)	備考	
70図 16	PL66	刀子	床上15cm	長 5.8 幅 0.8 厚 0.3 重 3.6		

15号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
73図 1 PL48	土師器杯	床上 4 cm	口 11.8 高 3.6 底 -	丸底 口縁部直立 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 ③明赤褐色	完形
73図 2 PL48	土師器杯	床上 1 cm	口 13.1 高 3.6 底 -	丸底 口縁部内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸火焰 ③橙色	3/4
73図 3 PL48	土師器杯	貯蔵穴 底面 18cm	口 (12.8) 高 < 3.0) 底 -	丸底 口縁部直立 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口唇部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②還元 ③にぶい橙色	破片
73図 4 PL48	土師器杯	埋土	口 (13.9) 高 < 3.3) 底 -	丸底 口縁部外反 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 ③明赤褐色	破片
73図 5 PL48	土師器杯	埋土	口 (13.0) 高 < 2.9) 底 -	丸底 口縁内彎気味 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母少 ・白色微粒含 ②酸化③明赤褐色	破片
73図 6 PL48	土師器不明	床上 7 cm	口 - 高 < 3.3) 底 -	丸底 外面：磨減 内面：ヘラナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③明赤褐色	底部
73図 7 PL48	土師器甕	埋土	口 - 高 < 4.5) 底 (4.8)	外面：底部ヘラ削り 胴下半部斜縦位ヘラ削り	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 ③赤褐色	底部片
73図 8 PL48	土師器甕	貯蔵穴 底面 9 cm	口 (20.5) 高 <32.8) 底 -	胴中位最大径口縁屈曲 外面：胴下半斜縦位ヘラ削り 胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ 胴部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 ③明赤褐色	口～胴下半4/5
74図 9 PL48	土師器甕	床上 10cm	口 (23.8) 高 <24.5) 底 -	胴中位最大径 口縁屈曲 外面：口縁部ナデ 胴上半部横位ヘラ削り 下半部縦位ヘラ削り 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化 ③赤褐色	口～胴部
74図 10 PL48	須恵器蓋	床面 - 1 cm	端 17.0 高 4.0 摘 3.8	ロクロ右回転 摘 輪状 端部垂直気味に折れる 外面：天井部2/3程回転ヘラ削り 内外面：端部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	完形
74図 11 PL48	須恵器蓋	床上 5 cm	端 17.8 高 3.2 摘 5.9	ロクロ右回転 摘 大型 輪状 口縁部返りをもつ 外面：天井部2/3回転ヘラ削り 内外面：端部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	完形

74図 12 PL48	須恵器坏	床面直上	口 (12.3) 高 3.3 底 (7.5)	ロクロ回転底部ヘラ切り 口縁部外反 外面：口縁部ナデ	①細砂粒 無色鉄 物粒含 ②還元焰 ③灰白色	口縁～体部1/3
74図 13 PL48	須恵器碗	埋土	口 (12.5) 高 3.7 底 (8.0)	ロクロ右回転 貼付高台 高台内側に段を持つ 口縁部直線的に立ち上がる 外面：体部下位回転ヘラ削り 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	破片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)		石材
74図 14	PL49	加工痕剥片	埋土	長 5.0 幅 2.9 厚 0.4 重 6.9		頁岩
74図 15	PL49	石鏃	床上26cm	長 2.5 幅 1.7 厚 0.7 重 2.4		黒曜石
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)		備考
74図 16	PL66	スラグ	床上5cm	長 7.1 幅 8.5 厚 2.8 重 179.0		

17号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
75図 1 PL49	土師器甕	カマド 床上 5cm	口 (19.5) 高 < 5.6 底 -	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①粗砂粒 雲母・ 白色鉄物②酸火焰 ③にぶい褐色	口縁部片
75図 2 PL49	須恵器坏	埋土	口 (12.5) 高 3.2 底 (7.4)	ロクロ右回転底部糸切り 口縁外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 石・白 色微粒含②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/3
75図 3 PL49	灰釉陶器碗	埋土	口 - 高 < 1.7 底 (7.2)	ロクロ回転 高台断面は三日月形で斜めに開く 体部 直線に開く 施釉方法 漬け掛け 釉調 淡灰緑	①緻密 ②還元焰 ③灰白色	底部片

18号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
77図 1 PL49	土師器坏	床上 8cm 崩落	口 11.9 高 3.5 底 5.2	平底 口縁部直線的に開く 外面：底部～体部ヘラ削り 内面：口縁部ナデ	①粗砂粒雲母・ 白色微粒含 ②酸化③明赤褐色	完形
77図 2 PL49	土師器坏	床上 8cm 崩落	口 (11.3) 高 4.1 底 (5.8)	器肉厚 口縁内彎気味 外面：底部～体部粗いヘラ削り 口縁部ナデ 内面：ナデ	①粗砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	1/2
77図 3 PL49	土師器 小型甕	床上 17cm 崩落	口 12.2 高 < 11.0 底 -	器肉厚 口縁部屈曲 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 上半部横位ヘラ削り 口縁ヘラナデ後ナデ 内面：口縁ヘラナデ後ナデ 胴上半部ヘラナデ	①粗砂粒 雲母・ 小石含 ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁～胴部1/2
77図 4 PL49	土師器 小型甕	埋土	口 (13.4) 高 < 4.7 底 -	器肉厚 口縁屈曲短く外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ 胴上部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉄物②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部1/3
77図 5 PL49	土師器甕	床上 2cm	口 19.0 高 < 16.6 底 -	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 上半部斜横位ヘラ削り 口縁部粗ナデ 内面：口縁部ナデ 胴部横位ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉄物含 ②酸化焰 ③橙色	口縁～胴部1/3
77図 6 PL49	土師器甕	カマド 床上 1cm	口 (19.8) 高 < 6.3 底 -	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部雑なナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ 胴上部ヘラナデ	①粗砂粒 雲母多 ・白色鉄物含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部1/4
78図 7 PL49	土師器甕	カマド 床面 - 3cm	口 (19.8) 高 < 14.0 底 -	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦 位ヘラ削り 上半部斜横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ 後ナデ 内面：口縁部ナデ 胴部ヘラナデ	①細砂粒 雲母 ②酸化焰 ③明赤褐色	口～胴部1/10
78図 8 PL49	土師器甕	床上 9cm 崩落	口 (17.6) 高 < 7.5 底 -	器肉厚 口縁「コ」の字状に短く外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部横位ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉄物②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部1/4
78図 9 PL49	土師器甕	埋土	口 (16.9) 高 < 8.0 底 -	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴部斜横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ 胴部ヘラナデ	①細砂粒 小石含 ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部片
78図 10 PL49	土師器甕	床上 28cm	口 (18.0) 高 < 7.4 底 -	器肉厚 口縁「コ」の字状に短く外反 外面：胴部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉄物含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片

第VI章 遺物観察表

78図 11 PL49	土師器甕	床上 21cm	口 ー 高 < 7.5 底 ー	外面：斜横位ヘラ削り	①粗砂粒 小石含 ②酸化焰 ③橙色	底部片		
78図 12 PL49	須恵器蓋	床上 31cm	端 ー 高 < 3.8 摘 (4.0)	ロクロ右回転糸切り 摘 輪状 外面：天井部1/3まで回転ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	1/5		
78図 13 PL49	須恵器坏	床上 8 cm 崩落	口 11.8 高 3.6 底 6.0	ロクロ右回転底部糸切り 体部浅く口縁外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色鉍 物含 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	3/4		
78図 14 PL49	須恵器碗	床面 ー 1 cm	口 (13.3) 高 < 5.5 底 (6.3)	器肉厚 ロクロ右回転糸切り 口縁部わずかに外反 内外面：口縁部ナデ 墨書「西」?	①粗砂粒 白色鉍 物②還元焰・軟質 ③灰オリーブ色	1/3		
78図 15 PL49	須恵器碗	カマド 床上 22cm	口 (12.7) 高 < 5.0 底 (5.4)	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部わずかに外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	1/4		
78図 16 PL49	須恵器碗	床上 18cm	口 ー 高 < 3.5 底 9.5	ロクロ回転糸切り 高台は長方形で高く細い 体部は 内彎し立ち上がる	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部		
78図 17 PL50	須恵器碗	床上 5 cm	口 (13.1) 高 5.0 底 6.5	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石多 ②酸化焰 ③黄灰色	1/3		
78図 18 PL50	須恵器甕	カマド 床上 19cm	口 ー 高 < 4.0 底 ー	胴中位最大径 頸部屈曲し直立気味に立ち上がる 内面：頸部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	頸部片		
78図 19 ー	須恵器甕	カマド 床上 10cm	口 ー 高 ー 底 ー	外面：格子状タタキ目	①粗砂粒 小石含 ②還元焰 ③緑灰色	胴部片		
79図 20 PL50	須恵器羽釜	床面 ー10cm 崩落	口 (16.6) 高 < 11.0 底 ー	鏝上向き 口縁内傾 外面：口縁部ヘラナデ	①細砂粒 雲母少 ・白色鉍物含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部1/3		
79図 21 PL50	須恵器羽釜	床上 19cm	口 18.3 高 27.5 底 (5.4)	鏝上向き 口縁内傾 外面：胴下半部斜縦位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：鏝貼付のための指頭圧痕残	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁～底部1/3		
79図 22 PL50	須恵器羽釜	カマド 床面直上	口 (16.9) 高 < 15.5 底 ー	鏝低い 口縁内傾 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ	①細砂粒 白色鉍 物少含 ②酸化焰 ③橙色	口縁～胴部1/6		
79図 23 PL50	須恵器羽釜	床面 15cm	口 (20.8) 高 < 13.8 底 ー	胴上半部が最大径で弱い張りをもつ 口縁部内傾 口唇部水平 外面：口縁部ヘラナデ	①粗砂粒 小石含 ②酸化焰 ③にぶい黄色	口縁～胴部1/6		
79図 24 PL50	須恵器羽釜	カマド 床上 5 cm	口 ー 高 < 20.6 底 (8.0)	外面：胴下半部縦位ヘラ削り	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	胴～底部1/4		
79図 25 PL50	須恵器羽釜	床上 18cm	口 (17.3) 高 < 10.5 底 ー	胴上半部最大径弱い張りをもつ 口唇部水平 外面：口縁部ヘラナデ	①粗砂粒 雲母少 含 ②酸化焰 ③明褐色	口縁部片		
79図 26 PL50	灰釉陶器碗	床上 14cm	口 15.4 高 5.4 底 7.8	ロクロ右回転 高台断面は三日月形 体部丸味をもつ て立ち上がる 外面底部回転ヘラナデ体部回転ヘラ削 り 施釉方法 漬け掛け 釉調 不透明な灰白	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	3/4		
79図 27 PL50	灰釉陶器碗	カマド 床上 1 cm	口 15.2 高 3.5 底 7.5	ロクロ左回転 高台断面は三日月形 体部わずかに膨 らむ 口縁わずかに外反 外面底部回転ヘラナデ 施 釉方法 刷毛塗り 釉調 透明な緑灰	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	2/3		
80図 28 PL50	灰釉陶器 耳皿	床上 6 cm	口 9.6・6.2 高 2.5 底 4.2	ロクロ右回転糸切り 施釉方法 刷毛塗り? 釉調 透明な淡緑	①緻密 ②還元焰 ③灰白色	2/3		
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)			石材	
80図 29	PL50	サイドスクレイパー	埋土	長 4.9	幅 6.6	厚 1.0	重 26.6	黒色頁岩
80図 30	PL50	スクレイパー	埋土	長 4.5	幅 7.4	厚 1.2	重 50.3	黒色頁岩
80図 31	PL50	砥石	埋土	長 3.7	幅 2.6	厚 1.8	重 29.3	砥沢石
80図 32	PL50	砥石	埋土	長 7.8	幅 4.4	厚 1.5	重 62.5	凝灰質砂岩
80図 33	PL50	砥石	埋土	長 10.6	幅 6.8	厚 4.7	重 400.0	砥沢石
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)			備考	
80図 34	PL66	釘	埋土	長 4.7	幅 0.7	厚 0.4	重 2.9	

80図 35	PL66	角釘	埋土	長 7.3 幅 0.6 厚 0.6 重 10.5	
80図 36	PL66	釘	埋土	長 3.5 幅 1.0 厚 0.7 重 5.0	

19号住居 A

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
82図 1 PL50	土師器 環	埋土	口 - 高 - 底 -	平底 外面：ヘラ削り 底部墨書「丁」?	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物含 ②酸化焰 ③橙色	底部片
82図 2 PL50	土師器 台付甕	床上 18cm	口 - 高 < 3.7 底 (9.1)	台部外反内側に折り返す 外面：台上半部ヘラナデ 他ナデ 内面：台部ナデ	①細砂粒 白色鈹 物多含 ②酸化焰 ・硬 ③橙色	脚部1/3
82図 3 PL50	土師器 小型甕	埋土	口 (8.4) 高 (3.7) 底 -	口縁「コ」の字状に短く外反 外面：胴上半部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③赤褐色	口縁部片
82図 4 PL50	土師器 小型甕	埋土	口 (11.2) 高 < 3.0 底 -	肩大きく張り段を持つ 口縁部屈曲外反 外面：胴上半部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色鈹 物多含 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部片
82図 5 PL51	土師器 甕	床上 20cm	口 (19.8) 高 < 8.3 底 -	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ 胴部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物含 ②酸化焰 ③橙色	口縁～肩部1/3
82図 6 PL51	土師器 甕	床上 1 cm	口 (19.5) 高 < 5.6 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部1/5
82図 7 PL51	土師器 甕	埋土	口 (17.3) 高 < 8.4 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母少 ・白色鈹物含 ②酸化焰③赤褐色	口縁～肩部1/4
82図 8 PL51	土師器 甕	埋土	口 (20.8) 高 < 6.7 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴部横位ヘラ削り 口縁部下位指頭圧痕残す 上位ヘラナデ後ナデ 内面：ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物②酸化焰 ③明赤褐色	口縁～肩部1/5
83図 9 PL51	土師器 甕	床上 9 cm	口 (20.1) 高 < 6.2 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物②酸化焰 ③明赤褐色	口縁～肩部1/6
83図 10 PL51	土師器 甕	底面直上	口 - 高 < 21.7 底 -	口縁「コ」の字状の様相を呈す 外面：胴下半部縦位 ヘラ削り 中位斜横位ヘラ削り 上位横位ヘラ削り 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①細砂粒 雲母少 白色鈹物②酸化焰 ③明赤褐色	頸～胴部1/5 19号住居 B の遺物
83図 11 PL51	須恵器 環	貯蔵穴 底面 5 cm	口 14.2 高 3.5 底 6.2	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部外反	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②還元焰 ③灰オリブ色	完形
83図 12 PL51	須恵器 環	埋土	口 13.9 高 4.1 底 6.6	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部僅かに外反 内外面：口唇部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	2/3
83図 13 PL51	須恵器 環	床上 5 cm	口 13.8 高 4.0 底 7.4	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	2/3
83図 14 PL51	須恵器 環	埋土	口 (12.8) 高 < 4.2 底 -	ロクロ回転 口縁部外反 内面：口縁部ナデ 外面に墨書文字不明	①粗砂粒 白色鈹 物含②還元焰 雑 ③にぶい黄色	口縁部片
83図 15 PL51	須恵器 碗	床上 9 cm	口 15.1 高 < 4.1 底 8.0	ロクロ右回転底部糸切り 底部高台貼付痕 口縁部強く外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	1/5 高台欠損
83図 16 PL51	須恵器 碗	貯蔵穴 底面 3 cm	口 14.2 高 5.0 底 7.3	器肉厚 ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部やや外反	①細砂粒 鉄分 白色微粒②還元焰 ③灰色	完形
83図 17 PL51	須恵器 碗	床上 36cm	口 15.3 高 5.3 底 6.9	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石・ 白色鈹物②還元焰 ③灰白色	一部欠損 壁からの崩落?
83図 18 PL51	須恵器 碗	貯蔵穴 底面 3 cm	口 14.8 高 < 4.5 底 7.6	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台痕残 口縁部直線的に開く	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物②酸化焰 ③灰白色	高台欠損

第VI章 遺物観察表

83図 19 PL51	須恵器壺	床上 12cm	口 14.4 高 5.0 底 7.6	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台外傾 口縁部直線的に開く 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 小石含 ②還元焰 ③浅黄色	1/2
83図 20 PL51	須恵器壺	貯蔵穴 底面 4 cm	口 (15.4) 高 5.3 底 6.9	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部直線的に開く 外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色鉍 物含 ②還元焰 ③灰色	1/2
83図 21 PL51	須恵器壺	床面 29cm	口 - 高 < 2.5> 底 7.7	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台細い	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	底部1/2
84図 22 PL51	須恵器甕	埋土	口 - 高 < 6.0> 底 (11.8)	ロクロ回転 平底 胴部直線的に開く	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	胴下部片
84図 23 PL51	須恵器甕	埋土	口 (21.5) 高 < 4.1> 底 -	口縁部屈曲し直立 口唇部上方に引き出され縁帯なす 内面：口縁ヘラナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
84図 24 PL51	須恵器甕	埋土	口 (26.9) 高 < 2.8> 底 -	口縁部外反 口唇部上下に引き出され縁帯をなす 外面：口唇ヘラナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
84図 25 PL51	須恵器甕	埋土	口 - 高 < 6.2> 底 -	口縁部外反 口唇部上下に引き出され縁帯をなす	①細砂粒 ②還元焰 ③赤灰色	口縁部片
84図 26 PL51	須恵器甕	埋土	口 (20.8) 高 < 2.5> 底 -	口縁部外反 口唇部上下に引き出され縁帯をなす	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
84図 27 PL51	灰釉陶器皿	貯蔵穴 底面 3 cm	口 14.3 高 3.1 底 7.1	ロクロ回転 高台断面は三日月形 体部やや丸味をも って口縁わずかに外反 外面底部回転ヘラナデ 施釉 方法 刷毛塗り 釉調 透明な淡緑	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	完形
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)		石材
84図 28	PL52	石鏃	埋土	長 3.1 幅 1.8 厚 0.8 重 3.2		黒色頁岩
84図 29	PL52	砥石	床上 4 cm	長 17.4 幅 7.8 厚 4.6 重 1.1kg		砥沢石

20号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
86図 1 PL52	土師器甕	埋土	口 (14.8) 高 < 4.0> 底 -	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：口縁部指頭圧痕残るナデ 内面：口縁部ナデ	①粗砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部片
86図 2 PL52	須恵器壺	カマド 床上 4 cm	口 (14.2) 高 < 4.0> 底 -	ロクロ右回転 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉍物②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁～底部1/3
86図 3 PL52	須恵器壺	カマド 床上 3 cm	口 (13.5) 高 5.1 底 6.7	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台雑 口縁部やや外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③灰白色	口縁～底部1/2
86図 4 PL52	須恵器壺	カマド 床上 7 cm	口 (14.1) 高 5.4 底 (7.1)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台外傾雑 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 もろい ③灰白色	口縁～底部1/2
86図 5 PL52	須恵器壺	カマド 床上 7 cm	口 - 高 < 3.0> 底 8.0	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台高く外傾	①細砂粒 雲母・ 白色鉍物②酸化焰 ③灰黄色	底部
86図 6 PL52	須恵器壺	床上 22cm	口 - 高 < 3.5> 底 (6.0)	小型 ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台	①粗砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③橙色	底部 内黒
86図 7 PL52	須恵器壺	埋土	口 (15.0) 高 < 4.5> 底 -	ロクロ右回転 口縁部直線的に開く 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 小石・ 白色鉍物②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/3 高台欠損
86図 8 PL52	須恵器甕	埋土	口 - 高 < 7.5> 底 (14.0)	平底 直線的に開く	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	底部
86図 9 PL52	須恵器甕	カマド 床上 20cm	口 - 高 - 底 -	ロクロ整形 外面：ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	胴部片

86図 10 PL52	須恵器甕	カマド 床面直上	口 ー 高 ー 底 ー	口縁部外反 口唇部上下に引き出され縁帯をなす	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
86図 11 PL52	灰釉陶器皿	カマド 床上 4 cm	口 12.9 高 3.0 底 6.3	ロクロ左回転 高台断面は長方形 体~口縁やや丸味をもって開く 外面底部回転ヘラナデ 体部ヘラ削り 口縁ヘラナデ 施釉方法 漬け掛け 釉調 灰緑	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁~底部1/2
86図 12 PL52	灰釉陶器皿	カマド 床上 8 cm	口 ー 高 < 2.9 底 7.6	ロクロ回転 高台断面は三日月形 外面底部回転ヘラナデ 施釉方法 漬け掛け 釉調 不透明な緑灰	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄色	底部
86図 13 PL52	灰釉陶器壺	埋土	口 ー 高 < 2.8 底 (7.3)	ロクロ左回転 高台断面は三日月形 外面底部回転ヘラナデ 施釉方法 刷毛塗り 釉調 透明な緑灰	①緻密 ②還元焰 ③灰白色	底部

21号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
88図 1 PL52	土師器坏	床上 14cm	口 12.8 高 3.2 底 7.5	丸底 口縁部外反気味 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：体部~口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	完形 壁からの崩落?
88図 2 PL52	土師器坏	埋土	口 (13.6) 高 < 2.5 底 (9.3)	平底気味 口縁部外反気味 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁~底部1/4
88図 3 PL52	土師器坏	埋土	口 (12.9) 高 < 2.7 底 ー	丸底 口縁部内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁~底部1/5
88図 4 PL52	土師器坏	埋土	口 (12.2) 高 < 2.4 底 (7.0)	丸底 口縁部外反気味 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁~底部1/5
88図 5 PL52	土師器坏	埋土	口 (12.9) 高 < 3.5 底 ー	丸底 口縁部内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁部1/5
88図 6 PL52	土師器坏	埋土	口 (12.9) 高 < 2.5 底 ー	丸底 口縁部直線的に開く 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁部1/5
88図 7 PL52	土師器甕?	床上 3 cm	口 ー 高 < 6.5 底 ー	丸底 外面：ヘラ削り	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	破片
88図 8 PL52	土師器甕	埋土	口 (19.8) 高 < 5.3 底 ー	口縁弱い「コ」の字状を呈す 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：頸部ヘラナデ 口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁部片
89図 9 PL52	土師器甕	床上 9 cm	口 (21.4) 高 < 20.8 底 ー	胴上位最大径 口縁部屈曲し外反 外面：胴下半部斜縦位ヘラ削り 胴上半部斜横位ヘラ削り 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁~胴部1/4
88図 10 PL52	土師器甕	埋土	口 (19.9) 高 < 5.5 底 ー	口縁弱い「コ」の字状を呈す 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁部片
89図 11 PL53	須恵器蓋	床上 106cm	端 14.1 高 2.7 摘 2.4	ロクロ右回転 摘 小型ボタン状 端部内傾気味に折り返す 外面：天井2/3まで回転ヘラ削り	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	完形
89図 12 PL53	須恵器坏	床上 4 cm	口 13.2 高 4.2 底 (8.0)	器肉厚 ロクロ右回転底部糸切り 口縁部直線的に開く 外面：底部周辺ナデ 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	3/4
89図 13 PL53	須恵器坏	カマド 床上 13cm	口 12.9 高 3.7 底 6.8	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部直線的に開く	①粗砂粒 砂多含 ②還元焰 ③灰白色	3/4
89図 14 PL53	須恵器坏	床上 2 cm	口 ー 高 < 3.8 底 (6.8)	ロクロ右回転底部糸切り 外面：底部周辺ヘラナデ	①粗砂粒 砂多含 ②還元焰 ③灰白色	1/2
89図 15 PL53	須恵器坏	埋土	口 (12.6) 高 < 4.1 底 (7.0)	器肉薄 ロクロ右回転底部糸切り 口縁部外反気味 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ・白色微粒含 ②還元焰③灰色	1/4

第VI章 遺物観察表

89図 16 PL53	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 1.6 底 (6.8)	貼付高台外傾 内面：黒色処理 放射状の磨き	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物②酸化焰 ③橙色	底部片
89図 17 PL53	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 2.0 底 (7.9)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台高く外傾	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)		石材
89図 18	PL53	石匙	埋土	長 7.1 幅 4.0 厚 1.0 重 43.6		黒色頁岩
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)		備考
89図 19	PL66	錠	床上 8 cm	長 20.3 幅 0.8 厚 0.6 重 45.6		
89図 20	PL66	刀子	埋土	長 6.3 幅 1.1 厚 0.4 重 6.8		
89図 21	PL66	鎌	床上 7 cm	長 17.4 幅 3.0 厚 0.25 重 65.9		
89図 22	PL66	鉄製品	埋土	長 1.9 幅 0.9 厚 0.9 重 1.8		

22号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
90図 1 PL53	須恵器碗	貯蔵穴 底面 2 cm	口 12.5 高 5.1 底 6.4	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部直線的に開く 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 白色鈹物・小石多②酸化 ③灰オリーブ色	4/5
90図 2 PL53	須恵器碗	床面 - 3 cm	口 (12.0) 高 < 4.8 底 (7.2)	ロクロ左回転底部糸切り 貼付高台 口縁部強く外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい黄橙色	1/4
90図 3 PL53	須恵器碗	貯蔵穴 底面直上	口 11.9 高 4.8 底 6.4	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ 墨書「寺」?	①粗砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③灰白色	口縁~底部1/3
90図 4 PL53	須恵器羽釜	床面直上	口 20.0 高 < 14.3 底 -	胴上位最大径 鑿上向き 口縁内傾	①粗砂粒 小石・ 白色微粒②還元焰 ・もろい③灰色	口縁部片4/5
90図 5 PL53	須恵器羽釜	床面直上	口 (16.8) 高 < 5.0 底 -	口唇部水平	①粗砂粒 小石・ 透明鈹物②酸化焰 ③灰黄色	口縁部片
90図 6 PL53	灰釉陶器皿	床面 - 2 cm	口 (12.6) 高 2.5 底 6.3	大原2号窯式期 ロクロ左回転 高台断面は台形 体部やわらかい丸味 底部回転ナデ 漬け掛け	①緻密 ②還元焰 ③灰白色	1/2

24号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
91図 1 PL53	須恵器杯	床面直上	口 - 高 < 2.7 底 (7.3)	ロクロ右回転底部ヘラ切り 外面：底部周辺ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	体部~底部片
91図 2 PL53	須恵器碗	床上 14cm	口 - 高 < 3.1 底 (8.8)	ロクロ左回転底部糸切り 貼付高台高い	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③オリーブ黄色	底部1/2
91図 3 PL53	須恵器甕	床上 23cm	口 - 高 - 底 -	外面：平行タタキ目 内面：当て具痕	①粗砂粒 小石含 ②酸化焰 ③灰褐色	胴部片

25号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
93図 1 PL53	土師器杯	床上 20cm	口 12.8 高 3.3 底 (8.7)	平底 外面：底部ヘラ削り 体部指頭圧痕残後ナデ 口縁部ナデ 内面：口縁部指頭圧痕残ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁~底部
93図 2 PL53	土師器甕	カマド 床面直上	口 (20.1) 高 < 10.0 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦位 上半部斜横位ヘラ削り 口縁部指頭圧痕残粗いナデ 内面：口縁部ナデ 胴上部ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁~胴部1/3

遺物観察表

93図 3 PL53	土師器甕	カマド 床面直上	口 (22.9) 高 <12.8 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦位 上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴中央部ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁～胴部1/4
93図 4 PL54	土師器甕	床面直上	口 (19.8) 高 <21.7 底 -	口縁「コ」の字状に短く外反 外面：胴下半斜縦位 胴上半部斜横位ヘラ削り 口部縁ナデ 内面：口縁部ナデ 頸～胴中央部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③明赤褐色	口縁～胴部1/3
93図 5 PL54	土師器甕	床面 - 1cm	口 (18.9) 高 <14.3 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部斜縦位 上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁～胴部1/2
93図 6 PL54	土師器甕	カマド 床上 22cm	口 (20.8) 高 <5.8 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半横位ヘラ削り 口縁部指頭圧痕残ヘラナデ後ナデ 内面：口縁～胴上半部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁部1/5
93図 7 PL54	土師器甕	埋土	口 (19.8) 高 <6.2 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部1/5
93図 8 PL54	須恵器蓋	埋土	端 - 高 <2.4 摘 (2.9)	ロクロ右回転 摘 輪状 外面：天井部回転ヘラ削り	①細砂粒 鉄分 ・白色微粒含 ②還元焰 ③灰色	天井部1/4
94図 9 PL54	須恵器坏	カマド 床上 16cm	口 15.0 高 3.9 底 7.8	ロクロ右回転底部系切り 口縁部外反 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄色	口縁～底部1/2
94図 10 PL54	須恵器坏	埋土	口 - 高 - 底 -	底部系切り 外面：墨書「里」?	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	底部片
94図 11 PL54	須恵器坏	埋土	口 (14.4) 高 <3.6 底 7.2	ロクロ右回転底部系切り 口縁部外反気味 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部
94図 12 PL54	須恵器碗	床上 18cm	口 - 高 <2.5 底 6.7	ロクロ右回転底部系切り 貼付高台外傾気味	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	底部
94図 13 PL54	須恵器甕	埋土	口 - 高 <9.4 底 (16.2)	平底 胴部直線的に開く 外面：胴下半部回転ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片
94図 14 PL54	須恵器甕	床上 1cm	口 - 高 <22.8 底 -	胴中位最大径 胴部球状 口縁部屈曲外反 内外面：口縁部ナデ 内面：青海波状当て具痕	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口縁～胴部1/4
94図 15 PL54	須恵器甕	床上 12cm	口 - 高 <13.3 底 (13.4)	ロクロ右回転 胴上部最大径 外面：底部ヘラ削り 胴下位指頭痕残	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部1/4
94図 16 PL54	須恵器甕	床上 10cm	口 - 高 <4.5 底 -	ロクロ右回転 口縁屈曲外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	頸部
94図 17 PL54	須恵器 紡錘車	埋土	口 6.7 厚 1.0 孔 0.8	ロクロ右回転系切り 坏底部二次利用 磨減激しい 中央に穿孔	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)		備考
94図 18	PL66	釘	埋土	長 3.7 幅 0.5 厚 0.4 重 2.1		

26号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
96図 1 PL54	土師器甕	カマド 床面直上	口 (19.8) 高 <13.4 底 -	ロクロ右回転 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 透明鉾 物含 ②酸化焰 ③灰白色	口縁～胴部1/3
96図 2 PL54	土師器甕	カマド 床面直上	口 (22.1) 高 <22.7 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部斜縦位 上半部横位ヘラ削り 口縁下指頭圧痕残ナデ 内面：口縁下位ヘラナデ後ナデ 口縁上位ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁～胴部2/3
96図 3 PL54	土師器甕	カマド 床面直上	口 19.0 高 <21.5 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦位 上半部横位ヘラ削り 内面：口縁～胴上半部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁～胴部4/5

第VI章 遺物観察表

96図 4 PL55	土師器甕	床上 14cm	口 (19.2) 高 > (23.2) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部斜縦位 上 半部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁下ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 白色鉍 物含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口縁～胴部3/5
96図 5 PL55	土師器甕	カマド 床面直上	口 18.8 高 > (17.7) 底 -	胴上半部最大径 口縁「コ」の字状に外反 外面：下斜縦ヘラ削り 上横ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁ヘラナデ後ナデ 胴部ヘラナデ	①細砂粒 雲母少 ・白色鉍物 ②酸 化焰③にぶい橙色	口縁～胴部1/3
96図 6 PL55	土師器甕	カマド 床上 18cm	口 (18.0) 高 > (17.8) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦位 上半部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁～胴部1/4
97図 7 PL55	土師器甕	カマド 床上 8cm	口 (21.8) 高 > (7.7) 底 -	口縁屈曲外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部片
97図 8 PL55	土師器甕	床上 17cm	口 (18.9) 高 > (8.3) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ 胴上半部ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
97図 9 PL55	土師器甕	床上 6cm	口 (15.8) 高 > (8.2) 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴部斜縦位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
97図 10 PL55	土師器甕	埋土	口 - 高 > (4.6) 底 (3.6)	外面：縦位ヘラ削り 内面：ヘラナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	底部片
97図 11 PL55	須恵器坏	床上 15cm	口 13.7 高 3.6 底 6.8	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部直線的に開く 内外面：ナデ	①粗砂粒 小石含 ②還元焰 ③灰白色	完形
97図 12 PL55	須恵器坏	埋土	口 14.0 高 3.7 底 (7.8)	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 透明鉍 物含 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/2
97図 13 PL55	須恵器坏	カマド 床上 25cm	口 13.7 高 4.0 底 7.6	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部直線的に開く 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 小石・ 白色微粒②還元焰 ③浅黄色	口縁～底部2/3
97図 14 PL55	須恵器坏	埋土	口 (14.0) 高 > (4.6) 底 (6.8)	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ・白色微粒含 ②還元焰③灰白色	口縁～底部1/4
97図 15 PL55	須恵器坏	埋土	口 (11.9) 高 > (3.4) 底 -	口縁部外反 内外面：口縁部ナデ 内面：墨書	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片
97図 16 PL55	須恵器碗	床上 19cm	口 15.7 高 > (5.4) 底 (6.2)	ロクロ回転底部糸切り 高台欠損 外面：底部ヘラナデ 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 小石含 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/3
97図 17 PL55	須恵器碗	床上 20cm	口 15.1 高 4.8 底 7.2	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 内面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石含 ②還元焰 ③灰色	完形
97図 18 PL55	須恵器碗	床上 35cm	口 (15.3) 高 4.6 底 (7.4)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁～底部1/3 壁からの崩落?
97図 19 PL55	須恵器碗	カマド 床上 14cm	口 (14.5) 高 5.2 底 6.5	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反 内外面：ナデ	①細砂粒 白色鉍 物含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口縁～底部2/3
97図 20 PL55	須恵器碗	カマド 床上 19cm	口 (14.4) 高 4.5 底 7.8	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部直線的 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 小石含 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部2/3
97図 21 PL55	須恵器碗	床上 15cm	口 (14.4) 高 > (5.7) 底 7.7	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反気味 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰黄色	口縁～底部1/4
98図 22 PL55	須恵器碗	カマド 床上 16cm	口 (13.8) 高 > (5.2) 底 (6.5)	ロクロ回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反気味 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰赤色	口縁～底部1/4
98図 23 PL56	須恵器皿	カマド 床面直上	口 13.4 高 3.3 底 6.8	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ・白色微粒含 ②還元焰③灰白色	口縁～底部2/3

98図 24 PL56	須恵器甕	床上 28cm	口 - 高 < 3.5 底 14.5	貼付高台 高台接地面に円柱状の圧痕有り 外面：胴部横へら削り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	底部
98図 25 PL56	須恵器甕	埋土	口 - 高 < 3.0 底 -	ロクロ右回転 口縁部屈曲直立気味に立ち上がる 外面：平行タタキ目	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	肩部片
98図 26 PL56	須恵器甕	埋土	口 (14.4) 高 < 2.5 底 -	口縁部屈曲直立気味に立ち上がる 凸線めぐる 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③赤灰色	口縁部片
98図 27 PL56	須恵器羽釜	床面直上	口 (17.5) 高 < 5.7 底 -	ロクロ右回転 厚手 鈔小さい	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③赤灰色	口縁部片
98図 28 PL56	灰釉陶器壺	床上 14cm	口 18.8 高 6.5 底 8.9	ロクロ右回転 高台断面は三日月形 体部丸味をもつ 口縁外反 外面：底部回転へらナデ 体部へら削り 内面：ナデ 施釉方法 刷毛塗り 釉調 透明な緑灰	①緻密 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部2/3
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		石材
98図 30	PL56	サイドスクレイパー	埋土	長 6.5 幅 3.6 厚 1.3 重 34.1		細粒輝石安山岩
98図 31	PL56	敲石	床上24cm	長 13.2 幅 5.2 厚 5.5 重 600.0		粗粒輝石安山岩
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		備考
98図 32	PL67	スラグ	埋土	長 2.7 幅 2.3 厚 1.0 重 8.4		
98図 33	PL67	鋤先	埋土	長 19.2 幅 2.3 厚 1.6 重 104.0		
98図 34	PL66	鎌	埋土	長 11.1 幅 3.0 厚 0.3 重 33.4		
98図 35	PL67	釘	埋土	長 7.3 幅 0.8 厚 0.4 重 6.3		

28号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
99図 1 PL56	土師器 小型甕	埋土	口 (9.8) 高 < 4.2 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴部斜横位へら削り 頸部へらナデ 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③明赤褐色	口縁部片
99図 2 PL56	須恵器蓋	埋土	端 - 高 < 1.8 摘 -	ロクロ回転 天井部水平 外面：天井部へら削り	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	1/3
100図 3 PL56	須恵器坏	埋土	口 - 高 < 1.8 底 6.6	ロクロ右回転底部糸切り	①細砂粒 鉄分 ・白色微粒含 ②還元焰③灰色	底部1/2
100図 4 PL56	須恵器坏?	埋土	口 - 厚 0.9 底 -	内面：底部墨書「山」?	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	破片
100図 5 PL56	須恵器坏?	埋土	口 - 厚 0.7 底 -	内面：底部墨書	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	破片
100図 6 PL56	須恵器坏	埋土	口 - 高 < 2.0 底 -	内面：口縁墨書	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	破片
100図 7 PL56	須恵器壺	床上 18cm	口 - 高 < 0.8 底 (6.6)	ロクロ右回転底部糸切り 高台剥離	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部1/2
100図 8 PL56	須恵器壺	床上 9cm	口 - 高 < 2.3 底 (8.1)	ロクロ右回転糸切り 高台高く外傾 体部やや丸味をもつ	①細砂粒 白色鉍 物含 ②還元焰 ③灰白色	底部1/2
100図 9 PL56	須恵器壺	床上 24cm	口 - 高 < 2.8 底 (7.5)	ロクロ右回転底部糸切り 高台高く外傾	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	底部1/2
100図 10 PL56	須恵器 長頸壺	埋土	口 - 高 < 3.6 底 (8.3)	ロクロ右回転 貼付高台 高台厚く低い 体部直立気 味に立ち上がる 外面：体部へら削り	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	底部1/4

第VI章 遺物観察表

30号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
102図 1 PL57	土師器 台付甕	貯蔵穴 底面 19cm	口 - 高 < 3.7 底 8.3	台部彎曲して外反 外面：ヘラナデ後ナデ 胴部との接合部指押さえ 内面：ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含 ②酸化焰③橙色	脚部
102図 2 PL56	土師器甕	埋土	口 (16.0) 高 < 2.9 底 -	口縁部屈曲外反 外面：胴上半部刷毛目？	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
102図 3 PL56	土師器甕	埋土	口 (19.8) 高 < 6.7 底 -	口縁「コ」の字状に外反 凹線めぐる 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
102図 4 PL56	土師器甕	埋土	口 (24.1) 高 < 5.8 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
102図 5 PL56	土師器甕	埋土	口 (19.7) 高 < 4.5 底 -	口縁「コ」の字状に外反 凹線めぐる 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：胴上位ヘラナデ 口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
102図 6 PL57	土師器甕	カマド 床上 12cm	口 (19.8) 高 < 26.0 底 -	胴上最大径 口縁一旦直立し上位外反 外面：胴下縦、上横ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	口～胴下半2/3
103図 7 PL57	土師器甕	カマド 床上 17cm	口 - 高 < 19.9 底 -	胴上位最大径 口縁部直立 外面：胴下半部縦位ヘラ削り 胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	頸～胴部1/4
103図 8 PL57	須恵器壺	貯蔵穴 底面 24cm	口 (15.8) 高 5.8 底 (7.9)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反気味 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	2/3
103図 9 PL57	須恵器壺	埋土	口 (16.4) 高 5.0 底 (9.0)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	1/4
103図 10 PL57	須恵器壺	埋土	口 (15.4) 高 < 5.9 底 (6.5)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ 外面：墨書「西」	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰・ もろい③橙色	1/3
103図 11 PL57	須恵器壺	床上 16cm	口 - 高 < 3.2 底 (7.7)	器肉厚 ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	底部片
103図 12 PL57	須恵器皿	埋土	口 (13.5) 高 < 2.7 底 (6.8)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	1/6
103図 13 PL57	須恵器皿	埋土	口 (11.5) 高 < 1.9 底 -	器肉厚 ロクロ右回転 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	破片
103図 14 PL57	須恵器甕	カマド 床上 8 cm	口 (39.2) 高 < 10.2 底 -	口縁外反 口唇部上下につまみ出して一条凸帯 外面：二段波状文 内面：ヘラナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
103図 15 -	須恵器甕	床上 20cm	口 - 高 - 底 -	外面：平行タタキ目 内面：同心円状あて具痕	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	胴部片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		石材
103図 17	PL57	石鏃	埋土	長 2.0 幅 1.8 厚 0.5 重 1.7		黒曜石
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		備考
103図 18	PL66	鏹子	埋土	長 8.5 幅 1.7 厚 0.6 重 6.5		
103図 19	PL66	釘	埋土	長 7.3 幅 0.7 厚 0.5 重 5.8		

31号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
104図 1 PL57	須恵器坏	埋土	口 (14.0) 高 < 2.4 底 -	ロクロ回転 口縁部外反	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片

遺物観察表

104図 2 PL57	須恵器坏	埋土	口 ー 高 < 2.4 底 ー	ロクロ回転底部ヘラ切り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	底部片
104図 3 PL57	須恵器甕	床面 ー 9 cm	口 ー 高 < 5.5 底 (17.0)	器肉厚 体部直線的に開く 外面：胴下半部ヘラ削り 内面：胴下半部同心円状の当て具痕	①細砂粒 白色鈹物含 ②還元焰 ③赤灰色	底部片
104図 4 PL57	須恵器甕	床上 3 cm	口 ー 高 < 7.7 底 ー		①粗砂粒 小石・白色鈹物②還元焰 ③青灰色	口縁部片

32号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
106図 1 PL57	土師器坏	床上 19cm	口 (11.6) 高 < 3.6 底 (4.3)	器肉厚 底径小さい 口縁部直線的に開く 外面：底～体部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：ナデ	①粗砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③褐色	口縁～底部1/2
106図 2 PL57	土師器坏	床上 25cm	口 (12.0) 高 < 3.2 底 (6.2)	口縁部外反 外面：底～体部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：ナデ	①細砂粒 雲母・白色微粒②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁～底部1/4
106図 3 PL57	土師器坏	床上 13cm	口 (10.8) 高 < 2.8 底 (5.9)	器肉厚 雑 口縁部直線的に開く 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③赤褐色	口縁～底部1/5
106図 4 PL57	土師器 台付甕	埋土	口 ー 高 < 2.1 底 (7.2)	器肉厚 台部外反 内外面：ナデ	①粗砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③赤褐色	脚部2/3
106図 5 PL57	土師器 台付甕	第2土坑 底面 67cm	口 ー 高 < 3.6 底 (10.5)	台部外反 内外面：ナデ	①細砂粒 雲母・白色微粒②酸化焰 ③橙色	脚部1/3
106図 6 PL57	土師器 台付甕	第2土坑 底面 74cm	口 ー 高 < 2.9 底 8.3	器肉厚 台部外反 内外面：ナデ	①粗砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③明赤褐色	脚部
106図 7 PL58	土師器 小型甕	床面 14cm	口 (10.1) 高 < 10.6 底 ー	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴下半部縦位、上半部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①粗砂粒 雲母・白色微粒含 ②酸化焰③赤褐色	口縁～底部2/3
106図 8 PL58	土師器 小型甕	埋土	口 (9.9) 高 < 4.3 底 ー	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口唇部ナデ	①粗砂粒 雲母・白色微粒②酸化焰 ③明赤褐色	口縁～胴部1/4
106図 9 PL58	土師器甕	埋土	口 (17.8) 高 < 8.3 底 ー	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①粗砂粒 雲母・白色微粒含 ②酸化焰③赤褐色	口縁～胴部1/3
106図 10 PL58	土師器甕	第2土坑 底面 67cm	口 (19.0) 高 < 7.5 底 ー	器肉厚 口縁屈曲し外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①粗砂粒 雲母・白色微粒含 ②酸化焰③赤褐色	口縁～胴部1/4
106図 11 PL58	土師器甕	P4 底面 36cm	口 (18.8) 高 < 6.7 底 ー	器肉厚 口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ 胴上半部ヘラナデ	①粗砂粒 雲母・白色微粒②酸化焰 ③明赤褐色	口縁～胴部1/5
106図 12 PL58	須恵器坏	埋土	口 (12.7) 高 < 3.7 底 (5.3)	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部直線的に開く 内外面：ナデ	①細砂粒 白色微粒含 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部片
106図 13 PL58	須恵器碗	埋土	口 (12.0) 高 < 3.5 底 ー	ロクロ回転 口縁部外反気味 内外面：口縁部ナデ 内面：黒色処理	①細砂粒 白色微粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁～底部1/3
106図 14 PL58	須恵器碗	埋土	口 ー 高 < 1.9 底 (7.5)	器肉厚 貼付高台 高台高く外傾 内外面：ヘラナデ後ナデ	①粗砂粒 雲母・白色微粒②酸化焰 ③暗赤褐色	高台部1/2
106図 15 PL58	須恵器碗	床上 4 cm	口 (14.2) 高 4.6 底 6.8	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台雑 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ 内面：体部墨書「丁」	①粗砂粒 雲母 ②還元焰 軟 ③灰黄色	口縁～底部1/2
106図 16 PL58	須恵器碗	床上 6 cm	口 (13.7) 高 5.3 底 6.5	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台雑 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 雲母・白色鈹物含②還元焰・軟 ③灰色	口縁～底部1/2

第VI章 遺物観察表

106図 17 PL58	須恵器壺	床面直上	口 14.8 高 4.7 底 6.4	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 雲母・ 白色微粒②還元焰 ③灰白色	口縁～底部3/4	
106図 18 PL58	須恵器壺	埋土	口 - 高 < 4.4 底 6.4	ロクロ回転底部糸切り 貼付高台細く高い	①細砂粒 鉄分 白色微粒②還元焰 ③灰色	口縁～底部3/4	
106図 19 PL58	須恵器耳皿	4土坑 11cm	口 8.9×4.6 高 3.0 底 5.4	ロクロ右回転底部糸切り	①細砂粒 鉄分 無色鉱物含 ②還元焰③灰色	完形	
107図 20 PL58	須恵器甕	床上 2cm	口 - 高 < 6.1 底 (12.2)	外面：底部～体部ヘラ削り	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰オリーブ色	底部1/5	
107図 21 PL58	須恵器羽釜	床上 34cm	口 (20.2) 高 < 6.4 底 -	胴部上位最大径 髷上向き	①粗砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③黄褐色	口縁部片	
107図 22 PL58	須恵器 長頸壺	床上 29cm	口 - 高 < 5.2 底 (8.3)	器肉厚 ロクロ右回転 貼付高台 内外面：高台貼付時ヘラナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部1/5	
107図 23 PL58	灰釉陶器 短頸壺蓋	床上 25cm	端 - 高 < 2.0 摘 (2.1)	ロクロ回転 外面のみ施釉 釉調 淡緑灰	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	天井部片	
107図 24 PL58	灰釉陶器壺	床上 25cm	口 (15.0) 高 4.6 底 (6.0)	ロクロ回転 高台断面は三日月形 体部やや丸味をも って開く 口縁一旦くびれ外反 外面：底部回転ヘラ ナデ 体部回転ヘラ削り 内面のみ釉 釉調 透明な 緑灰 刷毛塗り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/3	
107図 25 PL58	灰釉陶器壺	床上 7cm	口 (14.0) 高 4.6 底 (7.0)	ロクロ回転 高台断面は三日月形 体部ゆるやかな丸 味口縁外反 外面：底部回転ヘラナデ 体部回転ヘラ 削り 施釉方法 漬け掛け 釉調 淡緑灰	①緻密 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/4	
107図 26 PL58	灰釉陶器壺	床上 18cm	口 13.0 高 2.6 底 6.0	ロクロ回転 高台断面は三日月形 体部ややふくらむ 口縁外反 外面：底部回転ヘラナデ 体部回転ヘラ削 り 口縁部回転ヘラナデ 釉調 淡緑灰	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/2	
107図 27 PL58	灰釉陶器 耳皿	床上 20cm	口 - 高 < 3.0 底 (6.0)	ロクロ右回転糸切り 施釉方法 刷毛塗り 釉調 淡 緑灰	①緻密 ②還元焰 ③淡緑灰色	1/3	
107図 28 PL59	灰釉陶器壺	床上 4cm	口 - 高 < 5.9 底 (10.5)	ロクロ左回転 高台断面は台形 外面：底部回転ヘラナデ 体部回転ヘラ削り 釉調 不透明な灰白	①緻密 ②還元焰 ③灰白色	底部1/4	
107図 29 PL59	灰釉陶器壺	埋土	口 - 高 < 8.5 底 -	ロクロ回転 釉調 淡緑灰 外面：体部ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	胴部片	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)			石材
108図 31	PL59	使用痕剥片	床上17cm	長 4.2 幅 2.3 厚 1.2 重 9.5			黒曜石
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)			備考
107図 32	PL67	焼印	床上1cm	長 4.7 幅 4.2 厚 4.5 重 90.1			
108図 33	PL67	スラグ	床上25cm	長 8.2 幅 6.0 厚 3.3 重 147.8			
108図 34	PL67	鋤先	床面-12cm	長 11.4 幅 9.7 厚 1.4 重 82.2			
108図 35	PL67	釘?	埋土	長 5.6 幅 0.6 厚 0.6 重 8.6			

33号住居

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
109図 1 PL59	土師器坏	埋土	口 (12.9) 高 < 2.3 底 -	口縁部外反 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：ナデ	①細砂粒 白色鉍 物含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
109図 2 PL59	土師器坏	埋土	口 12.6 高 3.9 底 -	器肉厚 口縁部外反 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：底部ヘラナデ	①細砂粒 雲母多 白色微粒②酸化焰 ③明赤褐色	2/3
109図 3 PL59	土師器甕	埋土	口 (20.1) 高 < 5.1 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴上半部横位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部片

109図 4 PL59	須恵器坏	埋土	口 (14.9) 高 < 2.6 底 (12.0)	ロクロ左回転 口縁部直線的に開く 外面：底部回転ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片
109図 5 PL59	須恵器皿	埋土	口 (14.8) 高 < 3.6 底 (8.5)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反気味 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	1/4
109図 6 PL59	須恵器甕	埋土	口 - 高 < 5.3 底 -	胴に丸味をもつ	①細砂粒 鉄分・白色微粒含 ②還元焰③灰色	胴部片
109図 7 PL59	須恵器 長頸壺	埋土	口 - 高 < 3.7 底 -	ロクロ回転 肩刺突文	①細砂粒 ②還元焰 ③黒褐色	肩部片
109図 8 PL59	緑釉陶器皿	埋土	口 - 高 - 底 -	ロクロ成形 回転方向不明 貼付高台 内面：ヘラ磨き 内面底部に三又トチン痕が残る 釉調 濃緑色 東海猿投窯産 9C後半	①細砂粒 ②還元焰 ③オリーブ灰色	底部片

1号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
110図 1 PL59	土師器坏	7号ピット 埋土	口 (14.1) 高 < 2.0 底 -	丸底 口縁部内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片

2号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
112図 1 PL59	須恵器坏	3号ピット 底面 15cm	口 (11.4) 高 3.4 底 (5.9)	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部外反気味 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分多 白色微粒②還元焰 ③灰白色	口縁～底部
112図 2 PL59	須恵器坏	4号ピット 埋土	口 12.4 高 3.7 底 8.4	ロクロ回転 口縁部外反気味 外面：底部回転ヘラナデ 磨耗激しい 口縁部ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/4
112図 3 PL59	須恵器坏	5号ピット 埋土	口 - 高 < 1.2 底 (8.0)	ロクロ回転底部糸切り	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	底部片
112図 4 PL59	須恵器坏	8号ピット 60cm	口 - 高 < 1.9 底 8.0	ロクロ右回転底部糸切り	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	底部片
112図 5 PL59	須恵器甕	8号ピット 60cm	口 - 高 < 4.9 底 -	ロクロ回転 肩張る	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	破片

4号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
114図 1 PL59	須恵器坏	2号ピット 40cm	口 (12.9) 高 3.6 底 (7.4)	ロクロ回転底部ヘラ削り後ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/5

6号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
116図 1 PL59	須恵器甕	埋土	口 - 高 < 6.8 底 -	胴丸味をもつ 口縁部屈曲して直立する 外面：胴上ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	頸部片？
116図 2 PL59	須恵器坏	1号ピット 埋土	口 (12.4) 高 4.1 底 (6.8)	ロクロ右回転底部糸切り 外面：体部ロクロ痕顕著 内外面：口縁部横ナデ	①細砂粒 鉄分多 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/6

第VI章 遺物観察表

116図 3 PL59	土師器坏	2号ピット 埋土	口 (13.0) 高 < 2.0 底 -	丸底 口縁部内彎 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 白鈹・ 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁部片
116図 4 PL59	須恵器蓋	2号ピット 埋土	端 (15.9) 高 < 1.3 摘 -	端部彎曲 端部垂直に折れる	①細砂粒 鉄分多 ②還元焰 ③灰色	端部片
116図 5 PL59	土師器坏	3号ピット 埋土	口 (12.0) 高 < 2.0 底 -	平底気味 口縁部内彎 外面：底部ヘラケズリ 口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁部片
116図 6 PL59	土師器坏	3号ピット 埋土	口 (13.0) 高 < 3.2 底 -	平底 口縁部やや丸味をもって立ち上がる 外面：底部～体部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 白鈹多 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
116図 7 PL59	須恵器坏	3号ピット 埋土	口 (10.8) 高 3.6 底 6.8	ロクロ回転 口縁部やや丸味をおびる 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分含 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/6
116図 8 PL59	須恵器碗	3号ピット 埋土	口 - 高 < 3.3 底 (13.0)	器肉厚 ロクロ右回転底部ヘラ切り 高台外傾 体部やや丸味をもつ 外面：体部下位ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	底部1/4

7号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
118図 1 PL59	土師器坏	確認面 直上	口 (11.9) 高 3.4 底 (6.2)	雑 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石・ 雲母多含②酸化焰 ③明赤褐色	口～底部2/3
118図 2 PL60	須恵器坏	確認面 直上	口 (11.1) 高 4.0 底 (8.0)	ロクロ回転底部ヘラ切り 口縁部直線的に開く 内外面：口縁部ナデ 外面自然釉	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口～底部1/4
118図 3 PL60	須恵器碗	確認面 直上	口 - 高 < 3.5 底 6.0	器肉厚 ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 外傾	①粗砂粒 雲母 ②酸化焰 ③灰白色	底～胴部片
118図 4 PL60	須恵器甕	確認面 直上	口 - 高 < 4.6 底 7.7	厚く重い ロクロ右回転底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 貼付高台台形 体部直線的に立ち上がる	①細砂粒 小石・ 白色微粒 ②酸化 硬 ③にぶい黄色	底～胴部
118図 5 PL60	土師器坏	1号ピット 17cm	口 (13.0) 高 < 3.1 底 -	平底 口縁部やや丸味をもって開く 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
118図 6 PL60	須恵器坏	1号ピット 70cm	口 - 高 < 2.0 底 7.0	器肉厚 ロクロ右回転底部糸切り	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	底部完形
118図 7 PL60	土師器坏	2号ピット 埋土	口 - 高 < 6.4 底 -	丸底 体部と口縁を画す稜線 口縁部外反 外面：底部～体部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 硬い ③橙色	破片
118図 8 PL60	土師器坏	2号ピット 埋土	口 (12.2) 高 < 2.8 底 (9.0)	平底 口縁部やや丸味 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色鈹 物多 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
118図 9 PL60	土師器碗	2号ピット 64cm	口 13.0 高 5.7 底 6.4	器肉厚 ロクロ右回転 高台高く外反 体部やや膨らむ 外面：体部ヘラ削り 口縁部ナデ	①粗砂粒 雲母多 ②酸化焰 ③橙色	ほぼ完形
119図 10 PL60	須恵器蓋	2号ピット 埋土	端 (16.7) 高 < 2.6 摘 -	ロクロ右回転 端部彎曲 口唇部垂直に折る 外面：天井回転ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片
119図 11 PL60	須恵器坏	2号ピット 埋土	口 (13.8) 高 < 3.0 底 (9.0)	ロクロ右回転 体部～口縁部直線的に開く 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片
119図 12 PL60	土師器坏	6号ピット 埋土	口 (12.0) 高 < 3.2 底 -	体部と口縁部を画す稜線 外面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
119図 13 PL60	土師器坏	6号ピット 埋土	口 (11.2) 高 < 3.0 底 -	丸底 体部底から稜線をもって内彎 口縁内彎気味 外面：底部～体部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 雲母多 白色微粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁～底部1/3

遺物観察表

119図 14 PL60	土師器坏	6号ピット 埋土	口 (12.0) 高 < 2.9> 底 -	丸底 口縁部丸味をもつ 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁～底部1/5
119図 15 PL60	須恵器坏	6号ピット 38cm 埋土	口 (12.7) 高 3.8 底 (6.8)	ロクロ右回転糸切り 口縁部やや膨らみを持って開く	①細砂粒 鉄 白 鉱多い ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/2
119図 16 PL60	須恵器碗	7号ピット 埋土	口 (16.0) 高 < 5.4> 底 -	ロクロ右回転 口縁部直線的に開く	①粗砂粒 小石含 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片
119図 17 PL60	須恵器碗	7号ピット 埋土	口 (14.0) 高 < 3.0> 底 -	ロクロ右回転 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 小石含 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
119図 18 PL60	須恵器坏	12号ピット 埋土	口 - 高 - 底 (10.0)	ロクロ回転 底部ヘラ切り後周辺手持ちヘラ削り 肩部刺突文	①粗砂粒 小石 ②還元焰 ③灰色	底部片
119図 19 PL60	須恵器 長頸壺	13号ピット 埋土	口 - 高 < 2.3> 底 -	ロクロ回転 体部回転ヘラケズリ	①細砂粒 鉄分 多含 ②還元焰 ③褐灰色	肩部片
119図 20 PL60	須恵器碗	13号ピット 埋土	口 (12.2) 高 < 4.2> 底 -	ロクロ回転 口縁部直線的 外面：自然釉 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
119図 21 PL60	須恵器坏	13号ピット 埋土	口 (11.8) 高 3.5 底 (7.0)	ロクロ回転底部糸切り後手持ちヘラナデ 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/6
119図 22 PL60	須恵器坏	13号ピット 埋土	口 (12.4) 高 < 3.4> 底 (9.7)	ロクロ右回転 底部回転ヘラ切り周辺ナデ 外面：体部下位ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/6
119図 23 PL60	須恵器坏	13号ピット 埋土	口 (13.2) 高 < 3.4> 底 (8.0)	ロクロ回転 底部糸切り後周辺手持ちヘラケズリ 体部やや丸味 口縁部直線的 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/6
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)		石材
119図 24	PL60	スクレイパー	床上30～40cm?	長 7.0 幅 8.5 厚 1.5 重 96.4		黒色頁岩

8号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
121図 1 PL60	土師器坏	2号ピット 埋土	口 (12.1) 高 < 2.5> 底 (9.0)	平底 口縁部直線的に開く 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①雲母多 白色微 粒 ②酸化焰 ③橙色	口縁～底部1/6
121図 2 PL60	須恵器 長頸壺	3号ピット 埋土	口 - 高 < 7.7> 底 -	下位二条沈線	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	頸部?
121図 3 PL60	須恵器碗	4号ピット 埋土	口 - 高 < 2.2> 底 (9.0)	ロクロ回転 貼付高台	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	底部片
121図 4 PL60	須恵器蓋	5号ピット 埋土	端 (17.4) 高 < 3.7> 摘 (4.2)	ロクロ右回転 摘 輪状 端部外傾気味に折れる 外面：天井部1/3まで回転ヘラ削り	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	破片
121図 5 PL60	須恵器坏	5号ピット 埋土	口 - 高 < 1.2> 底 (7.0)	ロクロ右回転底部糸切り 厚い	①細砂粒 小石・ 白色微粒②還元焰 ③灰白色	底部片
121図 6 PL60	土師器坏	7号ピット 埋土	口 (13.0) 高 < 2.0> 底 -	外面：体部ヘラ削り 口縁部ヘラナデ 内面：口縁部ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部片
121図 7 PL60	土師器坏	9号ピット 埋土	口 (12.0) 高 < 3.4> 底 -	口縁部内彎気味 外面：底部ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部片
121図 8 PL60	須恵器坏	9号ピット 埋土	口 (14.0) 高 < 2.6> 底 -	ロクロ回転 口縁部直線的に開く ロクロ痕顕著に残す	①細砂粒 鉄分多 ②酸化焰 ③灰色	口縁部片

第VI章 遺物観察表

121図 9 PL60	須恵器坏	9号ビット 埋土	口 - 高 < 3.5> 底 (8.0)	ロクロ右回転底部糸切り 薄い 体部直線的に開く	①細砂粒 小石・ 白色微粒②還元焰 ③灰白色	胴～底部片
-------------------	------	-------------	-----------------------------	-------------------------	------------------------------	-------

9号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
123図 1 PL60	土師器坏	確認面 - 8cm	口 - 高 < 2.7> 底 11.3	平底 大型 外面：底部～体部ヘラ削り	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	底部片
123図 2 PL60	土師器坏	8号ビット 埋土	口 (11.0) 高 < 3.3> 底 -	体部と口縁を画す稜線をもつ 口縁部内彎 外面：底部ヘラケズリ 口縁下位ヘラナデ 上位ナデ 内面：口縁ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
123図 3 PL60	須恵器碗	8号ビット 埋土	口 (15.0) 高 < 5.7> 底 -	ロクロ回転 体部膨らみをもつ 口縁部外反気味 内面：体部縦位ヘラ磨き 口縁部横位ヘラ磨き	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁部片 土師質?
123図 4 PL61	土師器坏	8号ビット 埋土	口 (14.0) 高 < 3.6> 底 -	口縁部内彎 一条沈線めぐる 外面：体部ヘラ削り 口縁部ヘラナデ 内面：口縁部ナデ	①雲母多 ②酸化焰 脆い ③にぶい赤褐色	口縁部片
123図 5 PL61	須恵器坏	8号ビット 埋土	口 (12.0) 高 4.3 底 (7.5)	ロクロ回転底部糸切り 口縁部やや膨らみをもつ 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/5
123図 6 PL61	須恵器碗	8号ビット 埋土	口 (13.0) 高 5.2 底 (5.4)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①粗砂粒 白色微 粒②酸化焰 脆い ③灰黄色	口縁～底部1/3
123図 7 PL61	灰釉陶器碗	8号ビット 埋土	口 - 高 < 3.1> 底 7.0	ロクロ回転 高台断面は三日月形 外面：底部回転ヘラナデ 施釉方法 刷毛塗り 重ね 焼き 釉調 淡緑	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部4/5
123図 8 PL61	須恵器坏	埋土	口 (14.0) 高 < 2.5> 底 -	ロクロ回転 口縁外反気味 外面ロクロ痕残す	①細砂粒 鉄分多 白色微粒含 ②還元焰③灰白色	口縁部片

10号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
124図 1 PL61	土師器坏	確認面 直上	口 (11.4) 高 < 3.0> 底 -	底部平底気味 口縁部内彎気味 内外面：口縁部ヘラナデ後ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口～胴部1/4
124図 2 PL61	須恵器皿	11号ビット 埋土	口 (14.0) 高 2.7 底 (7.0)	ロクロ回転底部糸切り 口縁部外反 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分多 ②還元焰 ③灰色	1/4
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)		備考
125図 3	PL67	鑿	掘立底面	長 12.0 幅 3.5 厚 2.8 重 160.0		

11号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
126図 1 PL61	土師器坏	1号ビット 埋土	口 (11.0) 高 < 2.3> 底 -	丸底気味 外面：底部ヘラ削り 口縁部ヘラナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部片
126図 2 PL61	土師器坏	2号ビット 埋土	口 (19.9) 高 < 6.7> 底 -	丸底 底部と口縁部の間に稜線 口縁部直立 外面：体部ヘラ削り 口縁部ナデ 大型	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁～底部1/5
126図 3 PL61	須恵器坏	2号ビット 埋土	口 - 高 < 2.5> 底 6.6	ロクロ右回転底部糸切り 外面：底部墨書「丁」	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	底部片
126図 4 PL61	須恵器坏	2号ビット 埋土	口 - 高 < 3.6> 底 (7.5)	ロクロ右回転底部糸切り 高台剥離	①細砂粒 鉄分多 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/5

13号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
128図 1 PL61	土師器坏	1号ピット 埋土	口 (13.0) 高 < 2.8 底 -	口縁部内彎 外面：底部ヘラ削り 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒多 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
128図 2 PL61	須恵器坏	1号ピット 埋土	口 (12.0) 高 < 2.7 底 -	ロクロ回転 口縁部外反 外面：ロクロ痕顕著	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰色	口縁部片
128図 3 PL61	須恵器瓶?	2号ピット 埋土	口 (11.0) 高 < 5.6 底 -	直線的に立ち上がる 二条の沈線	①細砂粒 鉄分多 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
128図 4 PL61	須恵器坏	3号ピット 埋土	口 - 高 < 2.3 底 (9.0)	ロクロ回転 厚い 体部直線的に開く 外面：底部回転ヘラナデ 体下部ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③浅黄橙色	胴~底部片

15号掘立柱建物

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
128図 1 PL61	須恵器坏	3号ピット 埋土	口 (12.0) 高 < 3.5 底 -	ロクロ回転 口縁部外反気味 外面：ロクロ痕顕著に残す	①細砂粒 透明粒 子多 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片

1号溝

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
131図 1 PL61	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 2.7 底 (8.0)	ロクロ回転 高台外傾	①細砂粒 鉄分 白色鉱物②還元焰 ③灰色	底部片
131図 2 PL61	須恵器 長頸壺	埋土	口 - 高 < 6.1 底 -	ロクロ右回転	①細砂粒 小石含 ②還元焰 脆い ③灰色	頸部?
131図 3 PL61	灰釉陶器碗	埋土	口 - 高 < 1.4 底 (7.7)	高台断面は三日月形 外面：底部回転ヘラナデ 施釉 方法 刷毛塗り? 釉調 緑灰	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	底部片

2号溝

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考	
131図 1 PL61	須恵器坏	埋土	口 - 高 < 3.1 底 (5.6)	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部内彎気味 外面：ロクロ整形痕明瞭	①細砂粒 金鉱・ 雲母含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	底~胴部	
131図 2 PL61	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 1.7 底 (5.4)	外面：底部回転ヘラナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片	
131図 3 PL61	須恵器甕	埋土	口 (23.6) 高 < 9.4 底 -	ロクロ右回転 胴部あまり膨らみを持たない 口縁部屈曲して外反する 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口~胴部片?	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)			石材
131図 4	PL67	敲石	埋土	長 10.3 幅 6.3 厚 5.3 重 500.0			粗粒輝石安山岩

3号溝

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
132図 1 PL61	土師器坏	埋土	口 (13.3) 高 < 2.2 底 -	口縁部外反気味 外面：体部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鉱物②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片

第VI章 遺物観察表

132図 2 PL61	須恵器碗	埋土	口 (13.8) 高 < 3.7 底 -	ロクロ右回転 体部やや膨らむ 口縁部外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白鈹多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
-------------------	------	----	----------------------------	-----------------------------------	----------------------------	------

4号溝

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考	
132図 1 PL61	土師器坏	埋土	口 (11.8) 高 < 2.9 底 -	平底気味 口縁部内彎気味 外面：底部ヘラ削り 体部ヘラナデ 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁部1/3	
132図 2 PL61	土師器坏	埋土	口 (12.9) 高 < 2.8 底 -	平底気味 口縁部内彎気味 外面：底部ヘラ削り 体部粗いヘラナデ 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片	
132図 3 PL61	土師器坏	埋土	口 (13.8) 高 < 2.6 底 -	口縁部直線的に開く 外面：体部ヘラナデ 口縁部ナデ 内面：口縁部～体部粗い放射状磨き	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物②酸化焰 ③橙色	口縁部片	
132図 4 PL61	土師器 小型甕	埋土	口 (9.1) 高 < 3.6 底 -	肩張る 口縁部屈曲し外反 外面：胴部ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	①細砂粒 雲母・ 白色鈹物②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部片	
132図 5 PL61	土師器甕	埋土	口 (24.4) 高 < 3.3 底 -	厚手 外面：口唇部工具押さえ痕巡る	①粗砂粒 雲母多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片	
132図 6 PL62	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 1.4 底 -	外面：底部窯印「×」	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	底部	
132図 7 PL62	須恵器碗	埋土	口 (13.9) 高 < 4.6 底 (4.8)	ロクロ右回転 貼付高台低い 内外面：ナデ	①細砂粒 白色鈹 物多含 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/4	
132図 8 PL62	内耳鍋	埋土	口 - 高 < 3.5 底 -	内耳鍋の口縁部小片 耳の貼り付け部付近のため一部 変形する	①細砂粒 金色鈹 物混 ③橙色	口縁部片 中世	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)			備考
132図 10	PL67	鉸具	埋土	長 4.7 幅 3.7 厚 0.7 重 28.6			
132図 11	PL67	釘	埋土	長 3.8 幅 0.8 厚 0.9 重 6.1			
132図 12	PL67	釘	埋土	長 3.5 幅 0.6 厚 1.1 重 7.4			
132図 13	PL67	鉄製品	埋土	長 2.2 幅 2.5 厚 0.2 重 4.9			
132図 14	PL67	銅製品	埋土	長 2.7 幅 0.6 厚 0.65 重 6.6			
132図 15	PL67	鉄製品	埋土	長 3.7 幅 0.9 厚 0.2 重 2.6			
132図 16	PL67	釘	埋土	長 3.2 幅 0.5 厚 0.2 重 1.8			

5号溝

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考	
133図 1 PL62	土師器甕	埋土	口 - 高 < 4.3 底 -	口縁「コ」の字状に外反 外面：胴横ヘラ削り 口縁部ナデ 内面：胴ヘラナデ	①細砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③橙色	口縁部片	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm, g)			石材
133図 2	PL62	敲・磨石	埋土	長 9.3 幅 4.6 厚 1.7 重 140.4	雲母石英片岩		

7号溝

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
134図 1 PL62	瀬戸・美濃 陶器鉢	埋土	口 (21.0) 高 < 9.3 底 -	口縁部は外面に折り返す 内面から体部外面下位まで 灰釉を施す	①砂粒多混 ③灰白色	口縁部片 19世紀前半
134図 2 PL62	須恵器碗	埋土	口 - 高 < 2.4 底 (10.4)	ロクロ回転 底部ヘラ切り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	底部1/4

遺物観察表

134図 3 PL62	志戸呂陶器 灯明皿受け 皿	埋土	口 (9.1) 高 2.2 底 4.8	内面に鉄泥を施す 受け部は高く扱いはアーチ状のも のを一カ所に設ける	①細砂粒 ③橙色	ほぼ完形 18世紀
134図 4 PL62	丹波・信楽 系陶器 播鉢	埋土	口 — 高 > 3.5 底 (16.7)	焼締陶器 内面使用により磨減する	①粗砂粒 小石多 ・白色鈹物 ③灰褐色	底部片 江戸時代
134図 5 PL62	在地土器 不明土製品	埋土	口 (2.8) 高 > 6.4 底 (1.1)	江戸時代から近代の土器を再調整し、転用したと考え られる 用途は不明	①細砂粒 白色鈹 物多混 ③明赤褐 色	口縁部片
134図 8 PL62	軒丸瓦	埋土	口 (7.7) 高 (11.7) 厚 1.8	瓦頭面は接合部から欠損する	①緻密 白色粒子 混 ②還元焰 ③灰色	破片 時期不詳 (江戸以降)
135図 9 PL62	棧瓦?	埋土	口 (11.3) 高 > 6.3 厚 1.7	小片のため明確ではないが、棧瓦片と考えられる	①緻密 白色粒子 混 ②還元焰 ③灰色	破片 時期不詳 (江戸以降)
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)		石材
134図 6	PL62	石錘	埋土	長 5.6 幅 4.0 厚 0.7 重 32.7		緑色片岩
135図 7	PL62	石塔	底面直上	長 24.5 幅 15.9 厚 13.0 重 10.4kg		粗粒輝石安山岩
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)		備考
135図 10	PL68	釘	埋土	長 7.2 幅 0.8 厚 0.7 重 9.0		

8号溝

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
136図 1 PL62	土師器甕	埋土	口 (20.1) 高 > 3.4 底 —	口縁「コ」の字状に外反 外面：口縁部ナデ 口唇部ヘラナデ 内面：口縁部ヘラナデ	①細砂粒 白色鈹 物多含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
136図 2 PL62	土師器甕	埋土	口 (19.7) 高 > 3.4 底 —	口縁「コ」の字状に外反 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 金色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
136図 3 PL62	須恵器坏	埋土	口 — 高 > 1.5 底 (10.0)	底部回転糸切り後周辺回転ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部1/4
136図 4 PL62	須恵器碗	埋土	口 (13.6) 高 > 4.3 底 —	ロクロ右回転 口縁部外反気味 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 白色鈹 物含 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片
136図 5 PL62	須恵器甕	埋土	口 — 高 > 3.3 底 (17.9)	ロクロ左回転 外面：体下部回転ヘラ削り 回転ヘラナデ	①細砂粒 鉄分多 ②還元焰 ③灰白色	底部片

9号溝

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
136図 1 PL62	肥前磁器? 小杯	埋土	口 (7.0) 高 > 2.7 底 —	残存部に染め付けはない 胎土が灰白色を呈するため に器表は青磁に近い色調を呈する	①緻密 透明釉 ③明オリブ灰色	江戸時代
136図 2 PL62	肥前陶器 呉器手碗	埋土	口 — 高 > 3.5 底 (4.4)	高台は小さく、内部の扱いは深い	①細砂粒 透明釉 ③オリブ黄色	17世紀後半
136図 3 PL62	肥前陶器 陶胎染付碗	埋土	口 — 高 > 4.3 底 —	外面に雑な染め付け 釉には貫入が入る	①細砂粒 透明釉 ③明オリブ灰色	17世紀後半～ 18世紀
136図 4 PL62	肥前陶器 仏飯器	埋土	口 (7.0) 高 > 2.8 底 —	口縁部外面に型紙による雨降り文を巡らす	①緻密 透明釉 ③明緑灰色	18世紀前半
136図 5 PL62	肥前磁器皿	埋土	口 (10.0) 高 > 3.3 底 —	波佐見系 器壁厚い 内外面に雑な染め付け	①緻密 透明釉 ③明緑灰色	18世紀後半～ 19世紀前半

第VI章 遺物観察表

4号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
137図 1 PL62	須恵器甕	埋土	口－ 高〈6.0〉 底－	ロクロ整形	①細砂粒 白色鉍 物含 ②還元焰 ③灰白色	破片

5号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
137図 1 PL62	土師器甕	埋土	口(16.9) 高〈6.1〉 底－	口縁部屈曲し外反する 外面：胴上半へら削り 口縁部ナデ 内面：へらナデ 口縁部ナデ 指頭圧痕残る	①細砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 ③にぶい赤褐色	口縁部片
137図 2 PL62	須恵器蓋	埋土	口－ 高〈1.8〉 摘 3.9	ロクロ右回転 摘 輪状 外面：天井部回転へら削り	①細砂粒 白色鉍 物含 ②還元焰 ③灰色	摘部
137図 3 PL62	須恵器坏	埋土	口－ 高〈1.5〉 底(7.1)	ロクロ右回転底部糸切り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	底部片
137図 4 PL62	須恵器坏	埋土	口－ 高〈2.0〉 底(6.9)	ロクロ回転底部糸切り	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	底部片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値(単位 cm、g)		備考
137図 5	PL68	鉄製品	埋土	長 2.0 幅 1.2 厚 1.1 重 4.1		

6号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
144図 1 PL62	瀬戸・美濃 陶器描鉢	床上 1cm	口－ 高－ 底－	錆釉を施す 体部小片	①粗砂粒 黒色鉍 物混 ③黒褐色	破片 江戸時代

7号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
144図 1 PL63	須恵器甕	床面直上	口－ 高〈7.7〉 底－	口縁部垂直気味に立ち上がる 体部上位やや丸味をもって張る	①細砂粒 鉄分多 ②還元焰 ③灰色	肩部片?
144図 2 PL63	瀬戸・美濃 陶器碗	床面直上	口－ 高〈3.2〉 底 5.0	高台脇以下無釉 鉄分を含んだ灰釉を施す	①細砂粒 ③灰白色	体～底部1/3 18世紀

8号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
141図 1 PL63	土師器坏	埋土	口(11.8) 高 3.8 底(5.2)	平底 厚い 雑 外面：底部～体部粗いへら削り 口縁部へらナデ	①粗砂粒 雲母多 ・小石多②酸化焰 ③明赤褐色	口縁～底部1/2

21号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
142図 1 PL63	土師器坏	埋土	口－ 高〈2.4〉 底－	平底気味 口縁部やや丸味をもつ 外面：底部へら削り 口縁部ナデ	①細砂粒 白色鉍 物含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	破片

43号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
138図 1 PL63	須恵器坏	床上 7cm	口 — 高 < 1.7 底 6.4	ロクロ右回転底部糸切り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片
138図 2 PL63	須恵器坏	床面直上	口 (14.8) 高 4.7 底 (7.8)	ロクロ回転底部糸切り 口縁部外反気味 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 鉄分含 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
138図 3 PL63	須恵器坏	埋土	口 — 高 < 1.6 底 7.0	ロクロ右回転底部糸切り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	底部片

45号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考	
138図 1 PL63	土師器坏	埋土	口 — 高 < 1.6 底 —	平底気味 外面：底部ヘラ削り	①細砂粒 白色鉱 物多含 ②酸化焰 ③橙色	底部片	
138図 2 PL63	須恵器坏	埋土	口 (15.4) 高 3.5 底 (8.3)	ロクロ右回転底部糸切り 口縁部外反気味	①粗砂粒 鉄分多 石多含 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)			備考
138図 3	PL68	釘	埋土	長 4.1 幅 0.6 厚 0.3 重 3.0			
138図 4	PL68	釘	埋土	長 4.3 幅 0.5 厚 0.3 重 1.9			
138図 5	PL68	釘	埋土	長 3.0 幅 0.5 厚 0.4 重 1.2			

46号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
138図 1 PL63	須恵器碗	床面直上	口 — 高 < 3.7 底 7.5	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台	①細砂粒 小石含 ②還元焰 ③灰白色	底部完形
138図 2 PL63	須恵器碗	床上 19cm	口 — 高 < 2.7 底 (8.5)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台細い	①細砂粒 鉄分多 含 ②還元焰 ③灰白色	底部1/3

57号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
144図 1 PL63	三河土器 焜炉	埋土	口 — 高 — 底 —	焜炉全面の脚台部片である 上部には風穴の切り込み が認められ、被熱している 胎土に金雲母を含むなど の特徴から、三河土器と考えられる	①粗砂粒 金色微 粒多混 ③橙色	破片 明治以降

58号土坑

挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)			備考
139図 1	PL68	古銭	床面直上	径 2.3 重 1.9			

62号土坑

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
140図 1 PL63	須恵器甕	埋土	口 — 高 — 底 —	外面：タタキ目	①細砂粒 白色微 粒混 ③灰色	破片

第VI章 遺物観察表

71号土坑

挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)	石材
140図 1	PL63	打斧	埋土	長 13.4 幅 8.2 厚 2.0 重 400.0	雲母石英片岩

土坑一括

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
145図 1 —	須恵器甕	埋土	口 — 高 < 4.5> 底 —	肩張る 口縁はほぼ垂直に立ち上がる	①砂・鉄分多混 ②還元焰 ③灰白色	頸部片
145図 2 —	須恵器甕	埋土	口 — 高 < 4.4> 底 —	肩張る 口縁外反	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	頸部片
145図 3 —	須恵器甕	埋土	口 — 高 < 3.6> 底 —	口唇上下に引き出し凸帯をなす 口縁一条稜線	①細砂粒 鉄分含 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
145図 4 —	須恵器甕	埋土	口 — 高 — 底 —	外面：格子状タタキ目 内面：同心円状当て具痕	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	胴部片

24号ピット

挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)	備考
148図 1	PL68	鉄製品	埋土	長 2.2 幅 2.2 厚 1.4 重 6.5	

27号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	須恵器杯	埋土	口 (11.9) 高 3.3 底 (6.0)	ロクロ右回転 底部糸切り 口縁部直線的に開く 外面：ロクロ痕顕著に残す	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	口縁～底部1/2 内外面火燂

98号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	須恵器蓋	埋土	端 (20.0) 高 < 1.5> 摘 —	ロクロ回転 端部つまみ出した短いかえり	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	端部片

107号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	須恵器杯	埋土	口 (12.6) 高 4.3 底 8.0	ロクロ右回転 底部回転ヘラ切り後ナデ 口縁部緩い丸味	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁～底部1/2

208号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	須恵器蓋	埋土	端 (18.0) 高 < 1.7> 摘 —	ロクロ右回転 端部垂直に折れる	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)	石材	
148図 2	PL63	楔形石器	埋土	長 4.3 幅 4.3 厚 1.2 重 22.1	黒色安山岩	

238号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	土師器坏	埋土	口 (12.0) 高 < 2.9 底 -	体部と口縁を画す稜線をもつ 口縁部外反気味	①粗砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片

249号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考	
148図 1 PL63	須恵器坏	埋土	口 - 高 < 2.2 底 (7.0)	ロクロ回転糸切り 雑 体部外反気味に開く	①粗砂粒 小石・ 白色微粒含②酸化 脆い ③灰色	底部片	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)			備考
148図 2	PL68	鉢	埋土	長 11.4 幅 2.3 厚 0.5 重 35.1			

273号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	土師器坏	埋土	口 (11.8) 高 < 2.2 底 -	丸底 口縁部やや丸味をもつ 外面：底部ヘラ削り 口縁部ヘラナデ後ナデ	①粗砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 焰 ③橙色	口縁部片

308号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	土師器坏	埋土	口 (12.0) 高 < 2.6 底 -	口縁部緩やかに丸味 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ	①粗砂粒 雲母・ 白色微粒含②酸化 焰 ③明赤褐色	口縁部片
148図 2 PL63	須恵器碗	埋土	口 (13.0) 高 < 4.3 底 -	ロクロ右回転 口縁部直線的に開く	①粗砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片

322号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	土師器甕	埋土	口 - 高 < 9.0 底 -	外面：胴上ヘラ削り 内面：胴上ヘラナデ	①粗砂粒 雲母・ 白色微粒②酸化焰 ③にぶい赤褐色	胴部片
148図 2 PL63	須恵器蓋	埋土	端 (17.0) 高 < 2.1 摘 -	ロクロ右回転糸切り 端部つまみ出した返りを持つ 外面：天井2/3程まで回転ヘラ削り	①粗砂粒 鉄分 多含 ②還元焰 ③灰色	1/5

529号ピット

挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)			石材
148図 1	PL63	石鉢	埋土	長 3.0 幅 1.3 厚 0.4 重 0.8			黒曜石

558号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	土師器坏	埋土	口 (12.0) 高 < 2.1 底 -	口縁部内彎気味	①粗砂粒 白色微 粒②酸化焰 磨減 ③橙色	口縁部片

第VI章 遺物観察表

559号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	須恵器蓋	埋土	端 (16.0) 高 (1.2) 摘 -	ロクロ回転 端部つまみ出したかえりを持つ 内面：端部ヘラナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片

591号ピット

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
148図 1 PL63	須恵器坏	埋土	口 - 高 (0.9) 底 (6.0)	ロクロ回転	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	底部片
148図 2 PL63	須恵器甕	埋土	口 (24.0) 高 (2.2) 底 -	鉢? 口縁部に一条の凸帯めぐる	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口縁部片

グリッド

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
154図 1 PL63	須恵器碗	97区 R-3	口 (12.0) 高 (4.9) 底 -	薄手 口縁部直線的に立ち上がる	①細砂粒 白色微 粒・鉄分含 ②還元焰 ③灰色	口~底部片
154図 2 PL63	須恵器甕	97区 S-2	口 (19.0) 高 (3.5) 底 -	厚手 肩張る 口唇下方へわずかにつまみ出す	①細砂粒 ②還元焰 ③明オリープ色	口縁部片
154図 3 PL63	須恵器甕	97区 S-3	口 (22.0) 高 (4.5) 底 -	頸部屈曲し外反 口唇上下につまみ出す 外面：口唇部ヘラナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
154図 4 PL63	土師器坏	88区 J-18	口 - 高 (2.5) 底 (6.0)	外面：体部ヘラナデ 内面：黒色磨き	①細砂粒 雲母多 含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	底部片
154図 5 PL64	土師器坏	88区 J-19	口 (12.0) 高 (3.1) 底 -	平底気味 口縁直線的に立ち上がる 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒含 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口~底部1/3
154図 6 PL64	土師器 台付甕	88区 K-19	口 - 高 (3.2) 底 (8.0)	脚部外反 外面：接合部斜縦位強くヘラナデ 内面：横位ナデ	①細砂粒 白色鈹 物多含 ②酸化焰 ③明褐色	脚部
154図 7 PL64	須恵器蓋	88区 K-19	端 - 高 (2.0) 摘 -	ロクロ回転 天井部水平 外面：水平部回転ヘラ削り	①粗砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	天井部片
154図 8 PL64	土師器坏	88区 L-19	口 - 高 (2.2) 底 -	平底 外面：底部ヘラ削り	①細砂粒 雲母 ②酸化焰 ③橙色	底部片
154図 9 PL64	須恵器碗	88区 L-19	口 - 高 (2.4) 底 (6.8)	貼付高台 内面：黒色処理	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	底部片
154図 10 PL64	須恵器 高台付皿	88区 L-19	口 (12.2) 高 (2.2) 底 (6.8)	ロクロ右回転底部糸切り 貼付高台 体部~口縁やや 外反気味に開く 内外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口~底部2/3
154図 11 PL64	円面硯	88区 M-18	口 - 高 (1.0) 底 (11.0)	ロクロ回転	①細砂粒 白色微 粒 ②還元焰 ③灰色	
154図 12 PL64	須恵器蓋	88区 M-18	端 (12.2) 高 (2.3) 摘 -	小型 返り垂直につまみ出す 外面：天井部回転ヘラ削り 端部ナデ	①極細砂粒 白色 微粒多含②還元焰 ③灰白色	端部片
154図 13 PL64	土師器坏	88区 M-19	口 (7.5) 高 (2.7) 底 -	小型 丸底 外面：底部ヘラ削り 口縁部ナデ	①細砂粒 白色微 粒 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片

遺物観察表

154図 14 PL64	須恵器甕	88区 M-19	口 - 高 < 7.4 底 -	球型 口縁屈曲して立ち上がる 外面：胴上半ナデ	①粗砂粒 雲母 ②酸化焰 ③橙色	胴部片
154図 15 PL64	須恵器甕	88区 M-19	口 - 高 < 5.5 底 -	胴大きく膨らむ 口縁屈曲し立ち上がり外反気味	①細砂粒 白色微 粒 ②還元焰 ③にぶい赤褐色	頸部片
154図 16 PL64	須恵器甕	88区 M-19	口 - 高 < 5.9 底 -	胴丸味をもつ 口縁屈曲し外反 外面：平行タタキ目	①細砂粒 白色微 粒 ②還元焰 ③灰色	頸部片
154図 17 PL64	須恵器坏	88区 M-20	口 (13.5) 高 < 3.7 底 (6.7)	ロクロ回転 底部糸切り 外面：口縁部ナデ 内面：黒色処理	①細砂粒 白色微 粒 ②酸化焰 ③橙色	口～底部片
154図 18 PL64	須恵器甕	88区 N-17	口 (34.5) 高 < 5.8 底 -	口縁外反 口唇上方につまみ上げる 内外面：口唇部ナデ	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
154図 19 PL64	須恵器甕	88区 N-17	口 (16.1) 高 < 2.5 底 -	端部上下につまみ出す	①細砂粒 白色微 粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
154図 20 PL64	須恵器蓋	88区 N-17	端 (15.0) 高 < 1.5 摘 -	返り下方につまみ出す 外面：天井部ヘラ削り	①細砂粒 白色微 粒 ②還元焰 ③灰色	端部片
154図 21 PL64	須恵器碗	88区 N-18	口 - 高 < 5.0 底 (9.5)	ロクロ左回転 貼付高台 高く外傾 外面：体部回転ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 硬い ③灰色	体～底部片
154図 22 PL64	須恵器碗	88区 N-18	口 - 高 < 1.3 底 (9.3)	ロクロ回転 高台削り出し	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	底部片
154図 23 PL64	土師器坏	88区 P-17	口 (13.0) 高 < 3.7 底 -	丸底 口縁内彎気味 外面：底部ヘラ削り 墨書 口縁部ナデ	①細砂粒 雲母 ②酸化焰 ③橙色	口縁部片
154図 24 PL64	須恵器蓋	88区 P-17	端 (9.0) 高 < 1.8 摘 -	ロクロ回転 天井部ヘラ削り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	1/5
154図 25 PL64	須恵器蓋	88区 P-18	端 - 高 < 2.0 摘 (7.6)	ロクロ右回転 摘 大型 輪状 厚手	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	摘～体部片
154図 26 PL64	土師器坏	88区 P-19	口 - 高 < 1.6 底 (8.0)	雑な作り 内面：黒色処理	①粗砂粒 雲母 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	底部片
154図 27 PL64	須恵器 小型甕	88区 Q-17	口 (8.0) 高 < 2.0 底 -	小型 胴部直線的に立ち屈曲し肩張る 口縁屈曲し外 反 短い	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
155図 28 PL64	須恵器甕	88区 Q-17	口 - 高 < 24.8 底 -	胴球型 屈曲し口縁外反気味	①細砂粒 白色微 粒 ②還元焰 ③灰色	胴部片
155図 29 PL64	須恵器坏	88区 Q-18	口 - 高 < 1.8 底 (7.5)	ロクロ回転 底部ヘラ切り 外面：底部墨書 周辺ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片
155図 30 PL64	須恵器碗	88区 Q-18	口 - 高 < 2.5 底 (8.0)	ロクロ右回転 底部糸切り 貼付高台 高い 体部厚手	①細砂粒 鉄分 多含 ②還元焰 ③灰色	底部片
155図 31 PL64	須恵器坏	88区 R-17	口 - 高 < 2.0 底 (7.0)	ロクロ回転 底部糸切り 外面：体部ヘラ削り 内面：黒色処理	①粗砂粒 雲母 ②酸化焰 ③橙色	底部片
155図 32 PL64	灰釉陶器盤	88区 R-17	口 (12.5) 高 < 1.2 底 (13.0)	ロクロ回転 底部糸切り 端部上方垂直に折り曲げる 外面：底部周辺回転ヘラナデ	①細砂粒 白色微 粒 ②還元焰 ③灰白色	1/4
155図 33 PL64	須恵器甕	88区 R-18	口 (20.0) 高 < 4.6 底 -	口縁外反 口唇下方に引き出され縁帯をもつ	①細砂粒 ②還元焰 ③オリーブ黒色	口縁部片

第VI章 遺物観察表

155図 34 PL64	須恵器坏	88区 S-17	口 - 高 < 3.0 底 (7.2)	ロクロ回転 底部ヘラ切り	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	底部1/4
155図 35 PL65	須恵器坏?	88区 S-17	口 (16.9) 高 < 4.7 底 -	ロクロ回転 口縁外反 口唇上方につまみ出し縁帯をなす	①細砂粒 鉄分 ・白色微粒含 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
155図 36 PL65	須恵器高坏	88区 S-17	口 - 高 < 4.7 底 -	貼付高台 外反気味	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	脚部
155図 37 PL65	須恵器蓋	88区 S-17	端 - 高 < 2.0 摘 2.4	ロクロ右回転 摘 宝珠型	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰白色	摘部
155図 38 PL65	須恵器甕	88区 T-17	口 (26.0) 高 < 8.4 底 -	口縁屈曲し外反 口唇上下につまみ出し縁帯をなす	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③褐灰色	口縁部片
155図 39 PL65	須恵器甕	88区 T-17	口 (23.2) 高 < 3.4 底 -	口縁外反 口唇下方に引き出されて縁帯をなす	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片
155図 40 PL65	須恵器坏	88区 T-17	口 - 高 < 1.0 底 (7.0)	ロクロ回転 底部糸切り 外面：底部墨書	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰白色	底部1/4
155図 41 PL65	土師器甕	88区 表土 一括	口 - 高 - 底 -	外面：胴墨書	①粗砂粒 白色微 粒含②還元焰 柔 ③灰黄色	胴部片
155図 42 PL65	須恵器甕	88区 表土 一括	口 (28.8) 高 < 4.2 底 -	ロクロ回転 口縁外反 口唇上下に引き出し縁帯をなす	①細砂粒 鉄分 ②還元焰 ③灰色	口縁部片
155図 43 PL65	土師器坏	98区 B-2	口 (12.6) 高 < 3.7 底 -	丸底 口縁との間に一条の稜線めぐる 口縁直線的に立ち上がる 外面：口縁部ナデ	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部片
155図 44 PL65	須恵器盤	98区 B-2	口 (9.8) 高 < 1.3 底 (9.1)	平底 端部上方垂直に折り曲げる	①極細砂粒 白色 微粒含 ②還元焰 ③灰白色	口縁部片
155図 45 PL65	須恵器甕	89区 A-17	口 - 高 < 2.7 底 -	肩張る	①細砂粒 白色微 粒含 ②還元焰 ③灰色	頸部片
155図 46 PL65	須恵器碗	89区 B-16	口 - 高 < 3.5 底 (8.4)	ロクロ回転 底部糸切り 貼付高台 高い	①極細砂粒 ②還元焰 ③灰色	底部片
156図 47 PL65	須恵器甕	89区 B-17	口 (18.0) 高 < 8.0 底 -	胴緩やかに膨らむ 口縁屈曲し外反 口唇上方に引き出し縁帯をなす	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口縁部片
156図 48 PL65	須恵器甕	89区 C-16	口 - 高 < 3.9 底 -	肩張る 頸部直立気味	①細砂粒 鉄分 多含 ②還元焰 ③灰色	頸部片
156図 49 PL65	須恵器坏	89区 R-12	口 - 高 < 2.5 底 (7.5)	ロクロ回転 底部ヘラ切り	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	底部片
156図 50 PL65	須恵器碗	90区 G-9	口 - 高 < 3.3 底 (7.2)	ロクロ右回転 底部糸切り 貼付高台 高い	①細砂粒 鉄分 多含 ②還元焰 ③黄灰色	底部片
156図 51 PL65	土師器甕	90区 G-9	口 - 高 - 底 -	外面：黒色付着物あるいは墨書	①細砂粒 雲母 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	破片
151図 52 PL65	弥生土器	96区 表採	口 - 高 < 2.0 底 -	簾状文の下位に波状文 単位不明 波状文 水平	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	破片
153図 53 PL65	須恵器碗	96・97区 表採	口 - 高 < 4.0 底 (9.8)	丁寧な作り ロクロ右回転 底部糸切り 貼付高台 高い	①細砂粒 鉄分 多含 ②還元焰 ③灰色	体～底部

遺物観察表

156図 54 PL65	須恵器甕	表採	口 (24.8) 高 < 3.1 底 -	口唇上下に引き出し縁帯をなす	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部片	
156図 55 PL65	須恵器甕	表採	口 - 高 < 3.0 底 -	口縁外反 口唇下方へ引き出し縁帯をなす	①極細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	口縁部片	
156図 56 PL65	須恵器 短頸壺	表採	口 (12.0) 高 < 5.0 底 -	ロクロ回転 胴丸味をもつ 口縁屈曲し外反 口唇上方にわずかに引き出す	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口~胴部	
156図 57 PL65	須恵器 短頸壺	表採	口 - 高 < 2.5 底 -	肩張る 頸部ほぼ垂直に立つ	①細砂粒 透明粒子 ②還元焰 硬 ③黄灰色	頸部片	
156図 58 PL65	須恵器 長頸壺	表採	口 - 高 < 3.7 底 -	肩張る つまみ出して肩に稜線を作る 棒状工具による沈線めぐる	①細砂粒 白色微粒多含 ②還元焰 ③灰白色	肩部片	
156図 59 -	灰釉陶器碗	表土	口 - 高 < 2.1 底 (6.9)	ロクロ回転 高台断面は三日月形 大原2号窯式期	①緻密 ②還元焰 ③灰白色	底部片	
156図 60 -	灰釉陶器碗	表土	口 - 高 < 2.6 底 (6.6)	ロクロ回転 高台断面は三日月形 大原2号窯式期 施釉方法 刷毛塗り? 釉調 淡い緑灰色	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片	
156図 61 PL65	灰釉陶器碗	88区 L-18	口 - 高 < 1.8 底 (6.8)	大原2号窯式期 釉調 透明な緑灰色	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片 転用硯	
156図 62 PL65	灰釉陶器碗	88区 L-19	口 - 高 < 1.9 底 (5.9)	大原2号窯式期 高台断面は台形 釉調 不透明な灰色	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片	
156図 63 -	灰釉陶器碗	89区 C-16	口 - 高 < 2.6 底 (7.4)	ロクロ回転 高台断面は三日月形 釉調 透明な緑灰色	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片	
156図 64 -	灰釉陶器碗	97区 R-2	口 - 高 < 3.5 底 (6.5)	高台断面は崩れた三日月形 施釉方法 刷毛塗り 釉調 白濁 大原2号窯式期	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片	
156図 65 -	灰釉陶器皿	98区 C-1	口 - 高 < 2.0 底 (6.5)	大原2号窯式期 高台断面は台形 低い 内面重ね痕残る 釉調 淡い緑灰色	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	底部片	
156図 66 -	灰釉陶器碗	98区 C-1	口 - 高 < 2.0 底 (7.4)	ロクロ回転 高台断面は三日月形 施釉方法 刷毛塗り 釉調 透明な緑灰色	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	底部片	
挿図番号	図版番号	器種	出土位置	計測値 (単位 cm、g)			備考
156図 70	PL68	鉄製品	88区 N-17	長 3.4	幅 2.2	厚 0.2 重 5.6	
156図 71	PL68	鉄製品	88区 N-18	長 4.4	幅 2.4	厚 0.2 重 5.6	
156図 72	PL68	鉄製品	88区 O-18	長 4.5	幅 2.0	厚 0.15 重 4.1	
156図 73	PL68	鉄製品	88区 R-17	長 6.0	幅 3.0	厚 0.5 重 34.1	
156図 74	PL68	鎌	88区 R-18	長 8.0	幅 3.2	厚 0.3 重 27.4	2号道跡周辺出土
156図 75	PL68	火打ち金	88区 表土	長 2.0	幅 6.5	厚 0.3 重 14.9	
157図 76	PL68	鎌	88区 表土	長 10.4	幅 3.2	厚 0.2 重 23.5	
157図 77	-	釘	88区 表土	長 3.8	幅 0.4	厚 0.6 重 2.3	
157図 78	-	釘	88区 表土	長 2.6	幅 0.2	厚 0.2 重 0.5	
157図 79	PL68	キセル	88区 M-18	長 5.0	幅 1.1	厚 1.1 重 4.1	
157図 80	PL68	キセル	88区 M-19	長 5.5	幅 1.0	厚 1.0 重 5.2	
157図 81	PL68	キセル	88区 表土一括	長 6.7	幅 1.1	厚 1.1 重 7.7	
157図 82	PL68	古銭	90区 C-11	径 2.5	重 3.1		寛永通宝
157図 83	PL68	古銭	88区 O-18	径 2.3	重 2.7		寛永通宝
157図 84	PL68	古銭	表土	径 2.3	重 2.7		寛永通宝
157図 85	PL68	古銭	88区 表土一括	径 2.6	重 3.1		
157図 86	PL68	古銭	88区 表土下50cm	径 2.6	重 3.3		寛永通宝
157図 87	PL68	スラグ	98区 E-1	長 5.6	幅 5.1	厚 1.8 重 50.7	

第VI章 遺物観察表

中近世

番号	種類 器種	出土 層位	量目 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
158図 1 —	在地土器 釜輪?	埋土	口 (31.0) 高 < 5.5 底 —	端部外面には煤が多く付着する 器高の高い釜輪か?	①細砂粒 ③にぶい黄橙色	江戸時代~近代
158図 2 —	丹波・信楽 系陶器 播鉢	埋土	口 (34.0) 高 < 9.0 底 —	外面のロクロ目は顕著 内面はすり目を施した後、口縁部を撫でる	①粗砂粒 小石混 ③にぶい褐色	江戸時代
158図 3 —	肥前陶器 鉢	埋土	口 — 高 < 7.5 底 (10.0)	内面から体部外面施釉 内面は刷毛による白土掛け	①細砂粒 白色鉾物混 ③暗灰黄色	江戸時代
158図 4 —	肥前陶器 陶胎染付碗	埋土	口 — 高 < 3.9 底 5.2	外面には雑な桜闇山水文を描く 高台径は大きい	①細砂粒 透明釉 ③にぶい橙色	17世紀後半
158図 5 —	肥前陶器 呉器手碗	埋土	口 — 高 < 3.7 底 4.2	高台径は小さく 内面の扱りは深い 高台端部を除き施釉	①緻密 透明釉 ③にぶい黄色	17世紀後半
158図 6 —	肥前磁器 瓶	埋土	口 — 高 < 7.8 底 4.6	外面に花卉文を描く 内面無釉	①緻密 透明釉 ③明緑灰色	江戸時代
158図 7 —	志戸呂陶器 灯明皿受皿	埋土	口 (12.0) 高 2.2 底 (6.0)	外面回転ヘラ削り 受け部は高く残存部にアーチ状の扱りが一カ所認められる	①細砂粒 白色鉾物混 ③にぶい橙色	18世紀
158図 8 —	在地土器 器種不詳	埋土	口 — 高 — 底 —	練炭おこしの取っ手を短くしたような形状を呈する 一方は接合部で欠損する	①粗砂粒 白色微粒混 ③灰色	時期不詳 (江戸時代以降)